

青森県埋蔵文化財調査報告書 第353集

# 上野尻遺跡Ⅳ

—青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2003年3月

青森県教育委員会



青森県埋蔵文化財調査報告書 第353集

かみ の じり  
上野尻遺跡 IV

—青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2003年3月

青森県教育委員会





保存区掘立柱建物跡群（上が北・平成12年10月）





保存区掘立柱建物跡群（西から・平成12年10月）



保存区北側掘立柱建物跡群（平成13年6月）







G 区 遠 景 (南から北を望む)



G 区 遺 構 群 (上が北)



# 序

青森市東部にある宮田・矢田地区は、青森県総合運動公園の移転計画に伴い、平成7年に青森県新総合運動公園の建設予定地となったため、平成8年から同予定地内で遺跡の確認調査が行われてきました。

上野尻遺跡はその際にあらたに発見された遺跡です。本格的な発掘調査は、平成9年から当センターによって開始され、縄文時代後期の土器捨て場や土坑(穴)などが発見されました。また、平成11年の第2次調査では、竪穴住居跡や掘立柱(高床式)建物跡などもあらたに発見され、さらに埋もれた沢からは縄文時代後期・晩期の土器・石器類が多数出土しました。

平成12年の第3次調査では、縄文時代の土坑群のほかに多数の掘立柱建物跡群が発見され、しかも環状に巡っていることも確認されました。これは本県でははじめての発見で、学術的にも非常に貴重であるため、建物跡群区域の保存が決定されました。翌13年の第4次調査では、この建物跡群の範囲確認調査も行われ、全体が径70～90mの規模で環状に巡っていることが判明しました。また、縄文時代前期の竪穴住居跡や中世と思われる竪穴建物跡などもあらたに発見され、この遺跡が縄文時代前期・後期・晩期などを主として営まれた複合遺跡であることが判明しました。

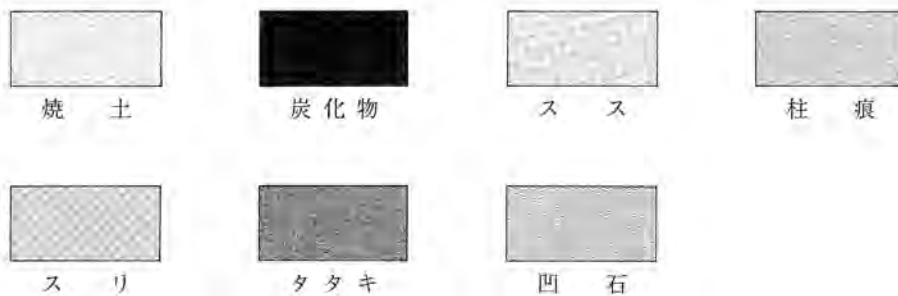
この報告書は、平成13年の第4次調査の成果と保存が決定された建物跡群区域の調査成果をまとめたものです。今後の埋蔵文化財の調査・研究、文化財の保護などにご活用されることを期待するとともに、発掘調査の実施から出土品の整理、調査報告書の刊行まで、種々ご指導・ご協力くださった方々に対し、厚く感謝申しあげる次第です。

平成15年3月

青森県埋蔵文化財調査センター  
所長 佐藤良治

## 例 言

- 1 本報告書は、主に平成12・13年度の青森県新総合運動公園建設事業に伴い発掘調査を実施した青森市上野尻遺跡の調査成果を収録したものである。ただし、収録遺物のなかには、平成9・11年度の発掘調査で出土したのものも含まれている。
- 2 本遺跡は、平成10年3月に青森県教育委員会が編集・発行した『青森県遺跡地図』に、遺跡番号01281として報告されているものである。
- 3 本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集・作成した。なお、原稿執筆者の氏名は文末に記してある。
- 4 本文中で用いた遺構略号の意味は、次のとおりである。SB＝掘立柱建物跡 SI＝竪穴住居跡 SK＝土坑 SV＝溝状土坑 SD＝溝 SX＝その他
- 5 本文中で使用した土器分類の詳細については、巻末に掲載した「観察表凡例」を参照されたい。
- 6 本報告書に使用した地形図は、国土地理院発行の5万分の1地形図を複製したものである。
- 7 挿図の縮尺は基本的に、遺構等が1/60、土器が1/3、剥片石器が1/2、礫石器が1/3である。
- 8 石器の石質鑑定は、松山 力（当センター調査員）氏に依頼した。
- 9 剥片石器の実測・トレース図の作成の一部を株式会社アルカに委託した。放射性炭素年代測定は、株式会社地球科学研究所に委託した。遺物の写真撮影は、シルバークォーツ及びフォトスタジオらいずに委託した。また、遺跡の空中撮影は株式会社みちのく計画に委託した。
- 10 堆積土などの色調観察には、『新版標準土色帖』（小山正臣・竹原秀雄 1996）を用いた。
- 11 出土遺物・実測図・写真等については、青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 12 挿図中で使用したスクリーントーンの指示は、以下のとおりである。



- 13 竪穴住居跡の柱穴の深さは、ピット番号右横の（ ）内に示した。
- 14 発掘調査の実施及び本報告書の作成にあたっては、下記の方々からご協力・ご指導をいただいた（順不同、敬称略）。

児玉大成、田中寿明、瀬川 滋、佐野忠史、佐野一絵、佐々木藤雄、岡本孝之、木村浩一、  
工藤清泰、小黒智久、鈴木 暁、古澤妥史、坂上有紀、倉品敦子、木村淳一

# 目 次

序

例言

## 第1編 保存区発掘調査

### 第1章 調査の概要

第1節 調査要項	3
1 平成11年度	3
2 平成12年度	4
第2節 調査の方法	
1 平成11年度・12年度	5
2 平成13年度	6
第3節 調査の経過	
1 平成11年度	6
2 平成12年度	6
3 平成13年度	7
第4節 整理の方法	7
第5節 遺跡の地質と基本層序	8

### 第2章 検出遺構と出土遺物

第1節 掘立柱建物跡	13
第2節 土坑・ピット群	74
第3節 遺構外出土遺物	102
1 土器	102
2 石器	109

### 第3章 自然科学分析

第1節 放射性炭素年代測定結果報告書	115
第2節 上野尻遺跡の自然科学分析	119
写真図版	133

## 第2編 平成13年度 G区発掘調査

### 第1章 調査の概要

第1節 調査要項	167
第2節 調査の方法	168
第3節 調査の経過	169
第4節 整理の方法	169
第5節 遺跡の地質と基本層序	173

第2章 検出遺構と出土遺物	
第1節 縄文時代の遺構	
1 竪穴住居跡	174
2 土坑	201
第2節 時期不明の遺構	
1 竪穴遺構	222
2 竪穴建物跡	223
3 土坑	227
4 溝状土坑	245
5 溝	250
6 ピット群・掘立柱建物跡・塀跡	251
第3節 遺構外出土遺物	
1 土器	260
2 石器	275
第3章 諸分析	
第1節 上野尻遺跡出土抉入削器の使用痕分析	286
第2節 放射性炭素年代測定結果報告書	290
写真図版	297
第3編 まとめ	
1 環状掘立柱建物跡について	349
2 縄文時代前期の竪穴住居跡について	351
3 縄文時代後期の竪穴住居跡について	352
4 縄文時代の土器について	354
5 石器・石製品について	367
6 古代以降の遺構・遺物について	370
補足 第201号竪穴遺構について	378
遺物観察表	380
引用・参考文献	406
報告書抄録	410

## 挿 図 目 次

図1 遺跡位置図…………… 1	…………… 75
図2 調査対象区域図…………… 2	図39 第207・209号・219・222・223号土坑…………… 77
図3 保存区の層序…………… 9	図40 第226・227号土坑、Pit224・225・229・243・234・236・239・240…79
図4 保存区遺構配置図…………… 11・12	図41 第244・259号土坑、Pit251・257・313・260・261・269・271…………… 81
図5 第1号掘立柱建物跡…………… 14	図42 Pit277・279・280・281・282・283・284・285・286…………… 83
図6 第2号掘立柱建物跡…………… 15	図43 Pit287・288・289・290・295・296・297…………… 84
図7 第3号掘立柱建物跡…………… 17	図44 Pit302・305・312・314・315・319・322・339…………… 85
図8 第4号掘立柱建物跡…………… 19	図45 Pit340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・351・352・353…………… 86
図9 第5・6号掘立柱建物跡…………… 20	図46 Pit345・346・347・348・349・350・351・352・353…………… 87
図10 第7号掘立柱建物跡…………… 21・22	図47 Pit354・382・383・384・385・386・387・388・389・393…………… 88
図11 第8号掘立柱建物跡…………… 25・26	図48 第650・651・652・654・655・658号土坑…………… 89
図12 第9号掘立柱建物跡…………… 27・28	図49 第201・205号土坑出土遺物…………… 94
図13 第10号掘立柱建物跡…………… 29・30	図50 第205・206号土坑出土遺物…………… 95
図14 第11号掘立柱建物跡…………… 32	図51 第206・207・222号土坑出土遺物…96
図15 第12号掘立柱建物跡…………… 34	図52 第222・223号土坑出土遺物…………… 97
図16 第13号掘立柱建物跡…………… 37・38	図53 第223号土坑出土遺物…………… 98
図17 第14号掘立柱建物跡…………… 39・40	図54 第223・226・227・242・244号土坑、Pit224・225・228出土遺物…………… 99
図18 第15号掘立柱建物跡…………… 41・42	図55 第244・259・308・309号土坑Pit257・297・312・345出土遺物…………… 100
図19 第16号掘立柱建物跡…………… 43・44	図56 第650・652・653・654・655・656・658号土坑、Pit393出土遺物…………… 101
図20 第17号掘立柱建物跡…………… 47・48	図57 保存区遺構外出土土器(1)…………… 103
図21 第18号掘立柱建物跡…………… 49	図58 保存区遺構外出土土器(2)…………… 105
図22 第19・20号掘立柱建物跡…………… 50	図59 保存区遺構外出土土器(3)…………… 106
図23 第21・22号掘立柱建物跡…………… 52	図60 保存区遺構外出土土器(4)・ミニチュア土器・古代以降の土器…………… 108
図24 第23・24号掘立柱建物跡…………… 54	図61 保存区遺構外出土石器(1)…………… 111
図25 第25・26号掘立柱建物跡…………… 56	図62 保存区遺構外出土石器(2)…………… 112
図26 第27・28号掘立柱建物跡…………… 58	図63 保存区遺構外出土石器(3)…………… 113
図27 第29・30号掘立柱建物跡…………… 60	図64 保存区遺構外出土石器(4)…………… 114
図28 第31・32号掘立柱建物跡…………… 62	図65 G区遺構配置図…………… 172
図29 第33・34号掘立柱建物跡…………… 64	
図30 第35号掘立柱建物跡、第653・656・657号土坑…………… 65	
図31 第1・2・3号掘立柱建物跡出土遺物… 67	
図32 第4・7・8・9・10・11・12・13・14号掘立柱建物跡出土遺物…………… 68	
図33 第14・15・16号掘立柱建物跡出土遺物…………… 69	
図34 第16・17・28・29・32・34号掘立柱建物跡出土遺物…………… 70	
図35 土坑・ピット配置図(1)…………… 71	
図36 土坑・ピット配置図(2)…………… 72	
図37 土坑・ピット配置図(3)…………… 73	
図38 第201・213号土坑、Pit214、第205号土坑、Pit216、第206号土坑、Pit228	

図66	G区基本層序	173	図96	第730・733・736・737・738・ 739・740・742号土坑出土遺物	219
図67	第201号竪穴住居跡	175	図97	第742・746・747・751・752・ 753号土坑出土遺物	220
図68	第201号竪穴住居跡出土遺物(1)	176	図98	第758・759・762・763・801・ 803・804・807・808・802号土 坑出土遺物	221
図69	第201号竪穴住居跡出土遺物(2)	177	図99	第301号竪穴遺構	222
図70	第201号竪穴住居跡出土遺物(3)	178	図100	第1・2号竪穴建物跡、第1号竪穴 建物跡出土遺物	224
図71	第202号竪穴住居跡、第202号竪穴 住居跡出土遺物(1)	179	図101	第3号竪穴建物跡、第3号竪穴建物 跡出土遺物	226
図72	第202号竪穴住居跡出土遺物(2)	180	図102	第703・706・707・708・709・ 710・713・714・715号土坑	239
図73	第202号竪穴住居跡出土遺物(3)	181	図103	第716・717・718・722・724・ 725・727号土坑	240
図74	第202号竪穴住居跡出土遺物(4)	182	図104	第728・731・732・734・735・ 743・744・745号土坑	241
図75	第203号竪穴住居跡、第203号竪穴 住居跡出土遺物	183	図105	第748・749・750・754・755・756・ 757・759・760・763号土坑	242
図76	第204号竪穴住居跡、第204号竪穴 住居跡出土遺物	184	図106	第761・764・802・805・810号 土坑	243
図77	第205号竪穴住居跡、第205号竪穴 住居跡出土遺物(1)	186	図107	第811号土坑	244
図78	第205号竪穴住居跡、第205号竪穴 住居跡出土遺物(2)	187	図108	第301・302・303・304号溝状土坑、 溝状土坑出土遺物	248
図79	第206号竪穴住居跡	188	図109	第305・401・402・403号溝状 土坑	249
図80	第206号竪穴住居跡出土遺物	189	図110	第301号溝、第301号溝出土遺物	250
図81	第207号竪穴住居跡、第207号竪穴 住居跡出土遺物	191	図111	ピット群(1)	253
図82	第208号竪穴住居跡	193	図112	ピット群(2)	254
図83	第208号竪穴住居跡出土遺物	194	図113	掘立柱建物跡・塀跡	255
図84	第209号竪穴住居跡(1)	195	図114	G区遺構外出土土器(1)	261
図85	第209号竪穴住居跡(2)、第209号 竪穴住居跡出土遺物	196	図115	G区遺構外出土土器(2)	262
図86	第210号竪穴住居跡、第210号竪穴 住居跡出土遺物(1)	197	図116	G区遺構外出土土器(3)	263
図87	第210号竪穴住居跡出土遺物(2)	199	図117	G区遺構外出土土器(4)	265
図88	第211号竪穴住居跡、第211号竪穴 住居跡出土遺物	200	図118	G区遺構外出土土器(5)	266
図89	第701・702・704・705・711・ 720・721・723号土坑	212	図119	G区遺構外出土土器(6)	268
図90	第726・729・730・733・736・ 737号土坑	213	図120	G区遺構外出土土器(7)	270
図91	第738・739・740・741・742・ 746号土坑	214	図121	G区遺構外出土土器(8)	271
図92	第747・751・752・753・758・ 762号土坑	215	図122	G区遺構外出土土器(9)	272
図93	第801・803号土坑	216	図123	G区遺構外出土土器(10)	273
図94	第804・806・807・808号土坑	217	図124	ミニチュア土器・土製品	274
図95	第701・702・704・711・720・ 721・723・726・728・729号土 坑出土遺物	218	図125	古代以降の土器・土製品	274
			図126	G区遺構外出土石器(1)	277
			図127	G区遺構外出土石器(2)	278



図128	G区遺構外出土石器(3)……………	279
図129	G区遺構外出土石器(4)……………	280
図130	G区遺構外出土石器(5)……………	281
図131	G区遺構外出土石器(6)……………	282
図132	G区遺構外出土石器(7)……………	283
図133	G区遺構外出土石器(8)……………	284
図134	G区遺構外出土石器(9)……………	285
図135	縄文時代後期後葉竪穴住居跡……………	353
図136	縄文時代前期後葉の土器……………	355
図137	縄文時代後期後葉の土器(1)……………	358
図138	縄文時代後期後葉の土器(2)……………	360
図139	縄文時代後期後葉の土器(3)……………	362

図140	既報告区と保存区の石器出土分布図……………	369
図141	G区の石器出土分布図……………	369
図142	第1～3号竪穴建物跡の変遷試案……………	372
図143	F・G区で検出された竪穴建物跡……………	373
図144	宮田地域の竪穴建物跡集成図……………	374
図145	上野尻遺跡と周辺遺跡・念心寺・大銀杏の位置……………	377
図146	上野尻遺跡出土の鉄鍋と北海道・東北北部・北陸から出土した鉄鍋……………	379

## 写真目次

巻頭写真1	保存区1	
巻頭写真2	保存区2	
巻頭写真3	G区	
写真1	保存区 第1・2号掘立柱建物跡……………	135
写真2	保存区 第2・3・4号掘立柱建物跡……………	136
写真3	保存区 第4・7号掘立柱建物跡……………	137
写真4	保存区 第8・9号掘立柱建物跡……………	138
写真5	保存区 第9・10号掘立柱建物跡……………	139
写真6	保存区 第10号掘立柱建物跡……………	140
写真7	保存区 第10・11号掘立柱建物跡……………	141
写真8	保存区 第12・13号掘立柱建物跡……………	142
写真9	保存区 第13・14・15号掘立柱建物跡……………	143
写真10	保存区 第15・16号掘立柱建物跡……………	144
写真11	保存区 第16・17号掘立柱建物跡……………	145
写真12	保存区 第17・18号掘立柱建物跡……………	146
写真13	保存区 第18・24・25号掘立柱建物跡……………	147
写真14	保存区 第25・26・27号掘立柱建物跡……………	148
写真15	保存区 第28・29号掘立柱建物跡……………	149

写真16	保存区 第29・30・31号掘立柱建物跡……………	150
写真17	保存区 第31・32・33・34・35号掘立柱建物跡……………	151
写真18	保存区 第201・213・205・206・207・209・219・222・223号土坑、Pit216・228……………	152
写真19	保存区 第226・227・259・312・650・651・652・653・654号土坑……………	153
写真20	保存区 第655・656・657・658号土坑……………	154
写真21	保存区 第1・2・3・4・7・8・9・13・14・15号掘立建物跡出土遺物……………	155
写真22	保存区 第15・16・17・28・29・32・34掘立柱建物跡、第201・205・206号土坑出土遺物……………	156
写真23	保存区 第206・207・222・223号土坑出土遺物……………	157
写真24	保存区 第223・227・244・259号土坑、Pit228・257出土遺物……………	158
写真25	保存区 第259・308・309・650・652・653・654・655・658号土坑、Pit312・345・393出土遺物……………	159
写真26	保存区 遺構外出土石器……………	160
写真27	保存区 遺構外出土石器(1)……………	161
写真28	保存区 遺構外出土石器(2)……………	162
写真29	保存区 遺構外出土石器(3)……………	163

写真30	削器の使用痕(1)……………	288			
写真31	削器の使用痕(2)……………	289			
写真32	G区 遺構群……………	299			
写真33	G区 基本層序……………	300			
写真34	G区 第201号竪穴住居跡(1)……	301			
写真35	G区 第201号竪穴住居跡(2)……	302			
写真36	G区 第202号竪穴住居跡(1)……	303			
写真37	G区 第202号竪穴住居跡(2)……	304			
写真38	G区 第203号竪穴住居跡……………	305			
写真39	G区 第204号竪穴住居跡……………	306			
写真40	G区 第205号竪穴住居跡(1)……	307			
写真41	G区 第205号竪穴住居跡(2)……	308			
写真42	G区 第206号竪穴住居跡……………	309			
写真43	G区 第207号竪穴住居跡……………	310			
写真44	G区 第208号竪穴住居跡……………	311			
写真45	G区 第209号竪穴住居跡(1)……	312			
写真46	G区 第209号竪穴住居跡(2)……	313			
写真47	G区 第210号竪穴住居跡……………	314			
写真48	G区 第211号竪穴住居跡……………	315			
写真49	G区 第1・2号竪穴建物跡……………	316			
写真50	G区 第3号竪穴建物跡、第301号 竪穴遺構……………	317			
写真51	G区 第701・702・703・704・ 705・706・707・708号土坑……	318			
写真52	G区 第707・709・711・713・ 714・715・716・717・718・ 719号土坑……………	319			
写真53	G区 第720・721・722・723・ 724・725号土坑……………	320			
写真54	G区 第726・727・728・729・ 730・731・733号土坑……………	321			
写真55	G区 第734・735・736・737・ 738・739・740・741・742号 土坑……………	322			
写真56	G区 第741・742・743・744・ 745・746・747・748・749・ 750号土坑……………	323			
写真57	G区 第751・752・753・754・ 755・758・759・760・761・ 764号土坑……………	324			
写真58	G区 第762・763・756・757・ 801・802・803・804・805・ 806号土坑……………	325			
写真59	G区 第807・808・810・811・ 732号土坑、第301・302・303・ 304号溝状土坑……………	326			
写真60	G区 第305・401・402・ 403号溝状土坑、第301号溝、 ピット群(1)1……………	327			
写真61	G区 ピット群(1)2・(2)、 作業風景……………	328			
写真62	G区 第201号竪穴住居跡出土遺物 ……………	329			
写真63	G区 第202号竪穴住居跡出土遺物 ……………	330			
写真64	G区 第202・203・204・205号 竪穴住居跡出土遺物……………	331			
写真65	G区 第206・207・208号 竪穴住居跡出土遺物……………	332			
写真66	G区 第209・210・211号竪穴住居跡、 第701・702号土坑出土遺物……	333			
写真67	G区 第702・711・720・721・ 723・728・729・730・733・ 738・739・740・742号土坑 出土遺物……………	334			
写真68	G区 第742・746・752・753・ 758・759・762・763・801・ 807・808号土坑出土遺物、 第3号竪穴建物跡出土遺物、 第303号溝出土遺物……………	335			
写真69	G区 遺構外出土土器(1)……………	336			
写真70	G区 遺構外出土土器(2)……………	337			
写真71	G区 遺構外出土土器(3)……………	338			
写真72	G区 遺構外出土土器(4)・ ミニチュア土器・土製品……………	339			
写真73	G区 遺構外出土古代以降の 土器・土製品……………	340			
写真74	G区 遺構外出土石器(1)……………	341			
写真75	G区 遺構外出土石器(2)……………	342			
写真76	G区 遺構外出土石器(3)……………	343			
写真77	G区 遺構外出土石器(4)……………	344			
写真78	G区 遺構外出土石器(5)……………	345			

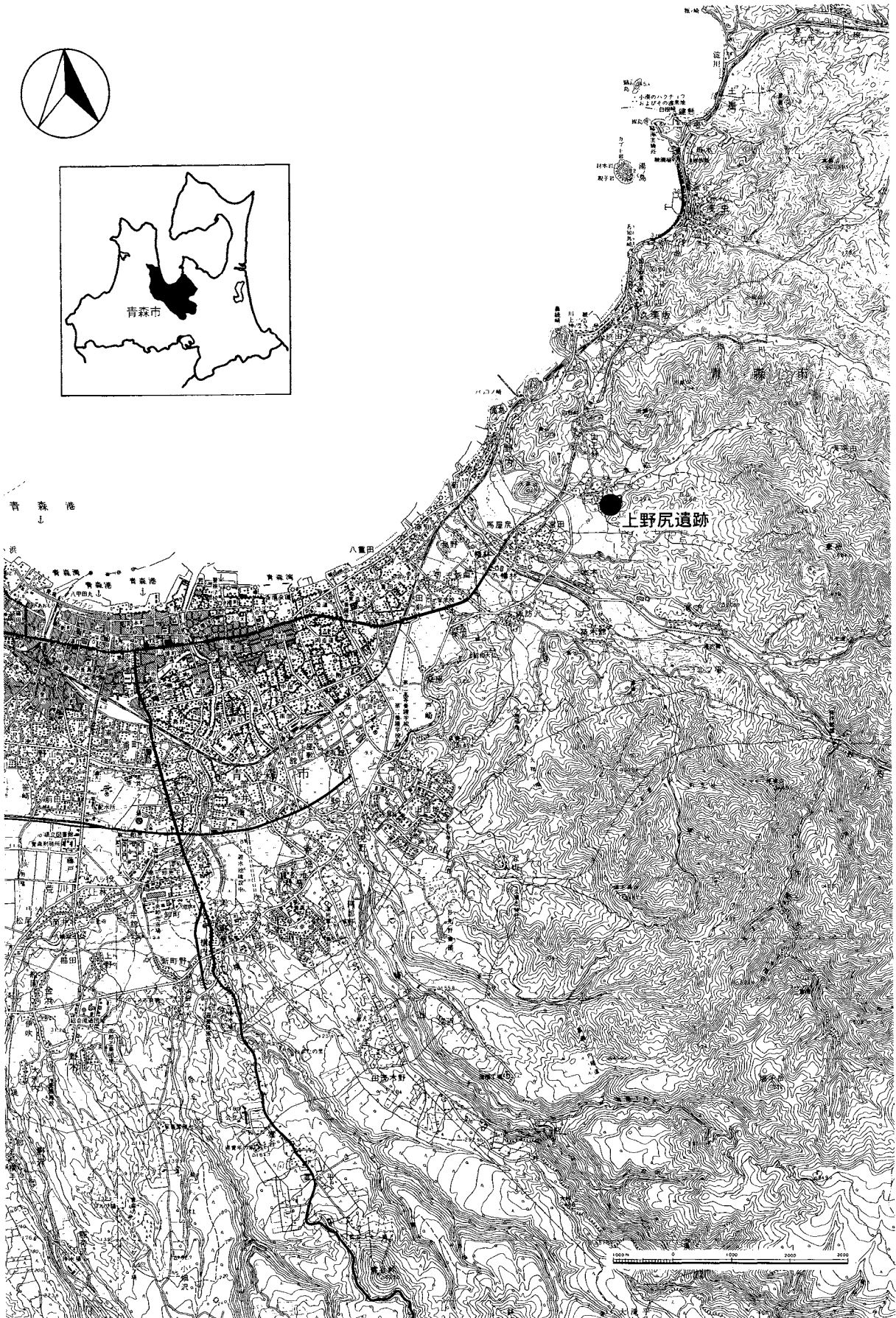
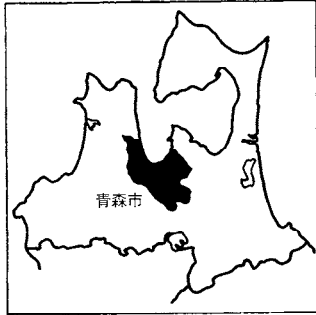


図1 遺跡位置図 (国土地理院発行の地図を複製使用した)

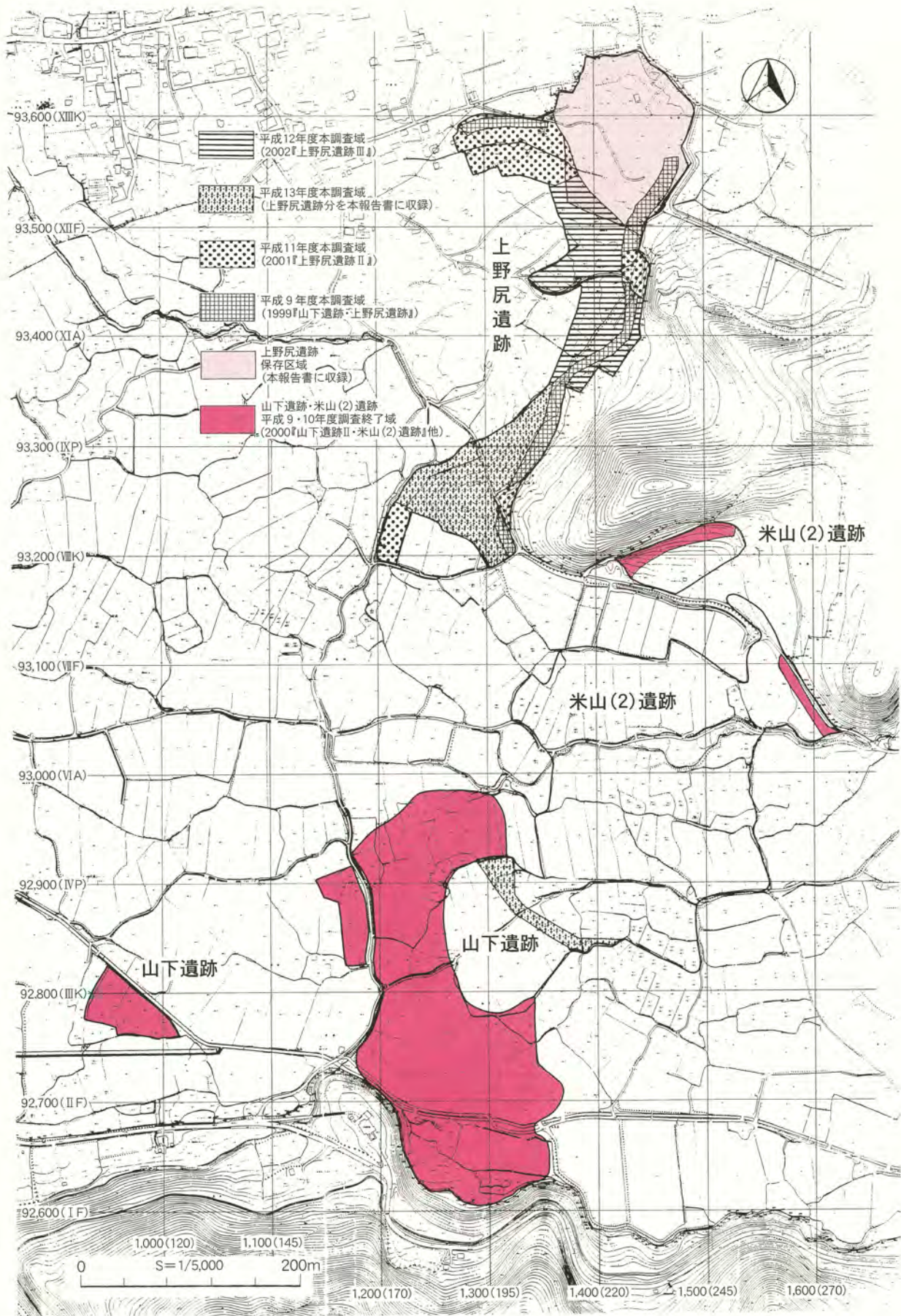


図2 調査対象区域図

# 第 1 編

## 保存区発掘調査



# 第1章 調査の概要

## 第1節 調査要項

上野尻遺跡の保存区の調査は、平成11年度から平成13年度にかけて行われた。平成13年度の調査要項は、本報告書「第2編 平成13年度G区発掘調査 第1章 調査の概要 第1節 調査要項」にあるので、ここでは平成11年度・12年度の調査要項を以下に掲載する。

### 1 平成11年度

#### (1) 調査目的

青森県新総合運動公園建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する青森市上野尻遺跡の発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財の活用資する。

#### (2) 発掘調査期間

平成11年4月21日から11月12日まで

#### (3) 遺跡名及び所在地

上野尻遺跡（青森県遺跡番号 01281） 青森市大字矢田字上野尻54ほか

#### (4) 発掘調査面積

8,000㎡

#### (5) 調査委託者

青森県土木部都市計画課

#### (6) 調査受託者

青森県教育委員会

#### (7) 調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

#### (8) 調査体制

調査指導員	市川 金丸	青森県考古学会長（考古学）
調査協力員	池田 敬	青森市教育委員会教育長
調査員	松山 力	八戸市文化財審議委員（地質学）
調査員	葛西 勳	青森短期大学助教授（考古学）
調査担当者	青森県埋蔵文化財調査センター	
	所 長	中島 邦夫
	次 長	成田 誠治
	総務課長	成田 孝夫
	調査第二課長	福田 友之
	文化財保護主事	工藤由美子
	文化財保護主事	永嶋 豊
	調査補助員	藤谷 麻美、長谷川浩平、舘岡 杏子、工藤 美希

## 2 平成12年度

### (1) 調査目的

青森県新総合運動公園建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する青森市上野尻遺跡の発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財の活用に資する。

### (2) 発掘調査期間

平成12年4月19日から11月10日まで

### (3) 遺跡名及び所在地

上野尻遺跡（青森県遺跡番号 01281） 青森市大字矢田字上野尻54ほか

### (4) 発掘調査面積

10,060㎡

### (5) 調査委託者

青森県土木部都市計画課

### (6) 調査受託者

青森県教育委員会

### (7) 調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

### (8) 調査体制

調査指導員	村越 潔	青森大学教授（考古学）
調査指導員	市川 金丸	青森県考古学会長（考古学）
調査員	松山 力	八戸市文化財審議委員（地質学）
調査員	葛西 勳	青森短期大学助教授（考古学）
調査員	遠藤 正夫	青森市教育委員会文化財課長（考古学）
調査担当者	青森県埋蔵文化財調査センター	
	所 長	中島 邦夫
	次 長	成田 誠治
	総務課長	西口 良一
	調査第三課長	木村鐵次郎
	文化財保護主事	工藤由美子
	文化財保護主事	浅田 智晴
	文化財保護主査	笹森 一朗
	文化財保護主事	齋藤 正
	調査補助員	舘岡 杏子、工藤真優子、佐々木志野、栗谷川昭子



## 第2節 調査の方法

### 1 平成11・12年度

#### (1) グリッドの設定

グリッド番号の呼称は、新総合運動公園用地内の平成8・9・10年度の調査のものを踏襲している。グリッドは4m×4mで1単位とし、公共座標の軸に合わせ、公共座標X=92,680、Y=644をII A-30とした。X軸の南北方向はローマ数字とアルファベットの組み合わせで呼称し、Y軸の東西方向は算用数字で呼称した。X軸で使用するアルファベットはA～Tまでとし、グリッド名は南西隅の交点を用いて表した。

#### (2) 調査の手順

まず、調査区に2m×2m又は4m×2mのトレンチを数ヶ所設定し、人力で掘り下げを行った。その結果、遺物の出土状況・遺構の分布密度がおおよそ把握できたため、重機による表土除去を行った。遺物包含層・遺構確認には、上層より分層発掘による掘り下げを行った。

遺物の取り上げは、ローマ数字で表記した基本層序に従い、グリッド単位・層単位を基本として行った。良好な遺物または遺物の出土状況の場合は、できる限り座標値・標高の記録をした。

#### (3) 遺構の調査

遺構の調査は四分法及二分法により、土層観察のためのベルトを設けて行った。実測は簡易遣り方測量によるものとした。遺構の実測図の縮尺は、必要に応じて10分の1、20分の1を使用することにした。

遺構名は、種別ごとに確認順に付した。調査時には種別ごとに1番から付していたが、調査が複数年度にわたっているため、各調査年度分の遺構がそれぞれ区別できるように、平成9年度に調査した遺構については各遺構ごとに1番から、平成11年度調査分については、整理時にすべての遺構を101番から、平成12年度調査分(今回報告分)については、201番からとした。ただし、平成12年度調査時に、土坑、ピットについては土坑、ピットの別無く通し番号として土坑番号をふっていったという経緯がある。それを整理時に土坑とピットに振り分けたが、混乱を避けるため、あえて現場段階での遺構番号を生かし、その番号に12年度の番号である200をプラスしていくという形をとった。そのため、土坑、ピットとも欠番が非常に多くなってしまった。

遺構内の堆積土については、上位から下位に向かって順に算用数字を付した。土層観察にあたっては、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄 1996)を用いて注記した。

#### (4) 写真撮影

写真撮影は適宜行うこととし、主としてカラーリバーサル及びモノクロームネガの2種類のフィルムを用いた。ただし、遺構や遺物の状況に応じて、カラーネガフィルムやボラロイドカメラも使用した。

## 2 平成13年度

### (1) グリッドの設定

グリッド番号の呼称は、前年度までと同様に踏襲した。グリッドは4m×4mで1単位とし、公共座標の軸に合わせ、公共座標X=92,680、Y=644をIIA-30とした。X軸の南北方向はローマ数字とアルファベットの組み合わせで呼称し、Y軸の東西方向は算用数字で呼称した。X軸で使用するアルファベットはA～Tまでとし、グリッド名は南西隅の交点を用いて表した。

### (2) 調査の手順

調査の目的は、掘立柱建物跡が環状に巡るものかどうかの確認であるため、環状に想定される範囲を重機によって表土を除去し、人力で確認作業を行った。また、これに並行して調査区にグリッド設定を行い、遺構の確認作業と確認段階の図化作業を行った。

### (3) 遺構の調査

実測は簡易遣り方測量によるものとした。遺構の実測図の縮尺は、20分の1を使用することにした。

遺構名は、種別ごとに確認順に付した。

遺構内の堆積土については、上位から下位に向かって順に算用数字を付した。土層観察にあたっては、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 1996）を用いて注記した。

### (4) 写真撮影

写真撮影は適宜行うこととし、主としてカラーリバーサル及びモノクロームネガの2種類のフィルムを用いた。ただし、遺構や遺物の状況に応じて、カラーネガフィルムやポラロイドカメラも使用した。

## 第3節 調査の経過

### 1 平成11年度

4月21日、調査機材を搬入し調査を開始した。調査区の北西側には旧河川跡が東西に走っていることがわかり、遺物も大量に出土した。9月に入り、多量の降雨で、旧河川跡が水没し、調査も難航した。調査区中央に検出されていた土坑が、秋頃には掘立柱建物跡になることが判明し、縄文時代後期頃に位置づけられるものと推測された。

10月末に大雨が降り、作業が中断したため、当初10月29日までの調査期間であったが、11月12日まで図面作成作業を行った。

### 2 平成12年度

4月19日、調査機材を搬入し調査を開始した。今年度調査区の北側からトレンチを入れ、遺物の

出土状況・遺構の分布状況などを確認していった。

5月下旬には掘立柱建物跡が検出され始めた。7月上旬段階では、3棟ほどが検出されているのみであったが、8月に入ると棟数は徐々に増えていった。

8月下旬、掘立柱建物跡が数棟検出されている地域の更に東側部分の表土剥ぎを行い、結果として東側部分にも掘立柱建物跡が確認された。

しかし引き続き調査した結果、掘立柱建物跡が西側にも延び、それが11年度調査区の掘立柱建物跡と繋がり、直径約80mほどの半円状に配列されていることが確認された。そのため、掘立柱建物跡が北側にも広がる可能性があるとして、9月末から遺跡範囲外である北側の確認調査も行っていった。遺構精査と確認調査を併行して行ったため調査は難航した。

確認調査の結果、北側にも掘立柱建物跡群が広がっていることがわかり、掘立柱建物跡に関しては、次年度以降に調査をし、当該年度は掘立柱建物跡群の外側部分の調査を終了させるということになった。

調査期間を延長して11月10日まで調査を行い、10日には委託者と県教育委員会の協議の結果、掘立柱建物跡群とそれに伴う土坑群の保存が確定した。また、保存されるエリアには砂を10cm～20cmの厚さで覆いその上に土をかぶせた。

### 3 平成13年度

上野尻遺跡の保存区の確認調査の目的は、環状に巡ると想定されていた掘立柱建物跡群の南側の半円部は、前年度に既に検出確認していたので、残りの北側の半円について状況を明らかにすることであった。

上野尻遺跡の調査は4月18日の遺跡への調査機材搬入から開始されたが、保存区の確認調査はゴールデンウィーク後の5月8日から行った。まず、環状の北側半分の前年度に被覆した土と砂を重機で除去することから始まった。北側半分については北に行くほど礫層が厚く堆積しているが、礫層の上面を少し削平し、5月の連休明けには、遺構確認のためにジョレンをかけていった。その結果、環状の円周部のところに掘立柱建物跡を構成すると思われるピットが検出され、径80m～90mの環状をなす掘立柱建物跡群になることが判明した。

確認調査は、6月末で終了し、7月に入ってから、掘立柱建物跡の検出された部分には砂で被覆し、その上に土を盛って原状回復を行った。

## 第4節 整理の方法

調査が複数年度にわたっているため、各調査年度分の遺構がそれぞれ区別できるように、平成9年度に調査した遺構については各遺構ごとに1番から（『上野尻Ⅰ』）、平成11年度調査分については、整理時にすべての遺構を101番から（『上野尻Ⅱ』）、平成12年度調査分については、201番からとした。ただし、平成12年度調査時に、土坑、ピットについては土坑、ピットの別無く通し番号として土坑番号をふっていったという経緯がある。それを整理時に土坑とピットに振り分けたが、混乱を避

けるため、あえて現場段階での遺構番号を生かし、その番号に12年度の番号である200をプラスしていくという形をとった（『上野尻Ⅲ』）。

本報告書保存区でも、遺構の発掘調査のほとんどは平成12年度の調査によるものであり、土坑及びピットの名称は、『上野尻Ⅲ』と同様に調査時の遺構番号に200をプラスしている。また、掘立柱建物跡の発掘調査及び確認調査は、平成11・12・13年度にわたっており、各年度とも遺構番号は1から、検出順に番号をつけているため地域的にはバラバラの番号となってしまった。そのため、平成11年度検出の掘立柱建物跡から、上空からみて左回りに1から順に番号を付していくことにした。なお、発掘時と整理時の番号の対応表は掘立柱建物跡の項の末尾に載せている。また、土坑、ピットで欠番号が多いのは、当初土坑、ピットとして番号を付けたものが掘立柱建物跡となることが判明したことも一因である。

## 第5節 遺跡の地質と基本層序

上野尻遺跡の地形及び地質については、『山下遺跡・上野尻遺跡』において松山力氏によって詳述されており、また、各年度における調査区域の層序についてはそれぞれ『上野尻Ⅱ』・『上野尻Ⅲ』でも記されている。ここでは、保存区について概要を記すこととする。

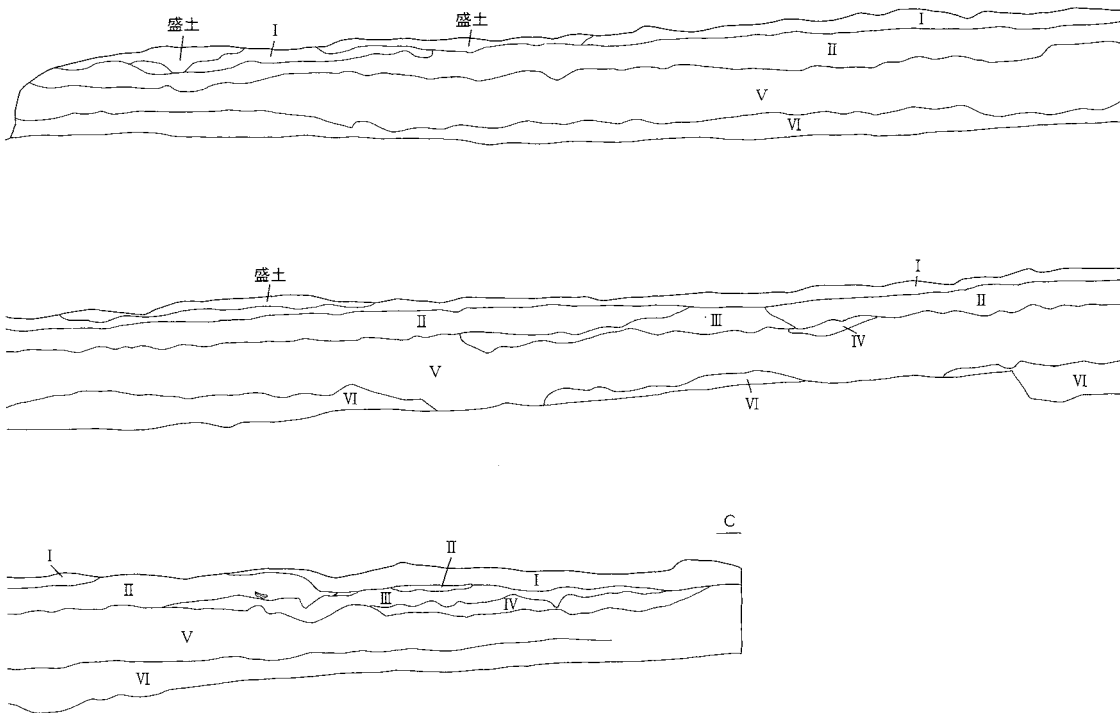
保存区は、遺跡北側を北東から南西に流れる貴船川によって形成された扇状地形であり、特にこの地域はその扇央により近い位置となっている。

図3のセクション図は保存区でもより北側に近い部分のものであるが、第Ⅰ層の耕作土は遺跡の広範囲に認められるもので、第Ⅱ層は遺物包含層でもあり、これも同様である。しかし、次の第Ⅲ層から第Ⅴ層までは、遺跡全体にみられるというより局地的にみられるものと思われる。特に第Ⅴ層の礫層は保存区を特徴づけるものともいえる。この礫層は、北側に行くに従い厚く、礫も大きくなる傾向がある。これは、礫の供給源が貴船川によるものであり、貴船川に近づくほど、礫層が厚くなり、礫も大きくなるという傾向があることによるものと思われる。

実際には、上記の礫層は、環状掘立柱建物跡群の北側半分までに堆積していた。当初、環状掘立柱建物跡群の南半分しか調査対象地域となっていなかったのは、過去のトレンチによる試掘調査で、礫層の範囲を調査対象外にしていたためである。一般的には礫層が広範囲に及び地域に遺構が及んでいることは想定されないので、無理からぬことと思われる。なお、この礫層は1回の洪水による堆積物ではなくかなりの回数土石流や洪水の結果によるものと考えられる。

(木村鐵次郎)

D



遺跡土層セクション

- 第I層 黒褐色土 10YR2/3 耕作土、草根が極めて多く、2~3cmの小礫を少し含む。
- 第II層 黒褐色土 10YR2/2 1~2cmの小礫を少し、10cmの礫を極僅かに含む。下部に縄文土器片を微量に含む。
- 第III層 黒褐色土 10YR2/3 砂質黄褐色土のブロックを極少し含む。
- 第IV層 暗褐色土 10YR3/3 砂質黄褐色土の粒をやや多く含む。
- 第V層 褐色土 10YR4/4 礫層。所々砂質黄褐色土が主体となることもある。礫は2・3~10cm大。
- 第VI層 褐色土 10YR4/4 下部に行くに従い赤みを帯び粘質を増す。

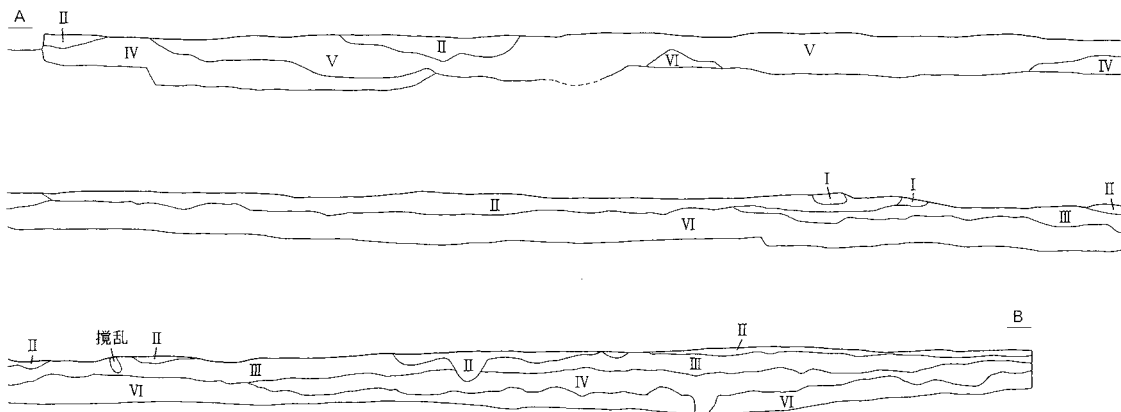


図3 保存区の層序



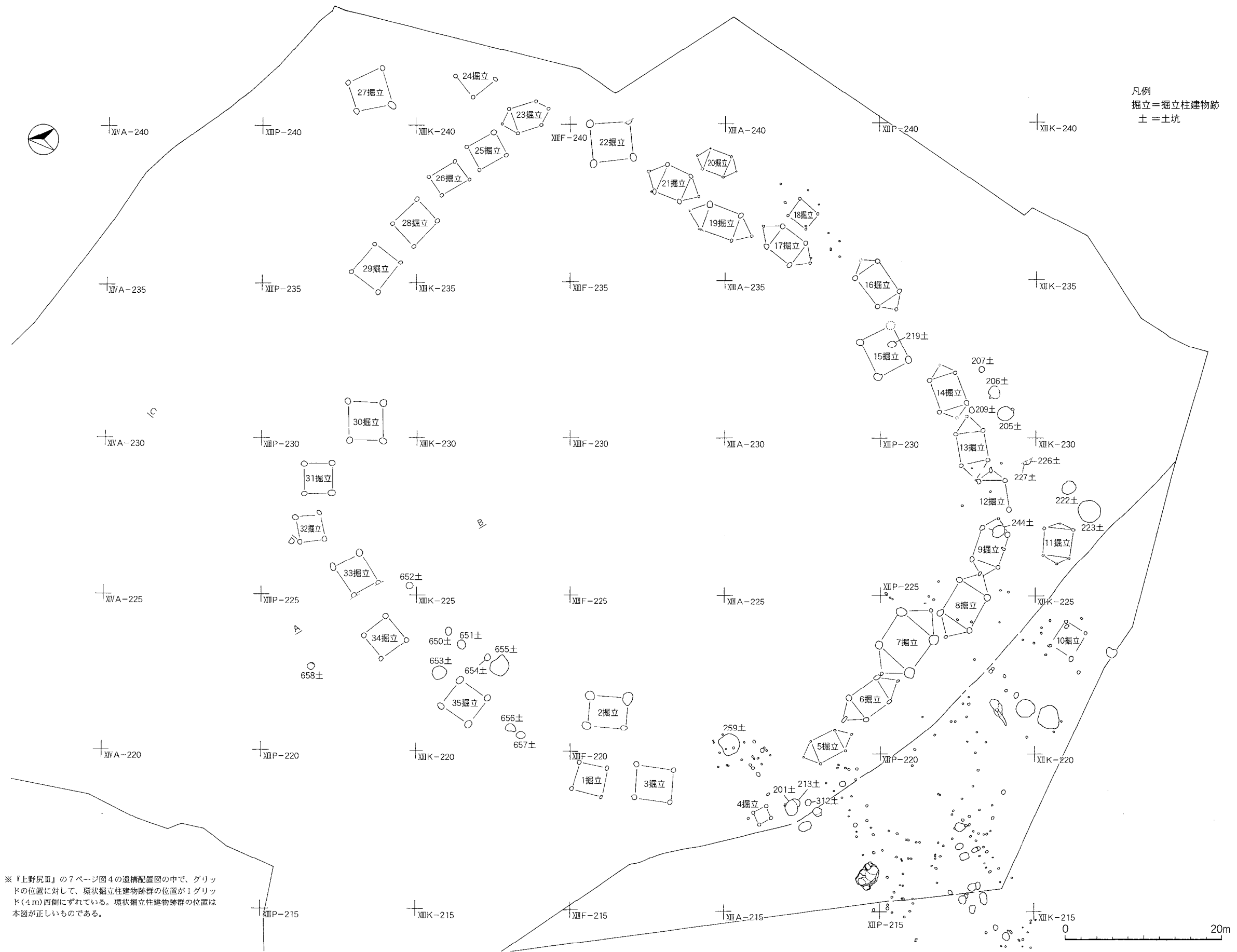


図4 保存区の遺構配置図

## 第2章 検出遺構と出土遺物

### 第1節 掘立柱建物跡

各掘立柱建物跡の記述の〈柱穴の呼称〉〈柱穴のタテ・ヨコ〉については、以下による。

※1 掘立柱建物跡群の柱穴の呼称は、建物跡を環状の中心に向かって置いてみた場合の左上を柱穴A、右上を柱穴B、右下を柱穴C、左下を柱穴Dとし、支柱穴は左側を柱穴E、右側を柱穴Fとした。

※2 柱穴計測値のタテとヨコは、柱穴を環状建物跡群の中心に向かって置いてみた場合のタテとヨコである。

#### 第1号掘立柱建物跡（図5・31、写真1・21）

〔位置・確認〕平成11年度に、XⅢD・E-218・219グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本の支柱穴からなる掘立柱建物跡と確認された。環状建物跡群の西側に位置する。

〔重複〕明かな遺構の重複はみられないが、柱穴Bの東に20cmほど離れたところに第105号土坑が近接している（『上野尻Ⅱ』報告）。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う南北方向の柱穴A B間が3.7m、柱穴C D間が4.0m、円弧に直交する東西方向の柱穴B C間が3.75m、A D間が3.5mの、幾分南北方向にやや長い方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ57cm×ヨコ47cm×深さ56cm、円形。柱穴Bタテ60cm×ヨコ50cm×深さ70cm、円形。柱穴Cタテ50cm×ヨコ38cm×深さ60cm、円形。柱穴Dタテ56cm×ヨコ45cm×深さ75cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕柱穴Aは6層に区分された。柱穴Bは10層に区分された。柱穴Cは8層に区分された。柱穴Dは8層に区分された。

〔出土遺物〕柱穴Aから掘立1-1～5、柱穴Cから掘立1-6～14、柱穴Dから掘立1-15～21が出土している。いずれも縄文土器の破片で、1・15・16は口縁部破片、14は底部破片、他は胴部破片である。時期は第Ⅲ群3類で、縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕本遺構は、平成11年度に検出された3棟の掘立柱建物跡の一つである。平成12年度の調査で環状の掘立柱建物跡群を構成することが判明した。環状の西側にあり、4本柱からなる掘立柱建物跡で、平面形は環状建物跡群の環状の円弧方向に長めの方形である。時期は出土遺物からみて縄文時代後期後葉と思われる。

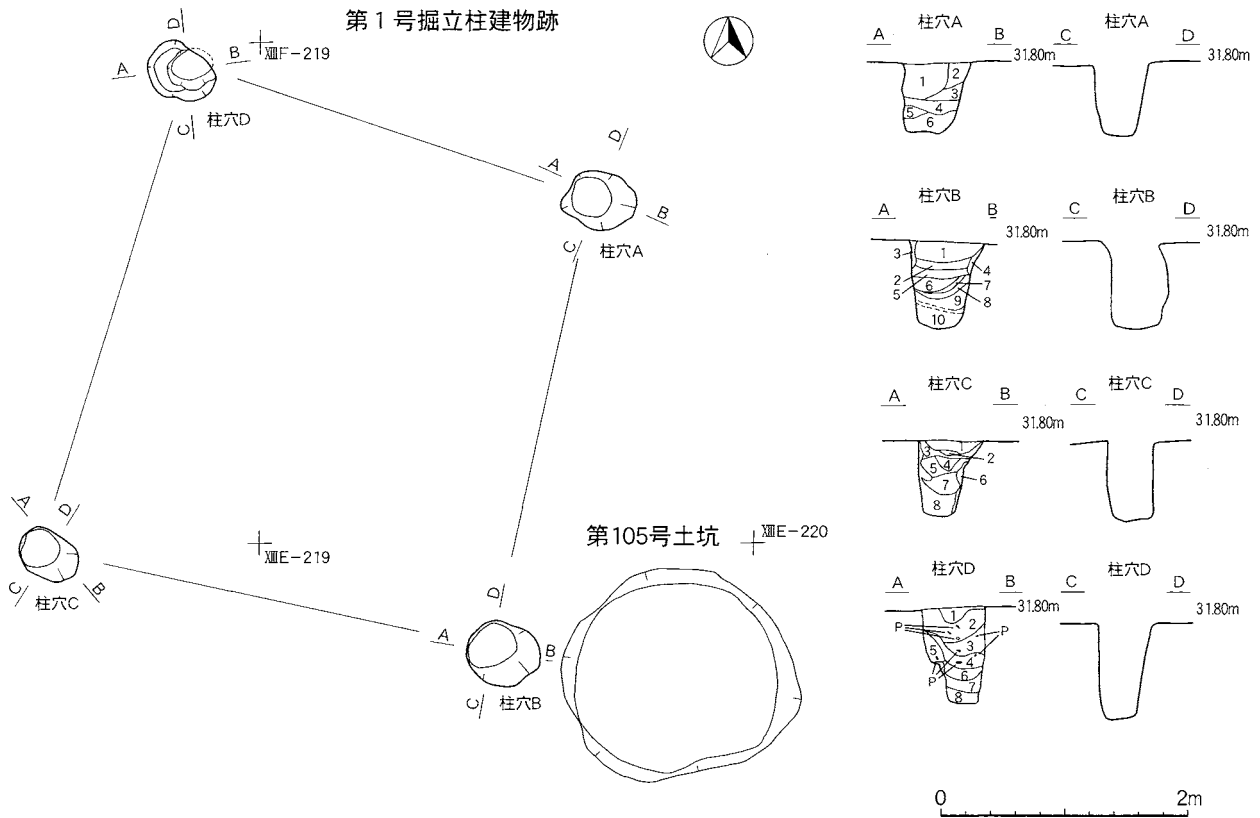
#### 第2号掘立柱建物跡（図6・31、写真1・21）

〔位置・確認〕平成11年度に、XⅢD・E-220・221グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本の支柱穴からなる掘立柱建物跡と確認された。環状建物跡群の西側に位置する。

〔重複〕なし。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う南北方向の柱穴A B間が4.7m、柱穴C D





第1号掘立柱建物跡

柱穴A

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~2mm)中量 炭化物(径2~3mm)少量 しまりかなり有 粘性なし
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量 炭化物微量 焼土粒微量 しまりかなり有 粘性なし
- 第3層 黒色土 10YR2/1 ローム粒少量 しまり有 粘性やや有
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径0.5~1mm)中量 しまり有 粘性やや有
- 第5層 褐色土 10YR4/4 ローム層 しまり有 粘性なし
- 第6層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒やや多量 しまり有 粘性有

柱穴B

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(にぶい黄褐色土10YR5/4 径1mm~)微量 炭化物(径3~7mm)ごく微量 焼土粒(径2mm~)ごく微量 焼土(赤褐色土2.5YR4/6 径6~10mm)2個 礫(径40mm)1個 暗褐色土(10YR3/3)まだらに中量 しまり有 粘性なし
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(にぶい黄褐色土10YR5/4 径1mm~)少量 炭化物(径5mm)1個 しまりやや有 粘性やや有
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム中量 黒褐色土(10YR2/3)少量 しまり有 粘性なし
- 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム中量 黒褐色土(10YR2/3)微量 しまり有 粘性なし
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1mm~)微量 暗褐色土(10YR3/3)まだらに中量 しまりやや有 粘性なし
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 LB(径10~20mm)3個 炭化物(径5mm)1個 黒褐色土(10YR2/3)まだらに中量 しまりやや有 粘性なし
- 第7層 暗褐色土 10YR3/3 ローム(にぶい黄褐色土 10YR5/4)少量 炭化物(径5mm)1個 しまりなし 粘性やや有
- 第8層 黒色土 10YR2/1 ロームごく微量 炭化物粒少量 しまりなし 粘性なし
- 第9層 暗褐色土 10YR3/3 ローム少量 しまりなし 粘性やや有
- 第10層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径2~60mm)多量 層の下部ではロームの割合が大きくなっていく。暗褐色土は、しまりなしだがロームは少ししまっている。

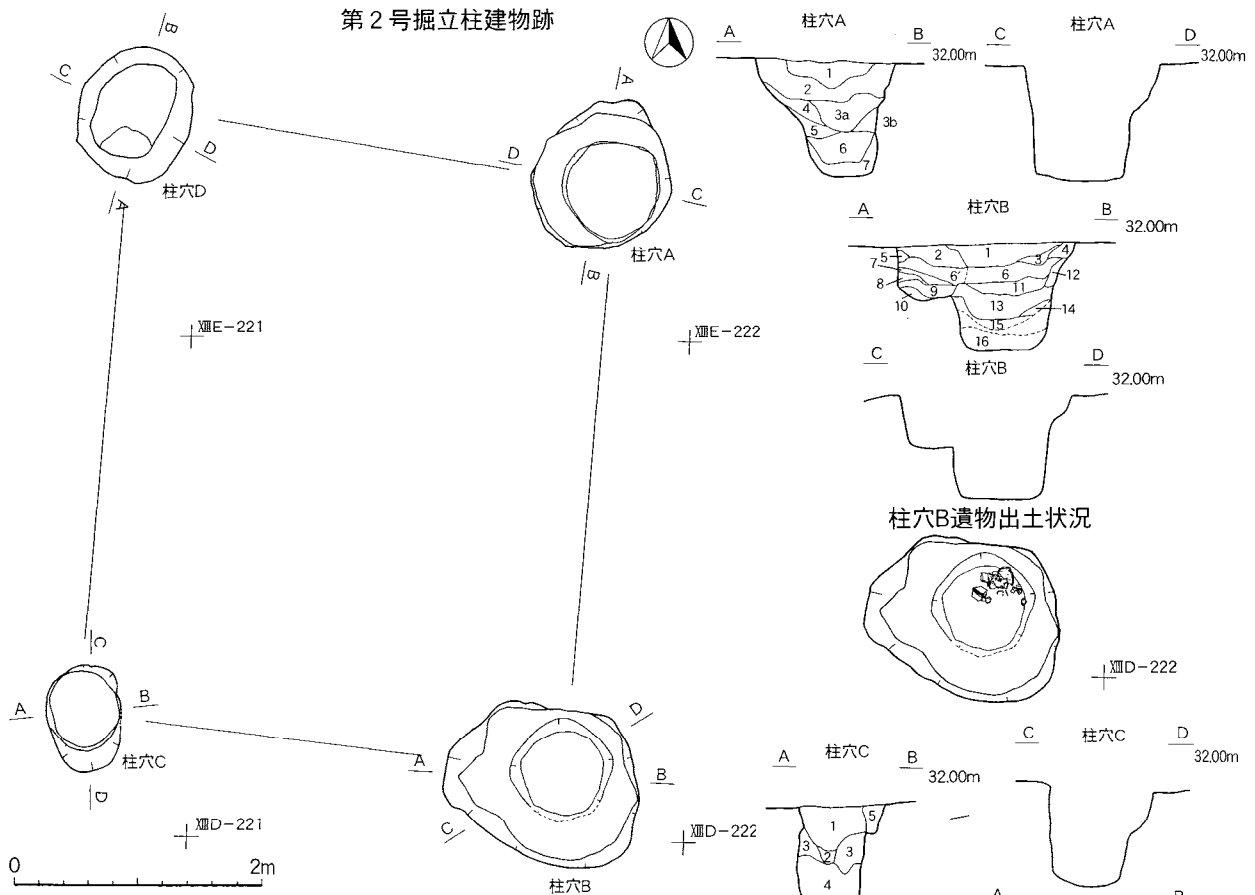
柱穴C

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量 炭化物ごく微量 焼土粒ごく微量 しまりかなり有 粘性やや有
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径2~3mm)少量 しまり有 粘性なし
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量 炭化物微量 焼土粒ごく微量 しまり有 粘性やや有
- 第4層 黒褐色土 10YR2/1 ローム粒少量 焼土粒ごく微量 しまり有 粘性なし
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量 しまりやや有 粘性なし
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量 炭化物少量 焼土粒微量 しまりやや有 粘性なし
- 第7層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量 炭化物少量 焼土粒微量 しまり有 粘性なし
- 第8層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量 炭化物少量 しまり有 粘性やや有

柱穴D

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量 炭化物少量 焼土粒ごく微量 しまりかなり有 粘性なし
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径5mm)少量 炭化物少量 焼土粒ごく微量 しまり有 粘性なし
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒多量 炭化物ごく微量 しまりやや有 粘性なし
- 第4層 褐色土 10YR4/4 ロームかなり多量 しまり少々有 粘性少し有
- 第5層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量 しまりなし 粘性なし
- 第6層 黒色土 10YR2/1 ローム粒微量 しまりなし 粘性なし
- 第7層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム、炭化物(径5~10mm)ごく微量 焼土粒(径3mm)ごく微量 しまりやや有 粘性やや有
- 第8層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒まだらに中量 しまりなし 粘性なし 湿性有

図5 第1号掘立柱建物跡



第2号掘立柱建物跡

柱穴A

- 第1層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒(径5mm以下)非常に多 炭化物、集中的に検出 黒褐色土(7.5YR3/1)が多く混じる しまり中 粘性弱
- 第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒非常に多 1層よりやや黒色味がうすれる しまり中 粘性中
- 第3a層 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒非常に多 L B非常に多 炭化物(径5mm)非常に多 しまり弱 粘性やや強
- 第3b層 第3a層と同一層と考えられるが、よりL Bが少ない ローム粒非常に多
- 第4層 第3a層と同一層と考えられるがL Bが第3b層と同様で少ないが、ローム粒は非常に多
- 第5層 黒褐色土 7.5YR3/1 L B非常に多 礫(径200mm)検出 しまり弱 粘性やや強
- 第6層 黒褐色土 7.5YR3/1 ローム粒、L B非常に多 しまり中 粘性やや強 湿性多
- 第7層 黒褐色土 10YR3/1 にぶい黄褐色土(10YR5/4)との混合層 にぶい黄褐色土(10YR5/4)の地山(IV層)起原と思われる しまり弱 粘性強

柱穴B

- 第1層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒微量 炭化物少量 しまりかなり有 粘性やや有
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量 炭化物微量 しまりかなり有 粘性なし
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量 しまりかなり有 粘性なし
- 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量 しまりかなり有 粘性やや有
- 第5層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒ごく微量 焼土粒ごく微量 しまり有 粘性有
- 第6層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量 炭化物(径10mm)微量 しまり有 粘性有
- 第7層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒少量 しまり有 粘性やや有
- 第8層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量 しまり有 粘性有
- 第9層 黒色土 10YR3/4 ローム粒少量 焼土粒ごく微量 しまり有 粘性有 粘土質(ローム質土)
- 第10層 黒色土 10YR2/1 ローム粒ごく微量 炭化物ごく微量 しまり有 粘性有
- 第11層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量 炭化物微量 しまり有 粘性有
- 第12層 褐色土 10YR4/6 ローム粒少量 しまり有 粘性有
- 第13層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量 炭化物ごく微量 しまり有 粘性やや有
- 第14層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量 炭化物ごく微量 しまり有 粘性有
- 第15層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径10mm)多量 しまり有 粘性有
- 第16層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒少量 炭化物微量 しまり有 粘性有
- 第17層 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒中量 炭化物微量 黒褐色土(10YR3/1)少量 しまりかなり有 粘性有

柱穴C

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~15mm)微量 炭化物(径2~6mm)微量 焼土粒(径2~5mm)ごく微量 しまり有 粘性やや有
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径2~3mm)ごく微量 炭化物(径3mm)ごく微量 しまりやや有 粘性やや有
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量 炭化物(径1~3mm)ごく微量 しまり有 粘性やや有
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径~40mm)中量 水分多く含む しまり有 粘性やや有
- 第5層 暗褐色土 10YR3/4 ローム層 しまり有 粘性なし

柱穴D

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量 炭化物微量 しまり非常に有 粘性なし
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量 炭化物微量 焼土粒ごく微量 暗褐色土(10YR3/3)がブロック状に入る しまり非常に有 粘性なし
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量 炭化物微量 焼土粒(径10mm)1個 しまり有 粘性なし
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量 炭化物ごく微量 しまり有 粘性なし
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量 炭化物微量 しまり有 粘性やや有
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量 しまり有 粘性やや有
- 第7層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量 焼土粒ごく微量 しまりやや有 粘性有
- 第8層 褐色土 10YR4/4 ローム粒微量 しまり有 粘性有
- 第9層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒ごく微量 L B(径20mm大)2個 焼土粒ごく微量 しまりあまりなし 粘性有
- 第10層 褐色土 10YR4/4 ローム粒微量 しまり有 粘性有
- 第11層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量 しまりあまりなし 粘性有
- 第12層 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒微量 焼土粒微量 しまりやや有 粘性有
- 第13層 褐色土 10YR4/4 ローム粒微量 しまり有 粘性有

図6 第2号掘立柱建物跡

間が4.8m、円弧に直交する東西方向の柱穴BC間が3.9m、AD間が3.9mの、南北方向に長めの方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ110cm×ヨコ115cm×深さ90cm、不整円形（中間ではタテ82cm×ヨコ83cm、円形）。柱穴Bタテ160cm×ヨコ125cm×深さ85cm、円形。柱穴Cタテ60cm×ヨコ85cm×深さ75cm、円形。柱穴Dタテ92cm×ヨコ108cm×深さ85cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕柱穴Aは7層に区分された。柱痕は明かではない。柱穴Bは16層に区分された。第13層の上部から同一個体の土器片が出土した。柱穴Cは5層に区分された。断面図からみると、本来の柱穴部は1～3・4・6・11～16層になる可能性がある。柱穴Dは13層に区分された。

〔出土遺物〕柱穴Aから掘立2-1～3、柱穴Bから掘立2-4～6、柱穴Cから掘立2-7～10、柱穴Dから掘立2-11が出土している。1・11が口縁部破片、7・10は台付土器の脚部、6を除いていずれも縄文土器の破片である。6は柱穴Bの中位の覆土から出土したもので、胴下部に最大径をもつ下ぶくれの土器で、胴下部に注口部をもつ注口土器である。頸部に2条、胴上部に1条、胴下部に連続して2条の凸帯をもっている。これらの土器は第Ⅲ群3類に属し、縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕本遺構は、平成11年度に検出された3棟の掘立柱建物跡の一つである。平成12年度の調査で環状の掘立柱建物跡群を構成することが判明した。環状の西側にあり、4本柱からなる掘立柱建物跡で、平面形は環状建物跡群の環状の円弧方向に長めの方形である。環状の円弧より内側に立地するという特徴がある。柱穴Bの遺物は柱が立っていた段階では存在し得ないので、柱がなくなってからのものとなる。掘立柱建物跡の時間的な下限を明示するものと思われる。時期は出土遺物からみて縄文時代後期後葉と思われる。

### 第3号掘立柱建物跡（図7・31、写真2・21）

〔位置・確認〕平成11年度に、XⅢB・C-218・219グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本の支柱穴からなる掘立柱建物跡と確認された。環状建物跡群の西側に位置する。

〔重複〕なし。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う南北方向の柱穴AB間が4.75m、柱穴CD間が4.7m、円弧に直交する東西方向の柱穴BC間が4.2m、AD間が4.2mの、円弧方向の南北方向に長めの方形である。

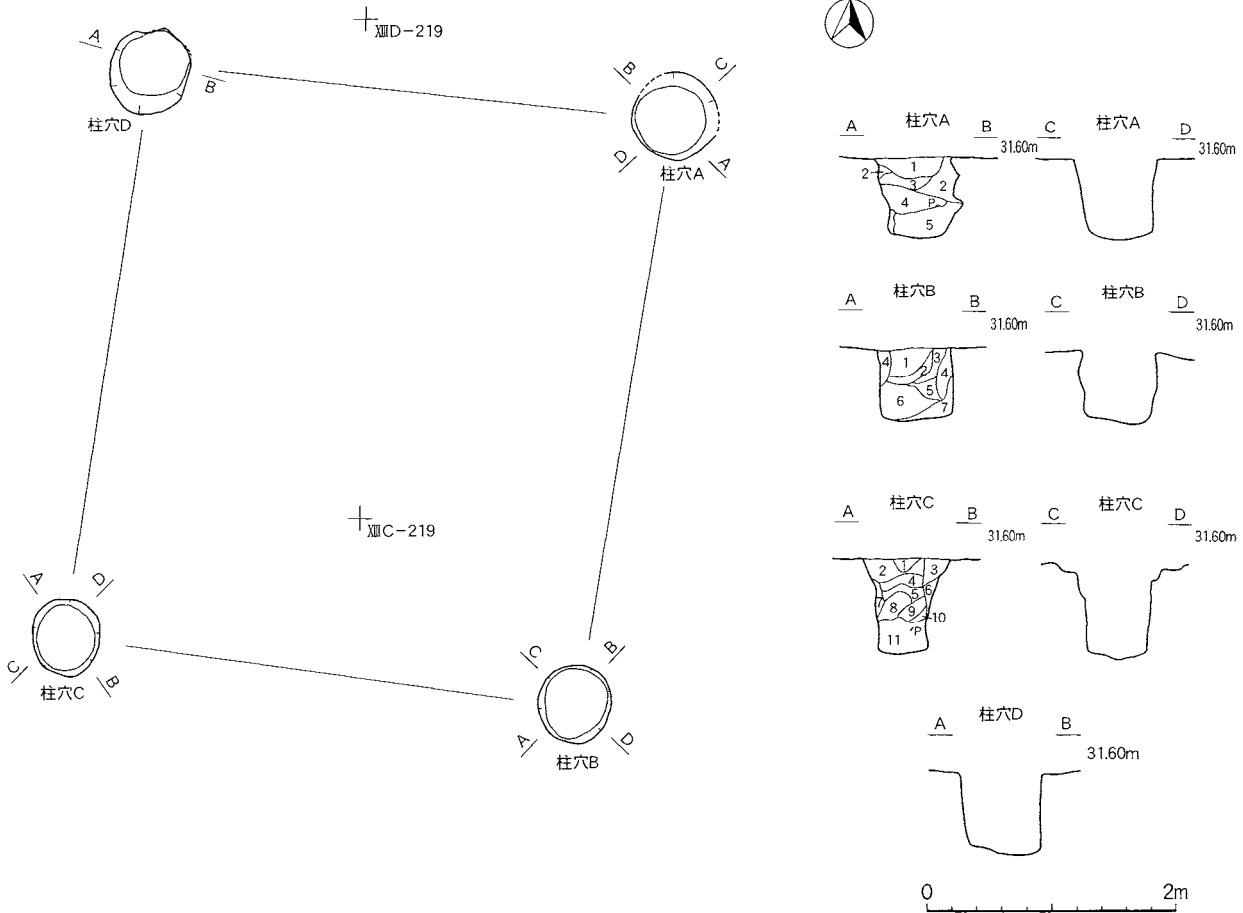
〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ70cm×ヨコ70cm×深さ65cm、円形。柱穴Bタテ60cm×ヨコ63cm×深さ58cm、円形。柱穴Cタテ55cm×ヨコ60cm×深さ76cm、円形。柱穴Dタテ73cm×ヨコ67cm×深さ63cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕柱穴Aは6層に区分された。柱穴Bは7層に区分された。柱穴Cは11層に区分された。

〔出土遺物〕柱穴Aから掘立3-1～4、柱穴Bから掘立3-5、柱穴Dから掘立3-6～8が出土した。いずれも縄文土器の破片で、1は口縁部破片、3は底部破片、他は胴部破片である。時期は第Ⅲ群3類で、縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕本遺構は、平成11年度に検出された3棟の掘立柱建物跡の一つである。平成12年度の調査

第3号掘立柱建物跡



第3号掘立柱建物跡

柱穴A

第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~3mm)ごく微量	炭化物(径1~5mm)微量	しまり有
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム質土(全体にまだらに)少量	炭化物(径1mm位)ごく微量	しまりやや有
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1mm位)ごく微量	炭化物(径1mm位)ごく微量	しまり有 湿性有
第4層	暗褐色土	10YR3/4	ローム質土(まだらに)中量	炭化物(径1~2mm)ごく微量	しまり有 湿性有
第5層	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム粒(径1~3mm)少量	炭化物(径1mm位)ごく微量	しまりかなり有 湿性有
第6層	暗褐色土	10YR3/3	ローム質土(まだらに)少量	炭化物(径1mm位)ごく微量	しまりやや有 湿性有

柱穴B

第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1mm位)微量	炭化物(径1~2mm)微量	しまり有
第2層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1mm位)ごく微量	炭化物(径1~2mm)ごく微量	しまりやや有
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)微量	炭化物(径1mm位)微量	しまり有
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム質土(全体にまだらに)中量	ポロポロしている	しまりやや有 粘土質シルトと砂質シルトの混ざり
第5層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~15mm)少量	炭化物(径1~10mm)微量	しまり有 湿性有
第6層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)少量	炭化物(径1~5mm)少量	しまり有 湿性有
第7層	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム質土(全体にまだらに)少量	にぶい黄褐色土(10YR5/3)をまだらに少量	にぶい黄褐色土(10YR5/3)をまだらに少量 しまりかなり有

柱穴C

第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1mm位)ごく微量	炭化物(径1~5mm)ごく微量	しまりやや有
第2層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~8mm)微量	炭化物(径1mm位)ごく微量	しまり有
第3層	灰黄褐色土	10YR4/2	ローム(全体にまだらに)少量	炭化物(径1mm位)ごく微量	しまり有
第4層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~2mm)微量	炭化物(径1mm)ごく微量	しまり有
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)ごく微量	炭化物(径1mm)ごく微量	しまりなし
第6層	暗褐色土	10YR3/3	ローム(全体的に)中量		しまり有
第7層	褐色土	10YR4/6	ローム層		しまり有
第8層	黒色土	10YR1.7/1	炭化物(径1mm位)ごく微量		しまりなし
第9層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~2mm)ごく微量		しまりなし 湿性有
第10層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1mm位)ごく微量		しまりなし 湿性かなり有
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)ごく微量	炭化物(径1~5mm)微量	しまり有 湿性かなり有

図7 第3号掘立柱建物跡

で環状の掘立柱建物跡群を構成することが判明した。環状の西側にあり、4本柱からなる掘立柱建物跡で、平面形は環状建物跡群の環状の円弧方向に長めの方形である。時期は出土遺物からみて縄文時代後期後葉と思われる。

#### 第4号掘立柱建物跡（図8・32、写真2・3・21）

〔位置・確認〕XⅡS・T-217・218グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本の支柱穴からなる掘立柱建物跡と確認された。環状建物跡群の西側に位置し、最西端になる。

〔重複〕なし。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う南北方向の柱穴AB間が1.9m、柱穴CD間が1.8m、円弧に直交する東西方向の柱穴BC間が1.7m、AD間が1.7mの、円弧方向の南北方向に長めの方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ43cm×ヨコ45cm×深さ68cm、円形。柱穴Bタテ46cm×ヨコ46cm×深さ60cm、円形。柱穴Cタテ48cm×ヨコ48cm×深さ70cm、円形。柱穴Dタテ41cm×ヨコ44cm×深さ65cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕柱穴Aは14層に区分された。第1層～第6層が柱痕部に相当するものと思われる。柱痕部の幅は23cm～25cm程度である。柱穴Bは15層に区分された。柱痕部は明確ではない。柱穴Cは14層に区分された。第1層～第9層が柱痕部に相当するものと思われる。柱痕部の幅は18cm～20cm程度である。柱穴Dは18層に区分された。第2層～第9層が柱痕部に相当するものと思われる。柱痕部の幅は20cm前後である。

〔出土遺物〕柱穴Aから掘立4-1・2、柱穴Bから掘立4-3～6、柱穴Dから掘立4-7・8が出土している。いずれも縄文土器の破片で、1・7は口縁部破片、他は胴部破片である。時期は第Ⅲ群3類で、縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕環状の西側にあり、位置的には最も西にあたる。平面形は環状建物跡群の環状の円弧方向に長めの方形で、4本柱からなる掘立柱建物跡である。1辺が1.7m～1.9mと2mを切るもので極めて小さいく、本遺跡において最小である。時期は出土遺物からみて縄文時代後期後葉と思われる。

#### 第5号掘立柱建物跡（図9・32）

〔位置・確認〕XⅡQ・R-219・220グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本の支柱穴と2本の支柱穴からなる6本柱の掘立柱建物跡と確認された。環状建物跡群の南西側に位置する。

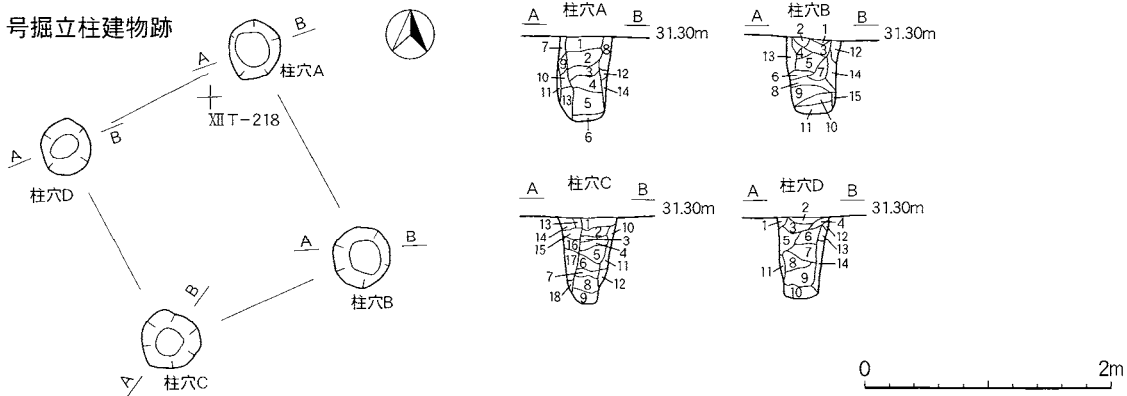
〔重複〕なし。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う北西から南東方向の柱穴AB間が3.4m、柱穴CD間が3.55m、円弧に直交する北東から南西方向の柱穴BC間が2.95m、AD間が3.15mの、円弧に沿う方向に長めの方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ24cm×ヨコ24cm、円形。柱穴Bタテ34cm×ヨコ35cm、円形。柱穴Cタテ30cm×ヨコ28cm、円形。柱穴Dタテ31cm×ヨコ30cm、円形。柱穴Eタテ28cm×ヨコ24cm、円形。柱穴Fタテ25cm×ヨコ38cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕未調査。

第4号掘立柱建物跡



第4号掘立柱建物跡

柱穴A

第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)10%	炭化物(径1~2mm)2%	焼土粒(径2mm)1%	しまり有	粘性有
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)7%	炭化物(径1~3mm)3%	しまりやや有	粘性有	
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~2mm)5%	炭化物(径1~2mm)2%	焼土粒(径2mm)2%	しまりやや有	粘性有
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~3mm)5%	炭化物(径1~3mm)3%	しまりあまりなし	粘性有	
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~2mm)7%	しまりなし	粘性有		
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)5%	しまりなし	粘性有		
第7層	褐色土	10YR4/4	ローム粒(径1~5mm)15%	しまり有	粘性有		
第8層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒(径1~8mm)15%	L B(径25mm)1%	しまり有	粘性有	
第9層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)10%	炭化物(径1~2mm)2%	しまり有	粘性有	
第10層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)5%	しまり有	粘性有		
第11層	褐色土	10YR4/4	ローム粒(径1~5mm)15%	炭化物(径1mm)2%	しまり有	粘性有	
第12層	褐色土	10YR4/4	ローム粒(径1~5mm)15%	炭化物(径2mm)1%	しまり有	粘性有	
第13層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)15%	焼土粒(径2mm)1%	しまり有	粘性有	
第14層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒(径1~3mm)10%	しまり有	粘性有		

柱穴B

第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~2mm)7%	炭化物(径1~2mm)3%	焼土粒(径2mm)1%	しまり有	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~2mm)5%	炭化物(径1~2mm)2%	しまり有	粘性なし	
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)10%	炭化物(径1~5mm)5%	しまり有	粘性なし	
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)15%	炭化物(径1~2mm)2%	しまり有	粘性なし	
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)7%	炭化物(径1~3mm)5%	しまり有	粘性やや有	
第6層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~3mm)5%	炭化物(径1~2mm)2%	しまり有	粘性やや有	
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)5%	炭化物(径1mm)2%	焼土粒(径1mm)1%	しまり有	粘性やや有
第8層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)5%	炭化物(径1~3mm)3%	焼土粒(径1~2mm)3%	しまり有	粘性やや有
第9層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)5%	炭化物(径1~5mm)3%	焼土粒(径1~2mm)2%	しまり有	粘性やや有
第10層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)3%	炭化物(径1~3mm)3%	しまりあまりなし	粘性やや有	
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)5%	炭化物(径1~2mm)5%	焼土粒(径1~2mm)7%	しまり有	粘性有
第12層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)7%	炭化物(径1mm)2%	しまり有	粘性なし	
第13層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~3mm)25%	しまり有	粘性やや有		
第14層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~3mm)5%	炭化物(径1~3mm)3%	しまりあまりなし	粘性やや有	
第15層	褐色土	10YR4/4	ローム粒(径1~7mm)30%	炭化物(径1mm)2%	しまり有	粘性やや有	

柱穴C

第1層	褐色土	10YR4/4	ローム10%	しまり有	粘性なし		
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)1%	炭化物(径2~8mm)1%	焼土粒(径3~6mm)1%	しまり有	粘性なし
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~10mm)1%	炭化物(径2~3mm)1%	焼土粒(径2~5mm)1%	しまり有	粘性なし
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)3%	しまり有	粘性なし		
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)3%	L B(径20~60mm)5%	炭化物(径10mm)1%	しまり有	粘性なし
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~10mm)2%	炭化物(径2~6mm)2%	しまり有	粘性なし	
第7層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)2%	炭化物(径2~3mm)1%	しまり有	粘性なし	
第8層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)2%	炭化物(径2mm)1%	しまり有	粘性やや有	
第9層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~8mm)2%	炭化物(径3~8mm)1%	しまり有	粘性やや有	
第10層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~10mm)2%	炭化物(径3~5mm)1%	焼土粒(径1mm)1%	しまり有	粘性やや有
第11層	暗褐色土	10YR3/3	ローム7%	炭化物(径5mm)1%	しまり有	粘性やや有	
第12層	暗褐色土	10YR3/3	ローム15%	しまり有	粘性なし		
第13層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)3%	しまり有	粘性なし		
第14層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~10mm)7%	炭化物(径8mm)1%	しまり有	粘性なし	

柱穴D

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~4mm)5%	炭化物(径1~5mm)1%	焼土粒(径1mm)1%	しまり有	粘性なし
第2層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム30%	しまり有	粘性なし		
第3層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム25%	しまり有	粘性ほとんどなし		
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム(全体に混じる)10%	小礫(径6mm)1%	しまり有	粘性ほとんどなし	
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~8mm)3%	炭化物(径5~10mm)1%	焼土粒(径5mm)1%	しまり有	粘性やや有
第6層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)3%	炭化物(径5mm)1%	礫(径50mm)1%	しまりやや有	粘性やや有
第7層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)2%	焼土粒(径1mm)1%	しまりやや有	粘性やや有	
第8層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)2%	礫(径30mm)1個	しまりやや有	粘性やや有	
第9層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)2%	炭化物(径4mm)1%	焼土粒(径1mm)1%	しまりやや有	粘性やや有
第10層	暗褐色土	10YR3/4	ローム(全体に混じる)15%	しまり有	粘性なし		
第11層	黒褐色土	10YR3/2	ローム7%	しまり有	粘性やや有		
第12層	黒褐色土	10YR3/2	ローム10%	しまりやや有	粘性やや有		
第13層	褐色土	10YR4/4	ローム層	しまり有	粘性なし		
第14層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)5%	しまり有	粘性なし		
第15層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~6mm)2%	しまり有	粘性なし		
第16層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10mm)3%	しまり有	粘性やや有		
第17層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)2%	炭化物(径3mm)1%	しまり有	粘性やや有	
第18層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒(全体に混じる)10%	小礫(径2~5mm)1%	しまりやや有	粘性やや有	

図8 第4号掘立柱建物跡

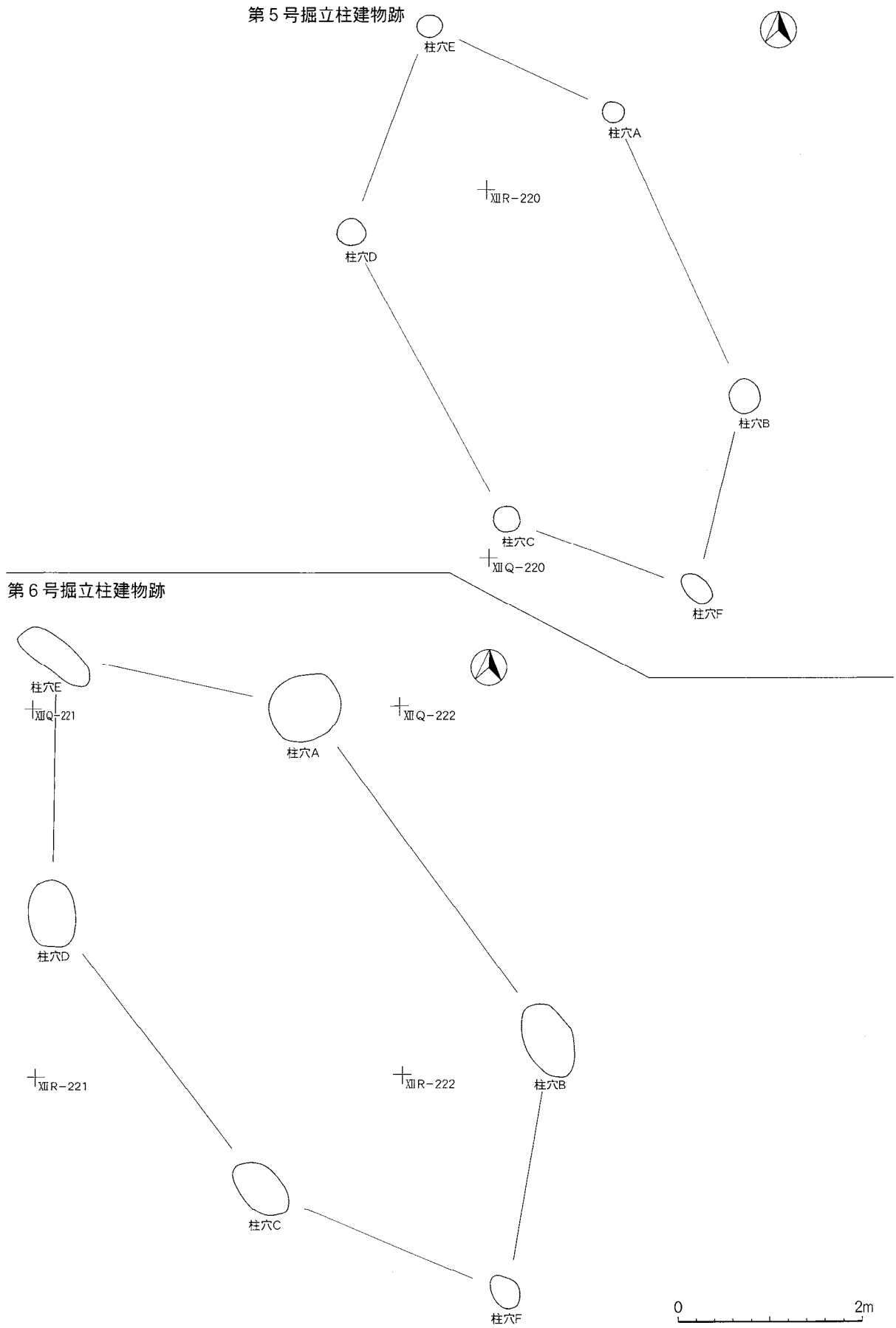
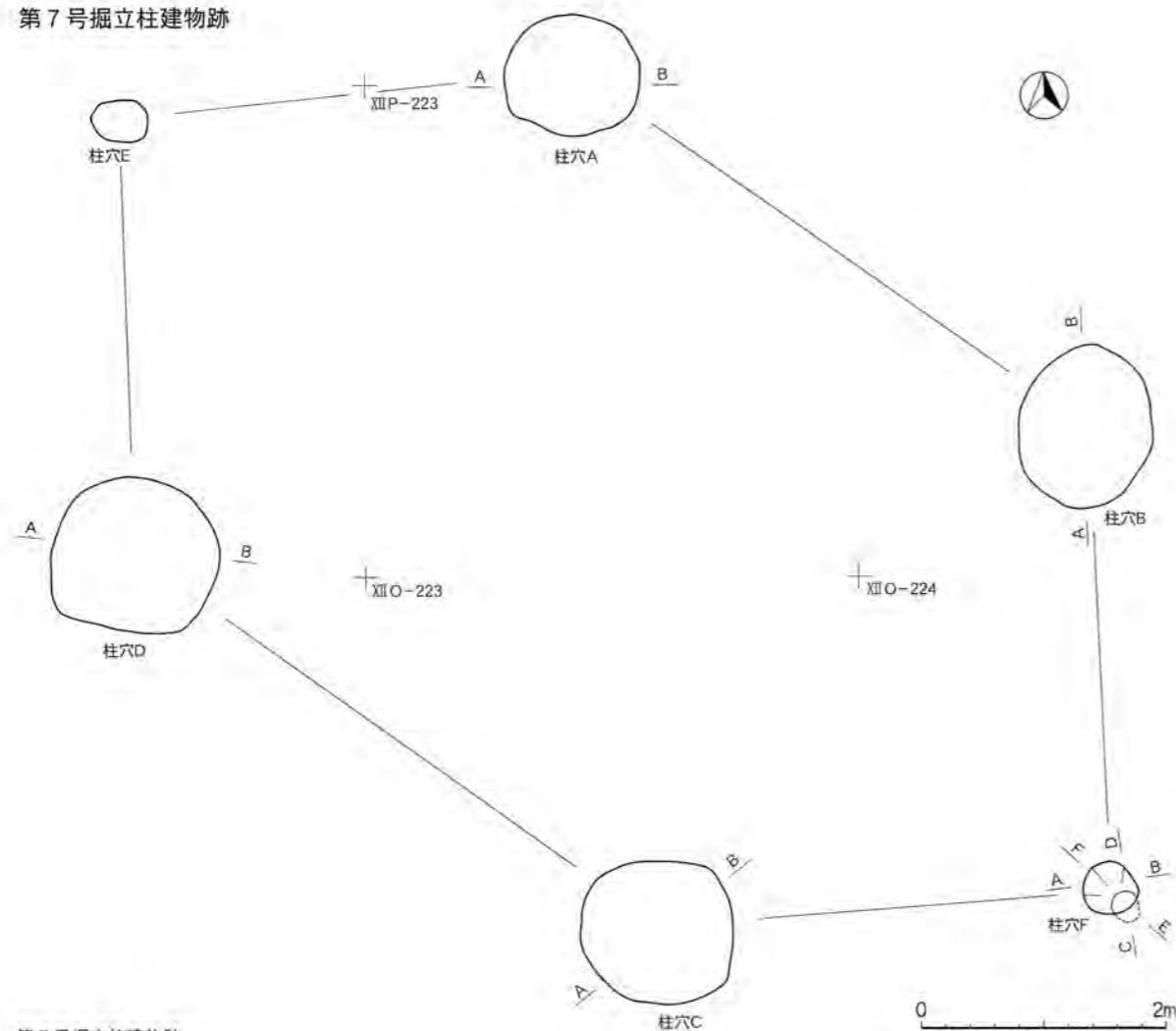


图9 第5・6号掘立柱建物跡

第7号掘立柱建物跡



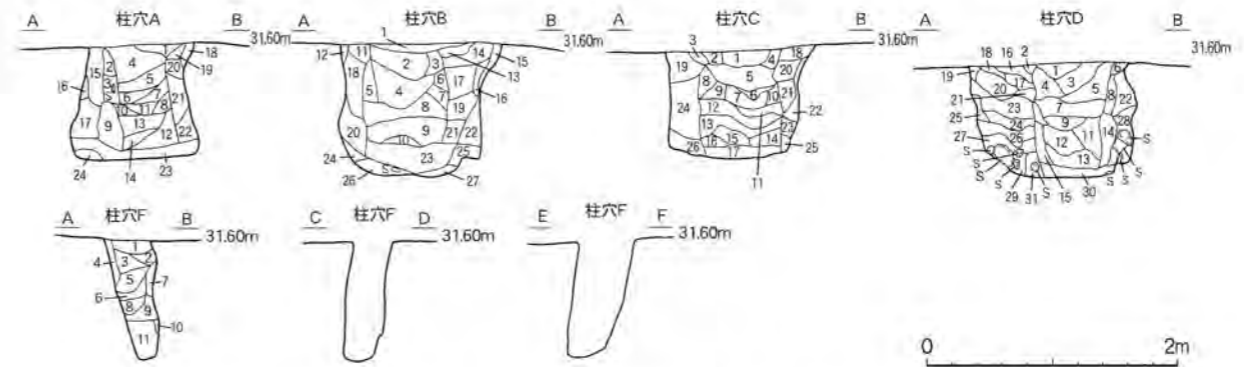
第7号掘立柱建物跡

柱穴A

- 第1層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径1mm以下)1% 小礫(径8mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第2層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径2mm)2% しまり有 粘性有
- 第3層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1mm以下)2% 礫(径70mm)1% しまりなし 粘性有
- 第4層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径2mm)2% 小礫(径10mm)2% しまり有 粘性有
- 第5層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径2mm) 炭化物(13層と同じ)5% 小礫(径5mm)1% しまり有 粘性有
- 第6層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1mm)2% 炭化物(径1mm)3% 小礫(径7mm)1% しまりなし 粘性有
- 第7層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径3mm)3% 炭化物(径2mm)1% 小礫(径5mm)1% しまりなし 粘性有
- 第8層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径5mm)5% 小礫(径2mm)1% しまりなし 粘性有
- 第9層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径3mm)3% 炭化物(径3mm)2% 小礫(径5mm)1% しまりなし 粘性有
- 第10層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径2mm)1% 炭化物(径2mm)1% 小礫(径10mm)1% しまりなし 粘性有
- 第11層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径2mm)1% 炭化物(13層と同じ)25% しまりなし 粘性有
- 第12層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径3mm)5% 炭化物(径5mm)2% 小礫(径10mm)2% しまりなし 粘性有
- 第13層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径2mm)1% 炭化物(13層と同じ)30% しまりなし 粘性有
- 第14層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径3mm)3% 炭化物(13層と同じ)30% しまりなし 粘性有
- 第15層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径5mm)5% L B(径20mm)1% 炭化物(径2mm)1% 小礫(径10mm)1% しまりあまりなし 粘性有
- 第16層 暗褐色土 10YR3/4 黒色土(径1mm以下)2% しまりあまりなし 粘性有
- 第17層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径3mm)2% L B(径40mm)5% 小礫(径2mm)1% しまりあまりなし 粘性有
- 第18層 黒褐色土 10YR2/3 ロームと黒色土の混合層 ローム粒(径1mm以下)5% しまり有 粘性有
- 第19層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径2mm)3% 小礫(径2mm)1% しまり有 粘性有
- 第20層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径3mm)3% しまりあまりなし 粘性有
- 第21層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径2mm)10% L B(径50mm)10% 小礫(径3mm)2% しまりあまりなし 粘性有
- 第22層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径10mm)3% 小礫(径5mm)2% しまりあまりなし 粘性有
- 第23層 黒褐色土 10YR3/1 炭化物(径5mm)3% 小礫(径15mm)5% 暗褐色土(10YR3/4)の層が1層入る しまり有 粘性有
- 第24層 ぶい黄褐色土 10YR4/3 地山の粘土層とローム(径1mm以下)と炭化物(径3mm)が1% しまり有 粘性有

柱穴B

- 第1層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒(径1~5mm)5% 浮石(径3~8mm)2% しまり有 粘性なし
- 第2層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~10mm)7% 炭化物(径1~2mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~7mm)13% しまり有 粘性なし
- 第4層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径1~3mm)7% 炭化物(径1~3mm)2% 浮石(径3~15mm)2% しまり有 粘性有
- 第5層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒(径1~3mm)7% 浮石(径3~7mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~7mm)15% 炭化物(径1~2mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第7層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~5mm)13% 炭化物(径1~3mm)2% しまり有 粘性有
- 第8層 暗褐色土 10YR3/3と、黒褐色土 10YR3/1の混合層 ローム粒(径1~5mm)10% 炭化物(径2~5mm)3% しまり有 粘性有
- 第9層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~10mm)10% 炭化物(径2~10mm)5% しまり有 粘性やや有
- 第10層 黒褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~3mm)7% 炭化物(径2~5mm)5% しまり有 粘性有
- 第11層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~3mm)20% L B(径15~60mm)3% 炭化物(径2~3mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第12層 褐色土 10YR4/6 ローム粒(径1~2mm)5% しまり有 粘性やや有
- 第13層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~8mm)7% しまり有 粘性やや有
- 第14層 ぶい黄褐色土 10YR6/4 ローム粒(径1~3mm)5% 炭化物(径~2mm)3% 浮石(径2~3mm)5% しまり有 粘性なし
- 第15層 褐色土 10YR4/6 ローム粒(径1~2mm)7% 浮石(径1~3mm)7% しまり有 粘性有
- 第16層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒(径1~3mm)5% 炭化物(径1~2mm)2% 浮石(径1~3mm)7% しまり有 粘性有
- 第17層 褐色土 10YR4/6と、黒褐色土 10YR3/2の混合層 ローム粒(径1~5mm)10% 炭化物(径2~3mm)2% 浮石(径2~7mm)5% しまり有 粘性有



- 第18層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~7mm)20% 炭化物(径2~3mm)2% 浮石(径2~20mm)15% しまり有 粘性有
- 第19層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~10mm)10% 炭化物(径2~5mm)5% 浮石(径2~5mm)5% しまり有 粘性有
- 第20層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~5mm)15% 浮石(径5~20mm)5% しまり有 粘性非常に有
- 第21層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~10mm)10% 炭化物(径2~5mm)3% しまり有 粘性非常に有
- 第22層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~5mm)10% 炭化物(径3~5mm)3% しまり有 粘性非常に有
- 第23層 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒(径1~8mm)7% しまり有 粘性非常に有
- 第24層 浅黄褐色土 2.5Y7/3 ローム層 ローム粒(径1~3mm)7% しまり有 粘性有
- 第25層 ぶい黄褐色土 2.5Y6/4 ローム層 ローム粒(径1~3mm)7% しまりやや有 粘性有
- 第26層 黄褐色土 10YR5/6 ローム層 しまりやや有 粘性非常に有
- 第27層 黄褐色土 10YR5/8 ローム層 しまりやや有 粘性非常に有

柱穴C

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~10mm)1% 炭化物(径3mm)1% しまり有 粘性なし
- 第2層 黒色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)3% 炭化物(径4mm)1% しまり有 粘性なし
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~4mm)2% 炭化物(径2~5mm)1% しまり有 粘性なし
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)2% 炭化物(径1~4mm)1% 焼土粒(径1mm)1% しまり有 粘性なし
- 第5層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~6mm)2% 炭化物(径1~3mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第6層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~5mm)3% 炭化物(径2mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第7層 黒色土 1.7/1 ローム粒(径1~5mm)1% 炭化物(径3~5mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第8層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~10mm)1% L B(径10~40mm)2% 炭化物(径2~10mm)1% 浮石(径8mm)1% しまり有 粘性なし
- 第9層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~8mm)1% 炭化物(径3mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第10層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~5mm)1% 炭化物(径2~5mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第11層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~3mm)1% 炭化物(径2~5mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第12層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~5mm)3% 炭化物(径1~5mm)1% 小礫(径1~2mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第13層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~10mm)1% 炭化物(径2~5mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第14層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)1% 炭化物(径5~6mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第15層 ぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム層 炭化物(径3~5mm)1% しまり有 粘性有
- 第16層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~4mm)1% 炭化物(径2~3mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第17層 黒褐色土 10YR3/2 粘土層 炭化物(径3~5mm)1% しまり有 粘性有
- 第18層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~6mm)5% L B(径20mm)1% 炭化物(径1~10mm)1% しまり有 粘性なし
- 第19層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~10mm)5% L B(径10~30mm)5% 炭化物(径2mm)1% 中礫(径30mm)1% しまり有 粘性なし
- 第20層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~10mm)7% L B(径20mm)1% 炭化物(径2mm)1% 浮石(径6mm)1% しまり有 粘性なし
- 第21層 黒褐色土 10YR2/3 ローム(全体に混じる)7% 炭化物(径2mm)1% しまり有 粘性なし
- 第22層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径2~10mm)3% L B(径10~20mm)1% 炭化物(径1~2mm)1% しまり有 粘性なし
- 第23層 暗褐色土 10YR3/3 L B(径30~50mm)5% 炭化物(径3~5mm)1% しまり有 粘性なし
- 第24層 黒褐色土 10YR2/3 ローム(全体に混じる)30% 浮石(径4mm)1% しまり有 粘性なし
- 第25層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)1% 炭化物(径2mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第26層 黒褐色土 10YR3/2 L B(径15~20mm)15% しまり有 粘性やや有

柱穴D

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~3mm)2% 炭化物(径2~7mm)1% 焼土粒(径1mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第2層 黒色土 10YR2/1 L B(径20~50mm)10% 炭化物(径5mm)1% 小礫(径8mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第3層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径1~3mm)1% 炭化物(径3~5mm)1% 焼土粒(径2mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第4層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~10mm)2% 炭化物(径2~3mm)1% 焼土粒(径1~2mm)1% 礫(径70mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第5層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~10mm)1% L B(径90mm)1% 炭化物(径3~5mm)1% 中礫(径20mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)5% 炭化物(径2mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第7層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径2~5mm)2% 炭化物(径3~7mm)1% 焼土粒(径1mm)1% しまり有 粘性有
- 第8層 黒褐色土 10YR3/1 L B(径10~20mm)5% 炭化物(径5mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第9層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~3mm)1% 炭化物(径2~5mm)1% 小礫(径8mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第10層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)3% 炭化物(径5mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第11層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~3mm)1% 炭化物(径2mm)1% 小礫(径6mm)1% しまりやや有 粘性有
- 第12層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径1~3mm)2% しまり有 粘性有
- 第13層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~5mm)1% 炭化物(径~10mm)2% しまりやや有 粘性有
- 第14層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~10mm)1% 炭化物(径2~3mm)1% しまり有 粘性有
- 第15層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~3mm)1% L B(径15mm)1% 炭化物(径2~10mm)2% しまり有 粘性有
- 第16層 褐色土 10YR4/6 ローム層 黒色土(10YR2/1)5% しまり有 粘性なし
- 第17層 黒褐色土 10YR2/2 L B(径10~20mm)10% しまり有 粘性やや有
- 第18層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~7mm)2% 炭化物(径7mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第19層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~10mm)3% しまり有 粘性やや有
- 第20層 ぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム層 黒色土(10YR2/1)5% しまり有 粘性ほとんどなし
- 第21層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~5mm)3% L B(径20~25mm)3% しまり有 粘性やや有
- 第22層 黒褐色土 10YR3/3 ローム(全体に混じる)15% しまりやや有 粘性やや有
- 第23層 ぶい黄褐色土 10YR4/3 L B(径20~30mm)30% 炭化物(径5mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第24層 黒色土 10YR2/1 L B(径20~70mm)10% 炭化物(径2~3mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第25層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~5mm)3% L B(径30mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第26層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~5mm)7% L B(径20mm)1% 炭化物(径3mm)1% 黒色土ブロック(径20mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第27層 黒褐色土 10YR3/1 L B(径10~30mm)7% しまり有 粘性やや有
- 第28層 黒褐色土 10YR3/1 ローム(全体に混じる)15% しまりやや有 粘性有
- 第29層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~5mm)7% 中礫(径20mm)1% しまり有 粘性有
- 第30層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)2% 炭化物(径2~10mm)2% しまり有 粘性有
- 第31層 ぶい黄褐色土 10YR6/3 ローム層 小礫(径7mm)1% しまり有 粘性有

柱穴F

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~5mm)3% 浮石(径2~5mm)1% しまり有 粘性なし
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~5mm)5% しまり有 粘性やや有
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~6mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)7% 浮石(径3~6mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第5層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~10mm)2% 炭化物(径3mm)1% しまりほとんど有 粘性やや有
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~10mm)3% L B(径15mm)1% しまりほとんど有 粘性やや有
- 第7層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~3mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第8層 黒褐色土 10YR3/1 ローム(全体に混じる)15% しまり有 粘性やや有
- 第9層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~10mm)3% L B(径20mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第10層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~10mm)3% しまり有 粘性やや有
- 第11層 ぶい黄褐色土 10YR6/4 ローム層 黒褐色土(10YR2/2)5% しまり有 粘性なし

図10 第7号掘立柱建物跡



〔出土遺物〕未調査のためなし。

〔小結〕柱穴の径が30cm前後と、柱穴が小規模な掘立柱建物跡である。位置は環状の南西側にあり、主柱穴の平面形は環状建物跡群の環状の円弧方向に長めの方形で、支柱穴も円弧の方向にみられる、全体としては亀甲形の6本柱の掘立柱建物跡である。

### 第6号掘立柱建物跡（図9）

〔位置・確認〕XⅡQ・R-221・222グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本の主柱穴と2本の支柱穴からなる6本柱の掘立柱建物跡と確認された。環状建物跡群の南西側に位置する。

〔重複〕遺構自体の重複はみられないが、本遺構の柱穴Bと第7号掘立柱建物跡の支柱穴である柱穴Eとが近接している。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う北西から南東方向の柱穴A B間が4.5m、柱穴C D間が3.3m、円弧に直交する北東から南西方向の柱穴B C間が3.5m、A D間が3.5m、支柱穴間のE F間が8.5mの、円弧に沿う方向に長辺を示す台形状の平面形である。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ80cm×ヨコ70cm、円形。柱穴Bタテ53cm×ヨコ84cm、楕円形。柱穴Cタテ43cm×ヨコ73cm、楕円形。柱穴Dタテ60cm×ヨコ72cm、楕円形。柱穴Eタテ34cm×ヨコ90cm、楕円形。柱穴Fタテ30cm×ヨコ40cm、楕円形。

〔柱穴の堆積土〕未調査。

〔出土遺物〕未調査のためなし。

〔小結〕環状の南西側に位置する。6本柱の亀甲形の掘立柱建物跡であるが、主柱穴の配列は、長辺を環状の内側にする台形状という形態である。

### 第7号掘立柱建物跡（図10・32、写真3・21）

〔位置・確認〕XⅡN・O-222～224グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本の主柱穴と2本の支柱穴からなる6本柱の掘立柱建物跡と確認された。環状建物跡群の南西側に位置する。

〔重複〕遺構自体の重複はみられないが、本遺構の柱穴Eと第6号掘立柱建物跡の柱穴Bとが近接している。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う東西方向の柱穴A B間が5.1m、柱穴C D間が5.3m、円弧に直交する南北方向の柱穴B C間が5.4m、A D間が5.4m、支柱穴間のE F間が10.2mである。4本の主柱穴の配列からはやや菱形に近い方形といえよう。2本の支柱穴は円弧に沿う方向の主柱穴の東西についている。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ110cm×ヨコ110cm×深さ92cm、円形。柱穴Bタテ125cm×ヨコ115cm×深さ110cm、円形。柱穴Cタテ125cm×ヨコ133cm×深さ88cm、円形。柱穴Dタテ135cm×ヨコ136cm×深さ92cm、やや不整な円形。柱穴Eタテ40cm×ヨコ41cm、円形。柱穴Fタテ44cm×ヨコ43cm×深さ92cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕柱穴Aは24層に区分された。第1層・第4層～第8層・第10層から第14層が柱痕部と思われる。幅は55cm。柱穴Bは26層に区分された。第1層～第10層が柱痕部と思われる。幅は60cm。柱穴Cは26層に区分された。第1層～第16層が柱痕部と思われる。幅は60cm。柱穴Dは31層

に区分された。第1層～第13層が柱痕部と思われる。幅は65cm。柱穴Fは11層に区分された。

〔出土遺物〕柱穴Aから掘立7-1、柱穴Bから掘立7-2、柱穴Cから掘立7-3～6、柱穴Dから掘立7-7・8・S1～S3が出土している。いずれも縄文土器の破片で、2・3は口縁部破片、1は注口部、他は胴部破片である。時期は第Ⅲ群3類で、縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕本遺構の柱穴A～D・Fは半分のみ調査で、柱穴Eは未調査である。環状掘立柱建物跡群が保存区域になったのでこの段階で埋め戻している。4本の支柱穴は平均で径124cmと巨大であり、断面にみえる柱痕の幅も平均60cmと極めて大きなものである。時期は出土遺物からみて縄文時代後期後葉と思われる。

#### 第8号掘立柱建物跡（図11・32、写真4・21）

〔位置・確認〕XⅡL・M-223～225グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本の支柱穴と2本の支柱穴からなる6本柱の掘立柱建物跡と確認された。環状建物跡群の南側に位置する。

〔重複〕遺構自体の重複はみられないが、本遺構の支柱穴Fと第9号掘立柱建物跡の支柱穴Eとが交差するような状況を示している。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う東西方向の柱穴A B間が5.0m、柱穴C D間が4.8m、円弧に直交する南北方向の柱穴B C間が4.2m、AD間が4.3m、支柱穴間のE F間が9.2mである。4本の支柱穴の平面形は円弧方向の東西にやや長めの方形である。2本の支柱穴は円弧に沿う方向の支柱穴の東西についている。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ78cm×ヨコ96cm×深さ88cm、円形。柱穴Bタテ72cm×ヨコ68cm×深さ70cm、円形。柱穴Cタテ85cm×ヨコ80cm×深さ87cm、円形。柱穴Dタテ70cm×ヨコ73cm×深さ73cm、円形。柱穴Eタテ40cm×ヨコ42cm、円形。柱穴Fタテ35cm×ヨコ65cm×45cm、楕円形。

〔柱穴の堆積土〕柱穴Aは17層に区分された。第1層～第8層・第10層から第14層が柱痕部と思われる。幅は50cm。柱穴Bは14層に区分された。第1層～第9層が柱痕部と思われる。幅は50cm。柱穴Cは13層に区分された。第1層～第7層が柱痕部と思われる。幅は33cm。柱穴Dは18層に区分された。第1層～第8層が柱痕部と思われる。幅は45cm。柱穴Fは16層に区分された。第1層～第7層が柱痕部に相当すると思われる。

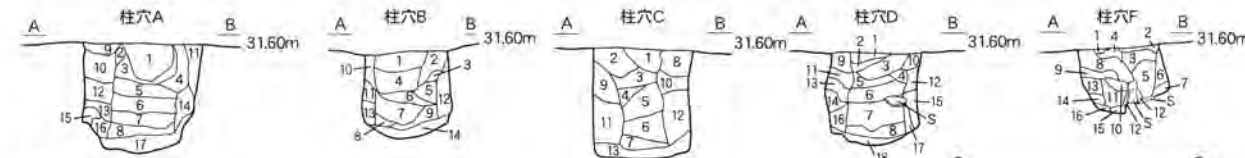
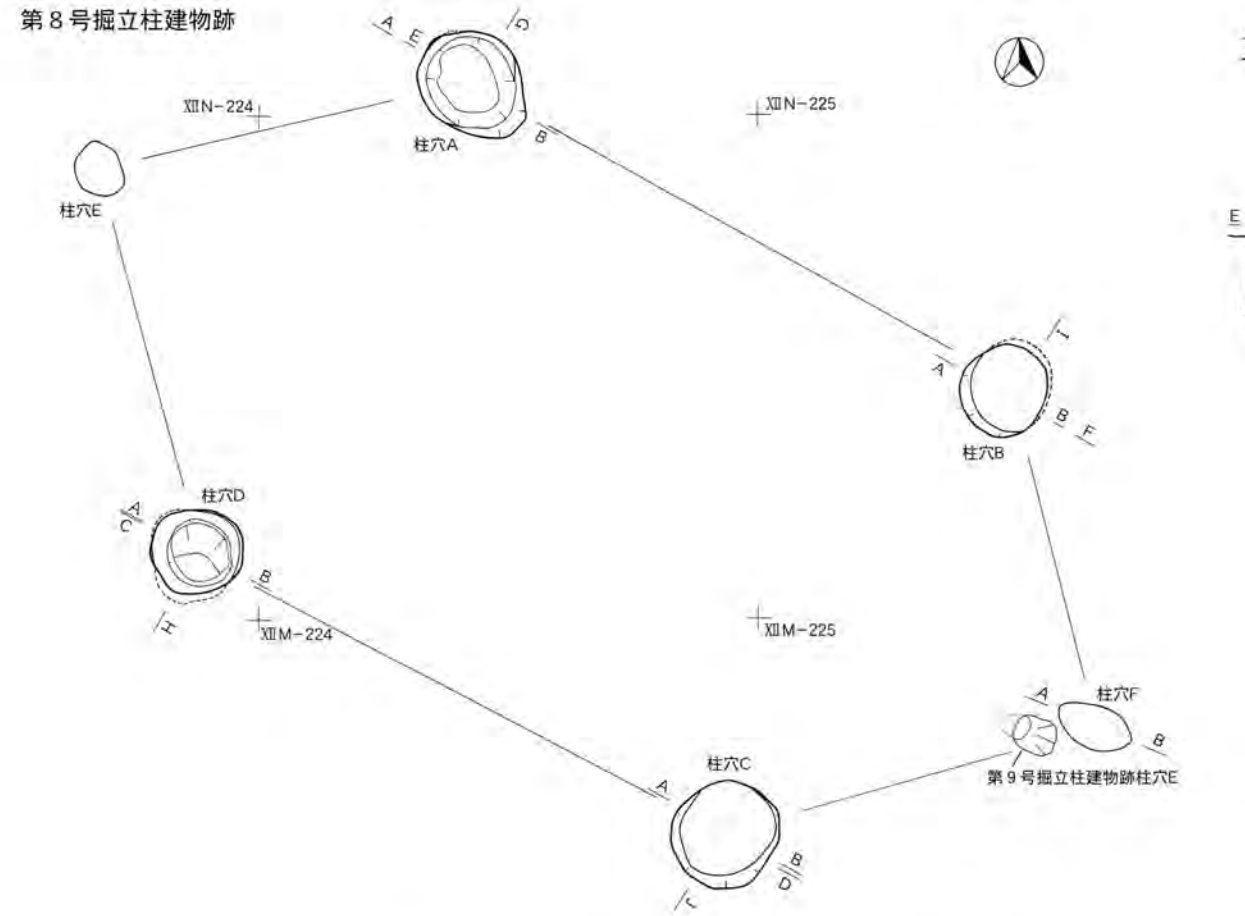
〔出土遺物〕柱穴Aから掘立8-1～3、柱穴Bから掘立8-4、柱穴Cから掘立8-5が出土している。いずれも縄文土器の胴部破片である。時期は第Ⅲ群3類で、縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕支柱穴4本と支柱穴2本からなる6本柱の亀甲形の掘立柱建物跡で、支柱穴の平面形は環状の円弧方向に沿う東西に長めの方形である。東側の支柱穴である柱穴Fの断面では、建物跡から外へ（西から東へ）傾斜するものと思われる。時期は出土遺物からみて縄文時代後期後葉と思われる。

#### 第9号掘立柱建物跡（図12・32、写真4・5・21）

〔位置・確認〕XⅡL-225～227グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本の支柱穴と2本

第8号掘立柱建物跡



第8号掘立柱建物跡

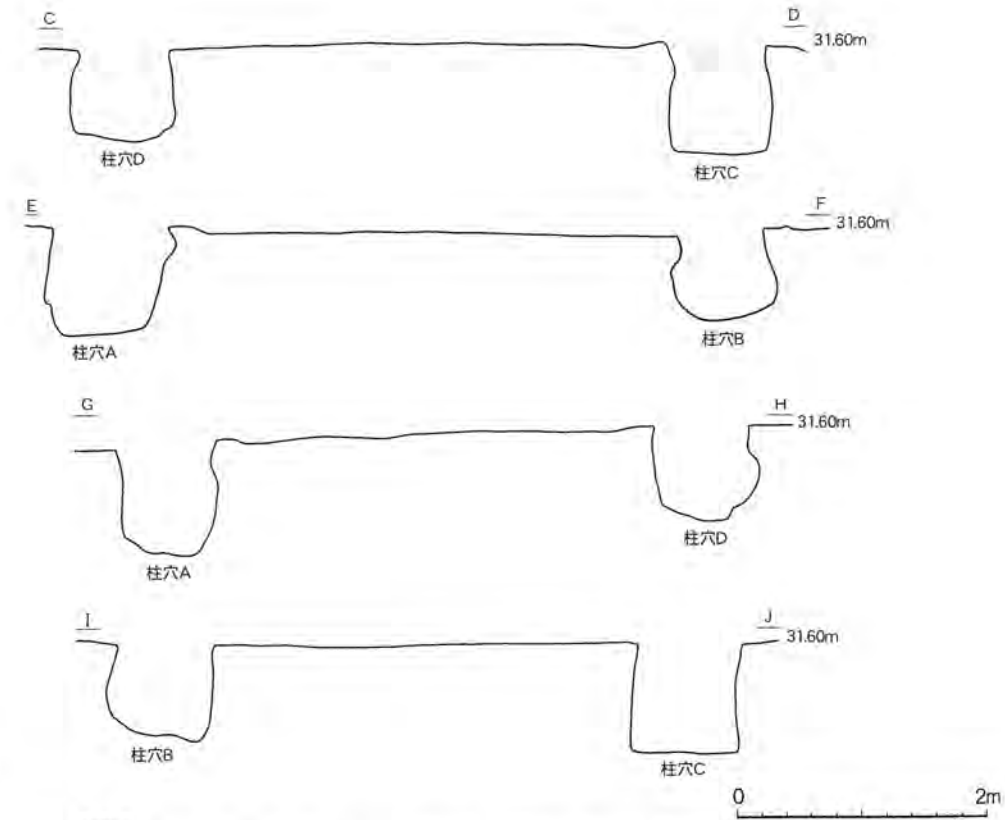
柱穴A

- 第1層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径1~10mm)1% LB(径50mm)1% しまり有 粘性なし
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)2% LB(径20mm)1% しまり有 粘性なし
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~7mm)1% しまり有 粘性なし
- 第4層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒(径1~5mm)2% LB(径20~30mm)1% しまり有 粘性なし
- 第5層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~10mm)2% しまりやや有 粘性なし
- 第6層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~10mm)1% しまりやや有 粘性やや有
- 第7層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~3mm)1% LB(径15mm)1% しまりやや有 粘性やや有
- 第8層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~10mm)1% 炭化物(径2mm)1% しまりやや有 粘性やや有
- 第9層 暗褐色土 10YR3/3 ローム(全体に混じっている)10% しまり有 粘性なし
- 第10層 黒褐色土 10YR2/2 LB(径10~30mm)5% しまり有 粘性なし
- 第11層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~2mm)1% 浮石(径5mm)1% しまり有 粘性なし
- 第12層 黒褐色土 10YR3/2 LB(径20~60mm)7%をまだらに含む しまり有 粘性やや有
- 第13層 黒褐色土 10YR2/2 LB(径15mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第14層 黒褐色土 10YR3/2 ローム(全体に混じっている)15% しまり有 粘性やや有
- 第15層 ぶい黄褐色土 10YR6/4 ローム層 しまり有 粘性やや有
- 第16層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~3mm)1% LB(径20mm)1% 焼土粒(径10mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第17層 黒色土 10YR2/1 ローム層 黒色土(10YR2/1)5% しまり有 粘性やや有

柱穴B

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径5mm)4% 炭化物(径3~10mm)1% 浮石(径10mm)1% しまり有 粘性なし
- 第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(径5mm)15% LB(径20mm)1個 しまり有 粘性やや有
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径4mm)5% 炭化物(径5mm)1% しまり有 粘性有
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径5mm)5% 小礫(径15mm)1個 しまり有 粘性有
- 第5層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径3mm)7% しまり有 粘性有
- 第6層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径10mm)7% 炭化物(径5mm)1% しまりあまりなし 粘性有
- 第7層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径3mm)5% 炭化物(径3mm)1% しまりあまりなし 粘性有
- 第8層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径3mm)2% しまりあまりなし 粘性有
- 第9層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径3mm)5% しまり有 粘性有
- 第10層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径3mm)7% しまり有 粘性やや有
- 第11層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径5mm)3% 小礫(径13mm)1個 しまり有 粘性有
- 第12層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径5mm)10% LB(径70mm)2% 浮石(径10mm)1% しまり有 粘性有
- 第13層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径3mm)5% しまり有 粘性有
- 第14層 黒色土 10YR2/1 黄褐色土(10YR6/6)と、ぶい黄褐色土(10YR6/4)の混合土 ローム粒(径2mm)2% しまり有 粘性有

図11 第8号掘立柱建物跡



柱穴C

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~3mm)10% 炭化物(径1~3mm)2% 焼土ブロック(径10mm)1% しまり有 粘性なし
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~5mm)15% 小礫(径5~15mm)2% しまり有 粘性なし
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~3mm)7% 焼土粒(径1~2mm)2% しまり有 粘性なし
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~5mm)7% しまり有 粘性やや有
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)7% 炭化物(径1~10mm)2% 焼土粒(径1~2mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~8mm)7% 炭化物(径1~7mm)2% しまり有 粘性有
- 第7層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~8mm)5% しまり有 粘性有
- 第8層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~5mm)20% LB(径5~40mm)35% しまり有 粘性なし
- 第9層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~5mm)7% 炭化物(径1~7mm)2% しまり有 粘性なし
- 第10層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~5mm)30% LB(径5~25mm)7% 炭化物(径2mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第11層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒(径1~5mm)10% LB(径5~40mm)5% 炭化物(径2mm)2% しまり有 粘性有
- 第12層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)15% LB(径5~50mm)15% しまり有 粘性有
- 第13層 ぶい黄褐色土 10YR6/3 (ローム30%)と、褐色土(10YR4/4)の混合土 ローム粒(径1~5mm)10% しまり有 粘性有

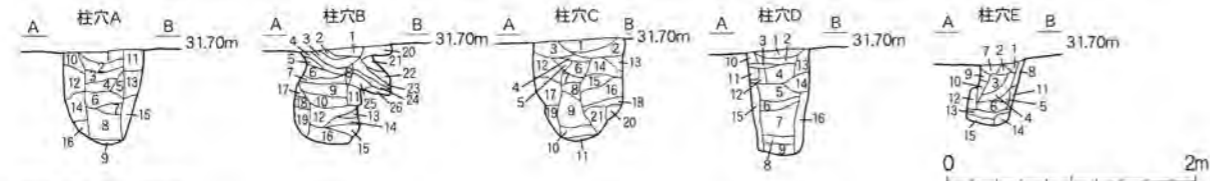
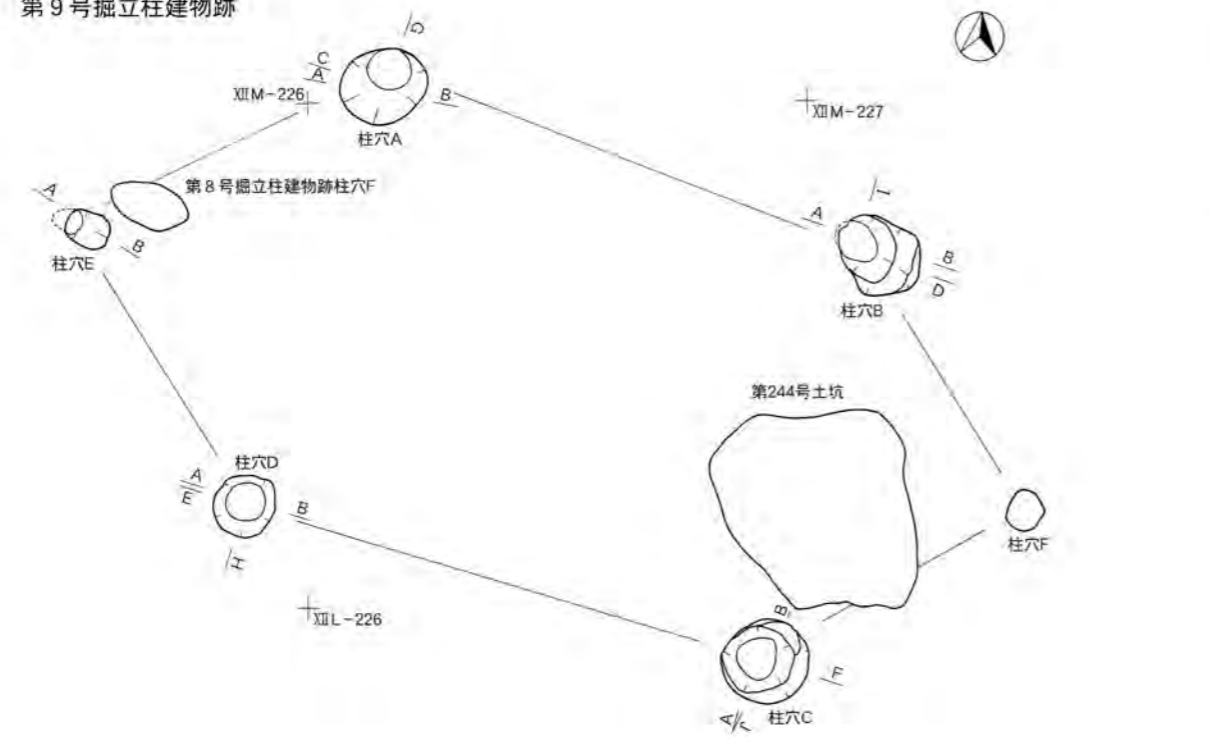
柱穴D

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~5mm)5% 炭化物(径1~2mm)2% 焼土粒(径1~2mm)2% 浮石(径5mm)2% しまり有 粘性なし
- 第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~5mm)7% 炭化物(径1~2mm)3% 焼土粒(径1~2mm)2% 浮石(径3~5mm)3% しまり有 粘性なし
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~3mm)7% 炭化物(径1~2mm)3% 焼土粒(径1~2mm)3% しまり有 粘性なし
- 第4層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~7mm)7% 炭化物(径1~2mm)3% 焼土粒(径1mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第5層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)20% 炭化物(径1~3mm)2% 焼土粒(径1~2mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~5mm)10% 炭化物(径1~5mm)3% 浮石(径3~5mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第7層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~5mm)7% 炭化物(径2~5mm)3% 焼土粒(径1~3mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第8層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)5% 炭化物(径3~5mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第9層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~5mm)20% 炭化物(径1~3mm)2% 浮石(径2~5mm)5% しまり有 粘性なし
- 第10層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~2mm)5% 焼土粒(径1~2mm)2% しまり有 粘性なし
- 第11層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~10mm)7% 炭化物(径1~5mm)3% 焼土粒(径1~5mm)5% しまり有 粘性やや有
- 第12層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~7mm)7% 浮石(径5mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第13層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~15mm)15% 炭化物(径1~2mm)2% 焼土粒(径1~2mm)3% しまり有 粘性やや有
- 第14層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~7mm)7% しまり有 粘性有
- 第15層 ぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒(径1~5mm)3% しまり有 粘性有
- 第16層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~7mm)15% 焼土粒(径2mm)1% しまり有 粘性有
- 第17層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径2mm)2% しまり有 粘性有
- 第18層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~3mm)3% しまり有 粘性有

柱穴F

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)2% LB(径10~20mm)2% しまり有 粘性なし
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~5mm)1% 浮石(径2~7mm)1% しまり有 粘性なし
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~5mm)2% 炭化物(径5mm)1% しまり有 粘性ほとんどなし
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~5mm)2% 炭化物(径2~3mm)1% 浮石(径6mm)1% しまり有 粘性なし
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~8mm)2% 炭化物(径2~5mm)1% しまり有 粘性ほとんどなし
- 第6層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~5mm)2% 浮石(径2~4mm)1% しまり有 粘性ほとんどなし
- 第7層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~10mm)5% 浮石(径2~3mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第8層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物(径3~10mm)1% 浮石(径5~8mm)1% 黒色土ブロック(10YR2/1)、黒褐色土ブロック(10YR2/2)、明黄褐色土ブロック(10YR6/6)が混じる しまり有 粘性ほとんどなし
- 第9層 黒褐色土 10YR2/3 ローム(全体に混じる)7% しまり有 粘性やや有
- 第10層 暗褐色土 10YR3/4 ローム(全体に混じる)15% しまり有 粘性やや有
- 第11層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~10mm)2% LB(径25mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第12層 褐色土 10YR4/4 ローム層 しまり有 粘性やや有
- 第13層 黒褐色土 10YR3/3と、ぶい黄褐色土 10YR6/4の混合土 ローム層 浮石(径2~10mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第14層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)2% 炭化物(径4mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第15層 黒褐色土 10YR3/2 LB(径15~20mm)7% しまり有 粘性やや有
- 第16層 ぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム層 しまり有 粘性やや有

第9号掘立柱建物跡



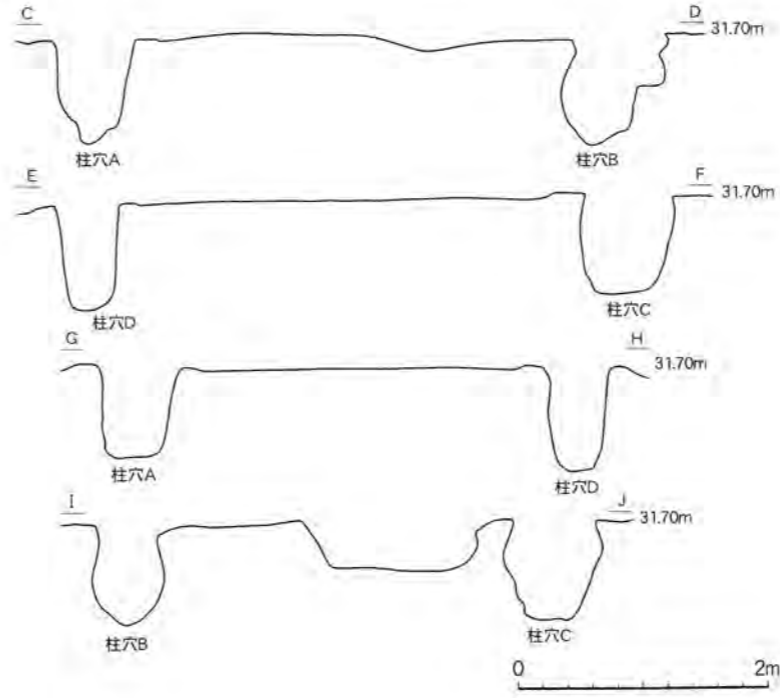
第9号掘立柱建物跡

柱穴A

第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径10mm)3%	炭化物(径1mm)1%	浮石(径1mm)1%	しまり有	粘性有
第2層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1mm以下)2%			しまり有	粘性有
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)2%			しまり有	粘性有
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)1%			しまりなし	粘性有
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径3mm)2%			しまりなし	粘性有
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径5mm)5%			しまりなし	粘性有
第7層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1mm)2%			しまりなし	粘性有
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)2%			しまりなし	粘性有
第9層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1mm以下)1%			しまりやや有	粘性有
第10層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径2mm)3%	L B(径30mm)2%		しまり有	粘性有
第11層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径3mm)2%	L B(径30mm)1%		しまり有	粘性有
第12層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径2mm)5%	L B(径50mm)3%		しまり有	粘性有
第13層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径2mm)5%	L B(径60mm)3%		しまり有	粘性有
第14層	暗褐色土	10YR3/2	ローム粒(径3mm)2%			しまりなし	粘性有
第15層	暗褐色土	10YR2/3	ローム粒(径10mm)3%			しまりなし	粘性有
第16層	暗褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1mm以下)2%			しまりなし	粘性有

柱穴B

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)2%	炭化物(径2mm)1%		しまり有	粘性やや有
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)1%	炭化物(径1mm)1%		しまり有	粘性有
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径10mm)2%	炭化物(径5mm)2%		しまり有	粘性有
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径10mm)1%	炭化物(径2mm)2%	小礫(径2mm)1%	しまり有	粘性有
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1mm)1%	炭化物(径1mm)1%		しまり有	粘性有
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)2%	炭化物(径2mm)1%		しまり有	粘性有
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5mm)3%	炭化物(径3mm)2%	浮石(径2mm)1%	しまりあまりなし	粘性有
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径10mm)2%	炭化物(径2mm)2%	浮石(径1mm)1%	しまりあまりなし	粘性有
第9層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)3%	炭化物(径1mm)1%		しまり有	粘性有
第10層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5mm)2%	炭化物(径3mm)2%	浮石(径2mm)1%	しまりなし	粘性有
第11層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径15mm)2%	炭化物(径2mm)1%		しまりなし	粘性有
第12層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5mm)5%	炭化物(径5mm)2%	がペースト状に混入	しまりなし	粘性有
第13層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5mm)3%	炭化物がペースト状に3%混入		しまりなし	粘性有
第14層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1mm)5%	炭化物がペースト状に2%混入		しまりなし	粘性有
第15層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1mm)と底土ブロック(径35mm)2%			しまり有	粘性有 粘土質強い
第16層	黒色土	10YR1/7/1	ローム粒(径1mm以下)と底土ブロック(径20mm)3%			しまり有	粘性有 粘土質強い
第17層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)2%			しまりなし	粘性有
第18層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径2mm)3%			しまりなし	粘性有
第19層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径2mm)と底土ブロック(径50mm)5%			しまりなし	粘性有
第20層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径20mm)7%	炭化物(径2mm)1%	浮石(径3mm)1%	しまり有	粘性有
第21層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径2mm)7%	炭化物(径1mm)1%	浮石(径2mm)1%	しまり有	粘性有
第22層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径50mm)が層状に5%			しまり有	粘性有
第23層	褐色土	10YR4/4	黒色土2%とロームの混合層			しまり有	粘性有
第24層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5mm)3%			しまり有	粘性有
第25層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径15mm)3%	炭化物(径1mm)1%		しまりなし	粘性有
第26層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5mm)とL B(径70mm)3%	炭化物(径2mm)1%		しまりなし	粘性有



柱穴C

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径0.5~4mm)2%	炭化物(径1~5mm)2%	浮石(径1~3mm)1%	しまり有	粘性なし
第2層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径0.5~5mm)3%	L B(径35mm)1%	炭化物(径1~3mm)1%		
第3層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径0.5~6mm)3%	炭化物(径1~8mm)2%		しまり有	粘性なし
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径0.5~5mm)1%	炭化物(径2~8mm)1%		しまり有	粘性なし
第5層	暗褐色土	10YR3/4	ローム(全体に混じる)7%	炭化物(径1~2mm)1%		しまり有	粘性なし
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~8mm)2%	炭化物(径1~4mm)1%		しまり有	粘性なし
第7層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径0.5~3mm)1%	炭化物(径2mm)1%		しまり有	粘性なし
第8層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~7mm)1%	炭化物(径3mm)1%		しまり有	粘性なし
第9層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)1%	炭化物(径1~6mm)1%		しまり有	粘性やや有
第10層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1mm)1%			しまり有	粘性やや有
第11層	ぶい黄褐色土	10YR7/4	ローム層			しまり有	粘性やや有
第12層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~8mm)2%	炭化物(径1~13mm)2%		しまり有	粘性なし
第13層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)3%	炭化物(径2~5mm)1%		しまり有	粘性なし
第14層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~10mm)2%	L B(径20mm)1%	炭化物(径1~10mm)1%	浮石(径3mm)1%	しまり有 粘性なし
第15層	黒褐色土	10YR2/3	ローム7%	L B(径30mm)1%	炭化物(径2~3mm)1%		しまり有 粘性なし
第16層	暗褐色土	10YR3/3	ローム10%	炭化物(径1~5mm)1%	黒褐色土ブロック(径15mm)1%		しまり有 粘性なし
第17層	褐色土	10YR4/4	ローム10%	L B(径15~20mm)1%	炭化物(径5~15mm)1%		しまり有 粘性なし
第18層	暗褐色土	10YR2/3	L B(径15mm)2%			しまり有	粘性やや有
第19層	暗褐色土	10YR3/4	ローム(全体に混じる)10%	炭化物(径2~6mm)1%		しまり有	粘性やや有
第20層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径8mm)1%	炭化物(径2~3mm)1%		しまり有	粘性やや有
第21層	褐色土	10YR4/6	ローム層	黒褐色土(10YR2/2)7%		しまり有	粘性やや有

柱穴D

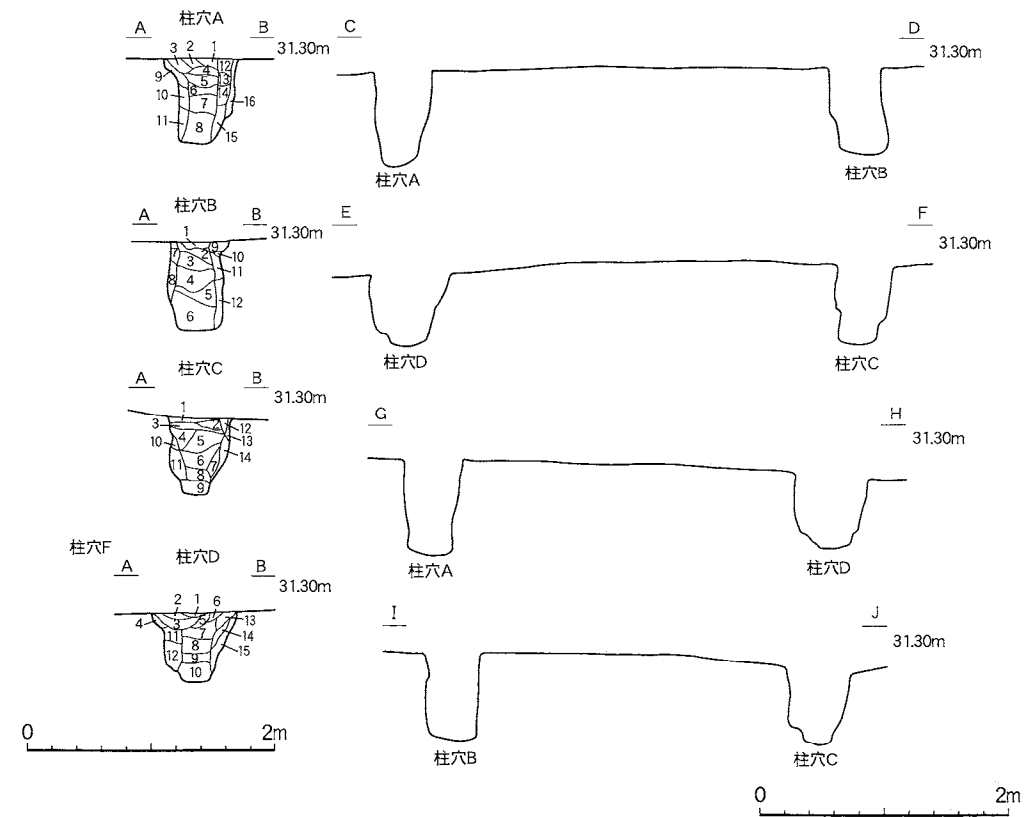
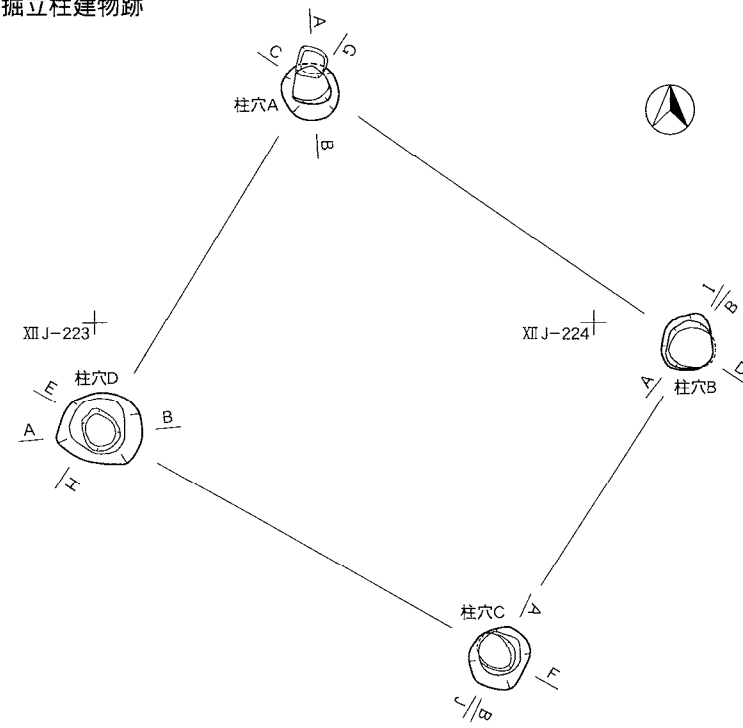
第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径3mm)3%	炭化物(径3mm)2%		しまり有	粘性有
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1mm以下)2%	炭化物(径2mm)1%		しまり有	粘性有
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径2mm)3%			しまり有	粘性有
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径3mm)2%	炭化物(径2mm)1%	浮石(径10mm)1%	しまりあまりなし	粘性有
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)2%	浮石(径2mm)1%		しまりやや有	粘性有
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1mm以下)2%			しまりなし	粘性有
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1mm以下)2%	炭化物(径1.5mm)1%		しまりなし	粘性有
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1mm以下)2%			しまりなし	粘性有
第9層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1mm以下)1%	褐色土(10YR4/4)と黒褐色土(10YR2/2)が混合する層		しまり有	粘性有
第10層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径2mm)10%	炭化物(径1mm)1%		しまり有	粘性有
第11層	黄褐色土	10YR5/6	ローム粒(径2mm)15%	炭化物(径4mm)2%		しまり有	粘性有
第12層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径5mm)3%			しまりなし	粘性有
第13層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径2mm)3%	炭化物(径1mm)1%		しまり有	粘性有
第14層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径3mm)2%	L B(径40mm)1個	炭化物(径2mm)1%	しまりなし	粘性有
第15層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径5mm)3%			しまりなし	粘性有
第16層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径10mm)3%			しまりなし	粘性有

柱穴E

第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)5%			しまり有	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~2mm)3%	炭化物(径2mm)1%		しまり有	粘性やや有
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)3%			しまり有	粘性やや有
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)5%	炭化物(径2~3mm)2%		しまり有	粘性やや有
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)7%			しまり有	粘性有
第6層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~8mm)5%			しまり有	粘性やや有
第7層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)3%			しまり有	粘性なし
第8層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~3mm)5%			しまり有	粘性なし
第9層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)3%			しまり有	粘性なし
第10層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)5%			しまり有	粘性やや有
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~7mm)10%	炭化物(径2mm)1%		しまり有	粘性やや有
第12層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)10%	炭化物(径1~2mm)2%		しまり有	粘性やや有
第13層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)3%			しまり有	粘性やや有
第14層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~7mm)10%			しまり有	粘性有
第15層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~3mm)7%			しまり有	粘性やや有

図12 第9号掘立柱建物跡

第10号掘立柱建物跡



第10号掘立柱建物跡

柱穴A

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)3%	小礫(径5mm)1個	しまりなし	粘性有
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径3mm)3%	炭化物(径3mm)1%	しまりなし	粘性有
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ロームとの混合層	黒褐色土10%	しまりなし	粘性有
第4層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径3mm)3%		しまりなし	粘性有
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径4mm)5%	炭化物(径2~4mm)1%	しまりなし	粘性有
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径4mm)5%		しまりなし	粘性有
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径3mm)3%	炭化物(径3mm)1%	しまりなし	粘性有
第8層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径3mm)5%	炭化物(径3mm)1%	しまりなし	粘性有
第9層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径7mm)7%		しまりなし	粘性有
第10層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径13mm)10%		しまりなし	粘性有
第11層	黒褐色土	10YR3/2	ロームとの混合層	小礫(径4mm)1個	しまりなし	粘性有
第12層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径5mm)5%	炭化物(径2~4mm)1%	しまりなし	粘性有
第13層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径7mm)5%		しまりなし	粘性有
第14層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径3mm)3%	炭化物(径1~3mm)1%	しまりなし	粘性有
第15層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径4mm)5%	炭化物(径4mm)1%	しまりなし	粘性有
第16層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径10mm)7%		しまりなし	粘性有

柱穴B

第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1mm)1%	炭化物(径1~10mm)1%	しまりなし	粘性有
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)・LB(径20mm)2%	炭化物(径1~2mm)1%	しまりなし	粘性有
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)2%	炭化物(径1~5mm)2%	しまりなし	粘性有
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)2%	炭化物(径1~5mm)1%	しまりなし	粘性有
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)2%	炭化物(径1~10mm)1%	しまりなし	粘性有
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)2%	炭化物(径1~5mm)2%	しまりなし	粘性有
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10mm)2%	炭化物(径1mm)1%	しまりなし	粘性有
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)2%	炭化物(径1~2mm)1%	しまりなし	粘性有
第9層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)・LB(径20~40mm)3%	炭化物(径1mm)1%	しまりなし	粘性有
第10層	褐色土	10YR4/6	ローム層	黒褐色土ブロック(径1~2mm)1%	しまりなし	粘性有
第11層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)2%	炭化物(径1mm)1%	しまりなし	粘性有
第12層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~15mm)2%	炭化物(径2mm)1%	しまりなし	粘性有

柱穴C

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径2mm)3%	炭化物(径1mm)1%	しまりなし	粘性有
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径2mm)2%	炭化物(径1~3mm)1%	しまりなし	粘性有
第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)3%	炭化物(径1~2mm)2%	しまりなし	粘性有
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)3%	炭化物(径1~3mm)1%	しまりなし	粘性有
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)2%	炭化物(径1mm)2%	しまりなし	粘性有
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)2%	炭化物(径1~5mm)3%	しまりなし	粘性有
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)2%	炭化物(径1~2mm)2%	しまりなし	粘性有
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)2%	炭化物(径1~5mm)3%	しまりなし	粘性有
第9層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~2mm)1%	炭化物(径1~10mm)2%	しまりなし	粘性有
第10層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~2mm)2%	炭化物(径1mm)1%	しまりなし	粘性有
第11層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~2mm)3%	炭化物(径1~2mm)2%	しまりなし	粘性有
第12層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)2%	炭化物(径1mm)1%	しまりなし	粘性有
第13層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~2mm)・LB(径20mm)3%		しまりなし	粘性有
第14層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~2mm)2%	炭化物(径1~2mm)2%	しまりなし	粘性有

柱穴D

第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~2mm)1%	炭化物(径2mm)1%	しまりなし	粘性有
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)2%	炭化物(径1mm)1%	しまりなし	粘性有
第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~10mm)3%	炭化物(径2mm)1%	しまりや有	粘性有
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)2%		しまり有	粘性有
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)2%	炭化物(径1~2mm)2%	しまりなし	粘性有
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)2%	炭化物(径1mm)1%	しまりなし	粘性有
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~7mm)2%	炭化物(径1~3mm)1%	しまりなし	粘性有
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10mm)2%	炭化物(径1~2mm)1%	しまりなし	粘性有
第9層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)2%	炭化物(径1~2mm)2%	しまりなし	粘性有
第10層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~6mm)1%		しまりなし	粘性有
第11層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)2%	炭化物(径1mm)1%	しまり有	粘性有
第12層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~15mm)3%		しまり有	粘性有
第13層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~15mm)5%		しまりや有	粘性有
第14層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)2%	炭化物(径1~2mm)1%	しまりなし	粘性有
第15層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)3%		しまり有	粘性有

図13 第10号掘立柱建物跡

の支柱穴からなる6本柱の掘立柱建物跡と確認された。環状建物跡群の南側に位置する。

〔重複〕遺構自体の重複はみられないが、本遺構の柱穴Bと柱穴Cとの間に、第244号土坑が位置する。掘立柱建物跡としてみた場合は共に存立はできないが、新旧は明かでない。また、本遺構の支柱穴Eと第8号掘立柱建物跡の支柱穴Fとが交差するような状況を示している。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う東西方向の柱穴AB間が4.0m、柱穴CD間が4.25m、円弧に直交する南北方向の柱穴BC間が3.35m、AD間が3.6m、支柱穴間のEF間が7.9mである。4本の支柱穴の平面形は円弧方向の東西にやや長めの方形である。2本の支柱穴は円弧に沿う方向の支柱穴の東西についている。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ63cm×ヨコ65cm×深さ74cm、円形。柱穴Bタテ61cm×ヨコ71cm×深さ74cm、不整形円形。柱穴Cタテ68cm×ヨコ68cm×深さ80cm、円形。柱穴Dタテ50cm×ヨコ50cm×深さ83cm、円形。柱穴Eタテ30cm×ヨコ35cm×深さ49cm、隅丸方形。柱穴Fタテ32cm×ヨコ30cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕柱穴Aは16層に区分された。第1層～第8層が柱痕部と思われる。柱穴Bは26層に区分された。柱痕の位置は、柱穴の西側になるものと思われる。柱穴Cは21層に区分された。第4層～第10層が柱痕部と思われる。柱穴Dは16層に区分された。第1層・第2層・第4層～第10層が柱痕部と思われる。柱穴Eは15層に区分された。東から西に緩やかに傾斜する

〔出土遺物〕柱穴Bから掘立9-1・2、柱穴Cから掘立9-4・5、柱穴Dから掘立9-3が出土している。いずれも縄文土器の破片で、1・4は口縁部破片、他は胴部破片である。時期は第Ⅲ群3類で、縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕支柱穴4本と支柱穴2本からなる6本柱の亀甲形の掘立柱建物跡である。支柱穴の平面形が環状の円弧方向に沿う東西に長めの方形である。西側の支柱穴である柱穴Eの断面では、建物跡から下方に外側へ（東から西へ）傾斜するものと思われる。時期は出土遺物からみて縄文時代後期後葉と思われる。

#### 第10号掘立柱建物跡（図13・32、写真5～7）

〔位置・確認〕XⅡI・J-223・224グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本の支柱穴からなる4本柱の掘立柱建物跡と確認された。環状建物跡群の南側に位置する。

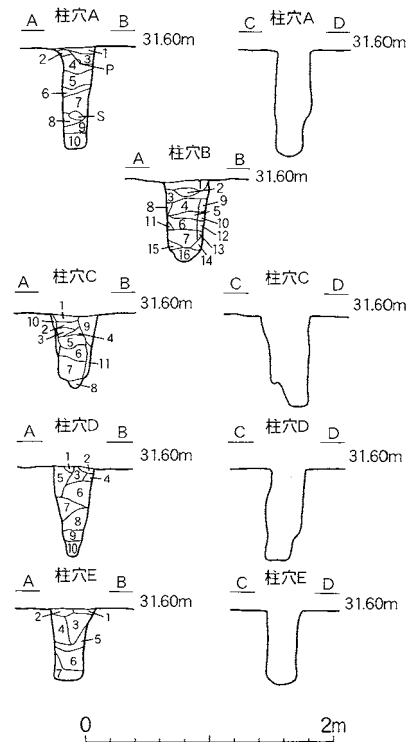
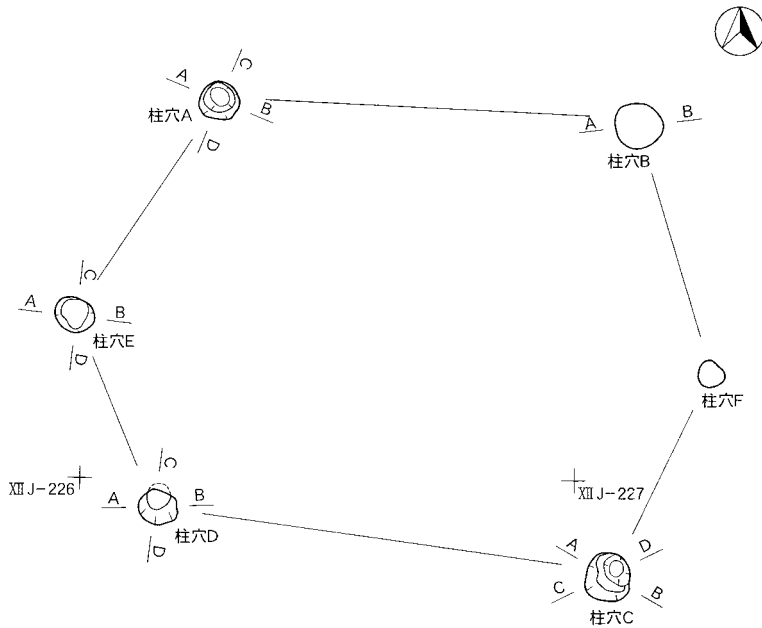
〔重複〕なし。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う東西方向の柱穴AB間が3.1m、柱穴CD間が3.37m、円弧に直交する南北方向の柱穴BC間が2.95m、AD間が3.25mである。4本の支柱穴の平面形は円弧方向の東西に長めの方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ45cm×ヨコ50cm×深さ68cm、円形。柱穴Bタテ50cm×ヨコ43cm×深さ70cm、円形。柱穴Cタテ51cm×ヨコ46cm×深さ61cm、円形。柱穴Dタテ60cm×ヨコ66cm×深さ55cm、不整形円形。

〔柱穴の堆積土〕柱穴Aは16層に区分された。第1層～第8層が柱痕部と思われる。幅は20cm。柱穴Bは12層に区分された。柱痕部は第1層～第6層が柱痕部と思われる。幅25cm～30cm。柱穴Cは14層に区分された。柱穴Dは15層に区分された。第7層～第10層が柱痕部と思われる。

第11号掘立柱建物跡



第11号掘立柱建物跡

柱穴A

第1層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1mm以下)7%	しまり有	粘性有	
第2層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径3mm)7% 炭化物(径1mm以下)2%	しまり有	粘性有	
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径2mm)5%	しまり有	粘性有	
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径2mm)5% 炭化物(径2mm)1% 浮石(径2mm)1%	しまり有	粘性有	
第5層	黒褐色土	10YR2/2	L.B(径30mm)5%	ローム粒も含む	しまりあまりなし	粘性有
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)、L.B(径30mm)5%	しまりあまりなし	粘性有	
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)3%	しまりあまりなし	粘性有	
第8層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径5mm)3% L.B(径30mm)1%	しまりやや有	粘性有	
第9層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5mm)2%	しまりやや有	粘性有	
第10層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径5mm)1% L.B(径40mm)1%	しまりやや有	粘性有	

柱穴B

第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)7% 炭化物(径2~3mm)1% 浮石(径2~5mm)1%	しまり有	粘性ほとんどなし	
第2層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)5% L.B(径5mm)1% 炭化物(径2~4mm)1% 浮石(径2~3mm)1%	しまり有	粘性やや有	
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~10mm)3% L.B(径10~15mm)1% 炭化物(径2~3mm)1%	しまり有	粘性やや有	
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)2%	しまり有	粘性やや有	
第5層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~10mm)5% 炭化物(径2~4mm)1% 浮石(径6mm)1%	しまり有	粘性やや有	
第6層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)2% 浮石(径1~2mm)1%	しまり有	粘性やや有	
第7層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~10mm)2% L.B(径10~15mm)2% 炭化物(径2~3mm)1% 小礫(径4mm)1%	しまり有	粘性やや有	
第8層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~10mm)3% 炭化物(径2~3mm)1%	しまり有	粘性やや有	
第9層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)3% 炭化物(径2~3mm)1%	しまり有	粘性やや有	
第10層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~3mm)2%	しまり有	粘性やや有	
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10mm)3%	しまり有	粘性やや有	
第12層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~10mm)5%	しまり有	粘性やや有	
第13層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)1%	しまり有	粘性やや有	
第14層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径2~8mm)3% 炭化物(径2~3mm)1%	しまり有	粘性やや有	
第15層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)2% 炭化物(径2~3mm)1% 浮石(径2~4mm)1%	しまり有	粘性やや有	
第16層	黒褐色土	10YR2/2	ローム層	ローム40%	炭化物(径2~4mm)1% しまり有	粘性やや有

柱穴C

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~10mm)7% 炭化物(径1~2mm)1%	しまり有	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)7%	しまり有	粘性なし
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~2mm)7%	しまり有	粘性なし
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)5%	しまり有	粘性なし
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~10mm)7% 焼土粒(径1mm)1%	しまり有	粘性なし
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)5% 炭化物(径1~2mm)1%	しまり有	粘性なし
第7層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)5% 炭化物(径1~2mm)2%	しまり有	粘性やや有
第8層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1mm)3%	しまり有	粘性なし
第9層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~5mm)20% L.B(径5~30mm)15% 炭化物(径2mm)2%	しまり有	粘性なし
第10層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~5mm)30% 炭化物(径1~2mm)1%	しまり有	粘性なし
第11層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~3mm)5% 炭化物(径1mm)1%	しまり有	粘性やや有

柱穴D

第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~2mm)7% 炭化物(径2mm)1%	しまり有	粘性なし
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)7%	しまり有	粘性なし
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)10%	しまり有	粘性やや有
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)7%	しまり有	粘性やや有
第5層	褐色土	10YR4/4	ローム粒(径1~3mm)7% L.B(径5~30mm)5%	しまり有	粘性やや有
第6層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒(径1~3mm)5% 炭化物(径2mm)1%	しまり有	粘性有
第7層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~2mm)3%	しまり有	粘性やや有
第8層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~2mm)2%	しまり有	粘性有
第9層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~2mm)2% 焼土粒(径1~2mm)1%	しまり有	粘性有
第10層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)2%	しまり有	粘性有

柱穴E

第1層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒(径1~2mm)5% 炭化物(径1~2mm)1% 浮石(径2~3mm)3%	しまり有	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~2mm)5% L.B(径20mm)1% 浮石(径2mm)2%	しまり有	粘性なし
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)7% 炭化物(径1~5mm)2%	しまり有	粘性やや有
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)7% L.B(径5~15mm)2% 炭化物(径1~5mm)2%	しまり有	粘性なし
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)7%	しまり有	粘性やや有
第6層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~2mm)2%	しまり有	粘性やや有
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)1%	しまり有	粘性やや有

図14 第11号掘立柱建物跡

〔出土遺物〕柱穴Dから掘立10-1が出土している。縄文土器の底部破片で、縄文時代後期に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕4本柱の掘立柱建物跡である。主柱穴の平面形が環状の円弧方向に沿う東西に長めの方形である。環状の南側にあり、環状の円周よりずれて南側に飛び出しており、最も南に位置している。時期は出土遺物からみて縄文時代後期と思われるが、他の掘立柱建物跡の例から後葉のころの可能性が高い。

#### 第11号掘立柱建物跡（図14・32、写真7・21）

〔位置・確認〕XⅡJ-226・227グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本の主柱穴と2本の支柱穴からなる6本柱の掘立柱建物跡と確認された。環状建物跡群の南側に位置する。なお、柱穴Bの北半分と柱穴Eは未調査である。

〔重複〕なし。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う東西方向の柱穴A B間が3.4m、柱穴C D間が3.6m、円弧に直交する南北方向の柱穴B C間が3.55m、A D間が3.3m、支柱穴間の柱穴E F間は5.5mである。4本の主柱穴の平面形は少しゆがんだ正方形に近いものである。支柱穴は円弧方向の東西にみられる。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ31cm×ヨコ32cm×深さ82cm、円形。柱穴Bタテ37cm×ヨコ39cm×深さ65cm、円形。柱穴Cタテ39cm×ヨコ36cm×深さ70cm、円形。柱穴Dタテ29cm×ヨコ30cm×深さ72cm、円形。柱穴Eタテ30cm×ヨコ32cm×深さ58cm、円形。柱穴Fタテ22cm×ヨコ22cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕柱穴Aは10層に区分された。柱穴Bは16層に区分された。柱穴Cは11層に区分された。柱穴Dは10層に区分された。柱穴Eは7層に区分された。

〔出土遺物〕柱穴Dから掘立11-1が出土した。縄文土器の胴部破片で、縄文時代後期に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕主柱穴4本と支柱穴2本からなる6本柱の掘立柱建物跡である。全体に小規模な柱穴である。西側の支柱穴は直立するものである。環状の南側にあり、環状の円周よりずれて南側に飛び出しており、最も南に位置している。時期は出土遺物からみて縄文時代後期と思われるが他の掘立柱建物跡の例から後葉のころの可能性が高い。

#### 第12号掘立柱建物跡（図15・32、写真8・21）

〔位置・確認〕XⅡL-227・228グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、掘立柱建物跡の柱穴であることが判明した。組み合わせてみたが、主柱穴4本の内、柱穴Aが検出されず、また、支柱穴2本の内、柱穴Eが検出されなかったが、本来は6本柱の掘立柱建物跡と思われる。環状の南側に位置する。

〔重複〕明かな重複はみられないが、第9号掘立柱建物跡と第13号掘立柱建物跡に極めて近接し、特に第13号掘立柱建物跡の柱穴Eと本遺構の柱穴Bは隣接している。

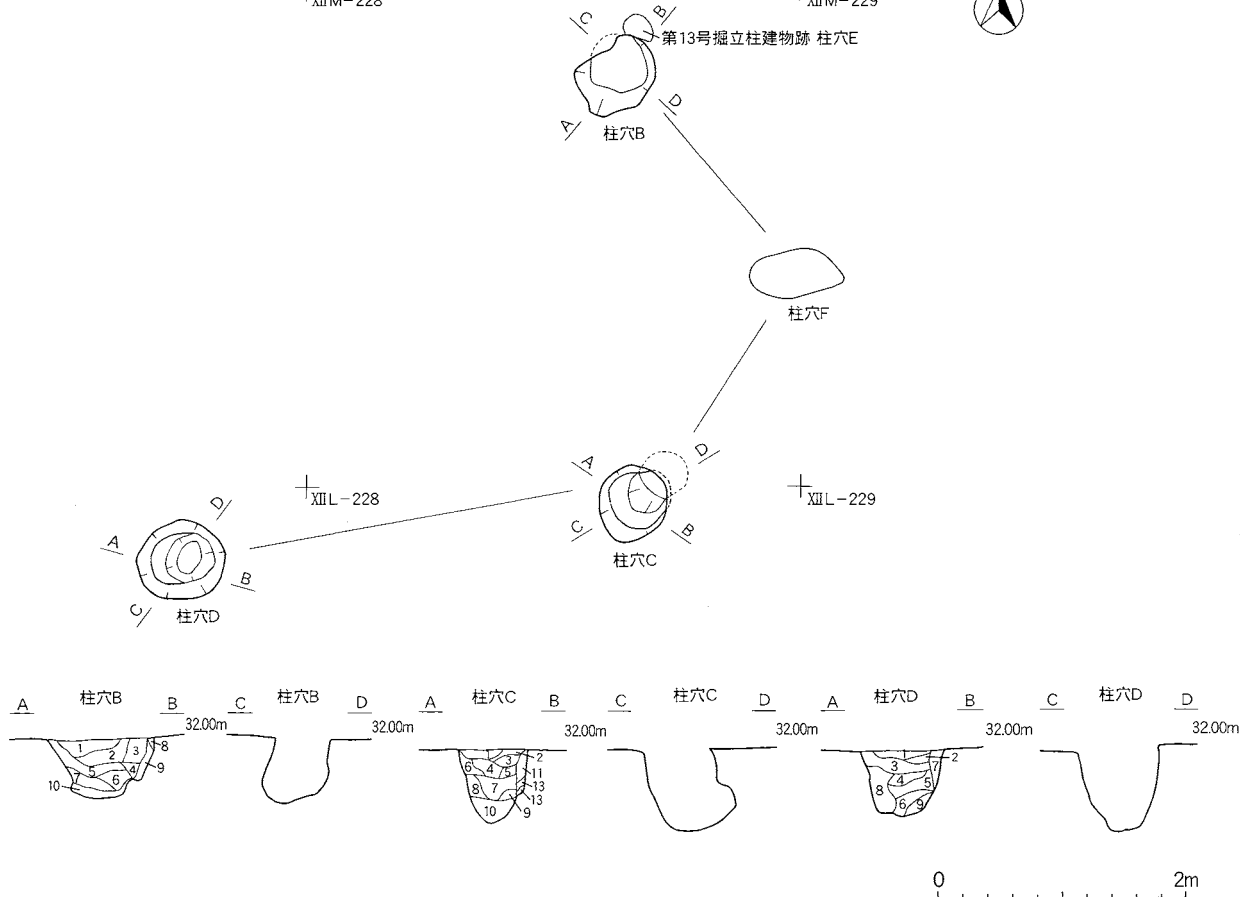
〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う東西方向の柱穴C D間が3.7m、円弧に



第12号掘立柱建物跡

XII M-228

XII M-229



第12号掘立柱建物跡

柱穴B

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径0.5~4mm)1% 炭化物(径1mm)1% 浮石(径3mm)1% しまり有 粘性なし
- 第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径0.5~2mm)1% L B(径30mm)1% 炭化物(径1~5mm)1% しまり有 粘性なし
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.5~6mm)1% 炭化物(径1~5mm)1% 焼土粒(径1mm)1% しまり有 粘性なし
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)2% L B(径10~20mm)1% しまり有 粘性なし
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径0.5~5mm)1% 炭化物(径1~2mm)1% しまり有 粘性なし
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.5~10mm)1% 炭化物(径1~6mm)1% しまり有 粘性なし
- 第7層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.5~15mm)1% 炭化物(径1mm)1% しまり有 粘性なし
- 第8層 暗褐色土 10YR3/4 ローム層 浮石(径5mm)1% しまり有 粘性なし
- 第9層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.5~10mm)2% L B(径15~20mm)1% 黒色土ブロック(10YR2/1 径10~20mm)1% しまり有 粘性なし
- 第10層 にぶい黄褐色土 10YR5/3 ローム層 しまり有 粘性有

柱穴C

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~5mm大)5% 炭化物(径1mm)1% しまり有 粘性なし
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~3mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~5mm)3% 炭化物(径1~3mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第4層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~10mm)10% 炭化物(径1~2mm)5% しまり有 粘性なし
- 第5層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~5mm)5% L B(径50mm大)1個 炭化物(径1~5mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第6層 褐色土 10YR4/4 ローム主体層 しまり有 粘性有
- 第7層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~3mm)20% 炭化物(径1~5mm大)5% しまり有 粘性やや有
- 第8層 暗褐色土 10YR3/4 ローム層 しまり有 粘性やや有
- 第9層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~5mm)3% 炭化物(径2~5mm)2% しまりやや有 粘性なし
- 第10層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒(径1~10mm)10% L B(径20~70mm大)15% 炭化物(径2~5mm)7% しまり有 粘性なし
- 第11層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒(径1~3mm)1% しまり有 粘性有
- 第12層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(径1~10mm)5% L B(径20~30mm大)40% しまり有 粘性あまりなし
- 第13層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1mm以下)1% しまり有 粘性やや有

柱穴D

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~3mm)1% 炭化物(径1~5mm)1% 焼土粒(径1mm)1% 浮石(径1~3mm)1% しまり有 粘性なし
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム3% 炭化物(径1mm)1% 浮石(径2mm)1% しまり有 粘性なし
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~10mm)2% 炭化物(径1~5mm)1% 焼土粒(径1~3mm)1% 浮石(径3~5mm)1% しまり有 粘性なし
- 第4層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~5mm)1% 炭化物(径1~3mm)1% 焼土粒(径1~3mm)1% しまり有 粘性なし
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~12mm)2% 炭化物(径1~6mm)1% 焼土粒(径1~5mm)1% しまり有 粘性なし
- 第6層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~5mm)1% 炭化物(径1~10mm)1% 焼土粒(径1mm)1% しまり有 粘性なし
- 第7層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(全体に混じる)10% 炭化物(径2~10mm)1% 浮石(径1~2mm)1% しまり有 粘性なし
- 第8層 黒褐色土 10YR2/3 ローム7% 炭化物(径2~10mm)1% 焼土粒(径2mm)1% しまり有 粘性なし
- 第9層 黒褐色土 10YR3/2 L B(径10~30mm)1% 炭化物(径2~3mm)1% しまり有 粘性やや有

図15 第12号掘立柱建物跡

直交する南北方向の柱穴B C間が3.5mの方形である。数値的にみると、円弧方向に僅かに長めの方形となるものと思われる。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Bタテ51cm×ヨコ66cm×深さ47cm、不整形円形。柱穴Cタテ57cm×ヨコ56cm×深さ58cm、円形。柱穴Dタテ65cm×ヨコ71cm×深さ65cm、円形。柱穴Fタテ37cm×ヨコ76cm、楕円形。

〔柱穴の堆積土〕柱穴Bは10層に区分された。柱穴Cは13層に区分された。柱穴Dは9層に区分された。

〔出土遺物〕柱穴Cから掘立12-1、柱穴Dから掘立12-2が出土した。いずれも縄文土器の破片で、1は底部破片、2は胴部破片である。時期は第Ⅲ群3類で、縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕本来は6本柱の平面形が亀甲形をなす掘立柱建物跡と思われるが、柱穴AとEに相当する北西側の支柱穴と西側の支柱穴が不明なものである。時期は出土遺物からみて縄文時代後期後葉と思われる。

#### 第13号掘立柱建物跡（図16・32、写真8・9・21）

〔位置・確認〕XⅡL・M-228~230グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本柱の支柱穴と2本の支柱穴からなる6本柱の掘立柱建物跡であることが判明した。環状の南側に位置する。

〔重複〕明かな重複はみられないが、本遺構の西側の支柱穴である柱穴Eと第12号掘立柱建物跡の柱穴Bとが隣接している。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う東西方向の柱穴A B間は4.0m柱穴、C D間が3.8m、円弧に直交する南北方向の柱穴B C間が3.6m、柱穴A D間が3.55m、支柱穴E F間は8.2mである。円弧方向に僅かに長めの方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ56cm×ヨコ50cm×深さ82cm、円形。柱穴Bタテ55cm×ヨコ50cm×深さ47cm、円形。柱穴Cタテ58cm×ヨコ58cm×深さ42cm、円形。柱穴Dタテ50cm×ヨコ47cm×深さ70cm、円形。柱穴Eタテ22cm×ヨコ23cm×深さ56cm、円形。柱穴Fタテ37cm×ヨコ36cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕柱穴Aは9層に区分された。柱穴Bは12層に区分された。第1層から第6層が柱痕部の堆積土と考えられる。幅は25cm程度と思われる。柱穴Cは15層に区分された。第1層~第8層が柱痕部に相当すると考えられる。幅は30cm以内と思われる。柱穴Dは14層に区分された。第1層~第8層が柱痕部に相当するものと考えられる。幅は30cm以内と思われる。

〔出土遺物〕柱穴Aから掘立13-1、柱穴Cから掘立13-2が出土した。いずれも縄文土器の破片で、1は口縁部破片、2は胴部破片である。時期は第Ⅲ群3類で、縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕支柱穴4本と支柱穴2本からなる平面形が亀甲形をなす6本柱の掘立柱建物跡と思われる。支柱穴は環状の円弧方向に長めの方形を呈し、支柱穴は環状の円弧方向の東西につくものである。時期は出土遺物からみて縄文時代後期後葉と思われる。

#### 第14号掘立柱建物跡（図17・32・33、写真9・21）

〔位置・確認〕 XⅡM・N-230～232グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本柱の支柱穴と2本の支柱穴からなる6本柱の掘立柱建物跡であることが判明した。環状の南側に位置する。

〔重複〕 なし

〔建物跡の平面形・規模〕 環状建物跡群の環状の円弧に沿う東西方向の柱穴A B間は4.15m、柱穴C D間が4.05m、円弧に直交する南北方向の柱穴B C間が3.3m、柱穴A D間が3.6m、支柱穴E F間は6.8mである。円弧方向に長めの方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕 柱穴Aタテ56cm×ヨコ52cm×深さ76cm、やや不整な円形。柱穴Bタテ57cm×ヨコ55cm×深さ80cm、円形。柱穴Cタテ45cm×ヨコ46cm×深さ73cm、円形。柱穴Dタテ52cm×ヨコ50cm×深さ72cm、円形。柱穴Eタテ36cm×ヨコ36cm、円形。柱穴Fタテ30cm×ヨコ30cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕 柱穴Aは20層に区分された。セクション図のやや右寄りに幅20cm程の柱痕部がみられる。柱穴Bは13層に区分された。第1層～第5層が柱痕部と思われる。幅は20cm前後である。柱穴Cは8層に区分された。柱穴Dは29層に区分された。

〔出土遺物〕 柱穴Bから掘立14-1～5、柱穴Cから掘立14-6～8、柱穴Dから掘立14-S1が出土している。土器はいずれも縄文土器の破片で、1・7は口縁部破片、他は胴部破片である。時期は第Ⅲ群3類の、縄文時代後期後葉に位置づけられるものが多い。

〔小結〕 4本の支柱穴と2本の支柱穴からなる6本柱の掘立柱建物跡である。環状の円弧方向に長めの方形に東西方向に支柱穴のついた亀甲形の掘立柱建物跡。柱痕は径約20cmで、やや小規模なものと思われる。時期は出土遺物からみて縄文時代後期後葉と思われる。

#### 第15号掘立柱建物跡（図18・33、写真9・10・21・22）

〔位置・確認〕 XⅡO・P-232・233グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本柱の支柱穴からなる4本柱の掘立柱建物跡であることが判明した。環状の南東側に位置する。

〔重複〕 なし

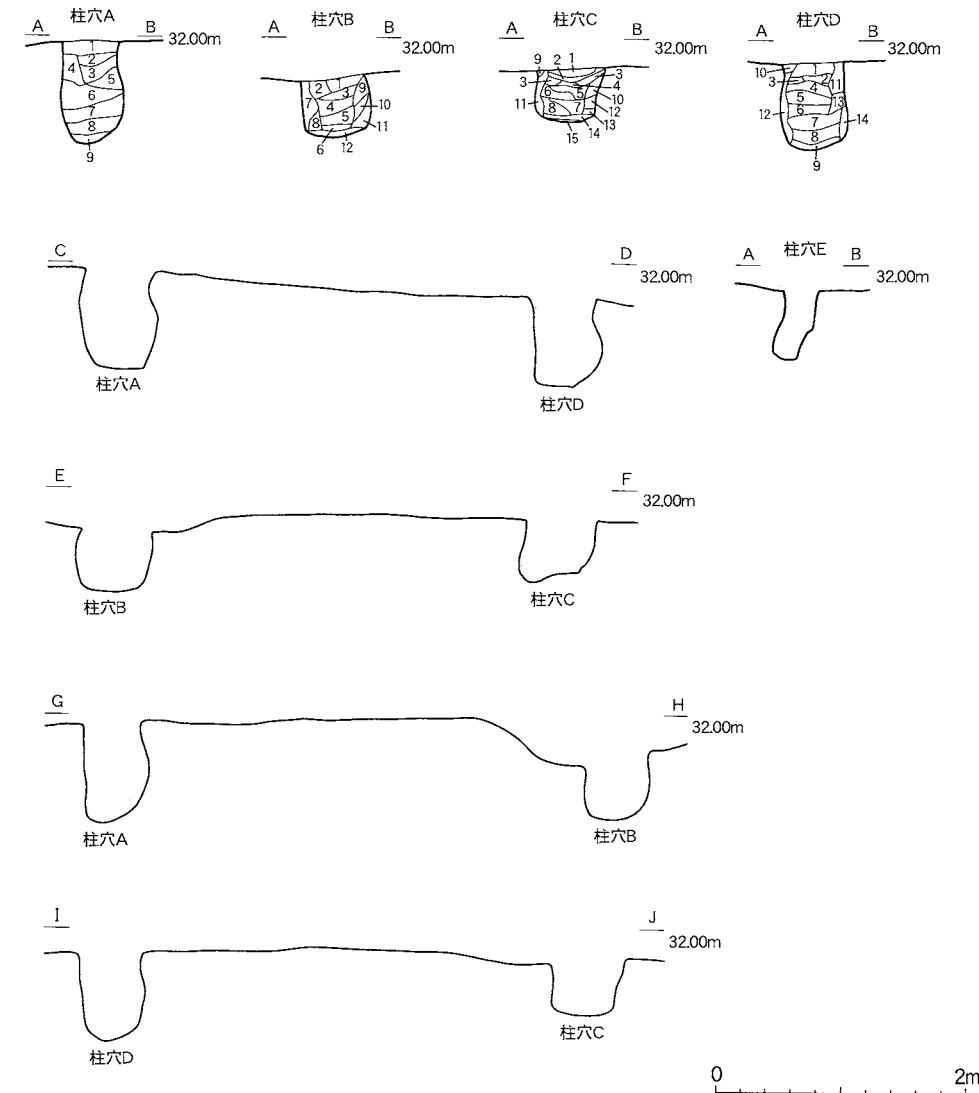
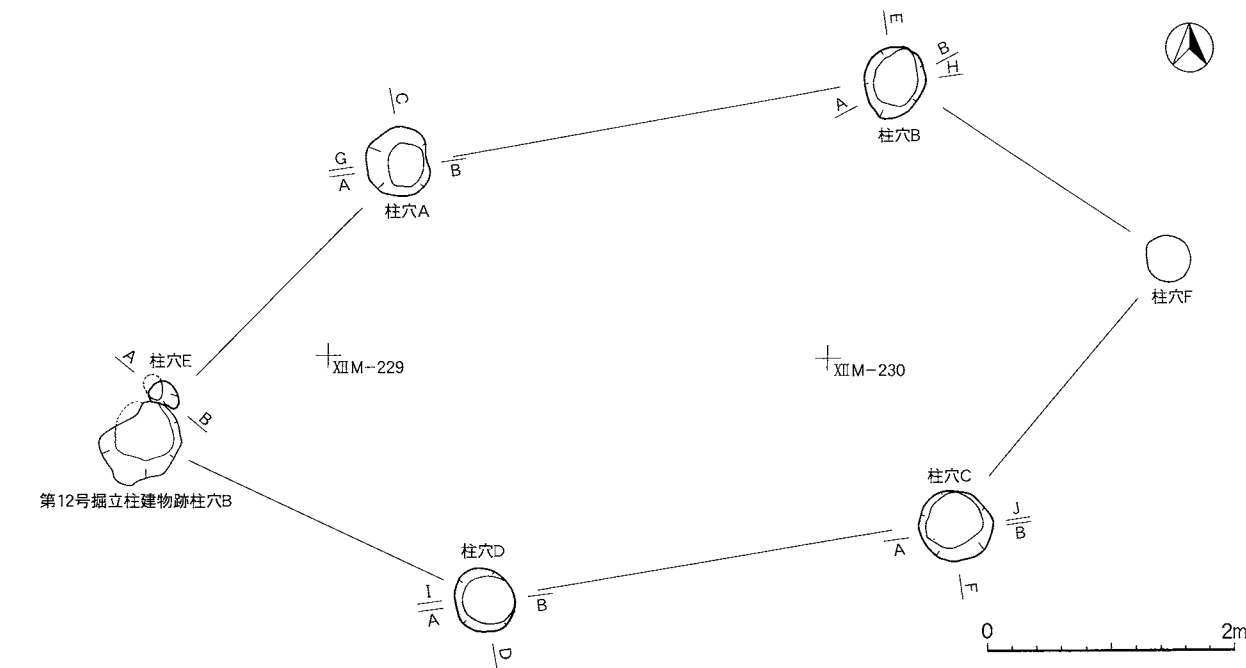
〔建物跡の平面形・規模〕 環状建物跡群の環状の円弧に沿う北東から南西方向の柱穴A B間は5.0m、柱穴C D間が4.9m、円弧に直交する北西から南東方向の柱穴B C間が4.5m、柱穴A D間が4.4mである。円弧方向に長めの方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕 柱穴Aタテ85cm×ヨコ95cm×深さ105cm、円形。柱穴Bタテ95cm×ヨコ85cm×深さ113cm、円形。柱穴Cタテ115cm×ヨコ115cm×深さ109cm、円形。柱穴Dタテ86cm×ヨコ93cm×深さ102cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕 柱穴Aは24層に区分された。中程の第7層・第8層の柱痕部と思われる幅は35cm程度と思われる。柱穴Bは21層に区分された。柱痕部は幅40cm程度と思われる。柱穴Cは23層に区分された。第1層～第8層が柱痕部と思われる。幅は30cmから40cmと思われる。柱穴Dは24層に区分された。中央部に柱痕が認められるが明確ではない。

〔出土遺物〕 柱穴Aから掘立15-1～12・S1、柱穴Bから掘立15-13～15、柱穴Cから掘立15-16・17・S2、柱穴Dから掘立15-18が出土している。いずれも縄文土器の破片で、1～4・

第13号掘立柱建物跡



第13号掘立柱建物跡

柱穴A

第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)15%	焼土粒(径1~3mm)2%	しまり有	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)7%		しまり有	粘性なし
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)10%	炭化物(径2mm)2%	しまり有	粘性やや有
第4層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~8mm)15%	炭化物(径2mm)1%	しまり有	粘性やや有
第5層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)7%		しまり有	粘性有
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~2mm)3%		しまり有	粘性有
第7層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~2mm)2%		しまり有	粘性やや有
第8層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~2mm)2%	焼土粒(径3mm)1%	しまり有	粘性やや有
第9層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~2mm)2%	L B(にぶい黄褐色土 10YR6/3)3%	しまり有	粘性有

柱穴B

第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径3mm)5%	炭化物粒(径5mm)5%	密度密	粘性有	
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径5mm)20%		密度中	粘性有	
第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径10mm)7%		密度やや密	粘性有	
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径2mm)1%		密度中	粘性極めて有	
第5層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径3mm)10%		密度やや密	粘性極めて有	
第6層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径10mm)2%		密度やや密	粘性極めて有	
第7層	黄褐色ローム(10YR5/6)60%	黒褐色土(10YR3/2)40%	の混合土 不均一で部分的にロームが集中する				密度中 粘性極めて有
第8層	第7層に似てゐるが混入状況が均一 酸化鉄粒(径5mm)1%						密度密 粘性極めて有
第9層	黄褐色ローム(10YR5/6)50%	黒褐色土(10YR2/2)50%	ほぼ均一に混入				密度やや粗 粘性有
第10層	第9層と同じ						密度密 粘性有
第11層	明黄褐色ローム	10YR6/6	密度やや密				粘性極めて有
第12層	暗褐色土	10YR3/3	明褐色酸化鉄(7.5YR5/6)の層を中央に挟む(この堆積は後の水成堆積と考えられる)				密度極めて密 粘性極めて有
第1層~第6層	柱部分覆土						
第7層~第12層	構築の際の裏込土(人為堆積)						

柱穴C

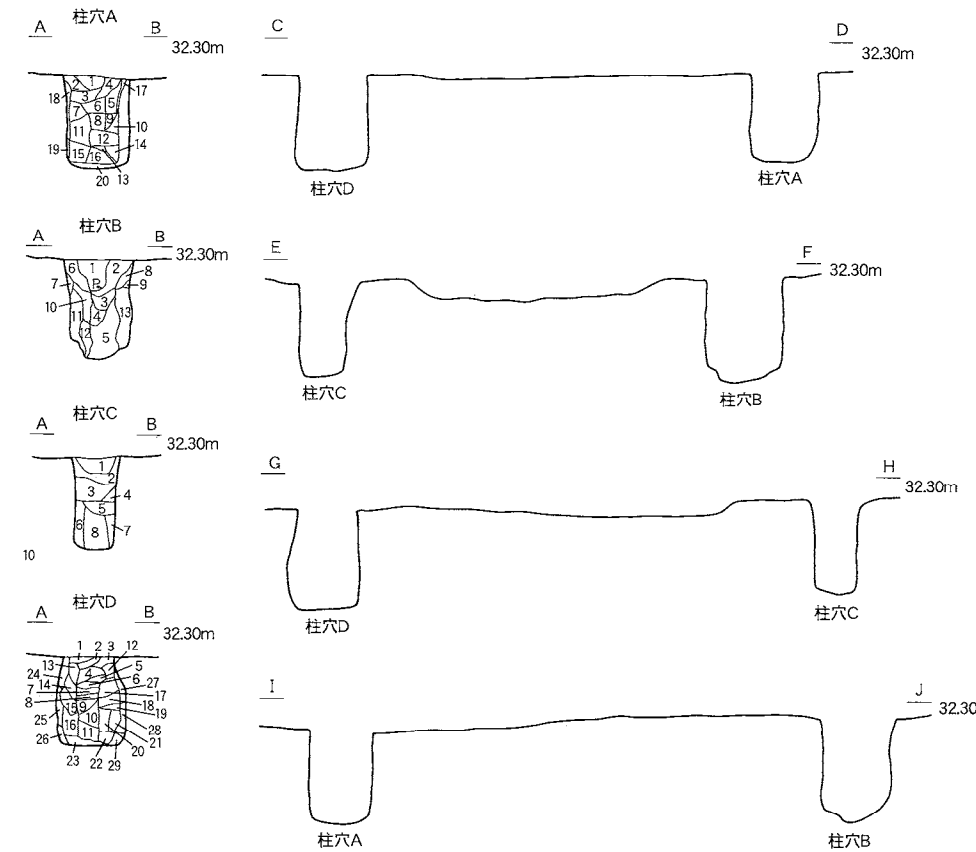
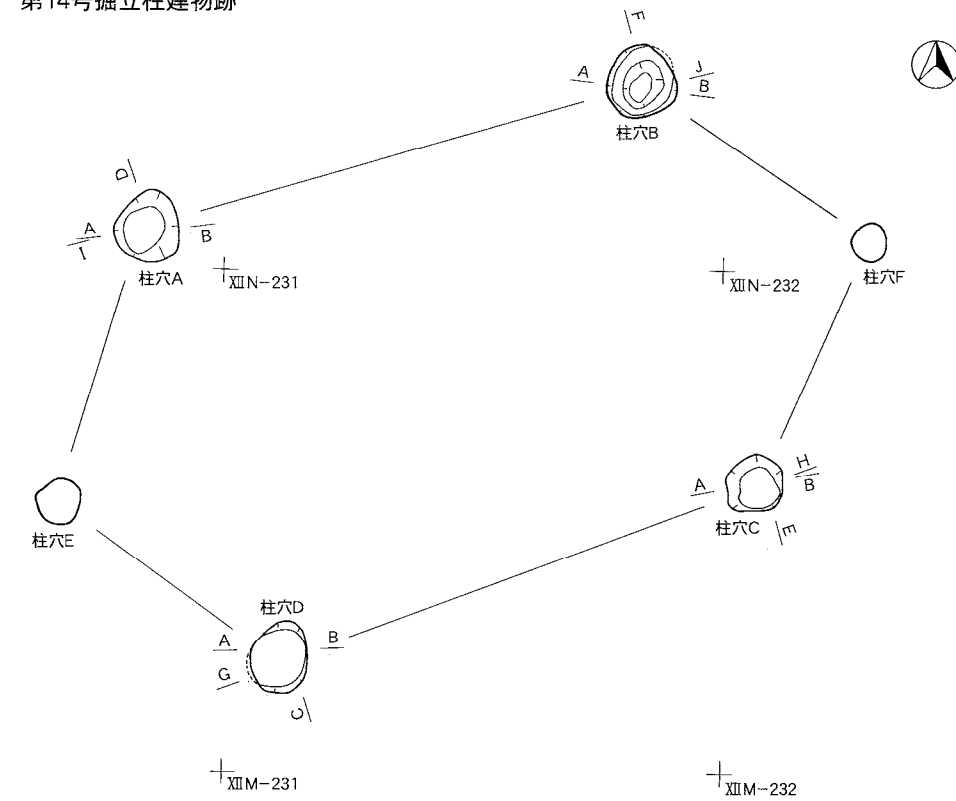
第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)7%	しまり有	粘性やや有	
第2層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~5mm)7%	しまり有	粘性やや有	
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)15%	炭化物(径1~3mm)2%	しまり有 粘性なし	
第4層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~2mm)3%	しまり有	粘性やや有	
第5層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~7mm)10%	しまり有	粘性やや有	
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)3%	焼土粒(径2mm)1%	しまり有 粘性やや有	
第7層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)5%	L B(径20mm)1%	炭化物(径2mm)2%	しまり有 粘性有
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)7%	炭化物(径1~3mm)2%	しまり有 粘性有	
第9層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~3mm)10%	炭化物(径1~2mm)2%	しまり有 粘性なし	
第10層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~8mm)15%	炭化物(径2mm)1%	しまり有 粘性やや有	
第11層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~5mm)15%	しまり有	粘性やや有	
第12層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)5%	しまり有	粘性やや有	
第13層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~10mm)7%	しまり有	粘性有	
第14層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~2mm)5%	しまり有	粘性有	
第15層	黒褐色土	10YR3/2	L B(にぶい黄褐色土 10YR7/4)5%	しまり有	粘性有	

柱穴D

第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)7%	炭化物(径1~3mm)3%	焼土粒(径1~3mm)5%	しまり有 粘性なし	
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~2mm)5%	焼土粒(径1~3mm)3%	しまり有	粘性なし	
第3層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~5mm)20%	しまり有	粘性やや有		
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)5%	焼土粒(径1~2mm)2%	しまり有 粘性やや有		
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)7%	しまり有	粘性有		
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~7mm)7%	しまり有	粘性やや有		
第7層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)7%	しまり有	粘性有		
第8層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)7%	炭化物(径2~3mm)2%	焼土粒(径2mm)1%		
第9層	にぶい黄褐色土(10YR6/3)のロームと、黒色土(10YR1.7/1)の混合土 ローム粒(径1~7mm)5%						しまり有 粘性有
第10層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~3mm)15%	しまり有	粘性なし		
第11層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~3mm)15%	しまり有	粘性なし		
第12層	黄褐色土	10YR5/6	ローム層				しまり有 粘性有
第13層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~8mm)20%	焼土粒(径1~3mm)2%	しまり有	粘性有	
第14層	にぶい黄褐色土 10YR6/4 ローム層						しまり有 粘性有

図16 第13号掘立柱建物跡

第14号掘立柱建物跡



第14号掘立柱建物跡

柱穴A

第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~20mm)5%	しまり有	粘性なし
第2層	褐色土	10YR4/4	ローム粒(径1~2mm)10%	L B(径30mm)1個	しまり有 粘性やや有
第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)20%	しまり有	粘性なし
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~20mm)15%	炭化物(径1~2mm大)5%	しまり有 粘性やや有
第5層	褐色土	10YR4/6	ローム層	しまり有	粘性有
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)2%	炭化物(径1mm大)1%	しまり有 粘性有
第7層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~10mm)7%	しまり有	粘性やや有
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)2%	しまり有	粘性やや有
第9層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~7mm)15%	炭化物(径1mm大)5%	しまり有 粘性やや有
第10層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~10mm)10%	しまり有	粘性やや有
第11層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~20mm)15%	L B(径25mm大)2個	しまり有 粘性やや有
第12層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10mm)10%	炭化物(径1~5mm大)10%	しまり有 粘性なし
第13層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)5%	炭化物(径1mm大)3%	しまり有 粘性あまりなし
第14層	褐色土(10YR4/4)と、ローム(10YR4/6)との混泥土		炭化物(径1mm大)1%	しまり有	粘性やや有
第15層	褐色土	10YR4/4	ローム層	しまり有	粘性やや有
第16層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm大)3%	しまり有	粘性やや有
第17層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm大)20%	炭化物(径1~2mm)1%	しまり有 粘性なし
第18層	褐色土	10YR4/6	ローム層	しまり有	粘性やや有
第19層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム層	しまり有	粘性やや有
第20層	にぶい黄褐色土	10YR6/3と、黒色土 10YR2/1の混泥土	ローム層	しまり有	粘性有

柱穴B

第1層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒(径0.5~4mm)1%	しまりあまりなし	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径0.5~10mm)3%	しまり有	粘性なし
第3層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径0.5~5mm)1%	しまりあまりなし	粘性有
第4層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒(径0.5~5mm)1%	しまりあまりなし	粘性有
第5層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径0.5~20mm)2%	しまりあまりなし	粘性有
第6層	黒褐色土	10YR3/2	ローム20%(層全体に混じっている)	しまり有	粘性なし
第7層	暗褐色土	10YR3/2	ローム層	ローム30%	しまり有 粘性なし
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径0.5~15mm)10%	しまり有	粘性なし
第9層	黒褐色土	10YR3/1	ローム25%	しまり有	粘性なし
第10層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒(径0.5~15mm)3%	しまりあまりなし	粘性有
第11層	黒色土	10YR2/1	L B(径20~50mm)5%	しまりあまりなし	粘性有
第12層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径0.5~20mm)5%	しまりあまりなし	粘性有
第13層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径0.5~20mm)7%	しまりやや有	粘性やや有

柱穴C

第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~10mm)3%	小礫(径10mm)2個	しまり有 粘性なし	
第2層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~10mm)10%	L B(径20~30mm)3個	小礫(径5mm)5%	しまり有 粘性やや有
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2~5mm)2%	小礫(径5~10mm)3個	しまり有	粘性有
第4層	黒褐色土	10YR3/2	L B(径20mm)2%	しまり有	粘性有	
第5層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径2~3mm)2%	しまり有	粘性有	
第6層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~3mm)2%	しまり有	粘性有	
第7層	暗褐色土	10YR3/4	L B(径20~40mm)20%	しまり有	粘性有	
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)2%	しまり有	粘性有	

柱穴D

第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~10mm)2%	小礫(径3~5mm)1%	しまりやや有	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)5%	焼土粒(径2mm)1%	しまり有	粘性なし
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)5%	焼土粒(径1mm)1%	しまり有	粘性なし
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)1%	L B(径10~15mm)1%	小礫(径4mm)1%	しまり有 粘性なし
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)1%	L B(径20mm)1%	炭化物(径5mm)1%	しまり有 粘性なし
第6層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~5mm)1%	炭化物(径5mm)1%	しまりやや有	粘性やや有
第7層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~10mm)2%	炭化物(径4mm)1%	しまり有	粘性やや有
第8層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径2~10mm)3%	炭化物(径3~5mm)1%	しまり有	粘性やや有
第9層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径2~4mm)1%	中礫(径15mm)1%	しまり有	粘性やや有
第10層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~5mm)2%	小礫(径4mm)1%	しまりやや有	粘性やや有
第11層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~10mm)3%	中礫(径20mm)1%	しまりやや有	粘性やや有
第12層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム層	黒褐色土(10YR2/2)5%	しまり有	粘性なし
第13層	褐色土	10YR4/4	ローム層	黒褐色土(10YR2/2)3%	しまり有	粘性なし
第14層	褐色土	10YR4/6	ローム層	黒褐色土(10YR2/2)3%	しまり有	粘性やや有
第15層	黒色土	10YR2/1	L B(径10~20mm)5%	しまり有	粘性やや有	
第16層	黒色土	10YR2/1	ローム10%	しまり有	粘性やや有	
第17層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径2~7mm)5%	炭化物(径2~3mm)1%	小礫(径6mm)1個	しまり有 粘性なし
第18層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径2~10mm)7%	しまり有	粘性やや有	
第19層	褐色土	10YR4/4	黒色土(10YR2/1)10%	しまりやや有	粘性やや有	
第20層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径3~10mm)2%	しまり有	粘性やや有	
第21層	黒褐色土	10YR2/3	L B(径10~50mm)10%	しまり有	粘性やや有	
第22層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2~5mm)2%	炭化物(径2~4mm)1%	しまり有	粘性やや有
第23層	黒褐色土	10YR3/1	ローム層	しまり有	粘性やや有	
第24層	褐色土	10YR4/4	ローム層	しまり有	粘性なし	
第25層	褐色土	10YR4/4	ローム層	黒褐色土(10YR3/1)3%	しまり有	粘性やや有
第26層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム層	黒色土(10YR2/1)1%	しまり有	粘性やや有
第27層	褐色土	10YR4/6	ローム層	しまり有	粘性なし	
第28層	褐色土	10YR4/4	ローム層	黒褐色土(10YR3/1)2%	しまり有	粘性やや有
第29層	褐色土	10YR4/4	ローム層	黒褐色土(10YR3/1)5%	しまり有	粘性やや有

図17 第14号掘立柱建物跡

第15号掘立柱建物跡

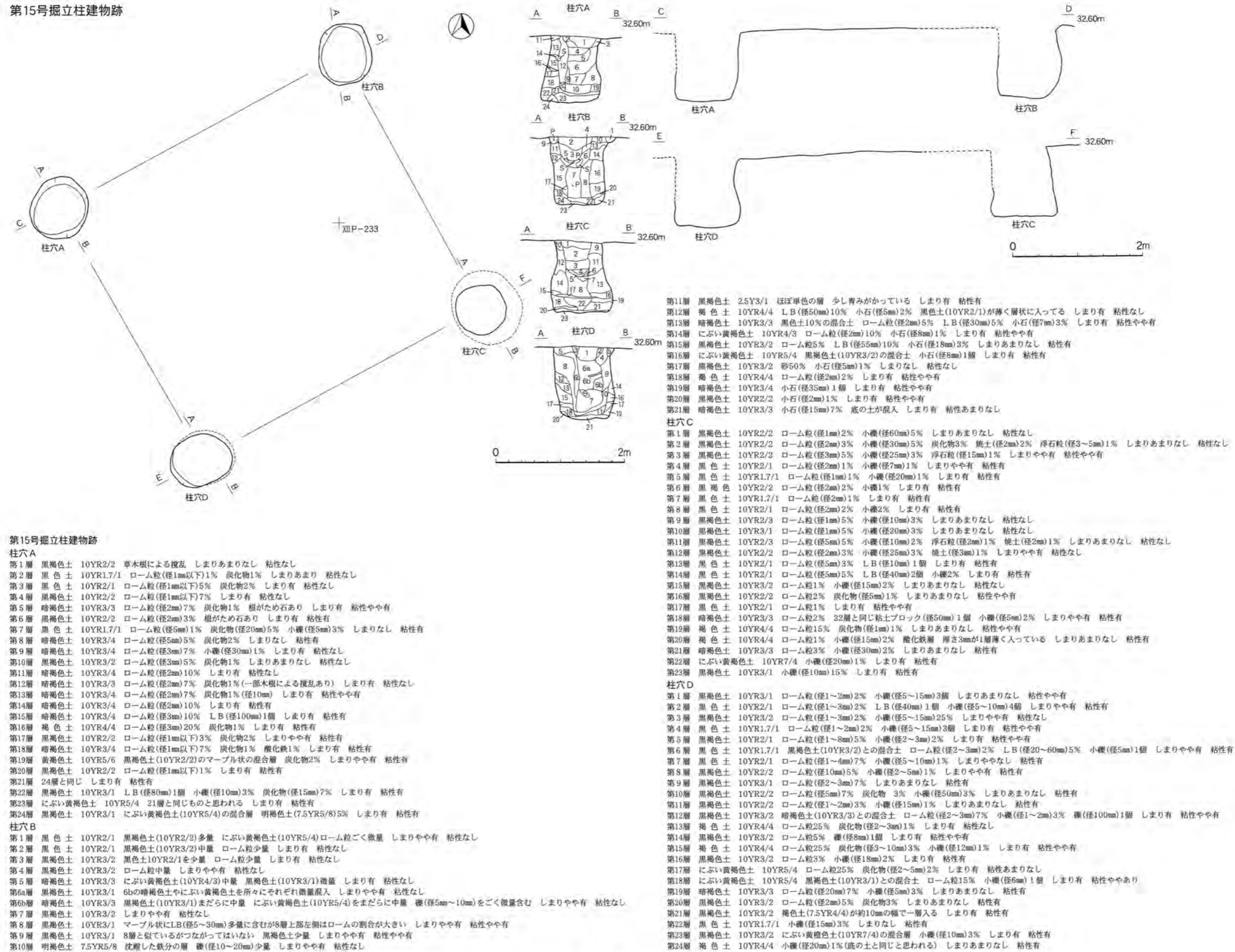
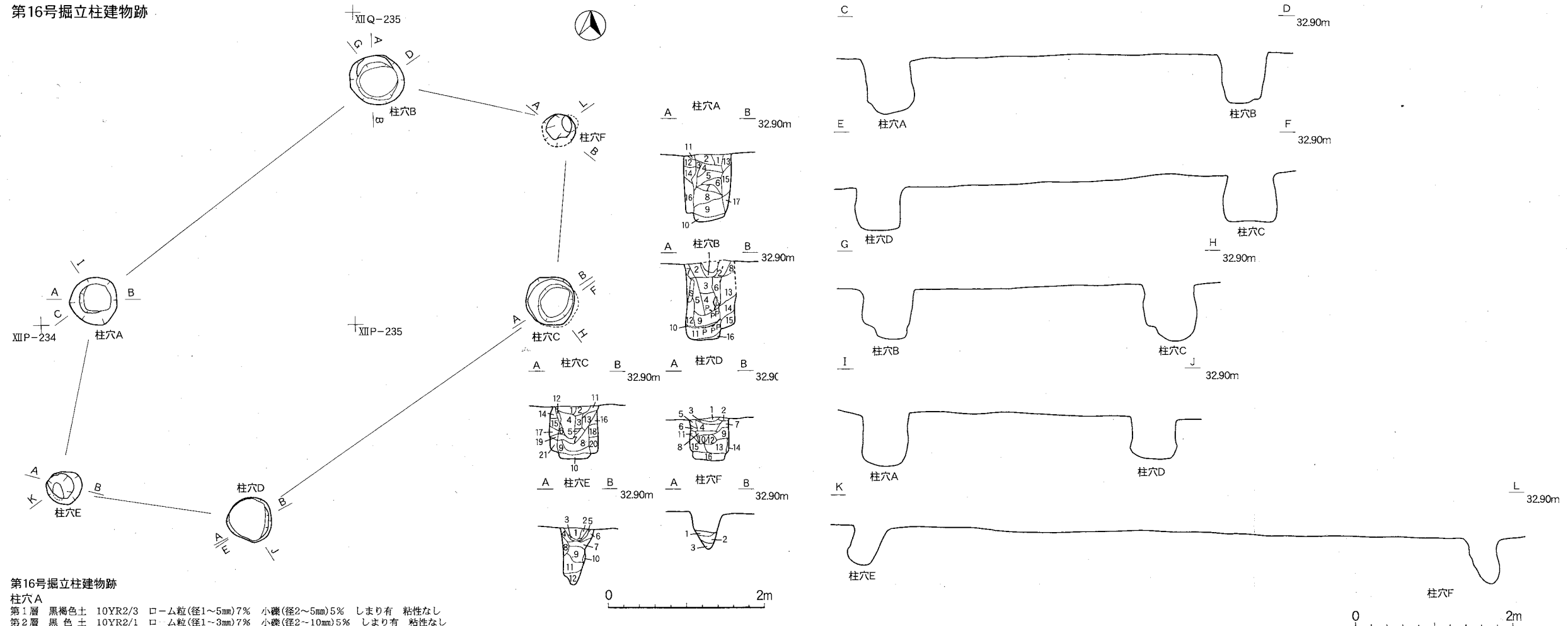


図18 第15号掘立柱建物跡

第16号掘立柱建物跡



第16号掘立柱建物跡

柱穴A

第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)7%	小礫(径2~5mm)5%	しまり有	粘性なし	
第2層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~3mm)7%	小礫(径2~10mm)5%	しまり有	粘性なし	
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)3%	小礫(径2~3mm)3%	しまり有	粘性なし	
第4層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~3mm)5%	小礫(径2~13mm)5%	しまり有	粘性有	
第5層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~3mm)3%	小礫(径2~20mm)3%	しまり有	粘性やや有	
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)3%	小礫(径2~3mm)2%	しまり有	粘性有	
第7層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~3mm)1%	小礫(径2~5mm)1%	しまり有	粘性有	
第8層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)1%	小礫(径2~10mm)1%	しまり有	粘性有	
第9層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)1%	小礫(径2~5mm)7%	しまり有	粘性有	
第10層	黒褐色土	10YR2/2	小礫(径2~10mm)15%	砂利(径1~10mm)15%	しまり有	粘性有	
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~8mm)5%	小礫(径2~10mm)20%	しまり有	粘性なし	
第12層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~10mm)10%	L B(径30~60mm)4個	小礫(径2~8mm)5%	しまり有	粘性なし
第13層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)5%	小礫(径2~13mm)7%	しまり有	粘性なし	
第14層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)7%	小礫(径2~3mm)3%	しまり有	粘性やや有	
第15層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)7%	小礫(径2~15mm)3%	やや砂利(径1~10mm)1%	しまり有	粘性やや有
第16層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)3%	小礫(径2~10mm)20%	砂利(径1~10mm)1%	しまり有	粘性やや有
第17層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)7%	L B(径5~10mm)5%	しまり有	粘性有	

柱穴B

第1層	黒色土	10YR2/1	にぶい黄褐色土(10YR5/4)ごく微量	礫(径3mm)1個	しまりやや有	粘性なし		
第2層	黒褐色土	10YR3/1	礫(径3mm)微量	しまりやや有	粘性なし			
第3層	黒褐色土	10YR3/1	しまりやや有	粘性なし	やや湿性有			
第4層	第3層に土質が似ている		しまりなし	粘性なし	湿性有			
第5層	黒褐色土	10YR3/1	にぶい黄褐色土(10YR5/4)微量	しまりなし	粘性なし	湿性有		
第6層	黒褐色土	10YR3/1	にぶい黄褐色土(10YR5/4)微量	しまりやや有	粘性なし	湿性やや有		
第7層	暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土(10YR3/2)ごく微量	黄褐色土(10YR5/6)の粒子ごく微量	礫(径10~20mm)少量	しまり有	粘性なし	
第8層	暗褐色土	10YR3/3	第7層に似ている	黒褐色土(10YR3/2)微量	黄褐色土(10YR5/6)の粒子ごく微量	礫(径10~20mm)少量	しまり有	粘性なし
第9層	黒褐色土	10YR3/1	黒褐色土(10YR3/2)まだらに中量	しまりなし	粘性なし	湿性有		
第10層	黒色土	10YR1.7/1	湿性有					
第11層	暗褐色土	10YR3/3	湿性有					
第12層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	黒褐色土	10YR3/1(径2~3mm)ブロック状に少量	明黄褐色土(10YR7/6)ごく微量	礫(径20mm)微量	しまりかなり有	粘性やや有
第13層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	黒褐色土	10YR3/1(径2~8mm)ブロック状に少量	明黄褐色土(10YR7/6)・L B(径3~10mm)微量	礫(径20mm)微量	しまりかなり有	粘性やや有
第14層	礫層	礫(径50mm)多量	第13層とはほぼ同じ土					
第15層	灰白色	10YR8/2	粘土層	しまりなし	粘性有	粘土		
第16層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒(径1~15mm)7%	小礫(径3~25mm)2%	しまり有	粘性有		

柱穴C

第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~2mm)2%	小礫(径5~20mm)7%	しまり有	粘性なし	
第2層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~2mm)3%	小礫(径3~35mm)7%	しまり有	粘性なし	
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)7%	小礫(径3~8mm)7%	しまり有	粘性なし	
第4層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒(径1~3mm)10%	小礫(径3~8mm)5%	しまり有	粘性有	
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)3%	小礫(径5mm)2%	しまり有	粘性有	
第6層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~2mm)2%	小礫(径3~5mm)10%	しまりやや有	粘性有	
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)7%	小礫(径5~7mm)5%	しまり有	粘性有	
第8層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)10%	小礫(径5~30mm)15%	しまり有	粘性有	
第9層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)5%	小礫(径1~25mm)30%	しまりやや有	粘性有	
第10層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~2mm)2%	小礫(径5mm)2%	しまり有	粘性有	
第11層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~3mm)10%	L B(径5~20mm)5%	小礫(径3mm)2%	しまり有	粘性やや有

柱穴D

第12層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~2mm)2%	小礫(径3~5mm)7%	しまり有	粘性有	
第13層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~3mm)10%	小礫(径1~10mm)20%	しまりやや有	粘性やや有	
第14層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)5%	小礫(径3~15mm)15%	しまりやや有	粘性有	
第15層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~2mm)7%	小礫(径1~10mm)30%	しまりやや有	粘性有	
第16層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒(径1~3mm)7%	L B(径5~10mm)10%	小礫(径10mm)2%	しまり有	粘性有
第17層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~7mm)7%	小礫(径3~10mm)10%	しまりやや有	粘性やや有	
第18層	黒褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~5mm)15%	小礫(径3~20mm)20%	しまりやや有	粘性有	
第19層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)7%	L B(径5~10mm)5%	しまりやや有	粘性やや有	
第20層	にぶい黄褐色土	10YR6/4	ローム層	小礫(径1~5mm)30%	しまりやや有	粘性やや有	
第21層	明黄褐色土	10YR6/6	ローム層	小礫(径1~5mm)25%	しまりやや有	粘性やや有	

柱穴E

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1mm以下)1%	炭化物(径1~15mm大)3%	小礫(径5~20mm)5%	しまりやや有	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)3%	小礫(径5~10mm)3%	しまり有	粘性なし	
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1mm大)2%	小礫(径5mm大)2%	しまり有	粘性なし	
第4層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~10mm大)15%	炭化物(径1mm大)3%	小礫(径5~50mm)7%	しまり有	粘性なし
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm大)2%	小礫(径3mm大)1個	しまり有	粘性やや有	
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~2mm大)2%	小礫(径2mm大)1%	しまり有	粘性やや有	
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1mm大)10%	小礫(径1~2mm大)1%	しまり有	粘性やや有	
第8層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm大)2%	炭化物(径1~3mm大)1%	小礫(径3~5mm大)1%	しまり有	粘性やや有
第9層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1mm大)5%	炭化物(径2mm大)2%	小礫(径5mm大)1%	しまり有	粘性やや有
第10層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~5mm)5%	炭化物(径1~3mm大)5%	小礫(径2~5mm大)2%	しまり有	粘性やや有
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2~3mm)2%	炭化物(径1mm以下)3%	小礫(径5~10mm大)3%	しまり有	粘性やや有
第12層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~3mm)2%	小礫(径5~7mm大)2%	しまり有	粘性やや有	
第13層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)3%	小礫(径5~10mm大)5%	しまり有	粘性やや有	
第14層	黒褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)7%	小礫(径5~15mm大)5%	しまり有	粘性なし	
第15層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)3%	小礫(径5~10mm大)1%	しまり有	粘性やや有	
第16層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1mm以下)5%	小礫(径5mm大)1%	しまり有	粘性やや有	

柱穴F

第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1mm以下)3%	小礫(径40mm)7%	しまりなし	粘性なし	
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径2mm)5%	小礫(径20mm)3%	しまりなし	粘性なし	
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径5mm以下)3%	小礫(径20mm)1%	酸化鉄(径10mm)1個	しまり有	粘性有

図19 第16号掘立柱建物跡

13・18は口縁部破片、他は胴部破片である。時期は第Ⅲ群3類で、縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕4本柱の掘立柱建物跡である。環状の円弧方向に長めの方形である。柱穴の掘り方が85cm～115cmと大きめの部類である。柱痕と思われる堆積土の状況からは、柱の径は30cm～40cm程度と思われる。なお、本遺構は環状の円弧からは少し内側に入る位置に存在する。時期は出土遺物からみて縄文時代後期後葉と思われる。

#### 第16号掘立柱建物跡（図19・33・34、写真10・11・22）

〔位置・確認〕XⅡO・P-234・235グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本柱の支柱穴と2本の支柱穴からなる6本柱の掘立柱建物跡であることが判明した。環状の南東側に位置する。

〔重複〕なし

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う北東から南西方向の柱穴A B間は4.6m、柱穴C D間が4.75m、円弧に直交する北西から南東方向の柱穴B C間が3.6m、柱穴A D間が3.45m、支柱穴E F間は8.0mである。円弧方向に長い長方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ60cm×ヨコ60cm×深さ84cm、円形。柱穴Bタテ70cm×ヨコ65cm×深さ98cm、円形。柱穴Cタテ64cm×ヨコ62cm×深さ67cm、円形。柱穴Dタテ57cm×ヨコ57cm×深さ53cm、円形。柱穴Eタテ43cm×ヨコ46cm×深さ71cm、円形、北東から南西に向けて傾斜する。柱穴Fタテ42cm×ヨコ42cm×深さ50cm、円形、南西から北東に向けて傾斜。

〔柱穴の堆積土〕柱穴Aは17層に区分された。第1層～第10層が柱痕部と思われる。柱穴Bは16層に区分された。第1層～第9層・第16層は柱痕部の可能性がある。柱穴Cは21層に区分された。第1層～第10層は柱痕部の可能性がある。柱穴Dは16層に区分された。

〔出土遺物〕柱穴Aから掘立16-1・2、柱穴Bから掘立16-3～15、柱穴Dから掘立16-16が出土している。いずれも縄文土器の破片で、3は口縁部破片、8は底部破片、他は胴部破片である。時期は第Ⅲ群3類で、縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕支柱穴4本と支柱穴2本からなる平面形が亀甲形をなす6本柱の掘立柱建物跡と思われる。支柱穴は環状の円弧方向に長めの長方形を呈し、支柱穴は環状の円弧方向につくものである。支柱穴の柱痕と思われる堆積土の観察から、柱は径40cm前後のものとの推測される。支柱穴は2本とも建物の方向に傾いている。時期は出土遺物からみて縄文時代後期後葉と思われる。

#### 第17号掘立柱建物跡（図20、写真11・12・22）

〔位置・確認〕XⅡR・S-235・236グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本柱の支柱穴と2本の支柱穴からなる6本柱の掘立柱建物跡であることが判明した。環状の南東側に位置する。

〔重複〕なし

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う北東から南西方向の柱穴A B間は3.9m、柱穴C D間が3.65m、円弧に直交する北西から南東方向の柱穴B C間が3.25m、柱穴A D間が3.55m、支柱穴E F間は7.6mである。円弧方向に長めの方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ68cm×ヨコ61cm×深さ53cm、円形。柱穴Bタテ65cm×ヨコ70



cm×深さ73cm、円形。柱穴Cタテ65cm×ヨコ63cm×深さ60cm、円形。柱穴Dタテ55cm×ヨコ53cm×深さ53cm、円形。柱穴Eタテ35cm×ヨコ36cm×深さ26cm、円形。柱穴Fタテ30cm×ヨコ35cm×深さ32cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕柱穴Aは18層に区分された。中央部の第1層～第10層は径30cm前後の黒褐色土を主体とする柱痕部と思われる。柱穴Bは16層に区分された。中央に黒褐色土の落ち込みがあり、柱痕部と思われる。柱穴Cは10層に区分された。中央に黒褐色土の落ち込みがあり、柱痕部と思われる。柱穴Dは10層に区分された。中央に黒褐色土の落ち込みがあり、柱痕部と思われる。柱穴Eは断面では北東から南西方向に斜めに傾斜している。柱穴Fは断面では南西から北東方向に斜めに傾斜している。

〔出土遺物〕柱穴Bから掘立17-1～6・S1、柱穴Cから掘立17-7～16が出土している。S1は石鏃、土器はいずれも縄文土器の破片で、5は口縁部破片、4は台付土器の脚部、他は胴部破片である。時期は第Ⅲ群3類で、縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕支柱穴4本と支柱穴2本からなる平面形が亀甲形の6本柱の掘立柱建物跡と思われる。支柱穴は環状の円弧方向に長めの方形を呈し、支柱穴は環状の円弧方向につくものである。支柱穴は2本とも建物の方向に傾いている。時期は出土遺物からみて縄文時代後期後葉と思われる。

#### 第18号掘立柱建物跡（図21、写真12・13）

〔位置・確認〕XⅡR-236・237グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本柱の掘立柱建物跡であることが判明した。環状の南東側に位置する。

〔重複〕なし

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う北東から南西方向の柱穴A B間は2.9m、柱穴C D間が3.0m、円弧に直交する北西から南東方向の柱穴B C間が2.7m、柱穴A D間が2.5mである。円弧方向に長めの方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ33cm×ヨコ32cm×深さ41cm、円形。柱穴Bタテ34cm×ヨコ40cm×深さ56cm、不整形円形。柱穴Cタテ32cm×ヨコ36cm×深さ49cm、不整形円形。柱穴Dタテ31cm×ヨコ31cm×深さ47cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕柱穴Aは10層に区分された。第1層～第7層が柱痕部とすると、掘り方は柱の太さより少ししか大きくないということになる。柱穴Bは10層に区分された。柱痕部と掘り方とは判別しづらい。柱穴Cは8層に区分された。第1層～第6層は柱痕部の可能性が高い。掘り方は柱痕部より少し大きい程度と思われる。柱穴Dは6層に区分された。第1層～第4層が柱痕部と思われる。

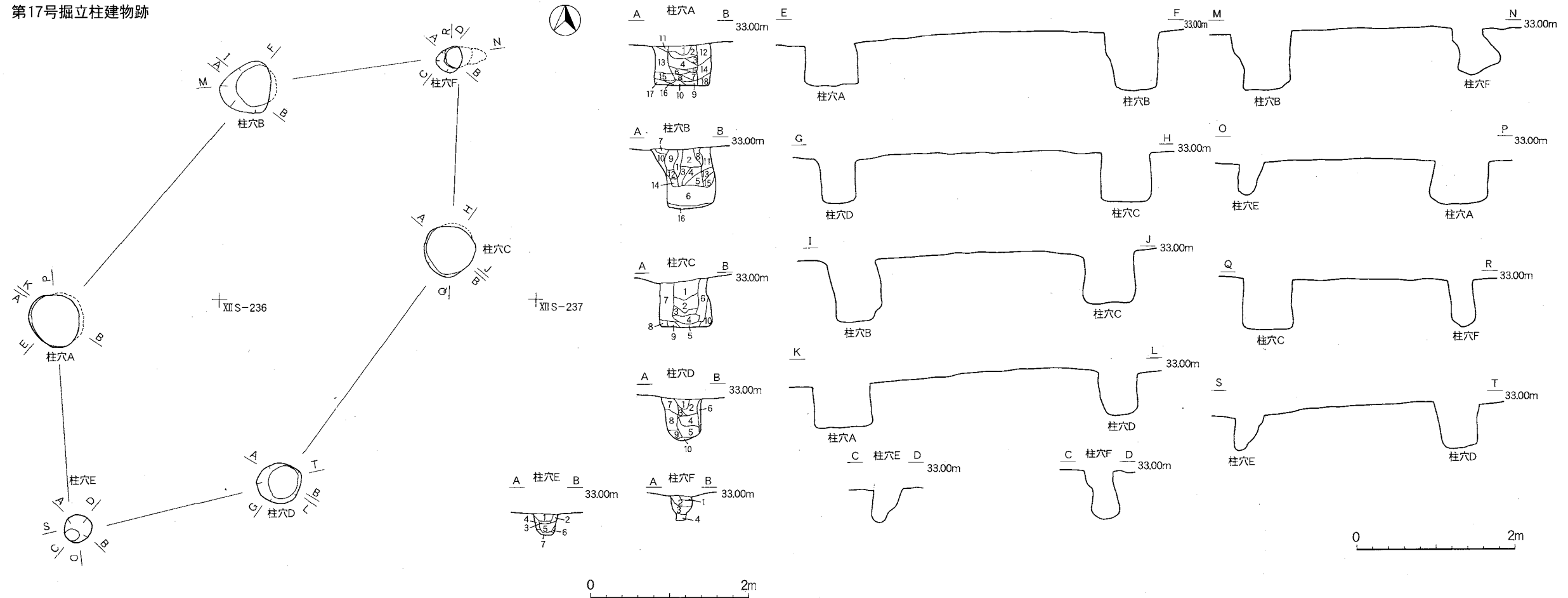
〔出土遺物〕なし。

〔小結〕支柱穴4本からなる掘立柱建物跡と思われる。建物跡及び柱穴とも規模の小さめのものである。平面形は環状の円弧方向に長めの方形を呈する。

#### 第19号掘立柱建物跡（図22）

〔位置・確認〕XⅡT・XⅢA-236・237グリッドで、暗褐色土のピットが4本の支柱穴、2本の支柱穴として検出され、6本柱の掘立柱建物跡と確認された。ある。

第17号掘立柱建物跡



第17号掘立柱建物跡

柱穴A

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~3mm)10% 小礫(径2~5mm)5% しまり有 粘性なし
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3と、黒褐色土 10YR2/2の混合土 ローム粒(径1~5mm)10% 小礫(径2~3mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~5mm)7% しまり有 粘性やや有
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2と、黒褐色土 10YR3/2の混合土 ローム粒(径1~3mm)5% 焼土粒(径1mm)2% 小礫(径2~10mm)2% しまり有 粘性有
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)3% 小礫(径2~3mm)2% しまり有 粘性有
- 第6層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)3% 焼土粒(径1~2mm)2% 小礫(径2~10mm)5% しまり有 粘性やや有
- 第7層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~3mm)3% しまり有 粘性やや有
- 第8層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~2mm)2% 暗褐色土(7.5YR3/4)の粘土10% しまり有 粘性有
- 第9層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒(径1~5mm)3% LB50% しまりやや有 粘性やや有
- 第10層 にぶい黄褐色土 10YR5/3 ローム粒(径1~3mm)3% 小礫(径2~10mm)20% しまりやや有 粘性やや有
- 第11層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~3mm)15% LB(径10~20mm)30% 小礫(径2~3mm)15% しまりやや有 粘性やや有
- 第12層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(径1~3mm)20% 小礫(径2~5mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第13層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒(径1~10mm)20% 小礫(径2~8mm)15% しまり有 粘性やや有
- 第14層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~5mm)25% LB(径10~30mm)10% 小礫(径2~5mm)10% しまり有 粘性やや有
- 第15層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~3mm)15% LB(径5~15mm)7% 小礫(径2~3mm)15% しまりやや有 粘性やや有
- 第16層 褐色土 10YR4/6 ローム粒(径1~2mm)2% 小礫(径2~15mm)20% しまりやや有 粘性なし
- 第17層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~2mm)2% 小礫(径2~5mm)7% しまりやや有 粘性なし
- 第18層 にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム粒(径1~2mm)3% 小礫(径1~3mm)5% しまりやや有 粘性有

柱穴B

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)7% しまり有 粘性やや有
- 第2層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒(径1~5mm)7% しまり有 粘性やや有
- 第3層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~3mm)5% しまり有 粘性有
- 第4層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒(径1~2mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)5% しまり有 粘性有
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~2mm)5% 明赤褐色土(5YR5/8)の粘土5% しまり有 粘性やや有
- 第7層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~7mm)10% しまり有 粘性なし
- 第8層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)10% LB(径5~10mm)3% 小礫(径2~5mm)5% しまり有 粘性なし
- 第9層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~7mm)20% しまり有 粘性やや有
- 第10層 黄褐色土 10YR5/6 にぶい黄褐色土(10YR7/4)のローム層 しまり有 粘性やや有
- 第11層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(径1~5mm)20% LB(径10mm)20% しまり有 粘性やや有
- 第12層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~7mm)5% しまり有 粘性有
- 第13層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)7% しまり有 粘性やや有
- 第14層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~3mm)7% LB(径5~10mm)20% しまり有 粘性有
- 第15層 黄褐色土 10YR5/6 ローム層(褐色土 10YR4/4の土混じる) しまり有 粘性有
- 第16層 にぶい黄褐色土 10YR5/3 ローム層(褐色土 7.5YR4/6のローム混じる) しまり有 粘性有

柱穴C

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~2mm)5% 小礫(径2~5mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第2層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒(径1~3mm)5% 炭化物(径3mm)1% 小礫(径2~5mm)2% しまり有 粘性有
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)5% 小礫(径5~15mm)5% しまり有 粘性有
- 第4層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒(径1~3mm)3% しまり有 粘性有
- 第5層 暗褐色土 10YR3/3 LB(にぶい黄褐色土 10YR7/2)40% 小礫(径2~3mm)3% しまり有 粘性やや有
- 第6層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(径1~3mm)15% しまり有 粘性やや有
- 第7層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~5mm)20% しまり有 粘性やや有
- 第8層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)7% しまり有 粘性やや有
- 第9層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~3mm)5% LB(にぶい黄褐色土 10YR7/2)5% しまり有 粘性やや有
- 第10層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(径1~3mm)10% LB(にぶい黄褐色土 10YR7/2)3% しまり有 粘性有

柱穴D

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径0.5~5mm)1% 炭化物(径1~5mm)1% 焼土粒(径0.5~1mm)1% 小礫(径6mm)1% しまり有 粘性なし
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.5~4mm)1% 炭化物(径1~6mm)1% 焼土粒(径1mm)1% 小礫(径2~10mm)1% しまり有 粘性なし
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.5~6mm)1% 炭化物(径1~7mm)2% 焼土粒(径1mm)1% しまり有 粘性なし
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.5~10mm)1% 炭化物(径2~5mm)1% 小礫(径15mm)1% しまり有 粘性なし
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径0.5~1mm)1% 炭化物(径2~10mm)1% 焼土粒(径4mm)1% 礫(径10~20mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第6層 黒褐色土 10YR2/3 LB(径10~20mm)2% 炭化物(径3~8mm)1% 礫(径20mm)1% しまり有 粘性なし
- 第7層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.5~5mm)2% 炭化物(径2~4mm)2% 焼土粒(径1~2mm)1% 小礫(径2~10mm)1% 礫(径60mm)1% しまり有 粘性なし
- 第8層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径0.5~5mm)2% 炭化物(径2mm)1% 礫(径5~30mm)2% しまり有 粘性なし
- 第9層 黒褐色土 10YR2/3 LB(径20~30mm)5% 炭化物(径1~5mm)1% 小礫(径5~15mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第10層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.5~1mm)1% 黒色土ブロック(10YR2/1 径15mm)1% しまり有 粘性やや有

柱穴E

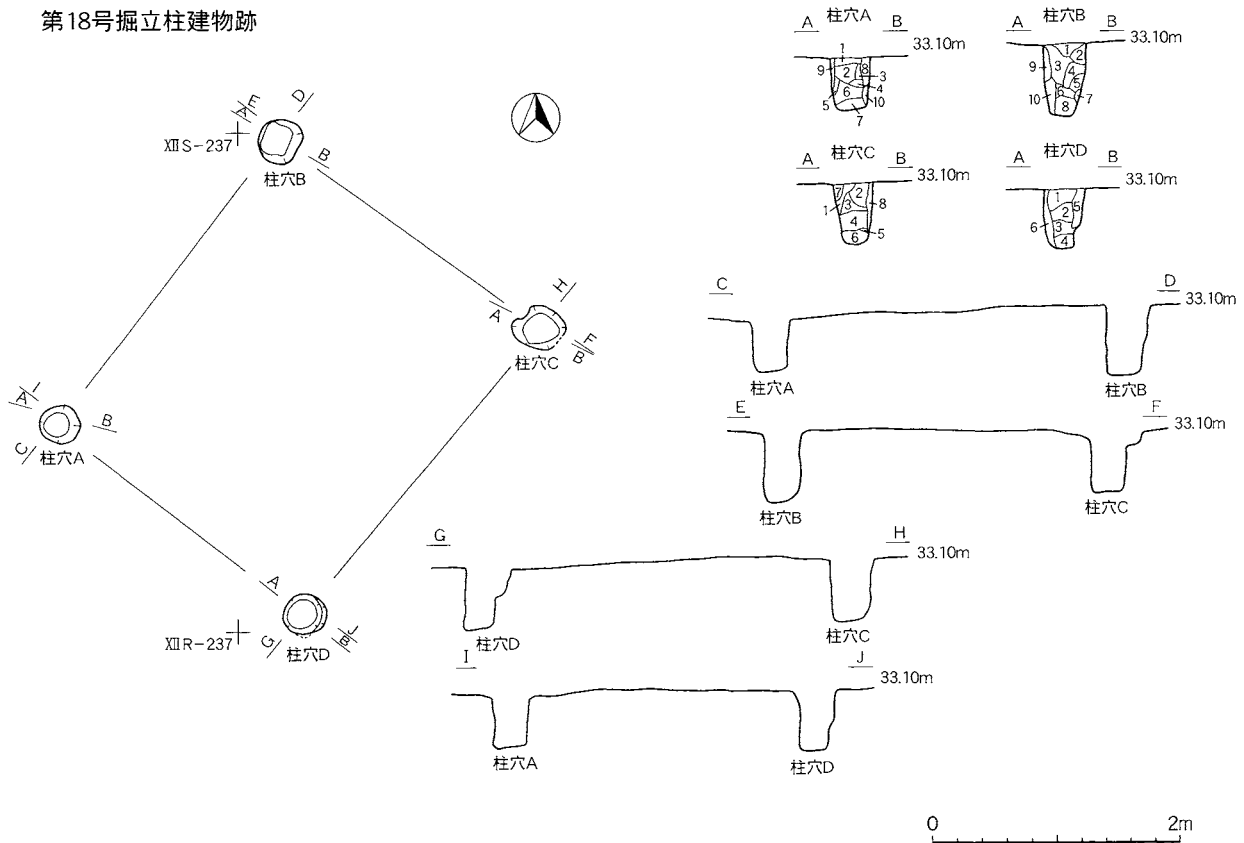
- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~2mm)5% 焼土粒(径1~2mm)3% 小礫(径5mm)2% しまり有 粘性なし
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~2mm)2% 炭化物(径2mm)1% しまり有 粘性なし
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~2mm)3% 小礫(径5mm)2% しまり有 粘性なし
- 第4層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~2mm)5% LB(径30mm)1% しまり有 粘性なし
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~5mm)3% 小礫(径25mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第6層 暗褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~5mm)5% 小礫(径5mm)1% しまり有 粘性有

柱穴F

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.5~5mm)2% 小礫(径2~3mm)1% 中礫(径15mm)1% しまり有 粘性なし
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径0.5~8mm)7% LB(径30mm)7% 小礫(径2~5mm)1% しまり有 粘性なし
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径0.5~10mm)5% 小礫(径2~4mm)1% 礫(径80mm)1% しまり有 粘性なし
- 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径0.5~3mm)2% 礫(径20~30mm)1% しまり有 粘性やや有

図20 第17号掘立柱建物跡

第18号掘立柱建物跡



第18号掘立柱建物跡

柱穴A

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~2mm)10% 炭化物(径1~3mm)2% 焼土粒(径1mm)2% 小礫(径2~5mm)5% しまり有 粘性なし
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~3mm)7% 炭化物(径1~3mm)3% 焼土粒(径1~2mm)3% 小礫(径3~8mm)5% しまり有 粘性やや有
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~2mm)3% 小礫(径2~5mm)3% しまり有 粘性やや有
- 第4層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~15mm)5% 炭化物(径2~5mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第5層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~5mm)3% しまり有 粘性やや有
- 第6層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒(径1~3mm)3% 小礫(径2~8mm)5% しまり有 粘性やや有
- 第7層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)3% 焼土粒(径1~2mm)2% 小礫(径2~3mm)5% しまり有 粘性やや有
- 第8層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~2mm)7% 炭化物(径1~2mm)2% 小礫(径2~20mm)10% しまり有 粘性なし
- 第9層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(径1~5mm)7% 炭化物(径1~2mm)2% しまり有 粘性なし
- 第10層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒(径1~2mm)7% 炭化物(径1~2mm)3% しまり有 粘性やや有

柱穴B

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~3mm)10% 炭化物(径2~3mm)3% しまり有 粘性やや有
- 第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)7% しまり有 粘性やや有
- 第3層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒(径1~3mm)5% しまり有 粘性有
- 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~3mm)20% L B(径5~20mm)20% 小礫(径2~3mm)5% しまり有 粘性やや有
- 第5層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒(径1~2mm)2% しまり有 粘性有
- 第6層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒(径1~2mm)2% しまり有 粘性有
- 第7層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~3mm)10% しまり有 粘性有
- 第8層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~2mm)2% しまり有 粘性有
- 第9層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(径1~3mm)20% しまり有 粘性やや有
- 第10層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~5mm)10% L B(径10~15mm)3% しまり有 粘性有

柱穴C

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~3mm)10% しまり有 粘性なし
- 第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)5% しまり有 粘性やや有
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~3mm)10% しまり有 粘性なし
- 第4層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)5% 小礫(径3mm)1% しまり有 粘性有
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)20% 小礫(径3~5mm)7% しまり有 粘性なし
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~2mm)3% 小礫(径5mm)2% しまり有 粘性有
- 第7層 にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム層 小礫(径2~3mm)3% しまり有 粘性なし
- 第8層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)20% 小礫(径3~5mm)7% しまり有 粘性やや有

柱穴D

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.5~2mm)1% 炭化物(径1~2mm)1% 小礫(径2~10mm)1% しまり有 粘性なし
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.5~1mm)1% 小礫(径2~15mm)1% しまり有 粘性なし
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.5~5mm)1% 小礫(径2mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径0.5~10mm)2% 小礫(径2~10mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径0.5~2mm)1% 小礫(径2~15mm)1% しまり有 粘性なし
- 第6層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径0.5~10mm)3% 小礫(径5~10mm)1% しまり有 粘性なし

図21 第18号掘立柱建物跡

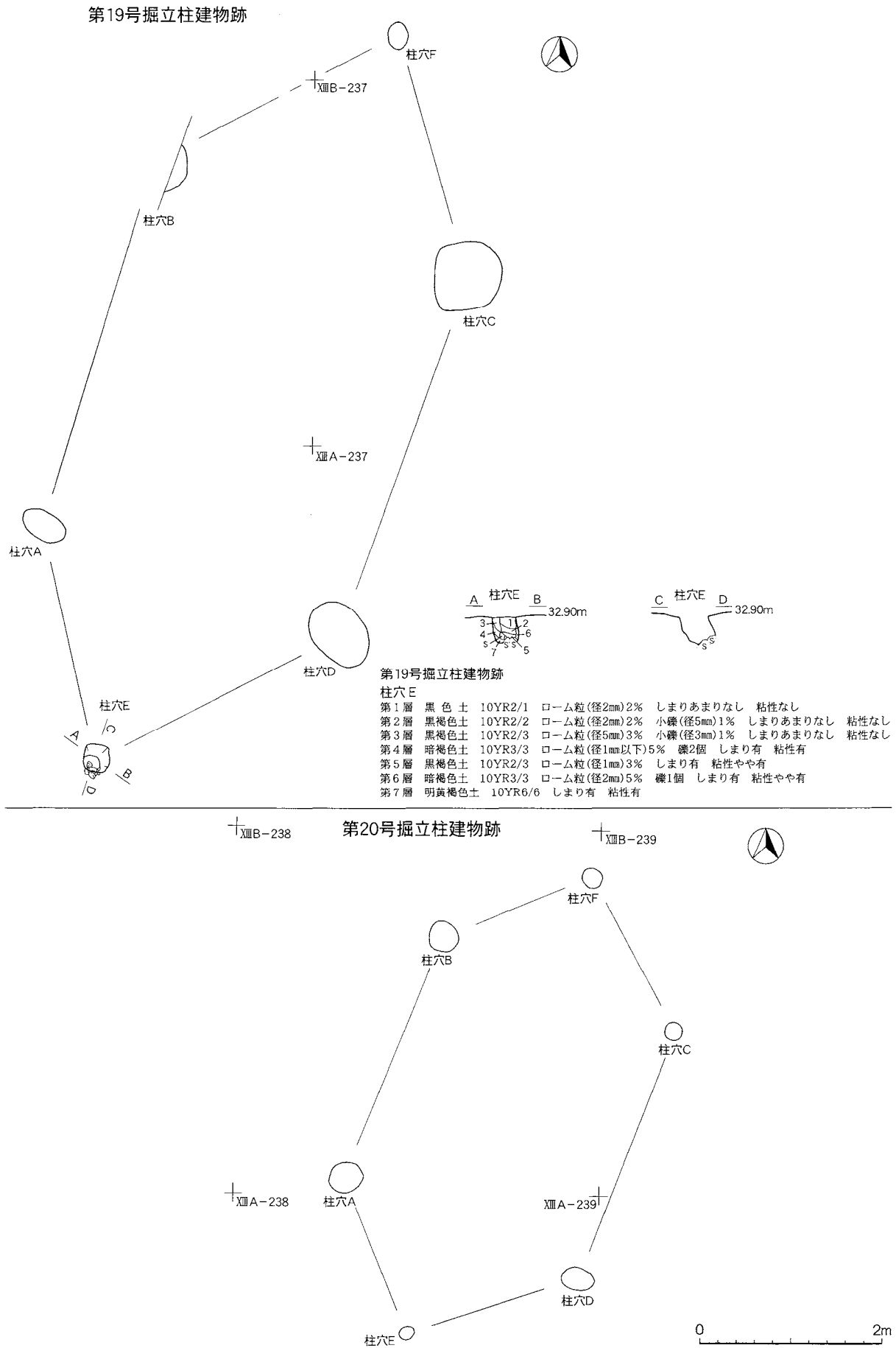


図22 第19・20号掘立柱建物跡

[重複] なし。

[建物跡の平面形・規模] 環状建物跡群の環状の円弧に沿う南北方向の柱穴A B間が4.2m、柱穴C D間が4.2m、東西方向の柱穴B C間が3.6m、A D間が3.45m、さらに支柱穴E F間が8.5mの、幾分南北方向に長いやや長方形を呈する支柱穴と、南北方向にある支柱穴2本からなる亀甲形の掘立柱建物跡を構成する。

[柱穴の平面形・規模] 柱穴Aタテ52×ヨコ30cm、楕円形。柱穴B未計測。柱穴Cタテ77×ヨコ83cm、やや不整な円形。柱穴Dタテ76×ヨコ56cm、楕円形。柱穴Eタテ30×ヨコ30cm、隅丸方形。柱穴Fタテ26×ヨコ26cm、円形。

[柱穴の堆積土] 未調査のため堆積土の状況は明かでない。

[出土遺物] 未調査のため出土遺物はなし。

[小結] 平面形は亀甲形を示す6本柱の掘立柱建物跡である。環状の円弧に沿う方向につくられている両脇の支柱穴は、調査した本遺跡の他の建物跡の例からは、柱穴E・Fは棟持柱の機能を持つものと思われる。時期は他の調査例から縄文時代後期後葉を中心とする後半に位置づけられるものと思われる。

#### 第20号掘立柱建物跡 (図22)

[位置・確認] XⅡT・XⅢA-238・239グリッドで、暗褐色土のピットが4本の支柱穴、2本の支柱穴として検出され、6本柱の掘立柱建物跡と確認された。

[重複] なし。

[建物跡の平面形・規模] 環状建物跡群の環状の円弧に沿う南北方向の柱穴A B間が2.85m、柱穴C D間が2.9m、東西方向の柱穴B C間が2.75m、A D間が2.8m、さらに支柱穴E F間が5.4mの、ほぼ正方形の4本柱に南北方向に棟持の支柱穴が2本みられる全体として亀甲形を示す、掘立柱建物跡になるものと思われる。

[柱穴の平面形・規模] 柱穴Aタテ35×ヨコ35cm、円形。柱穴Bタテ34×ヨコ32cm、円形。柱穴Cタテ19×ヨコ19cm、円形。柱穴Dタテ35×ヨコ25cm、楕円形。柱穴Eタテ16×ヨコ16cm、円形。柱穴Fタテ23×ヨコ22cm、円形。

[柱穴の堆積土] 未調査のため堆積土の状況は明かでない。

[出土遺物] 未調査のため出土遺物はなし。

[小結] 平面形は、亀甲形の配列を示す6本柱の掘立柱建物跡である。調査した本遺跡の他の建物跡の例からは、柱穴E・Fは棟持柱の機能を持つものと思われる。未調査であるが、時期は他の調査例から縄文時代後期後葉を中心とする後半に位置づけられるものと思われる。

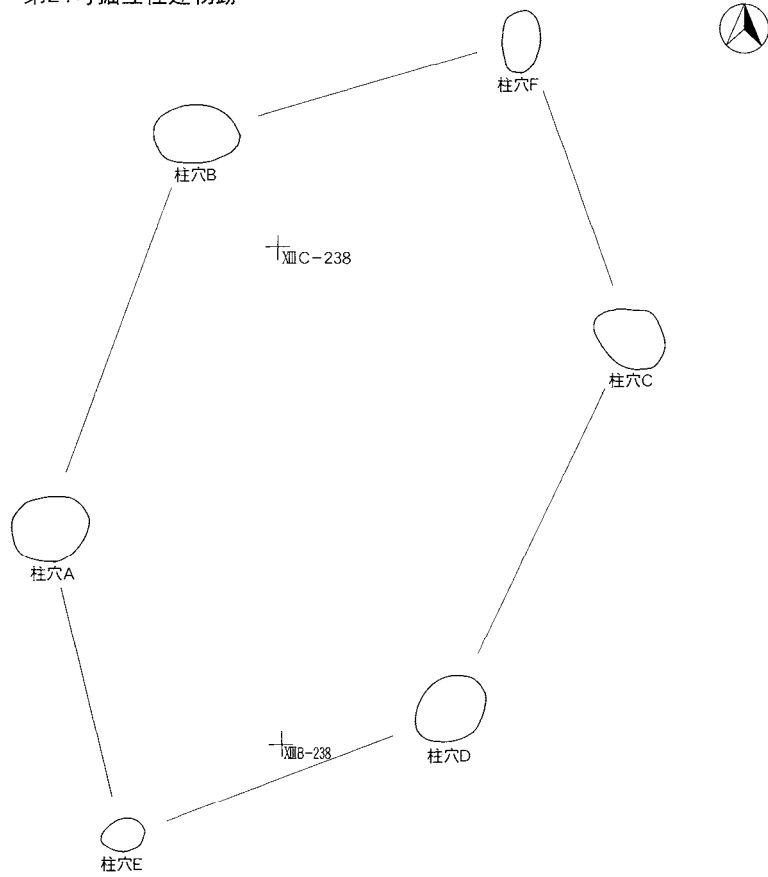
#### 第21号掘立柱建物跡 (図23)

[位置・確認] XⅢB・C-237・238グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本柱の支柱穴と2本の支柱穴からなる6本柱の掘立柱建物跡として確認された。環状の東側に位置する。

[重複] なし。

[建物跡の平面形・規模] 環状建物跡群の環状の円弧に沿う南北方向の柱穴A B間が3.4m、柱穴C

第21号掘立柱建物跡



第22号掘立柱建物跡

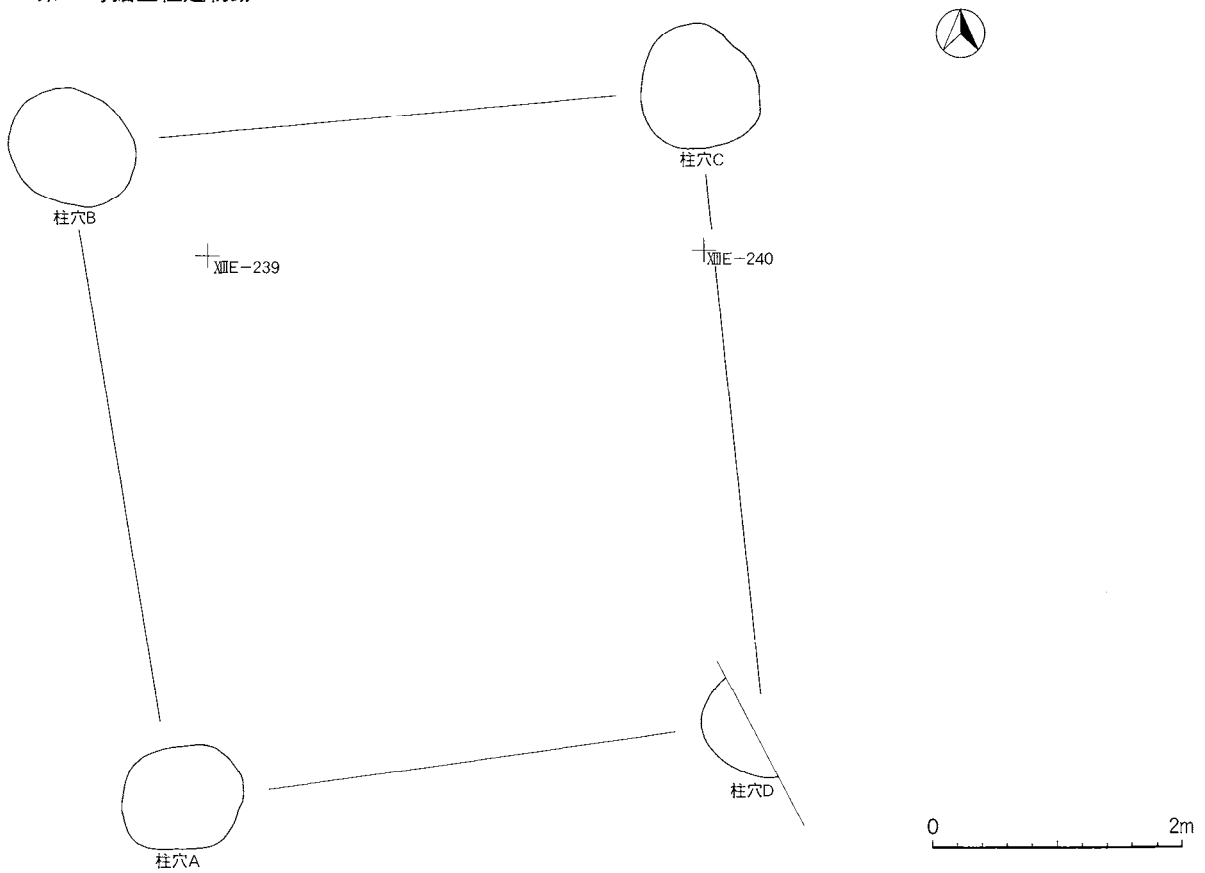


図23 第21・22号掘立柱建物跡

D間が3.3m、東西方向の柱穴BC間が3.9m、AD間が3.6m、さらに支柱穴EF間が7.1mである。やや東西に長めの方形の4本柱に南北方向に支柱穴が2本みられる、全体として亀甲形を示す掘立柱建物跡になるものと思われる。

〔柱穴の平面形・規模〕 柱穴Aタテ56×ヨコ60cm、円形。柱穴Bタテ68×ヨコ50cm、楕円形。柱穴Cタテ62×ヨコ48cm、楕円形。柱穴Dタテ50×ヨコ62cm、円形。柱穴Eタテ29×ヨコ30cm、楕円形。柱穴Fタテ33×ヨコ49cm、楕円形。

〔柱穴の堆積土〕 未調査であるが、柱穴の中央に柱痕部と思われる黒褐色土がみられる。

〔出土遺物〕 未調査のため出土遺物なし。

〔小結〕 平面形は、亀甲形の配列を示す6本柱の掘立柱建物跡である。本遺構は環状の円弧に沿う方向より直交する方向の柱穴間の距離が長めという特徴がみられる。

### 第22号掘立柱建物跡（図23）

〔位置・確認〕 XⅢE・F-238・239グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本柱の掘立柱建物跡として確認された。なお、確認時には各柱穴の中央部に黒褐色土の柱痕部と思われる部分が認められた。環状の東側に位置する。

〔重複〕 なし

〔建物跡の平面形・規模〕 環状建物跡群の環状の円弧に沿う南北方向の柱穴AB間が5.3m、柱穴CD間が5.1m、東西方向の柱穴BC間が5.1m、AD間が4.7mである。平面形はおおよそ正方形を呈する4本柱の掘立柱建物跡である。

〔柱穴の平面形・規模〕 柱穴Aタテ96×ヨコ82cm、楕円形。柱穴Bタテ100×ヨコ95cm、円形。柱穴Cタテ95×ヨコ100cm、やや不整な円形。柱穴Dは未計測。

〔柱穴の堆積土〕 未調査。

〔出土遺物〕 未調査のため出土遺物なし。

〔小結〕 平面形は正方形を呈する4本柱の掘立柱建物跡である。

### 第23号掘立柱建物跡（図24）

〔位置・確認〕 XⅢF・G・H-239・240グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本柱の支柱穴と2本の支柱穴からなる6本柱の掘立柱建物跡として確認された。環状の東側に位置する。

〔重複〕 なし

〔建物跡の平面形・規模〕 環状建物跡群の環状の円弧に沿う南北方向の柱穴AB間が3.6m、柱穴CD間が3.6m、東西方向の柱穴BC間が3.3m、AD間が3.1mである。平面形は環状の円弧方向の南北にやや長めの方形で、南北に支柱穴がみられる亀甲形の6本柱掘立柱建物跡である。

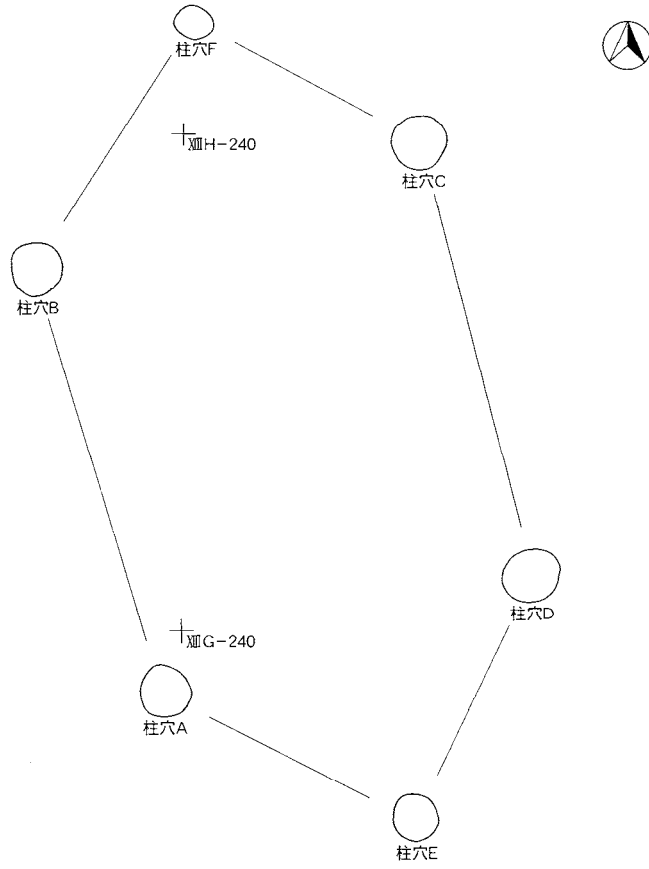
〔柱穴の平面形・規模〕 柱穴Aタテ40×ヨコ44cm、円形。柱穴Bタテ42×ヨコ44cm、円形。柱穴Cタテ46×ヨコ44cm、円形。柱穴Eタテ36×ヨコ39cm、円形。柱穴Fタテ30×ヨコ28cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕 未調査。

〔出土遺物〕 未調査のため出土遺物なし。

〔小結〕 平面形は、亀甲形の配列を示す6本柱の掘立柱建物跡である。支柱穴は環状の円弧の方向に

第23号掘立柱建物跡



第24号掘立柱建物跡

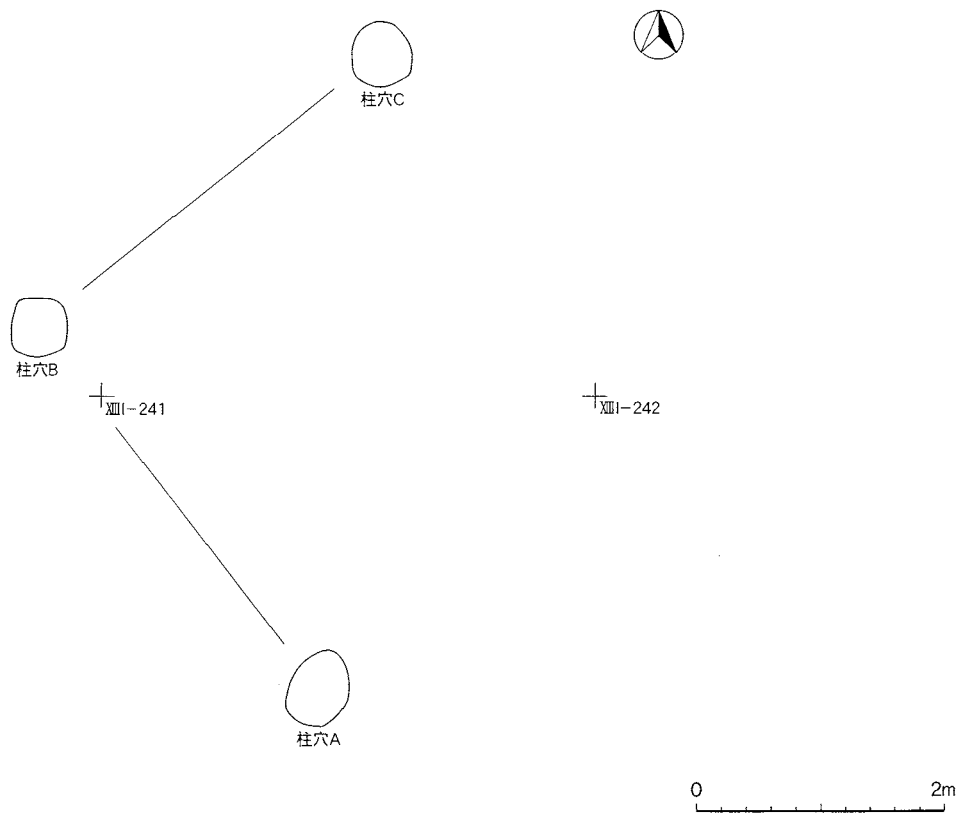


図24 第23・24号掘立柱建物跡



幾分長めの方形を呈している。

#### 第24号掘立柱建物跡（図24、写真13）

〔位置・確認〕 XⅢH・I-241・242グリッドで、黒褐色土のピットが3個検出され、3個であるが、4本柱の掘立柱建物跡として確認された。残りの1本は調査予定地外に位置するものと思われる。環状の東側に位置する。

〔重複〕 なし

〔建物跡の平面形・規模〕 環状建物跡群の環状の円弧に沿う南北方向の柱穴A B間が3.65m、東西方向の柱穴B C間が3.5mでほぼ正方形をなす平面形の掘立柱建物跡と思われる。

〔柱穴の平面形・規模〕 柱穴Aタテ62×ヨコ49cm、楕円形。柱穴Bタテ50×ヨコ50cm、隅丸方形。柱穴Cタテ51×ヨコ52cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕 未調査。

〔出土遺物〕 未調査のため出土遺物なし。

〔小結〕 柱穴の内1本が調査区域外に想定されるが、平面形が正方形の4本柱の掘立柱建物跡と思われる。

#### 第25号掘立柱建物跡（図25、写真13・14）

〔位置・確認〕 XⅢH・I-238・239グリッドで、黒褐色土のピットが検出され、4本柱の掘立柱建物跡として確認された。なお、確認時の柱穴A・C・Dには、柱痕部と思われる黒褐色土の範囲が認められた。また、柱穴Bは第V層の礫層上面で検出され、その他の柱穴は礫層の下の土層での確認になるが、これは確認段階で礫層を取り除いたための結果である。環状の北東側に位置する。

〔重複〕 なし

〔建物跡の平面形・規模〕 環状建物跡群の環状の円弧に沿う南東から北西への方向の柱穴A B間が3.95m、柱穴C D間が3.9m、円弧に直交する南西から北東方向の柱穴B C間が3.25m、柱穴A D間が3.3mである。環状の円弧の方向に幾分長めの方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕 柱穴Aタテ45cm×ヨコ50cm（柱痕部はタテ32cm×ヨコ34cm）、円形。柱穴Bタテ49cm×ヨコ40cm、円形。柱穴Cタテ45cm×ヨコ46cm（柱痕部タテ30cm×ヨコ30cm）、円形。柱穴Dタテ73cm×ヨコ74cm（柱痕部タテ43cm×ヨコ45cm）、円形。

〔柱穴の堆積土〕 未調査。

〔出土遺物〕 未調査のため出土遺物なし。

〔小結〕 平面形が環状の円弧の方向に長めの方形を呈する4本柱の掘立柱建物跡と思われる。

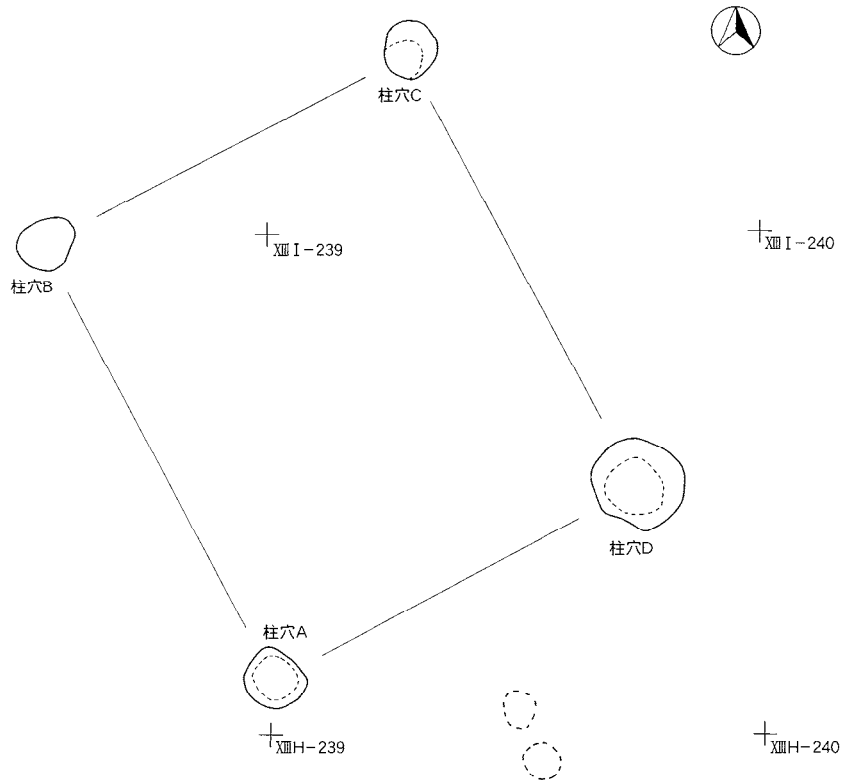
#### 第26号掘立柱建物跡（図25、写真14）

〔位置・確認〕 XⅢI・J-237・238グリッドで、第V層の礫層上面にて黒褐色土のピットが検出され、4本柱の掘立柱建物跡として確認された。環状の北東側に位置する。

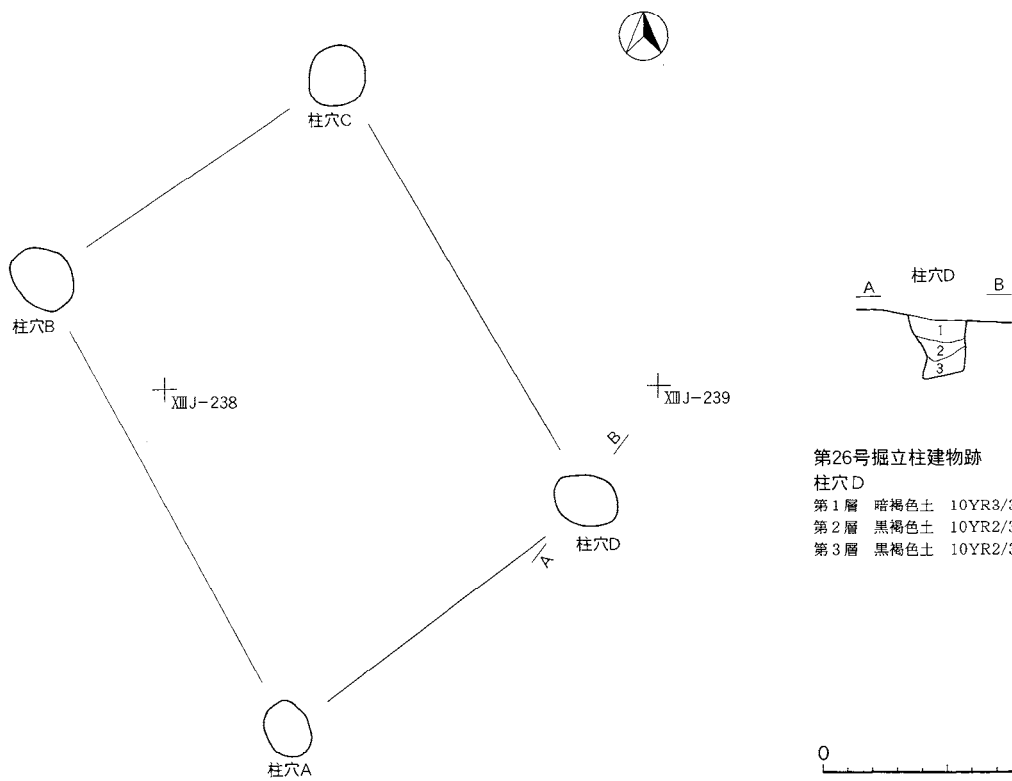
〔重複〕 なし

〔建物跡の平面形・規模〕 環状建物跡群の環状の円弧に沿う南東から北西への方向の柱穴A B間が

第25号掘立柱建物跡



第26号掘立柱建物跡



第26号掘立柱建物跡  
柱穴D  
第1層 暗褐色土 10YR3/3  
第2層 黒褐色土 10YR2/3  
第3層 黒褐色土 10YR2/3

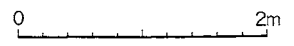


図25 第25・26号掘立柱建物跡

4.1m、柱穴C D間が4.0m、円弧に直交する南西から北東方向の柱穴B C間が2.9m、柱穴A D間が3.05mである。環状の円弧の方向に長めの長方形である。南北に長めの若干菱形を呈している。

[柱穴の平面形・規模] 柱穴Aタテ35cm×ヨコ45cm、楕円形。柱穴Bタテ45cm×ヨコ54cm、円形。柱穴Cタテ50cm×ヨコ47cm、円形。柱穴Dタテ44cm×ヨコ47cm、楕円形。

[柱穴の堆積土] 柱穴Dのみ半裁した。3層に区分されたが、柱痕等は認められなかった。他の柱穴は未調査。

[出土遺物] 未調査のため出土遺物なし。

[小結] 平面形が環状の円弧の方向に長めの長方形を呈する4本柱の掘立柱建物跡と思われる。

### 第27号掘立柱建物跡 (図26、写真14)

[位置・確認] XⅢK・L・M-240・241グリッドで、第V層の礫層上面にてピットが検出され、4本柱の掘立柱建物跡として確認された。なお、確認時に各柱穴の中央部に柱痕部と思われる暗褐色土の範囲が認められた。また、柱穴Aは東側に焼土が一部みられた。環状の北東側に位置する。

[重複] 柱穴Aの東側に焼土がみられたことから重複の可能性も考えられる。

[建物跡の平面形・規模] 環状建物跡群の環状の円弧に沿う南北の方向の柱穴A B間が4.75m、柱穴C D間が4.75m、円弧に直交する東西方向の柱穴B C間が3.95m、柱穴A D間が4.9mである。底辺を南にする台形状の平面形を呈する。

[柱穴の平面形・規模] 柱穴Aタテ115cm×ヨコ72cm (柱痕部はタテ90cm×ヨコ45cm)、楕円形。柱穴Bタテ73cm×ヨコ70cm (柱痕部はタテ40cm×ヨコ34cm)、不整円形。柱穴Cタテ57cm×ヨコ62cm (柱痕部タテ30cm×ヨコ32cm)、円形。柱穴Dタテ68cm×ヨコ57cm (柱痕部タテ38cm×ヨコ35cm)、不整円形。

[柱穴の堆積土] 未調査。

[出土遺物] 未調査のため出土遺物なし。

[小結] 4本柱の掘立柱建物跡と思われるが、平面形が台形状と他とは形状を異にしている。環状の円弧より外側に位置している。

### 第28号掘立柱建物跡 (図26・34、写真15・22)

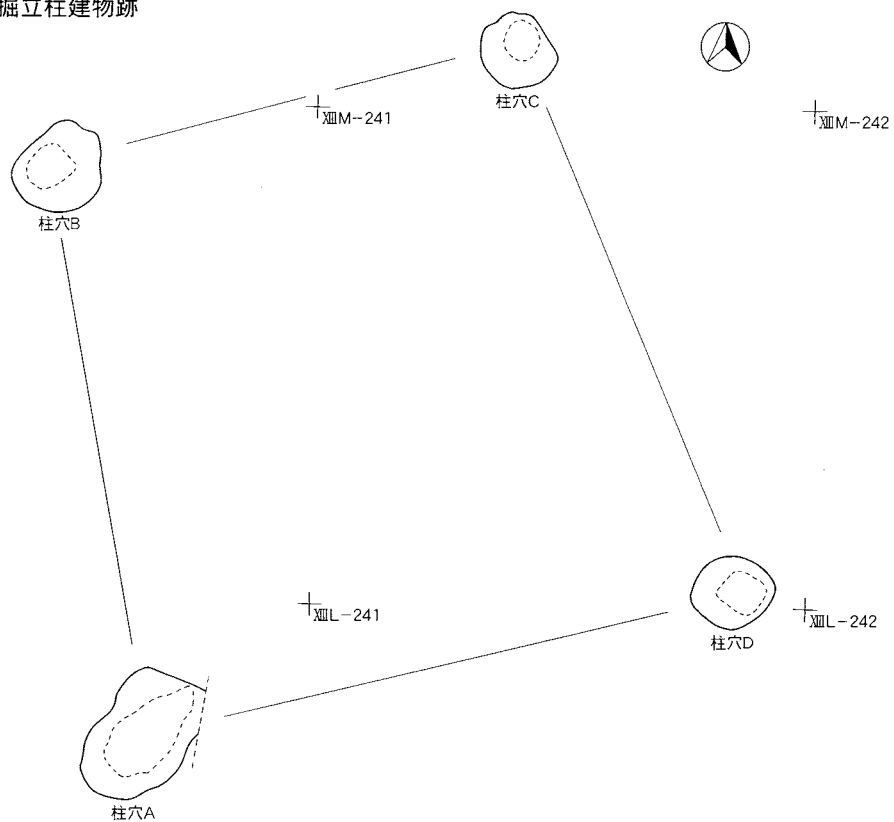
[位置・確認] XⅢJ・K-236・237グリッドで、第V層の礫層上面にてピットが検出され、4本柱の掘立柱建物跡として確認された。なお、北西方向に2個の黒褐色の範囲が認められたが、位置的に北西方向の棟持柱的なものになる可能性もある。ただ、少し掘り下げてみたがピット状になるものではなく、礫層上面で円形に黒褐色土の範囲が認められたという程度であった。環状の北東側に位置する。

[重複] なし。

[建物跡の平面形・規模] 環状建物跡群の環状の円弧に沿う南東から北西への方向の柱穴A B間が4.6m、柱穴C D間が4.45m、円弧に直交する南西から北東方向の柱穴B C間が3.95m、柱穴A D間が3.8mである。環状の円弧の方向に長めの方形である。

[柱穴の平面形・規模] 柱穴Aタテ55cm×ヨコ60cm、円形。柱穴Bタテ45cm×ヨコ54cm、円形。柱

第27号掘立柱建物跡



第28号掘立柱建物跡

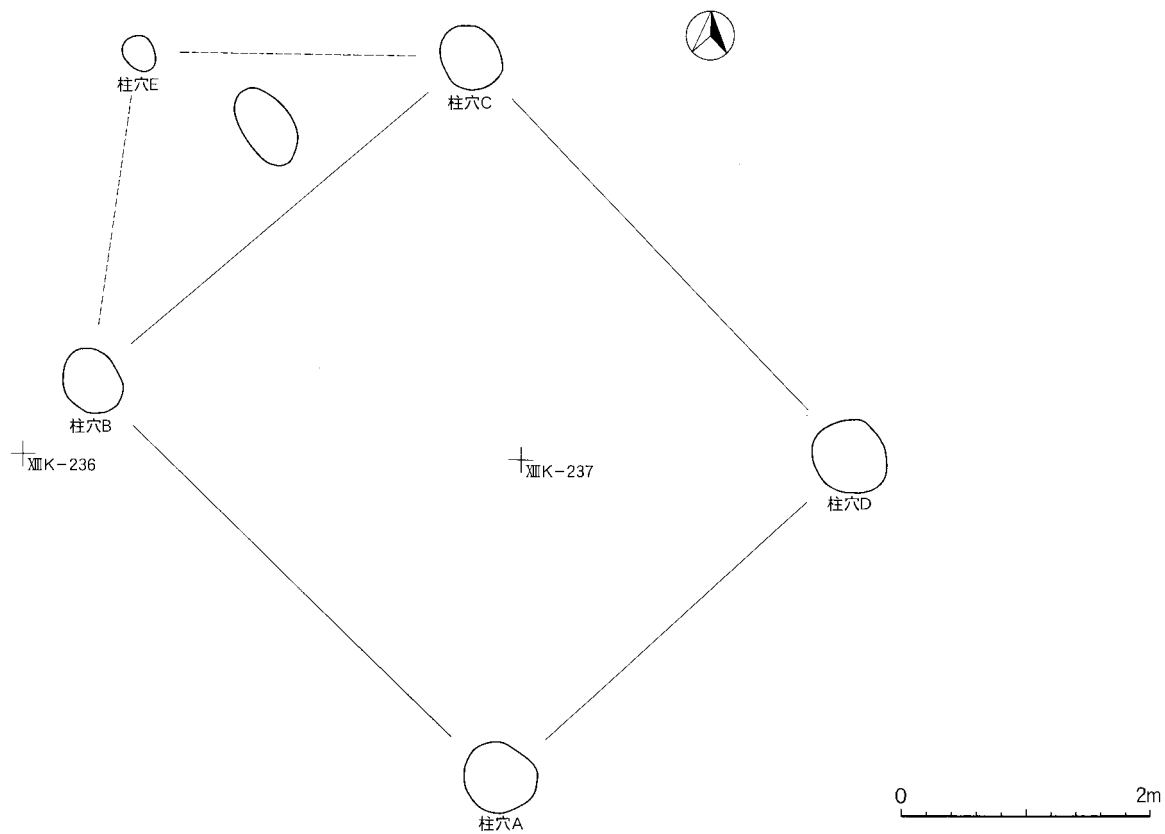


图26 第27・28号掘立柱建物跡

穴Cタテ46cm×ヨコ55cm、円形。柱穴Dタテ56cm×ヨコ64cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕未調査。

〔出土遺物〕確認段階で、柱穴Aから掘立28-4、柱穴Cから掘立28-1～3が出土している。いずれも縄文土器の破片で、1・2は口縁部破片、他は胴部破片である。時期は1が第Ⅱ群2類で中期末葉、他は第Ⅲ群3類で、縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕基本的に4本柱の掘立柱建物跡と思われる。円弧方向に長めの方形である。北西方向にみられた黒褐色の円形の範囲が市中穴的なものとなれば、亀甲形の変形版ともいえる五角形となる可能性もある。時期は出土遺物からみて縄文時代後期と思われるが他の掘立柱建物跡の例から後葉のころの可能性が高い。

### 第29号掘立柱建物跡（図27・34、写真15・16・22）

〔位置・確認〕XⅢL・M-234～236グリッドで、第V層の礫層上面にてピットが検出され、4本柱の掘立柱建物跡として確認された。環状の北東側に位置する。

〔重複〕なし。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う南東から北西への方向の柱穴A B間が4.75m、柱穴C D間が4.7m、円弧に直交する南西から北東方向の柱穴B C間が4.2m、柱穴A D間が4.1mである。環状の円弧の方向に長めの方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ56cm×ヨコ50cm、やや不整な円形。柱穴Bタテ62cm×ヨコ64cm、やや不整な円形。柱穴Cタテ53cm×ヨコ52cm、円形。柱穴Dタテ50cm×ヨコ48cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕柱穴Cは6層に区分された。全体に黒味を帯びた土で、柱痕及び掘り方の区別は認められなかった。他の柱穴は未調査。

〔出土遺物〕柱穴Dから掘立29-1～3・S1・S2が出土した。土器はいずれも縄文土器の破片で、3は小型土器の口縁で、他は胴部破片である。時期は第Ⅲ群3類で、縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕4本柱の掘立柱建物跡と思われる。円弧方向に長めの方形である。柱穴Cの柱痕と掘り方の差が認められないことは、礫層を掘り込む労力の多大さから柱の太さと掘り方の差がないという可能性も考えられる。時期は出土遺物からみて縄文時代後期後葉と思われる。

### 第30号掘立柱建物跡（図27、写真16）

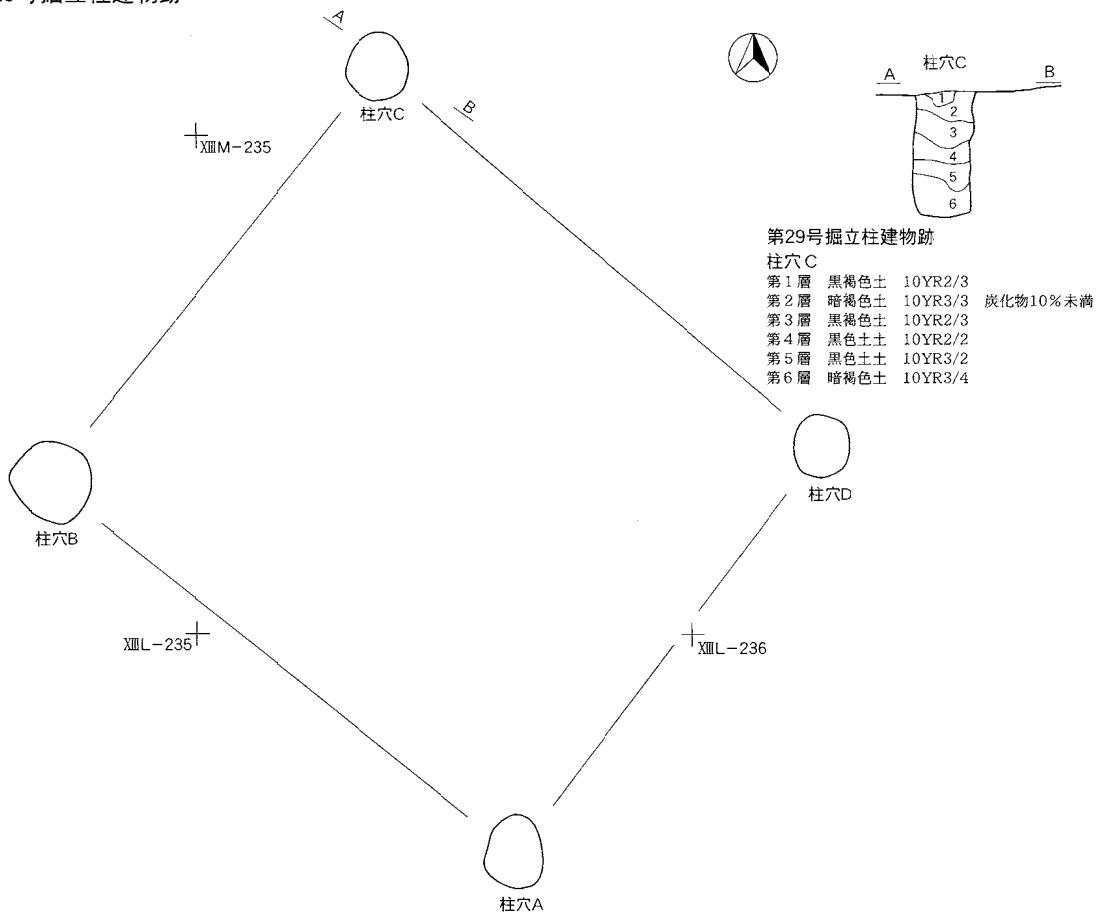
〔位置・確認〕XⅢL・M-230・231グリッドで、ピットが検出され、4本柱の掘立柱建物跡として確認された。環状の北側に位置する。

〔重複〕なし。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う東西方向の柱穴A B間が4.85m、柱穴C D間が4.8m、円弧に直交する南北方向の柱穴B C間が4.4m、柱穴A D間が4.5mである。環状の円弧の方向に幾分長めの方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ90cm×ヨコ93cm（柱痕部はタテ40cm×ヨコ40cm）、円形。柱穴Bタテ100cm×ヨコ116cm、楕円形（柱痕部はタテ50cm×ヨコ46cm、円形）。柱穴Cタテ90cm×ヨコ

第29号掘立柱建物跡



第30号掘立柱建物跡

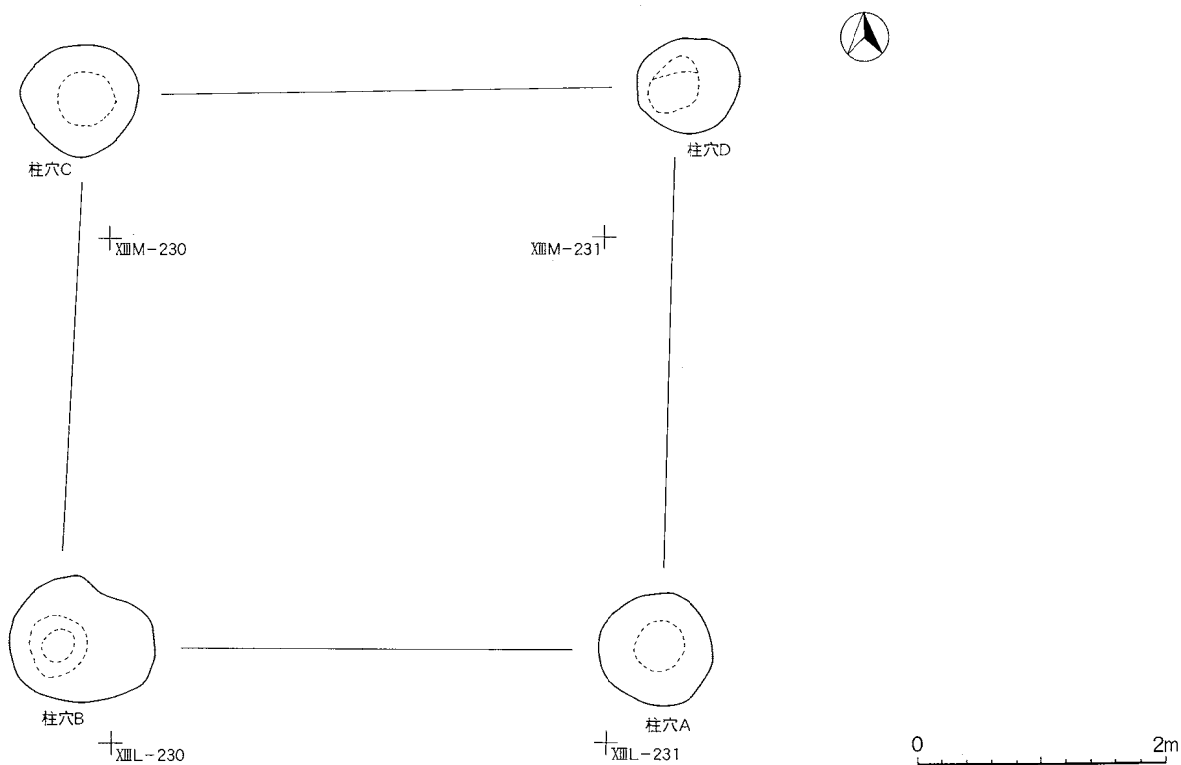


图27 第29・30号掘立柱建物跡

96cm（柱痕部タテ44cm×ヨコ45cm）、円形。柱穴Dタテ76cm×ヨコ82cm、円形（柱痕部タテ40cm×ヨコ46cm、不整円形）。

〔柱穴の堆積土〕未調査。

〔出土遺物〕未調査のため出土遺物なし。

〔小結〕円弧方向に長めの方形を示す4本柱の掘立柱建物跡である。

### 第31号掘立柱建物跡（図28、写真16・17）

〔位置・確認〕XⅢM・N-228・229グリッドで、ピットが検出され、4本柱の掘立柱建物跡として確認された。4本柱の主柱穴の西側に支柱穴らしいピット状の範囲が認められるが、東側にはみられなかった。環状の北側に位置する。

〔重複〕なし。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う東西方向の柱穴A B間が3.8m、柱穴C D間が3.9m、円弧に直交する南北方向の柱穴B C間が3.6m、柱穴A D間が3.6mである。環状の円弧の方向に幾分長めの方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ75cm×ヨコ75cm（柱痕部はタテ45cm×ヨコ45cm）、円形。柱穴Bタテ89cm×ヨコ85cm（柱痕部はタテ36cm×ヨコ36cm）、円形。柱穴Cタテ71cm×ヨコ68cm、円形、（柱痕部タテ38cm×ヨコ40cm、不整円形）。柱穴Dタテ71cm×ヨコ76cm（柱痕部タテ36cm×ヨコ36cm）円形。柱穴Fタテ29cm×ヨコ29cm、円形。

〔柱穴の堆積土〕未調査。

〔出土遺物〕未調査のため出土遺物なし。

〔小結〕環状の北側に位置する掘立柱建物跡。4本柱で円弧方向に長めの方形を示す平面形。西側に支柱穴がみられるが、東側にはない。しかしながら、平成12年度の確認のさいに礫層を下げて確認したところなので、浅い支柱穴であれば削平されてしまった可能性も否定し得ない。

### 第32号掘立柱建物跡（図28・34、写真17・22）

〔位置・確認〕XⅢM・N-226・227グリッドで、ピットが検出され、4本柱の掘立柱建物跡として確認された。環状の北側に位置する。

〔重複〕なし。

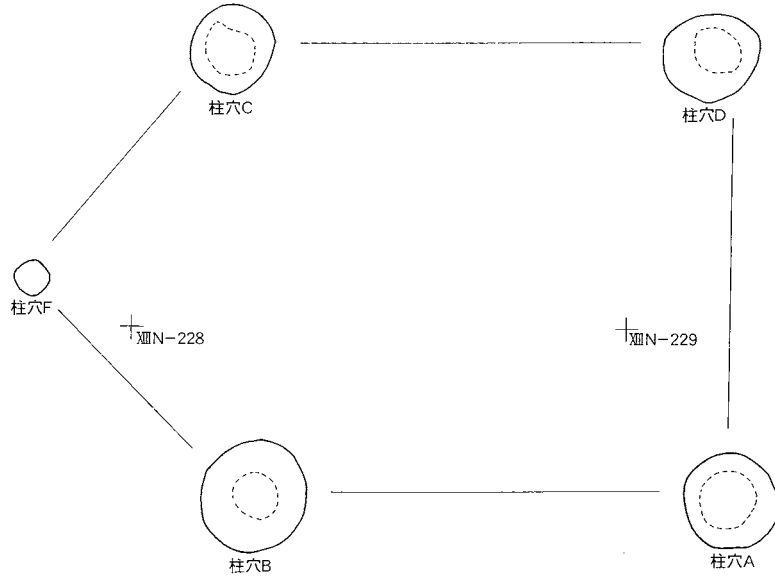
〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う東西方向の柱穴A B間が3.4m、柱穴C D間が3.5m、円弧に直交する南北方向の柱穴B C間が3.25m、柱穴A D間が3.1mである。環状の円弧の方向に幾分長めの方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ66cm×ヨコ61cm（柱痕部はタテ36cm×ヨコ34cm）、円形。柱穴Bタテ77cm×ヨコ66cm、円形。柱穴Cタテ54cm×ヨコ66cm、楕円形。柱穴Dタテ78cm×ヨコ76cm、円形。

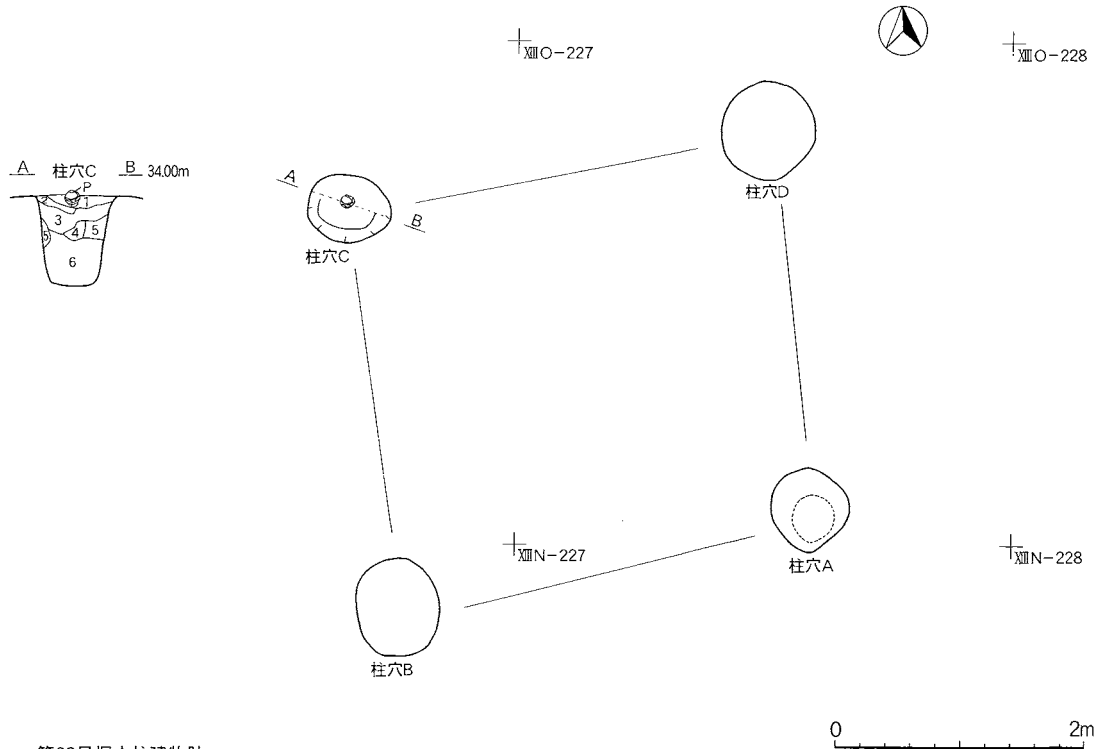
〔柱穴の堆積土〕柱穴Cは6層に区分された。

〔出土遺物〕柱穴Cの上面から掘立32-1を出土。無文地に粘土紐を貼付けている。注口土器である。時期は第Ⅲ群3類で、縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

第31号掘立柱建物跡



第32号掘立柱建物跡



第32号掘立柱建物跡

柱穴C

- 第1層 褐色土 10YR4/4 1~3cmの細礫を含む
- 第2層 黒褐色土 10YR3/1 焼土粒の混入多く、黒色土と褐色土の混合層、しまりなく軟らかい
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物と焼土粒を混じる、細礫を多く含む
- 第4層 黄褐色土 10YR5/6 ロームをブロック状に含む
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 第3層に似る
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 第3層に似る

図28 第31・32号掘立柱建物跡



〔小結〕円弧方向に長めの方形を示す平面形で4本柱の掘立柱建物跡。環状の北側に位置する。平成12年度調査時に出土した1の土器は、柱穴上面からの出土で、柱が存在しなくなってから柱穴に入り込んだものと思われるので、下限の時期を表すものと考えられる。時期は縄文時代後期後葉と思われる。

### 第33号掘立柱建物跡（図29、写真17）

〔位置・確認〕XⅢL・M-225・226グリッドで、ピットが検出され、4本柱の掘立柱建物跡として確認された。環状の北西側に位置する。

〔重複〕なし。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う北東から南西方向の柱穴A B間が4.55m、柱穴C D間が4.4m、円弧に直交する北西から南東方向の柱穴B C間が3.5m、柱穴A D間が3.8mである。環状の円弧の方向に幾分長めの方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ86cm×ヨコ84cm（柱痕部はタテ46cm×ヨコ48cm）、円形。柱穴Bタテ68cm、（柱痕部タテ38cm）円形。柱穴Cタテ65cm、円形。柱穴Dタテ77cm×ヨコ85cm、楕円形。

〔柱穴の堆積土〕未調査。

〔出土遺物〕未調査のため出土遺物なし。

〔小結〕円弧方向に長めの方形を示す平面形で4本柱の掘立柱建物跡。環状の北西側に位置する。

### 第34号掘立柱建物跡（図29・34、写真17・22）

〔位置・確認〕XⅢK・L-223・224グリッドで、ピットが検出され、4本柱の掘立柱建物跡として確認された。いずれも中央部に暗褐色の部分がみられ、柱痕部と思われる。環状の北西側に位置する。

〔重複〕なし。

〔建物跡の平面形・規模〕環状建物跡群の環状の円弧に沿う北東から南西方向の柱穴A B間が4.1m、柱穴C D間が3.85m、円弧に直交する北西から南東方向の柱穴B C間が4.0m、柱穴A D間が3.75mである。少しいびつな方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕柱穴Aタテ68cm×ヨコ70cm（柱痕部はタテ43cm×ヨコ43cm）、円形。柱穴Bタテ58cm×ヨコ65cm、不整円形、（柱痕部タテ41cm×ヨコ45cm、円形）。柱穴Cタテ58cm×ヨコ60cm（柱痕部タテ40cm×ヨコ38cm）、不整円形。柱穴Dタテ56cm×ヨコ60cm（柱痕部タテ38cm×ヨコ38cm）、不整円形。

〔柱穴の堆積土〕未調査。

〔出土遺物〕柱穴Aから掘立34-3、柱穴Bから掘立34-4、柱穴Dから掘立34-1・2が出土した。いずれも縄文土器の破片で、4は口縁部破片、他は胴部破片である。時期は第Ⅲ群3類が多く、縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕少しいびつな方形を示す4本柱の掘立柱建物跡。環状の北西側に位置する。時期は出土遺物からみて縄文時代後期後葉と思われる。

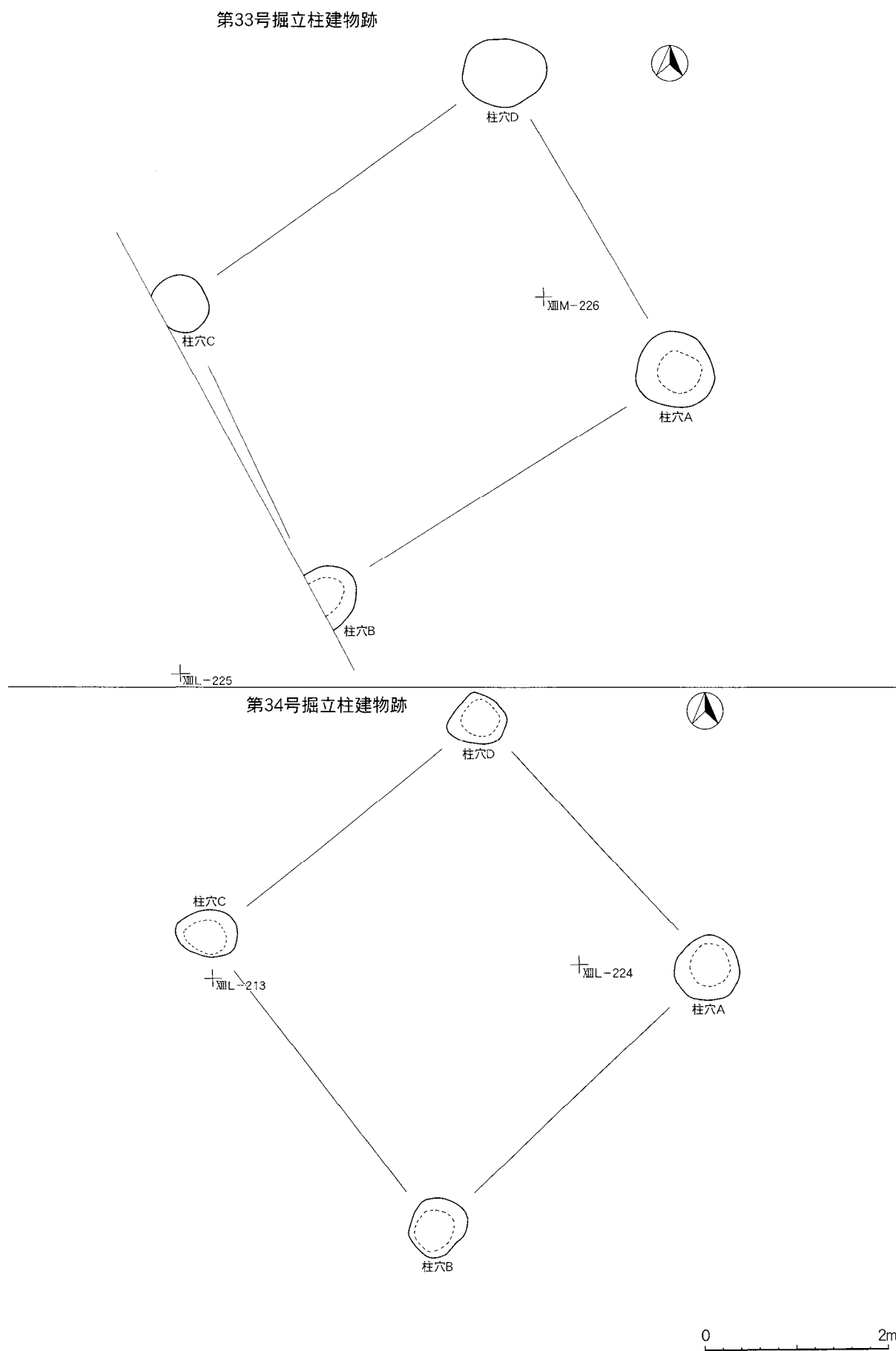


図29 第33・34号掘立柱建物跡

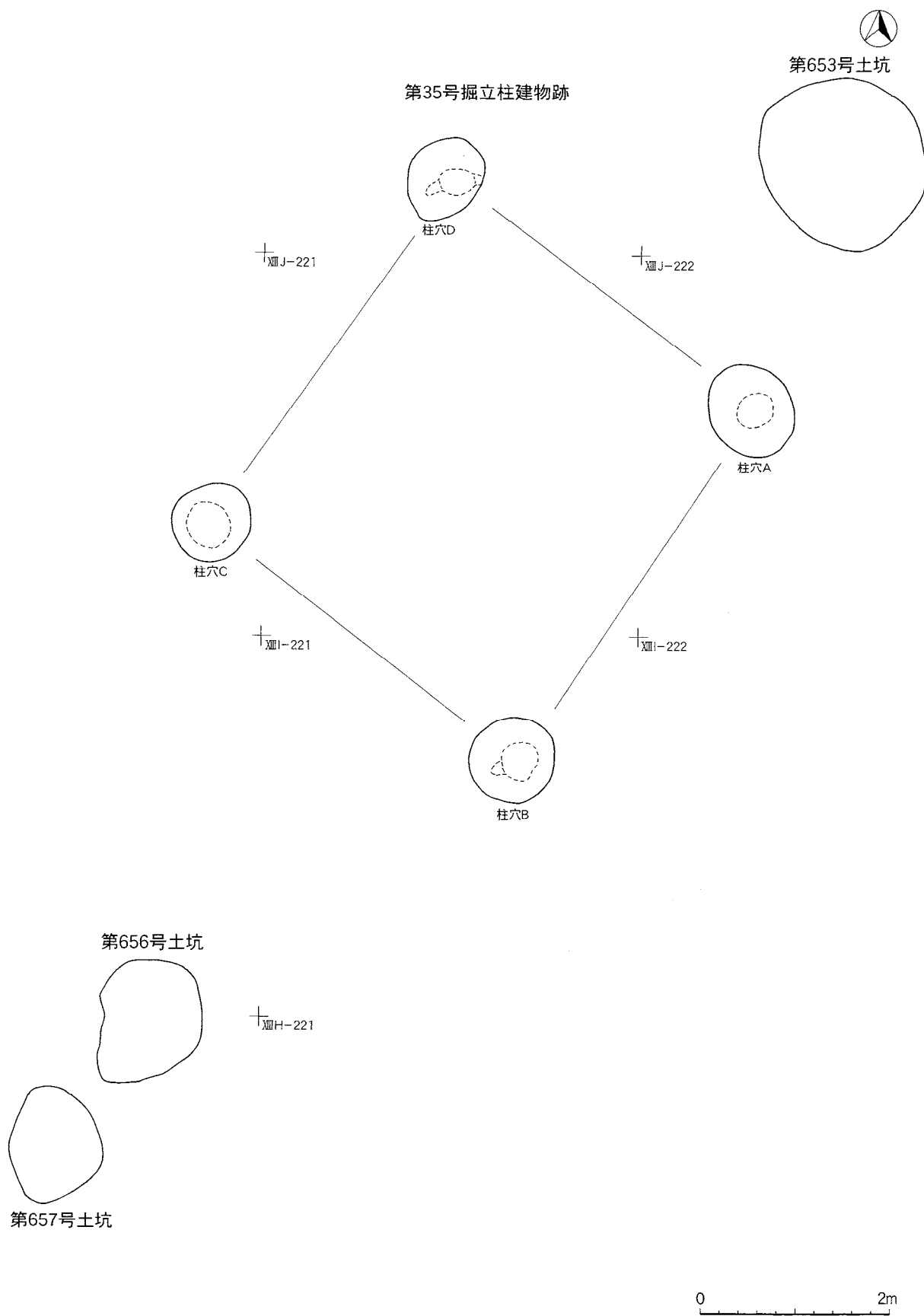


図30 第35号掘立柱建物跡、第653・656・657号土坑

第35号掘立柱建物跡（図30、写真17）

〔位置・確認〕 XⅢH・I・J-221・222グリッドで、ピットが検出され、4本柱の掘立柱建物跡として確認された。いずれも中央部に暗褐色の部分がみられ、柱痕部と思われる。環状の北西側に位置する。

〔重複〕 なし。

〔建物跡の平面形・規模〕 環状建物跡群の環状の円弧に沿う北東から南西方向の柱穴A B間が4.4m、柱穴C D間が4.4m、円弧に直交する北西から南東方向の柱穴B C間が4.1m、柱穴A D間が4.0mである。環状の円弧の方向に長めの方形である。

〔柱穴の平面形・規模〕 柱穴Aタテ100cm×ヨコ90cm（柱痕部はタテ36cm×ヨコ40cm）、円形。柱穴Bタテ90cm×ヨコ93cm（柱痕部タテ36cm×ヨコ40cm）、円形。柱穴Cタテ82cm×ヨコ86cm（柱痕部タテ47cm×ヨコ45cm）、円形。柱穴Dタテ77cm×ヨコ93cm（柱痕部タテ34cm×ヨコ30cm）、楕円形。

〔柱穴の堆積土〕 未調査。

〔出土遺物〕 未調査のため出土遺物なし。

〔小結〕 環状に沿う円弧の方向に長めの方形を示す4本柱の掘立柱建物跡。環状の北西側に位置する。

（木村鐵次郎）

掘立柱建物跡計測表

遺構名称	発掘時番号	柱穴AB 間距離(m)	柱穴D 間距離(m)	AB・CD 平均距離(m)	柱穴BC 間距離(m)	柱穴AD 間距離(m)	BC・AD 平均距離(m)
第1号 掘立柱建物跡	99S B2	3.7	4	3.85	3.75	3.5	3.63
第2号 掘立柱建物跡	99S B3	4.7	4.8	4.75	3.9	3.9	3.9
第3号 掘立柱建物跡	99S B1	4.75	4.7	4.73	4.2	4.2	4.2
第4号 掘立柱建物跡	00S B13	1.9	1.8	1.85	1.7	1.7	1.7
第5号 掘立柱建物跡	00S B12	3.4	3.55	3.48	2.95	3.15	3.05
第6号 掘立柱建物跡	00S B11	4.5	3.3	3.9	3.5	3.5	3.5
第7号 掘立柱建物跡	00S B4	5.1	5.3	5.2	5.4	5.4	5.4
第8号 掘立柱建物跡	00S B5	5	4.8	4.9	4.2	4.3	4.25
第9号 掘立柱建物跡	00S B6	4	4.25	4.13	3.35	3.6	3.48
第10号 掘立柱建物跡	00S B14	3.1	3.37	3.24	3.95	3.25	3.6
第11号 掘立柱建物跡	00S B9	3.4	3.6	3.5	3.55	3.3	3.43
第12号 掘立柱建物跡	00S B15		3.7	3.7	3.5		3.5
第13号 掘立柱建物跡	00S B3	4	3.8	3.9	3.6	3.55	3.58
第14号 掘立柱建物跡	00S B10	4.15	4.05	4.1	3.3	3.6	3.45
第15号 掘立柱建物跡	00S B1	5	4.9	4.95	4.5	4.4	4.45
第16号 掘立柱建物跡	00S B8	4.6	4.75	4.68	3.6	3.4	3.5
第17号 掘立柱建物跡	00S B2	3.9	3.65	3.78	3.25	3.55	3.4
第18号 掘立柱建物跡	00S B7	2.9	3	2.95	2.7	2.5	2.6
第19号 掘立柱建物跡	00S B22	4.2	4.2	4.2	3.6	3.45	3.53
第20号 掘立柱建物跡	00S B21	2.8	2.85	2.83	2.75	2.75	2.75
第21号 掘立柱建物跡	00S B20	3.4	3.3	3.35	3.9	3.6	3.75
第22号 掘立柱建物跡	00S B19	5.3	5.1	5.2	5.1	4.7	4.9
第23号 掘立柱建物跡	00S B18	3.6	3.6	3.6	3.3	3.1	3.2
第24号 掘立柱建物跡	00S B17	3.65		3.65	3.5		3.5
第25号 掘立柱建物跡	01S B8	3.95	3.9	3.93	3.25	3.3	3.28
第26号 掘立柱建物跡	01S B7	4.1	4	4.05	2.9	3.05	2.98
第27号 掘立柱建物跡	01S B9	4.75	4.75	4.75	3.95	4.9	4.43
第28号 掘立柱建物跡	01S B6	4.6	4.45	4.53	3.95	3.8	3.88
第29号 掘立柱建物跡	01S B5	4.75	4.7	4.73	4.2	4.1	4.15
第30号 掘立柱建物跡	00S B16	4.85	4.8	4.83	4.4	4.5	4.45
第31号 掘立柱建物跡	00S B23	3.8	3.9	3.85	3.6	3.6	3.6
第32号 掘立柱建物跡	01S B4	3.4	3.5	3.45	3.25	3.1	3.18
第33号 掘立柱建物跡	01S B3	4.55	4.4	4.48	3.5	3.8	3.65
第34号 掘立柱建物跡	01S B2	4.1	3.85	3.98	4	3.75	3.88
第35号 掘立柱建物跡	01S B1	4.4	4.4	4.4	4.1	4	4.05

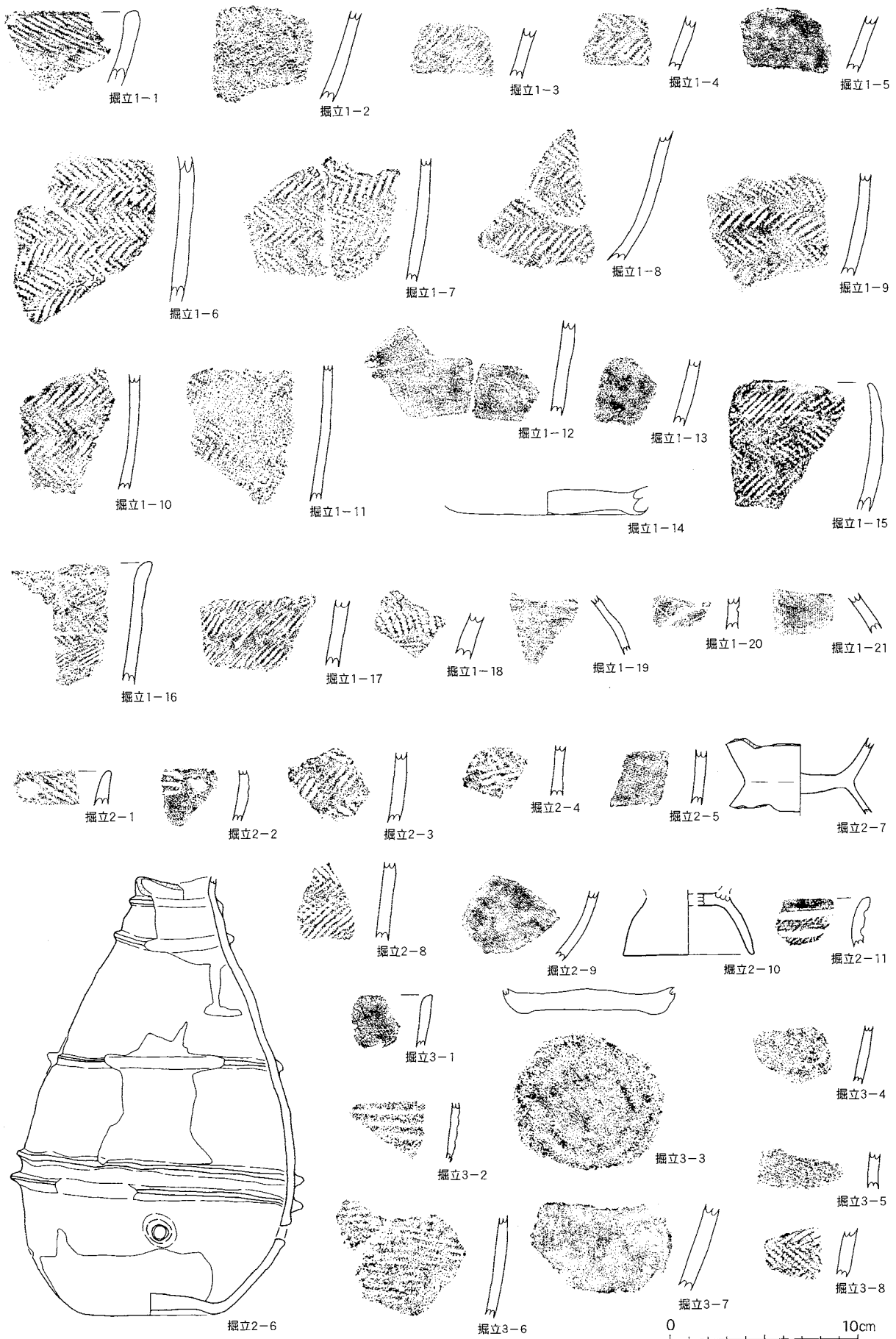


図31 第1・2・3号掘立柱建物跡出土遺物

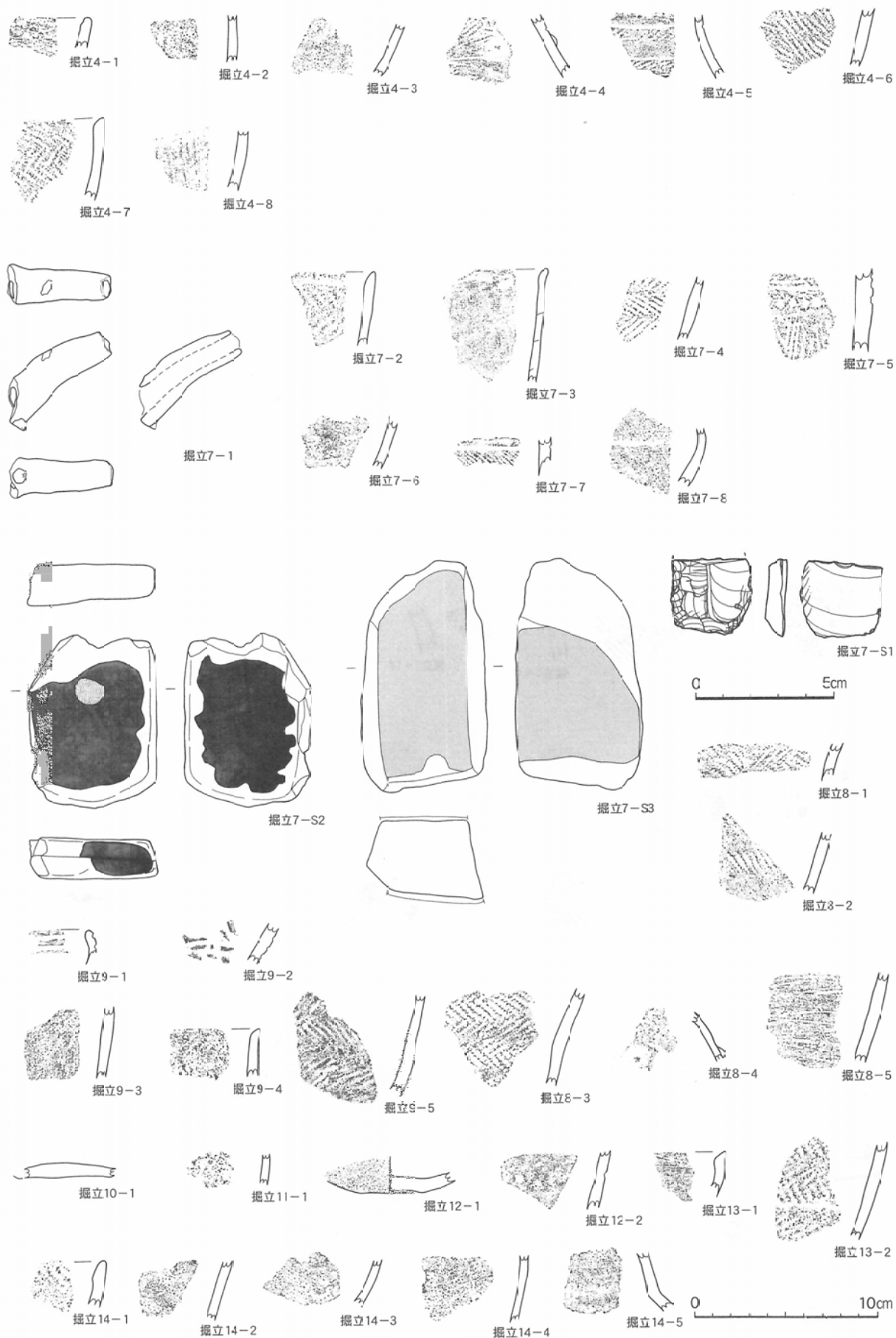


图32 第4・7・8・9・10・11・12・13・14号掘立柱建物跡出土遺物

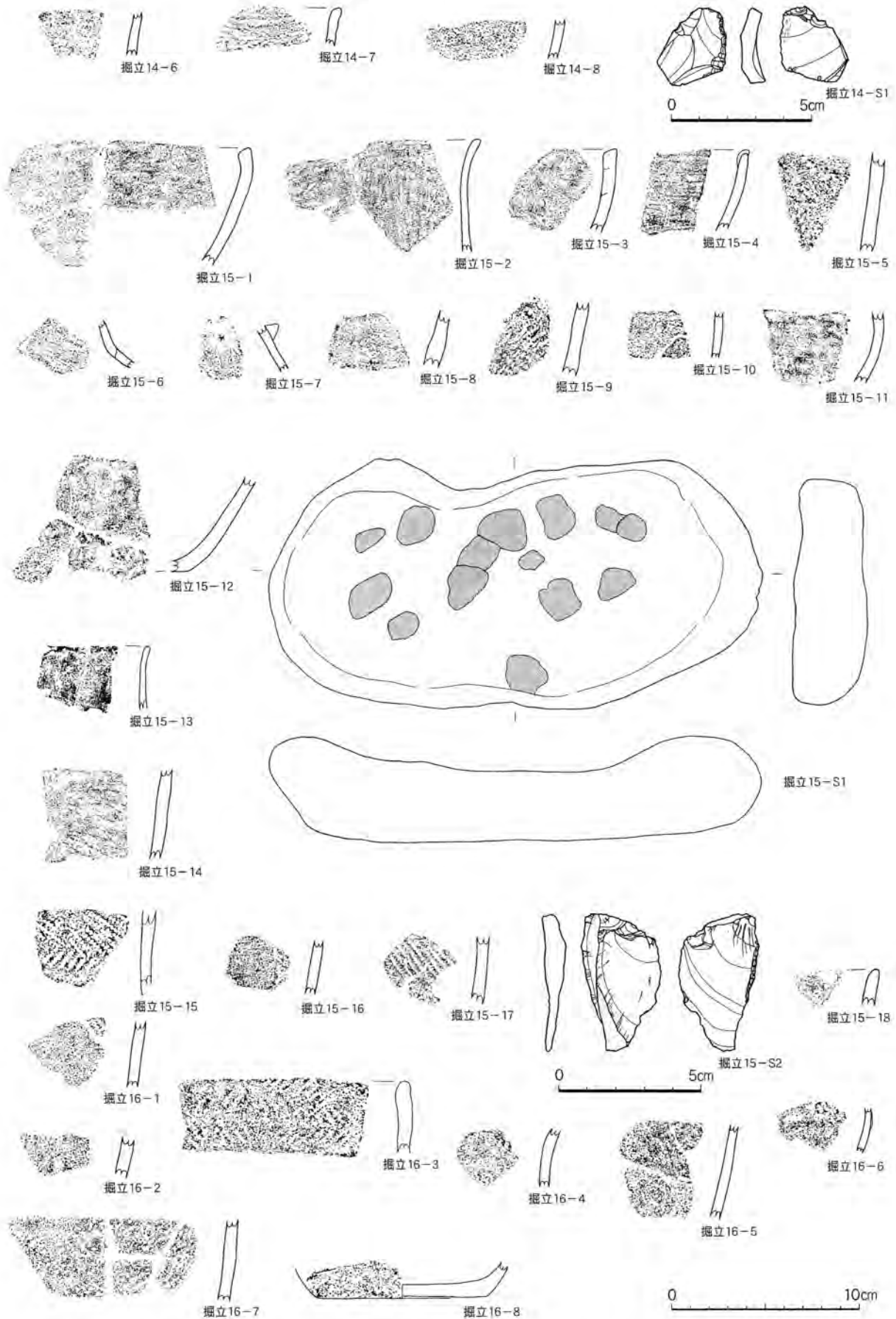


図33 第14・15・16号掘立柱建物跡出土遺物

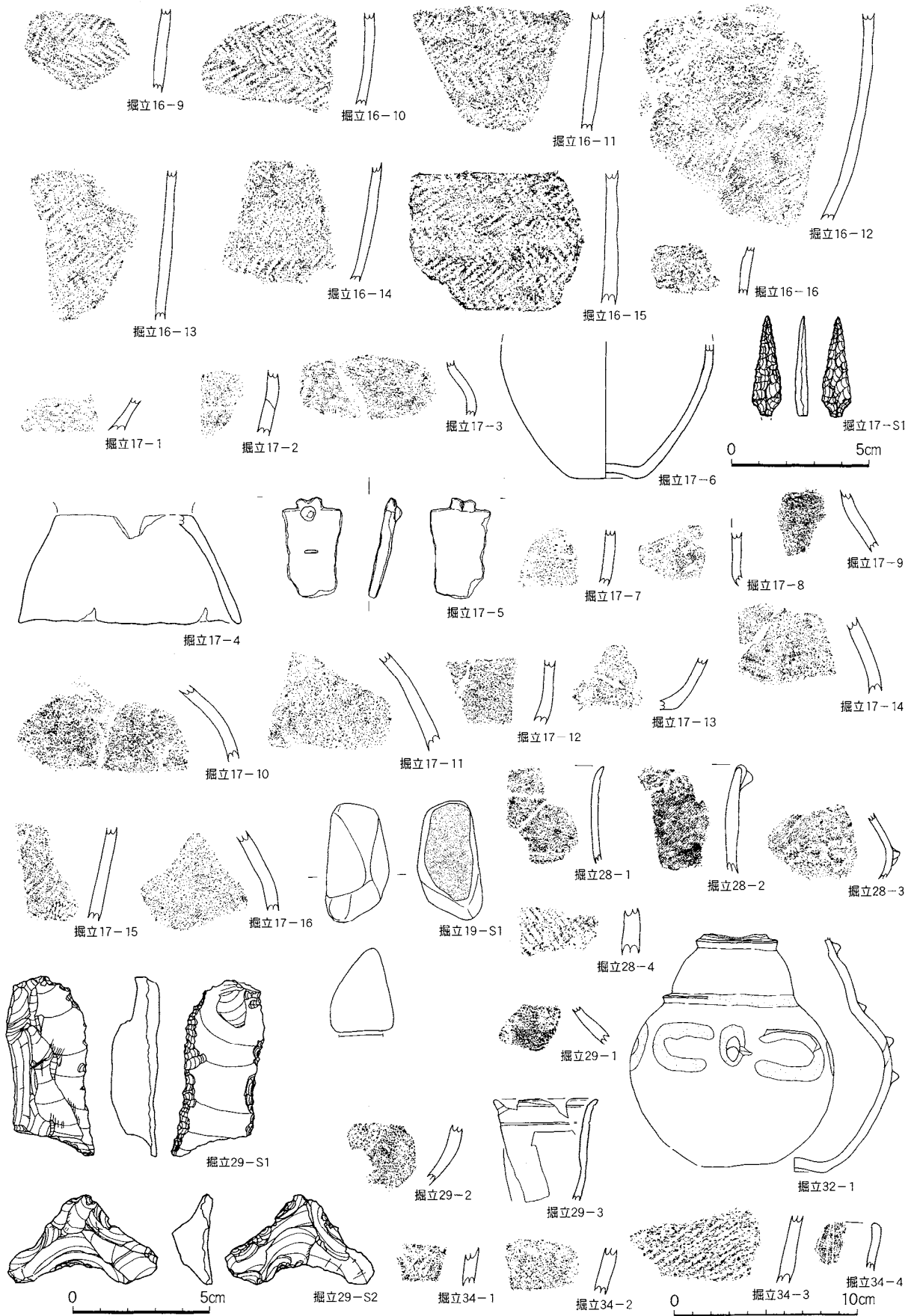


図34 第16・17・28・29・32・34号掘立柱建物跡出土遺物



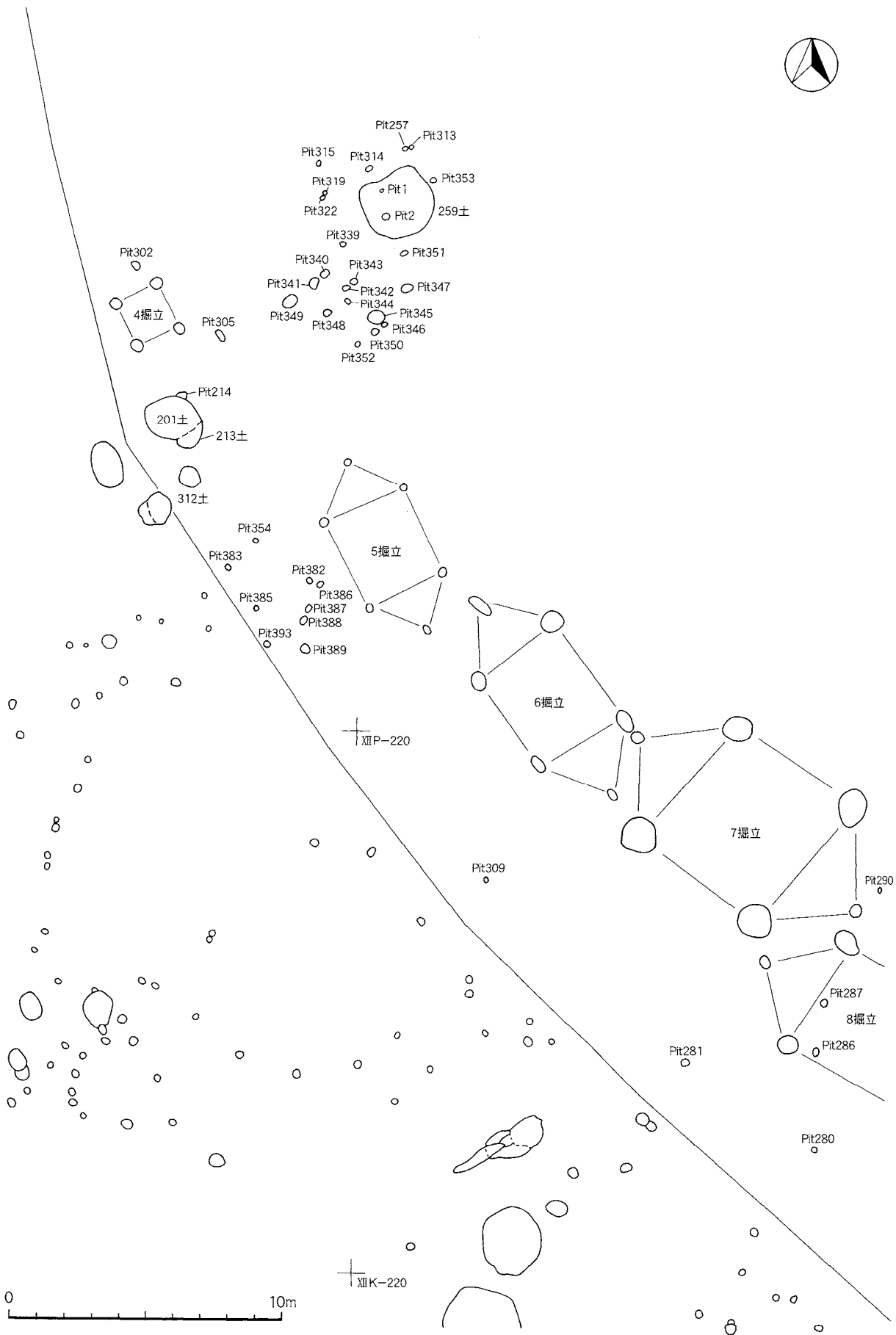


図35 土坑・ピット配置図(1)

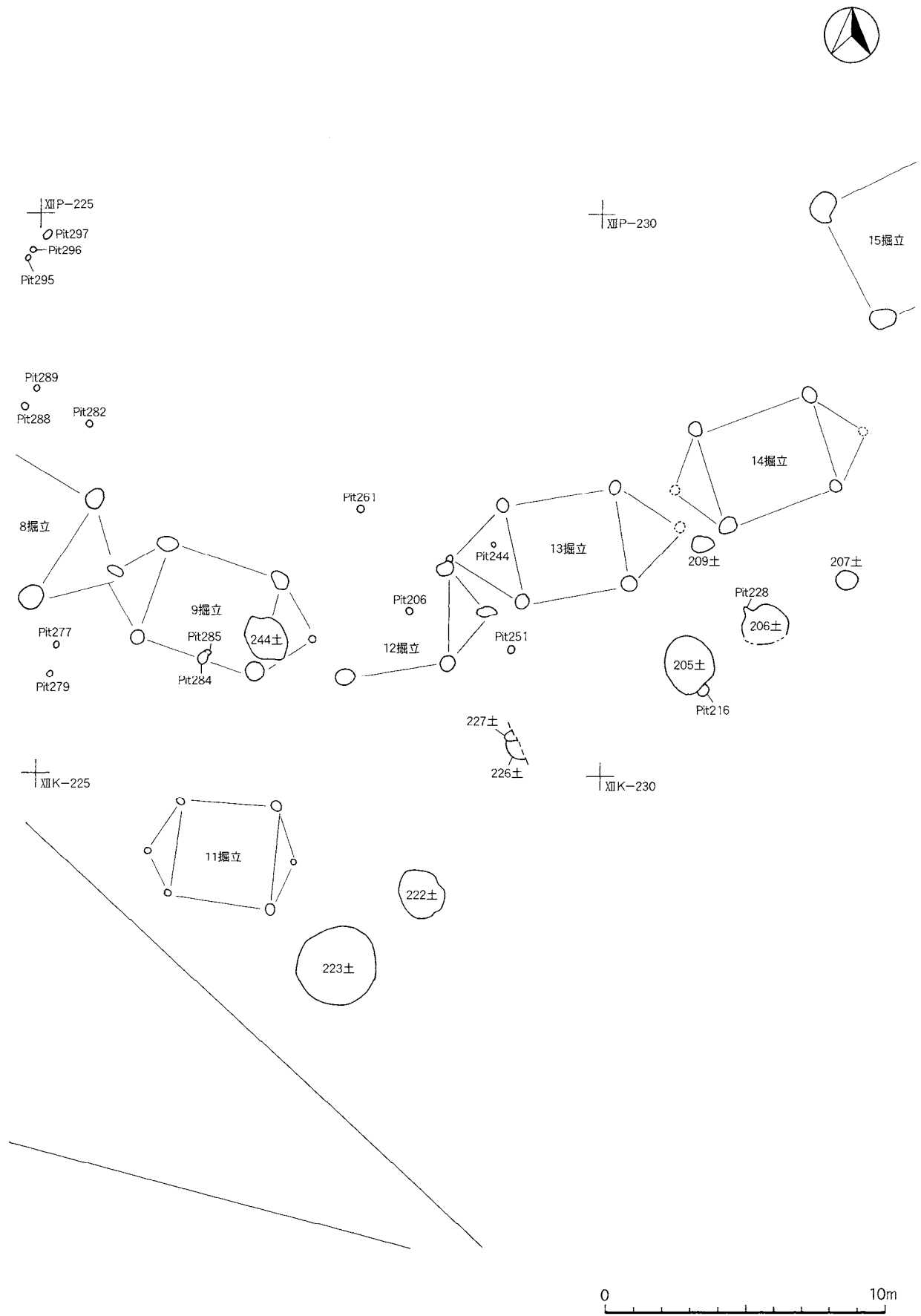


図36 土坑・ピット配置図(2)

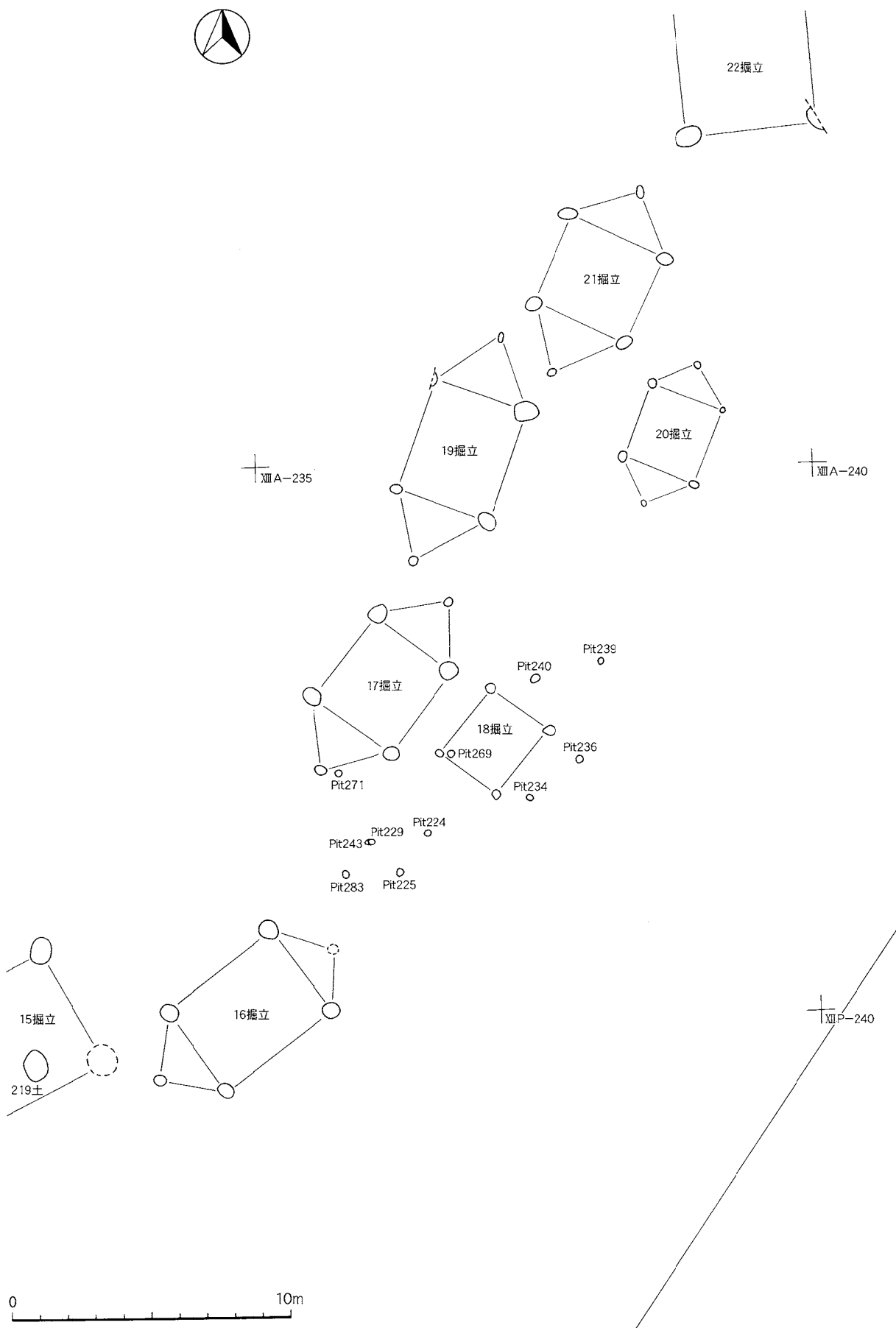


図37 土坑・ピット配置図(3)

## 第2節 土坑・ピット

### 第201号・213号土坑（図38・49、写真18・22）

〔位置・確認〕 XⅡR-218グリッドで黒色土の落ち込みとして確認された。

〔重複〕 第201号土坑は第213号土坑・ピット214と重複している。前後関係は、第201号土坑が第213号土坑より新しく、ピット214より古いものようである。

〔平面形・規模〕 第201号土坑は、平面形が楕円形で、開口部が長径200cm×短径165cm、底面は長径155cm×短径140cm、深さ42cmである。

第213号土坑は、平面形は明確ではないが、円形か楕円形と思われる。

〔断面・底面〕 第201号土坑は、断面は皿形で壁はなだらかに立ち上がる。底面は平坦である。

第213号土坑は、断面はやや四角形に近く、壁はやや急に立ち上がるものようである。底面は平坦である。

〔堆積土〕 第201号土坑と第213号土坑とあわせて17層に区分された。第1層～第8層と第10・11・14・17層は第201号土坑に、第9・12・13・15・16層は第213号土坑に属する可能性が高い。

〔出土遺物〕 縄文土器と石器が出土している。201土1～15・S1・S2・S3で、2は口縁部破片、14は底部破片、他は胴部破片である。S1は削器、S2は磨製石斧、S3は凹石である。1・2・5・13が第Ⅲ群1類で縄文時代後期前葉にその他は第Ⅲ群3類で縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕 第201号土坑は、第213号を切ってつくられた土坑で、前後関係は第213号土坑が古く、ピット214は第201号土坑を切ってつくられたものと思われる。第201号土坑は出土遺物から縄文時代後期のものようである。

### 第205号土坑・ピット216（図38・49・50、写真18・22）

〔位置・確認〕 XⅡK・L-230グリッドで黒褐色土の落ち込みとして確認された。

〔重複〕 南東部でピット216と接している。新旧は不明である。

〔平面形・規模〕 平面形が南北に長めの楕円形で、開口部が長径210cm×短径185cm、底面は長径165cm×短径120cm、深さ24cmである。

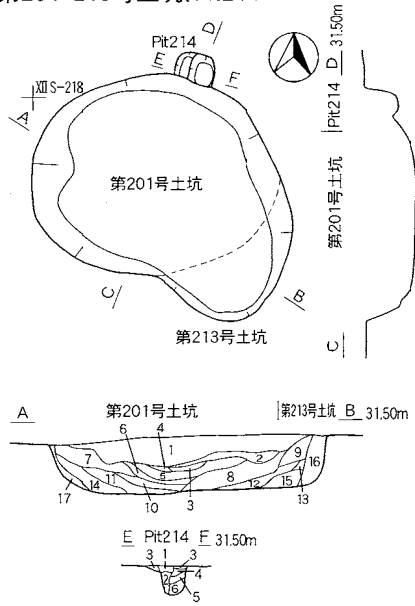
〔断面・底面〕 断面は浅い皿状を呈し、壁はゆるやかに立ち上がる。底面は、中央部が最も低くなり、壁に向かってなだらかに立ち上がっていく。

〔堆積土〕 10層に区分された。

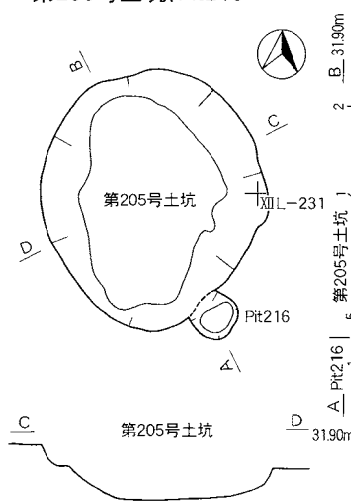
〔出土遺物〕 縄文土器と石器が出土している。205土1～9・S1で、S1は台石、9は口縁部破片、1と7は底部破片、他は胴部破片である。土器は第3群3類で縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕 開口部が2m前後の楕円形を呈する土坑で、出土遺物から縄文時代後期後葉ころのものと思われる。

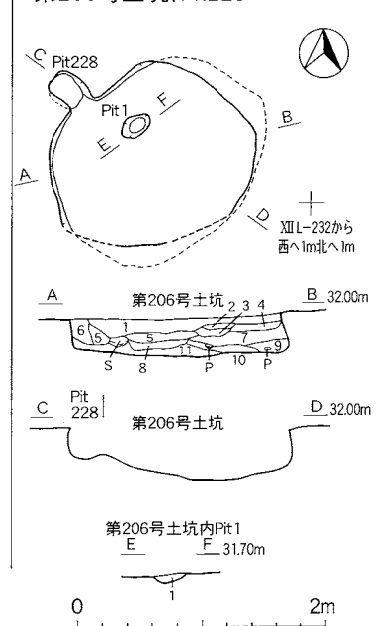
第201・213号土坑、Pit214



第205号土坑、Pit216



第206号土坑、Pit228



第201号・213号土坑

第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径0.5~3mm)1%	しまり有	粘性なし		
第2層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径0.5mm)1%	焼土粒(径1mm)1%	しまり有 粘性なし		
第3層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径0.5~2mm)1%	しまり有	粘性なし		
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径0.5~2mm)1%	しまり有	粘性なし		
第5層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒(径0.5~2mm)1%	黒褐色土(10YR2/2)3%	しまり有 粘性なし		
第6層	黒褐色土	10YR2/2	L B(径1~13mm)1%	黒色土(10YR1.7/1 径5mm)7%	しまり有 粘性なし		
第7層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径0.5~3mm)5%	炭化物(径2mm)1%	しまり有 粘性なし		
第8層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径0.5~8mm)7%	浮石(径25mm)1%	黒色土(10YR1.7/1 径5~50mm)1%	しまり有 粘性なし	
第9層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径0.5~5mm)5%	しまり有	粘性やや有		
第10層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径0.5~2mm)3%	しまり有	粘性なし		
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径0.5~2mm)5%	炭化物(径1~2mm)5%	しまり有 粘性やや有		
第12層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径0.5~5mm)5%	焼土粒(径1~2mm)1%	しまり有 粘性やや有		
第13層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径0.5~20mm)5%	しまり有	粘性やや有		
第14層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~2mm)2%	黒褐色土(10YR2/2)1%	しまり有 粘性やや有		
第15層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径0.5~10mm)5%	焼土粒(径1mm)1%	しまり有 粘性やや有		
第16層	ぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒(径1~25mm)10%	炭化物(径1~2mm)2%	焼土粒(径1~3mm)2%	暗褐色土(10YR3/3)30%	しまり有 粘性なし
第17層	褐色土	10YR4/4	ローム粒(径1~5mm)7%	黒褐色土(10YR2/2)7%	しまり有 粘性なし		

Pit214

第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)10%	しまり有	粘性なし	
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)3%	しまり有	粘性有	
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)7%	しまり有	粘性なし	
第4層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物(径1~2mm)1%	しまり有	粘性なし	
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)5%	炭化物(径1~2mm)1%	しまり有 粘性やや有	
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2~5mm)7%	L B(径50mm)1個	焼土粒(径1mm)1%	しまり有 粘性やや有

第205号土坑

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~20mm)20%	しまり有	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~10mm)25%	しまり有	粘性なし
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~15mm)10%	しまり有	粘性なし
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~4mm)3%	しまり有	粘性なし
第5層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~20mm)2%	しまり有	粘性やや有
第6層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒(径1~20mm)2%	しまり有	粘性やや有
第7層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径15mm)1個	しまり有	粘性やや有
第8層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~5mm)2%	黒色土1%	しまり有 粘性やや有
第9層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)2%	黒色土(10YR2/1)との混合土	しまり有 粘性なし
第10層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~5mm)3%	小礫(径5~20mm)4個	しまり有 粘性やや有

Pit216

第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径2~5mm)2%	しまり有	粘性やや有
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)7%	L B(径5~30mm)15%	しまり有 粘性やや有

第206号土坑

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1mm)3%	しまり非常に有	粘性なし		
第2層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~10mm)5%	炭化物1%	小礫(径10~15mm)3%	しまり有 粘性ほとんどなし	
第3層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~10mm)7%	L B(径20mm)2個	炭化物1%	しまり有 粘性ほとんどなし	
第4層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1mm)1%	しまり有	粘性ほとんどなし		
第5層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1mm)3%	小礫(径5mm)1個	しまり有 粘性ほとんどなし		
第6層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~3mm)15%	炭化物5%	小礫(径5mm)2個	しまり有 粘性なし	
第7層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~5mm)10%	L B(径15mm)5個	炭化物7%	小礫(径5mm)2%	しまり有 粘性やや有
第8層	黒褐色土	10YR2/2	黄褐色土(10YR5/6)のローム粒(径1~15mm)20%	炭化物5%	しまり有 粘性なし		
第9層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~5mm)5%	小礫(径1~5mm)5%	しまり有 粘性やや有		
第10層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~15mm)15%	しまり有	粘性やや有		
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)7%	しまり有	粘性やや有		

第206号土坑内 Pit1

第1層	黒色土	10YR2/1	しまり有	粘性有
-----	-----	---------	------	-----

図38 第201・213号土坑、Pit214、第205号土坑、Pit216、第206号土坑、Pit228

### 第206号土坑・ピット228（図38・50・51・54、写真18・22・23）

〔位置・確認〕XⅡL-231グリッドで黒褐色土の円形の落ち込みとして確認され第206号土坑とした。北西部に第206号土坑と接する形で張り出している部分が認められ、ピット228とした。

〔重複〕第206号土坑の北西部でピット228と接している。土坑に付属するものか重複するものか、及び新旧は不明である。また、第206号土坑の内部の底面にピットが認められたが、土坑との新旧は不明である。

〔平面形・規模〕第206号土坑は、平面形がやや不整な円形で、開口部が長径165cm×短径148cm、底面は長径175cm×短径153cm、深さ28cmである。ピット228は開口部長径30cm×短径23cm、底面長径28cm×短径23cm、深さ25cm。

〔断面・底面〕壁は垂直気味に立ち上がるもので、東側では内湾気味になっている。底面は全般に平坦である。

〔堆積土〕11層に区分された。底面のピットは1層である。

〔出土遺物〕縄文土器と石器が出土している。206土1～11・S1・S2・S3である。S1は削器、S2は凹石、S3は台石である。1・2・4・8・10が口縁部破片、6は台付土器の脚部破片、他は胴部破片である。土器は第Ⅲ群3類のものが多く縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。ピット228からは228P1・2が出土している。いずれも第Ⅲ群3類で縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕平面形はやや不整の円形である。壁が内湾ないしは垂直に立ち上がるもので、出土遺物から縄文時代後期後葉ころのものと思われる。

### 第207号土坑（図39・51、写真18・23）

〔位置・確認〕XⅡL-232グリッドで黒色土及び黒褐色土の円形の落ち込みとして確認された。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕開口部が径75cm、底面は径53cm、深さ20cmの平面形が円形の土坑である。

〔断面・底面〕壁は急な傾斜で外傾して立ち上がる。底面は東から北西及び西方向に傾斜している。

〔堆積土〕7層に区分された。

〔出土遺物〕縄文土器が出土している。207土1・2である。1が口縁部破片、2は胴部破片である。第Ⅲ群3類で縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕平面形が円形の土坑である。出土遺物から縄文時代後期後葉ころの可能性はある。

### 第209号土坑（図39、写真18）

〔位置・確認〕XⅡM-230グリッドで黒色土及び黒褐色土の楕円形の落ち込みとして確認された。

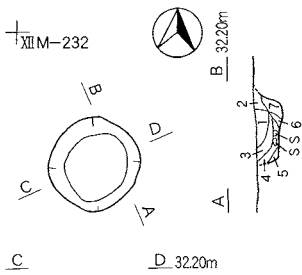
〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕開口部が長径76cm×短径63cm、底面は長径63cm×短径45cm、深さ22cmの東西に長めの楕円形である。

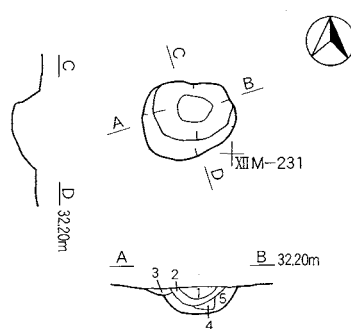
〔断面・底面〕壁はゆるやかに外傾して立ち上がる。底面は真中より東側が最も低くなっている。

〔堆積土〕5層に区分された。

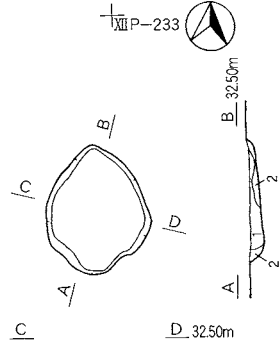
第207号土坑



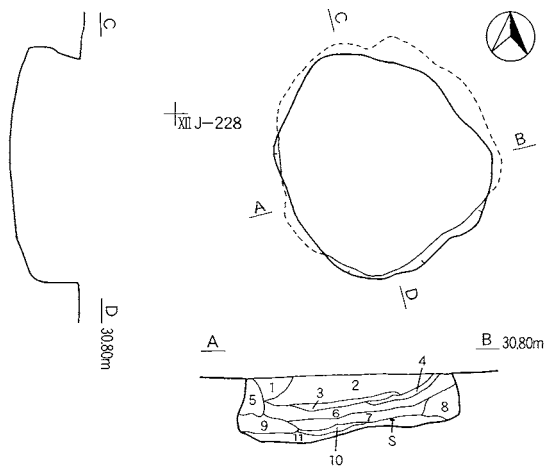
第209号土坑



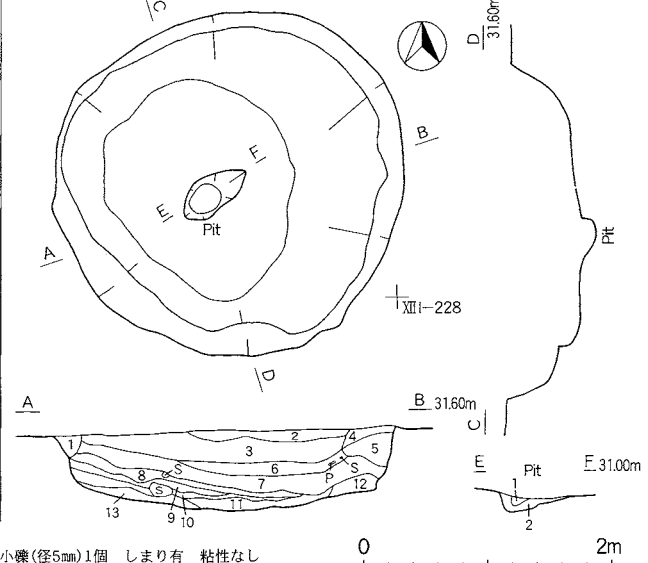
第219号土坑



第222号土坑



第223号土坑



第207号土坑

第1層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~2mm)10%	焼土粒(径1~2mm)2%	小礫(径5mm)1個	しまり有	粘性なし
第2層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~13mm)10%	小礫(径3~10mm)1%		しまり有	粘性なし
第3層 黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~5mm)15%	焼土粒(径1~2mm)2%		しまり有	粘性やや有
第4層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)7%			しまり有	粘性やや有
第5層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~3mm)20%			しまり有	粘性有
第6層 黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~7mm)20%			しまり有	粘性有
第7層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~15mm)15%			しまり有	粘性有

第209号土坑

第1層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~2mm)3%			しまり有	粘性やや有
第2層 黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~5mm)5%			しまり有	粘性やや有
第3層 黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)5%			しまり有	粘性やや有
第4層 黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~10mm)15%			しまり有	粘性有
第5層 暗褐色土	10YR3/3	褐色土(10YR4/4)との混合土			しまり有	粘性有

第219号土坑

第1層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~8mm)3%	小礫(径3~6mm)3%		しまり有	粘性なし
第2層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~15mm)15%	小礫(径3~5mm)2%		しまり有	粘性やや有

第222号土坑

第1層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径0.5~3mm)2%	炭化物(径1mm)1%		しまり有	粘性なし
第2層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~6mm)1%	炭化物(径1~5mm)1%	小礫(径2~5mm)1%	礫(径15mm)1個	しまり有 粘性なし
第3層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~8mm) L B(径20mm)2%	炭化物(径1~2mm)1%		しまりやや有	粘性ほとんどなし
第4層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10mm)2%	炭化物(径2mm)1%		しまり有	粘性なし
第5層 黒褐色土	10YR2/2	ローム(全体に混じる)15%	炭化物(径1~2mm)1%		しまり有	粘性ほとんどなし
第6層 黒色土	10YR1.7/1	ローム粒(径1~5mm) L B(径15mm)1%	炭化物(径1~15mm)1%		しまり有	粘性やや有
第7層 黒色土	10YR1.7/1	ローム粒(径1~4mm)1%	炭化物(径2~10mm)1%		しまりやや有	粘性やや有
第8層 黒褐色土	10YR2/3	ローム30%			しまり有	粘性ほとんどなし
第9層 黒色土	10YR1.7/1	ローム粒(径1~5mm) L B(径10mm)1%			しまり有	粘性なし
第10層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径3~8mm) L B(径20mm)1%			しまりやや有	粘性やや有
第11層 黒色土	10YR2/1	ローム7%			しまり有	粘性ほとんどなし

第223号土坑

第1層 黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)2%	炭化物(径1~3mm)1%		しまり有	粘性なし
第2層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径0.5~3mm)1%	炭化物(径1~3mm)1%	焼土粒(径1mm)1%	しまり有	粘性なし
第3層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径0.5~3mm)1%	炭化物(径1~10mm)1%	小礫(径2~5mm)1%	しまり有	粘性なし
第4層 黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径0.5~5mm)1%	炭化物(径2mm)1%	小礫(径10mm)1%	しまり有	粘性なし
第5層 黒褐色土	10YR2/2	ローム(全体に混じる)15%	炭化物(径2mm)1%		しまり有	粘性なし
第6層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径0.5~5mm)1%	炭化物(径1~6mm)1%	焼土粒(径1mm)1%	小礫(径2~10mm)1%	しまり有 粘性なし
第7層 黒色土	10YR1.7/1	ローム粒(径0.5~10mm)1%	炭化物(径1~10mm)1%	小礫(径2~10mm)1%	しまり有	粘性なし
第8層 黒色土	10YR1.7/1	ローム粒(径0.5~10mm)1%	炭化物(径2~8mm)1%	小礫(径6mm)1%	しまり有	粘性なし
第9層 黒色土	10YR1.7/1	ローム粒(径0.5~10mm)1%	炭化物(径1~8mm)1%	小礫(径15mm)1%	浮石(径10mm)1%	しまり有 粘性なし
第10層 黒褐色土	10YR2/2	ローム(まだらに)5%	炭化物(径2~10mm)1%	小礫(径15mm)1%	浮石(径2~4mm)1%	しまり有 粘性なし
第11層 黒色土	10YR2/1	ローム粒(径0.5~5mm)1%	炭化物(径2~8mm)1%		しまり有	粘性なし
第12層 黒褐色土	10YR2/2	ローム(全体に混じる)15%	炭化物(径2~3mm)1%		しまり有	粘性なし
第13層 黒色土	10YR1.7/1	L B(径10~20mm)5%	炭化物(径5~10mm)1%		しまり有	粘性なし

第223号土坑内 Pit

第1層 黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~2mm)10%			しまり有	粘性有
第2層 黒色土	10YR1.7/1	ローム粒(径1~2mm)3%			しまり有	粘性あまりなし

図39 第207・209・219・222・223号土坑

[出土遺物] なし。

[小結] 長さ76cmと小規模な楕円形の土坑である。用途及び時期は明かではない。

#### 第219号土坑 (図39、写真18)

[位置・確認] X II O-232・233グリッドで黒色土の楕円形の落ち込みとして確認された。

[重複] なし。

[平面形・規模] 開口部が長径105cm×短径83cm、底面は長径95cm×短径75cm、深さ10cmの南北にやや長めの楕円形である。

[断面・底面] 断面は皿状を呈し、壁はなだらかな立ち上りである。底面は平坦である。

[堆積土] 2層に区分された。

[出土遺物] なし。

[小結] 平面形が楕円形の土坑で深さは10cmと浅いものである。用途及び時期は明かではない。

#### 第222号土坑 (図39・51・52、写真18・23)

[位置・確認] X II I・J-228グリッドで黒色土のやや不整な円形の落ち込みとして確認された。

[重複] なし。

[平面形・規模] 開口部が東西176cm×南北172cm、底面は東西180cm×南北180cm、深さ58cmの不整円形である。

[断面・底面] 底面の方が開口部より大きめなので、壁は内湾気味に立ち上がる。底面は中央部と南西の一部が低くなっている。

[堆積土] 11層に区分された。

[出土遺物] 縄文土器・石器が出土している。222土1～12・S1～S3である。1～3・4・12が口縁部破片、他は胴部破片である。S2とS3は凹石である。土器片は多くが第Ⅲ群3類で縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

[小結] 平面形はやや不整の円形の、径が170cm～180cmと比較的規模の大きな土坑である。土坑の時期は縄文時代後期後葉のころと思われるが、用途は不明である。

#### 第223号土坑 (図39・52・53・54、写真18・23・24)

[位置・確認] X II I-227グリッドで黒色土及び黒褐色土の円形の落ち込みとして確認された。

[重複] 底面に小ピットがみられたが伴うものかは不明。

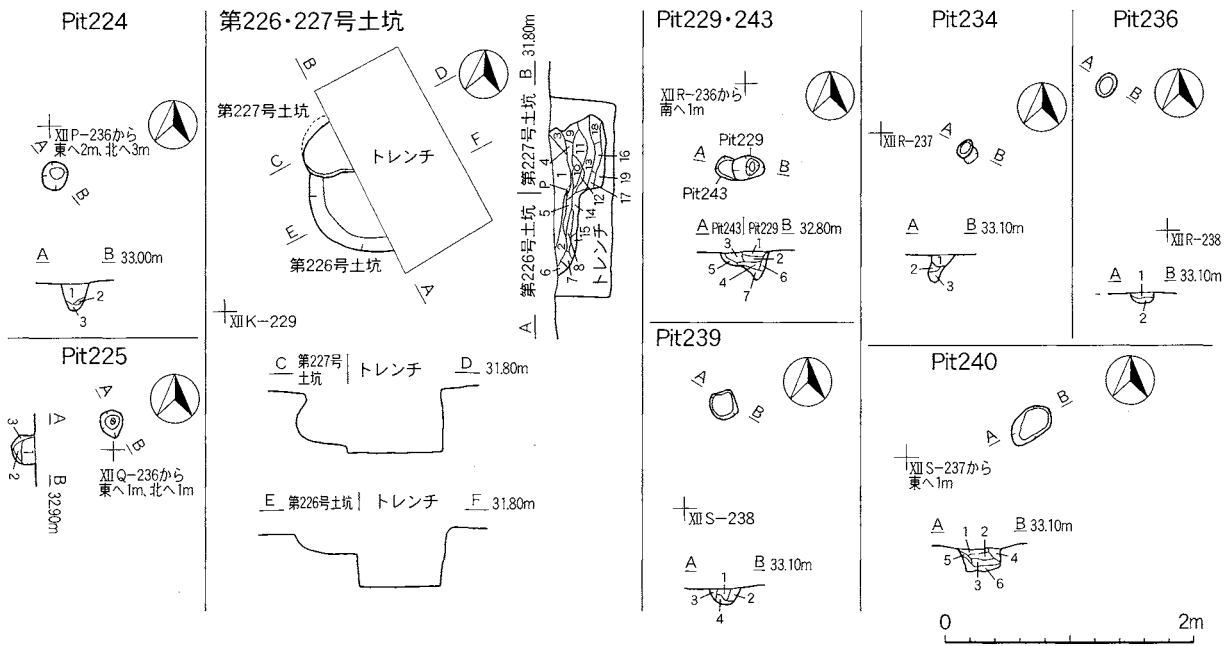
[平面形・規模] 開口部が長径281cm×短径275cm、底面は長径260cm×短径235cm、深さ64cmの円形である。

[断面・底面] 壁は垂直に近い立ち上がりを示すものである。底面が一段中央部が窪んでおり、さらに中央に長径65cm×短径28cm、深さ12cmの楕円形のピットがみられた。

[堆積土] 13層に区分された。底面中央のピットは2層に区分された。

[出土遺物] 縄文土器・石器が出土している。223土1～41・S1～S8である。1・3・6・7・15・17～22・24が口縁部破片、8～10・41が底部破片、11・37は台付土器の脚部、39は口縁部が





Pit224			
第1層	黒褐色土 10YR2/3	ローム粒(径2~6mm)2%	炭化物(径1~5mm)2% 焼土粒(径0.5~5mm)1% 小礫(径2~10mm)1% しまり有 粘性なし
第2層	黒褐色土 10YR3/2	ローム粒(径0.5~1mm)1%	焼土粒(径1mm)1% しまり有 粘性なし
第3層	黒褐色土 10YR3/2	ローム粒(径0.5~2mm)2%	小礫(径4~6mm)1% しまりあまりなし 粘性やや有
Pit225			
第1層	暗褐色土 10YR3/3	ローム粒(径1~5mm)10%	小礫(径5~20mm)3% 黒色土(10YR1.7/1 径2~10mm)3% しまり有 粘性なし
第2層	黒褐色土 10YR3/2	ローム粒(径1~2mm)2%	小礫(径1~3mm)3% しまり有 粘性有
第3層	褐色土 10YR4/4	ローム粒(径1~2mm)2%	小礫(径1~3mm)5% しまり有 粘性やや有
第226・227号土坑			
第1層	黒色土 10YR2/1	ローム粒(径1~3mm)5%	小礫(径1~10mm)5% しまり有 粘性やや有
第2層	黒褐色土 10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)5%	しまり有 粘性なし
第3層	黒褐色土 10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)7%	小礫(径1~2mm)1% しまり有 粘性やや有
第4層	黒褐色土 10YR3/1	ローム粒(径1~2mm)1%	しまり有 粘性やや有
第5層	黒褐色土 10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)7%	L B(径15mm)2個 小礫(径5mm)2個 しまり有 粘性なし
第6層	暗褐色土 10YR3/3	ローム30%	しまり有 粘性なし
第7層	黒褐色土 10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)5%	焼土粒(径5mm)1個 しまり有 粘性なし
第8層	黒褐色土 10YR2/2	ローム粒(径1~7mm)10%	暗褐色土(10YR3/4)との混合土 しまり有 粘性なし
第9層	黒褐色土 10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)10%	L B(径10~20mm)4個 しまり有 粘性有
第10層	黒褐色土 10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)15%	暗褐色土(10YR3/4)との混合土 しまり有 粘性やや有
第11層	黒褐色土 10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)15%	L B(径10~15mm)7% しまり有 粘性やや有
第12層	黒褐色土 10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)10%	しまり有 粘性有
第13層	黒色土 10YR2/1	ローム粒(径1~2mm)2%	L B(径5~15mm)5% しまり有 粘性やや有
第14層	黒褐色土 10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)2%	しまり有 粘性やや有
第15層	黒褐色土 10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)7%	L B(径5~20mm)3% しまり有 粘性やや有
第16層	暗褐色土 10YR3/3	褐色土(10YR4/4)との混合土	ローム粒(径3~5mm)2% しまり有 粘性やや有
第17層	黒褐色土 10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)3%	しまり有 粘性やや有
第18層	黒褐色土 10YR3/1	ローム粒(径1~3mm)3%	しまり有 粘性やや有
第19層	黒褐色土 10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)10%	しまり有 粘性やや有
Pit229・243			
第1層	黒褐色土 10YR2/3	ローム粒(径1~2mm)7%	焼土粒(径2mm)2% 小礫(径2~3mm)3% しまり有 粘性なし
第2層	黒褐色土 10YR3/2	ローム粒(径1~2mm)5%	小礫(径2mm)2% しまり有 粘性やや有
第3層	黒褐色土 10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)5%	小礫(径2mm)2% しまり有 粘性なし
第4層	黒褐色土 10YR2/3	ローム粒(径1~2mm)3%	焼土粒(径2mm)2% 小礫(径2~3mm)3% しまり有 粘性やや有
第5層	褐色土 10YR4/6	ローム層 小礫(径2~3mm)5%	黒褐色土(10YR2/2 径3~5mm)3% しまりあまりなし 粘性なし
第6層	暗褐色土 10YR3/3	ローム粒(径1~2mm)7%	L B(径5~10mm)15% しまり有 粘性なし
第7層	黒褐色土 10YR3/2	ローム粒(径1~2mm)3%	小礫(径2mm)2% しまり有 粘性有
Pit234			
第1層	にぶい黄褐色土 10YR4/3	ローム粒(径0.5~2mm)1%	小礫(径2~10mm)1% 暗褐色土(10YR3/3)全体に混じる しまり有 粘性なし
第2層	褐色土 10YR4/4	小礫(径2~8mm)3%	しまり有 粘性なし
第3層	褐色土 10YR4/4	ローム10% 小礫(径8mm)1%	礫(径20~30mm)1% しまり有 粘性なし
Pit236			
第1層	黒褐色土 10YR3/1	ローム粒(径1~3mm)5%	小礫(径2~5mm)2% しまり有 粘性なし
第2層	黒褐色土 10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)7%	しまり有 粘性なし
Pit239			
第1層	黒褐色土 10YR3/1	ローム粒(径1~2mm)3%	小礫(径3mm)2% しまり有 粘性やや有
第2層	黒褐色土 10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)7%	L B(径20mm)1% しまり有 粘性やや有
第3層	にぶい黄褐色土 10YR4/3	ローム層 小礫(径2mm)5%	しまり有 粘性なし
第4層	にぶい黄褐色土 10YR5/4	ローム層 小礫(径2~3mm)7%	しまり有 粘性有
Pit240			
第1層	黒褐色土 10YR2/2	ローム粒(径0.5~3mm)1%	小礫(径1~2mm)1% しまり有 粘性なし
第2層	黒褐色土 10YR2/2	ローム粒(径0.5~4mm)1%	炭化物(径1mm)1% 焼土粒(径1mm)1% 小礫(径1~4mm)1% しまり有 粘性なし
第3層	黒褐色土 10YR2/2	ローム粒(径0.5~2mm)1%	炭化物(径1~2mm)1% しまり有 粘性なし
第4層	暗褐色土 10YR3/3	ローム粒(径0.5~4mm)5%	小礫(径1~5mm)1% 中礫(径15mm)1% しまり有 粘性なし
第5層	黒褐色土 10YR3/2	ローム(表面全体に混じる)5%	小礫(径1~5mm)2% 炭化物(径3mm)1% しまり有 粘性なし
第6層	暗褐色土 10YR3/3	ローム(全体に混じる)10%	小礫(径1~20mm)5% しまり有 粘性やや有

図40 第226・227号土坑、Pit224・225・226・227・229・243・234・236・239・240

欠損している瘤付の注口土器で、土坑底面からの出土である。38は注口土器の注口部分である。2・5・25が第3群1類で縄文時代後期前葉に、12・13・22・23が第3群2類で後期中葉に、残りは第3群3類の後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕平面形が円形で、径が270cm～280cmと非常に規模の大きな土坑である。覆土から比較的多くの遺物が出土している。出土土器はいずれも縄文時代後期のもので中でも後葉の遺物が多くみられる。土坑の時期は縄文時代後期後葉のころと思われる。

#### 第226号土坑（図40・54、写真19）

〔位置・確認〕XⅡK-229グリッドで以前の試掘調査時のトレンチによって半分壊された円形の落ち込みが確認された。

〔重複〕第227号土坑と重複している。試掘調査時のトレンチの断面にみられたセクション観察によって第226号土坑の方が古い可能性が高い。

〔平面形・規模〕トレンチによって半分壊され、また、第227号土坑にも切られているので、規模は明かではないが、径1mくらいの円形と思われる。

〔断面・底面〕壁はなだらかに立ち上がるもので、断面は皿状を呈する。底面は平坦である。

〔堆積土〕第227号土坑とのセクション図の中で、第2層、第5層～第8層、第14層、第15層が第226号土坑の覆土にあたるものと思われる。

〔出土遺物〕縄文土器の破片、226土1のみの出土である。

〔小結〕半分壊されており、また、重複もあるが、平面形は円形か楕円形と思われる。時期及び用途は明かではない。

#### 第227号土坑（図40・54、写真19・24）

〔位置・確認〕XⅡK-229グリッドで以前の試掘調査時のトレンチによって半分壊された円形の落ち込みが確認された。

〔重複〕第226号土坑と重複している。試掘調査時のトレンチの断面にみられたセクション観察によって第227号土坑の方が新しい可能性が高い。

〔平面形・規模〕トレンチによって半分壊されている。開口部は径45cm、底面の径50cm、深さ42cmの円形と思われる。

〔断面・底面〕南側の壁は底面から垂直に立ち上がり、中程で外傾するものである。北側の壁は内湾しておりフラスコ的である。底面は平坦である。

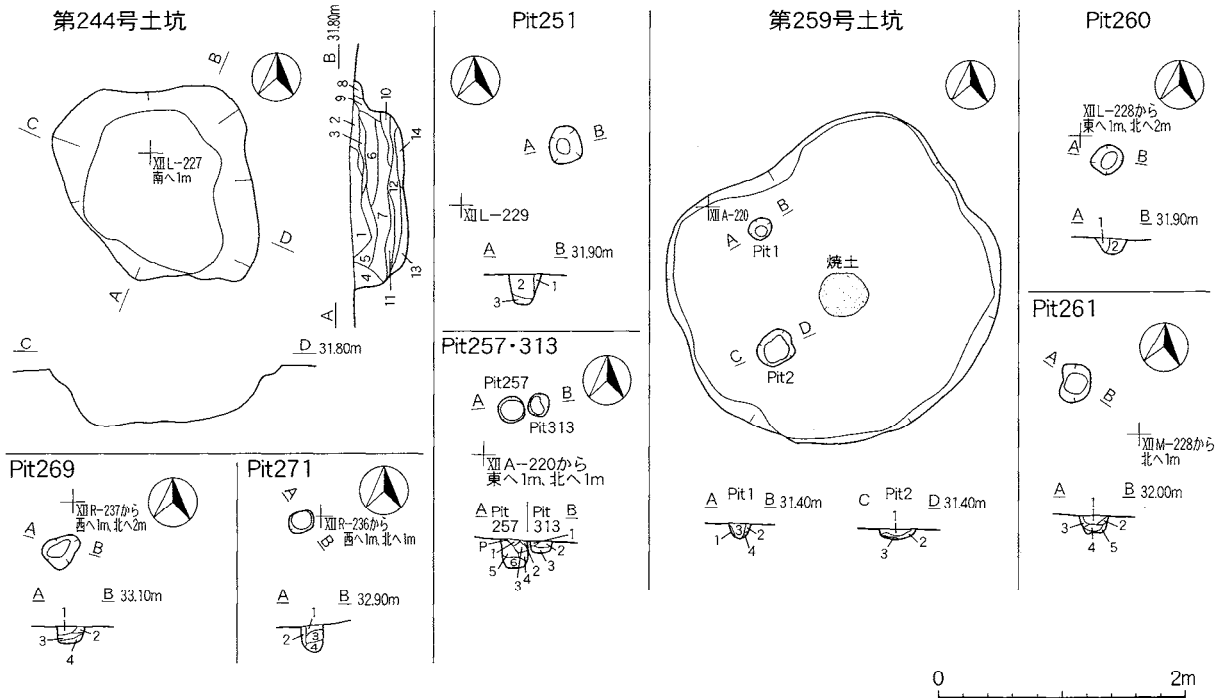
〔堆積土〕第226号土坑とのセクション図の中で、第1層、第3層・第4層、第9層～第13層、第16層～第19層が第227号土坑の覆土にあたるものと思われる。

〔出土遺物〕縄文土器の破片227土1と石器227土S1が出土している。

〔小結〕半分壊されており、また、重複もあるが、時期及び用途は明かではない。

#### 第244号土坑（図41・54・55、写真24）

〔位置・確認〕XⅡL-227・228グリッドで黒褐色土の楕円形の落ち込みが確認された。



第244号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(L B(径0.5~30mm)10% 炭化物(径1~6mm)2% 浮石(径2~5mm)1% しまり有 粘性なし
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~10mm)1% 炭化物(径1~6mm)1% しまり有 粘性なし
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.5~6mm)1% 炭化物(径1~2mm)1% 焼土粒(径1~2mm)1% しまり有 粘性なし
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.5~3mm)1% 炭化物(径1~4mm)1% しまり有 粘性なし
- 第5層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.5~5mm)2% 炭化物(径1~5mm)1% 焼土粒(径3mm)1% しまり有 粘性なし
- 第6層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径0.5~3mm)1% 炭化物(径1~4mm)1% 焼土粒(径1~3mm)1% しまり有 粘性なし
- 第7層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径0.5~5mm)1% 炭化物(径1~10mm)1% 焼土粒(径1mm)1% しまり有 粘性なし
- 第8層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径0.5~1mm)2% 炭化物(径1~2mm)1% しまり有 粘性なし
- 第9層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~8mm)1% 炭化物(径1~5mm)1% 浮石(径2~5mm)1% しまり有 粘性なし
- 第10層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~10mm)3% 炭化物(径1~10mm)1% しまり有 粘性なし
- 第11層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~15mm)4% 炭化物(径1~5mm)1% しまり有 粘性なし
- 第12層 黒褐色土 10YR3/2 ローム(全体に混じる)10% 炭化物(径1~8mm)1% しまり有 粘性なし
- 第13層 黒褐色土 10YR2/3 L B(径10~20mm)15% 炭化物(径2~10mm)1% しまり有 粘性なし
- 第14層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径0.5~10mm)5% 炭化物(径1~3mm)1% しまり有 粘性なし

Pit251

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~3mm)7% 焼土粒(径1~2mm)3% しまり有 粘性やや有
- 第2層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~2mm)5% L B(にぶい黄褐色土 10YR5/4)15% 炭化物(径5mm)1% 焼土粒(径1~3mm)3% しまり有 粘性有
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~5mm)10% しまり有 粘性有

Pit257

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1mm以下)3% 炭化物(径1mm)1% しまり有 粘性有
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1mm以下)3% 炭化物(径2mm)2% しまり有 粘性有
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1mm以下)3% しまり有 粘性有
- 第4層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(径1mm以下)5% しまり有 粘性有
- 第5層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径2mm)3% 炭化物(径1mm)1% しまり有 粘性有
- 第6層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径5mm)2% 焼土ブロック(赤褐色土 2.5YR4/8 径10mm)1個 しまり有 粘性有

第259号土坑内 Pit 1

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1mm以下)2% 炭化物(径1mm)1% しまり有 粘性有
- 第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径2mm)1% 炭化物(径10mm)1% しまり有 粘性有
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1mm)1% 炭化物(径1mm)1% しまり有 粘性有
- 第4層 褐色土 10YR4/6 炭化物(径1mm)1% 黒色土(径5mm)2% しまり有 粘性有

第259号土坑内 Pit 2

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径5mm)2% 炭化物(径2mm)1% しまり有 粘性有
- 第2層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1mm)1% しまりあまりなし 粘性有
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径2mm)2% しまりなし 粘性有

Pit260

- 第1層 褐色土 10YR4/4 L B(径30mm)1% 小礫(径3mm)1% 浮石(径1~5mm)1% しまり有 粘性なし
- 第2層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒(径1~5mm)1% 浮石(径1~4mm)1% しまり有 粘性なし

Pit261

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~2mm)1% 炭化物(径1~5mm)1% 小礫(径3mm)1% しまり有 粘性なし
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)3% 炭化物(径1mm)1% しまり有 粘性なし
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1mm)1% しまり有 粘性なし
- 第4層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径1~2mm)1% 炭化物(径1~3mm)1% しまり有 粘性なし
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム(全体に混じる)10% 浮石(径2mm)1% しまり有 粘性なし

Pit269

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~2mm)7% L B(径15mm)1% 小礫(径3~20mm)20% しまりやや有 粘性なし
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~3mm)5% 小礫(径3~10mm)20% しまりやや有 粘性なし
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~2mm)10% 炭化物(径1~2mm)2% 小礫(径3~25mm)10% しまりやや有 粘性なし
- 第4層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~5mm)15% 炭化物(径1~2mm)2% 小礫(径3~8mm)10% しまり有 粘性なし

Pit271

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)5% 小礫(径20mm)3% しまり有 粘性なし
- 第2層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒(径1~2mm)7% 小礫(径3~5mm)3% しまり有 粘性やや有
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~2mm)3% 小礫(径3~5mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第4層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(径1~3mm)7% 小礫(径40mm)2% しまり有 粘性やや有

図41 第244号土坑、第259号土坑、Pit251・257・313、Pit260・261・269・271

〔重複〕遺構自体の重複はないが第9号掘立柱建物跡の柱穴Cと近接しており、柱穴Bと柱穴C戸の線上にある。結果として、第9号掘立柱建物跡と重複していることになるものと思われるが、D新旧は不明である。

〔平面形・規模〕開口部は長径192cm×短径138cm、底面は長径136cm×短径114cm、深さ45cmの楕円形である。

〔断面・底面〕壁は南側から南西側にかけて垂直に近く急な立ち上がりを示すが、そのほかは緩やかな立ち上がりである。底面は平坦である。

〔堆積土〕14層に区分された。底面に近い第12層～第14層は、ロームブロックを多く含み、その上の覆土は黒色土及び黒褐色土が主体で、確認面の第1層・第2層もロームブロックが多いという状況になっている。人為的な堆積と思われる。

〔出土遺物〕縄文土器と石器・石製品が出土している。244土1～14・S1・S2である。1～3・5・9・15が口縁部破片、12～14は底部破片で、他は胴部破片である。5が第Ⅲ群1類の縄文時代後期前葉で、他は第Ⅲ群3類の縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。S1は三角形岩版でS2は凹石である。

〔小結〕人為的な堆積と思われる楕円形の土坑である。土坑の時期は縄文時代後期後葉と思われる。

#### 第259号土坑（図41・55、写真19・24・25）

〔位置・確認〕XⅡT・XⅢA-220グリッドでやや不整な円形の落ち込みとして確認された。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕開口部は東西270cm×南北255cm、底面は東西256cm×南北251cm、深さ9cmの不整な円形である。

〔断面・底面〕底面は平坦である。底面中央に東西38cm×南北35cmの円形の焼土範囲がみられた。また、底面の西側にピット1（径18cm深さ12cm、円形）とピット2（径30cm深さ7cm、不整円形）がみられた。

〔出土遺物〕縄文土器と石器が出土している。259土1～6・S1～S10である。4・6が口縁部破片、他は胴部破片である。第Ⅲ群3類の縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。S1は石錐、S3・S4は石鏃、S9は石匙である。

〔小結〕開口部で250cm～270cmと土坑としては広く、底面中央部に焼土範囲もみられることから、竪穴住居跡の可能性がないともいえない。時期は出土遺物から縄文時代後期後葉のころと思われる。

#### 第650号土坑（図48・56、写真19・25）

〔位置・確認〕XⅢI-223グリッドで円形の落ち込みとして確認された。

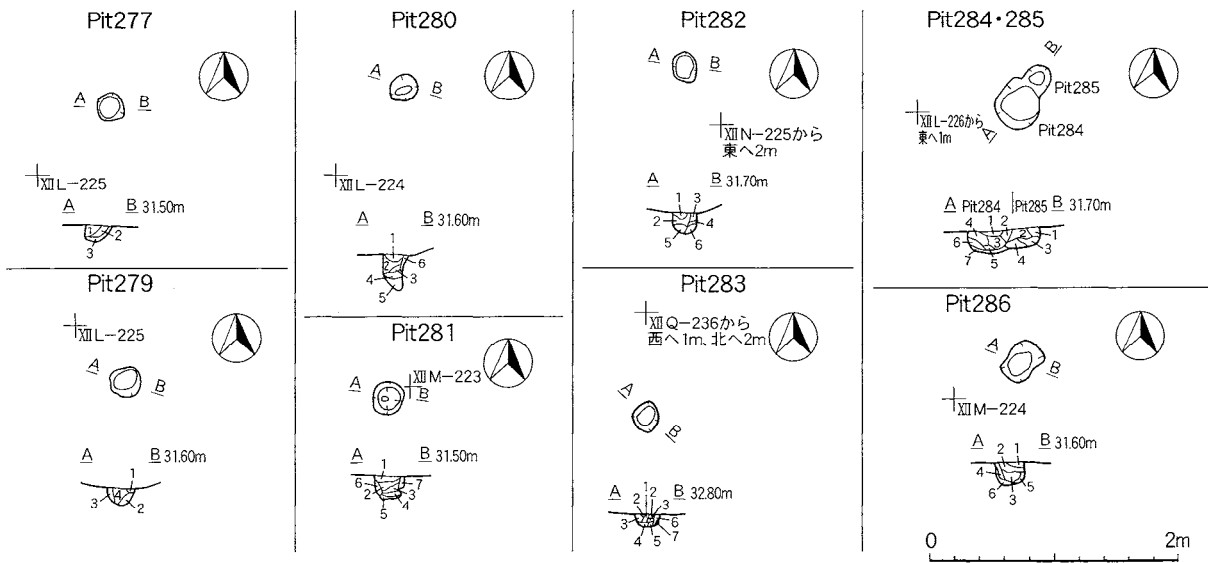
〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕開口部は長径96cm×短径87cm、深さ37cmの円形である。

〔断面・底面〕壁は垂直に立ち上がるもので、底面は南から北へ傾斜している。

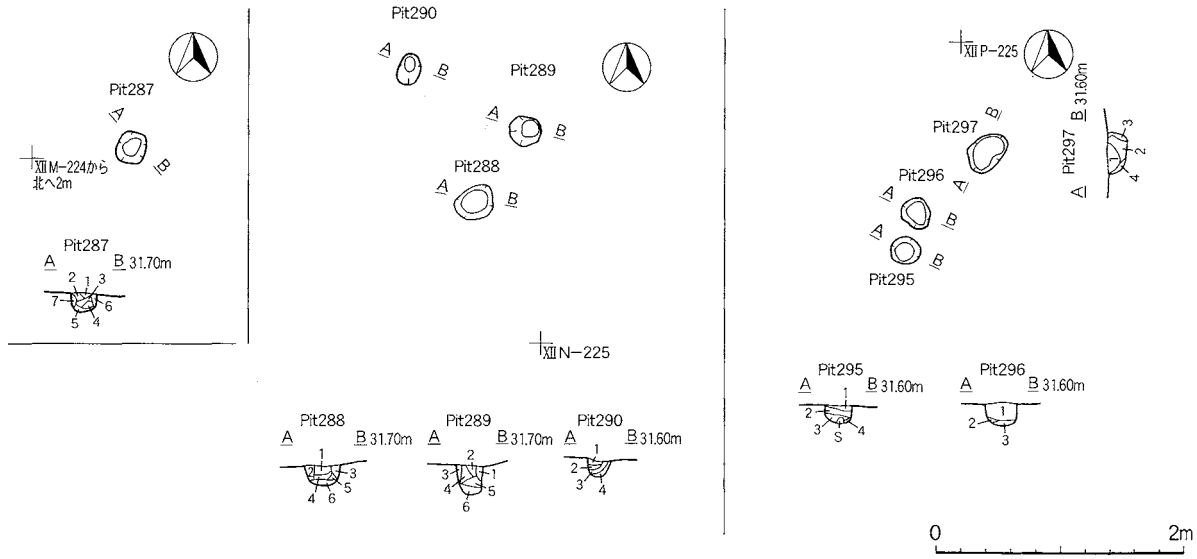
〔堆積土〕6層に区分された。人為的な堆積のように思われる。

〔出土遺物〕覆土上部において、650土1の瘤付の注口土器が出土している。第Ⅲ群3類の縄文時代



Pit277			
第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1mm以下)2% 小礫(径1mm)1% しまり有 粘性有
第2層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径2mm)3% 浮石(径3mm)1% しまり有 粘性有
第3層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径3mm)3% 浮石(径1mm)1% しまり有 粘性有
Pit279			
第1層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1mm)7% しまり有 粘性有
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径3mm)1% しまりなし 粘性有
第3層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径20mm)、L B(径50mm)3% しまりやや有 粘性有
第4層	褐色土	10YR4/4	黒色L2%とロームの混合層 しまりやや有 粘性有
Pit280			
第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径2mm)、L B(径50mm)2% 浮石(径15mm)1% しまりあまりなし 粘性有
第2層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径2mm)、L B(径30mm)2% 浮石(径2mm)1% しまりなし 粘性有
第3層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径2mm)1% しまりなし 粘性有
第4層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径2mm)、L B(径20mm)2% しまりなし 粘性有
第5層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒と黒色土の混合層 浮石(径3mm)1% しまりあまりなし 粘性有
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)2% 浮石(径2mm)1% しまりなし 粘性有
Pit281			
第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1mm)1% 炭化物(径1mm)1% しまり有 粘性有
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)2% 炭化物(径1mm)1% しまりあまりなし 粘性有
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1mm)2% 炭化物(径1mm)1% 浮石(径1mm)1% しまりなし 粘性有
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)3% 炭化物(径1mm)1% しまりなし 粘性有
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径2mm)2% 褐色土(7.5YR4/6 径15mm)1個 しまりなし 粘性有
第6層	褐色土	10YR4/6	ロームと黒色土の混合層 浮石(径3mm)1% 黒色土(径30mm)ブロックに混入 しまりあまりなし 粘性有
第7層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1mm以下)5% 浮石(径2mm)1% しまりあまりなし 粘性有
Pit282			
第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径2mm)2% 炭化物(径2mm)1% しまり有 粘性有
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径2mm)3% 炭化物(径1mm)1% 浮石(径1mm)1% しまり有 粘性有
第3層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径2mm)2% 炭化物(径1mm)1% 浮石(径1mm以下)1% しまりなし 粘性有
第4層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1mm以下)1% 炭化物(径1mm以下)1% しまりなし 粘性有
第5層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径2mm)3% 炭化物(径1mm)1% 浮石(径2mm)1% しまり有 粘性有
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1mm)2% しまりなし 粘性有
Pit283			
第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)1% 焼土粒(径1mm)1% 小礫(径2mm)1% しまり有 粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~2mm)2% 焼土粒(径1mm)1% 小礫(径2mm)1% 浮石(径3mm)1% しまり有 粘性なし
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~2mm)1% L B(径10mm)1% 焼土粒(径1mm)1% 小礫(径2~3mm)1% しまり有 粘性なし
第4層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1mm)1% L B(径10~15mm)1% 焼土粒(径1~3mm)1% 小礫(径3mm)1% しまり有 粘性やや有
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径0.5mm)1% 焼土粒(径1mm)1% 小礫(径3mm)1% しまり有 粘性なし
第6層	黒色土	10YR2/1	黒色土とロームの混合層 しまり有 粘性なし
第7層	褐色土	10YR4/4	ローム層 黒褐色土5% しまり有 粘性やや有
Pit284			
第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径0.5~5mm)3% L B(径15mm)1% 炭化物(径2mm)1% しまり有 粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~8mm)7% 浮石(径2mm)1% しまり有 粘性なし
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)2% 浮石(径2mm)1% しまり有 粘性なし
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)7% 浮石(径2~3mm)1% しまり有 粘性なし
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)3% しまり有 粘性なし
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)1% 小礫(径6mm)1% 浮石(径2~3mm)1% しまり有 粘性なし
第7層	黒褐色土	10YR2/3	ローム(まだらに)5% 小礫(径8mm)1% 浮石(径3~8mm)1% しまり有 粘性なし
Pit285			
第1層	褐色土	10YR4/4	ローム層 浮石(径1~4mm)2% しまり有 粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10mm)5% 小礫(径2mm)1% 浮石(径4mm)1% しまり有 粘性なし
第3層	褐色土	10YR4/6	ローム層 浮石(径1~5mm)2% 黒褐色土(10YR2/2)5% しまり有 粘性やや有
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)7% L B(径10~20mm)1% 浮石(径2~4mm)1% しまり有 粘性なし
Pit286			
第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径3mm)3% しまり有 粘性なし
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径10mm)5% 浮石(径2~3mm)1% しまり有 粘性なし
第3層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径5mm)3% 浮石(径1~2mm)1% しまり有 粘性やや有
第4層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径5mm)7% 浮石(径3~4mm)1% しまり有 粘性やや有
第5層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径3mm)5% 浮石(径2~4mm)1% しまり有 粘性なし
第6層	褐色土	10YR4/4	ローム層 浮石(径10mm)2% しまり有 粘性なし

図42 Pit277・279・280・281・282・283・284・285・286



Pit287

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~2mm)7%	しまり有	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)7%	しまり有	粘性なし
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~3mm)7%	しまり有	粘性なし
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)5%	しまり有	粘性なし
第5層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~7mm)5%	浮石(径1~2mm)3%	しまり有 粘性なし
第6層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~2mm)10%	浮石(径1~2mm)2%	しまり有 粘性なし
第7層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~2mm)5%	浮石(径2mm)2%	しまり有 粘性なし

Pit288

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5mm)5%	炭化物(径7mm)1個	浮石(径4mm)1%	しまりあまりなし	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径3mm)10%	浮石(径2mm)1%	しまり有	粘性やや有	
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5mm)7%	浮石(径2mm)1%	しまり有	粘性なし	
第4層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径7mm)3%	しまり有	粘性なし		
第5層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒(径3mm)2%	しまり有	粘性やや有		
第6層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径3mm)5%	L B(径15~20mm)3個	浮石(径4mm)1%	しまり有	粘性なし

Pit289

第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径3mm)5%	浮石(径2mm)1%	しまり有	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径3mm)3%	しまり有	粘性やや有	
第3層	暗褐色土	10YR3/4	ローム層	ローム粒(径2mm)20%	しまり有	粘性なし
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径3mm)7%	浮石(径3mm)1%	しまり有	粘性やや有
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径3mm)3%	しまり有	粘性やや有	
第6層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径2mm)2%	しまり有	粘性やや有	

Pit290

第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~3mm)3%	しまり有	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~2mm)3%	しまり有	粘性やや有
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1mm)1%	しまり有	粘性やや有
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)5%	しまり有	粘性有

Pit295

第1層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~2mm)3%	しまり有	粘性なし
第2層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1mm)1%	しまり有	粘性なし
第3層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1mm)1%	しまり有	粘性なし
第4層	褐色土	10YR4/4	ローム粒(径1~2mm)3%	しまり有	粘性なし

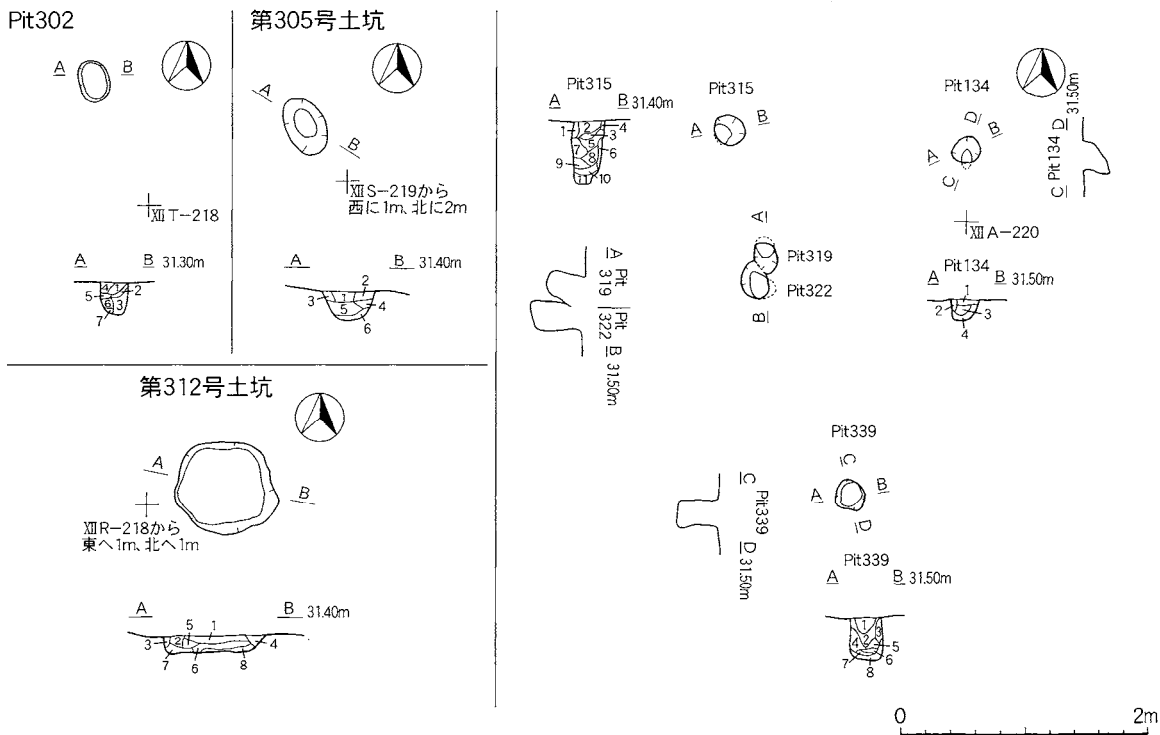
Pit296

第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)30%	炭化物(径2mm)1%	しまり有	粘性やや有
第2層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~5mm)10%	しまり有	粘性なし	
第3層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム層	ごく微量に砂混じる	しまり有	粘性なし

Pit297

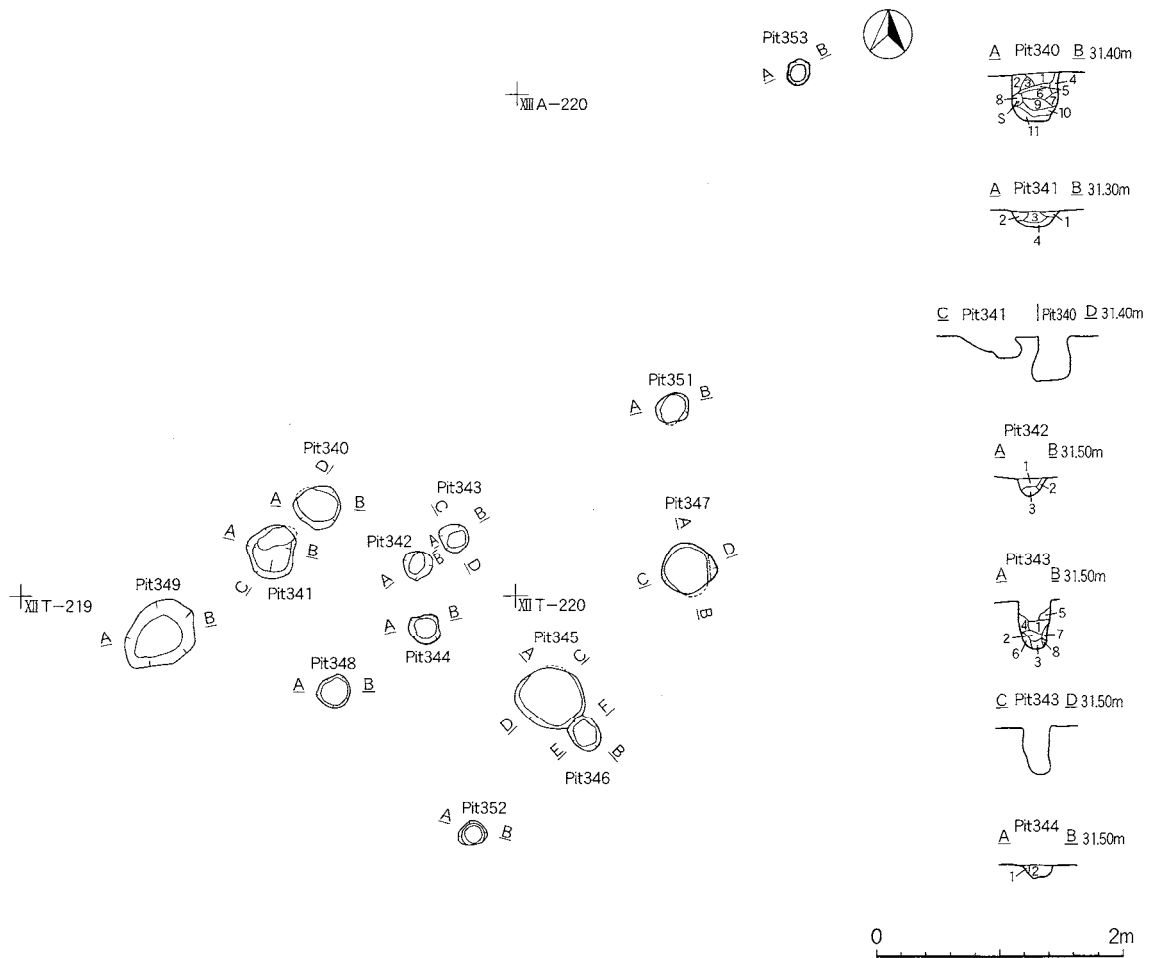
第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)10%	炭化物(径2mm)2%	しまり有	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~5mm)10%	炭化物(径1~3mm)3%	しまり有	粘性なし
第3層	黄褐色土	10YR5/6	ローム層	しまり有	粘性やや有	
第4層	褐色土	10YR4/6	ローム層	しまり有	粘性有	

図43 Pit287・288・289・290・295・296・297



Pit302					
第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径3mm)7%	炭化物(径2mm)1%	しまり有 粘性やや有
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径3mm)5%	しまりあまりなし	粘性有
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径2mm)5%	炭化物(径3mm)1%	しまりなし 粘性有
第4層	褐色土	10YR4/4	ローム粒(径2mm)10%	炭化物(径3mm)1%	浮石(径3mm)1% しまり有 粘性やや有
第5層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径3mm)5%	しまり有	粘性有
第6層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径4mm)7%	しまり有	粘性有
第7層	褐色土	10YR4/4	ローム粒(径3mm)10%	しまり有	粘性有
第305号土坑					
第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径5mm)5%	炭化物(径3mm)1%	しまり有 粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径15mm)7%	炭化物(径2mm)1%	しまり有 粘性なし
第3層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径3mm)10%	しまり有	粘性やや有
第4層	褐色土	10YR4/6	ローム、非常に有	黒褐色土5%	しまり有 粘性有
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径10mm)7%	炭化物(径2mm)1%	しまり有 粘性有
第6層	褐色土	10YR4/4	ローム、非常に有	黒色土5%	しまり有 粘性やや有
第312号土坑					
第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径2mm)2%	浮石(径1mm以下)2%	しまり有 粘性なし
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1mm)3%	炭化物(径1mm)1%	浮石(径1mm以下)2% しまり有 粘性なし
第3層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径2mm)3%	しまりあまりなし	粘性なし
第4層	褐色土	10YR4/4	黒褐色土3%	浮石(径1mm)1%	しまりあまりなし 粘性なし
第5層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1mm以下)、L B(径30mm)3%	炭化物(径2mm)1%	浮石(径1mm以下)1% しまりあまりなし 粘性なし
第6層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径2mm)3%	炭化物(径1mm)1%	浮石(径1mm以下)1% しまりあまりなし 粘性なし
第7層	褐色土	10YR4/4	黒褐色土2%	浮石(径1mm以下)1%	しまり有 粘性やや有
第8層	褐色土	10YR4/4	黒褐色土3%	浮石(径1mm以下)1%	しまり有 粘性やや有
Pit314					
第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径3mm)5%	炭化物(径1~2mm)1%	小礫(径3mm)1個 しまり有 粘性やや有
第2層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径2mm)20%	しまり有	粘性有
第3層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径3mm)3%	炭化物(径1~3mm)1%	しまり有 粘性有
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径2mm)15%	しまり有	粘性有
Pit315					
第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~10mm)3%	しまり有	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)2%	炭化物(径1mm)1%	焼土粒(径1mm)1% しまり有 粘性なし
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)2%	しまり有	粘性やや有
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ローム7%	しまり有	粘性なし
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10mm)1%	しまり有	粘性やや有
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)3%	しまり有	粘性やや有
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)1%	L B(径10~20mm)1%	しまり有 粘性やや有
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)1%	しまり有	粘性やや有
第9層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10mm)2%	しまり有	粘性やや有
第10層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)3%	しまり有	粘性やや有
第11層	褐色土	10YR4/6	ローム層	しまり有	粘性やや有
第12層	褐色土	10YR4/6	ローム層	黒褐色土(10YR2/3)3%	しまり有 粘性やや有
Pit339					
第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径2mm)1%	炭化物(径2mm)2%	焼土粒(径1mm)1% しまり有 粘性有
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5mm)、L B(径20mm)2%	炭化物(径2mm)1%	しまりあまりなし 粘性有
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)2%	炭化物(径3mm)1%	しまり有 粘性有
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5mm)2%	しまりなし	粘性有
第5層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1mm以下)1%	炭化物(径2mm)1%	しまりなし 粘性有
第6層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径10mm)3%	しまりなし	粘性有
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5mm)2%	しまりなし	粘性有
第8層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒(径1mm以下)10%	炭化物(径2mm)2%	しまりなし 粘性有

図44 Pit302・305・312・314・315・319・322・339



Pit340

第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径4mm)5%	炭化物(径3mm)1%	しまり有	粘性やや有
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径7mm)10%	炭化物(径3mm)1%	浮石(径3mm)1%	しまり有 粘性やや有
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径3mm)7%	小礫(径4mm)1個	しまり有	粘性やや有
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径3mm)5%		しまり有	粘性やや有
第5層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径4mm)7%	炭化物(径3mm)1%	焼土粒(径1mm)1%	しまり有 粘性有
第6層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径3mm)5%	炭化物(径4mm)1%	焼土粒(径2mm)1%	しまり有 粘性有
第7層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径3mm)3%		しまり有	粘性有
第8層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径6mm)7%	炭化物(径3mm)1%	焼土粒(径1mm)1%	しまり有 粘性有
第9層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径3mm)3%	炭化物(径7mm)1%	焼土粒(径2mm)1%	しまりあまりなし 粘性有
第10層	黒褐色土	10YR3/1	ロームとの混合層	黒褐色土15%	しまり有	粘性有
第11層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径5mm)7%		しまり有	粘性有

Pit341

第1層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム層	暗褐色土(10YR3/3)5%	しまり有	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR3/2	LB(径10~25mm)10%		しまり有	粘性なし
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)3%	LB(径10~15mm)2%	しまり有	粘性なし
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)4%	LB(径15~20mm)2%	しまり有	粘性なし

Pit342

第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~10mm)5%	LB(径20~60mm)1%	しまり有	粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR3/2	ローム(全体に混じる)7%	LB(径30mm)1%	しまり有	粘性なし
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~8mm)5%	LB(径30~50mm)1%	しまり有	粘性なし

Pit343

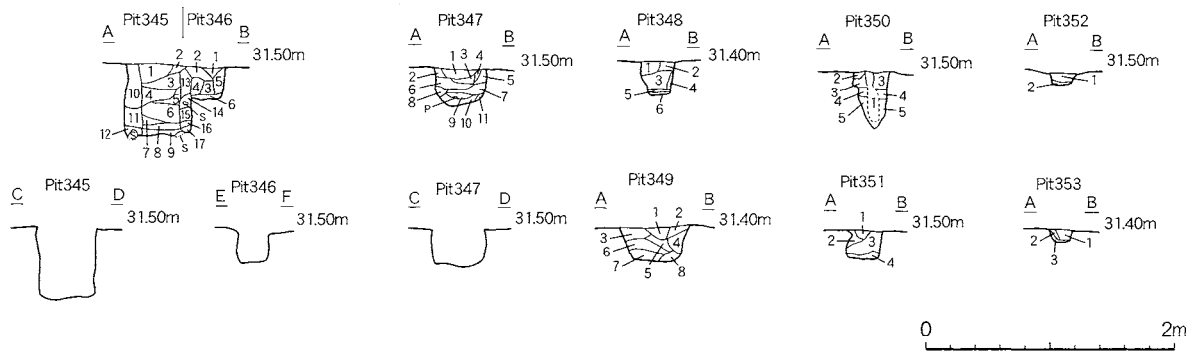
第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1mm)1%	小礫(径10mm)1個	しまりやや有	粘性有
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5mm)2%		しまりなし	粘性有
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径10mm)2%		しまり有	粘性有
第4層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径15mm)3%		しまり有	粘性有
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径5mm)、LB(径30mm)3%		しまり有	粘性有
第6層	暗褐色土	10YR3/3	LB(径20~40mm)5%		しまりやや有	粘性有
第7層	褐色土	10YR4/6	LB(径10~50mm)7%		しまりなし	粘性有
第8層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム層	黒色土2%	しまり有	粘性有

Pit344

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10mm)1%	小礫(径10mm)1%	しまり有	粘性なし
第2層	褐色土	10YR4/4	ローム層		しまり有	粘性なし

図45 Pit340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・351・352・353





<b>Pit345</b>						
第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径5mm)3%	炭化物(径10mm)2%	焼土粒(5YR4/8)1%	しまり有 粘性あまりなし
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径8mm)3%	炭化物(径1mm)2%		しまり有 粘性あまりなし
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)2%	炭化物(径1mm)1%		しまり有 粘性有
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1mm以下)2%	炭化物(径1mm)1%		しまりなし 粘性有
第5層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径5mm)3%			しまりなし 粘性有
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)1%			しまりなし 粘性有
第7層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径3mm)1%			しまりなし 粘性有
第8層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径2mm)1%			しまりなし 粘性有
第9層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径5mm)2%			しまりあまりなし 粘性有
第10層	褐色土	10YR4/4	ローム粒、L B(径50mm)と黒色土の混合層			しまり有 粘性有
第11層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径5mm)3%			しまりなし 粘性有
第12層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径3mm)5%			しまりやや有 粘性有
第13層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径5mm)2%	炭化物(径2mm)2%		しまり有 粘性有 粘性なし
第14層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径10mm)1%	炭化物(径1mm)1%		しまりなし 粘性有
第15層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径2mm)2%	炭化物(径1mm)1%		しまりなし 粘性有
第16層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1mm)2%			しまりなし 粘性有
第17層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径5mm)3%			しまりなし 粘性有
<b>Pit346</b>						
第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1mm)2%			しまり有り 粘性有
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径3mm)3%			しまり有 粘性有
第3層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径2mm)2%			しまりあまりなし 粘性有
第4層	褐色土	10YR4/4	ローム粒(径2mm)、L B(径50mm)5%			しまりあまりなし 粘性有
第5層	褐色土	10YR4/4	ローム粒(径1mm以下)、L B(径30mm)4%			しまりあまりなし 粘性有
第6層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径5mm)2%			しまり有 粘性有
<b>Pit347</b>						
第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5mm)2%	炭化物(径4mm)1%		しまり有 粘性有
第2層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1mm)3%	炭化物(径1mm)1%		しまり有 粘性有
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径10mm)2%	炭化物(径2mm)1%		しまり有 粘性有
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1mm)1%	炭化物(径1mm)1%		しまり有 粘性有
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径5mm)3%			しまり有 粘性有
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径10mm)1%	炭化物(径2mm)1%		しまり有 粘性有
第7層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1mm)2%			しまりやや有 粘性有
第8層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径3mm)2%	炭化物(径2mm)1%		しまりやや有 粘性有
第9層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1mm)1%	炭化物(径3mm)1%		しまりやや有 粘性有
第10層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径2mm)1%	炭化物(径2mm)1%		しまりやや有 粘性有
第11層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム層 黒色土1%			しまりやや有 粘性有
<b>Pit348</b>						
第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径4mm)10%	L B(径15~27mm)2%		しまり有 粘性あまりなし
第2層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径3mm)7%			しまり有 粘性あまりなし
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径3mm)7%	炭化物(径5mm)1%		しまり有 粘性有
第4層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径3mm)5%			しまり有 粘性やや有
第5層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径2mm)3%			しまり有 粘性有
第6層	黒色土	10YR2/1	ロームとの混合層 黒褐色土15%			しまり有 粘性有
<b>Pit349</b>						
第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径10mm)3%	炭化物(径2mm)1%		しまり有 粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径5mm)2%	炭化物(径1mm)1%		しまりあまりなし 粘性なし
第3層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径20mm)3%	炭化物(径1mm)1%		しまりあまりなし 粘性なし
第4層	褐色土	10YR4/4	ローム層 黒色土2%			しまり有 粘性やや有
第5層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径2mm)4%	炭化物(径1mm)1%		しまり有 粘性やや有
第6層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径10mm)3%			しまりあまりなし 粘性やや有
第7層	褐色土	10YR4/6	ロームとの混合層 黒色土2%			しまりあまりなし 粘性有
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径5mm)2%			しまりあまりなし 粘性有
<b>Pit350</b>						
第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~6mm)3%			しまり有 粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR2/2	L B(径10~20mm)10%			しまり有 粘性なし
第3層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)2%	L B(径15~40mm)2%		しまり有 粘性なし
第4層	黒褐色土	10YR2/3	L B(径10~50mm)7%			しまり有 粘性なし
第5層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~10mm)2%			しまり有 粘性なし
<b>Pit351</b>						
第1層	黒褐色土	10YR2/3	ロームとの混合層			しまり有 粘性なし
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)3%	L B(径10~20mm)2%		しまり有 粘性なし
第3層	褐色土	10YR4/4	ローム層 黒褐色土5%			しまり有 粘性なし
第4層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム層 黒褐色土7%			しまり有 粘性やや有
<b>Pit352</b>						
第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10mm)3%	L B(径15mm)1%	小礫(径4mm)1%	しまり有 粘性なし
第2層	褐色土	10YR4/4	ローム層 黒褐色土(10YR2/2)3%			しまり有 粘性なし
<b>Pit353</b>						
第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)7%	L B(径10~15mm)1%		しまり有 粘性やや有
第2層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム(全体に混じる)10%			しまり有 粘性やや有
第3層	黄褐色土	10YR5/6	ローム層 黒褐色土(10YR3/2)2%			しまり有 粘性やや有

図46 Pit345・346・347・348・349・350・351・352・353

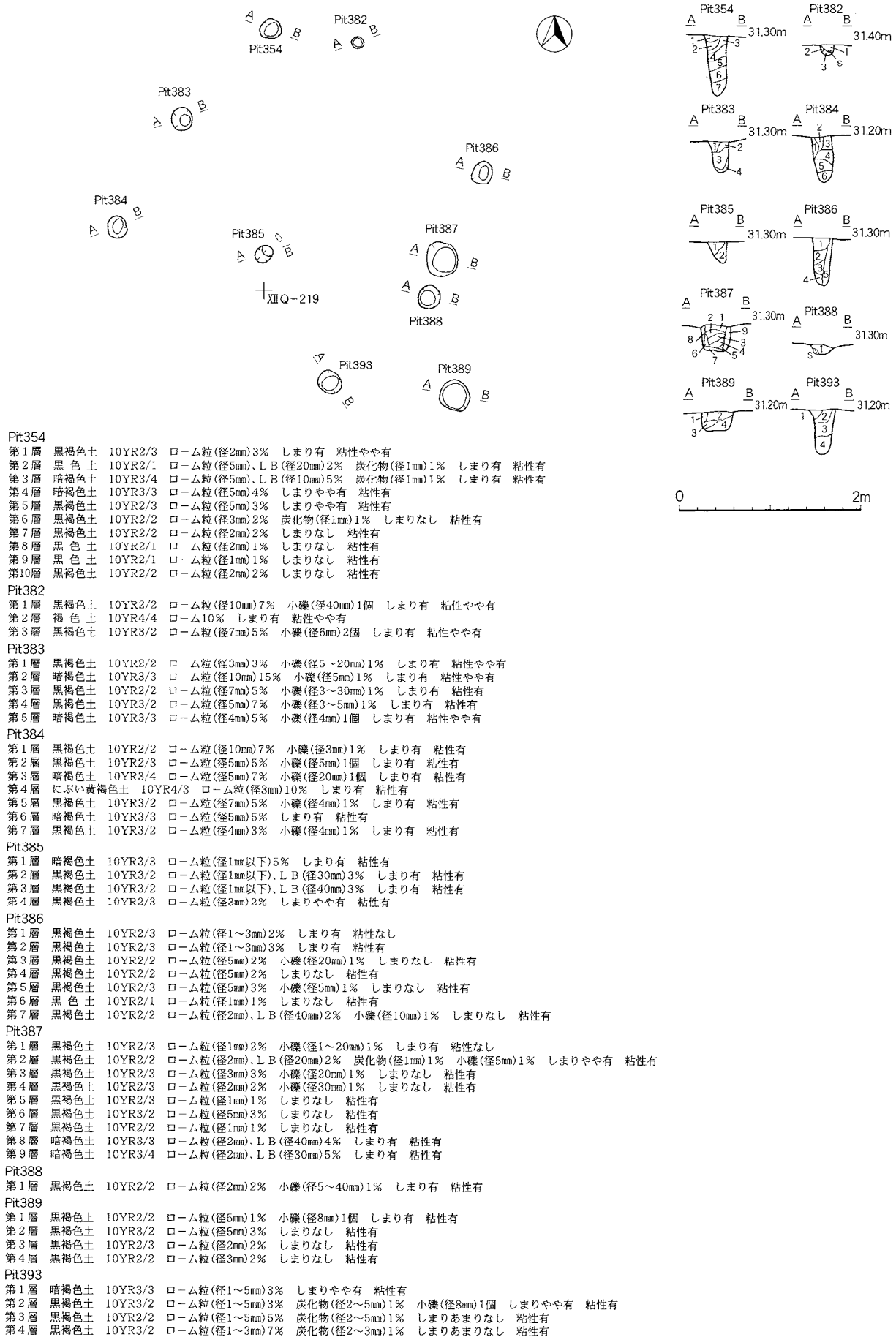
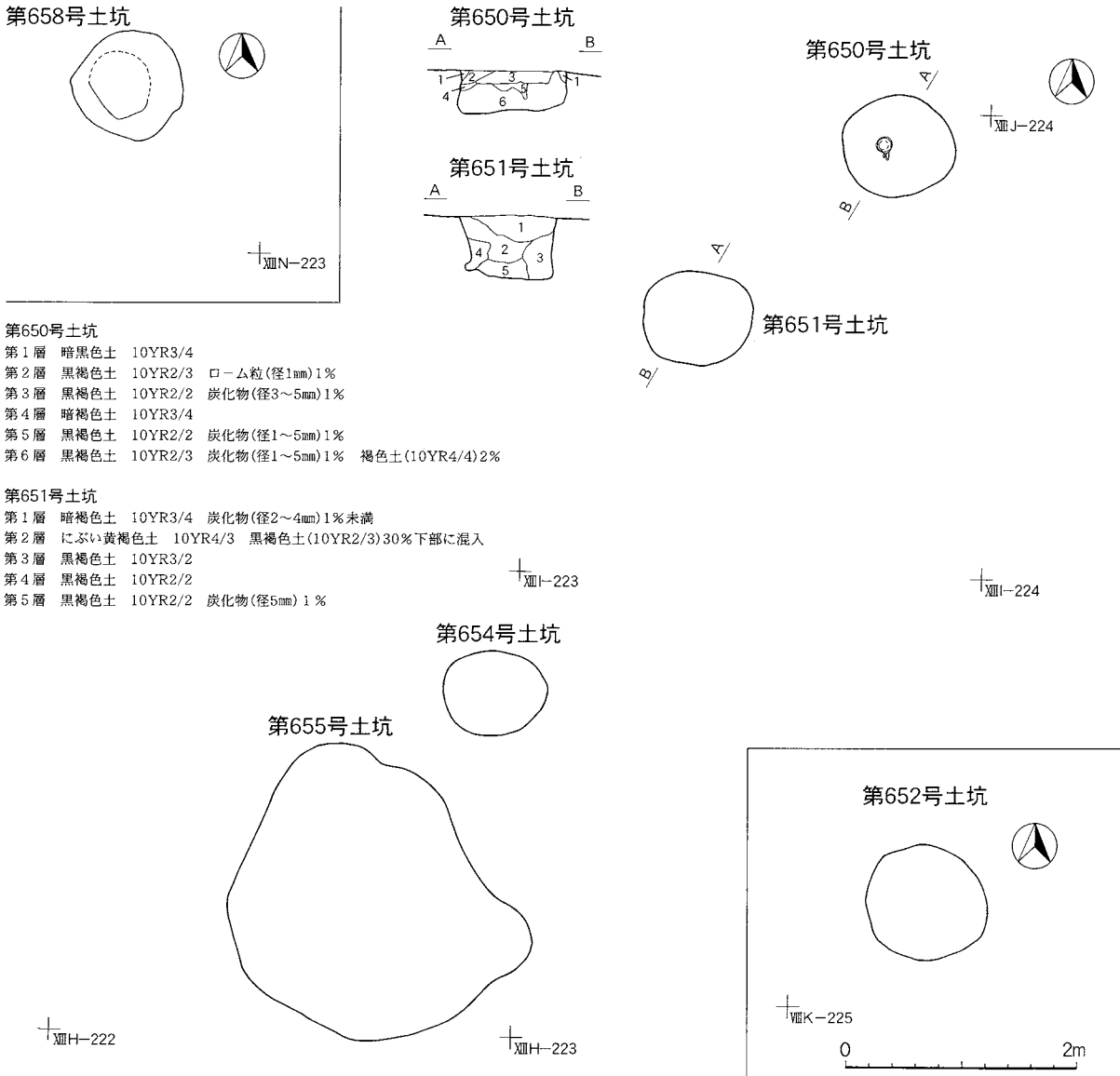


図47 Pit354・382・383・384・385・386・387・388・389・393



第650号土坑

- 第1層 暗黒色土 10YR3/4
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 口-△粒(径1mm)1%
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物(径3~5mm)1%
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4
- 第5層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物(径1~5mm)1%
- 第6層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物(径1~5mm)1% 褐色土(10YR4/4)2%

第651号土坑

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物(径2~4mm)1%未滿
- 第2層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黒褐色土(10YR2/3)30%下部に混入
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2
- 第5層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物(径5mm)1%

図48 第650・651・652・654・655・658号土坑

後期後葉に位置づけられるものと思われる。

[小結] この土坑は半分だけの調査であった。縄文時代後期後葉の土坑と思われる。用途は明らかではない。

#### 第651号土坑（図48、写真19）

[位置・確認] XⅢI-223グリッドで楕円形の落ち込みとして確認された。

[重複] なし。

[平面形・規模] 開口部は長径96cm×短径80cm、深さ55cmの楕円形である。

[断面・底面] 壁は垂直に近い立ち上がりを示し、底面は平坦である。

[堆積土] 5層に区分された。

[出土遺物] なし。

[小結] この土坑は半分だけの調査であった。時期、用途は明らかではない。

#### 第652号土坑（図48・56、写真19・25）

[位置・確認] XⅢK-225グリッドで楕円形の落ち込みとして確認された。

[重複] なし。

[平面形・規模] 開口部は長径101cm×短径91cmの楕円形である。

[出土遺物] 653土1・2が出土している。

[小結] 土坑の時期、用途は明らかではない。

#### 第653号土坑（図30・56、写真19・25）

[位置・確認] XⅢJ-222グリッドで楕円形の落ち込みとして確認された。

[重複] なし。

[平面形・規模] 開口部は長径176cm×短径137cmの楕円形である。

[出土遺物] 653土1～7が出土している。4と5は第Ⅲ群1類で縄文時代後期前葉に、その他は第Ⅲ群3類の後期後葉に位置づけられるものと思われる。

[小結] 土坑は縄文時代後期のころと思われるが、用途は明らかではない。

#### 第654号土坑（図48・56、写真19・25）

[位置・確認] XⅢH-222・223グリッドで楕円形の落ち込みとして確認された。

[重複] なし。

[平面形・規模] 開口部は長径95cm×短径70cmの楕円形である。

[出土遺物] 654土1～4が出土している。1は瘤付注口土器の注口部である。これらは第Ⅲ群3類の縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

[小結] 土坑は縄文時代後期後葉のころと思われるが、用途は明らかではない。

## 第655号土坑（図48・56、写真20・25）

〔位置・確認〕 XⅢH-222グリッドで不整形の落ち込みとして確認された。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 開口部は長径245cm×短径220cmの不整形である。

〔出土遺物〕 655土1～3、S1が出土している。土器は第Ⅲ群3類の縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。1は瘤付注口土器の注口部である。これらは第Ⅲ群3類の縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕 土坑は縄文時代後期後葉のころと思われるが、用途は明らかではない。

## 第656号土坑（図30・56、写真20）

〔位置・確認〕 XⅢG・H-220グリッドで楕円形の落ち込みとして確認された。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 開口部は長径137cm×短径116cmの楕円形である。

〔出土遺物〕 656土1・2が出土している。土器は第Ⅲ群3類の縄文時代後期後葉に位置づけられるものと思われる。

〔小結〕 土坑は縄文時代後期後葉の可能性があるとと思われるが、用途は明らかではない。

## 第657号土坑（図30、写真20）

〔位置・確認〕 XⅢG-220グリッドで楕円形の落ち込みとして確認された。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 開口部は長径122cm×短径100cmの楕円形である。

〔小結〕 土坑の時期及び用途は明らかではない。

## 第658号土坑（図48・56、写真20・25）

〔位置・確認〕 XⅢN-222グリッドで円形の落ち込みとして確認された。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 開口部は径94cmの円形である。

〔出土遺物〕 658土1～3が出土している。

〔小結〕 土坑は縄文時代後期後葉の可能性があるとと思われるが、用途は明らかではない。

（木村鐵次郎）

保存区ピット観察表

図番号	遺構番号	平面形	グリッド	重複	開口部径 長軸(cm)	開口部径 短軸(cm)	底部 長軸(cm)	底部 短軸(cm)	深さ (cm)	遺物	備考
図38	214	方形	XⅡS-218	201土		22		15	24		
図38	216	円形	XⅡK-230	205土		37	28	21	10		
図38	228	方形	XⅡL-231	206土		24		22	24	有	
図40	224	円形	XⅡQ-236		22	22	11	10	21	有	
図40	225	楕円形	XⅡQ-236		22	20	12	11	18	有	
図40	229	楕円形	XⅡQ-236	P243	26	20	12	12	21		
図40	243	楕円形	XⅡQ-235	P229		17		12	10		
図40	234	楕円形	XⅡQ-237		18	15	10	10	20		
図40	236	不整形	XⅡS-238		24	23	18	18	8		
図40	239	楕円形	XⅡR-237		20	14	14	10	12		
図40	240	楕円形	XⅡS-237		40	23	30	18	20		
図41	251	円形	XⅡL-229		30	28	13	11	24		
図41	257	円形	XⅢA-220		21	21	18	16	22	有	
図41	313	円形	XⅢA-220		18	18	14	8	10		
図41	260	円形	XⅡL-228		26	24	12	12	12		
図41	261	不整形	XⅡM-227		31	25	16	16	14		
図41	269	楕円形	XⅡR-236		30	24	20	11	13		
図41	271	円形	XⅡR-235		20	17	15	12	21		
図42	277	円形	XⅡL-225		20	20	15	15	12		
図42	279	不整形	XⅡK-225		25	24	18	14	13		
図42	280	楕円形	XⅡL-224		25	22	13	7	30		
図42	281	円形	XⅡL-222		25	25	18	18	20		
図42	282	楕円形	XⅡN-225		23	20	17	14	16		
図42	283	円形	XⅡQ-235		23	21	13	12	8		
図42	284	円形	XⅡL-225	P285		35	29	27	17		
図42	285	円形	XⅡL-225	P284		20	11	10	15		
図42	286	方形	XⅡM-224		35	25	22	15	18		
図43	287	円形	XⅡM-224		25	23	14	14	15		
図43	288	楕円形	XⅡN-224		30	26	21	18	15		
図43	289	円形	XⅡN-224		26	24	14	14	22		
図43	290	楕円形	XⅡN-224		25	20	11	7	13		
図43	295	円形	XⅡO-224		24	22	15	14	14		
図43	296	円形	XⅡO-224		25	23	18	15	17		
図43	297	楕円形	XⅡO-225		36	25	30	16	16	有	
図44	302	楕円形	XⅡT-217		33	24	30	18	25		
図44	305	楕円形	XⅡS-218		47	33	25	15	23		
図44	312	円形	XⅡR-218		80	75	65	60	13	有	
図44	314	円形	XⅢA-220		22	21	15	8	22		
図44	315	円形	XⅢA-219		25	24	15	14	50		
図44	319	楕円形	XⅡT-219		25	18	15	15	30		
図44	322	楕円形	XⅡT-219		35	25	20	20	42		
図44	339	円形	XⅡT-219		25	24	18	15	33		
図45	340	不整形	XⅡT-219		37	35	33	25	38		
図45	341	不整形	XⅡT-219		43	40	13	32	16		
図45	342	円形	XⅡT-219		25	25	19	12	15		
図45	343	不整形	XⅡT-219		24	23	16	12	35		
図45	344	円形	XⅡS-219		25	25	17	17	10		
図46	345	円形	XⅡS-220	P146	56	50	48	44	57	有	
図46	346	楕円形	XⅡS-220	P145	28	24	20	18	25		
図46	347	円形	XⅡS-220		42	40	37	35	30		
図46	348	円形	XⅡS-219		27	25	18	22	27		
図46	349	楕円形	XⅡS-219		64	50	42	30	30		
図46	350	不整形	XⅡS-220		25	24	9	8	46		
図46	351	楕円形	XⅡT-220		26	21	20	20	25		
図46	352	円形	XⅡS-219		23	20	18	16	7		
図46	353	円形	XⅢA-220		20	18	15	11	9		
図47	354	楕円形	XⅡQ-219		26	22	15	15	61		
図47	382	円形	XⅡQ-219		13	13	10	9	12		
図47	383	楕円形	XⅡQ-218		33	25	15	12	32		
図47	384	円形	XⅡQ-218		25	25	17	12	50		
図47	385	楕円形	XⅡQ-219		22	15	25	14	42		
図47	386	円形	XⅡQ-219		25	25	13	13	50		
図47	387	楕円形	XⅡQ-219		39	35	25	25	27		
図47	388	楕円形	XⅡP-219		30	25	19	17	10		
図47	389	楕円形	XⅡP-219		36	33	30	25	17		
図47	393	楕円形	XⅡP-219		25	20	21	16	50	有	

保存区土坑番号

報告書使用番号	現場使用番号
第 201 号土坑	SK 1
第 205 号土坑	SK 5
第 206 号土坑	SK 6
第 207 号土坑	SK 7
第 209 号土坑	SK 9
第 213 号土坑	SK 13
第 219 号土坑	SK 19
第 222 号土坑	SK 22
第 223 号土坑	SK 23
第 226 号土坑	SK 26
第 227 号土坑	SK 27
第 242 号土坑	SK 42
第 244 号土坑	SK 44
第 259 号土坑	SK 59
第 650 号土坑	01SK 1
第 651 号土坑	01SK 2
第 652 号土坑	01SK 3
第 653 号土坑	01SK 4
第 654 号土坑	01SK 5
第 655 号土坑	01SK 6
第 656 号土坑	01SK 7
第 657 号土坑	01SK 8
第 658 号土坑	01SK 9

保存区ピット番号

報告書使用番号	現場使用番号
ピット 214	SK 14
ピット 216	SK 16
ピット 224	SK 24
ピット 225	SK 25
ピット 228	SK 28
ピット 229	SK 29
ピット 234	SK 34
ピット 236	SK 36
ピット 239	SK 39
ピット 240	SK 40
ピット 243	SK 43
ピット 251	SK 51
ピット 257	SK 57
ピット 260	SK 60
ピット 261	SK 61
ピット 269	SK 69
ピット 271	SK 71
ピット 277	SK 77
ピット 279	SK 79
ピット 280	SK 80
ピット 281	SK 81
ピット 282	SK 82
ピット 283	SK 83
ピット 284	SK 84
ピット 285	SK 85
ピット 286	SK 86
ピット 287	SK 87
ピット 288	SK 88
ピット 289	SK 89
ピット 290	SK 90
ピット 294	SK 94
ピット 295	SK 95
ピット 296	SK 96
ピット 297	SK 97
ピット 302	SK 102
ピット 305	SK 105
ピット 309	SK 109
ピット 312	SK 112
ピット 313	SK 113
ピット 314	SK 114
ピット 315	SK 115
ピット 319	SK 119
ピット 322	SK 122
ピット 339	SK 139
ピット 340	SK 140
ピット 341	SK 141
ピット 342	SK 142
ピット 343	SK 143
ピット 344	SK 144
ピット 345	SK 145
ピット 346	SK 146
ピット 347	SK 147
ピット 348	SK 148
ピット 349	SK 149
ピット 350	SK 150
ピット 351	SK 151
ピット 352	SK 152
ピット 353	SK 153
ピット 354	SK 154
ピット 382	SK 182
ピット 383	SK 183
ピット 385	SK 185
ピット 386	SK 186
ピット 387	SK 187
ピット 388	SK 188
ピット 389	SK 189
ピット 393	SK 193

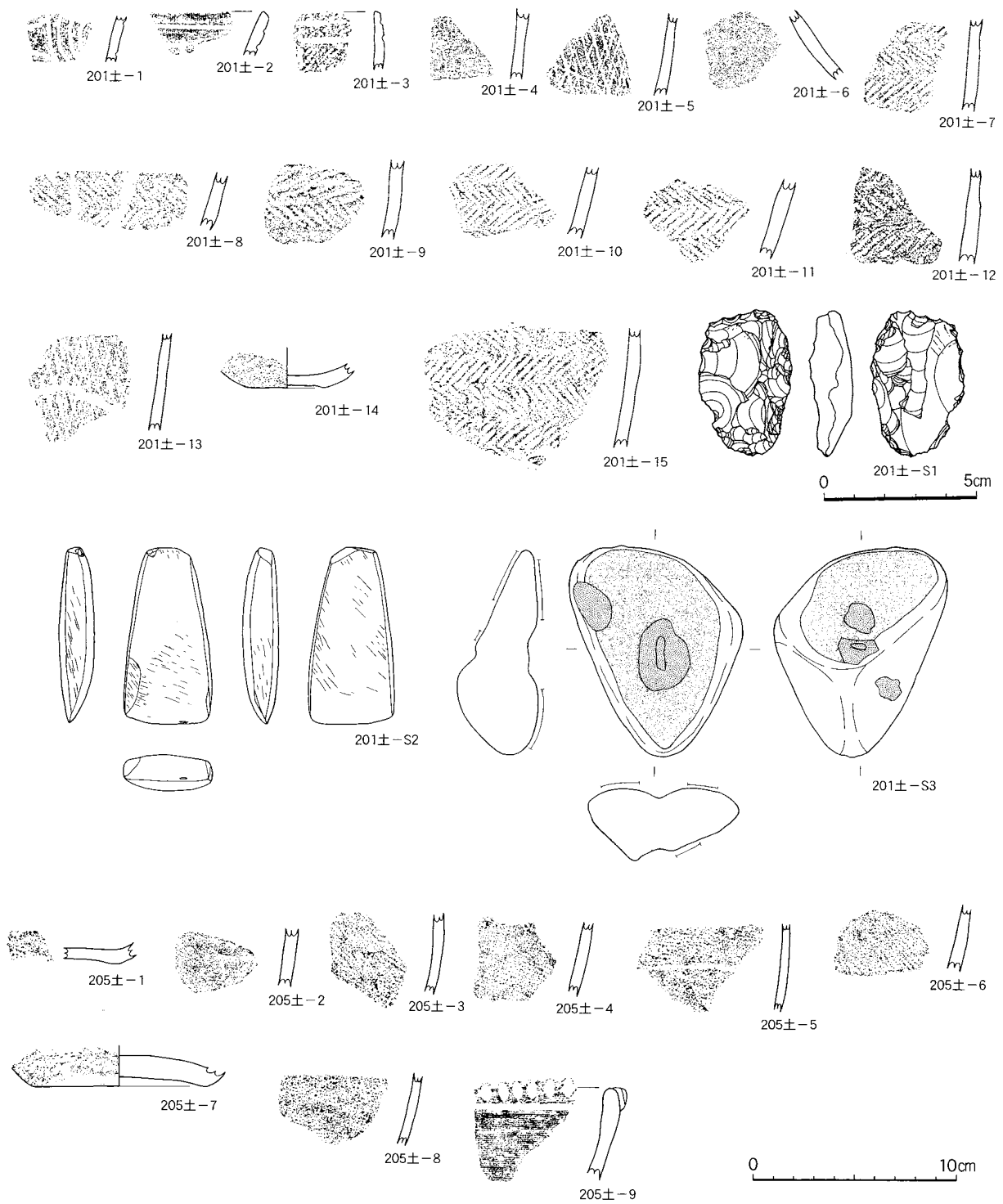


図49 第201・205号土坑出土遺物



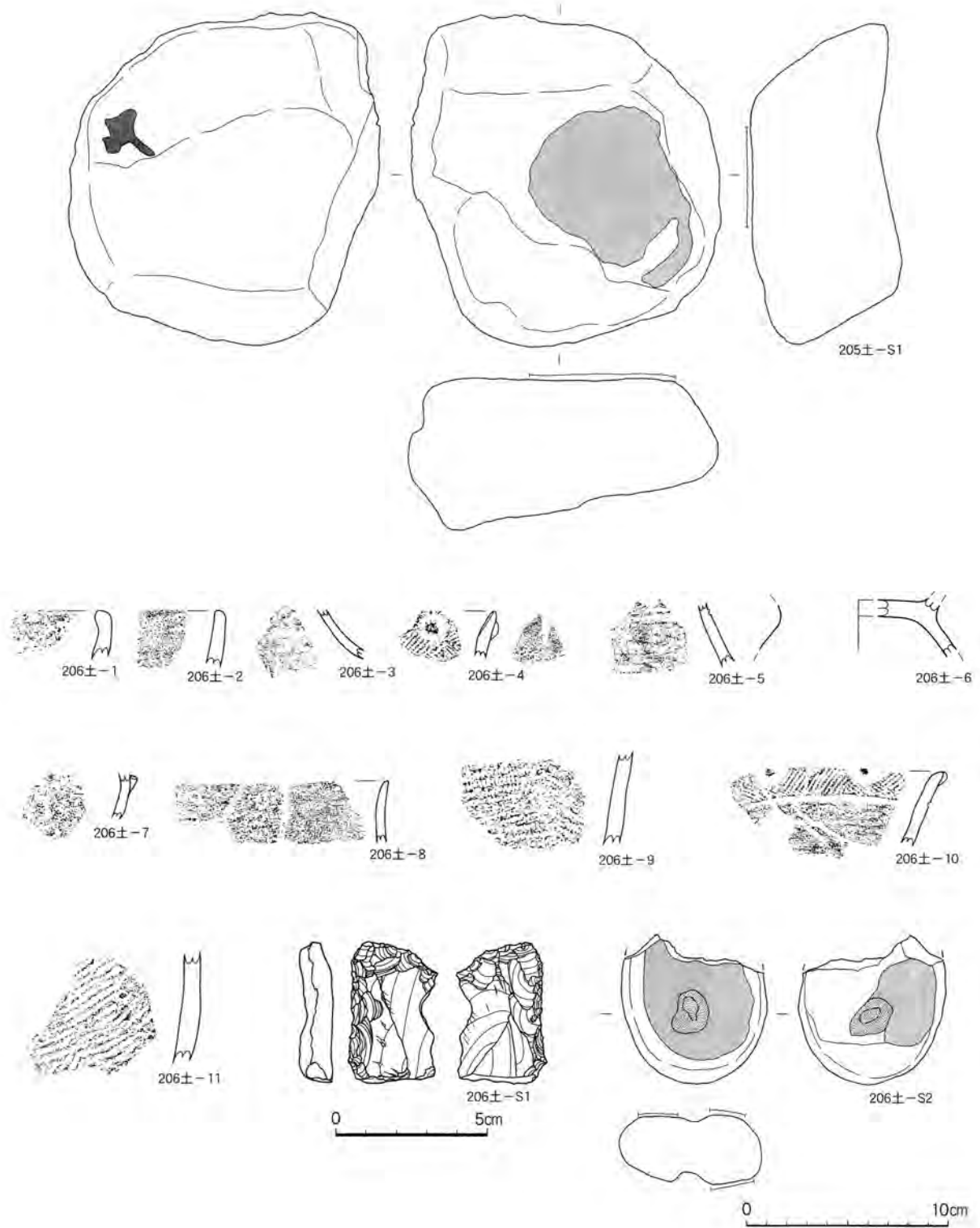


図50 第205・206号土坑出土遺物

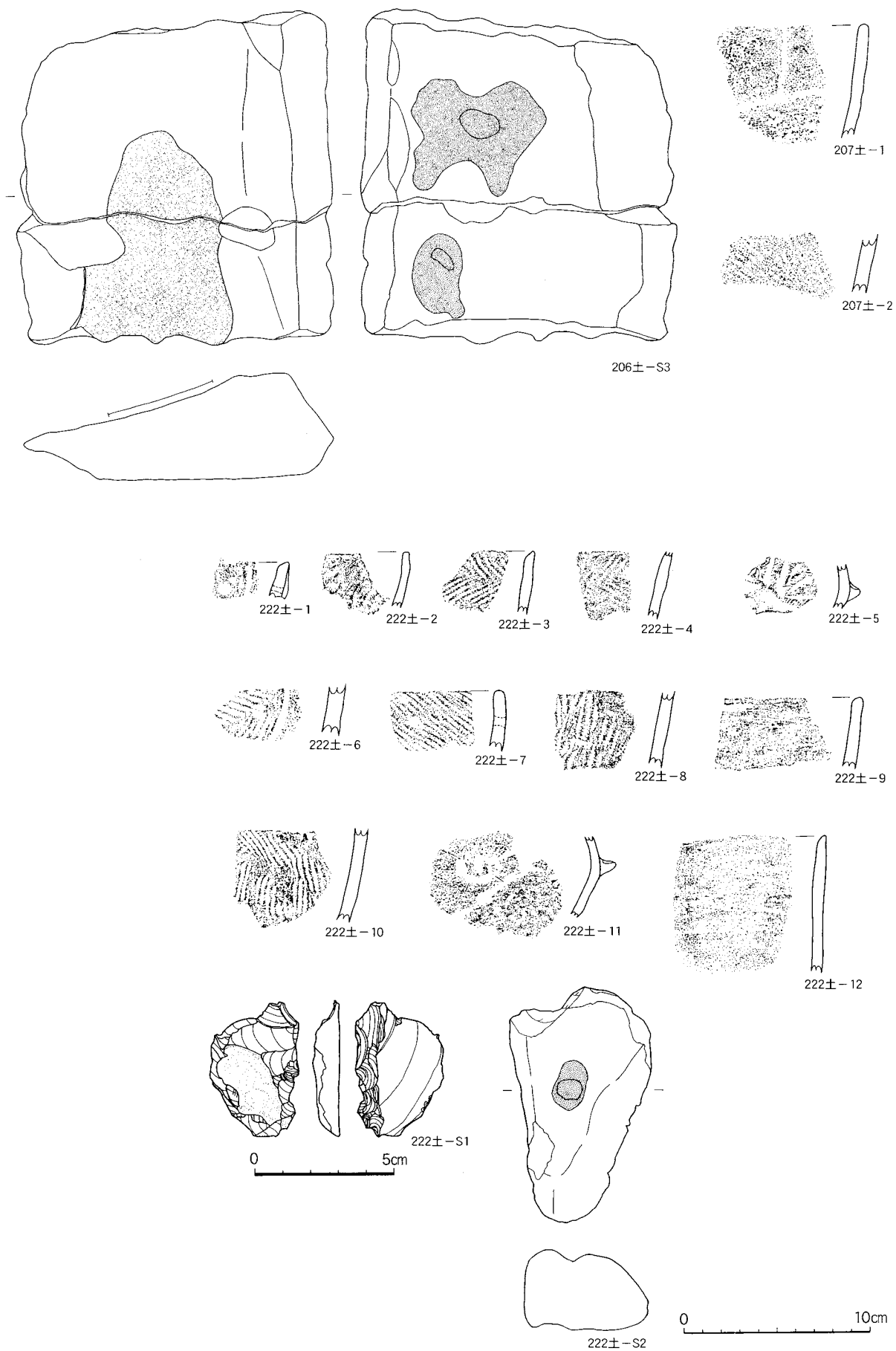


図51 第206・207・222号土坑出土遺物

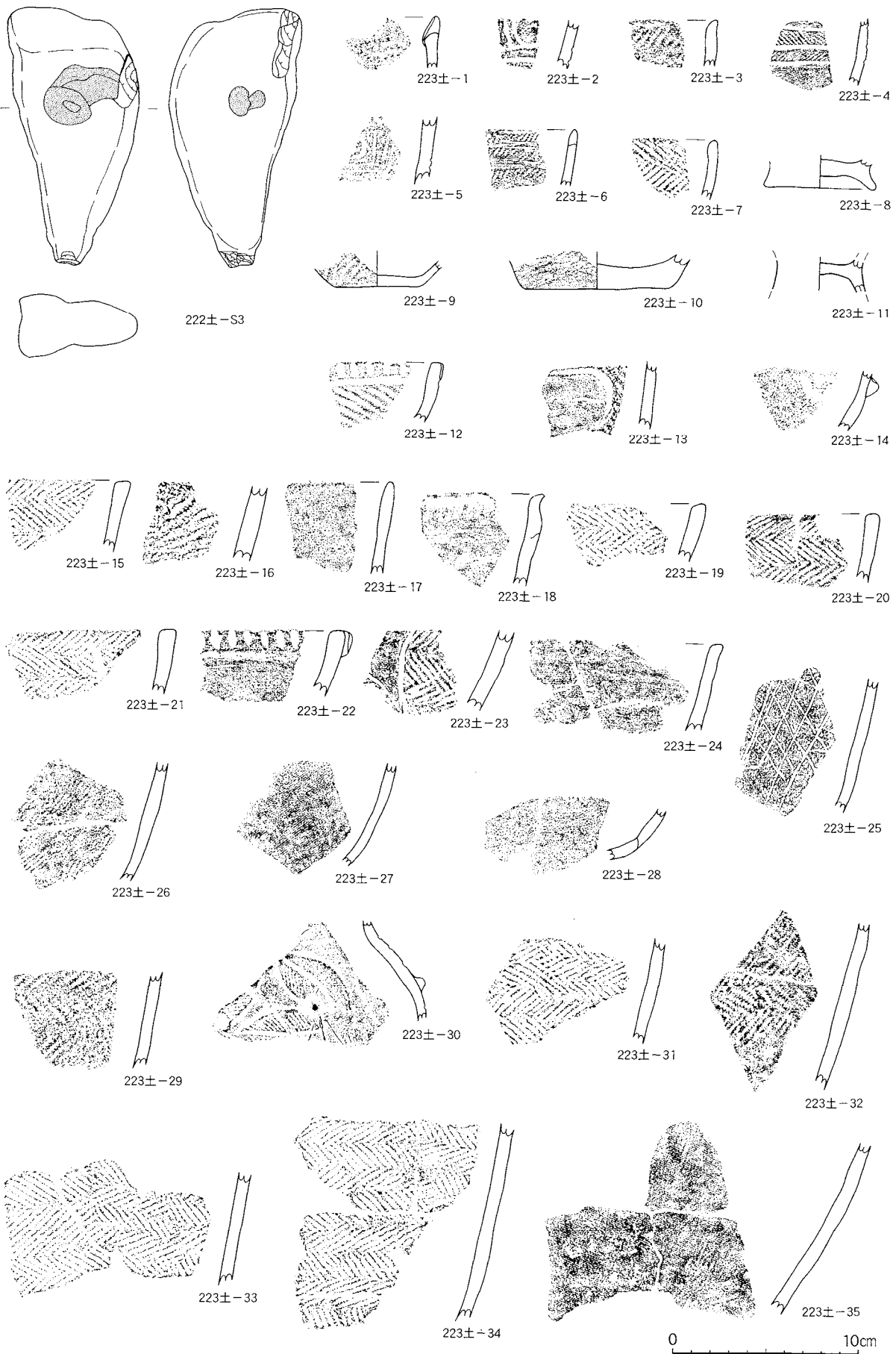


图52 第222・223号土坑出土遺物

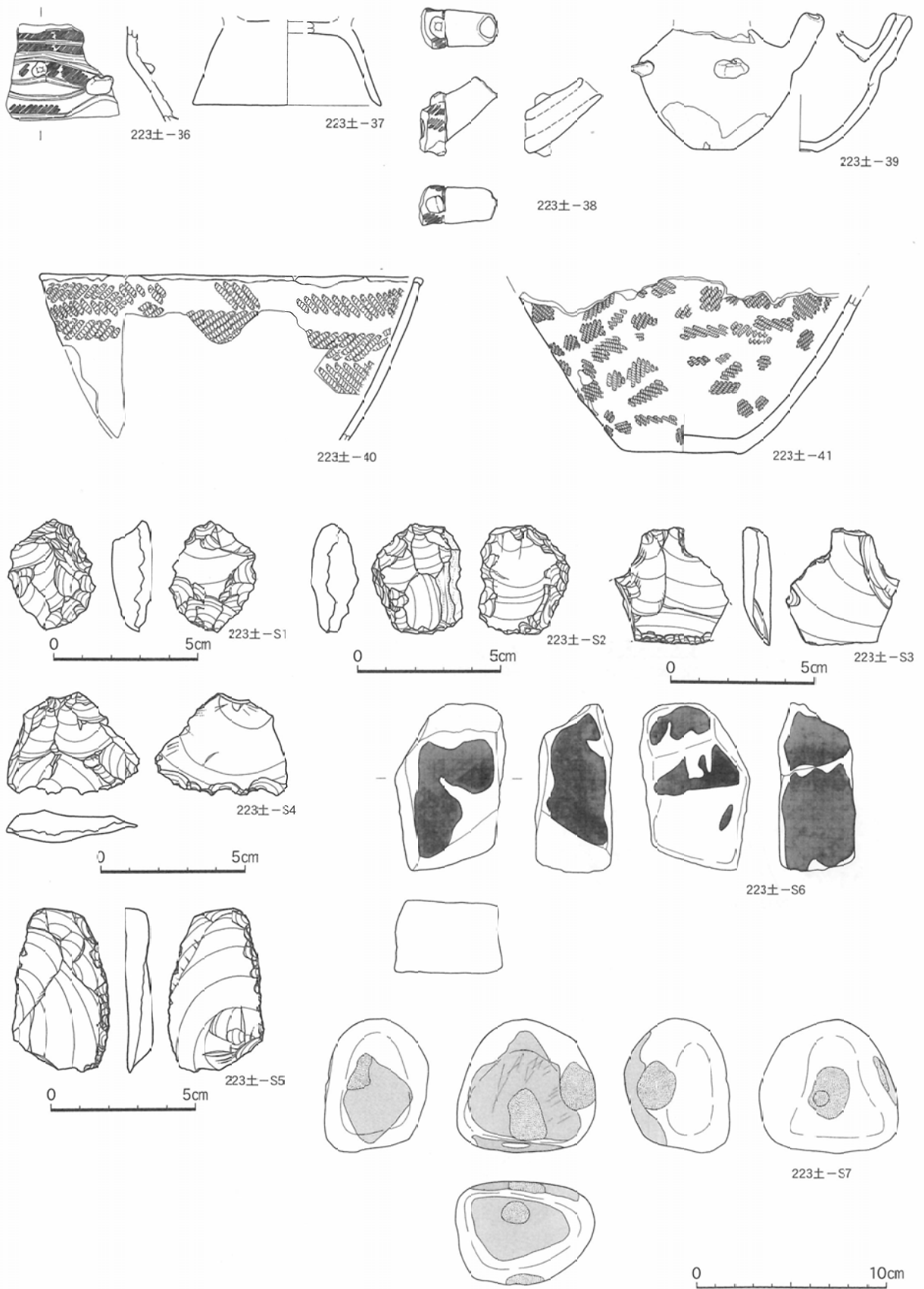


图53 第223号土坑出土遺物

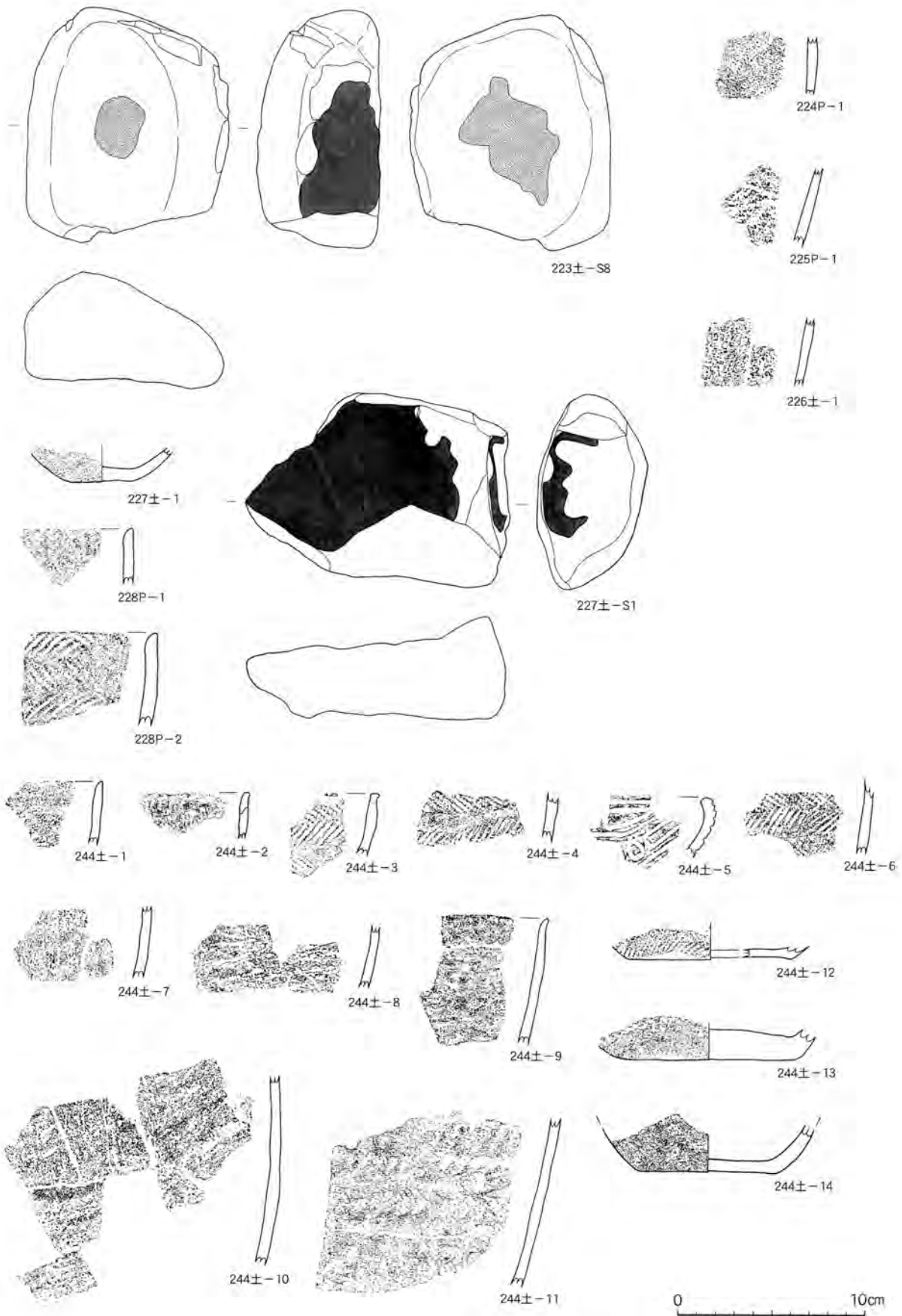


図54 第223・226・227・242・244号土坑、Pit224・225・228出土遺物

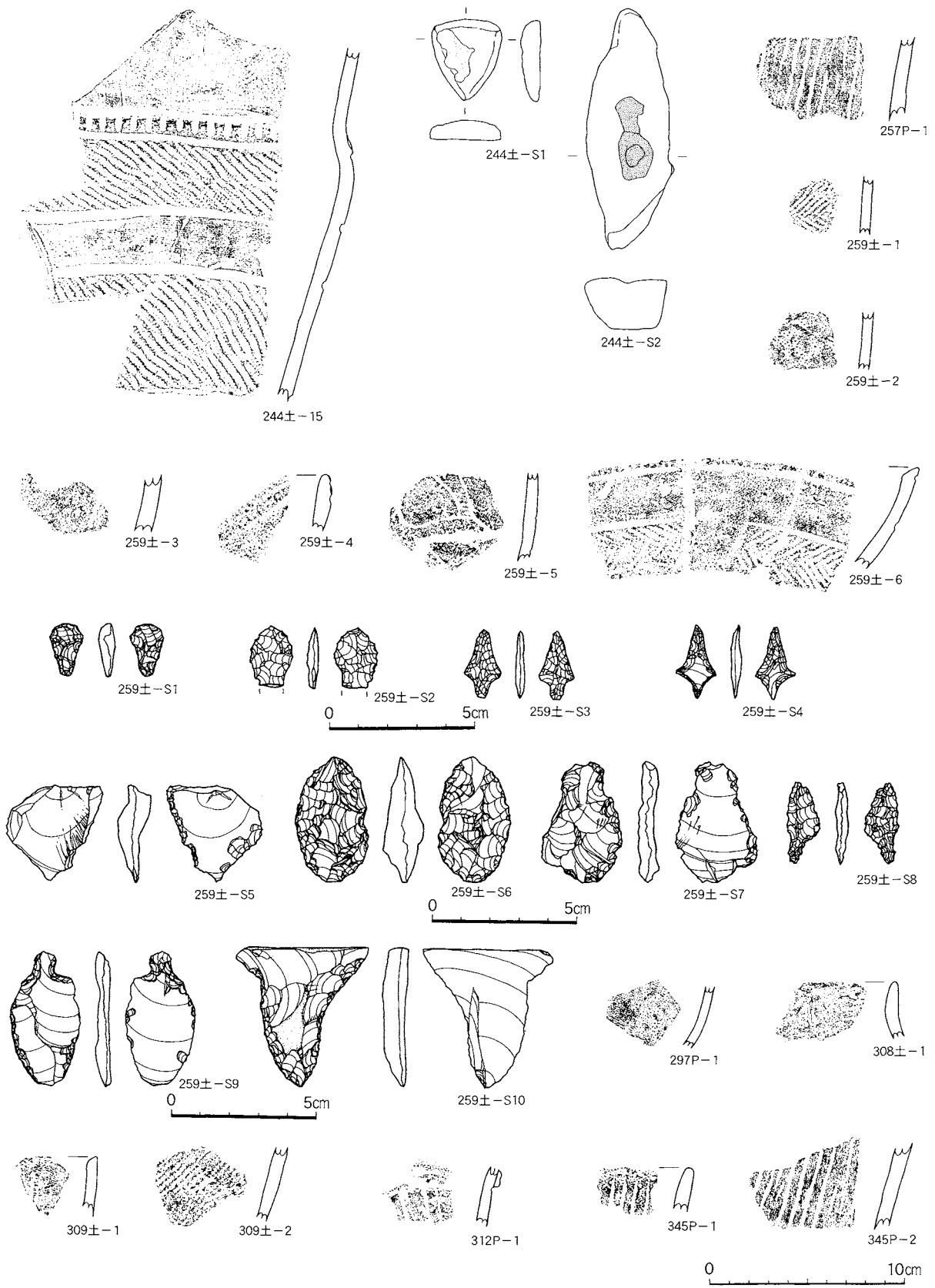


図55 第244・259・308・309号土坑、Pit257・297・312・345出土遺物

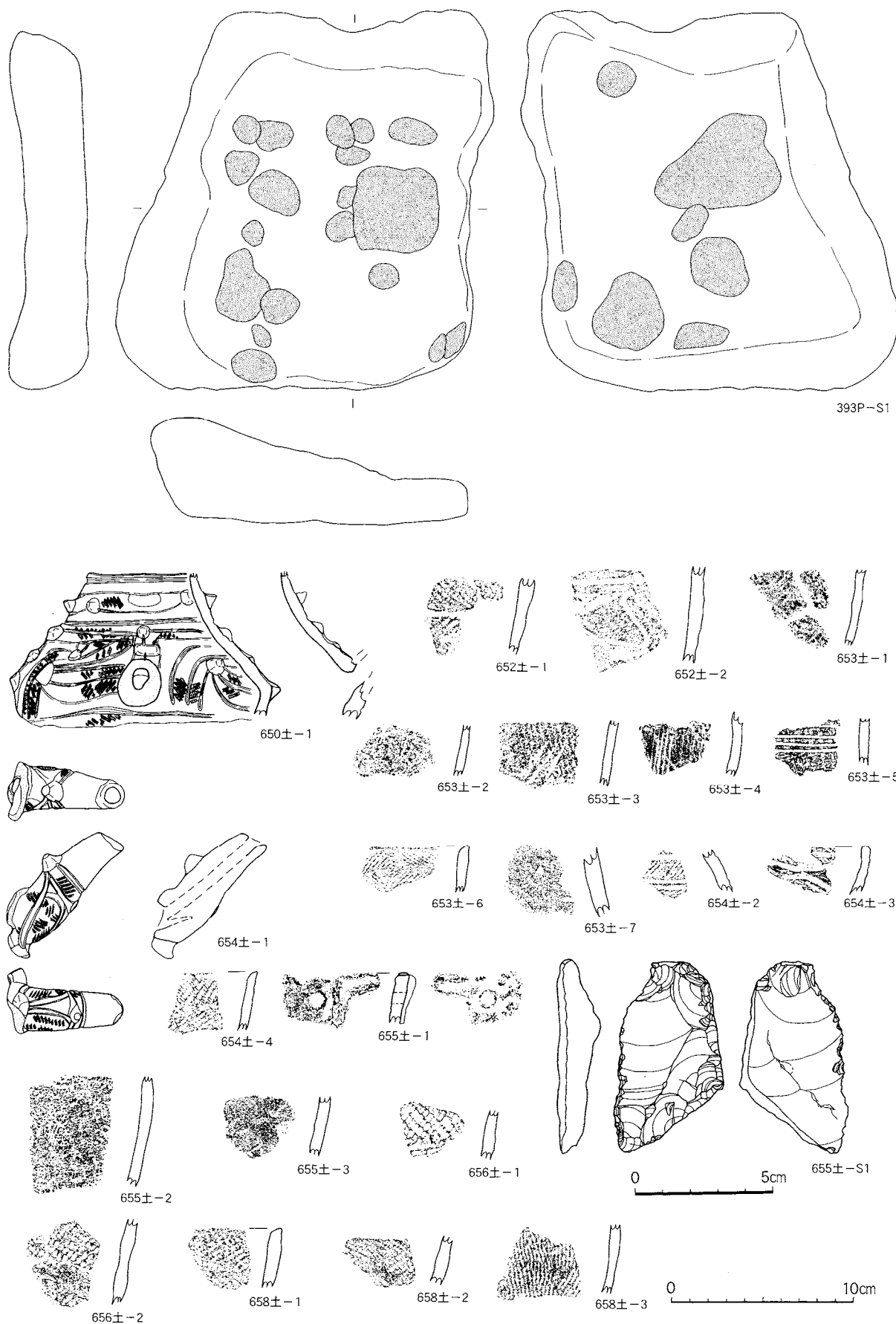


图56 第650・652・653・654・655・656・658号土坑、Pit393出土遺物

### 第3節 遺構外出土遺物

#### 1. 土器

##### 縄文時代中期の土器 第Ⅱ群 (図57 1~2)

2点出土した。1はRL縄文を縦回転で施した地文上に、縦位平行沈線文や弧状沈線文を組み合わせたモチーフを2条単位の沈線で描くもので、胴部がふくらむ深鉢であろう。2はRL縄文を縦方向に回転施文した上に、太めで深い沈線を水平方向と縦方向に弧状に施している。これらはその胎土、文様等から縄文時代中期後葉の土器に比定される。

##### 縄文時代後期の土器 第Ⅲ群 (図57~59 3~87)

後期の土器は、上野尻遺跡全ての調査区において主体となっている時期であり、保存区においても後期後葉を中心に前葉、中葉の土器も出土している。

3~14は前葉の土器と思われる。平行沈線によって方形文、弧状文、楕円文等のモチーフが描かれるもので、平行沈線間が隆帯状にやや盛り上がり丁寧に磨かれているもの(3~6, 8, 9, 11~14)のほか、平行沈線間に縄文を充填するもの(7, 10)等がある。口縁正面形は波状口縁のもの(3~6)と平口縁のもの(7, 8)があり、大半が口縁の外傾する深鉢であろう。15は口縁下に巡る横位縄文帯に「く」の字状の平行沈線を組み合わせてカニのはさみ状文を構成し、その下にはやや蛇行気味のクランク状文を配置している。口縁には部分的に刻みが施されるもので、前葉の深鉢であろう。16は平行沈線間に条線を充填し弧状文を描いているもので、これも前葉の土器とみられる。また、縦位の条線文を施すもの(17)、網目状撚糸文を施すもの(18)、地文縄文のみのもの(19, 20)等もみられる。中期末葉~後期前葉に位置付けられよう。

中葉と思われる土器は3点図示した。21は口縁部に2段の刻目帯を持ち、その下に大柄の鍵状文を施した鉢である。横位沈線により口縁部、胴部、底部の文様帯が区切られ、胴部の鍵状文にはRLとLRによる横位の羽状縄文が充填される。23も21と同一個体と思われる。22は大波状口縁の深鉢の口縁端部であろう。口縁に沿い2段の刻目帯を持つが、刻目帯は頂部先端まで巡らずに弧を描き、先端は無文で丁寧なミガキが施される。また頂部は内側に大きく肥厚している。

後葉の土器(24~87)は破片数が他に比して多く、保存区においても主体的な位置を占めるとは思われるが、摩滅した小片が多く、器形や器面に展開するモチーフ等を知り得るものはわずかにすぎない。把握できた器形には深鉢、鉢、台付鉢、壺、注口土器等がみられ、器面の文様は帯状の縄文帯によるものや、微粒起線を施すもの、沈線のみもの、縄文のみもの、無文のもの等がある。またこうした装飾のほかに口縁突起や貼瘤が施されるものも相当数含まれる。

帯状の縄文帯を主文様としている土器(24~39, 45)には深鉢、鉢、壺、注口土器があるようである。25は大波状口縁の深鉢の波頂部分で、24はその先端を欠いているが同一個体と思われる。波頂部が親指状に内側に肥厚し、さらに三角形の斜辺にあたる部分には粘土粒をつぶしたような突起が付けられる。波頂部と口縁突起には上面から内面にかけて縦位の刻みが、また、波頂部と口縁突起の直下には小さな粘土粒による貼瘤がなされている。26及び27はおそらく鉢の口縁と思われる。26の口縁には24で見られたような小振りの突起があるが、摩滅しているため、刻みの有無は不明である。



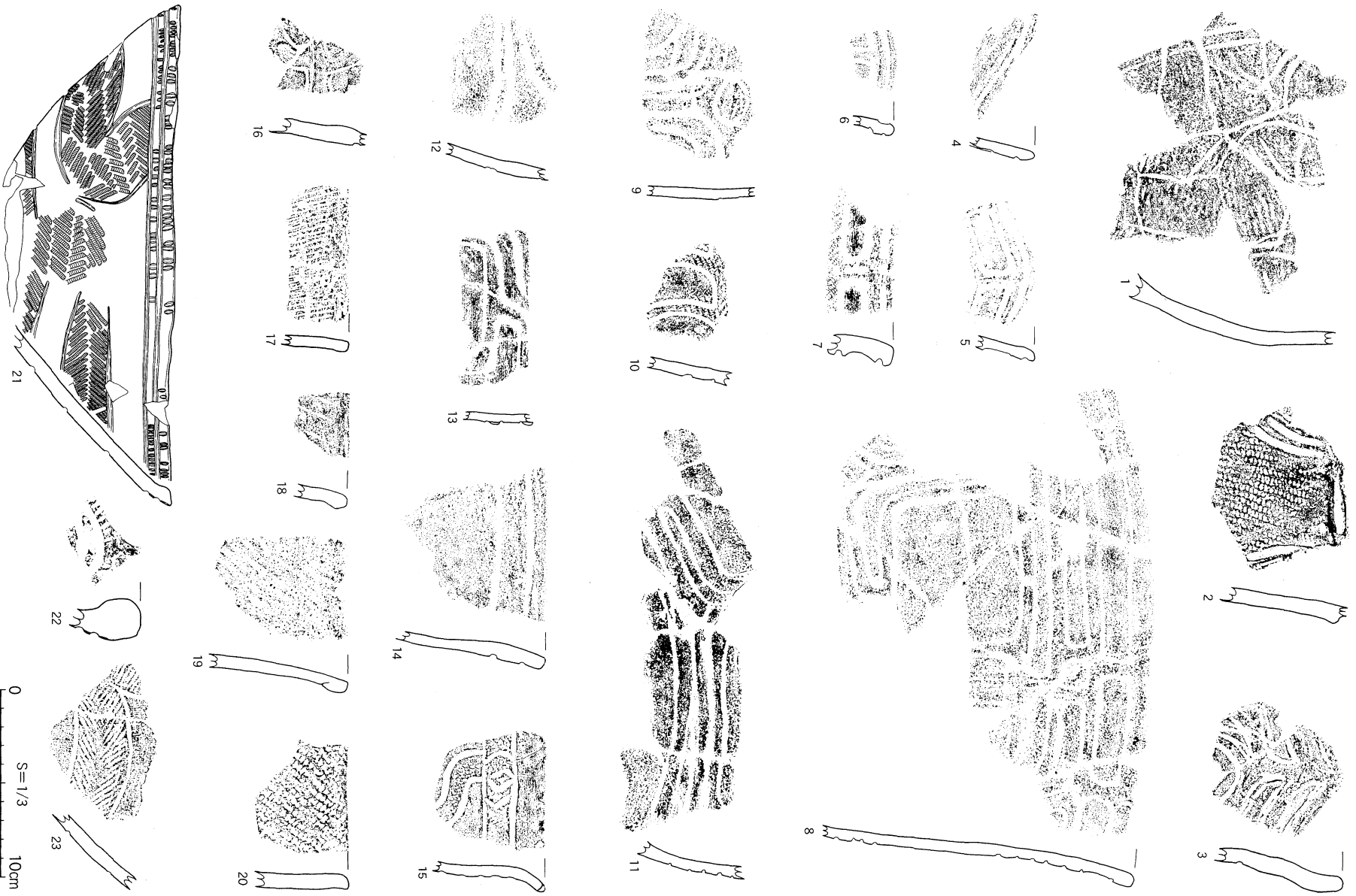


図57 保存区遺構外出土土器 (1)

26には口縁下にわずかな無文部をおいて一本の細い縄文帯が巡り、口縁突起と対応するように小さな貼瘤がある。27は口縁端部とその一段下に縄文帯が巡り、それぞれの縄文帯に瘤が施される。28は内側に肥厚した山形の口縁突起部分であり、24等にみられる小さな口縁突起とは異なる。39は縄文帯の幅が比較的広く、弧状文のモチーフがうかがわれるもので、深鉢であろう。30及び31は口縁端部に横位の縄文帯が巡る壺の口縁部と思われるが、31には口縁端部に小さな粘土粒状の突起が見られる。32、35、36、38は同一個体の壺と思われ、横位に数本巡る縄文帯に貼瘤がなされる。33、34は壺の頸部破片で、33は横位の縄文帯に貼瘤が、34は貼瘤を基点とした連結帯状文が施されている。37はやや浮彫状の横位縄文帯を2本施し、下位の縄文帯上に小さな貼瘤がみられる。注口部の剥離と穿孔が見られたため注口土器としたが、このような特徴の見られない壺としたものの中にも、こうした注口土器が含まれる可能性がある。45は注口土器の注口部で、摩滅が著しいものの、2本単位の縄文帯と貼瘤がみられる。40は貼瘤を基点としたメガネ状のモチーフを微粒起線（細隆線）で描いている。微隆起線は2条の浅い沈線をわずかな間隔をあけて引くことで沈線間を浮きだたせているもので、同じ手法のものは12年度報告のA区でも出土している。貼瘤は中央に円形刺突がなされるもので、器面全体に赤彩が施されているようである。41及び42は矢羽根状の沈線を横位の沈線間に帯状に施す鉢と思われる。胎土や焼成、調整の状況等から後期後葉のものと考えられる。

43及び44、46～58は無文の土器である。表面が著しく摩滅しているものが多い。状態の良い47、48、52等の破片を見る限りでは調整時に残存した凹凸は顕著であるものの、最終的なミガキ調整は工具等で密に行われている様子がうかがわれる。口縁断面は端部をつまみ出すようにしたものが見られるが、摩滅しているものが多く詳細は不明である。器種にはおそらく深鉢、鉢、壺等があると思われる。53、55、57には上面に刻みを有する大型の瘤が貼り付けられているが、53は大型の瘤の直下に小さな瘤の列が間隔をあけて横位に巡り、そのうちのひとつと結合しているものである。56は貼瘤上に刻みではなく、上方からの円形刺突が施されているものである。54及び58は頸部と胴部の境界が不明確で緩い傾斜を持つタイプの壺であろう。部分的に残存するため瘤の有無等は不明である。

59～83は縄文のみが施される土器であり、大半が深鉢とみられる。縄文には異なる原体を用いて羽状構成をとるものと、一原体によって斜行縄文を施すものの2種類がある。口縁は器表面と端部に明瞭な稜を持つ作りが多いが、断面形では64のように内面から削り取るようなつくりのものと、66や73のように端部を上からつぶすようにして肥厚させているつくりのものがある。59～63は同一個体と思われる異原体羽状縄文の施される深鉢で、口縁部は頂部から内面に刻みを持つ突起と2列の小さな貼瘤で飾られている。胴がくびれるものと思われ、その部分には上面に刻みのある大型の貼瘤を持っている。13年度報告のE区においてもこれと類似した土器が出土している。また76～78も同一個体と思われるが、口縁に小さな突起を持っている。78では突起が剥落している様子がうかがえるように、小さな粘土粒を貼り付けただけの簡素なつくりである。

84～87は底部破片である。底部は平底のもの(84)、明瞭な上げ底のもの(85、86)がみられるほか、台付鉢の台部と思われるもの(87)もみられる。

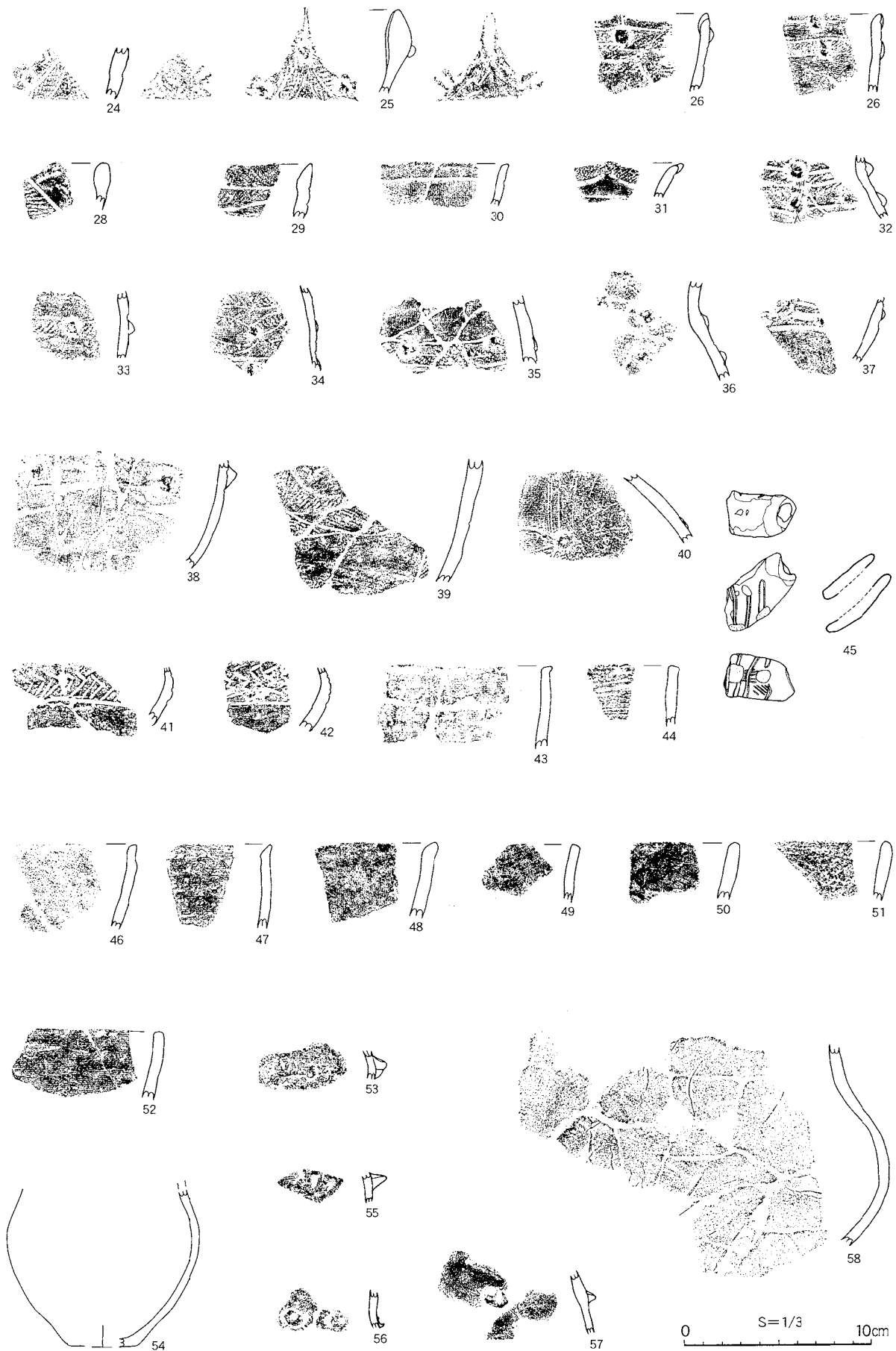


図58 保存区遺構外出土土器 (2)

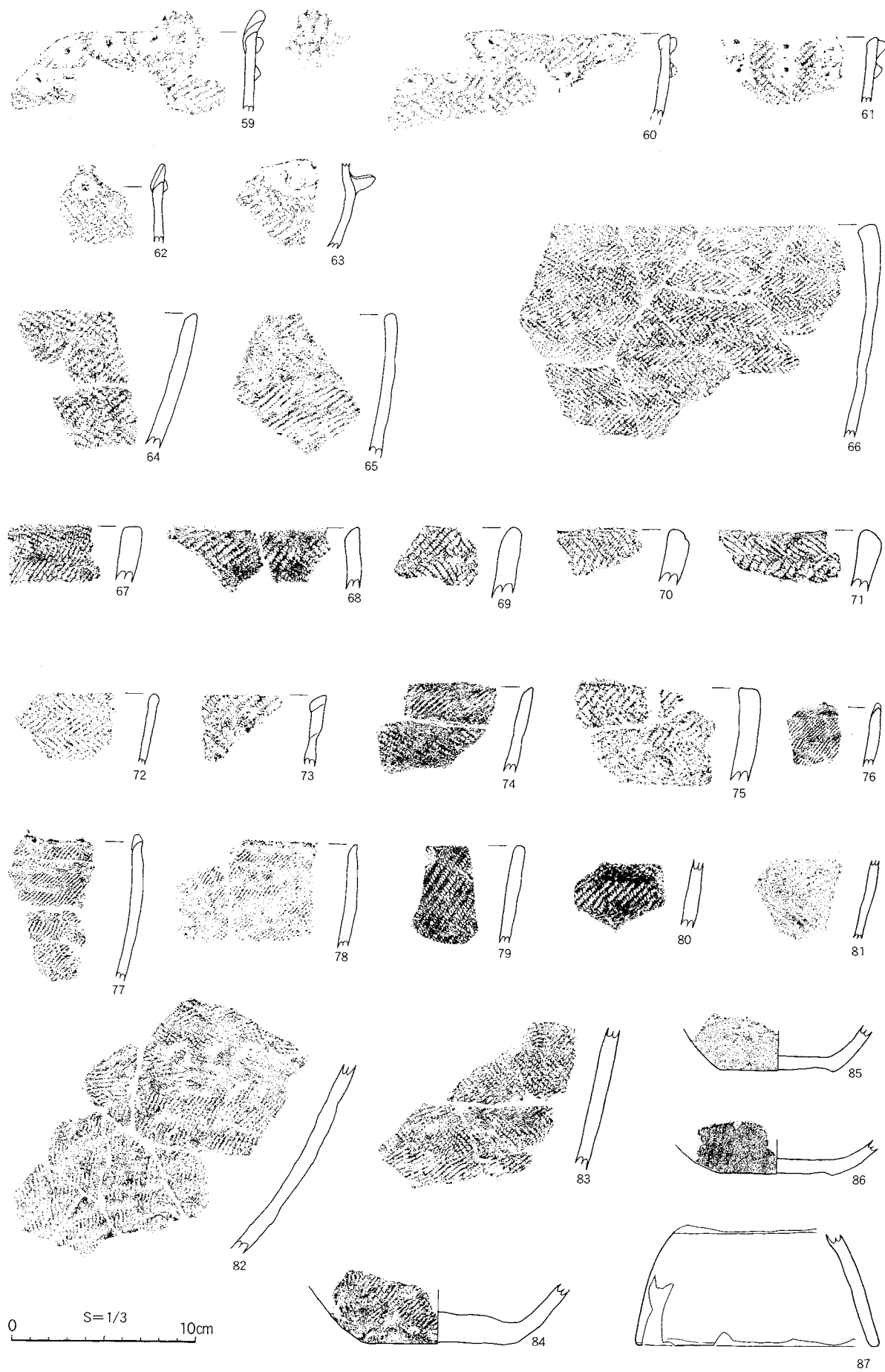


図59 保存区遺構外出土土器 (3)

## 縄文時代晩期の土器 第Ⅳ群 (図60 88~107)

88は羊歯状文の施される鉢の口縁部、89は同じく羊歯状文の施される壺の胴上部である。いずれも堅緻で器面は丁寧に磨き込まれており、89には赤彩痕が見られる。91は胴部に入組文が施された鉢である。これらは晩期前葉に比定されよう。また、106は地文にLR横回転による縄文が施され、底部は明瞭な段を持つ上げ底となっている。同様に縄文のみの深鉢である90、98を含め、これらは晩期前葉から中葉にかけてのものと思われる。

92~95は雲形文の施される鉢である。92は口縁下に1条の平行沈線と雲形文が施され、内面にも縄文帯が巡らされているもの、93は山形状の波状口縁を持ち、縦走るRLの地文縄文上に雲形文が描かれているものである。94、95は半肉彫状のやや直線状に延びた雲形文の施された鉢で、94には口縁下の並行沈線上に連続刺突が見られる。96は口縁部が無文の鉢、97は口縁下に平行沈線を数条巡らせ、沈線上に粘土粒を貼付している鉢、99は口縁部に2条の平行沈線を巡らせる鉢である。これらは晩期中葉の所産であろう。また、平底の底部のみが残存する105、107も、おそらく晩期中葉から後葉にかけてのものと思われる。

100、102は8条の平行沈線を巡らせた深鉢で、同一個体と思われる。100の3条目の沈線上には粘土粒が貼付けられ、102の5条目と7条目にかけては縦位の短沈線を施し工字文風にしている。103は口縁下に4条の平行沈線を施した深鉢で、口頸部が内傾する。また101及び104は縦位の条痕を施すもので、深鉢の胴部に該当するであろうか。いずれも12年度A区の旧河川跡や上野尻F区の遺構外から出土した土器と類似するもので、晩期中葉から後葉にかけての所産と考えられる。

(神 昌樹)

## ミニチュア土器 (図60 108)

1点出土した。注口土器の注口部である。胎土・焼成から縄文時代後期後葉のものと考えられる。

(福井 流星)

## 古代以降の土器 (図60 109)

かわらけが1点出土している。皿形をしており底部~口唇部にかけて残存する。破片のため推定復元であるが口径15cm、器高2.5cm程度になり、やや大型になると思われる。ロクロ成形をした後、底部付近にヘラケズリを行っている。年代等は不明である。

(齋藤 正)

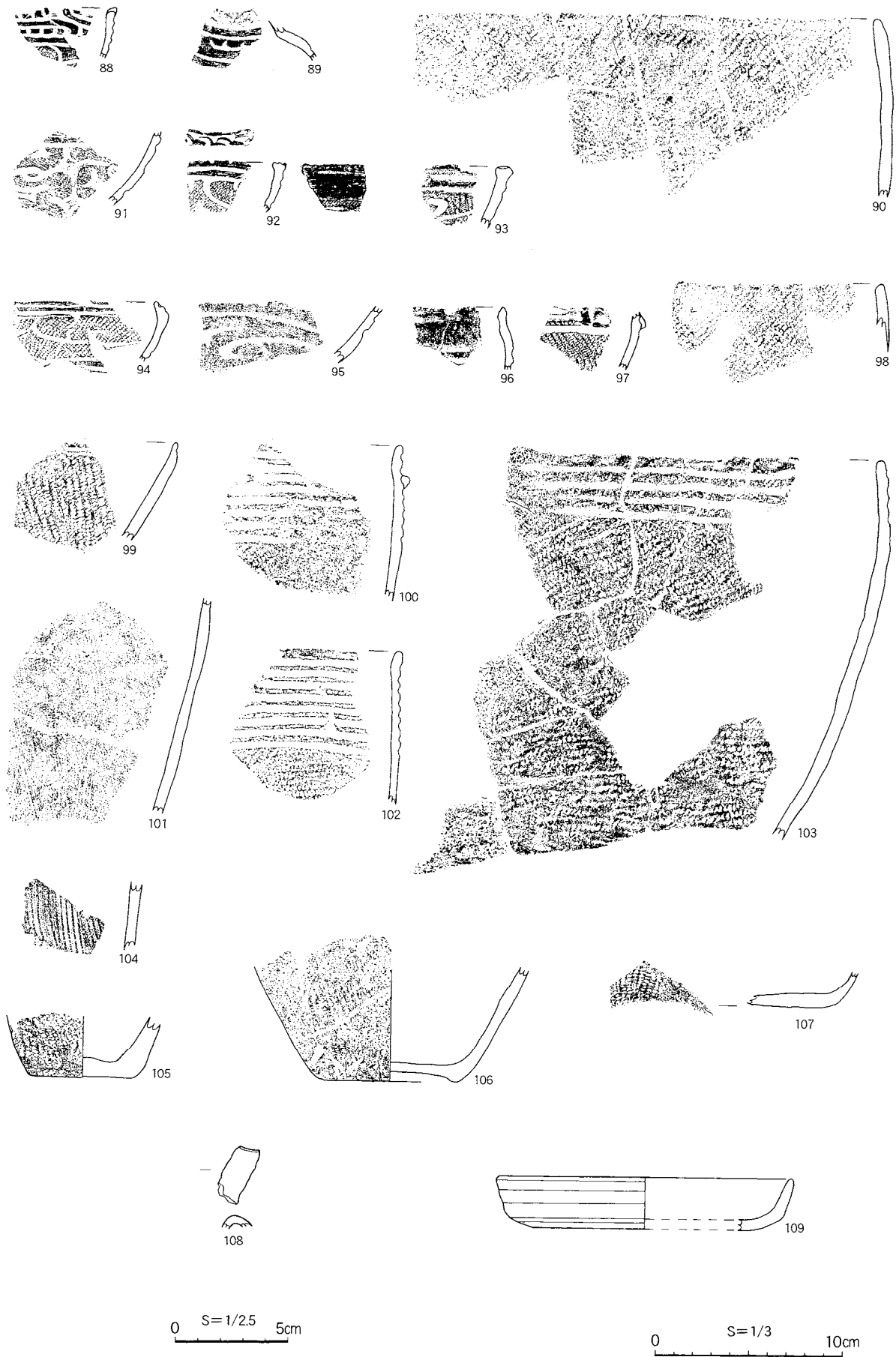


図60 保存区遺構外出土土器 (4) ・ミニチュア土器・古代以降の土器

## 2. 石器

### 剥片石器

#### 石鏃 (図61 1~11)

石鏃は11点出土している。1は凹基石鏃である。2~11は有茎石鏃である。2~5は先端部に到る二辺が直線的になり6~9は二辺がやや膨らむ形状となる。10は細身である。11は鏃身が大型である。

#### 石錐 (図61 12~14)

石錐は3点出土している。12は細身で明瞭な摘みを持たない。13は錐部の両側縁に微細剥離が施されている。14は明瞭な摘みを持つ形状をしており錐部の両側縁に連続する剥離が施されている。

#### 石篋 (図61 15・16)

石篋は2点出土している。15は背面全体に調整が施されて、腹面は周縁に調整が施される。16は形状がバチ形を呈し、背面全体に調整が施されている。

#### 石匙 (図61 17~23, 図62 24~30)

石匙は14点出土している。縦型石匙は17~23の7点である。17~20は片面の両側縁、片側縁に連続する調整が見られる。21は両面の片側縁に連続する調整が施される。22は片面の右側縁に連続する調整が施される。23は両面の両側縁に連続する調整が施される。横型石匙は24~30の7点である。24~26は摘みが中心に付き、調整は片面の周縁に施される。27~30は摘みが斜めに付く。28は刃部調整が施されておらず未製品と思われる。27と29は打点部分が側縁に確認できる。29の摘みにはターレット状の物質が付着していた。30は背面に調整が見られる。

#### 搔器・削器類 (図62 31~40, 図63 41~53)

搔器は2点出土している。31は急角度で押圧剥離が施されている。32は背面右側に調整が施されているのが確認できる。削器は16点出土している。33は背面片側に調整が施されている。34は腹面左側に調整が施されている。35は背面右側に調整が施されている。36、37は背面右側に調整が施されている。38は腹面左側に調整が施されている。39、40は背面片側に連続調整が施されている。41は二側辺に連続調整が見られる。42は背面片側に連続調整が施されている。43は左側縁に連続調整が見られる。44は下端辺に微細剥離が見られる。45、46は二側辺に連続調整が見られる。47、49は周縁に雑な調整が見られる。48は腹面側縁に荒い調整が施される。50~53は二次加工剥片である。50は括れている側縁に調整が入る。51は背面側縁に小さい調整が見られる。52、53は部分的に側縁に加工が施されている。

#### 異形石器 (図63 54・55)

異形石器は2点出土しており54は「し」の字の様な形状をしている。全面に調整が施されている。55は人形型をしており石偶とも呼べるであろう。全面に調整が施され頭部・腕・足と明確に作られ

ており、特に頭部は左右に突出する部分が見られる。

#### 剥片

掲載はしていないが水晶の剥片が2点出土している。

#### 礫石器

##### 敲磨器 (図64 56~62)

敲磨器類は7点出土している。「敲き」「磨り」「凹み」の機能が単一であるものと複合するものが存在している。56は円礫の両面に磨りが見られる。57は磨りと凹みが施される。58と59は両面、側面に磨りが施される。60は形状が棒状を成し、端部周辺に凹みが施される。61と62は凹み石である。61は両面、62は片面に凹みが見られる。

(齋藤 正)



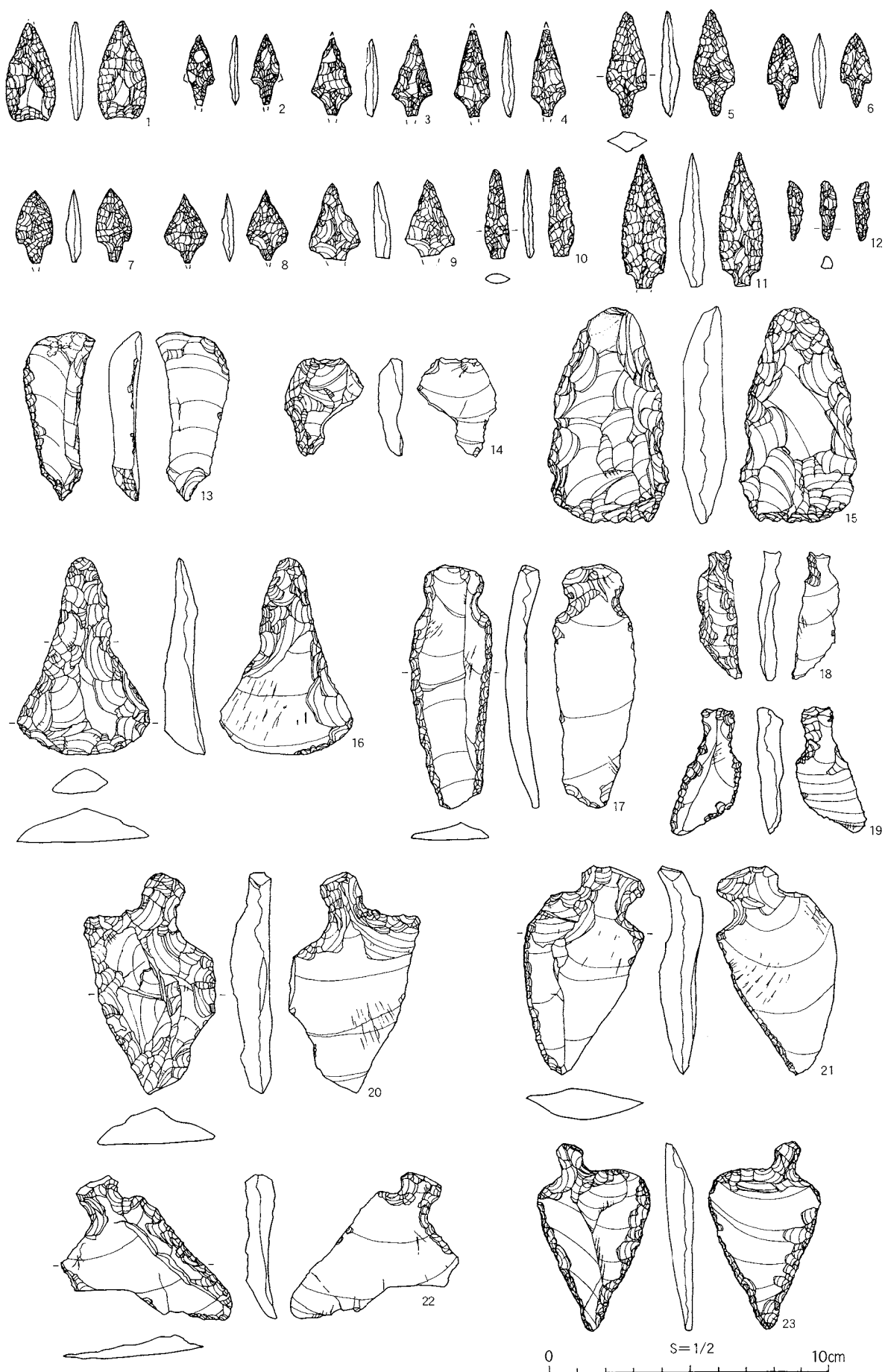


图61 保存区遺構外出土石器 (1)

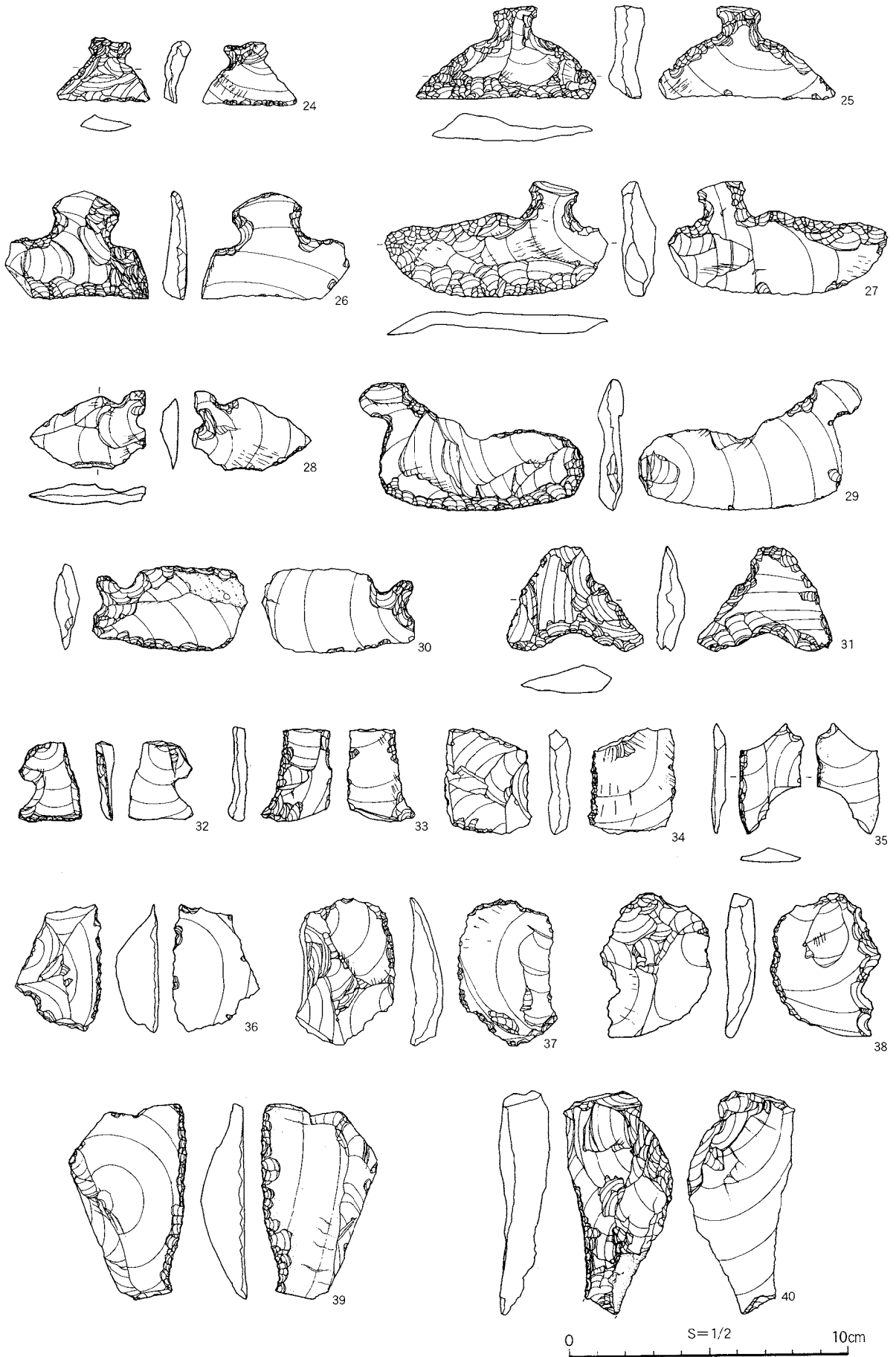


図62 保存区遺構外出土石器 (2)

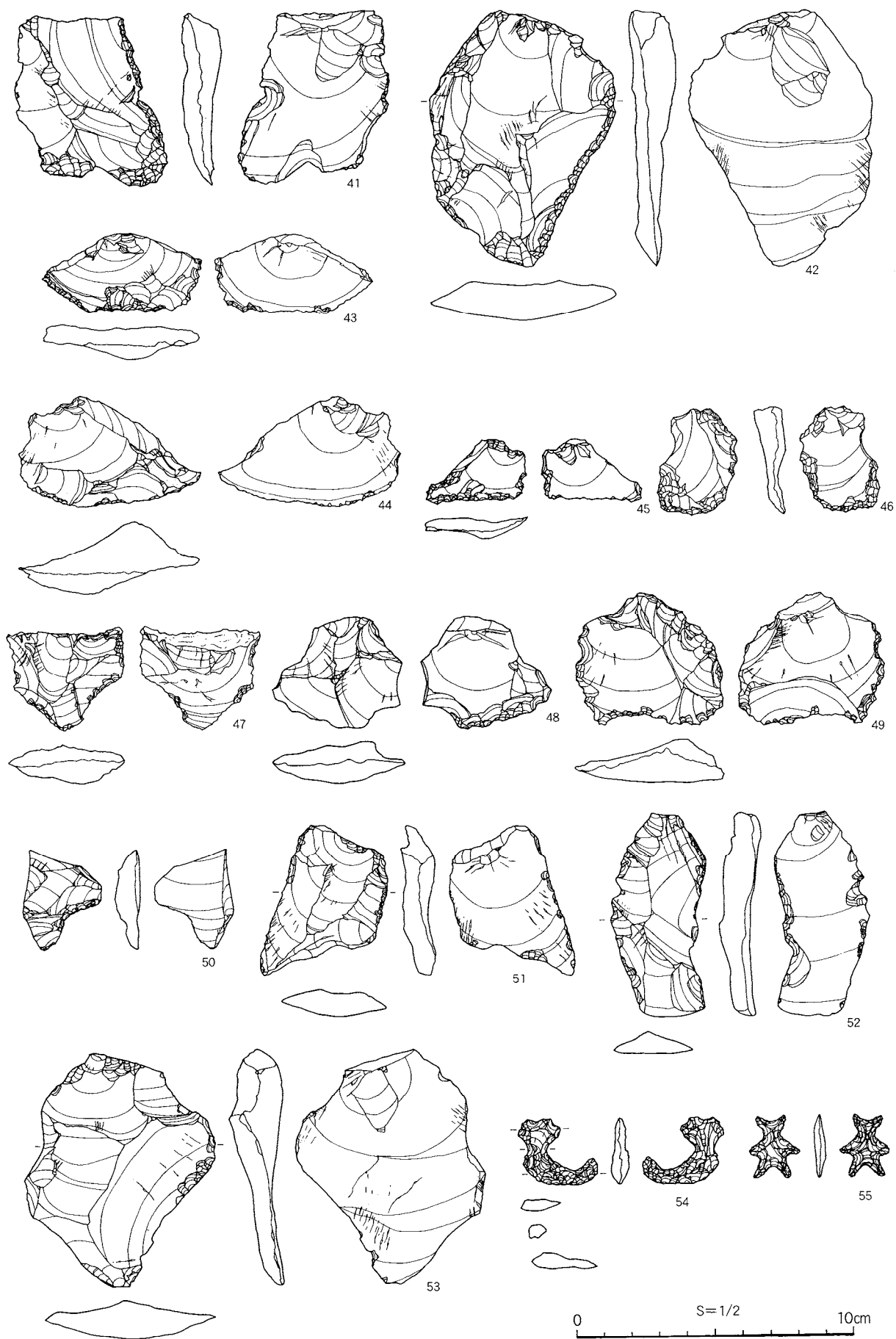


図63 保存区遺構外出土石器 (3)

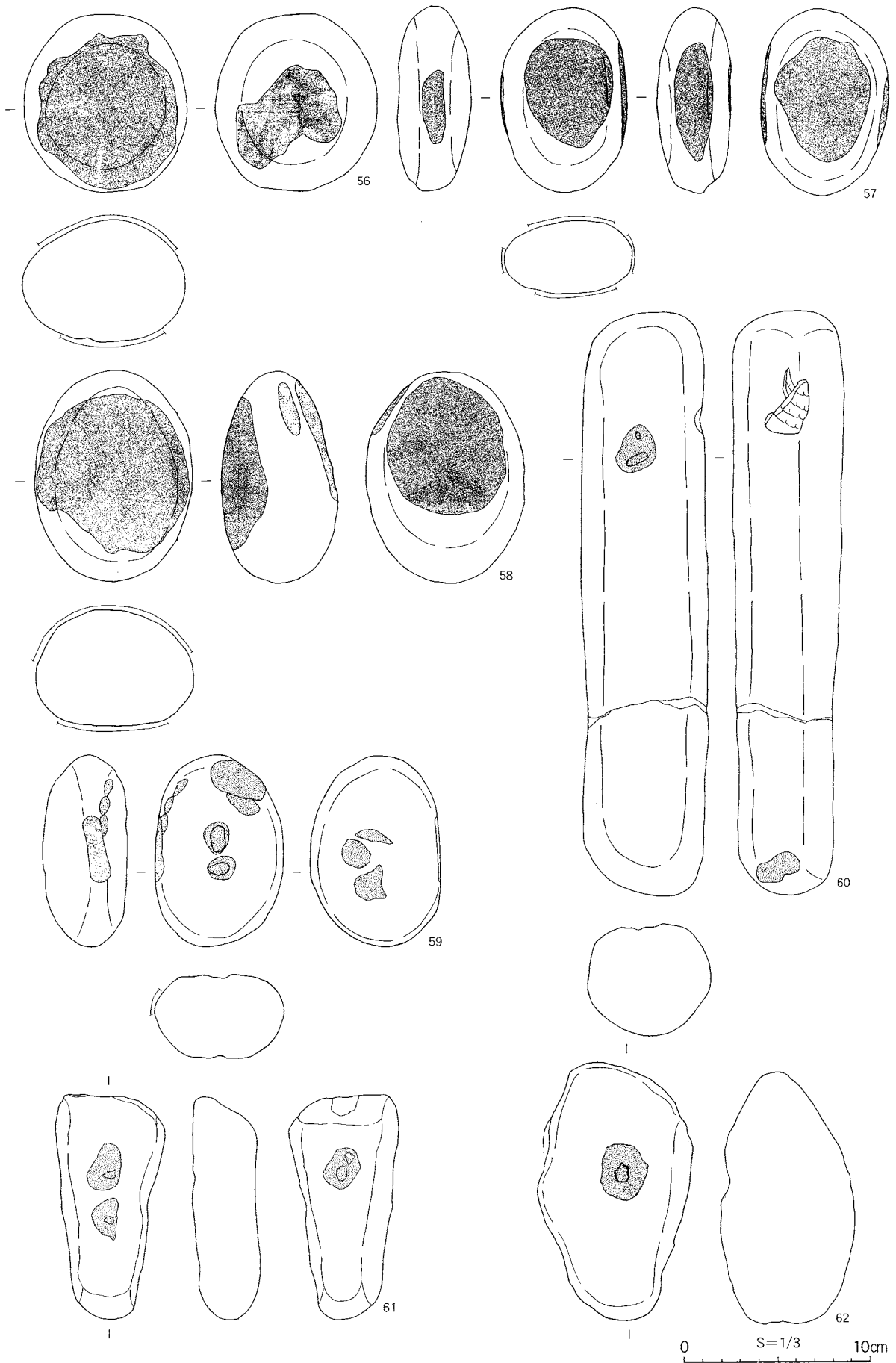


图64 保存区遺構外出土石器 (4)

## 第3章 自然科学的分析

### 第1節 放射性炭素年代測定報告書

(株)地球科学研究所

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

#### 報告内容の説明

- 14C age (y BP)** : 14C 年代 “measured radiocarbon age”  
試料の 14C/12C 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した年代。  
半減期はリビーの5568年を用いた。
- 補正14C age (y BP)** : 補正 14C 年代 “conventional radiocarbon age”  
試料の炭素安定同位体比(13C/12C)を測定して試料の炭素の同位体分別を知り  
14C/12C の測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。  
試料の 13C 値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代値である。  
暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。

- δ 13C (permil)** : 試料の測定 14C/12C 比を補正するための 13C/12C 比。  
この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)  
で表現する。

$$\delta 13C (\text{‰}) = \frac{(\frac{13C}{12C})[\text{試料}] - (\frac{13C}{12C})[\text{標準}]}{(\frac{13C}{12C})[\text{標準}]} \times 1000$$

ここで、 $\frac{13C}{12C}[\text{標準}] = 0.0112372$ である。

- 暦年代** : 過去の宇宙線強度の変動による大気中14C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の 14C の測定、サンゴのU-Th年代と 14C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。最新のデータベース(“INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration” Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40(3))により約19000yBPまでの換算が可能となった。\*

\*但し、10000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いため、補正前のデータの保管を推奨します。  
“The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol. 40, No. 3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Talma and Vogel, Radiocarbon, Vol. 35, No. 2, pg 317-322, 1993: A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP. Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a “best fit” compilation of modeled data and, although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this, it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that future refinements can be applied to your results.”

#### 測定方法などに関するデータ

**測定方法 AMS** : 加速器質量分析

**Radiometric** : 液体シンチレーションカウンタによるβ-線計数法

**処理・調製・その他** : 試料の前処理、調製などの情報

**前処理** acid-alkali-acid : 酸-アルカリ-酸洗浄  
acid washes : 酸洗浄  
acid etch : 酸によるエッチング  
none : 未処理

**調製、その他**

Bulk-Low Carbon Material : 低濃度有機物処理  
Bone Collagen Extraction : 骨、歯などのコラーゲン抽出  
Cellulose Extraction : 木材のセルロース抽出  
Extended Counting : Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

**分析機関** BETA ANALYTIC INC.  
4985 SW 74 Court, Miami, Fl, U.S.A 33155

## C14年代測定結果

青森県埋蔵文化財調査センター 様

No.169

試料データ	C14年代(y BP) (Measured C14 age)	$\delta$ 13C(permil)	補正 C14年代(y BP) (Conventional C14 age)
Beta- 149640	3070 $\pm$ 40	-27.9	3020 $\pm$ 40
試料名 ( 16202 ) KN1			
測定方法、期間	AMS-Standard		
試料種、前処理など	charred material acid/alkali/acid		
Beta- 149641	3180 $\pm$ 40	-27.9	3130 $\pm$ 40
試料名 ( 16203 ) KN2			
測定方法、期間	AMS-Standard		
試料種、前処理など	charred material acid/alkali/acid		

※Beta-149640・試料名(16202)KN1とBeta-149641・試料名(16203)KN2は、ともに第15号掘立柱建物跡の柱穴Aからの出土のものである。

年代値はRCYBP(1950 A.D.を0年とする)で表記。モダン リファレンス スタンダードは国際的な慣例としてNBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。

(株)地球科学研究所 〒468 名古屋市天白区植田本町1-608 TEL052-802-0703

1 / 1

## CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-27.9;lab. mult=1)

Laboratory number: 149640

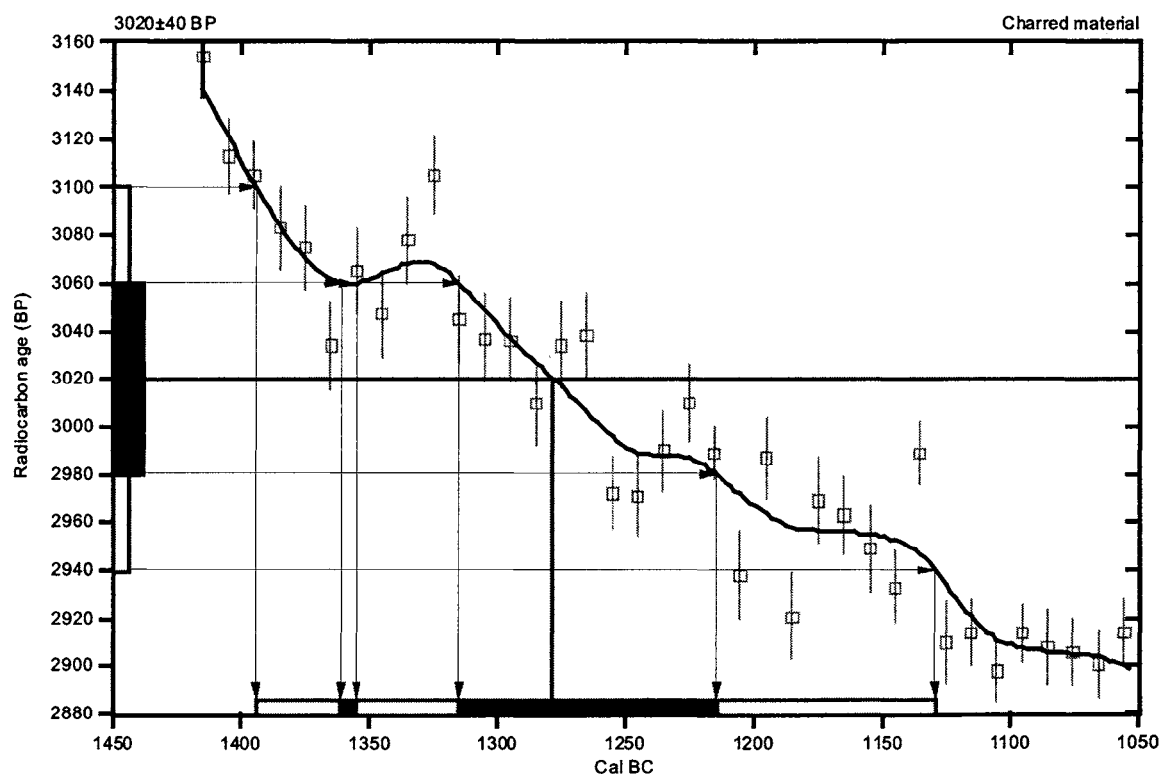
Conventional radiocarbon age: 3020±40 BP

2 Sigma calibrated result: Cal BC 1390 to 1130 (Cal BP 3340 to 3080)  
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age  
with calibration curve: Cal BC 1280 (Cal BP 3230)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 1360 to 1360 (Cal BP 3310 to 3300) and  
(68% probability) Cal BC 1320 to 1210 (Cal BP 3260 to 3160)



### References:

#### Database used

#### Calibration Database

#### Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, *Radiocarbon* 40(3), pxii-xiii

#### INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et. al., 1998, *Radiocarbon* 40(3), p1041-1083

#### Mathematics

#### A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2), p317-322

## Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: [bea@radiocarbon.com](mailto:bea@radiocarbon.com)

## CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-27.9;lab.mult=1)

Laboratory number: 149641

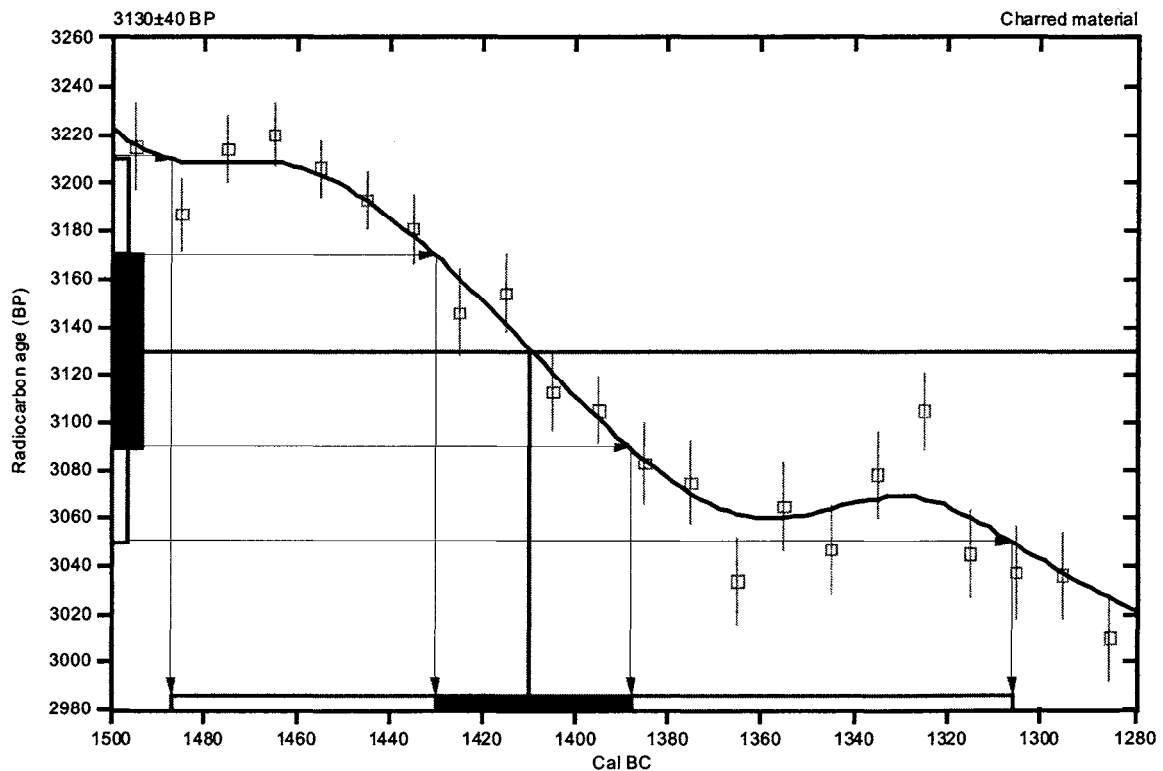
Conventional radiocarbon age: 3130±40 BP

2 Sigma calibrated result: Cal BC 1490 to 1310 (Cal BP 3440 to 3260)  
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age  
with calibration curve: Cal BC 1410 (Cal BP 3360)

1 Sigma calibrated result: Cal BC 1430 to 1390 (Cal BP 3380 to 3340)  
(68% probability)



### References:

*Database used*

*Calibration Database*

*Editorial Comment*

*Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxii-xiii*

*INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration*

*Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083*

*Mathematics*

*A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates*

*Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322*

**Beta Analytic Inc.**

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com



## 第2節 上野尻遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

上野尻遺跡は、青森市大字矢田字上野尻に所在し、貴船川の左岸、東岳からのびる丘陵のすそ野に立地している。これまでの発掘調査では、縄文時代後期の掘立柱建物跡35基が環状に検出され、他にも土坑や柱穴、溝跡などの遺構が検出されている。なお、掘立柱建物跡が環状に配置された事例は、青森県内では2例目であり、当該期の集落を考える上で非常に重要な遺跡である。

今回は、環状に配置された掘立柱建物跡群の周辺から検出された土坑群を対象に、1) 土坑の年代、2) 土坑から出土した焼土・炭化物の由来、3) 土坑の用途、について情報を得るために分析調査を実施する。分析手法は、土坑の年代については放射性炭素年代測定を、土坑から出土した焼土については、被熱の痕跡を調査するためにX線回折分析を、炭化物については樹種同定を実施する。なお、炭化物や焼土を含む土壌について植物珪酸体分析も実施し、燃料材に関する情報を得る。土坑の用途推定については、遺体埋納に関する情報を得るため土壌理化学分析を実施する。

※ 第356号土坑、第365号土坑、ピット471については『上野尻Ⅲ』で報告しているが、同じ分析であるため、分離しないであわせて掲載するものである。

### 1. 試料

上野尻遺跡では、第201号、第203号、第223号、第248号、第258号、第259号、第293号、第306号、第356号、第358号、第362号、第363号、第364号、第365号、第367号、第368号土坑、ピット471の17遺構から計35点の土壌試料が採取されている。これら土坑は、環状に配列されている掘立柱建物跡群の周辺に分布している。土坑の位置や形態、さらに、前述した分析目的を考慮し7遺構（第201号、第223号、第259号、第306号、第356号、第365号土坑、ピット471）を対象に分析を実施することとした。以下に、分析対象とした土坑の概要および分析試料の詳細を示す。

#### 1) 第201号土坑

第201号土坑は、東西約2m、南北約1.6m、深さ約50cmを測り、ほぼ円形を呈する土坑である。土坑東側は、第213・214号土坑と重複し、掘り方はやや歪んだ卵形を呈している。覆土は、17層に分層されており、焼土粒や炭化物などが認められている。試料は、土坑底部の2地点に確認された焼土粒混じり土壌2点（試料30・31）である。当遺構では、焼土の成因および燃料材の推定、土坑の用途をそれぞれ検討するため、X線回折分析1点（試料30）、植物珪酸体分析1点（試料30）、土壌理化学分析2点（試料30・31）を実施する。

#### 2) 第223号土坑

第223号土坑は、径約2.8m、深さ約60cmを測り、ほぼ正円形を呈する土坑である。土坑底部中央にはほぼ長円形の掘りこみが認められる。覆土は、13層に分層されており、いずれの層からも微細な炭化物が確認されている。試料は、覆土7層および11層から採取した炭化物混じりの土壌2点（試料番号32・33）である。当遺構では、炭化物の由来および土坑の用途を検討するため、樹種同定1点（試料32）、土壌理化学分析2点（試料32・33）を実施する。

### 3) 第259号土坑

第259号土坑は、径約2.7m、深さ約10cmを測り、不整形を呈する土坑である。土坑底部には2基ピット状の遺構が認められている。覆土の詳細は不明であるが、底部から採取された炭化物混じりの土壌は、黄褐色シルトおよび黒褐色シルトからなる。試料は、土坑底部から採取された炭化物混じりの土壌2点（試料番号34・35）である。当遺構では、炭化物の由来について検討するため、樹種同定（試料34・35）を実施する。

### 4) 第306号土坑

第306号土坑は、東西約2.3m、南北約2.5m、深さ約60cmを測り、不整形を呈する土坑である。土坑底部は南東部で深く、南東部壁面は内湾して立ち上がる。覆土は、20層に分層されており、微細な炭化物も認められる。試料は、覆土中位・下位および底面（14層）から採取された土壌5点（試料5～9）である。当遺構では、炭化物の由来について検討するため、樹種同定を実施する（試料7）。

### 5) 第356号土坑

第356号土坑は、第306号土坑に近接し、東西および南北約2.8m、深さ50cmを測り、不整形を呈する土坑である。土坑底部には、浅い掘り込みが認められる。覆土は、20層に分層され、炭化物・炭化材を多く含む。試料は、覆土中位と下位から採取された土壌8点（試料10～17）である。当遺構では、遺構の年代、焼土の成因および燃料材の推定、土坑の用途を検討するために、放射性炭素年代測定1点（試料14）、樹種同定（試料10～17）、植物珪酸体分析1点（試料16）、土壤理化学分析4点（試料10・12・14・15）、X線回折分析1点（試料16）を実施する。

### 6) 第365号土坑

第365号土坑は、長径約1.2m、短径約1m、深さ約20cmの隅丸長方形を呈する土坑である。覆土は16層からなり、覆土中に炭化物・炭化材を含む。試料は、覆土7層から採取された種実遺体を含む土壌（試料23）および9層から採取された炭混じり土壌（試料22）・炭化物（試料24）の3点である。本遺構では、放射性炭素年代測定1点（試料24）、樹種同定（試料24）、土壤理化学分析2点（試料22・23）、種実遺体同定（試料23）を実施する。

### 7) ピット471

ピット471は、長径約60cm、短径約40cm、深さ約60cmの不整形を呈する柱穴である。覆土は6層からなり、炭化物を含む。試料は、覆土から採取された炭化物1点（試料番号29）である。本試料について樹種同定と土壤理化学分析を実施する。

## 2. 分析方法

### (1) 放射性炭素年代測定

測定は、株式会社 加速器分析研究所の協力を得た。

### (2) 樹種同定

木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

### (3) 種実遺体同定

双眼実体顕微鏡下で種実遺体を観察し、その形態的特徴と当社所有の現生標本との比較から種類を分類・同定する。同定後の種実遺体は、ビンに乾燥剤を入れて保存する。

#### (4) 植物珪酸体分析

珪化細胞列など組織構造を呈する植物珪酸体の大半は、植物体が土壤中に取り込まれた後に土壌化や攪乱などの影響によって分離して単体となる。しかし、植物体が燃えた後の灰には、組織構造が珪化組織片として残存する場合が多い（例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社，1993）。そこで、燃料材の検討を行うことため、この珪化組織片の産状に注目した。

今回の試料は土壌であったため、植物珪酸体分析の手法を用いた。試料の一部を採取し、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理（70W，250KHz，1分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、珪化組織片や植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プレウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現する珪化組織片を、近藤・佐瀬（1986）の分類を参考にしながら同定・計数する。

#### (5) 土壌理化学分析

今回測定する成分は、特に動物の体組織や骨に多く含まれるリン酸とカルシウムの含量測定を行う。リン酸は骨に多量に含まれるが、土壤中に固定されやすい。そのため、遺体が埋葬されると土壤中にリン酸の富化が認められることから、遺体あるいは遺骨の痕跡を推定することができる。また、リン酸の供給源として植物体もあげられる。植物由来のリン酸成分が供給された場合、リン酸含量よりも腐植含量が高くなる。よって、植物体の影響を調べるために腐植含量も測定する。

リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、カルシウムは硝酸・過塩素酸分解－原子吸光光度法、腐植はチューリン法でそれぞれ行う（土壌養分測定法委員会，1981）。以下に具体的な操作工程を示す。

試料を風乾後、軽く粉砕して2.00mmの篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、5時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5mmφの篩を全通させる（微粉砕試料）。

風乾細土試料2.00gをケルダール分解フラスコに秤量し、硝酸約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P2O5）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P2O5mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。

微粉砕試料0.100～0.500gを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第1鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C乾土%）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（%）を算出する。

(6) X線回折分析

105℃で2時間乾燥させた試料をメノウ乳鉢で微粉碎し、X線回折用アルミニウムホルダーに充填し、X線回折分析試料（無定方位試料）を作成する。作成したX線回折分析試料（無定方位試料）について以下の条件でX線回折分析を行う（足立，1980；日本粘土学会，1987）。

検出された物質の同定解析は、測定回折線の主要ピークと回折角度から原子面間隔および相対強度を計算し、それに該当する化合物または鉱物をX線粉末回折線総合解析プログラム（五十嵐，未公表）により検索する。

装置：島津制作所製XD-3A Time Constant：1.0sec  
 Target：Cu (K $\alpha$ ) Scanning Speed：2°/min  
 Filter：Ni Chart Speed：2cm/min  
 Voltage：30KVP Divergency：1°  
 Current：30mA Recieving Slit：0.3mm  
 Count Full Scale：5,000C/S Scanning Range：3~45°

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

結果を表1に示す。補正年代は、第356号土坑の試料14が3050±50 B.P.、SK-165の試料24が3720±60 B.P.であった。

年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用し、年代値は現代（1950年）を基準に何年前かを計算した値である。なお、表中の $\delta^{13}C$ の値は、試料炭素の $^{13}C/^{12}C$ 原子比を質量分析器で測定し、標準にPDBを用いて算出した値である。今回の試料の補正年代は、この値に基づいて補正を行った年代である。

表1 放射線炭素年代測定結果

試料番号	遺構名	グリッド	層位	試料の種類	補正年代BP	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代BP	Code. No.
14	356土	X II J-221	覆土下位	炭化物(クリ)	3050±50	-27.1±1.4	3080±50	IAAA-10312
24	365土	X II M-216	9層	炭化物(クリ)	3720±60	-31.7±1.5	3830±50	IAAA-10313

(2) 樹種同定

樹種同定結果を表2に示す。試料12、24からは、複数の種類が認められた。このうち、試料24では、3種類が認められたが、2種類は保存状態が悪く、樹種の同定には至らなかった。その他の試料は、全て広葉樹材で、5種類（クマシデ属イヌシデ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・カツラ・トネリコ属）に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

- ・クマシデ属イヌシデ節 (*Carpinus* subgen. *Eucarpinus*) カバノキ科

散孔材で、管孔は放射方向に2~4個が複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列状~交互状に配列する。放射組織は異性III~II型、1~3細胞幅、1~40細胞高のものと集合放射組織とがある。

- ・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1~2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。

道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

- ・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)      ブナ科クリ属

表2 樹種同定結果

試料番号	遺構名	平面形	グリッド	層位	樹種
7	306土	不整円形	XIIK-221	覆土下位	クリ
10	356土	不整円形	XIIJ-221	16層 (P-56)	クリ
11			XIIJ-221	覆土中位	トネリコ属
12			XIIJ-221	覆土中位	クリ カツラ
13			XIIJ-221	覆土下位	コナラ属コナラ亜属コナラ節
14			XIIJ-221	覆土下位	クリ
15			XIIJ-220	覆土下位	クリ
17			XIIJ-221	覆土下位	クリ
24			365土	隅丸方形	XIIM-216
29	471土	不整長円形	XIIJ-224	覆土	クリ
32	223土	円形		7層	クリ
34	259土	不整円形		床面	クリ
35				床面	クマシデ属イヌシデ節

環孔材で、孔圏部は1～4列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

- ・カツラ (*Cercidiphyllum japonicum* Sieb. et Zucc.)      カツラ科

散孔材で、管孔はほぼ単独で、まれに2個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性Ⅱ型、1～2細胞幅、1～30細胞高。

- ・トネリコ属 (*Fraxinus*)      モクセイ科

試料は、年輪界で割れている。環孔材で、孔圏部は2列以上、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独または2個が放射方向に複合し、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1～3細胞幅、1～40細胞高。

### (3) 種実遺体同定

第365号土坑の覆土7層から検出された種子2・3は、いずれもオニグルミの核の破片である。以下に解剖学的特徴を以下に記す。

- ・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura)

クルミ科クルミ属

黒褐色を呈し、広卵形で先端部分がやや尖る。明瞭な縦の縫合線があり、縫合線に沿って半分に割れている。表面には縦方向に溝状の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る2つの大きな窪みがある。

### (4) 植物珪酸体分析

いずれの試料からも、イネ科草本類の灰の存在を示唆するような珪化組織片は検出されなかった。なお、単体の植物珪酸体としては、タケ亜科が多く検出された。

#### (5) 土壤理化学分析

結果を表3に示す。各成分の測定値は、腐植含量が2.19～8.35%、リン酸含量が1.23～4.13P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>mg/g、カルシウム含量が3.42～6.60CaOmg/gを示す。

#### (6) X線回折分析

各試料のX線回折結果を図1に示す。検出された鉱物は石英 (quartz)、斜長石 (plagioclase)、カリ長石 (K-feldspars)、赤鉄鉱 (hematite)、磁赤鉄鉱 (maghemite)、緑泥石 (chlorite)、ハロイサイト (halloysite)、雲母鉱物 (mica minerals) である。なお、試料16の回折パターンと試料30を比較した場合、試料30において粘土鉱物に由来する回折線の強度が強い傾向が見られる。

### 4. 考察

#### (1) 土坑の年代

放射性炭素年代測定を行った結果、第356号土坑 (試料14) は3050±50 B.P.、第365号土坑 (試料24) は3720±60 B.P.という年代値が得られた。いずれの分析試料も土坑の覆土下位から出土した炭化材であることから、遺構に共伴する可能性が高く、土坑の使用年代に近い値を示していると考えられる。したがって、第356号土坑は約3000年前頃、第365号土坑は約3700年前頃の遺構と言える。

なお、今回の分析で得られた年代値は、東北地方における分析例 (キーリ・C.T,武藤,1984) では、縄文時代後期～晩期相当とされている。また、第356号土坑・第365号土坑とでは約700年の年代差が認められるが、当遺跡からは縄文時代後期前葉～後葉を中心として、縄文時代前期～晩期に相当する遺物が出土しており、それぞれの年代値は、いずれも遺物の年代幅に収まることから調和的な結果と言える。各年代の評価については、土坑の出土遺物など考古学的所見と合わせて検討する必要がある。

#### (2) 土坑から出土した焼土・炭化物の由来

##### 1) 燃料材について

上野尻遺跡から検出された土坑覆土からは、焼土や炭化材が認められ、発掘調査所見でも土坑内における煮沸や火を焚く行為が想定されている (永嶋, 2001)。土坑内でこのような行為が行われた場合、焼き付け材としてイネ科草本類などの利用が想定されることから、第356号土坑 (試料16) ・第201号土坑 (試料30) の焼土まじり土壌について植物珪酸体分析を実施した。分析結果では、植物体が燃えた後の灰に残存することの多い珪化組織片は全く認められず、単体の植物珪酸体のタケ亜科が検出されるのみである。同じ様な状況が当遺跡から検出された第105号土坑でも確認されている (パリノ・サーヴェイ株式会社, 2001)。したがって、現状では、燃料材として考えられるのはクリなどの広葉樹材のみであり、焼き付け材としてイネ科草本類などの利用は指摘できない。

##### 2) 炭化物の由来について

上野尻遺跡から検出された土坑・柱穴の覆土から採取された炭混じり土壌中からは、同定可能な炭化物が16点抽出され、5種類の広葉樹材 (クマシデ属イヌシデ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・カツラ・トネリコ属) が確認された。これら広葉樹材のうち、クリはいずれの遺構からも確認されており、総点数の約2/3を占めている。複数の炭化物が認められた第356号土坑でも、クリを主とした種類構成がみられることから、クリを主とした植物利用が推定される。このような様相は、本

表3 土壤理化学分析結果

試料番号	遺構名	種類	グリッド	層位	土性	土色	腐植含量 (%)	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> (mg/g)	CaO (mg/g)
10	356土	土坑	X II J-221	16層(P-56)	LiC	10YR2/3 黒褐	3.14	1.45	3.42
12		土坑	X II J-221	覆土中位	LiC	10YR1.7/1 黒	7.22	2.53	5.41
14		土坑	X II J-221	覆土下位	LiC	10YR2/2 黒褐	7.00	2.51	5.24
15		土坑	X II J-220	覆土上位	LiC	10YR2/2 黒褐	8.35	4.13	3.83
22	365土	土坑	X II M-216	9層	LiC	10YR2/1 黒	6.68	2.05	5.23
23		土坑	X II M-216	7層	LiC	10YR2/1 黒	6.68	2.12	4.77
29	471土	柱穴	X II I-224	覆土	LiC	10YR2/2 黒褐	7.20	2.74	4.08
30	201土	土坑	X II R-218	底面	LiC	10YR5/3 にぶい黄褐	2.19	1.23	3.48
31		土坑	X II R-218	底面	LiC	10YR2/2 黒褐	2.65	1.35	4.08
32		土坑		7層	LiC	10YR2/1 黒	6.12	2.30	6.60
33	223土	土坑		11層	LiC	10YR3/3 暗褐	3.16	1.37	3.63

注1) 土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術会議監修，1967）による。

注2) 土性：土壤調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編，1984）の野外土性による。

LiC・・・軽埴土（粘土25～45%、シルト0～45%、砂10～55%）

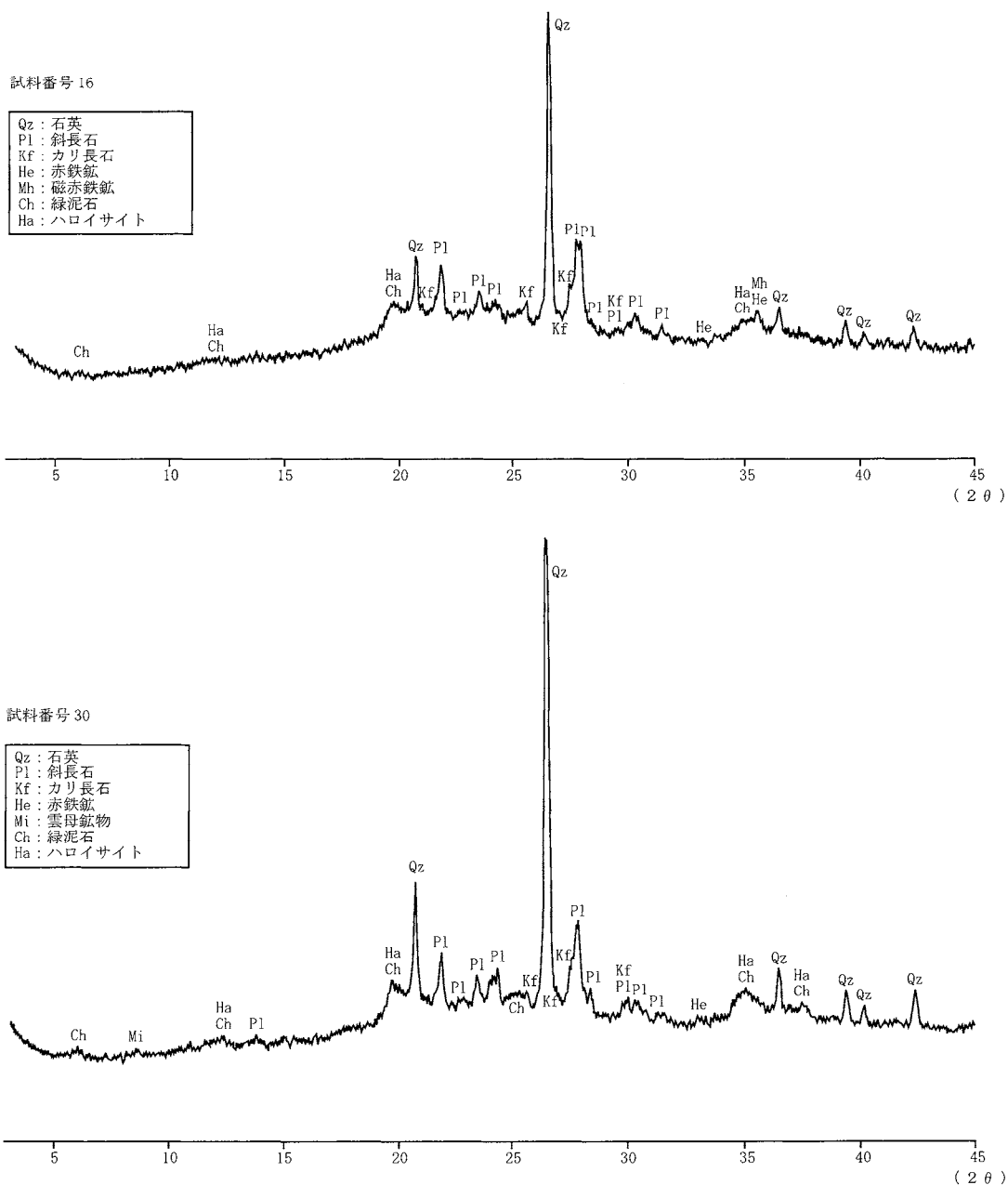


図1 粘土鉱物X線回折図

遺跡の第105号土坑で行った炭化材の樹種同定結果（バリノ・サーヴェイ株式会社，2001）とも一致する。

なお、青森県内の縄文時代の遺跡から出土する炭化材には、クリが多い傾向が認められている（嶋倉，1979,1982,1985）。クリについては、三内丸山遺跡の分析結果などから、縄文時代の栽培についても指摘されている（辻，1997；山中，1999）。現在栽培されているクリは、9年生～10年生以後から20年生前後の樹齢が成果期であり、一般に20年生以後は年毎に収量が減少する（志村，1984）とされている。また、栽培によって果実の収量を安定させると共に、収量の落ちた老木を用材として利用していたことなども指摘されている（千野，1983）。したがって、本遺跡においても、前述した分析調査例などによれば、クリの栽培や老木の用材利用などの可能性もある。当遺跡で実施した炭化材の分析は、土坑や柱穴から出土したものに限定されるため、今後は、住居構築材の樹種組成の分析調査や花粉化石を良好に保有する河道跡や埋没谷の埋積土などを対象に分析を行い、古植生に関する情報を蓄積し、当時の植生と植物利用について検証する必要がある。

### 3) 焼土の由来について

土坑の覆土中に認められた焼土とされる赤褐色のブロック塊についてX線回折分析を行った結果、いずれも検出鉱物中にハロイサイト（halloysite）が見られることから、ハロイサイトが非晶質化する500～650℃以上の熱を受けたとは考えにくい。また、両試料とも検出鉱物として赤鉄鉱（hematite）が認められることから、500℃以下の低温被熱の可能性が考えられる。しかし、試料中にみられる粘土は、産地によって組成の差が大きく、温度による物理的・化学的変化も至って複雑である。さらに、堆積物の風化に伴った産出鉱物である可能性も考えられることから、今回の赤褐色ブロック塊については、X線回折結果のみで焼成による被熱の有無を判断することはできない。

なお、上野尻遺跡ではこれまでの土坑群の調査所見から、土坑廃絶後の埋没過程に遺物が投げ込まれる状況や、埋没過程の土坑の窪み内で煮沸または火を焚く行為などが想定されている。今回、分析を行った焼土はいずれも、土坑の覆土下位（第356号土坑）や床面（第201号土坑）から採取されている試料であるため、埋没過程に伴うものとは異なると考えられる。焼土に焼き付け材と考えられる植物珪酸体が検出されなかったため、今後は、出土遺物や覆土の詳細な堆積状況、焼成に伴う硬化面の有無など考古学的成果と合わせて、焼土の由来を検討する必要がある。

### (3) 土坑の用途

第201号土坑、第223号土坑、第356号土坑、第365号土坑、第471号土坑では、遺体埋納に関する情報を得るため、土壌中のカルシウム含量・腐植含量・リン酸含量について分析調査を実施した。今回の分析結果では、カルシウムの含量は、3.42～6.60CaOmg/gとばらつきがみられる。この値は、前回調査を実施した第105号土坑・第113号土坑覆土とほぼ類似した値である（バリノ・サーヴェイ株式会社，2001）。なお、カルシウムは、骨に含まれる成分の一つであり、土壌中に普通に含まれる量、すなわち天然賦存量は1～50CaOmg/g（藤貫，1979）と、含有幅が大きい傾向にある。リン酸とカルシウムの関係をみると、相

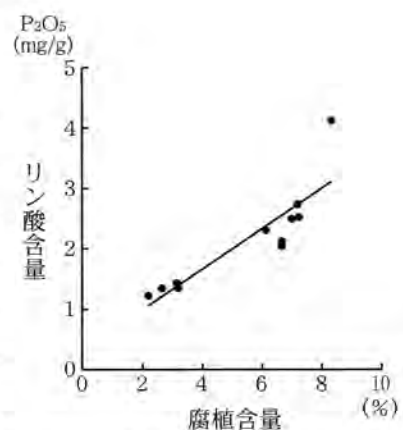


図2 腐植とリン酸の相関関係



関係数が0.23であり、土坑覆土のカルシウムとリン酸はほとんど関連性がないことを示唆している。

一方、腐植含量とリン酸含量は、相関係数0.88と強い相関関係にあり、土坑のリン酸含量は、土壌腐植の影響を受けていると考えられる。そこで、腐植含量とリン酸含量について、最小二乗方によって回帰直線を求め、それから正の方向へ逸脱した試料を調べると(図2)、第356号土坑の試料15は正の方向へ突出する。同試料のリン酸含量は4.13P2O5mg/gと、前回報告した第105号土坑・第113号土坑の分析値を含めて最も高い含量値を示す。また、Bowen (1983)、Bolt & Bruggenwert (1980)、川崎ほか (1991)、天野ほか (1991) などの調査事例によれば、リン酸の天然賦存量の上限値は約3.0P2O5mg/gと考えられる。試料15 (第356号土坑) のリン酸含量の測定値は、この天然賦存量を上回る値であることから、リン酸は土壌腐植だけでなく外的要因によって富化されている可能性がある。ただし、当試料は土坑の覆土上位から採取されたものであるため、遺構の用途を示す埋積物であるのかどうか検討が必要である。第201号土坑、第223号土坑、第365号土坑、第471号土坑は、第356号土坑(試料15)のような顕著なリン酸含量の富化が認められないため、今回の分析結果からは墓坑の可能性を指摘することはできない。

今後は、第356号土坑のリン酸含量の富化の由来を検証するため、基本土層や土坑覆土上位の堆積物の土壌理化学性についても分析調査などを実施したい。また、第201号土坑、第223号土坑、第365号土坑、第471号土坑など墓坑以外の用途が想定される土坑については、覆土内の微細遺物を対象とした分析調査や、土坑の形態や覆土の堆積状況などの考古学的な所見と合わせて総合的に評価していきたいと考えている。

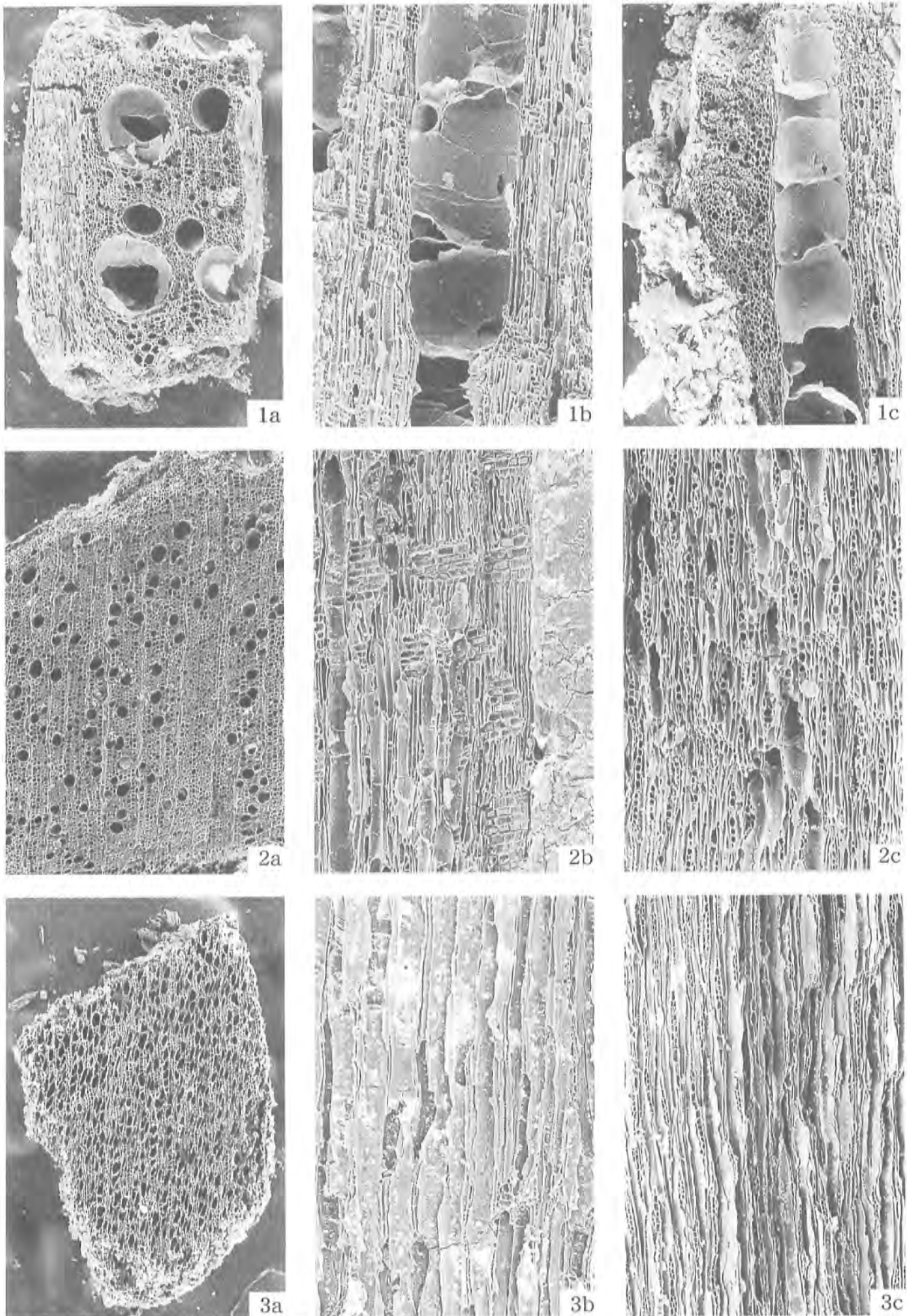
#### 引用文献

- 足立吟也(1980)「6章 粉末X線回折法 機器分析のてびき3」, p.64-76, 化学同人.
- 千野裕道(1983) 縄文時代のクリと集落周辺植生 -南関東地方を中心に-, 東京都埋蔵文化財センター研究論集, II, p.25-42.
- 近藤錬三・佐瀬 隆(1986) 植物珪酸体分析, その特性と応用. 第四紀研究, 25, p.31-64.
- 日本粘土学会編(1987)「粘土ハンドブック 第二版」, p.1289, 技報堂出版.
- パリノ・サーヴェイ株式会社(2001) 上野尻遺跡の自然科学分析. 「青森県埋蔵文化財調査報告書第302集 上野尻遺跡Ⅱ -青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-」, p.145-149, 青森県教育委員会.
- 嶋倉巳三郎(1979) 青森市近野遺跡から出土した炭化材の樹種. 青森県埋蔵文化財調査報告書第47集 「近野遺跡 発掘調査報告書(Ⅳ) -青森県総合運動公園建設関係発掘調査-」, p.321-323, 青森県教育委員会.
- 嶋倉巳三郎(1982) 炭化材の樹種同定. 青森県埋蔵文化財調査報告書第70集 「馬場瀬遺跡 発掘調査報告書」, p.284-285, 青森県教育委員会.
- 嶋倉巳三郎(1985) 尻高(4)遺跡出土の炭化材について. 青森県埋蔵文化財調査報告書第89集 「尻高(2)・(3)・(4)遺跡 発掘調査報告書」, p.235, 青森県教育委員会.
- 志村 勲(1984) クリの生育特性. 「農業技術体系 果樹編5 クリ基礎編」, p.11-16, 社団法人農山漁村文化協会.

辻 誠一郎 (1997) 三内丸山を支えた生態系. 岡田康博・NHK青森放送局編  
「縄文都市を掘る 三内丸山から原日本が見える」, p.174-188, NHK出版.

永嶋 豊 (2001) 第2節 土坑群「青森県埋蔵文化財調査報告書 第302集  
上野尻遺跡Ⅱ－青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告－」, p.21-56,  
青森県教育委員会.

山中楨介・岡田康博・中村郁郎・佐藤洋一郎 (1999) 植物遺体のDNA多型解析手法の確立による縄  
文時代前期三内丸山遺跡のクリ栽培の可能性. 考古学と自然科学, 38, p.13-28.



1. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (試料番号13)

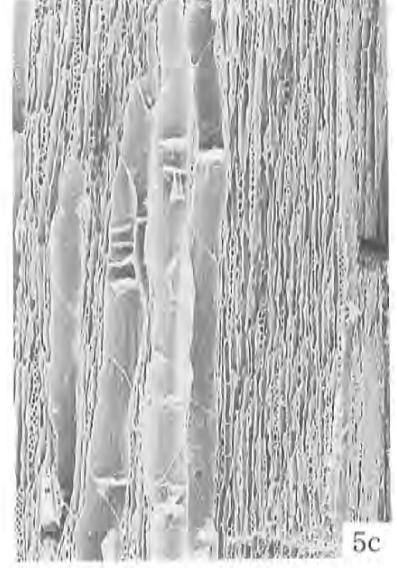
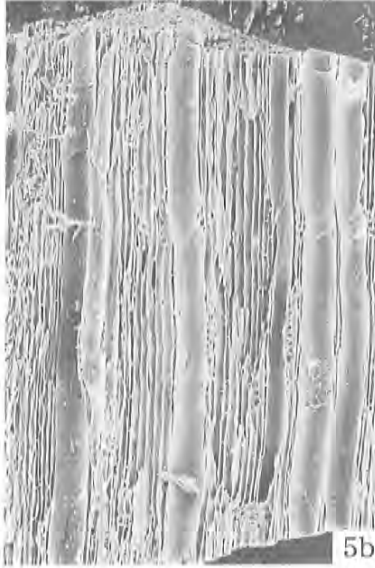
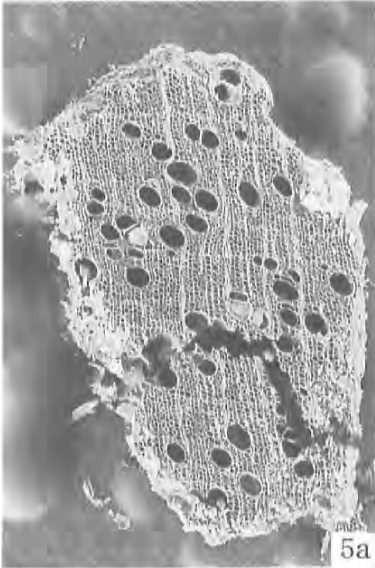
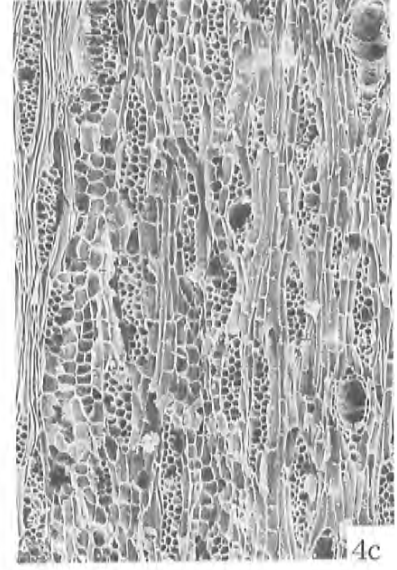
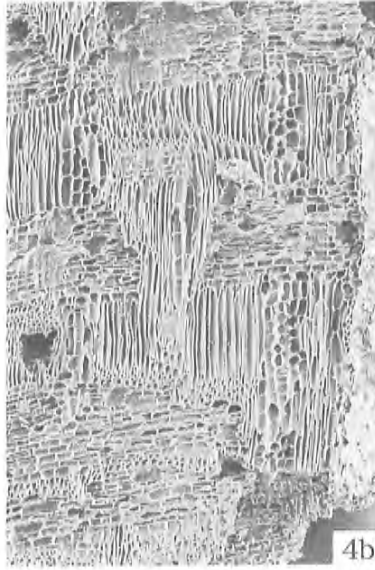
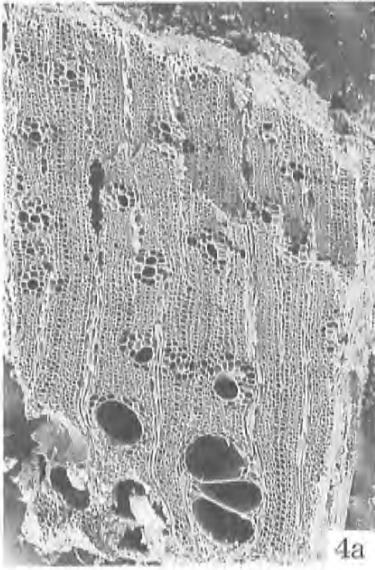
2. クリ (試料番号29)

3. カツラ (試料番号12)

a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μm: a  
200 μm: b, c

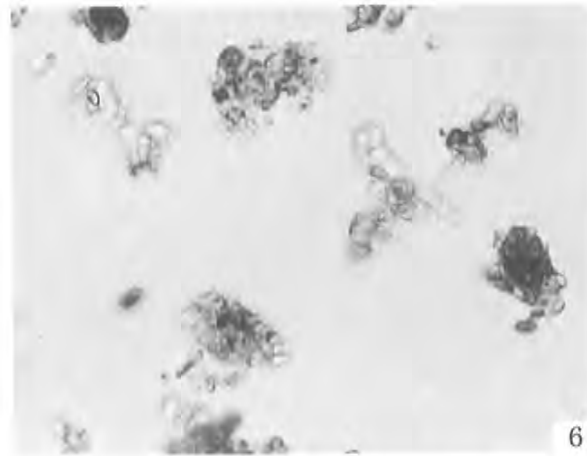
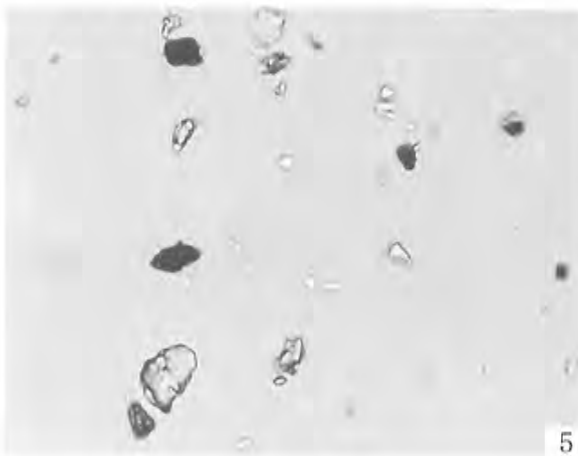
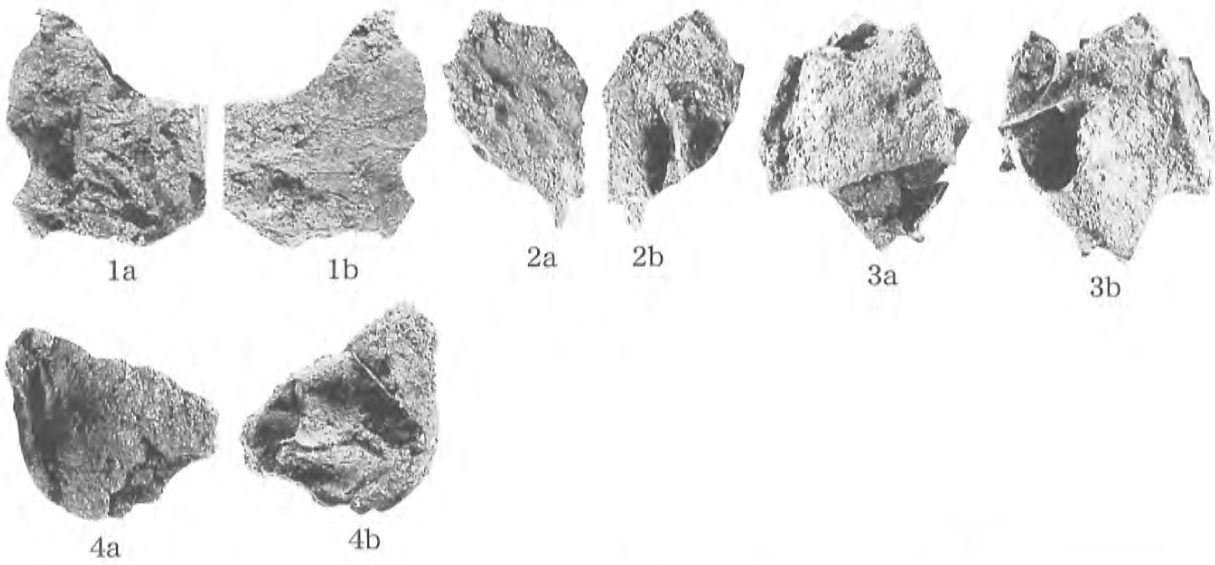
炭化材 (1)



4. トネリコ属 (試料番号11)  
2. クマシデ属イヌシデ節 (試料番号35)  
a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200 μm: a  
200 μm: b, c

炭化材 (2)



- 1. オニグルミ (試料番号23)
- 2. オニグルミ (試料番号23)
- 3. オニグルミ (試料番号23)
- 4. オニグルミ (試料番号23)
- 5. 植物珪酸体分析プレパラート内の状況写真 (試料番号30)
- 6. 植物珪酸体分析プレパラート内の状況写真 (試料番号12)

1cm:1-4  
50 $\mu$ m:5, 6

種実遺体・植物珪酸体分析プレパラートの状況写真



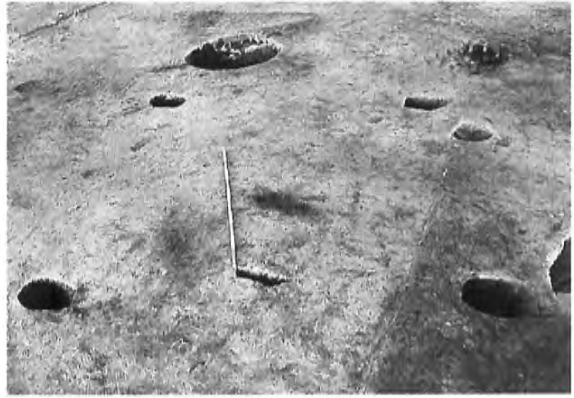
# 写 真 图 版







第1号掘立柱建物跡 1



第1号掘立柱建物跡 2



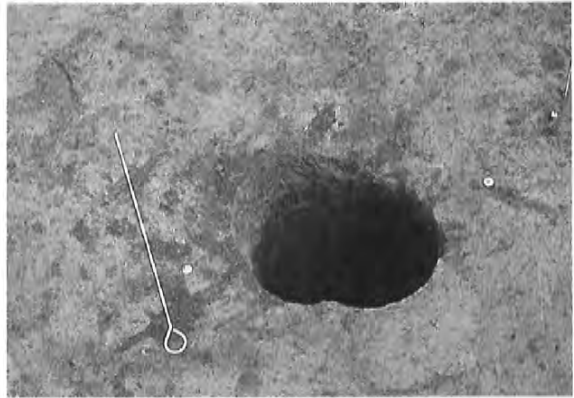
第1号掘立柱建物跡 柱穴 A



第1号掘立柱建物跡 柱穴 B



第1号掘立柱建物跡 柱穴 C



第1号掘立柱建物跡 柱穴 D



第2号掘立柱建物跡



第2号掘立柱建物跡 柱穴 A



第2号掘立柱建物跡 柱穴 B



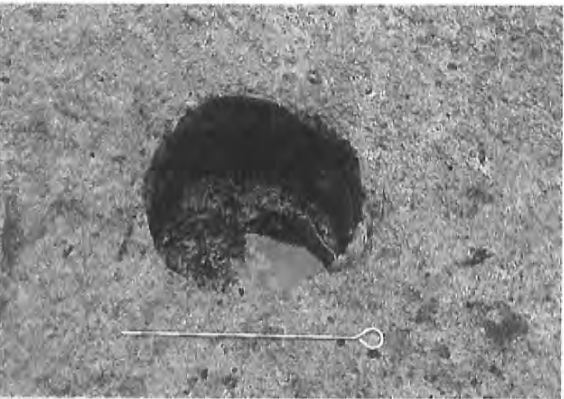
第3号掘立柱建物跡 1



第3号掘立柱建物跡 2



第3号掘立柱建物跡 柱穴 A



第3号掘立柱建物跡 柱穴 B



第3号掘立柱建物跡 柱穴 C



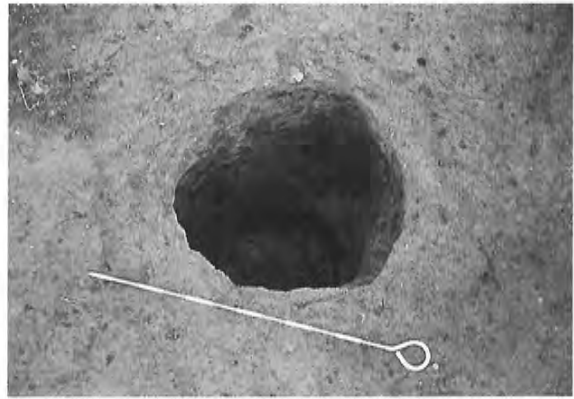
第4号掘立柱建物跡



第4号掘立柱建物跡 柱穴 A



第4号掘立柱建物跡 柱穴 B



第4号掘立柱建物跡 柱穴 C



第4号掘立柱建物跡 柱穴 D



第7号掘立柱建物跡 1



第7号掘立柱建物跡 2



第7号掘立柱建物跡 3



第7号掘立柱建物跡 4



第7号掘立柱建物跡 柱穴 F



第8号掘立柱建物跡 1



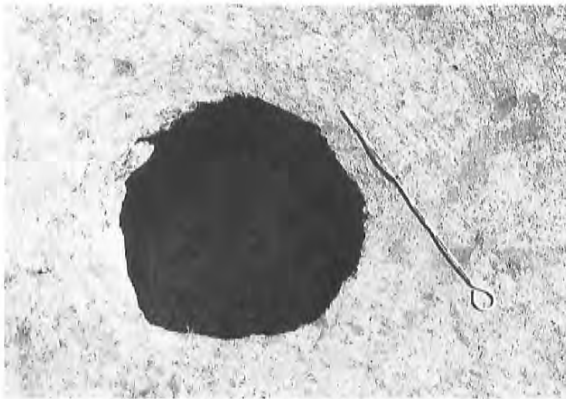
第8号掘立柱建物跡 2



第8号掘立柱建物跡 3



第8号掘立柱建物跡 柱穴 A



第8号掘立柱建物跡 柱穴 B



第8号掘立柱建物跡 柱穴 C



第8号掘立柱建物跡 柱穴 D



第9号掘立柱建物跡 1



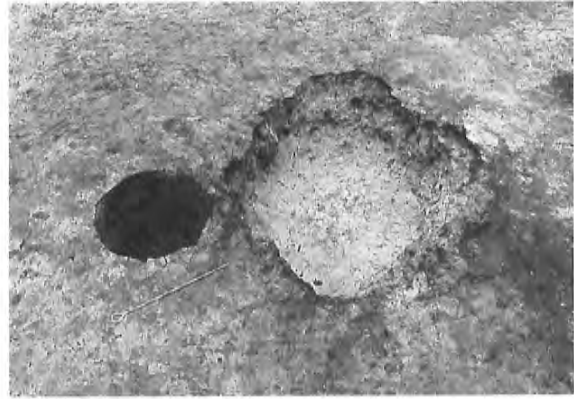
第9号掘立柱建物跡 2



第9号掘立柱建物跡 柱穴 A



第9号掘立柱建物跡 柱穴 B



第9号掘立柱建物跡 柱穴 C



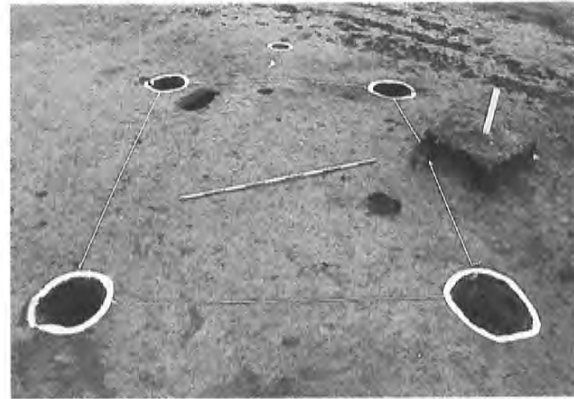
第9号掘立柱建物跡 柱穴 D



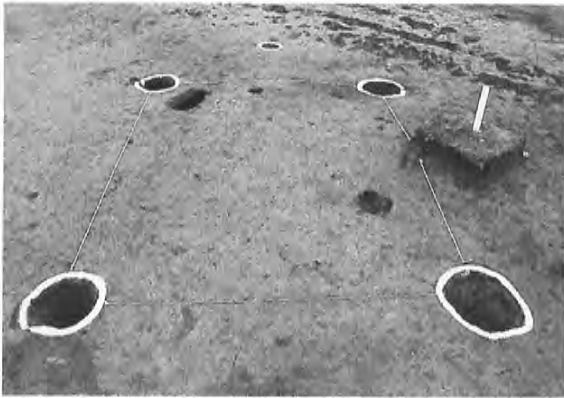
第9号掘立柱建物跡 柱穴 E



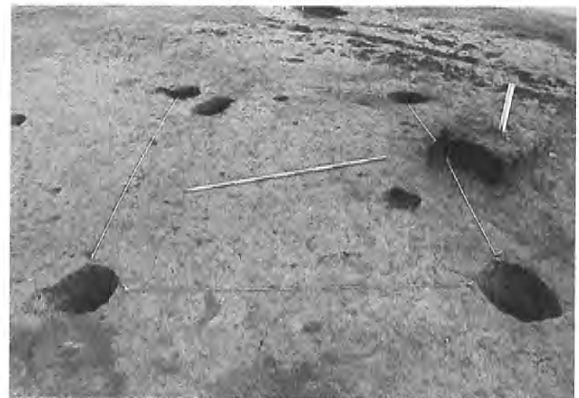
第9号掘立柱建物跡 柱穴 F



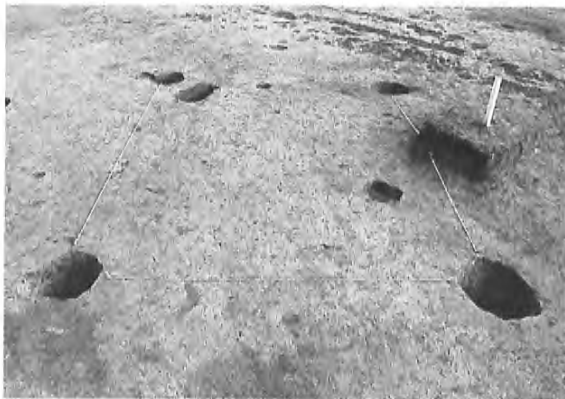
第10号掘立柱建物跡 1



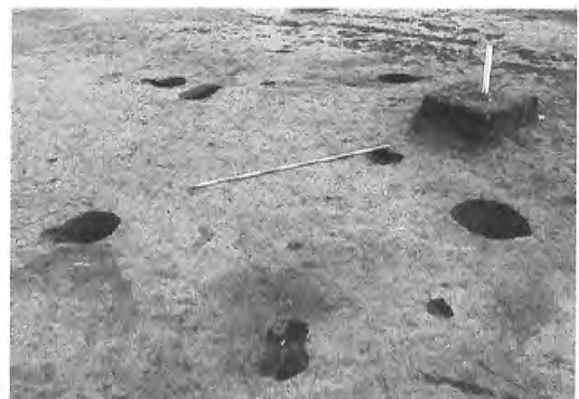
第10号掘立柱建物跡 2



第10号掘立柱建物跡 3



第10号掘立柱建物跡 4



第10号掘立柱建物跡 5



第10号掘立柱建物跡 6



第10号掘立柱建物跡 柱穴 A1



第10号掘立柱建物跡 柱穴 A2



第10号掘立柱建物跡 柱穴 A3



第10号掘立柱建物跡 柱穴 B



第10号掘立柱建物跡 柱穴 C1



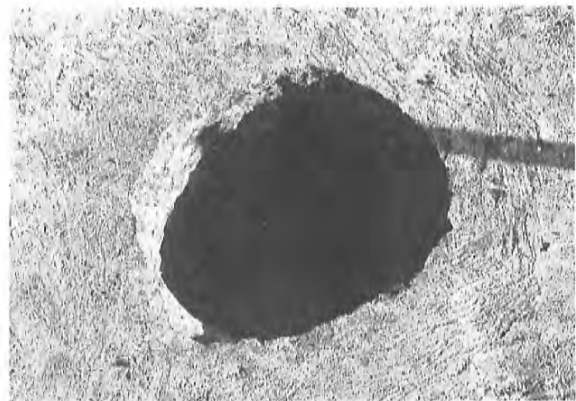
第10号掘立柱建物跡 柱穴 C2



第10号掘立柱建物跡 柱穴 D1



第10号掘立柱建物跡 柱穴 D2



第10号掘立柱建物跡 柱穴 D3



第11号掘立柱建物跡 柱穴 A



第11号掘立柱建物跡 柱穴 C



第12号掘立柱建物跡 1



第12号掘立柱建物跡 2



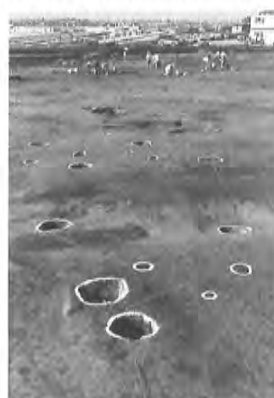
第12号掘立柱建物跡 3



第12号掘立柱建物跡 柱穴 D



第13号掘立柱建物跡 1



第13号掘立柱建物跡 2



第13号掘立柱建物跡 柱穴 A



第13号掘立柱建物跡 柱穴 C





第13号掘立柱建物跡 柱穴 D



第14号掘立柱建物跡 1



第14号掘立柱建物跡 2



第14号掘立柱建物跡 柱穴 A



第14号掘立柱建物跡 柱穴 B



第14号掘立柱建物跡 柱穴 C



第14号掘立柱建物跡 柱穴 D



第15号掘立柱建物跡 1



第15号掘立柱建物跡 2



第15号掘立柱建物跡 3



第15号掘立柱建物跡 柱穴 C



第15号掘立柱建物跡 柱穴 D



第16号掘立柱建物跡 1



第16号掘立柱建物跡 2



第16号掘立柱建物跡 3



第16号掘立柱建物跡 4



第16号掘立柱建物跡 柱穴 A



第16号掘立柱建物跡 柱穴 C



第16号掘立柱建物跡 柱穴 D



第16号掘立柱建物跡 柱穴 E



第16号掘立柱建物跡 柱穴 F



第17号掘立柱建物跡 1



第17号掘立柱建物跡 2



第17号掘立柱建物跡 3



第17号掘立柱建物跡 4



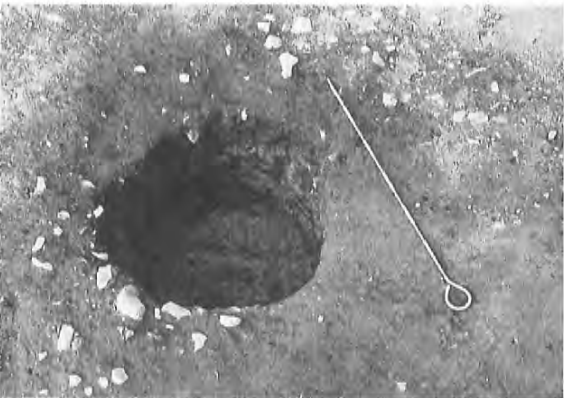
第17号掘立柱建物跡 5



第17号掘立柱建物跡 柱穴 A



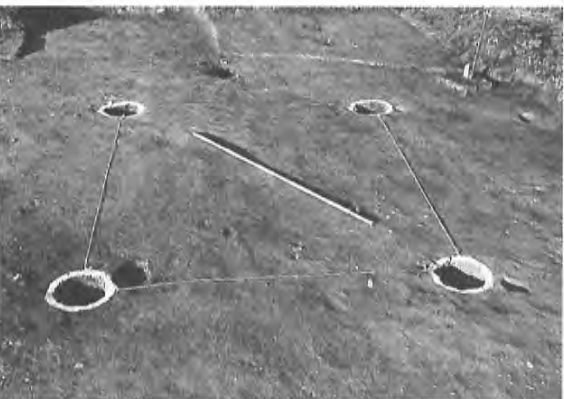
第17号掘立柱建物跡 柱穴 C



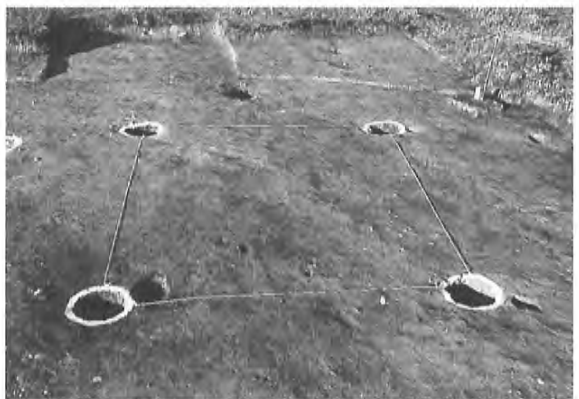
第17号掘立柱建物跡 柱穴 D



第17号掘立柱建物跡 柱穴 E



第18号掘立柱建物跡 1



第18号掘立柱建物跡 2



第18号掘立柱建物跡 3



第18号掘立柱建物跡 4



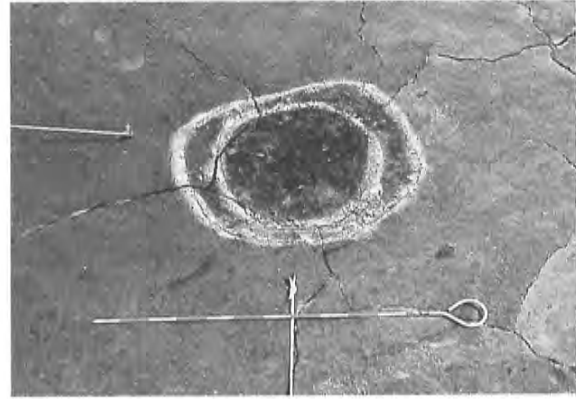
第18号掘立柱建物跡 柱穴 B



第24号掘立柱建物跡



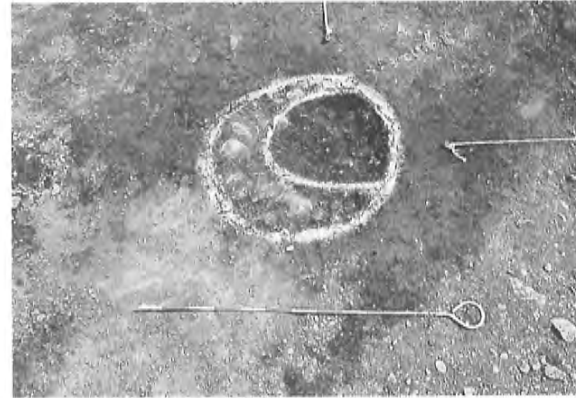
第25号掘立柱建物跡



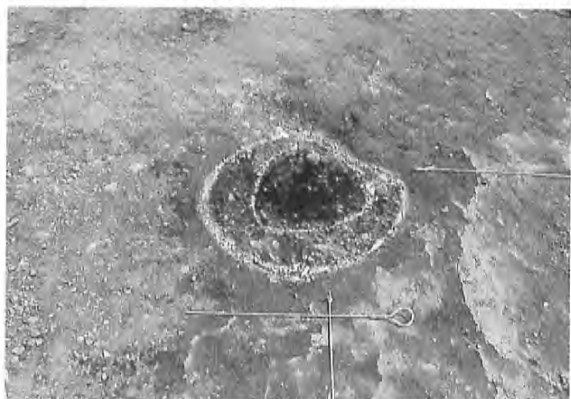
第25号掘立柱建物跡 柱穴 A



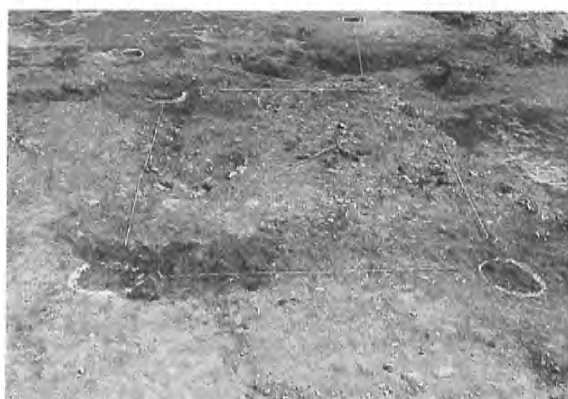
第25号掘立柱建物跡 柱穴 B



第25号掘立柱建物跡 柱穴 C



第25号掘立柱建物跡 柱穴 D



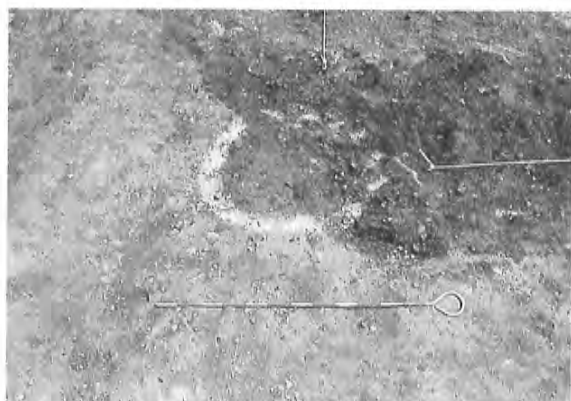
第26号掘立柱建物跡



第26号掘立柱建物跡 柱穴 A



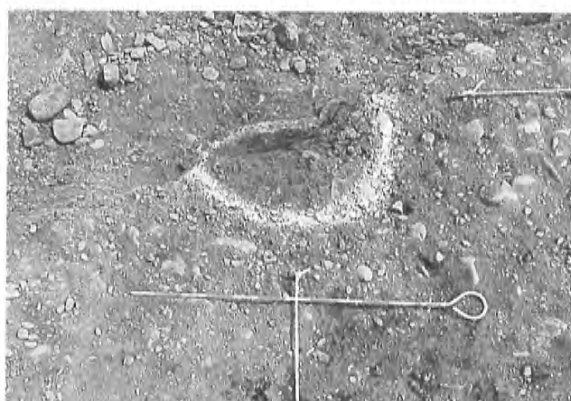
第26号掘立柱建物跡 柱穴 B



第26号掘立柱建物跡 柱穴 C



第26号掘立柱建物跡 柱穴 D1



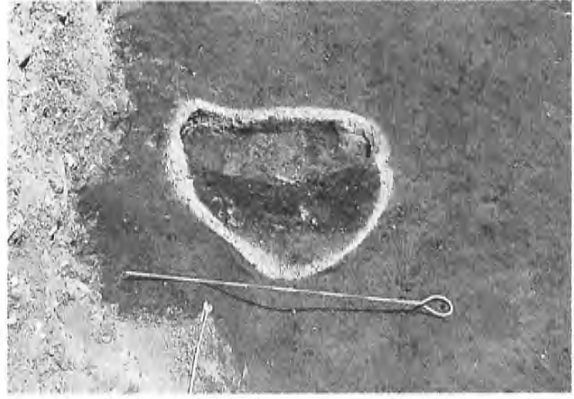
第26号掘立柱建物跡 柱穴 D2



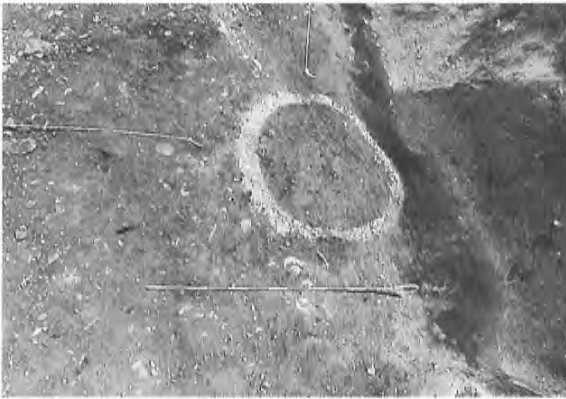
第27号掘立柱建物跡



第28号掘立柱建物跡



第28号掘立柱建物跡 柱穴 A



第28号掘立柱建物跡 柱穴 B



第28号掘立柱建物跡 柱穴 C



第28号掘立柱建物跡 柱穴 D



第29号掘立柱建物跡



第29号掘立柱建物跡 柱穴 A



第29号掘立柱建物跡 柱穴 B



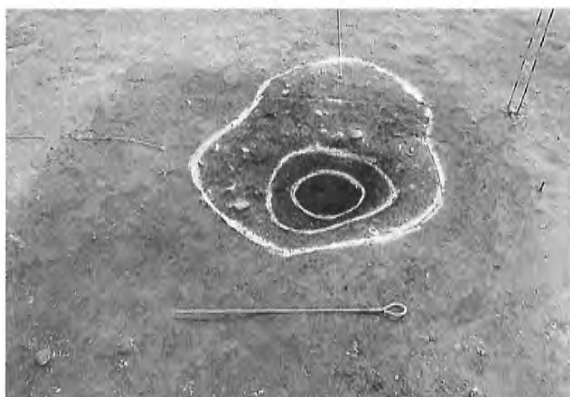
第29号掘立柱建物跡 柱穴 C



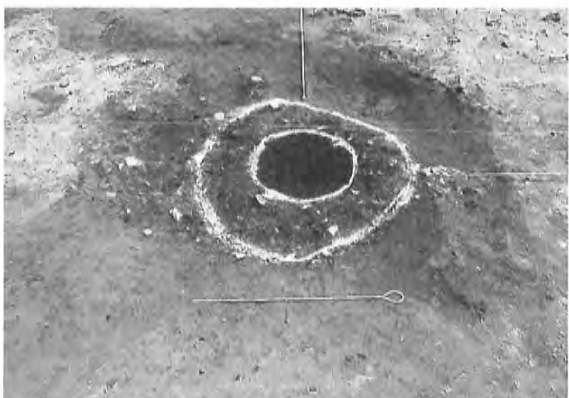
第29号掘立柱建物跡 柱穴 D



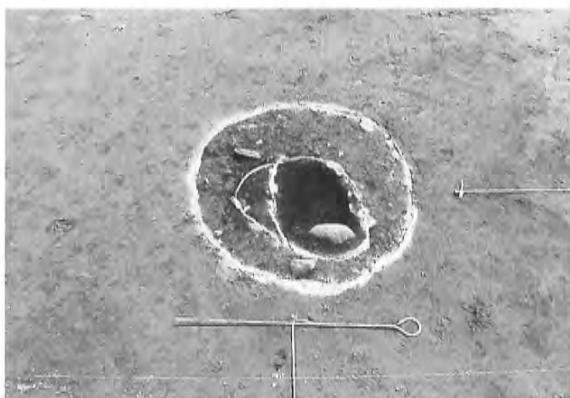
第30号掘立柱建物跡



第30号掘立柱建物跡 柱穴 B



第30号掘立柱建物跡 柱穴 C



第30号掘立柱建物跡 柱穴 D

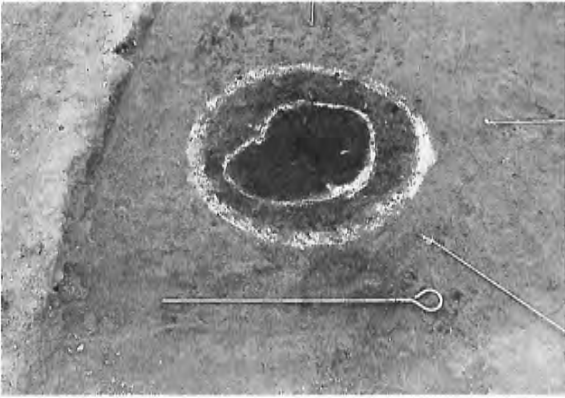


第31号掘立柱建物跡

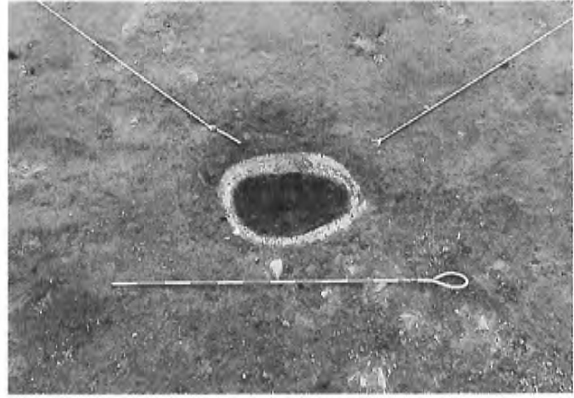


第31号掘立柱建物跡 柱穴 B





第31号掘立柱建物跡 柱穴 C



第31号掘立柱建物跡 柱穴 E



第32号掘立柱建物跡 1



第32号掘立柱建物跡 2



第33号掘立柱建物跡



第34号掘立柱建物跡



第35号掘立柱建物跡



第201・213号土坑



第205号土坑・Pit216



第206号土坑・Pit228



第207号土坑



第209号土坑



第219号土坑



第222号土坑



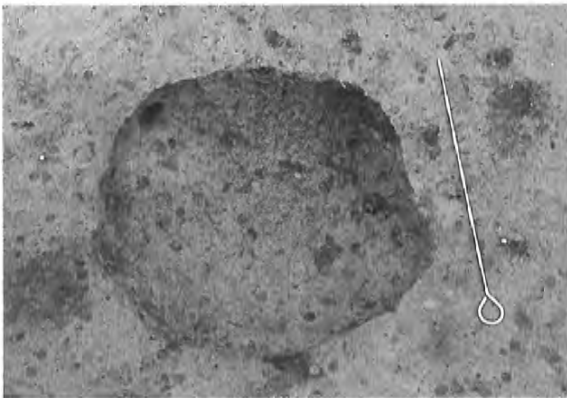
第223号土坑



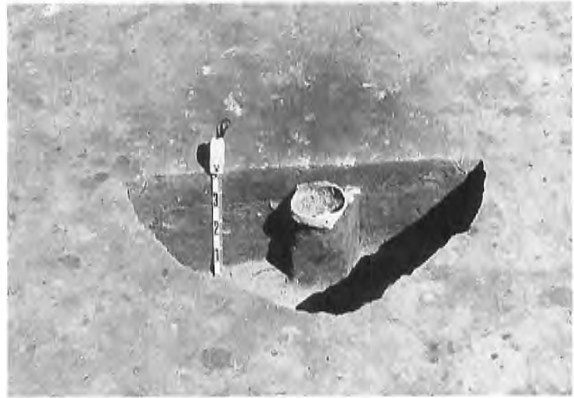
第226·227号土坑



第259号土坑



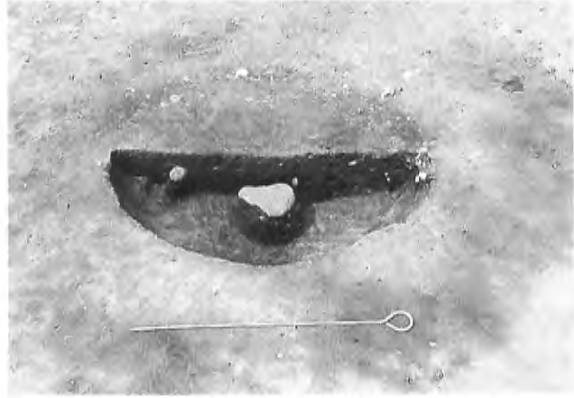
第312号土坑



第650号土坑



第651号土坑



第652号土坑

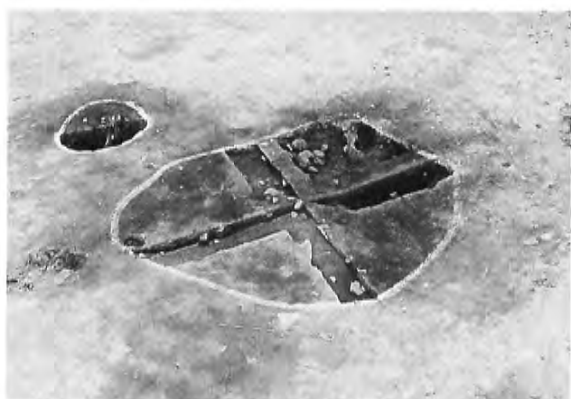


第653号土坑



第654号土坑

写真19 保存区 第226·227·259·312·650·651·652·653·654号土坑



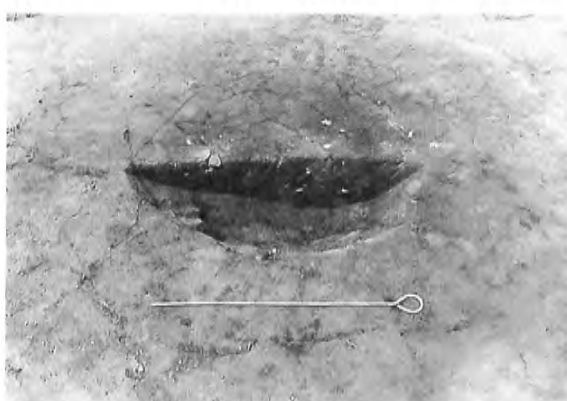
第655号土坑



第656号土坑



第657号土坑



第658号土坑

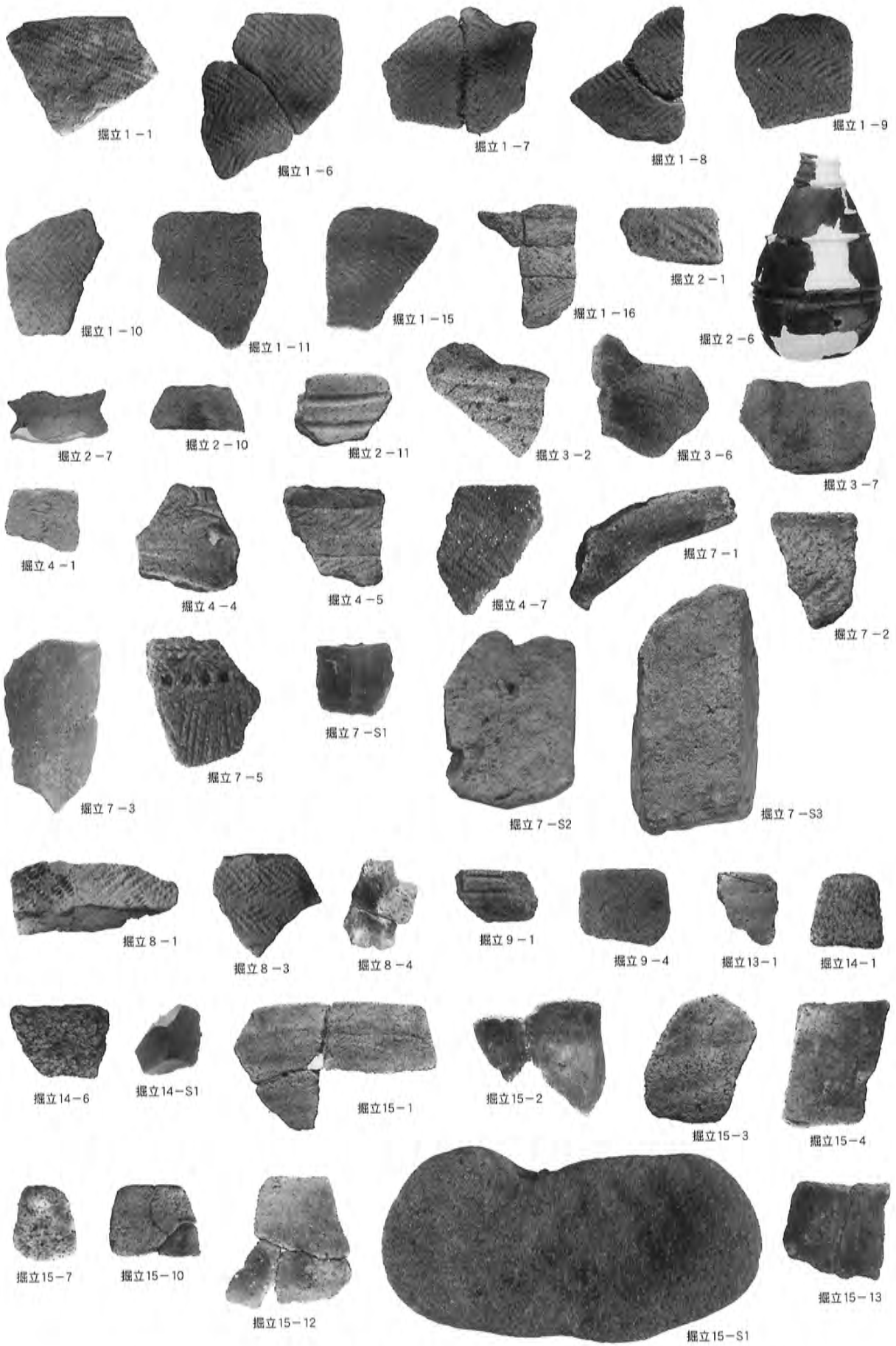


写真21 保存区 第1・2・3・4・7・8・9・13・14・15号掘立柱建物跡 出土遺物

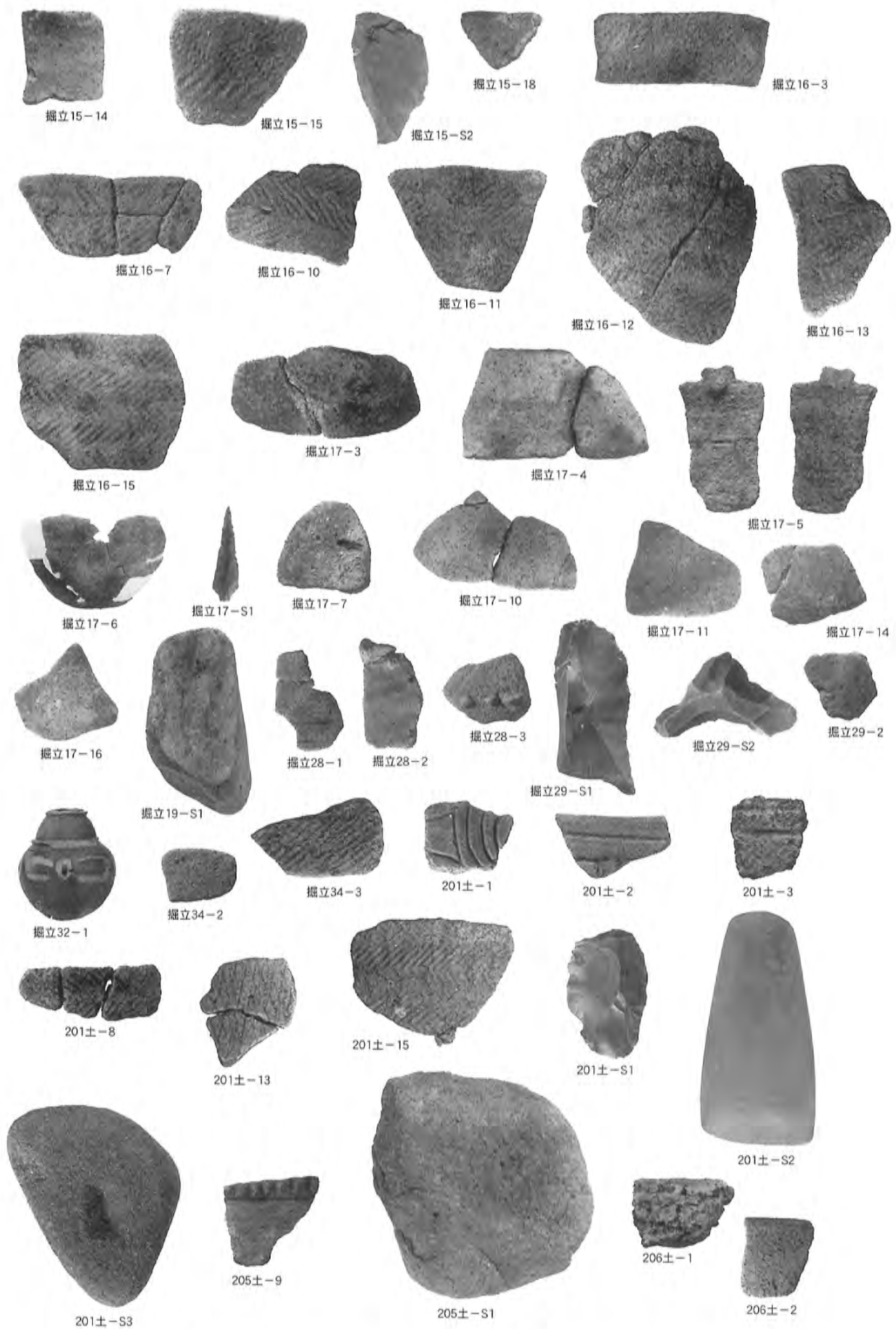


写真22 保存区 第15・16・17・28・29・32・34号掘立柱建物跡、第201・205・206号土坑 出土遺物

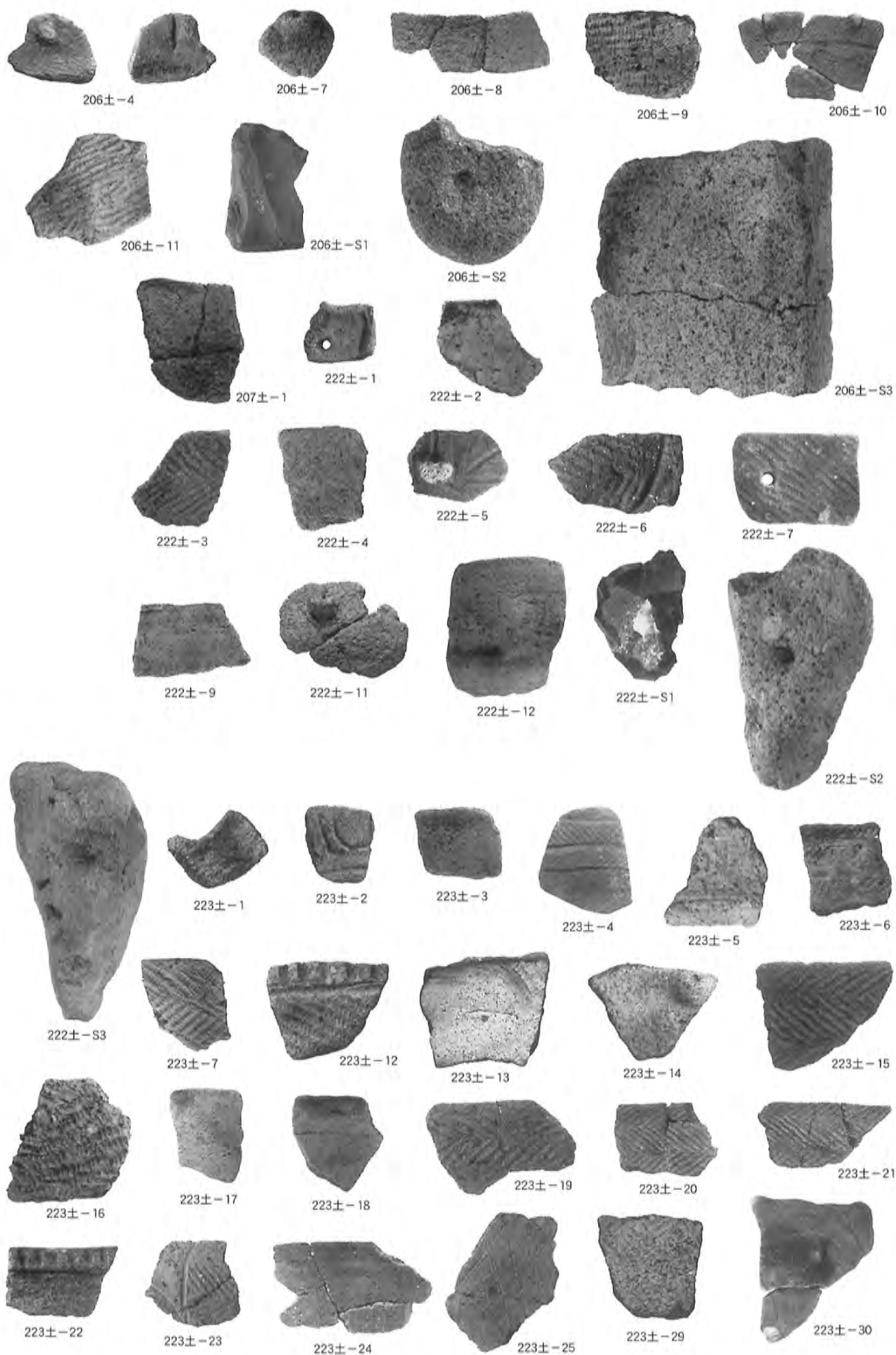


写真23 保存区 第206・207・221・222・223号土坑 出土遺物

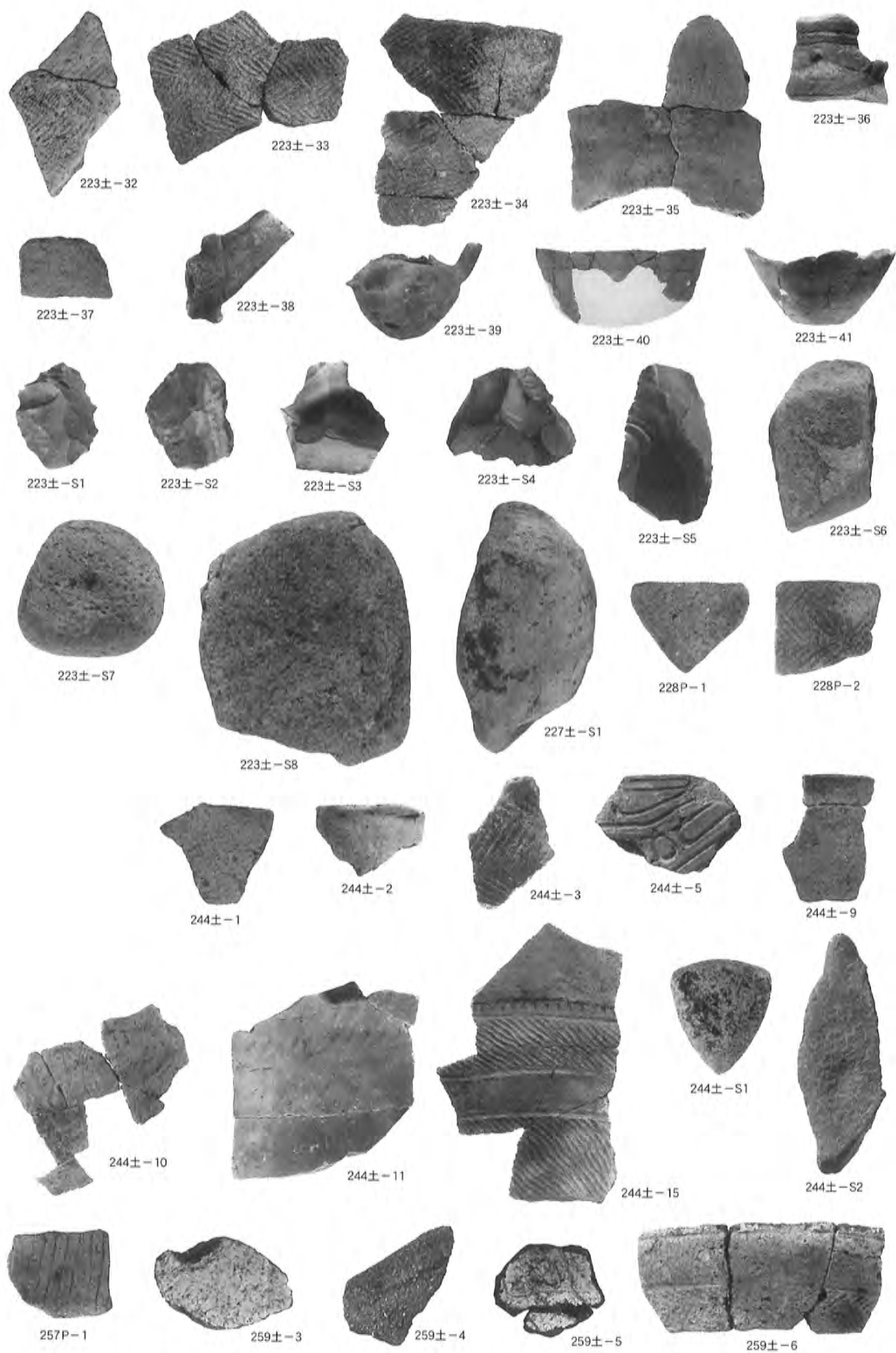


写真24 保存区 第223・227・242・244・259号土坑、Pit228・257 出土遺物



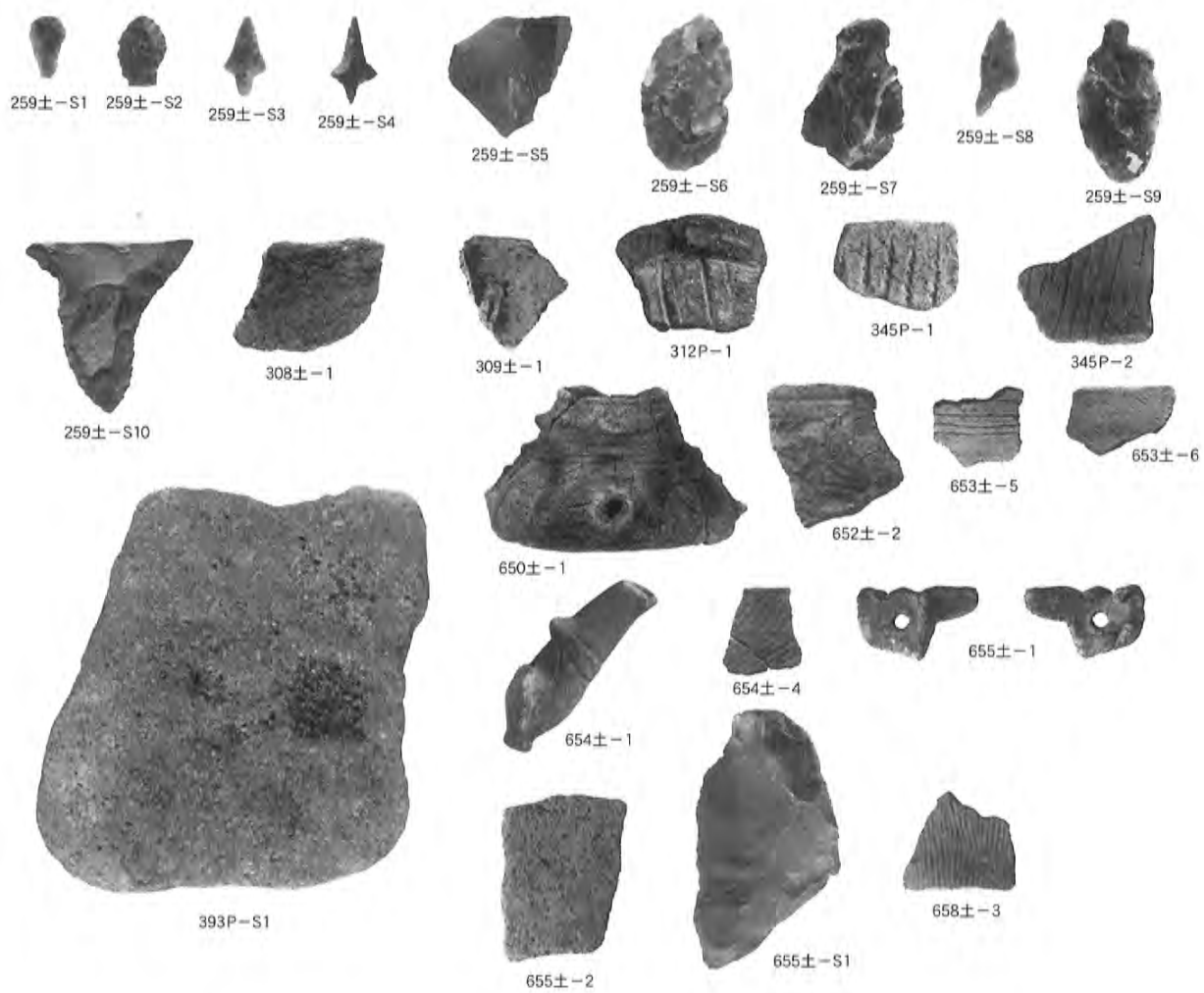


写真25 保存区 第259・308・309・650・652・653・654・655・658号土坑、Pit312・345・393 出土遺物

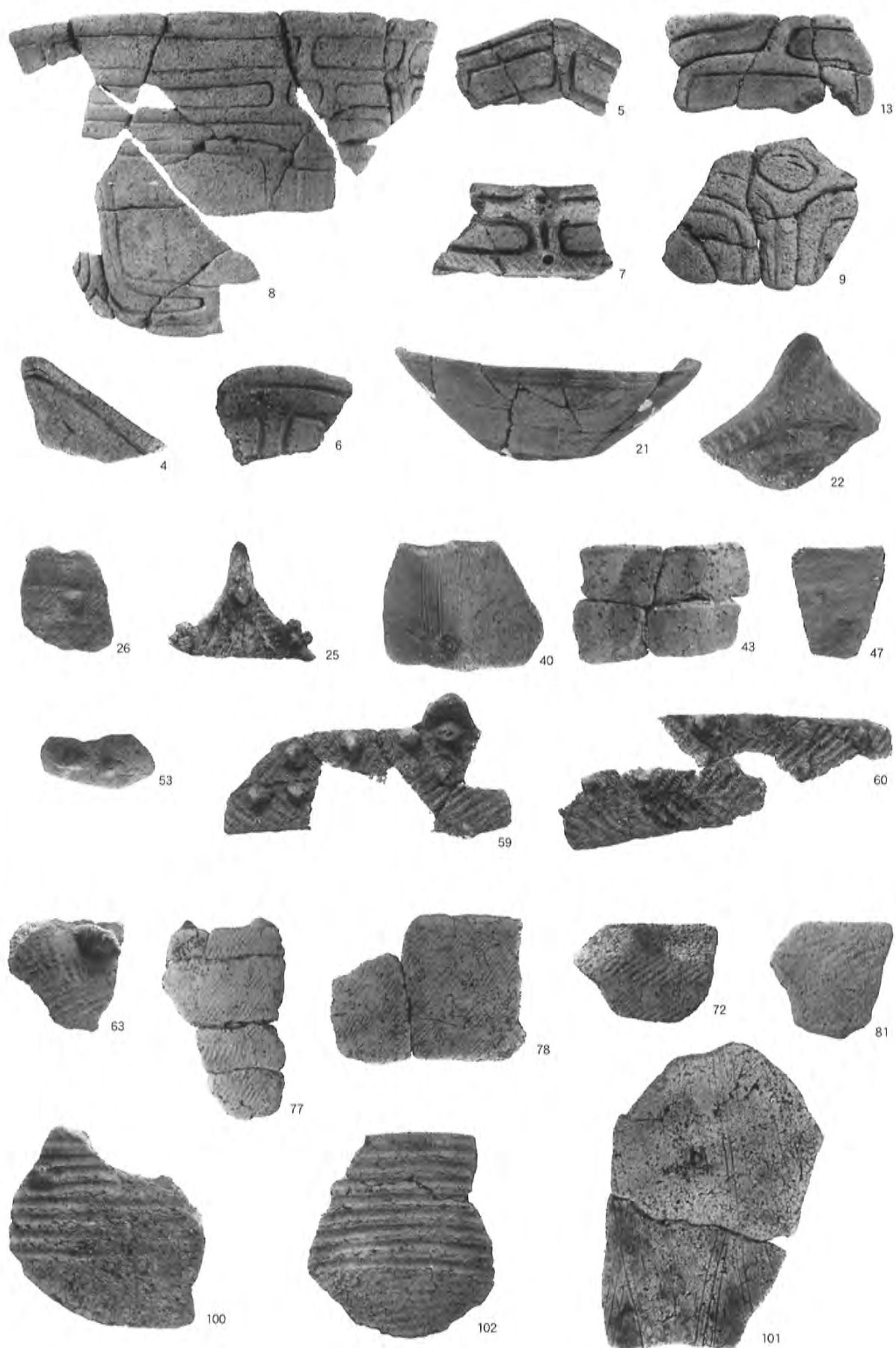


写真26 保存区 遺構外出土土器

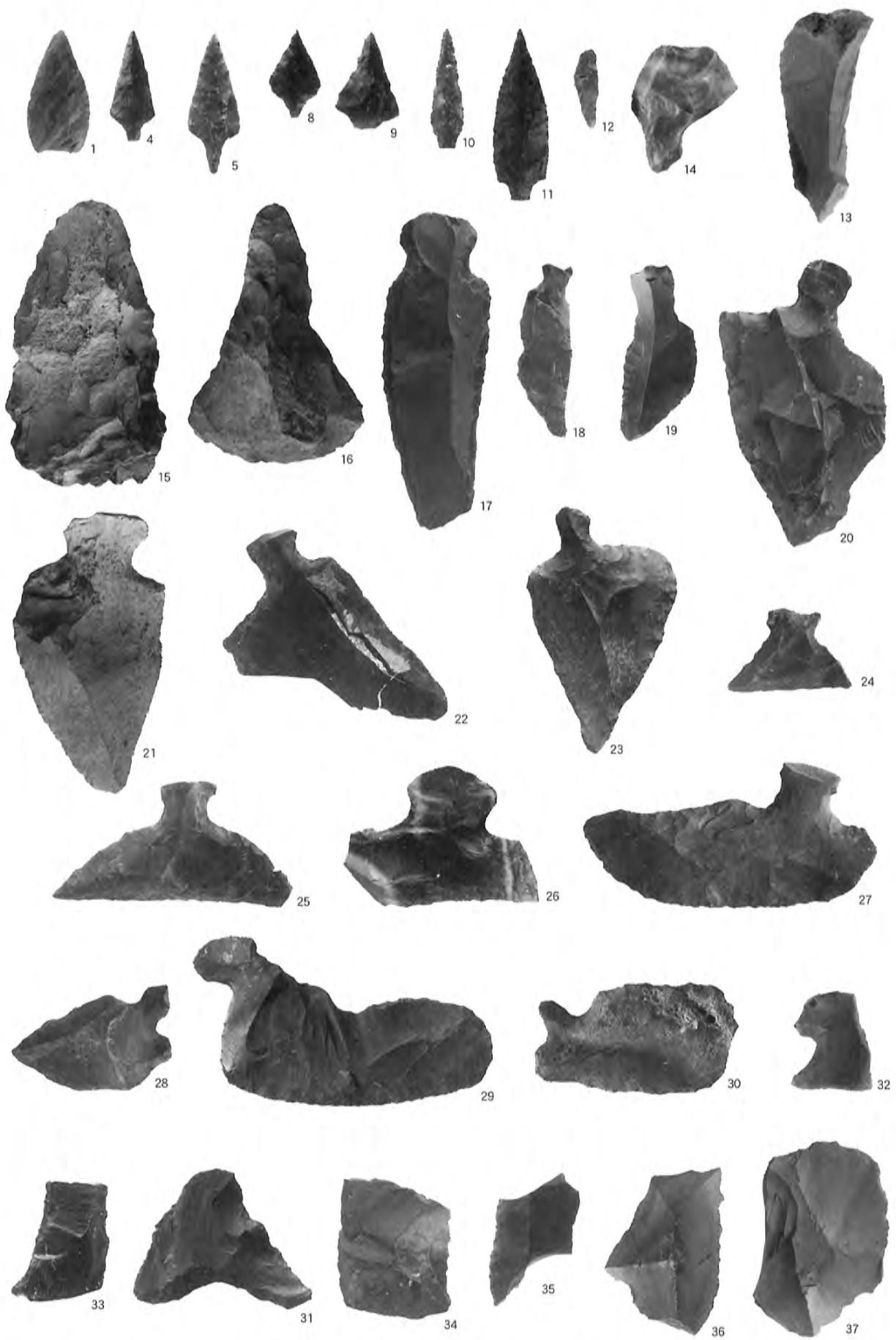


写真27 保存区 遺構外出土石器 (1)

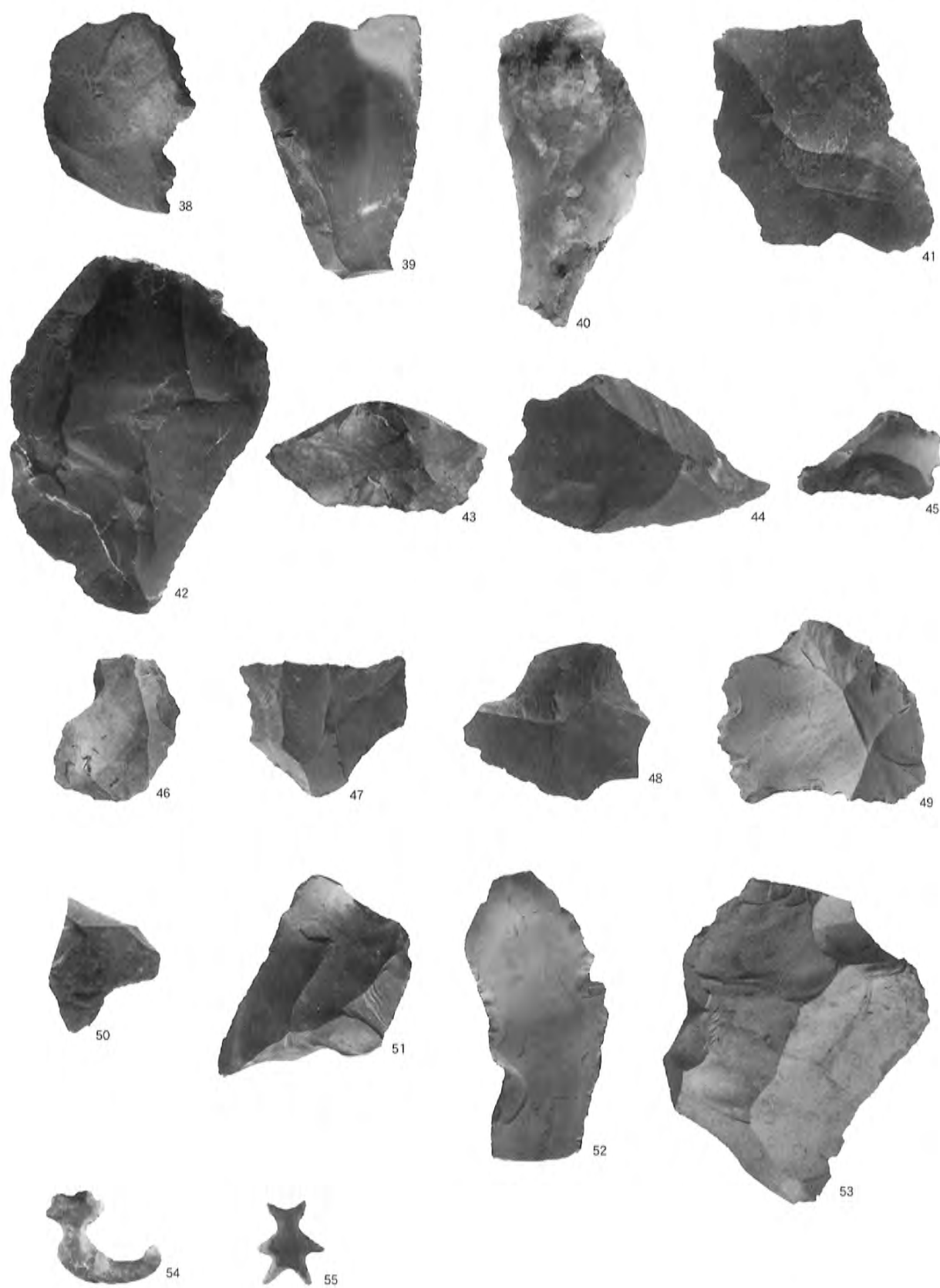


写真28 保存区 遺構外出土石器(2)



56



57



58



59



60



61



62

写真29 保存区 遺構外出土石器 (3)



# 第 2 編

平成13年度 G区発掘調査





# 第1章 調査の概要

## 第1節 調査要項

### 1 調査目的

青森県新総合運動公園建設事業の実施に先立ち、当該地区に所在する上野尻遺跡の発掘調査を行い、その記録を保存して、地域社会の文化財の活用に資する。

### 2 発掘調査期間

平成13年4月18日～同年10月31日まで

### 3 遺跡名及び所在地

上野尻遺跡（青森県遺跡番号01281）

青森市大字矢田字上野尻54外

### 4 調査面積

7,100平方メートル

### 5 調査委託者

青森県県土整備部都市計画課

### 6 調査受託者

青森県教育委員会

### 7 調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

### 8 調査体制

調査指導員	市川 金丸	青森県考古学会会長（考古学）
調査員	松山 力	八戸市文化財審議委員（地質学）
”	遠藤 正夫	青森市教育委員会参事兼文化財課長（考古学）
調査担当者	青森県埋蔵文化財調査センター	
	所 長	中島 邦夫
	次 長	成田 誠治
	総務課長	西口 良一
	調査第三課長	木村鐵次郎
	文化財保護主幹	相馬 信吉
	文化財保護主事	工藤由美子
	調査補助員	山内 敦子、嶋中 加那子、森内 麻美、若山 誠治、 佐々木志野、柴田 洋子、田辺 健治

## 第2節 調査の方法

### 1 グリッドの設定

グリッドの呼称は、平成9年度に青森県新総合運動公園建設事業に係る埋蔵文化財調査が開始されたとき、事業計画区域全体に公共座標（旧日本測地系）の網をかぶせたものがあり、それをそのまま踏襲している。グリッドは4×4mを1単位とした。グリッドの軸を公共座標にあわせ、平面直角座標第X系のX=92.680 Y=644をⅡA-30と呼称し、座標X軸はローマ数字とアルファベットA～Tの組み合わせで、Y軸は算用数字で表した。X軸は正方向へ座標値が4m増えるごとにI A、I B・・・のようにアルファベットが順次進み、I Tまで進行すると、次のグリッドはローマ数字が繰り上がりⅡAとなる。Y軸は正方向へ4m進むごとに1増える。グリッドの呼称は南西隅のグリッドライン交点を用いた。

なお、平成13年度に発掘調査を実施した地域をG区と呼んだのは、便宜的に平成11年度にA～D、平成12年度にE・Fとそれぞれ調査区割りをしており、それと重複させないためである。今回の調査区域は、平成12年度に発掘調査が行われたF区の南隣になる。

### 2 遺物包含層の調査と遺物の取り上げ

表土の除去には、部分的に重機を用いた。それ以下の遺構確認面までの掘り下げは、層毎に手掘りで行った。基本層序はローマ数字で表記し、遺物はグリッド・層単位で取り上げた。

### 3 遺構の調査

竪穴住居跡は四分法、その他の遺構は二分法を基本とした。遺構内の層順は、基本層序と区別するため算用数字を用いた。種類毎に遺構名を付け、発見順に番号を付けていったが、調査途中で遺構とは認めがたいものなどは除外したので、途中、欠番が生じた遺構もある。

なお、調査期間途中から工藤・佐々木・柴田の三名が調査に合流し、地区割りをして調査を行った関係上、遺構番号の重複を避けるため、遺構番号の途中を飛ばし、新たに101から始めたものがある。

### 4 実測図の作成

遺構の実測は4m四方のグリッド杭を利用した「簡易遣り方法」を用いた。縮尺は1/20を基本とし、適宜、1/10を用いた。

### 5 写真撮影

35mmモノクロフィルムと同リバーサルフィルムを主に用い、補助的に35mmカラーネガフィルムを用いた。

### 第3節 調査の経過

4月18日に、発掘機材を搬入し調査を開始した。当初、7月末までの期限で、調査区の中程をほぼ東西に横切っている旧市道の北側区域の発掘調査を終了させる計画であった。まず、前年度までに調査を終了したF区のグリッド杭を利用し、調査杭を南側へ延伸した。これと並行して、表土除去作業を開始した。

遺構確認面までの深さは、山側に近い東側は浅く、西側に行くにしたがって深くなるという状況であった。確認された遺構は、土坑が多く、竪穴住居跡は発見されなかった。遺物包含層からの出土遺物も比較的少なかった。

7月末には当初の予定区域の発掘調査を終了し、8月には全員、同じ青森市内のある近野遺跡に発掘調査に携わる予定であった。しかし、近野遺跡の植栽移動などが遅れたため、担当職員と調査補助員は上野尻遺跡で継続して調査に当たることとなった。発掘作業員は、上野尻遺跡の発掘調査と並行して行っていた米山(2)遺跡から回ってもらうことになり、新たな体制で発掘調査を続けることとなった。

市道南側の区域の一部には、平成8年度に試掘調査を実施した際の試掘坑が見られ、なかには遺構の底面に及んでいるものあり、試掘調査の難しさを物語っていた。この区域にはアカシヤの木がかなりの密度で生えていて、その伐採・除去に悩まされた。山際の台地上部は、地層の分布変化などを見るとかつて畑地にする際、高低差を緩和するため高い方をかなり削り、低い方に盛り土している様子うかがえる。調査が進むと、縄文時代前期・後期の竪穴住居跡や縄文時代の土坑などが数多く検出されるようになり、また、出土遺物も日増しに増加していった。

9月初めには、職員・調査補助員三名と発掘作業員が調査に加わり、再度、新しい体制の基に調査を継続することとなった。これまでの調査の推移と上野尻遺跡内の未調査部分の面積を勘案し、10月末までにすべての調査を終了するように予定を変更することとなった。9月から10月にかけては、幸い好天が続き、調査は比較的順調に進んだ。10月下旬には調査区全体のラジコンヘリによる空中撮影を行い、10月31日には無事、全調査を終了した。

### 第4節 整理の方法

「序」などでも触れたように、上野尻遺跡ではこれまで4次にわたる発掘調査が実施されている。年度ごとに検出された遺構は、整理段階で、4次にわたる調査全体で遺構番号などに重複が生じないように振り替えが行われてきている。たとえば、第1次調査が行われた平成9年度分については1番からとし、第2次調査が行われた平成11年度分については101番から始めるという具合である。ここで報告する平成13年度発掘調査分については、竪穴住居跡を201番から、竪穴遺構を301番から、土坑を701番及び801番から、溝状土坑を301番及び401番から、溝を301番から、ピットを701及び801番からそれぞれ始めることとしたい。なお、参考にまで、発掘現場で用いた遺構番号や遺物への注記と今回整理段階で振り替えた番号の対照表を記しておく。

竪穴住居跡

修正後番	現場使用番
201	SI-1
202	SI-2
203	SI-3
204	SI-4
205	SI-5
206	SI-6
207	SI-7
208	SI-8
209	SI-9
210	SI-13
211	SI-14

溝状土坑

修正後番	現場使用番
301	SV-1
302	SV-2
303	SV-3
304	SV-4
305	SV-5
401	SV-101
402	SV-102
403	SV-103

溝

修正後番	現場使用番
301	SD-1

竪穴遺構

修正後番	現場使用番
301	1

竪穴建物跡

修正後番	現場使用番
1	SI-10
2	SI-11
3	SI-12

土坑

修正後番	現場使用番
701	SK-1
702	SK-2
703	SK-3
704	SK-4
705	SK-5
706	SK-6
707	SK-7
708	SK-8
709	SK-9
710	SK-10
711	SK-11
欠番	
713	SK-13
714	SK-14
715	SK-15
716	SK-16
717	SK-17
718	SK-18
欠番	
720	SK-20
721	SK-21
722	SK-22
723	SK-23
724	SK-24
725	SK-25
726	SK-26
727	SK-27
728	SK-28
729	SK-29
730	SK-30
731	SK-31
732	SK-32
733	SK-33
734	SK-34
735	SK-35
736	SK-36
737	SK-37
738	SK-38
739	SK-39
740	SK-40
741	SK-41
742	SK-42
743	SK-43
744	SK-44
745	SK-45
746	SK-46
747	SK-47
748	SK-48
749	SK-49
750	SK-50
751	SK-51
752	SK-52
753	SK-53
754	SK-54
755	SK-55

修正後番	現場使用番
756	SK-56
757	SK-57
758	SK-58
759	SK-59
760	SK-60
761	SK-61
762	SK-62
763	SK-63
801	SK-101
802	SK-102
803	SK-103
804	SK-104
805	SK-105
806	SK-106
807	SK-107
808	SK-108
欠番	
810	SK-110
811	SK-111

## ピット

修正番号	後号	現場使用番号
701		1
702		2
703		3
704		4
705		5
706		6
707		7
708		8
709		9
710		10
711		11
712		12
713		13
714		14
715		15
716		16
717		17
718		18
719		19
720		20
721		21
722		22
723		23
724		24
725		25
726		26
727		27
728		28
729		29
730		30
731		31
732		32
733		33
734		34
735		35
736		36
737		37
738		38
739		39
740		40
741		41
742		42
743		43
744		44
745		45
746		46
747		47
748		48
749		49
750		50
751		51
752		52
753		53
754		54
755		55

修正番号	後号	現場使用番号
756		56
757		57
758		58
759		59
760		60
761		61
762		62
763		63
764		64
765		65
766		66
767		67
768		68
769		69
770		70
771		71
772		72
773		73
774		74
775		75
776		76
777		77
778		78
801		101
802		102
803		103
804		104
805		105
806		106
807		107
808		108
809		109
810		110
811		111
812		112
813		113
814		114
815		115
816		116
817		117
818		118
819		119
820		120
821		121
822		122
823		123
824		124
825		125
826		126
827		127
828		128
829		129
830		130
831		131
832		132

修正番号	後号	現場使用番号
833		133
834		134
835		135
836		136
837		137
838		138
839		139
840		140
841		141
842		142
843		143
844		144
845		145
846		146
847		147
848		148
849		149
850		150
851		151
852		152
853		153
854		154
855		155
856		156
857		157
858		158
859		159
860		160
861		161
862		162
863		163
864		164
865		165
866		166
867		167
868		168
869		169
870		170
871		171
872		172
873		173
874		174
875		175
876		176
877		177
878		178
879		179
880		180
881		181
882		182
883		183
884		184
885		185
886		186
887		187

修正番号	後号	現場使用番号
888		188
889		189
890		190
891		191
892		192
893		193
894		194
895		195
896		196
897		197
898		198
899		199
900		200
901		201
902		202
903		203
904		204
905		205
906		206
907		207
908		208
909		209
910		210
911		211
912		212
913		213
914		214
915		215
916		216
917		217
918		218
919		219
920		220
921		221
922		222
923		223
924		224
925		225
926		226
927		227
928		228
929		229
930		230
931		231
932		232

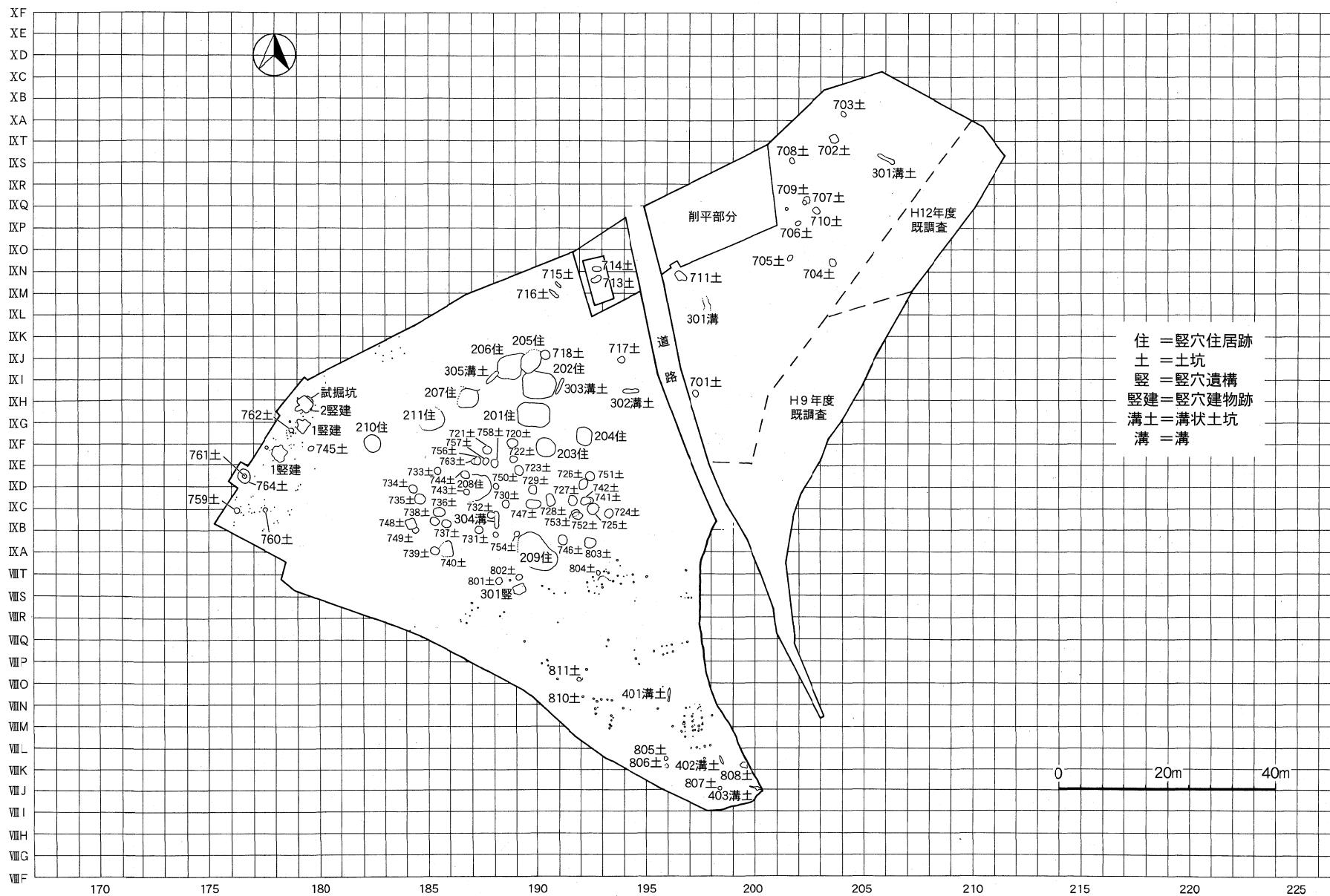


図65 G区遺構配置図

## 第5節 遺跡の地質と基本層序

### 1 遺跡の位置・地形

上野尻遺跡は陸奥湾に面した青森平野の東北端の青森市矢田地区に位置する。洪積台地、沖積地上にあり、遠く南西方向には津軽の霊峰岩木山（高さ1,625m）を望むことができる。八甲田山（高さ1,585m）は近隣の山稜に隠れ、望むことができない。

この遺跡の地形の特徴などについては、すでに松山力氏が『山下遺跡・上野尻遺跡』（青森県教育委員会1999）の中で詳述しているので省略する。

### 2 基本層序（図66）

G区は平成12年度に発掘調査が行われたF区に隣接した南側にあたるため、それらと整合性・連続性を保つ意味からもF区の基本層序に準ずることとした。但し、F区から離れるにしたがって地層の対比が困難になっていったので、厳密な意味で完全な整合性はとれていない可能性もある。F区の基本層序については、『上野尻遺跡Ⅲ』（青森県教育委員会2002）第1章第4節を参照されたい。

G区内の数カ所で基本層序断面図を作成したが、その内の代表的な2カ所について図示した。第I層は黒色土で、表土及び耕作土である。遺物の大半は第I層からの出土である。また、G区を東西に横断する旧市道部分から南側には畑地を平坦にするために、標高の高い方を削平し低い方に盛り土した痕跡も確認できた。第Ⅱ・Ⅲ層も黒色土である。第Ⅵ～Ⅹ層は再堆積層と考えられている。遺構の多くが確認できたのは黄褐色土の第Ⅵ層近辺であるが、この層と連続して所々に赤褐色をした層が見られた。数カ所で深掘をして層順を確認しようとしたのであるが、確認できなかった。

（相馬信吉）

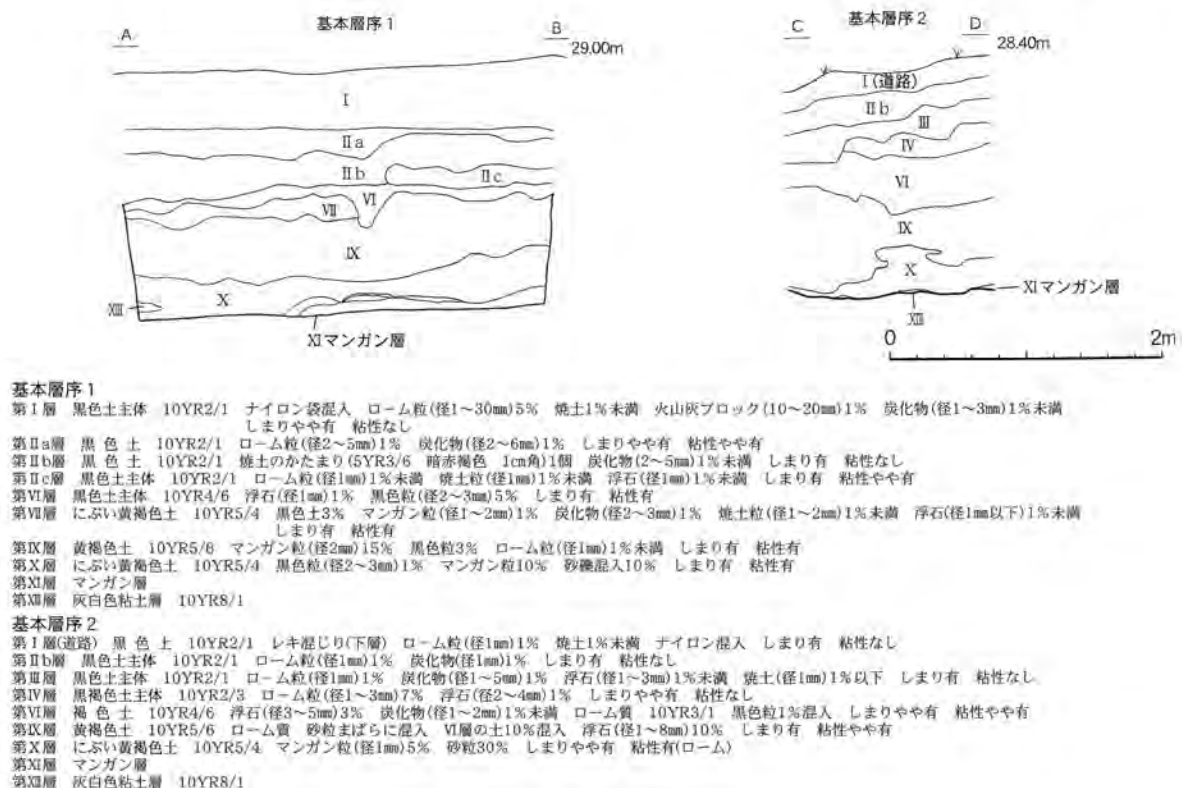


図66 G区基本層序

## 第2章 検出遺構と出土遺物

### 第1節 縄文時代の遺構

#### 1 竪穴住居跡

##### 第201号竪穴住居跡（図67～70）

[位置・確認] IX F・G・H-188・189グリットに位置する。にぶい黄褐色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 削平を受けているため、北西壁が確認出来なかったが、残存部から推定して隅丸方形と考えられる。東西長は、460cmで、南北長は、400cmとなる。推定床面積は16㎡である。

[壁・床面] 北西側を除いて、すべての方向で壁の立ち上がりを確認した。壁高は最も残りの良い南側で40cm、他は8～10cmである。北東側と南東側はなだらかだが、他はほぼ垂直に立ち上がる。

床面は、ほぼ平坦である。

[炉] 住居跡のほぼ中央に楕円形を呈し、長径92cm、短径80cmの地床炉が確認された。深さは16cm程である。堆積土は1層であり、炭化物や焼土が含まれていた。底面中央部や北西隅付近に炭化物や焼土が集中していた。

[壁溝] 確認できなかった。

[ピット] 全部で21基のピットが確認されているが、いずれのピットも、柱痕は確認出来なかった。住居跡内のピット9基（1～8・21）の直径は23～38cm。深さは1.5～59.6cmである。住居跡外のピット12基（9～20）の直径は12～28cm。深さは7.2～18.6cmである。

ピットの位置関係や深さから見て、支柱穴は5本（1, 2, 4, 5, 6）と考えられるが確かではない。また、住居周辺からも、ピット群（9～20）が確認されているが、関連等については不明である。

[その他の施設] 住居跡内から、土坑が2基確認されている。土坑1は53cm×44cm、深さ22cm程、土坑2は60cm×30cm、深さ4cm程である。いずれも住居跡との関係は不明である。

[堆積土] 3層に分層された。第1層は、ローム・焼土粒・炭化粒の混入状況から見て、人為的堆積の可能性が強いと考えられる。第2・3層は、本来住居の壁であったものが崩落したものと思われる。

[出土遺物] 出土遺物の大部分が第1層から出土している。土器はすべてが縄文時代前期後～末葉I-2群土器である。炉の堆積土の中からも土器破片が数点出土している。石器は削器や半円状扁平打製石器などが出土している。

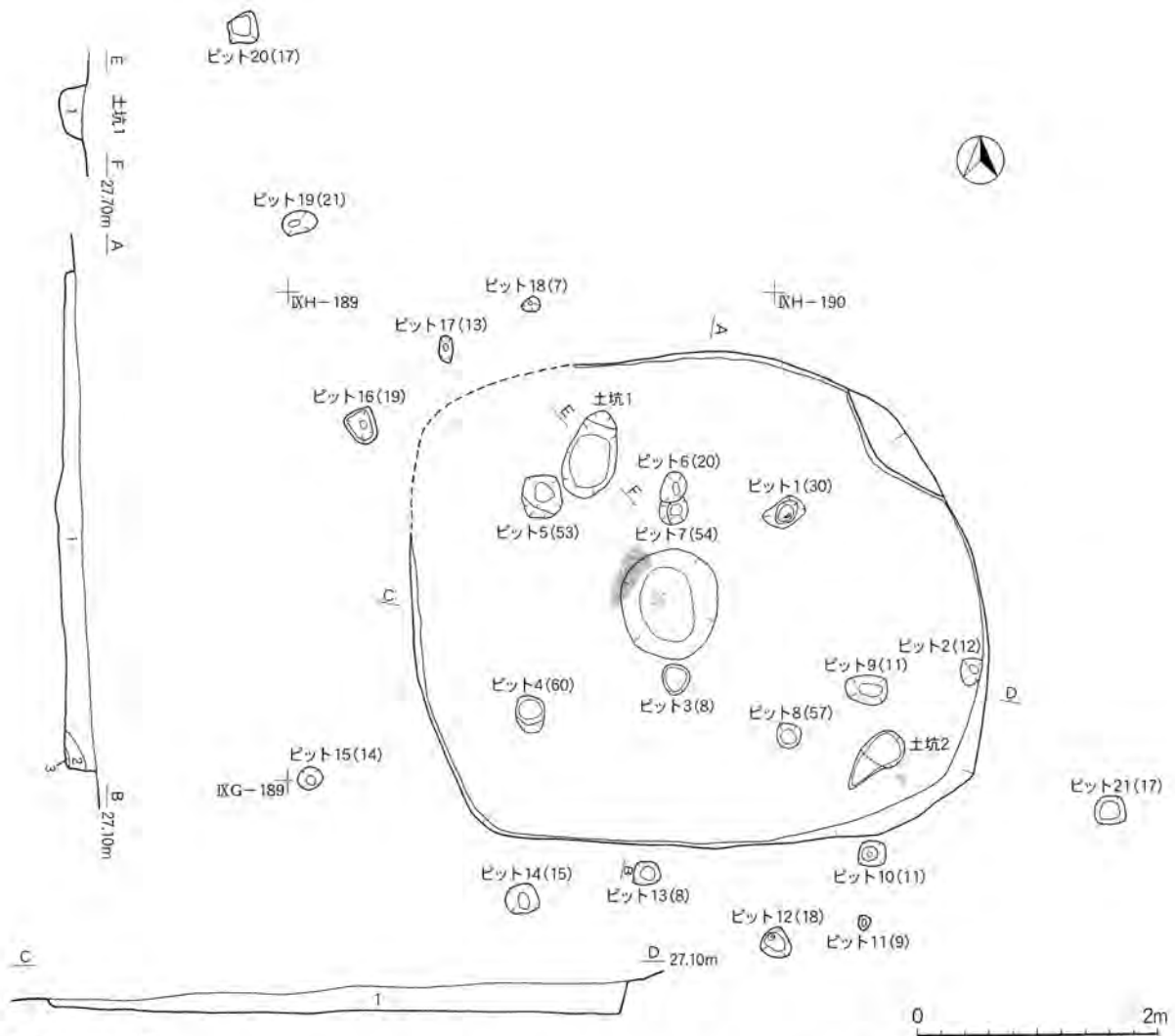
[小結] 出土土器からすると縄文時代前期後～末葉の竪穴住居跡と考えられる。

##### 第202号竪穴住居跡（図71～74）

[位置・確認] IX I・H-189・190グリットに位置する。暗褐色土の隅丸方形プランとして確認した。

[重複] 第205号住居跡と重複する。プラン確認の際、新旧関係を明らかにできなかったが、出土遺



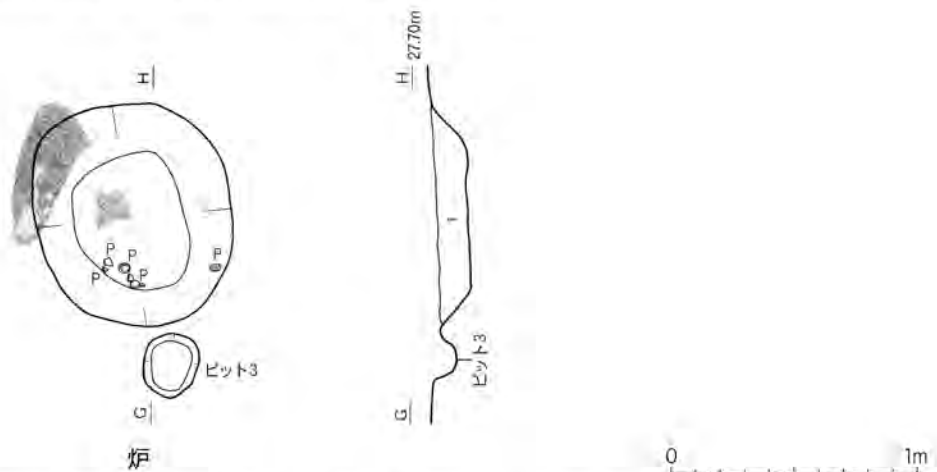


第201号竪穴住居跡

第1層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒(径1mm~2cm)10%混入 焼土粒(径1mm~2cm)3%混入 炭化物粒(径1~3mm)1%混入 しまり有 粘性やや有  
 第2層 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒(径1~3mm)5%混入 しまり有 粘性やや有  
 第3層 褐色土 10YR4/6 炭化物粒(径1mm)1%未満 しまり有 粘性なし

第201号竪穴住居跡土坑1

第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~5mm)1%混入 炭化物粒(径3mm)1%未満 しまり有 粘性やや有



第201号住居内炉

第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~30mm)1%混入 炭化物(径1~60mm)3%混入 焼土(径1~10mm)1%混入 浮石(径1~30mm)1%混入 しまり有 粘性有

図67 第201号竪穴住居跡

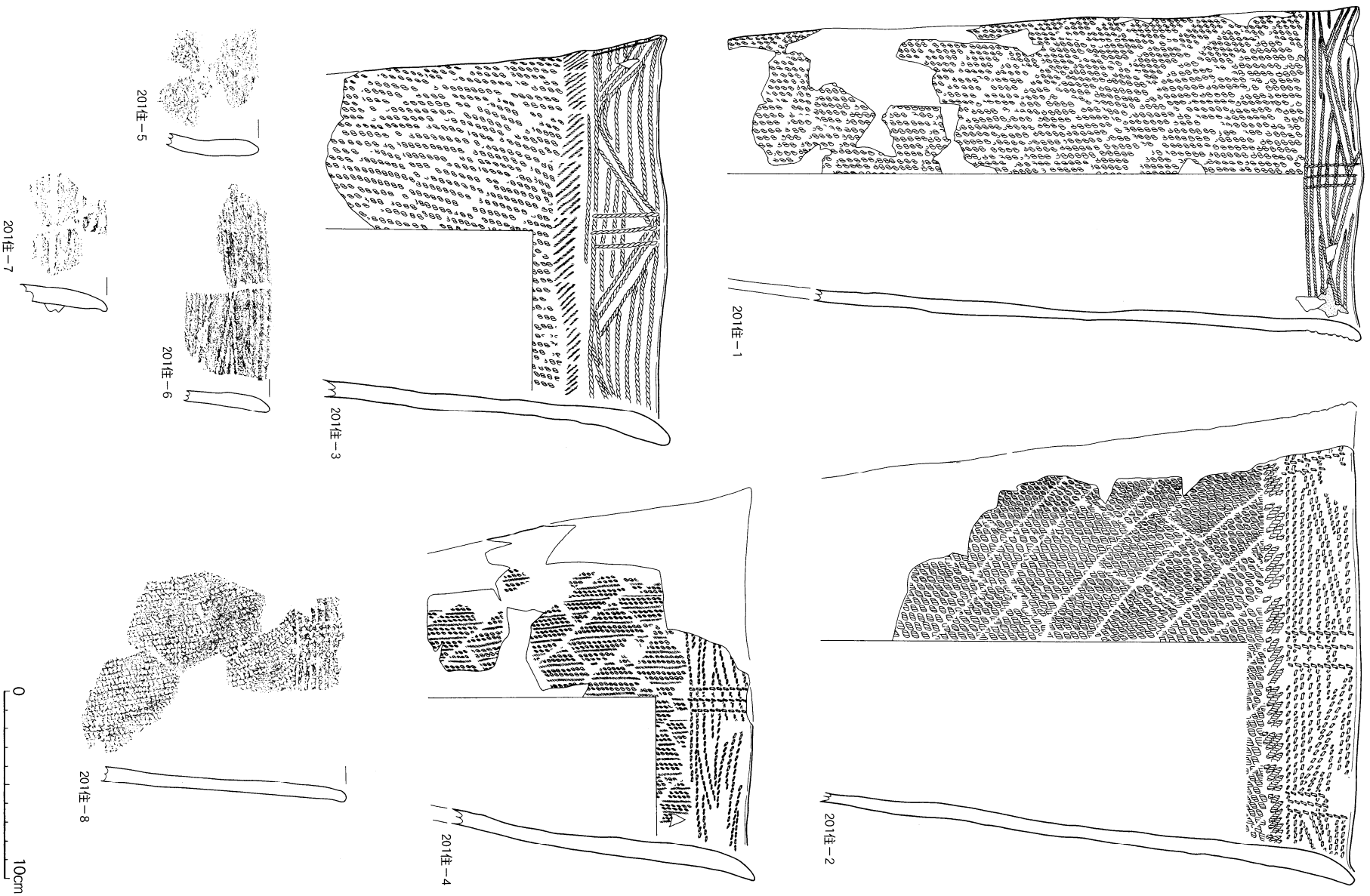


図68 第201号竪穴住居跡 出土遺物 (1)

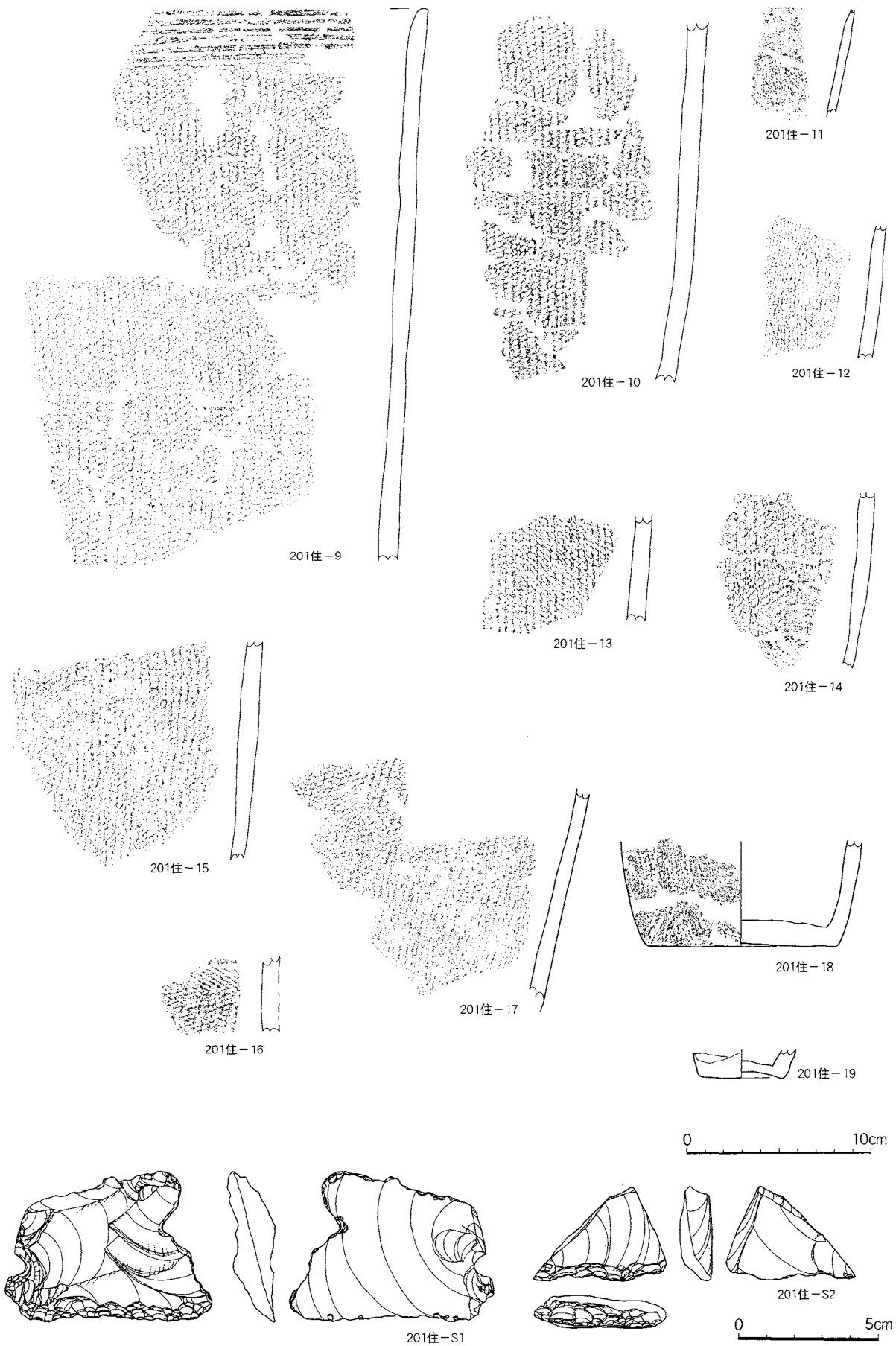


図69 第201号竖穴住居跡 出土遺物（2）

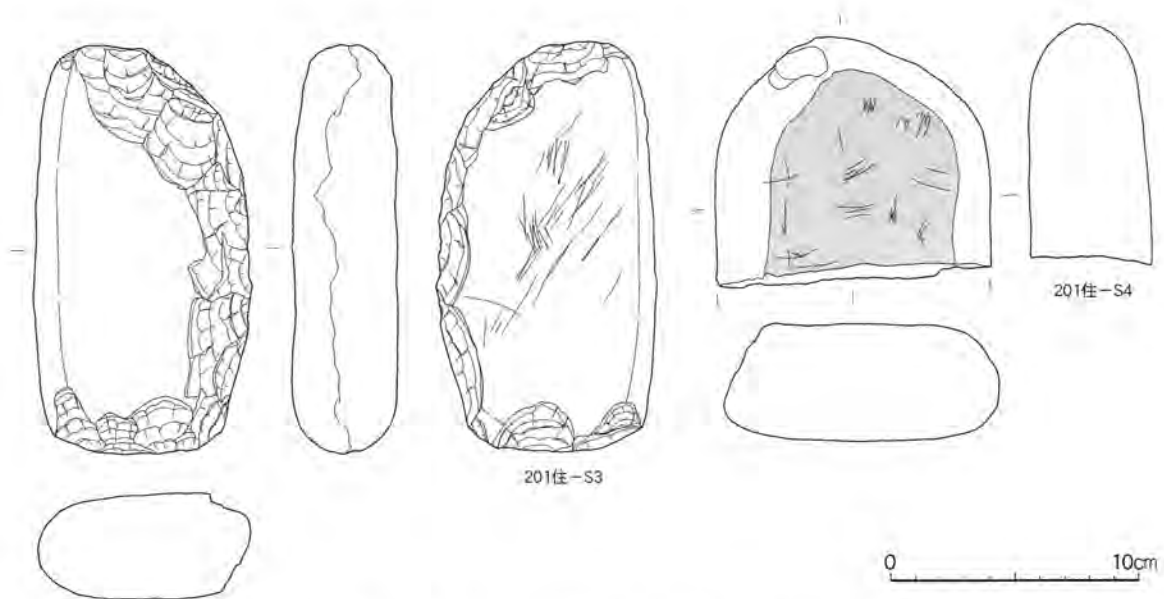


図70 第201号竪穴住居跡 出土遺物（3）

物からして、本住居跡の方が古い。

〔平面形・規模〕 東西長396cm×南北長418cmの隅丸方形である。推定床面積は14㎡である。

〔壁・床面〕 すべての方向で壁の立ち上がりを確認した。壁高は41cm～73cmと比較的高い。全体的に西側の立ち上がりはややなだらかになっており、東側は一部オーバーハングする所がある。

床面はほぼ平坦である。

〔炉〕 住居跡のほぼ中央に不整楕円形を呈し、規模は94cm×86cmの地床炉が確認された。深さは18cm程である。炉内は3層に分層された。第2層は炭化層となっており、この層の下が炉の使用面と思われる。使用面上にはすり石が1点置かれていた。また、炉から10cm程北西側床面上に加熱を受け赤変したと思われる面と炭化物が検出されている。

〔壁溝〕 確認できなかった。

〔ピット〕 住居跡内から2基確認出来た。ピット1の直径が30cm、深さ68cm。ピット2が直径18cm、深さ55cmでピット確認面から25cm掘り下げた所から直径20cmの柱痕が検出している。いずれのピットも柱穴と考えて間違いはない。

〔その他の施設〕 住居の南側から不整楕円形を呈し、長径74cm×短径40cmで壁面に22cm程入り込む施設？を確認した。床面から20cm上に構築されている。壁が崩落した跡とは考えられず、意図的にあけられた穴と考えられる。用途は不明である。

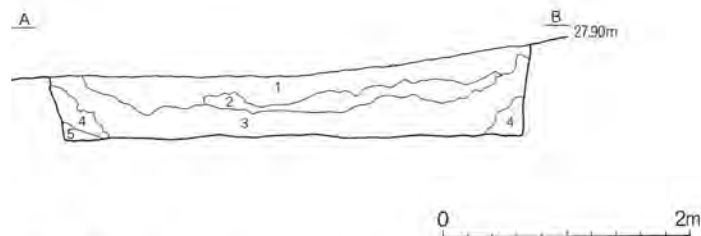
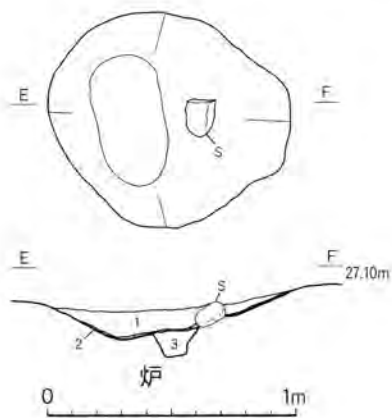
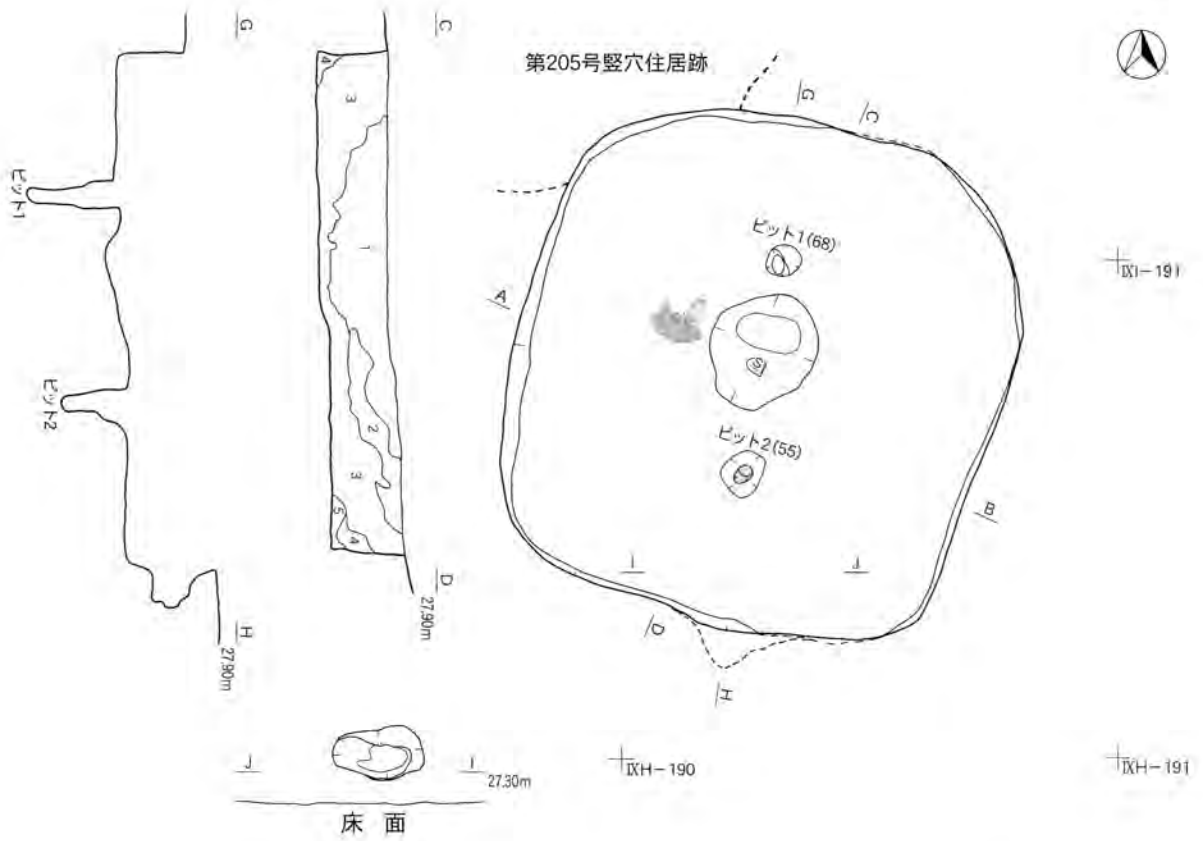
〔堆積土〕 5層に分層された。第3層には地山に似た土が多量に含まれており、人為的堆積と思われる。

〔出土遺物〕 遺物は大部分が第1・2層から出土している。出土土器はすべてが縄文時代前期後～末葉I-2群である。出土石器は縦型石匙、削器、すり石、敲き石、石皿などである。

〔小結〕 出土土器からすると縄文時代前期後～末葉の竪穴住居跡と考えられる。

### 第203号竪穴住居跡（図75）

〔位置・確認〕 IXE・F-190グリットに位置する。褐色土の半円状の落ち込みとして確認した。



第202号竪穴住居跡

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物(径3~8mm)10% ローム(径3mm)1%未満 しまり有 粘性有
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物(径2~5mm)1% しまりやや有 粘性なし
- 第3層 明褐色土 7.5YR5/6 炭化物(径5~7mm)上方に1%未満 しまりなし 粘性有
- 第4層 極暗褐色土 7.5YR2/3 炭化物(径2~3mm)1%以下 しまりなし 粘性有
- 第5層 褐色土 7.5YR4/4 しまりやや有 粘性有

第202号竪穴住居跡内炉

- 第1層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物(径5mm)1%以下
- 第2層 黒(炭) 5YR2/1
- 第3層 濃い黄褐色土 10YR5/4 粘性有 しまりなし

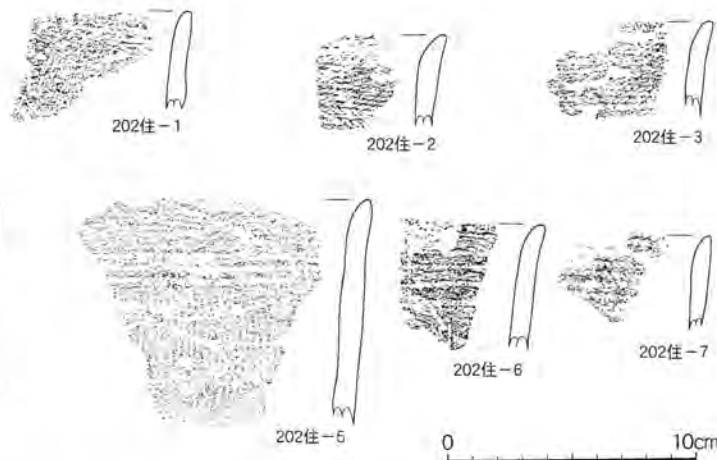


図71 第202号竪穴住居跡、第202号竪穴住居跡 出土遺物(1)

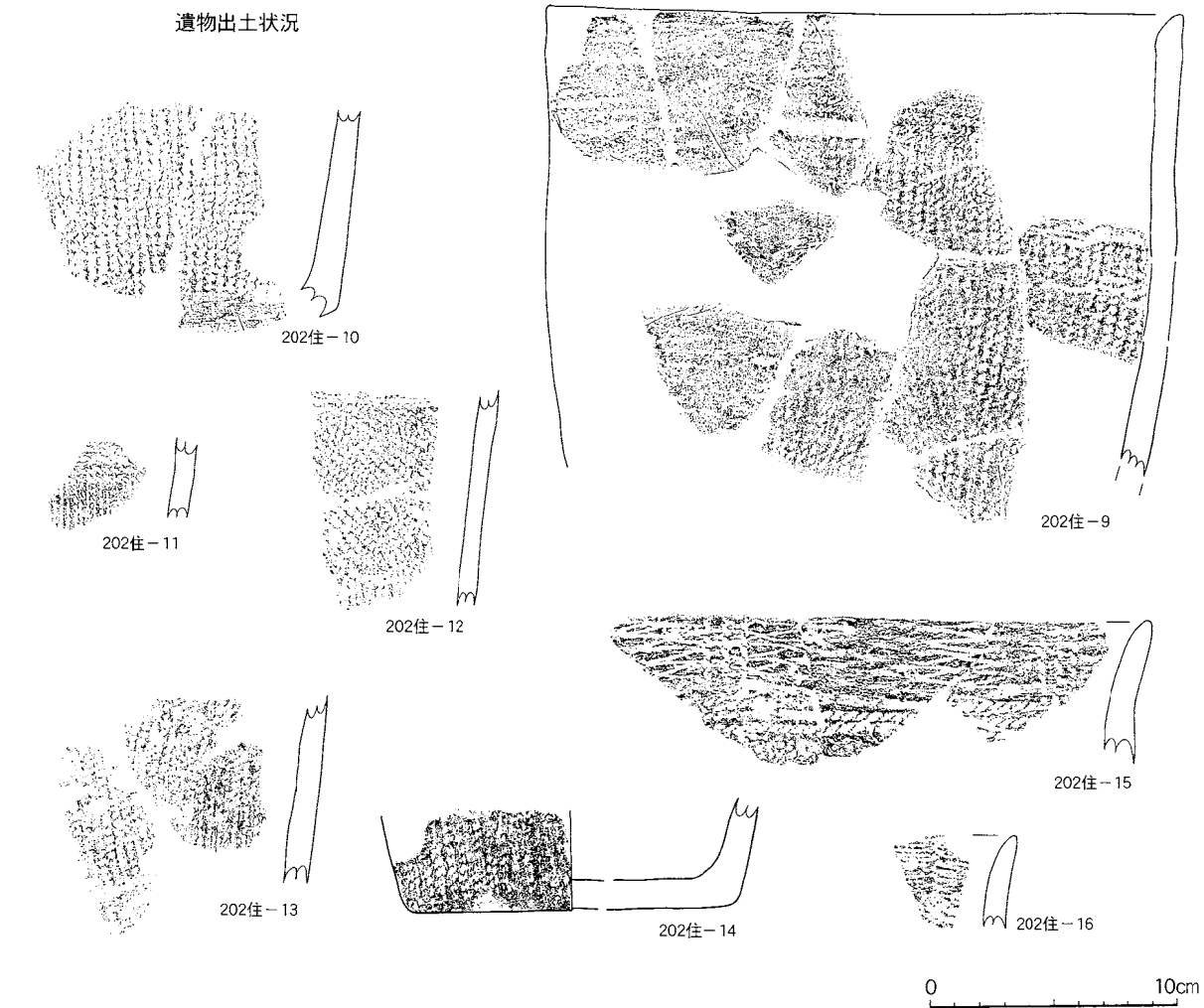
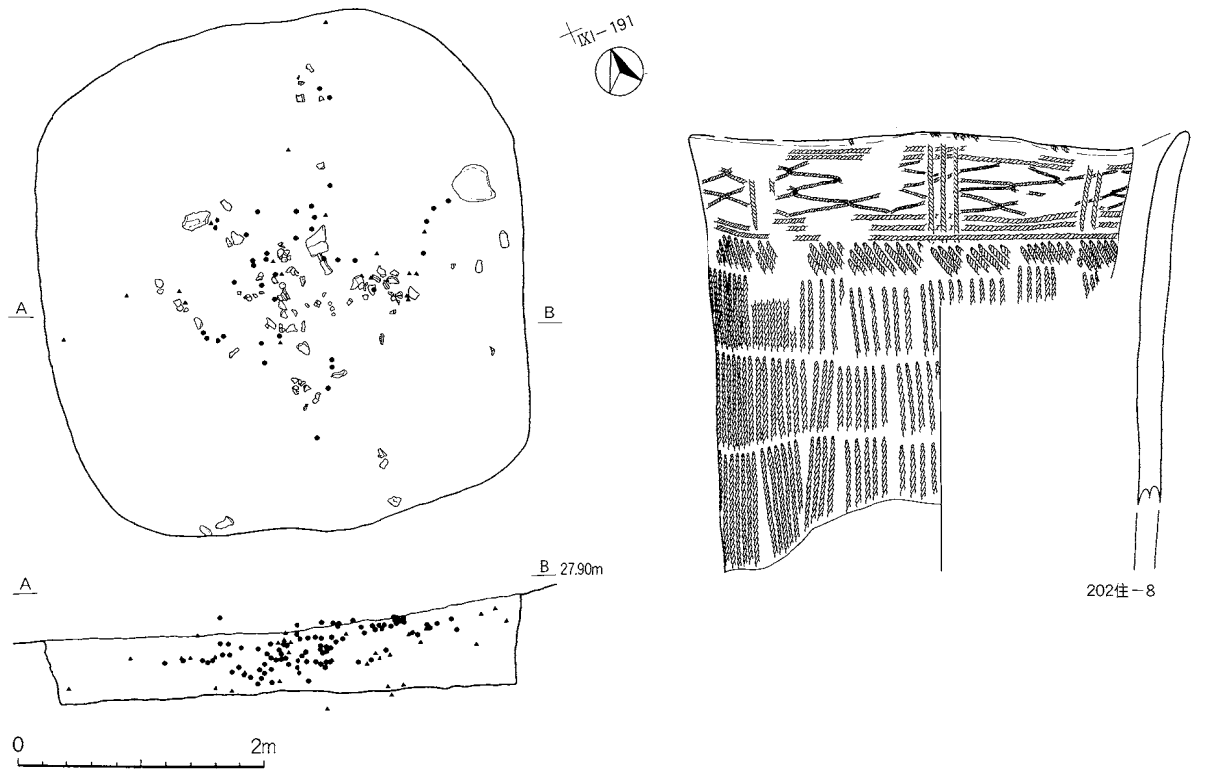


図72 第202号竪穴住居跡 出土遺物(2)

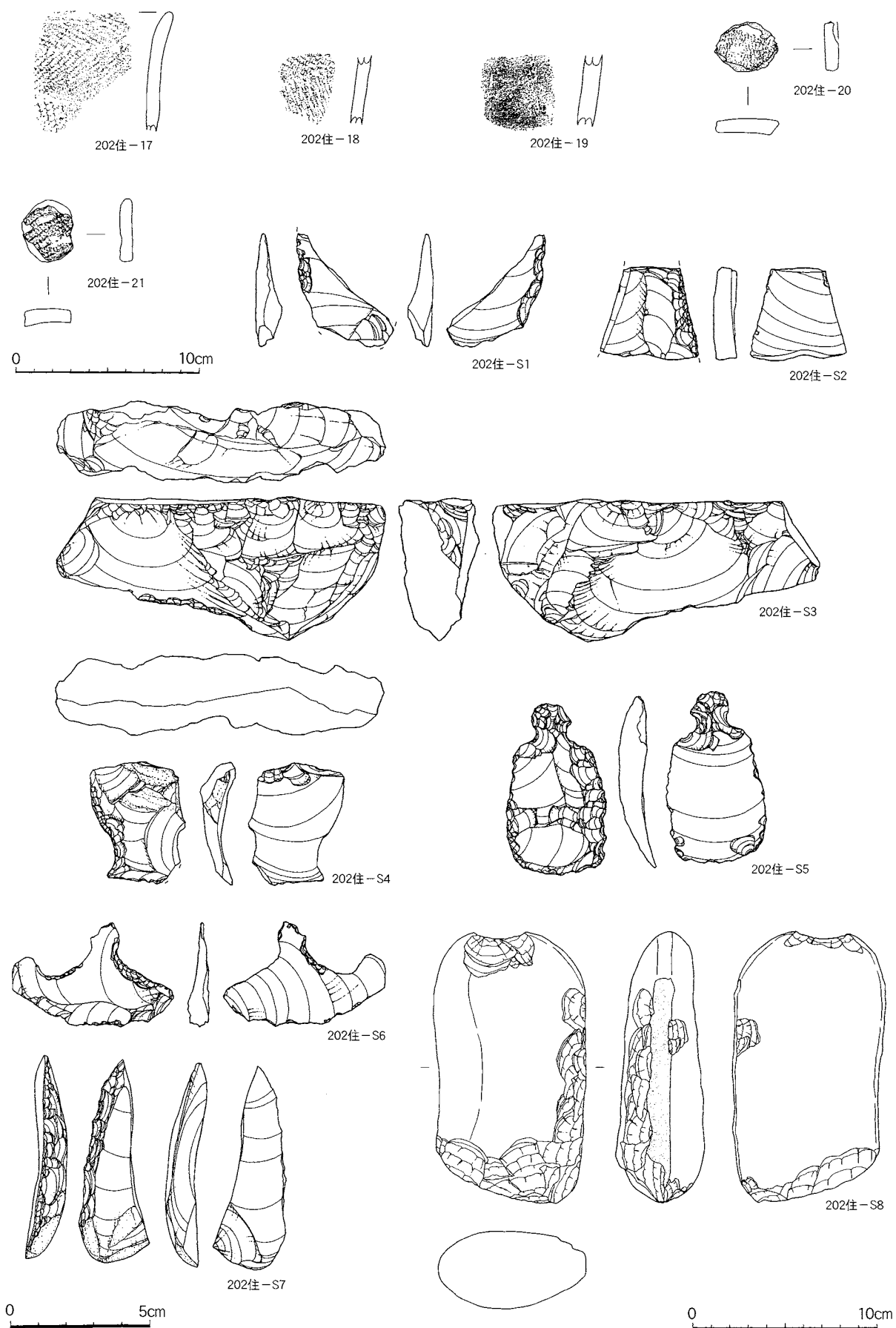


図73 第202号竖穴住居跡 出土遺物 (3)

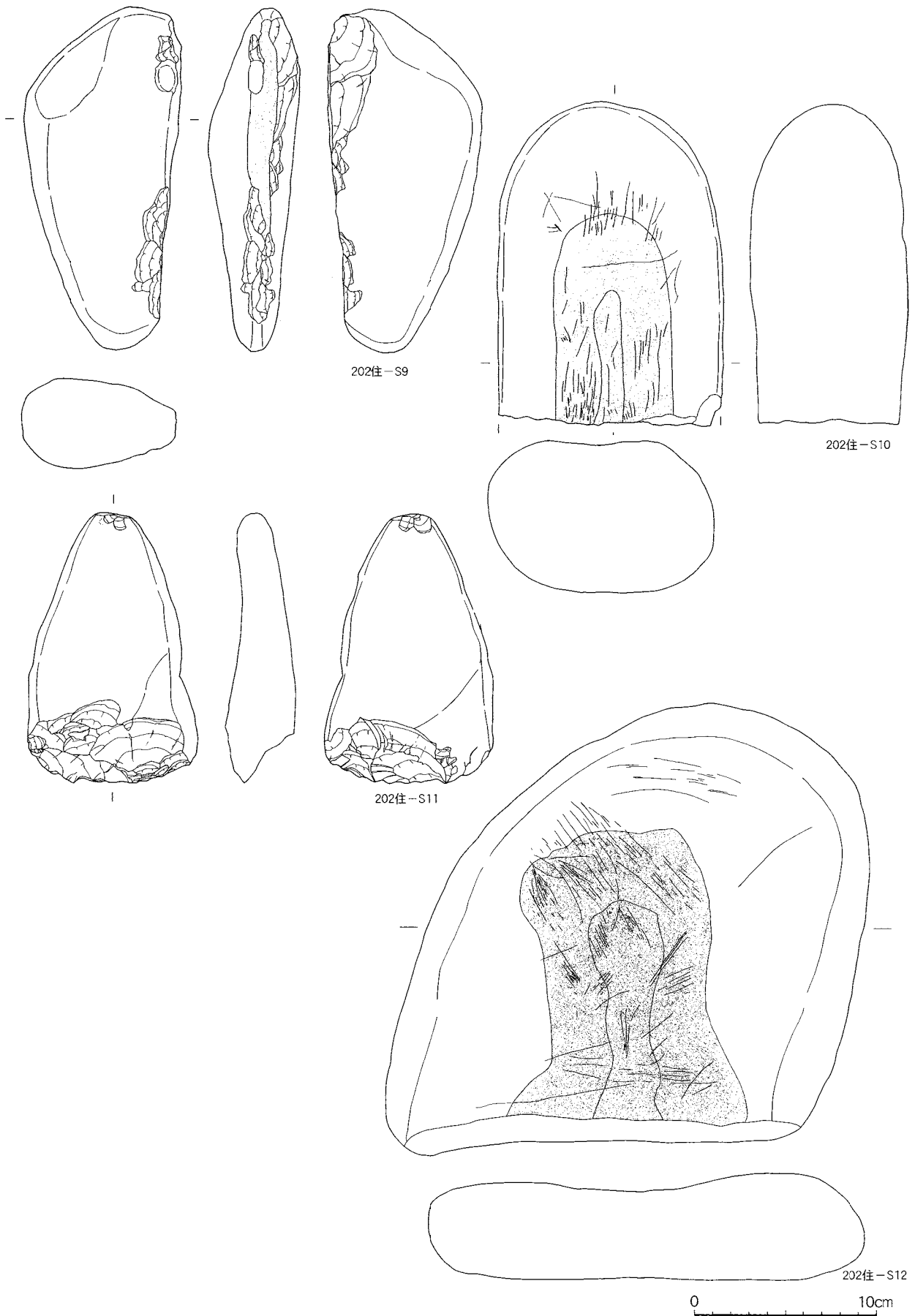
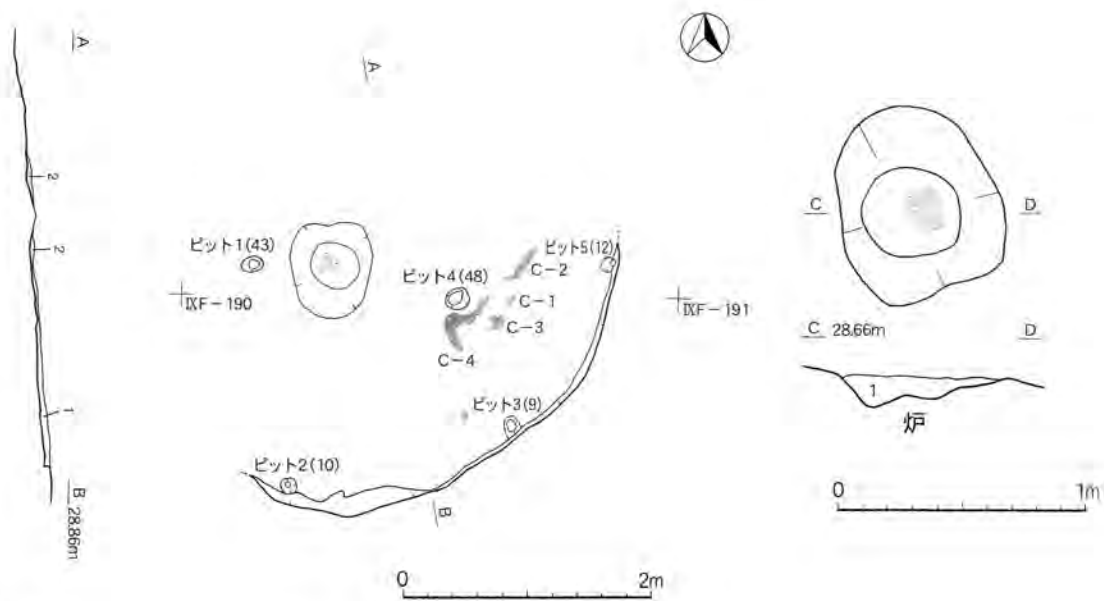


图74 第202号竖穴住居跡 出土遺物（4）





第203号竪穴住居跡

第1層 褐色土 10YR4/4 ロームブロック粒(径2~3mm)多量に含入  
 第2層 黒色土 10YR2/1 攪乱層と思われる \*表土から5cm位下で確認された耕作によりかなり削平されたと思われる

第203号竪穴住居跡内炉

第1層 暗褐色土 10YR3/3 焼土ブロック(径2~3cm)少量 ロームブロック(径1~2mm)多量 炭化粒(径1mm)多量に混入

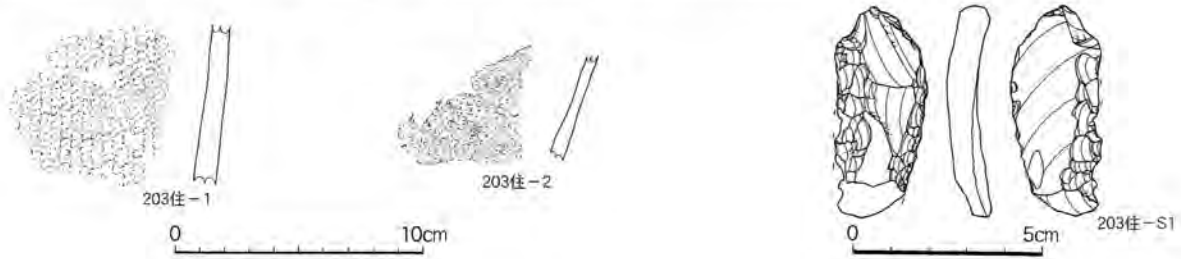


図75 第203号竪穴住居跡、第203号竪穴住居跡 出土遺物

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は、円形に近いプランになると思われる。一帯がかなりの削平を受けていたため、かろうじて壁面の南東側が残っていたにすぎず、正確な東西・南北幅は不明である。

〔壁・床面〕南東側の壁の立ち上がりしか確認出来なかった。壁高は最も残りの良い東側で12cm、他は4cm~8cmである。南側でなだらかな所があるが、他はほぼ垂直に立ち上がる。

床面は削平の影響でかなりの凹凸が見られた。床面の南東側から、炭化物が検出されている。

〔炉〕74cm×64cmの地床炉が確認された。隅丸方形を呈し、深さは、最も深い所で14cm、他は5cm~10cm程である。炉の中心部からは焼土が検出された。地床炉と思われる。

〔壁溝〕確認できなかった。

〔ピット〕住居内からは5基見つかっている。その内の3基が、壁柱穴と思われ、直径は10cm~14cm。深さ5cm~10cm程である。支柱穴は、住居確認状況からすべてを把握するのは困難であるが、残存するものは炉を挟んだ北西~南東側の2基で、直径18cm~20cm。深さ43cm~48cm程である。

〔その他の施設〕確認できなかった。

[堆積土] 2層に分層した。

[出土遺物] 削平の影響のためか、遺物は数点しか出土していない。縄文時代前期と同後期の土器片が混在して出土している。

[小結] 時期決定資料等を欠き、不明な点が多い。

第204号竪穴住居跡 (図76)

[位置・確認] IX F・G-192・193グリットに位置する。暗褐色土の楕円形プランとして確認した。

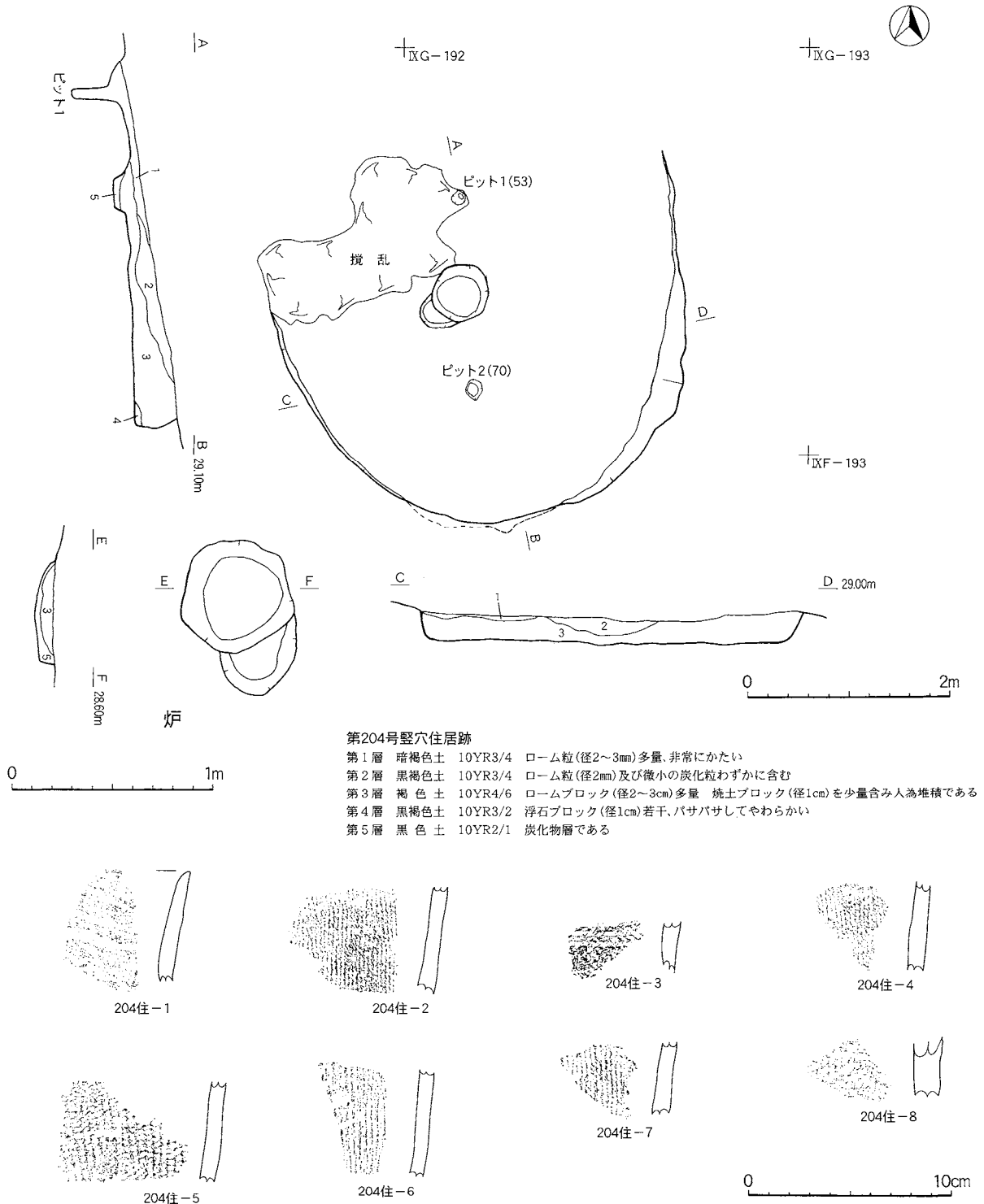


図76 第204号竪穴住居跡、第204号竪穴住居跡 出土遺物

〔重複〕 重複はないが、住居跡の北西部分に耕作によるものと思われる攪乱がみられる。

〔平面形・規模〕 削平のため、北側の壁が確認出来なかったが、残存部から推定して、楕円形になると思われる。東西幅は410cm、南北幅は削平の影響から不明である。

〔壁・床面〕 北側を除いて、壁の立ち上がりを確認した。壁高は南東側で40cm、他は4cm～46cmである。壁の立ち上がりは北東側がなだらかであり、南側はオーバーハングしている。他はすべてほぼ垂直である。

床面は、ほぼ平坦である。

〔炉〕 住居跡のやや西寄りに58cm×51cmの地床炉が確認された。ほぼ円形を呈し、深さ18cm程である。2層に分層でき、焼土があまり堆積せず、第5層は炭化物層である。また、炉の南西側に隣接して、40cm×18cmの掘り込みがある。炉との関係については不明である。

〔壁溝〕 確認できなかった。

〔ピット〕 住居跡内から2基見つかっている。ピット1が直径14cm、深さ53cm。ピット2の直径が21cm、深さ70cmである。ピット1に関しては、攪乱された床面から検出されたため、往時の姿は知り得ないが、本来はピット1・2とも、同じ位の規模を有していた可能性があり、支柱穴と考えられる。どちらのピットも炉を挟んで約60cm離れてあり、規則性を窺わせる。

〔その他の施設〕 確認できなかった。

〔堆積土〕 4層に分層した。第1・2層は、削平による影響を受けているのか、もしくは住居本来の堆積土なのかは判断しにくい。第3層は、ロームブロック・焼土の混入状況から人為的堆積と考えられる。4層は、本来住居の壁を形成していたものが、崩落したものと思われる。

〔出土遺物〕 縄文時代前期後～末葉I～2群土器破片が出土している。いずれも覆土からの出土である。

〔小結〕 遺存状態が良くないため、不明な点が多いが、覆土からの出土土器からすれば縄文時代前期後～末葉の住居跡の可能性が強い。

### 第205号竪穴住居跡（図77・78）

〔位置・確認〕 IX I・J-189・190グリッド位置する。暗褐色土の円形プランとして確認した。

〔重複〕 第202号住居跡、第206号住居跡、第718号土坑と重複している。第202号住居跡及び第206号住居跡よりも新しいが、第718号土坑との新旧関係は不明である。

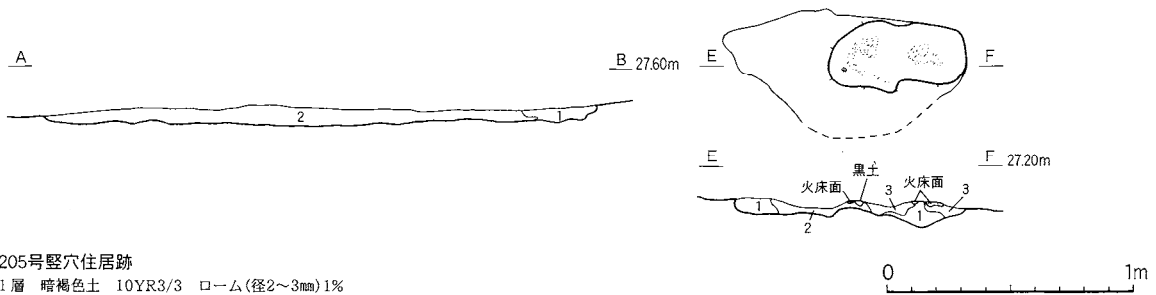
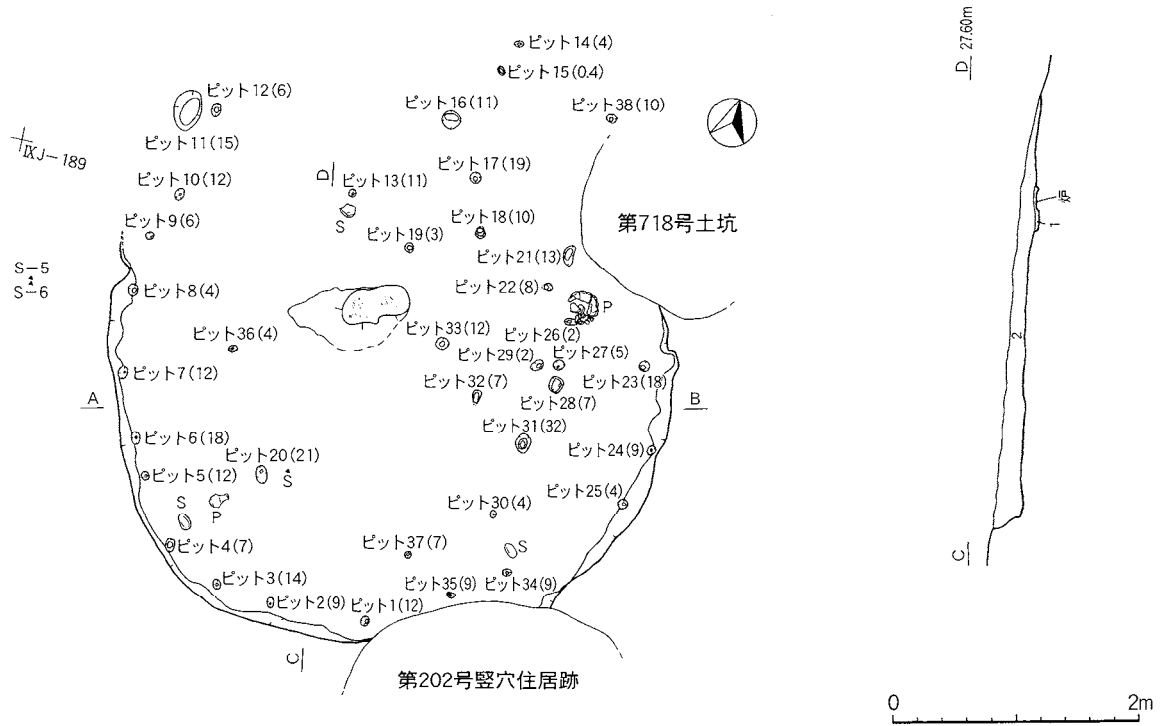
〔平面形・規模〕 削平を受けているため、住居北側の壁が確認出来なかったが、円形になると思われる。東西長径は446cmである。

〔壁・床面〕 東西方向で壁の立ち上がりを確認した。壁高は最も残りの良い南東側で25cm、他は4cm～23cmである。壁はややなだらかに立ち上がる。

床面はやや凹凸があり、比較的柔らかい。

〔炉〕 住居中央からやや北側にあり、不整楕円形で98cm×48cm程の地床炉が確認された。深さは3cm～11cmほどで底面に凹凸が見られる。炉内は3層に分層された。火床面と炭化物の分布から見て、炉の使用面は床面とほとんど高低差がない。

〔壁溝〕 確認できなかった。

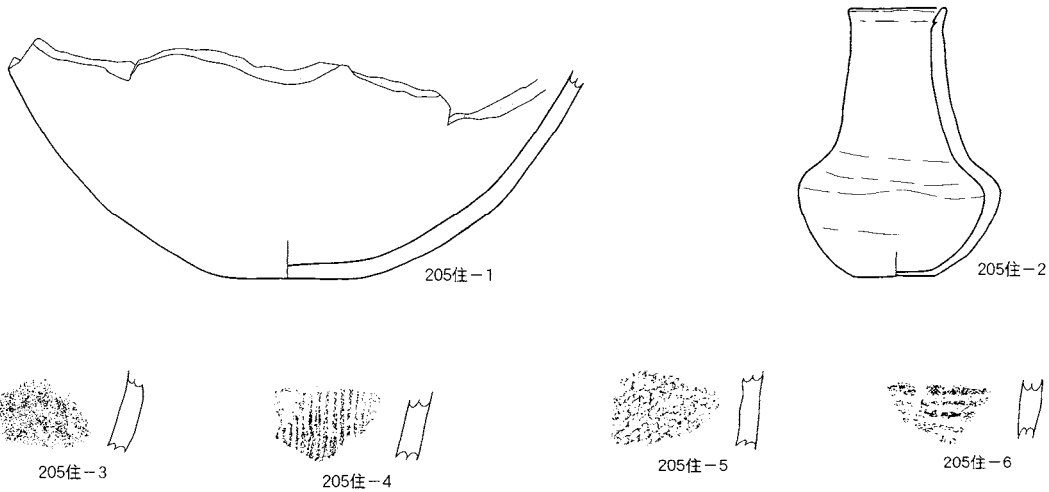


第205号竪穴住居跡

第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム(径2~3mm) 1%  
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 暗褐色土 10YR3/4 1%

第205号竪穴住居内炉

第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物(径2~5mm) 3% しまりやや有 粘性なし  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物(径1~2mm) 1% ローム(径1~2mm) 1% しまり有 粘性有  
 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム(径1mm) 3% 黒色土 10YR2/2 炭化物(径1mm) 1% 火床面 暗褐色土 7.5YR3/3



0 10cm

図77 第205号竪穴住居跡、第205号竪穴住居跡 出土遺物 (1)

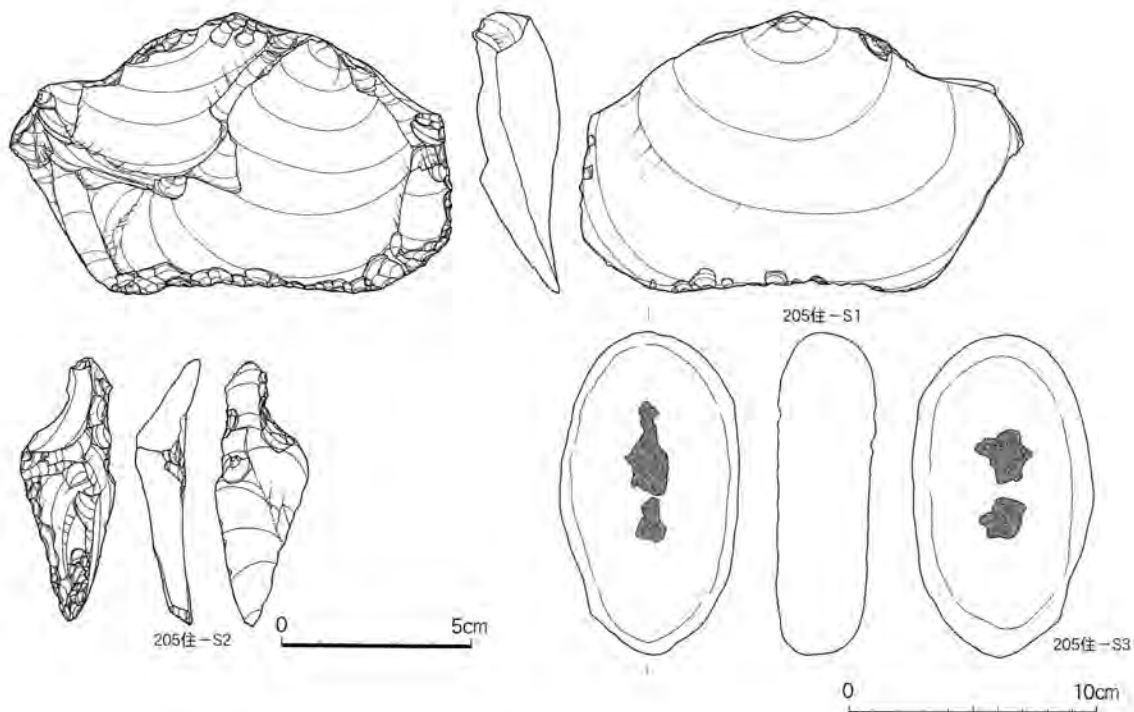


図78 第205号竪穴住居跡、第205号竪穴住居跡 出土遺物（2）

〔ピット〕 38基確認出来た。直径6cm～34cm、深さ1cm～32cmである。位置関係から見れば、ピット1、2、3、4、5、6、7、8、9、10、17、21、23、24、25が壁柱穴と思われ、壁柱穴間の間隔は22cm～100cm程であった。

〔その他の施設〕 確認できなかった。

〔堆積土〕 2層に分層された。堆積状況から見て、自然堆積であると思われる。

〔出土遺物〕 床面上から縄文時代後期後葉Ⅲ-3群小型壺の完形品や無文鉢の底部から胴部にかけての土器などが出土している。石器は第2層から縦型石匙や敲き石などが出土している。

〔小結〕 床面からの出土土器などからして、縄文時代後期後葉の住居跡と考えられる。

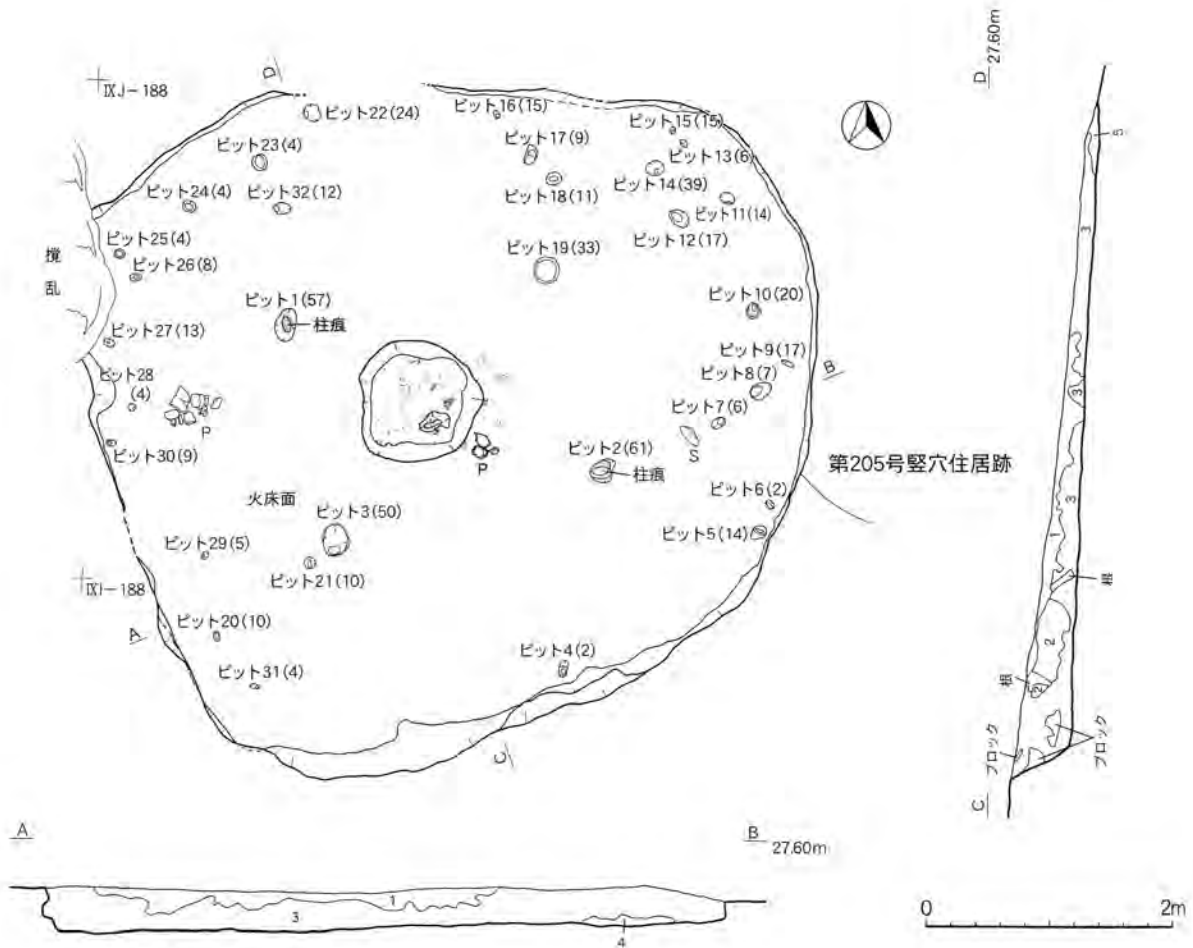
#### 第206号竪穴住居跡（図79・80）

〔位置・確認〕 IXH・I-188・189グリッドに位置する。第205号住居跡と共に、暗褐色土の不整形に近いプランとして確認した。

〔重複〕 第205号住居跡と重複関係にある。第205号住居跡に北東壁上部を部分的に壊されているが、掘り込みが第205号住居跡より深かったため、壁下部は残っていた。北西部分を攪乱で破壊されていた。

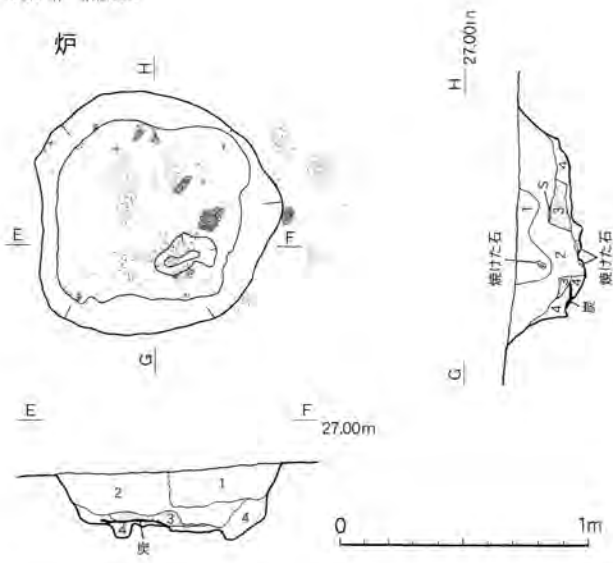
〔平面形・規模〕 北壁一部の残り具合が良くないため不明な部分があったり、西壁一部が後世の攪乱で壊されていたりと、全体を知り得ない。残存部分から推定すると、平面形は不整形に近い、規模は長径585cm、短径505cmである。推定床面積は9.2㎡である。

〔壁・床面〕 一部を除いてほぼ全周で壁の立ち上がりを確認できた。壁高は北壁で5cm～10cm、東壁で14cm～36cm、南壁で31cm～48cm、西壁で16cm～26cmである。南壁がやや緩やかに立ち上がる他



第206号竪穴住居跡

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物(径2mm)2~3個 浮石(径1~5mm)1% しまりやや有 粘性なし
- 第2層 褐色土 10YR4/4 10YR8/6黄褐色なサクサクしたブロック(径3~50mm)3% 10YR1.7/1 黒色土1% しまり有 粘性なし
- 第3層 褐色土 10YR4/4 10YR6/6 明黄褐色な固いブロック混入 2.5YR5/8 赤色の粘土(30×40mm)1個 10YR5/6 黄褐色の粘土(25×25mm)1個 浮石(径2~3mm)1% しまり有 粘性なし
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4 しまり有 粘性なし
- 第5層 黄褐色土 10YR5/6 しまり有 粘性なし



第206号竪穴住居跡内炉

- 第1層 褐色土 10YR4/4 炭化物(径3~4mm)1% 焼土ブロック(径3~20mm)1% 粘土1% しまり有 粘性有
- 第2層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 10YR3/1 黒褐色土少量混入 炭化物(径2~4mm)1%未満 ローム粒(径2mm)1% 焼土(径2~3mm)1%未満 しまりやや有 粘性有
- 第3層 明赤褐色土 2.5YR5/8 (焼けたところ) 堅い
- 第4層 褐色土 10YR4/6 炭化物(径3~4mm)1%以下 ローム(径2~3mm)3% しまりなし 粘性有

図79 第206号竪穴住居跡

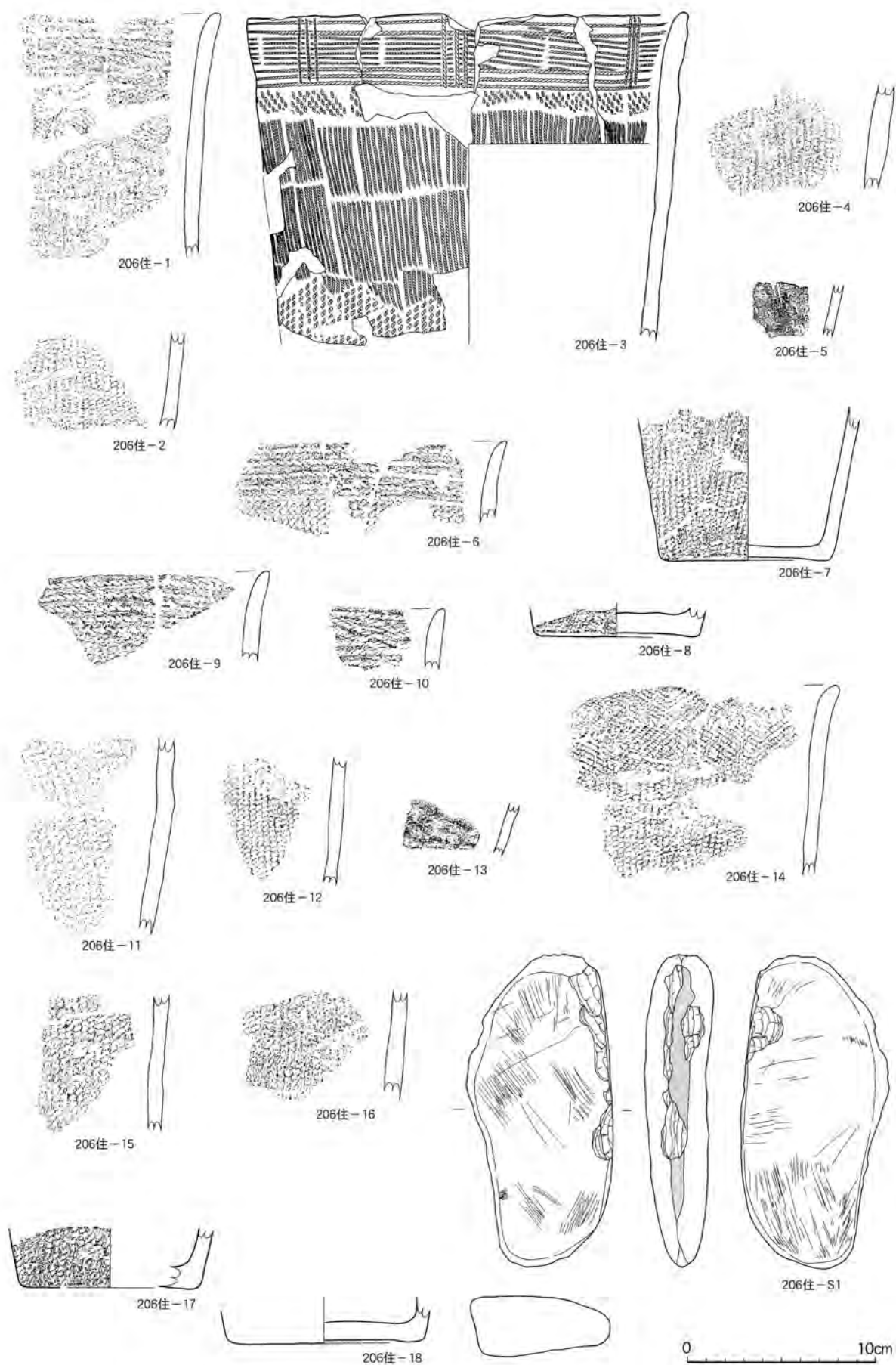


図80 第206号竪穴住居跡 出土遺物

は、垂直に立ち上がる。

床面はほぼ平坦である。

〔炉〕住居のほぼ中央にあり、隅丸方形に近い地床炉である。長径98cm、短径97cm、深さは20cmである。底面近くには焼土と炭がブロック状に点在している。この部分が使用面と思われる。炉の東側床面上にも焼土と炭は広がっている。

〔壁溝〕確認できなかった。

〔ピット〕床面上で確認できたピットは全部で31個である。この内、柱痕を確認できたのがピット1とピット2の2個である。位置や規模などから、これら2個と対になるのがピット3とピット19であり、この4個のピットが炉を四角に取り囲む形で支柱穴になるものと考えられる。その他の壁際に位置するピットは所謂、壁柱穴と思われる。

〔その他の施設〕確認できなかった。

〔堆積土〕5層に分層できた。第5層が黄褐色土である以外は、褐色系の土である。壁近くには明黄褐色土のブロックが検出されているが、壁の崩落土と考えられる。

〔出土遺物〕堆積土中からの出土土器は、縄文時代前期後～末葉Ⅰ－Ⅱ群土器破片が大部分である。わずかに縄文時代後期後葉Ⅲ－Ⅲ群と思われる土器の小破片が同じ堆積土中から出土している。床面上からは、すり石が1点出土している。

〔小結〕堆積土から2点の縄文時代後期後葉Ⅲ－Ⅲ群土器の解釈に迷うのであるが、大多数を占める縄文時代前期後～末葉の土器や本遺跡で検出されている縄文時代前期住居跡との類似などから、縄文時代前期の住居跡の可能性が強い。

#### 第207号竪穴住居跡（図81）

〔位置・確認〕IXG・H-186・187グリットに位置する。暗褐色土の落ち込みを確認した。

〔重複〕重複はないが、住居跡の北側に攪乱が見られる。

〔平面形・規模〕削平と攪乱のため、東～南壁しか確認出来なかった。平面形・規模ともに不明である。

〔壁・床面〕北側～西側にかけての壁を除いて確認した。壁高は最も残りの良い南東側で20cm、他は1cm～18cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

床面は、ほぼ平坦である。

〔炉〕92cm×77cmの地床炉が確認された。楕円形を呈し、深さ25cm程である。炉の北縁には、15cm×10cmほどの石が1個置かれていた。堆積土は3層に分層でき、炉内のすべての層から炭化粒が検出されたが、特に第3層からは多量に検出された。焼土はあまり検出されていない。

〔壁溝〕確認できなかった。

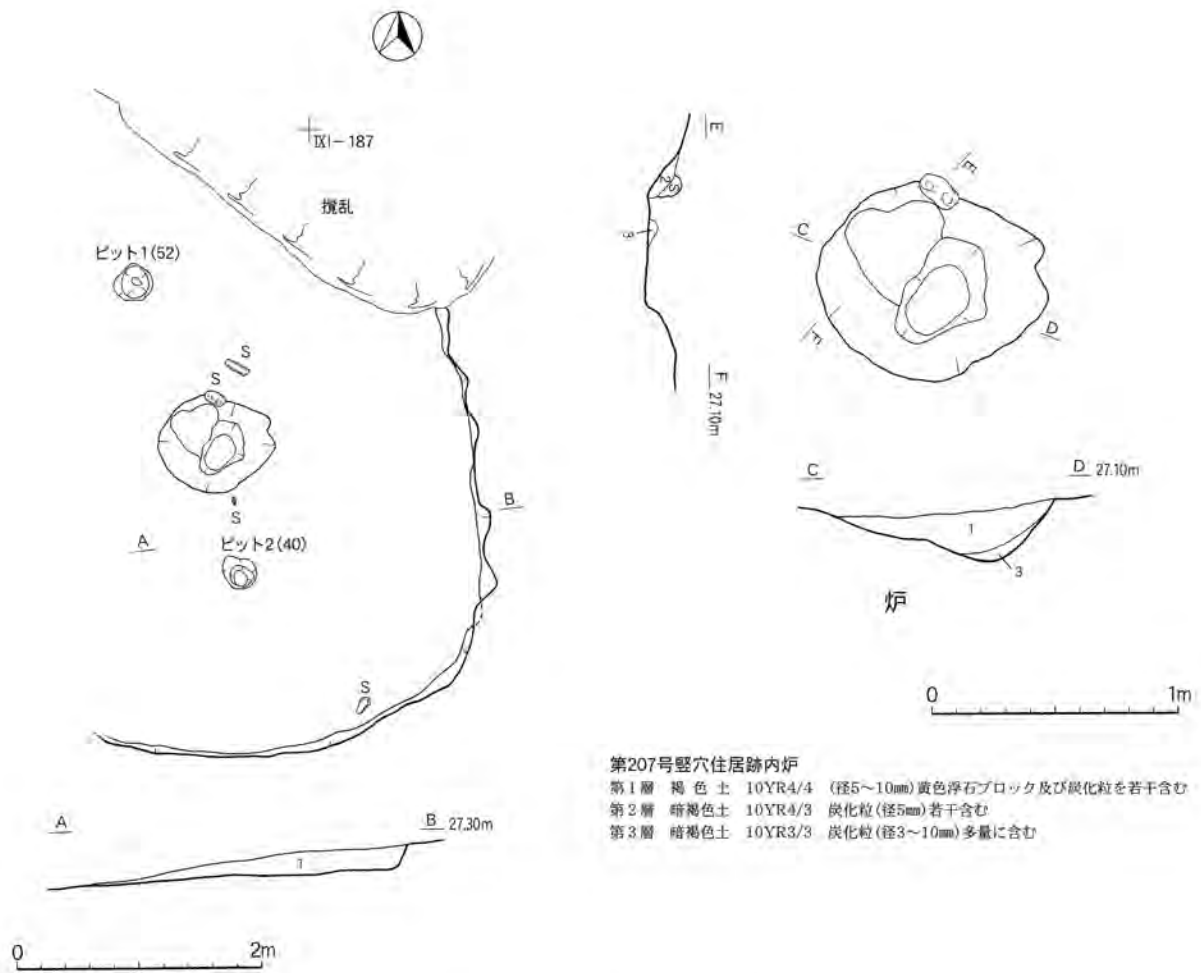
〔ピット〕住居内から2基見つかっている。ピット1が直径32cm、深さ52cmである。ピット2が直径26cm、深さ40cmである。炉を挟んで存在し、支柱穴と思われる。壁柱穴は確認できなかった。

〔その他の施設〕確認できなかった。

〔堆積土〕1層に分層した。ロームの混入具合から人為的堆積の可能性が考えられる。

〔出土遺物〕堆積土中から縄文時代前期後～末葉Ⅰ－Ⅱ群土器の小破片が数点とすり石が1点出土し





第207号竪穴住居跡内炉

- 第1層 褐色土 10YR4/4 (径5~10mm)黄色浮石ブロック及び炭化粒を若干含む
- 第2層 暗褐色土 10YR4/3 炭化粒(径5mm)若干含む
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 炭化粒(径3~10mm)多量に含む

第207号竪穴住居跡

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 黄色浮石ロームブロック(径5~10mm)及びピンクブロック多量 炭化粒微量に含む

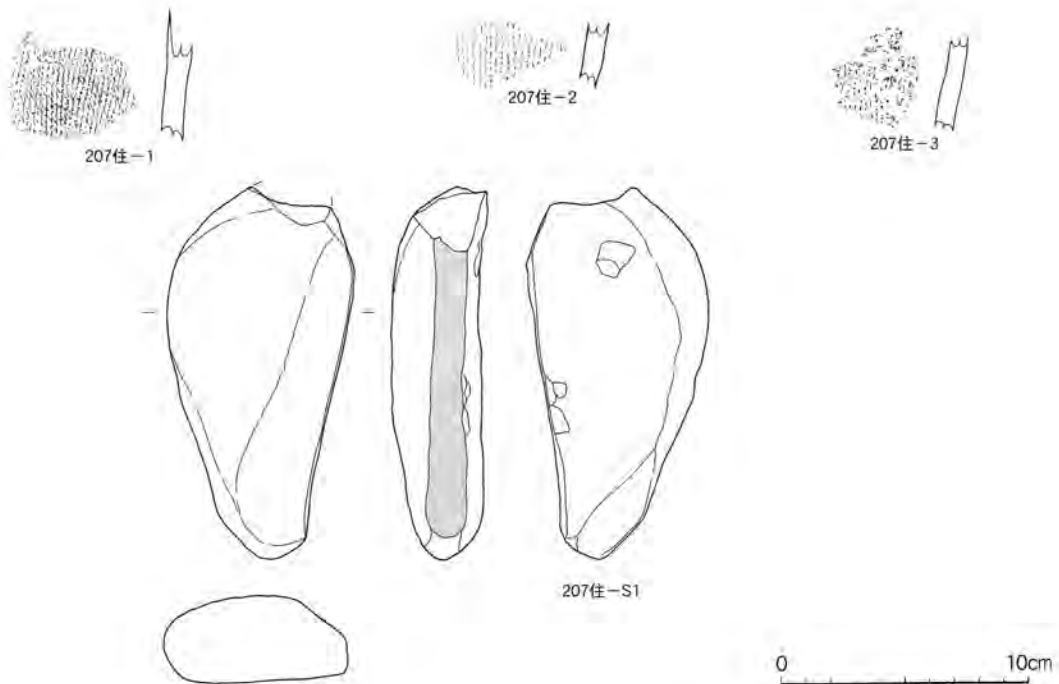


図81 第207号竪穴住居跡、第207号竪穴住居跡 出土遺物

ている。

〔小結〕 削平や攪乱によって不明な点が多いが、出土遺物から恐らく縄文時代後期後葉～末葉の住居跡と考えられる。

#### 第208号竪穴住居跡（図82・83）

〔位置・確認〕 IX C・D-186・187グリットに位置する。黒褐色土の半円形プランを確認した。削平のため、西側のプランは確認できなかった。住居床面から削平の際使用されたとされる重機のキヤタピラー跡が確認されたため、住居の全体にわたって、かなり攪乱されているものと思われる。また、住居内東側に平成8年に行われた試掘調査の試掘坑跡がある。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 住居西側の壁、床面の一部が削平によって確認できなかった。そのため、平面形・規模等は不明である。なお、残存する部分では、南北長径6.7mである。

〔壁・床面〕 削平のため西～南壁が確認できなかった。壁高は、最も残りの良い南東側で約15cm、他は8cm～12cmである。東側で一部なだらかな所があるが、他はすべて垂直に立ち上がる。

床面は、やや凹凸がある。

〔炉〕 住居のほぼ中央と思われる所に140cm×100cmの地床炉が確認された。楕円形を呈し、深さは10cm程である。焼土は、最も厚い所で10cm堆積していたが、赤みは比較的薄い。中央部にいくにしたがって厚さが増している。その炉の中央に34cm×32cm、深さ5cm程のくぼみが見られた。

〔壁溝〕 確認できなかった。

〔ピット〕 全部で14基が確認されている。ピットの直径は12cm～48cm、深さは3cm～29cmである。柱痕を確認できたものはない。

〔その他の施設〕 なし。

〔堆積土〕 4層に分層された。第1層には多量のローム粒と少量の焼土粒が含まれ、人為的な様相が強い。

〔出土遺物〕 床面を覆っている第4層から縄文時代後期後葉Ⅲ-3群土器が少数出土している。石器は削器やすり石が数点出土している。

〔小結〕 削平のため不明な点が多いが、出土土器から縄文時代後期後葉の住居跡と考えられる。

#### 第209号竪穴住居跡（図84・85）

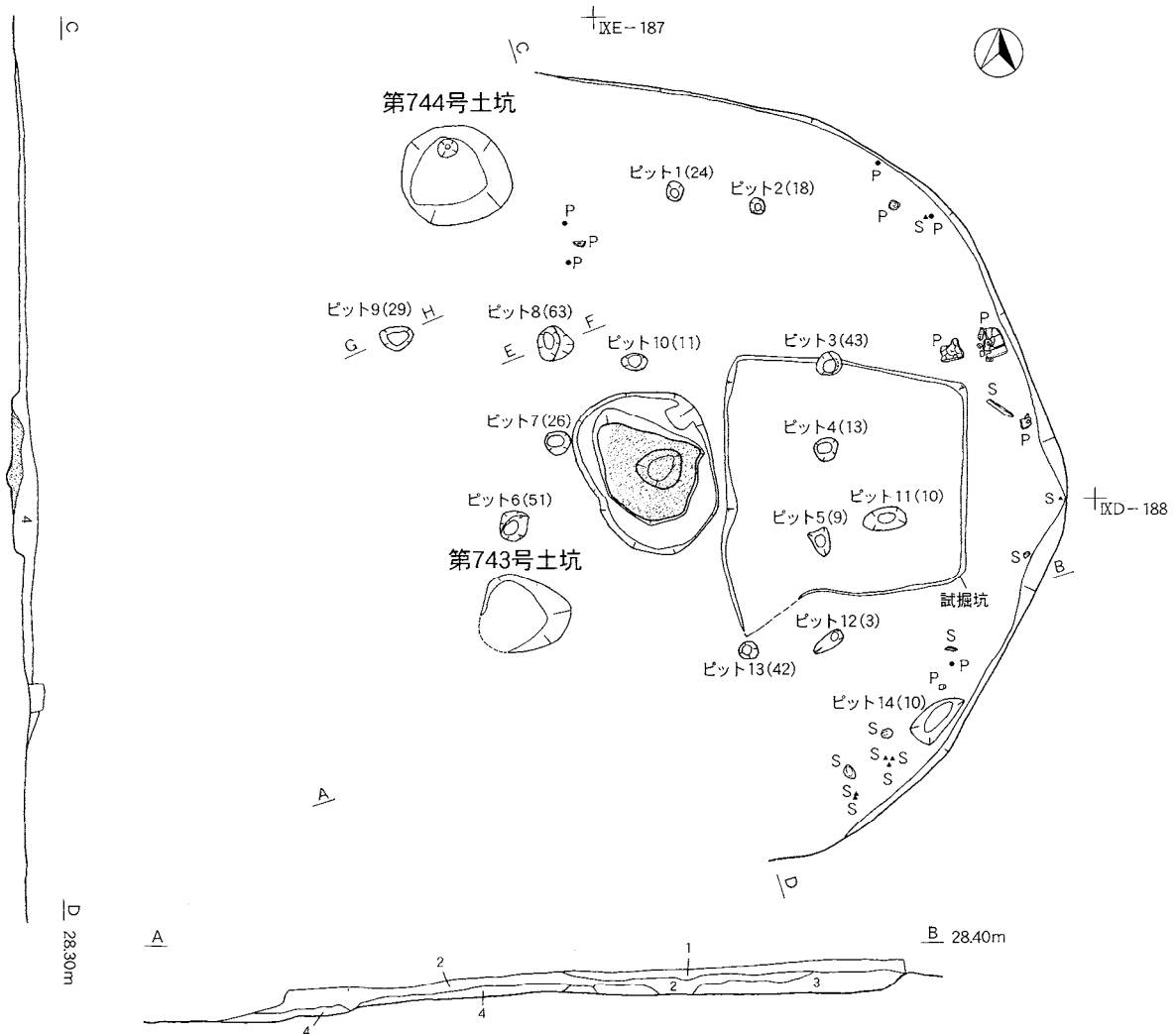
〔位置・確認〕 IX A-189・190、VIII T・S-189・190グリットに位置する。楕円形の褐色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 削平を受けているため、西側の大部分の壁が確認出来なかったが、残存部から推定して、楕円形になると思われる。南北長径は640cm、東西長径は不明である。

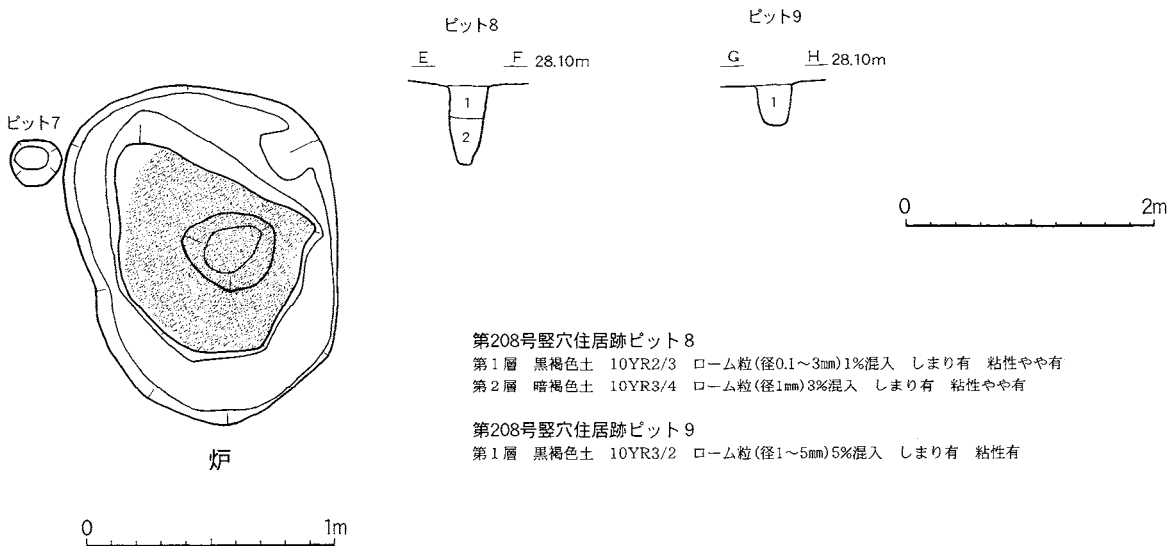
〔壁・床面〕 西側以外で壁の立ち上がりを確認した。壁高は最も残りの良い西側で50cm、他は1cm～47cmである。東～南東にかけてはややなだらかで、他はほぼ垂直に立ち上がる。

遺存状態が良い北・東南側の床面は、ほぼ平坦である。西側床面の一部にはキヤタピラー状の凹凸が



第208号竪穴住居跡

- 第1層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒(径1mm)30%混入 焼土粒(径1mm)1%未満 しまり有 粘性なし
- 第2層 黒褐色土 10YR3/2 ロームブロック(径1~80mm)20%混入 炭化物粒(径1mm)1%未満 しまり有 粘性やや有
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~5mm)3%混入 しまり有 粘性有
- 第4層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~5mm)10%混入 炭化物粒(径1mm)1%混入 焼土粒(径1mm)1%未満 しまり有 粘性有



第208号竪穴住居跡ピット8

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径0.1~3mm)1%混入 しまり有 粘性やや有
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1mm)3%混入 しまり有 粘性やや有

第208号竪穴住居跡ピット9

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~5mm)5%混入 しまり有 粘性有

図82 第208号竪穴住居跡

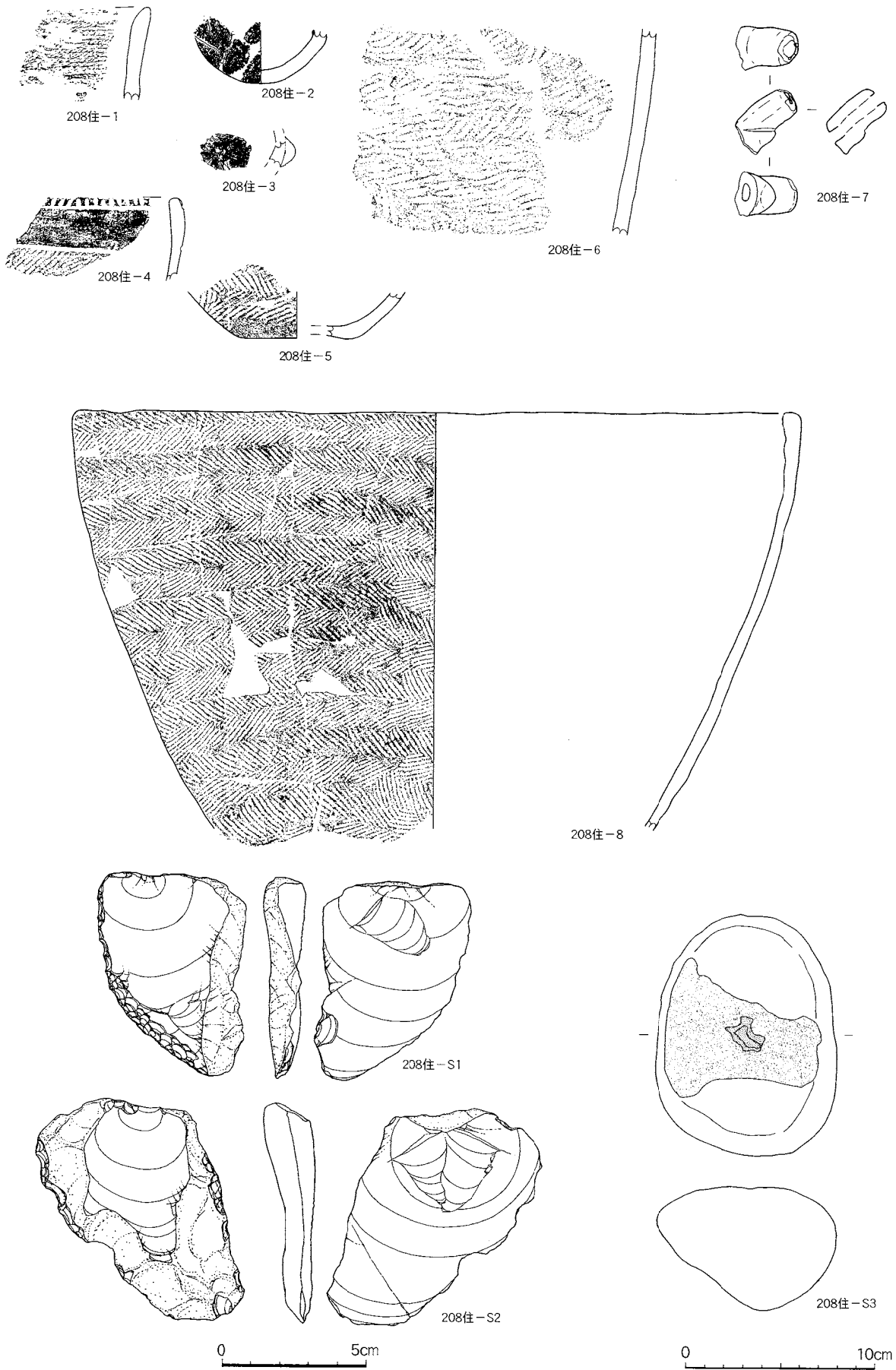
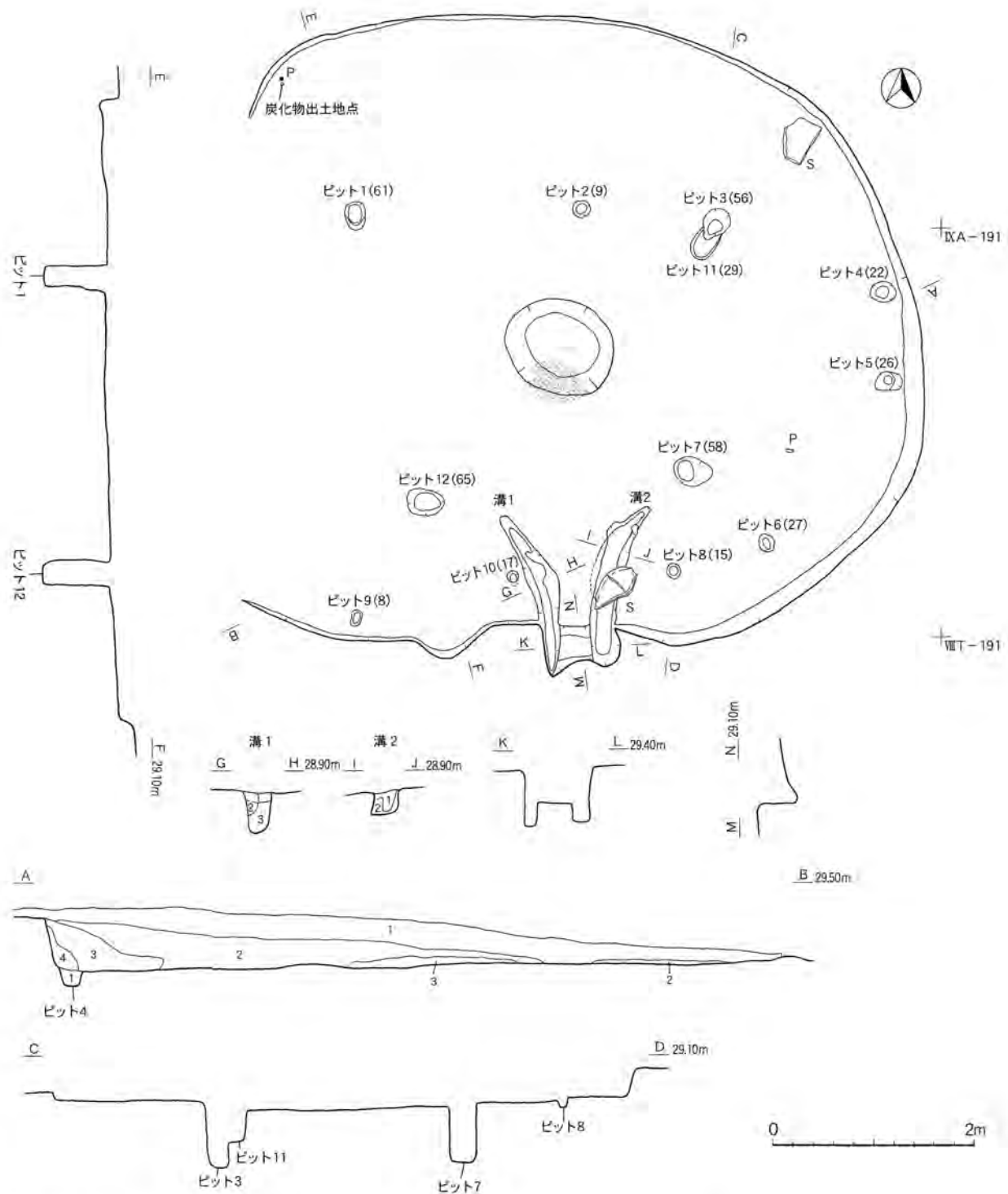


図83 第208号竪穴住居跡 出土遺物



第209号竪穴住居跡

- 第1層 褐色土 10YR4/4 ロームブロック(径1mm~12cm)20%混入 炭化物粒(径2mm)1%未満 しまり有 粘性なし 草根多数有
- 第2層 黒色土 10YR2/1 ロームブロック(径1mm~8cm)10%混入 炭化物粒(径1~3mm)1%未満 しまり有 粘性やや有
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 ロームブロック(径1mm~5cm)3%混入 しまり有 粘性有
- 第4層 黒褐色土 10YR3/1 ピンクロームブロック(径5cm)1%混入 ローム粒(径1~3mm)1%混入 しまり有 粘性有

第209号竪穴住居跡ピット4

- 第1層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ピンクローム粒(径1~2mm)20%混入

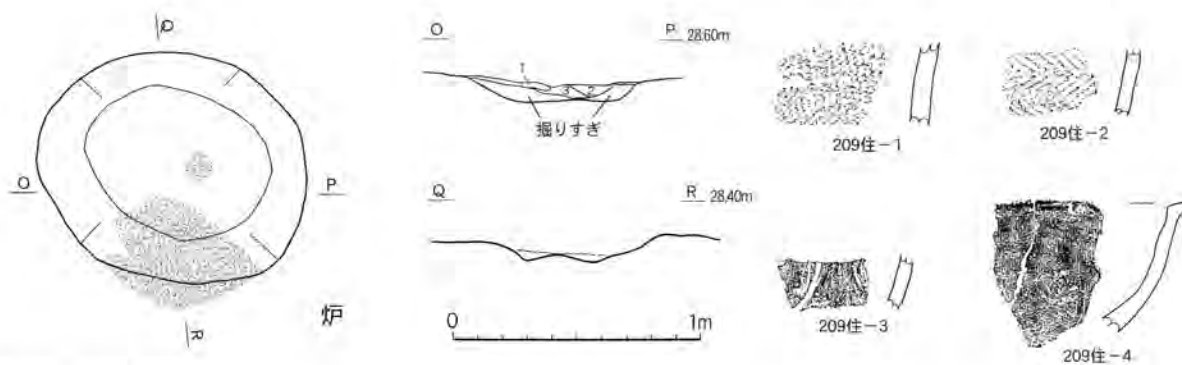
溝1

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ピンクローム粒(径1~5mm)3%混入 しまり有 粘性やや有
- 第2層 褐色土 10YR4/4 ピンクロームブロック(径7cm)30%混入 しまり有 粘性有
- 第3層 にぶい黄褐色土 10YR6/4 ピンクローム粒(径1~3mm)3%混入 しまり有 粘性やや有

溝2

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~2mm)2%混入 しまり有 粘性やや有
- 第2層 褐色土 10YR4/4 ピンクロームブロック(径1mm~5cm)40%混入

図84 第209号竪穴住居跡(1)



第209号竪穴住居跡内炉

第1層 暗褐色土 10YR3/4 焼土(径1mm)40%混入 しまり有 粘性有  
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒(径10mm)1%未滴 ローム粒(径1~3mm)5%混入 しまり有 粘性有  
 第3層 にぶい黄褐色土 10YR6/4 焼土(径1mm)20%混入 炭化物粒(径1~3mm)3%混入

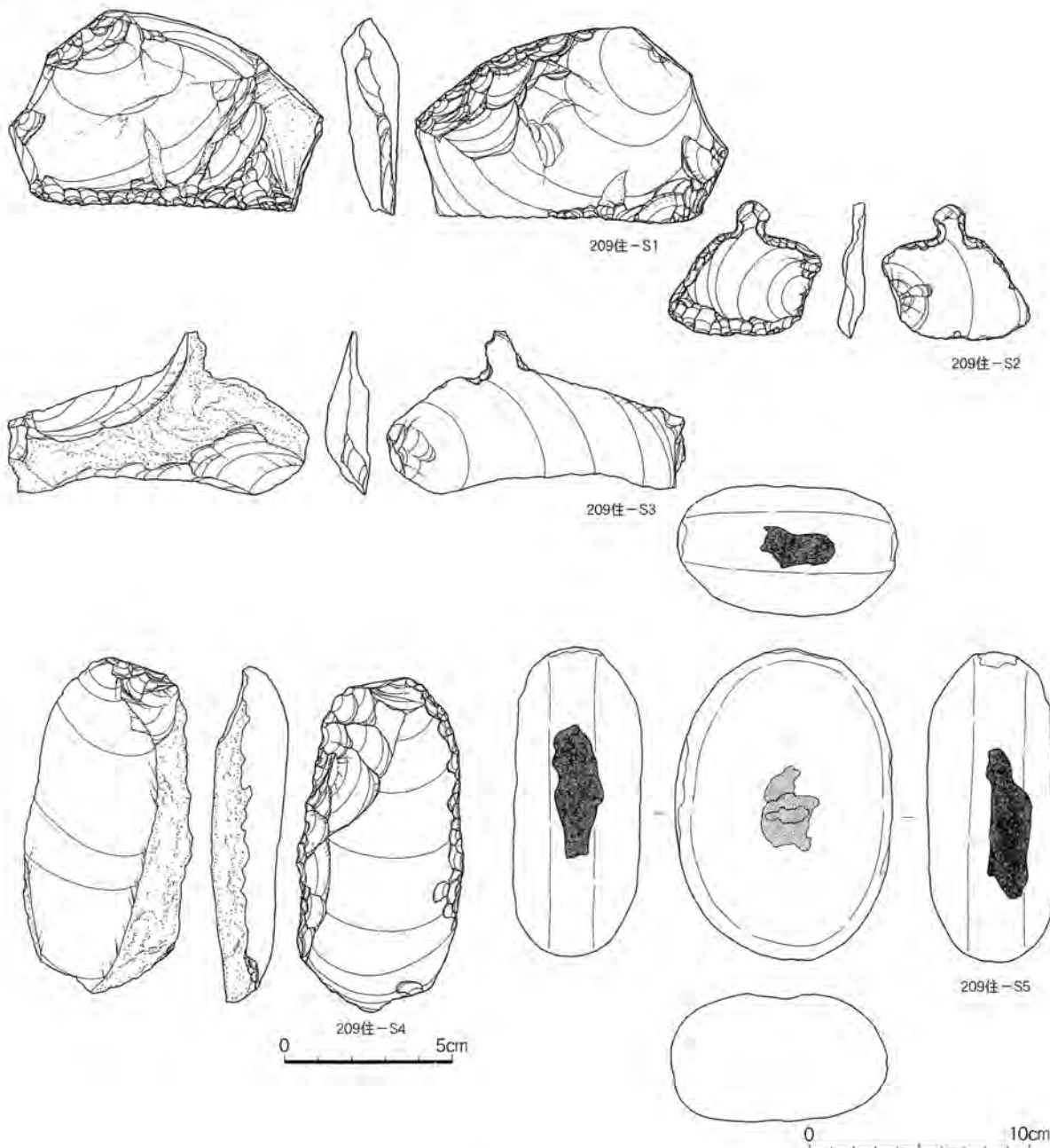
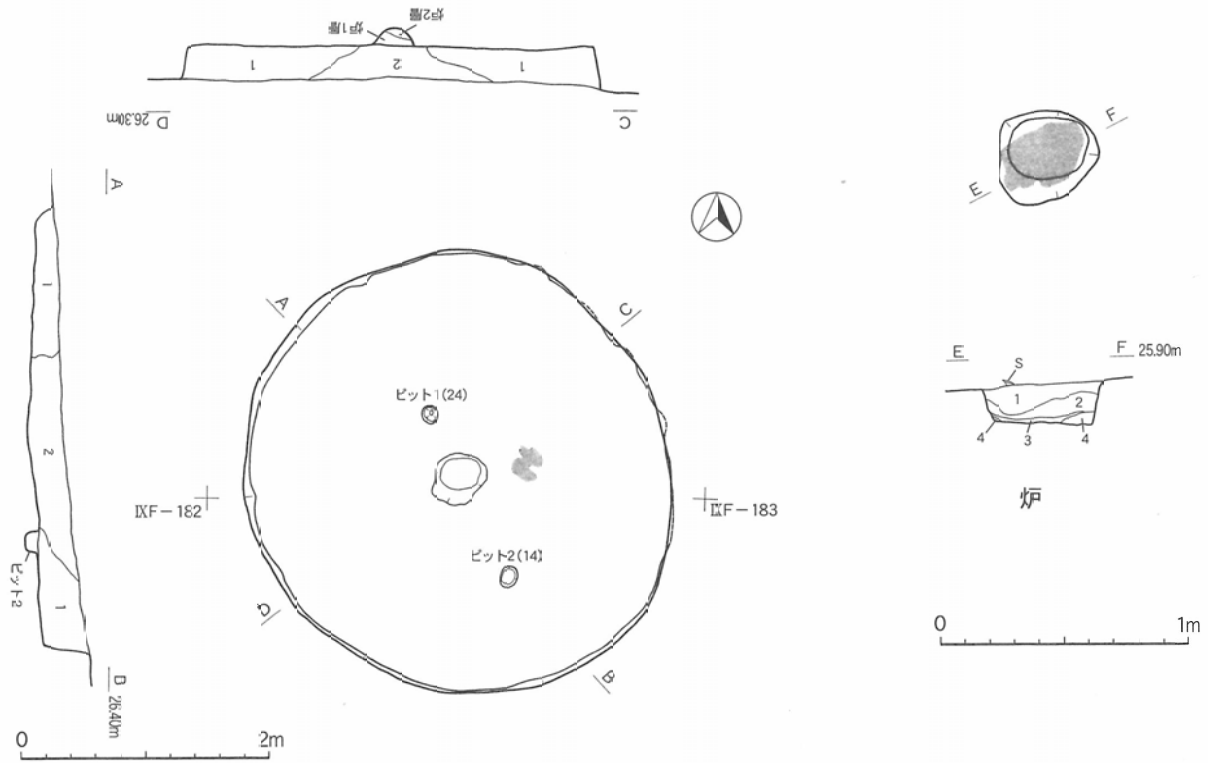


図85 第209号竪穴住居跡(2)、第209号竪穴住居跡 出土遺物



第210号竪穴住居跡

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 黄色ロームブロック(径8~20mm)少量含む
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 黄色ロームブロック(径3~20mm)少量 炭化粒微量

第210号竪穴住居跡内炉

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 焼土(径3~8mm)1%以下 ローム(径1~10mm)7% 炭化物(径2~5mm)1% 浮石(径2~5mm)1%以下 しまりやや有 粘性有
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム(径1~20mm)10% 炭化物(径1~10mm)1% しまりやや有 粘性有
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物(径2~8mm)30% ローム(径2~3mm)1% しまりなし 粘性有
- 第4層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物(径1~2mm)1% レキ(径1~2mm)1%以下 しまりやや有 粘性有

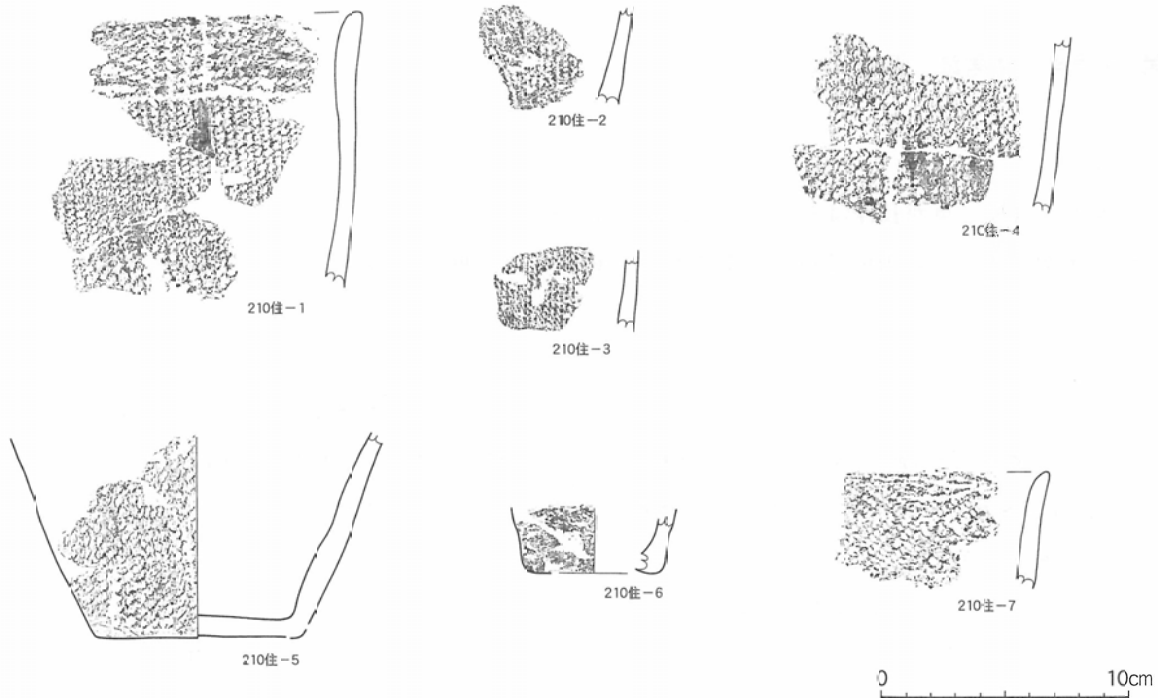


図86 第210号竪穴住居跡、第210号竪穴住居跡 出土遺物 (1)

連続して認められた。

〔炉〕住居の中央と思われる所に、不整楕円形を呈した地床炉が確認された。規模は100cm×90cm、深さは7cm程である。炉の南側に64×50cm程の焼土範囲がある。3層に分層でき、第1・3層から多量の焼土を検出した。炉の底面は平坦ではなく凹凸が見られる。

〔壁溝〕確認出来なかった。

〔ピット〕全部で12基が確認されている。主柱穴と思われるものは4本（1, 3, 7, 12）で、直径は27～40cm。深さは54～65cmであり、やや台形状に配置され、ピット8・10は出入り口施設の左右にそれぞれ確認され、直径は12～16cm、深さ15～17cmで、ピット10は底面が北方向に傾いている。壁柱穴と思われるものは、ピット4・5・9で直径は16～17cmとほぼ一定で、深さは5～26cmである。その他のピットは、直径17～22cm。深さは9～29cmである。ピット8・10は出入り口施設と思われる変形「コ」字型状の溝の左右に位置することから施設に伴うピットの可能性もある。

〔その他の施設〕南側の住居内から外側にかけて、やや変形した「コ」字状の出入り口施設と思われる溝跡が2本確認された。溝は住居外から中心に向かって開く形で、溝の中心部同士の距離は最小で50cm、最大で130cmある。溝の深さは溝1が41cm、溝2が30cm程であり、溝2は一部オーバーハングしている部分がある。また、この溝両側付近の壁面が内側に湾曲しているのが注意される。

〔堆積土〕4層に分類された。第1層は、近年の廃棄物が大量に見つかっているため、住居本来の堆積なのかについては、不明である。第2・3層は東側斜面からの土流入による自然堆積と思われる。第4層については、住居の壁を形成している層が混入しているため、壁の崩落によるものと思われる。

〔出土遺物〕全体的に遺物の量は少なかった。土器は覆土から縄文時代後期後葉Ⅲ-3群土器を中心に出土している。石器は覆土から横形石匙やすり石、床面から削器が出土している。

〔小結〕出土遺物から縄文時代後期後葉の竪穴住居跡と考えられる。また、南側の壁際に入出口と考えられる施設が検出され、注目される。

#### 第210号竪穴住居跡（図86・87）

〔位置・確認〕IX E・F-182グリットに位置する。暗褐色土の円形プランとして確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕東西長径は354cm、南北長径は336cmの円形プランである。

〔壁・床面〕すべての方向で壁の立ち上がりを確認した。壁高は最も高い所で34cm、他は13～32cmである。壁は西側がややなだらかに立ち上がり、東側の一部にオーバーハングしている所がある。床面はほぼ平坦である。床面積は9.2㎡である。

〔炉〕住居の中央に地床炉が検出された。不整楕円形を呈し、長径98cm、短径74cm、深さ12cm程である。その南側に30cm×18cm、深さ4cm程のピットが検出された。炉内は4層に分層され、特に第3層からは78cm×48cmの範囲にわたる炭化粒が確認された。焼土はあまり堆積していなかった。

〔壁溝〕確認できなかった。

〔ピット〕住居内から2基確認されている。ピット1が直径13cm、深さ24cmである。ピット2が直径18cm、深さ14cmである。炉を挟んで存在し、主柱穴と思われる。壁柱穴は確認出来なかった。

〔その他の施設〕確認できなかった。



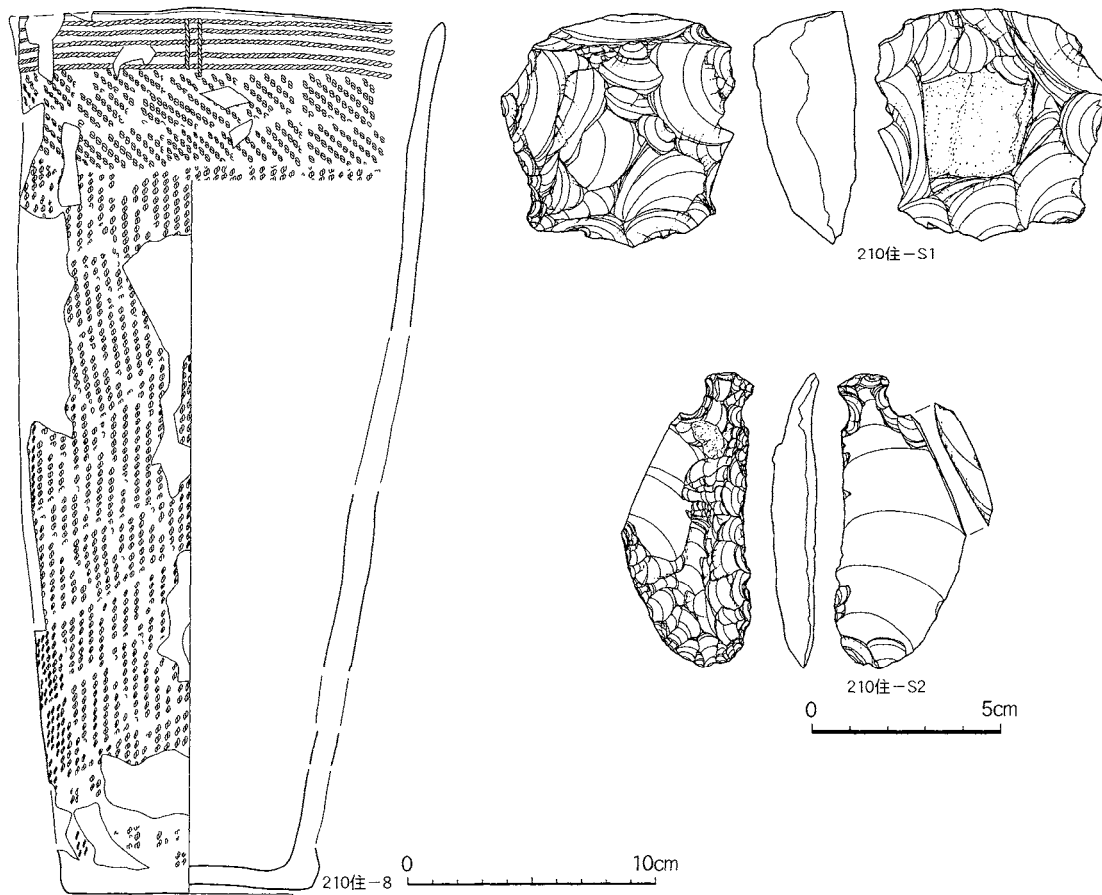


図87 第210号竪穴住居跡 出土遺物（2）

[堆積土] 2層に分層した。

[出土遺物] 土器は第1層を中心に、縄文時代前期後～末葉I-2群土器が出土している。石器は炉内から縦型石匙が1点出土している。

[小結] 出土土器から住居中央に地床炉を持つ縄文時代前期後～末葉の竪穴住居跡と考えられる。

### 第211号竪穴住居跡（図88）

[位置・確認] IX F・G-184・185グリットに位置する。暗褐色土の隅丸方形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 北壁～西壁にかけて削平を受けているため、一部の壁が確認出来なかった。残存部から推定して、おそらく隅丸方形になるものと思われる。規模は不明である。

[壁・床面] 壁高は最も残りの良い南東側で25cm、他は3～24cmである。壁の立ち上がりは南東側でややゆるやかな所があるが、他はすべてほぼ垂直に立ち上がる。

床面は、ほぼ平坦である

[炉] 住居のほぼ中央付近に地床炉が確認された。楕円形を呈し、長径116cm、短径68cm、深さは14

cm程である。2層に分層され、第1・2層ともに若干の炭化粒が検出されている。北側に長径60cm程のすり鉢状の掘り込みがあり、深さ3cm程である。

[壁溝] 確認できなかった。

[ピット] 住居内から10基のピットが確認出来た。柱痕を確認できたものはない。各柱穴がどのような組み合わせになるのかは不明である。

[その他の施設] 住居の南東側に直径48cmの張出部が確認されている。床面より15cm程高い位置にある。用途については不明である。

[堆積土] 2層に分層された。第2層には多量の黄色ロームブロックが多量に含まれているので、人為的に埋められた可能性もある。

[出土遺物] 覆土から縄文時代前期後～末葉1～2群土器が3片出土している。

[小結] 出土遺物から縄文時代前期後～末葉の竪穴住居跡と考えられる。

(相馬信吉・若山誠治)

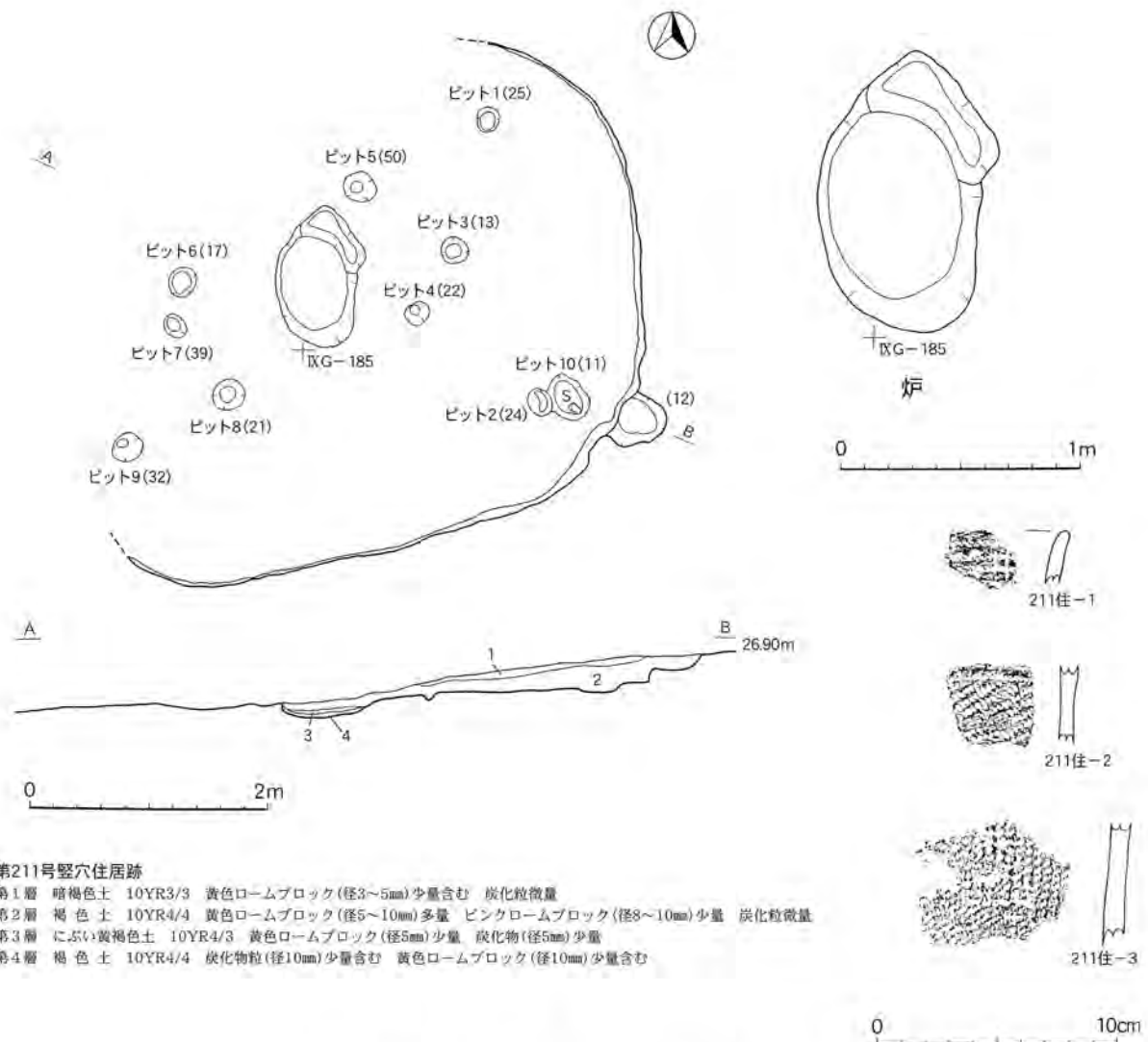


図88 第211号竪穴住居跡、第211号竪穴住居跡 出土遺物

## 2 土坑

### 第701号土坑 (図89)

[位置・確認] IXH-197グリットに位置する。黄褐色土の円形プランを確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部長径93cm×短径90cm、底面長径85cm×短径78cm、深さは55cmである。

[断面・底面] 断面形は四角形で壁はほぼまっすぐ立ち上がっている。底面は平坦であるが、南側に向かって低くなっている。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色土・黄褐色土が堆積し、ローム粒が少量混入している。

[出土遺物] 底面から縄文時代前期後～末葉Ⅰ-Ⅱ群土器が1点出土した。

[小結] 出土土器から縄文時代前期後～末葉の土坑と考えられる。

### 第702号土坑 (図89)

[位置・確認] IX T-203グリットに位置する。黒色土の不正円形プランを確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部長径146cm×短径127cm、底面長径150cm×短径110cm、深さは40cmである。

[断面・底面] 壁は少しオーバーハングして立ち上がっている。底面は平面である。

[堆積土] 5層に分層した。

[出土遺物] 覆土から縄文時代前期後～末葉Ⅰ-Ⅱ群土器や縄文時代後期後葉Ⅲ-Ⅲ群土器が数点出土した。

[小結] 出土土器から縄文時代後期後葉の土坑と考えられる。

### 第704号土坑 (図89)

[位置・確認] IX N-203グリットに位置する。黒褐色土の円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はほぼ円形で、開口部長径92cm×短径1.05m、底面長径82cm×短径80cm、深さは19cmである。

[断面・底面] 断面形は四角形で外側に開くように立ち上がっている。底面は平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色土・暗褐色土が堆積し、第2層ではロームブロックが多量に混入していた。

[出土遺物] 覆土から縄文時代後期後葉Ⅲ-Ⅲ群土器破片が1点出土した。

[小結] 出土土器から縄文時代後期後葉の土坑と考えられる。

### 第705号土坑 (図89)

[位置・確認] IX N-201グリットに位置する。黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部長径86cm×短径74cm、底面長径70cm×短径30cm、深さは22cmである。

[断面・底面] 断面形は四角形で壁は外側に開くように立ち上がっている。底面は平面であるが、西側に向かって低くなっている。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色土・黄褐色土が堆積し、第2層ではローム粒が多量に混入している。

[出土遺物] 覆土から縄文時代後期後葉Ⅲ-3群土器破片が1点出土した。

[小結] 出土土器から縄文時代後期後葉の土坑と考えられる。

#### 第711号土坑 (図89)

[位置・確認] IXM・N-196グリットに位置する。黒色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部長径240cm×短径93cm、底面長径205cm×短径53cm、深さは28cmである。

[断面・底面] 断面形は丸底形で壁は外側に開くように立ち上がっている。底面は北西から南東に向かって傾斜している。

[堆積土] 基本的に3層に分層した。黒色土・暗褐色土が堆積し、全体にローム粒が少量混入している。

[出土遺物] 覆土から縄文時代後期後葉Ⅲ-3群土器破片が1点と削器が1点出土した。

[小結] 出土土器から縄文時代後期後葉の土坑と考えられる。

#### 第720号土坑 (図89)

[位置・確認] IXE・F-188・189グリットに位置する。暗褐色土の円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部長径148cm×短径135cm、底面長径158cm×150短径cm、深さは32cmである。

[断面・底面] 壁の南側は大きくオーバーハングしており北側垂直に立ち上がる。底面の西側には径35cmと径25cmのピットが見られ、他は平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。黄褐色土、暗褐色土、褐色土で、全体に2mm～3mmほどのロームブロックが多く混入している。

[出土遺物] 覆土から縄文時代前期後～末葉Ⅰ-2群土器1点と縄文時代後期後葉Ⅲ-3群土器が1点出土した。

[小結] 出土土器から縄文時代後期後葉の土坑と考えられる。

#### 第721号土坑 (図89)

[位置・確認] IXE-188グリットに位置する。黄褐色土の円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は、西側がほぼ削平されているが、円形と推定される。規模は開口部120cmほどと推定される。深さは10cmである。

[断面・底面] 東壁はほぼ垂直か少しオーバーハングしている。底面には3基の小ピットが見られ、その内の2基には縄文時代晩期前葉・中葉IV-1・2群土器が埋設されていた。特に、南側の小ピットには2個の土器が重ねられて置かれていた。底面は平坦である。

[堆積土] 層は1層で黄褐色土である。径2mm～3mmほどのロームブロックが混入している。

[出土遺物] 覆土及びピットから縄文時代晩期前葉・中葉IV-1・2群土器が出土した。

[小結] ピット内の出土遺物から縄文時代晩期前葉・中葉の土坑と考えられる。底面に小ピットを複数持ち、しかも、その中に1～2個の土器を埋設するという特異な土坑である。管見では類例を知らない。

#### 第723号土坑 (図89)

[位置・確認] IXD-189グリットに位置する。暗褐色土の円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 南壁のほとんどがすでに壊されているが、平面形はほぼ円形と考えられる。規模は開口部で径140cmと推定される。深さは7cmと浅い。

[断面・底面] 残存部では、壁はほぼ緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 堆積土は1層で、灰黄褐色土で堆積し、ローム粒が多量に混入している。

[出土遺物] 覆土から縄文時代前期後～末葉I-2群土器1点が出土している。

[小結] 出土土器から縄文時代前期後～末葉の土坑と考えられる。

#### 第726号土坑 (図90)

[位置・確認] IXC・D-191・192グリットに位置する。黄褐色土の円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形である。規模は、開口部長径135cm×短径130cm、深さ60cmである。

[断面・底面] 壁は内側にオーバーハングしている。底面は平坦であるが中央に径25cm、深さ10数cmのピットが1個見られ、壁周に15cm前後、深さ12～46cmの4個のピットが認められる。柱痕は確認できなかった。

[堆積土] 堆積土は2層で、黄褐色土、暗褐色土で堆積し、2cm～5cmのロームブロックが多量に混入している。

[出土遺物] 覆土から縄文時代前期後～末葉I-2群土器が1点出土している。

[小結] 出土土器や断面形から縄文時代前期後～末葉の所謂「フラスコ状土坑」と考えられる。底面には5個の小ピットが設けられているが、その用途については不明である。

#### 第729号土坑 (図90)

[位置] IXC・D-189・190グリットに位置する。にぶい黄褐色土の隅丸方形プランとして確認し

た。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸方形を呈し、開口部長径190cm×短径173cm、底面長径202cm×短径174cm、深さ62cm程である。

[断面・底面] 断面形は所謂「フラスコ状」を呈し、壁は南東側と南西側の一部を除いて、1cm～10cm程オーバーハングしている。底面はほぼ平坦で中央部からは直径22cm、深さ26cm程の小ピットが確認された。

[堆積土] 3層に分層された。ピンクロームブロックを多量に含み、人為的堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土から縄文時代前期後～末葉Ⅰ～Ⅱ群土器が数点出土している。

[小結] 出土土器や断面形から縄文時代前期後～末葉の所謂「フラスコ状土坑」と考えられる。

### 第730号土坑 (図90)

[位置] IX C-188グリットに位置する。黒褐色土の円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形を呈し、開口部長径128cm×短径112cm、底面長径122cm×短径92cm、深さ16cm程である。

[断面・底面] 壁は東側が2cm～3cmオーバーハングしている以外は底面からやや開くように立ち上がる。底面にはやや凹凸が見られる。

[堆積土] 1層しか認められなかった。

[出土遺物] 底面から縄文時代後期Ⅲ群土器とすり石1点が出土している。

[小結] 出土遺物から縄文時代後期の土坑と考えられる。

### 第733号土坑 (図90)

[位置] IX D-185グリットに位置する。黒褐色土の円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形を呈し、開口部長径144cm×短径132cm、底面長径154cm×152cm、深さ38cm程である。

[断面・底面] 壁はすべての方向で4cm～18cm程オーバーハングしていて、フラスコ状を呈する。底面の北側に長径36cm×短径34cm、深さ26cmのピットが見られ、そのなかにほぼ完形の土器が横転した状態で出土した。底面は西側が東側に比べ、2cm～4cm程高くなっている。

[堆積土] 8層に分層された。ロームや炭化物等の混入状況から見て、人為的堆積と思われる。

[出土遺物] ピット内から縄文時代晩期前葉・中葉Ⅳ-Ⅰ・Ⅱ群土器が出土した。

[小結] 出土遺物と断面形から、縄文時代晩期前葉・中葉の所謂「フラスコ状土坑」と考えられる。第721号土坑と同様、底面に小ピットを持ち、その中に土器が埋設されている。管見では類例を知らない。

## 第736号土坑 (図90)

[位置] IX B-185グリットに位置する。黒褐色土のいびつな隅丸長方形プランとして確認した。

[重複] なし。重複している根拠が不十分であったため、ひとつの土坑として扱ったが、その形状から2つの土坑が重複している可能性もある。

[平面形・規模] 削平のため、西側の壁を確認することが出来なかったが、残存開口部長径212cm×短径112cm、底面短径102cm、深さ12cm程である。

[断面・底面] 壁は東側が1～10cm程オーバーハングしている以外は、ややなだらかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 1層しか認められなかった。

[出土遺物] 覆土から縄文時代前期後～末葉Ⅰ-Ⅱ群土器が1点出土している。

[小結] 出土土器から縄文時代前期後～末葉の土坑と考えられる。

## 第737号土坑 (図90)

[位置] IX A・B-185・186グリットに位置する。黄褐色土の円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形はほぼ円形を呈し、開口部長径158cm×短径153cm、底面長径120cm×短径120cm、深さ54cm程である。

[断面・底面] 壁はなだらかに立ち上がる。底面はやや凹凸が見られ、北東側に長径38cm×短径20cm、深さ17cmのピットと、南西側に長径20cm×短径14cm、深さ6cmのピットが2基確認されている。

[堆積土] 3層に分層される。ロームブロックの混入状況からみて、人為的堆積と考えられる。

[出土遺物] 覆土から縄文時代前期後～末葉Ⅰ-Ⅱ群土器や縄文時代後期初頭～前葉Ⅲ-Ⅰ群土器、縄文時代後期後葉Ⅲ-Ⅲ群土器が出土している。

[小結] 出土遺物から縄文時代後期の土坑と考えられるが、堆積土が人為堆積の可能性が高いので確実なものではない。

## 第738号土坑 (図91)

[位置] IX A・B-185グリットに位置する。暗褐色土の落ち込みとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 本土坑の大部分が削平を受けているため、平面形及び規模は不明である。

[断面・底面] かるうじて残存していた東側の壁はなだらかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦で、北西側からは長径46cm×短径40cm、深さ26cmのピットが1基確認された。本来は本土坑内に存在していた可能性があるが、確認状況から断定することは難しい。

[堆積土] 4層に分層される。

[出土遺物] 覆土から縄文時代晩期前葉・中葉Ⅳ-Ⅰ・Ⅱ群土器が出土した。

[小結] 出土遺物から縄文時代晩期前葉・中葉の土坑と考えられる。

### 第739号土坑 (図91)

〔位置〕 IXA-185グリットに位置する。黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

〔重複〕 本来は第740号土坑と重複関係になるものと思われるが、削平等の影響もあって、第740号土坑のプランが完全に把握できず、新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈し、開口部長径21cm×短径118cm、底面長径203cm×短径112cm、深さ51cm程である。

〔断面・底面〕 壁はなだらかに立ち上がっている。底面は平坦であり、やや南側寄りに長径18cm×短径16cm、深さ10cm程のピットが1基確認されている。

〔堆積土〕 3層に分層される。黄色浮石ブロックやピンクロームが多量に含まれることから、人為堆積の可能性が強い。

〔出土遺物〕 覆土から縄文時代前期後～末葉I-2群土器が1点出土している。

〔小結〕 出土土器から縄文時代前期後～末葉の土坑と考えられる。しかし、堆積土が人為堆積の可能性が高いので確実なものではない。

### 第740号土坑 (図91)

〔位置〕 IXA-185・186、VIII T-185グリットに位置する。黄褐色土の隅丸長方形プランとして確認した。

〔重複〕 第739号土坑と重複している可能性がある。しかし、削平の影響もあって新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 削平のため、西側の壁が確認出来なかったが、残存部から推定して、おそらく隅丸長方形になるものと思われる。残存開口部短径278cm、底面短径268cm。開口部・底面ともに長径は不明である。

〔断面・底面〕 壁はなだらかに立ち上がっている。底面は平坦であり、北東側に長径42cm×短径32cm、深さ5cmのピットが1基確認されている。

〔堆積土〕 1層しか認められなかった。黄色ロームブロックを多量に含んでいることから、人為堆積の可能性が考えられる。

〔出土遺物〕 覆土から縄文時代前期後～末葉I-2群土器が2点出土している。

〔小結〕 出土土器から縄文時代前期後～末葉の土坑と考えられる。しかし、堆積土が人為堆積の可能性が高いので確実なものではない。

### 第742号土坑 (図91)

〔位置〕 IX C-192グリットに位置する。暗褐色土の楕円形プランとして確認した。

〔重複〕 第741号土坑と重複していて、断面観察から本土坑の方が古いと思われる。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈し、開口部長径192cm×短径154cm、底面長径194cm×短径160cm、深さ67cm程である。

〔断面・底面〕 壁は南西側を除いて、2～10cm程オーバーハングしている。底面はほぼ平坦であり、ほぼ中央部に直径10cm、深さ22cmのピットが1基確認されている。



[堆積土] 第741号土坑の土層を除けば6層に分層される。

[出土遺物] 土器は、覆土から縄文時代前期後～末葉Ⅰ－Ⅱ群土器が多量に出土している。石器は、覆土から石錐が1点出土している。

[小結] 出土土器や断面形から縄文時代前期後～末葉の所謂「フラスコ状土坑」と考えられる。

#### 第746号土坑 (図91)

[位置] IXA-191グリットに位置する。褐色土の円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形を呈し、開口部長径162cm×短径156cm、底面長径154cm×短径148cm、深さ29cmである。

[断面・底面] 壁は北西側の一部でオーバーハングする以外は西側がなだらかに、他の部分はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。その中央に長径30cm×25cm、深さ12cmのピットが1基確認された。

[堆積土] 4層に分層される。ローム等の混入状況から人為的堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土から縄文時代前期後～末葉Ⅰ－Ⅱ群土器が出土している。

[小結] 出土土器から縄文時代前期後～末葉の土坑と考えられる。しかし、堆積土が人為堆積の可能性が高いので確実なものではない。

#### 第747号土坑 (図92)

[位置] IXB-189・190、IXC-189・190グリットに位置する。褐色土の隅丸長方形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸長方形を呈し、開口部長径233cm×短径130cm、底面長径229cm×短径152cm、深さ73cm程である。

[断面・底面] 壁は西側と南東側の一部を除いて、10cm～16cm程オーバーハングし、フラスコ状を呈する。底面は平坦で、その中央部に長径34cm×短径25cm、深さ27cmのピットが確認された。

[堆積土] 2層に分層される。ロームブロックが多量に含まれていることから、人為堆積の可能性が強い。

[出土遺物] 覆土から縄文時代前期後～末葉Ⅰ－Ⅱ群土器が出土している。

[小結] 出土土器から縄文時代前期後～末葉の土坑と考えられる。しかし、堆積土が人為堆積の可能性が高いので確実なものではない。

#### 第751号土坑 (図92)

[位置] IXD-192グリットに位置する。黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形を呈し、開口部長径179cm×短径145cm、底面長径173cm×短径143cm、深さ53cmである。

〔断面・底面〕壁は南・南東・北西側で2～4cmオーバーハングしている所が見られ、それ以外はほぼ垂直に立ち上がっている。

〔堆積土〕11層に分層された。ロームブロック主体層が多く、人為堆積の可能性が高い。

〔出土遺物〕覆土から縄文時代前期後～末葉I-2群土器が出土している。

〔小結〕出土土器から縄文時代前期後～末葉の土坑と考えられる。しかし、堆積土が人為堆積の可能性が高いので確実なものではない。

#### 第752号土坑（図92）

〔位置〕IXB-191・192グリットに位置する。黒褐色土の円形プランとして確認した。

〔重複〕第753号土坑と重複している。断面観察や平面形の切り合い関係から、本土坑の方が新しいと思われる。

〔平面形・規模〕平面形は円形を呈し、開口部長径176cm×短径174cm、底面長径190cm×短径181cm、深さ55cmである。

〔断面・底面〕壁はすべての方向で2～10cm程オーバーハングしており、「フラスコ状」を呈する。

〔堆積土〕6層に分層された。第3・5・6層は崩落土と思われる。

〔出土遺物〕覆土から縄文時代前期後～末葉I-2群土器と縄文時代後期後葉Ⅲ-3群土器が出土している。

〔小結〕出土土器や断面形から縄文時代後期後葉の所謂「フラスコ状土坑」と考えられる。しかし、堆積土が人為堆積の可能性が高いので確実なものではない。

#### 第753号土坑（図92）

〔位置〕IXB・C-191・192グリットに位置する。暗褐色土の円形プランとして確認した。

〔重複〕第752号土坑と重複しており、本土坑の方が古い。

〔平面形・規模〕平面形は円形を呈し、開口部長径176cm×短径175cm、底面長径204cm×短径203cm、深さ87cm程である。

〔断面・底面〕壁はすべての方向で7～20cm程オーバーハングしており、「フラスコ状」を呈する。そのほぼ中央部に長径48cm×短径46cmのピットが1基確認され、そこから南東・北東方向の壁に向かって伸びる溝があり、長さ78cm、幅14～32cm、深さ6～13cm程で、壁に向かっていくにしたがって浅くなっている。実際、この溝に水を流してみると、中央部にあるピットに向かって流れていった。恐らく、排水などの機能を持っていたのではなかろうか。

〔堆積土〕3層に分層された。3層の堆積状況を考えて、一気に埋め戻された可能性がある。

〔出土遺物〕土器は、覆土から縄文時代前期後～末葉I-2群土器が出土している。石器は、縦型石匙が1点出土している。

〔小結〕出土土器や断面形から縄文時代前期後～末葉の「フラスコ状土坑」と考えられる。しかし、堆積土が人為堆積の可能性が高いので確実なものではない。

## 第758号土坑（図92）

〔位置〕 IX C・D-187・188グリッドに位置する。黒褐色土の長方形プランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は長方形を呈し、開口部長径254cm×短径173cm、底面長径233cm×短径158cm、深さ28cm程である。

〔断面・底面〕 壁はなだらかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 1層しか認められなかった。

〔出土遺物〕 覆土から縄文時代後期後葉Ⅲ-3群土器が、底面から縄文時代前期後～末葉Ⅰ-2群土器が出土した。

〔小結〕 出土遺物から縄文時代後期後葉の土坑と考えられる。

## 第762号土坑（図92）

〔位置〕 IX F-178グリッドに位置する。黒色土の不整楕円形プランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整楕円形を呈し、開口部長径76cm×短径75cm、底面長径75cm×短径68cm、深さ16cmである。

〔断面・底面〕 壁はなだらかに立ち上がる。底面は凹凸が見られる。

〔堆積土〕 2層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から縄文時代後期後葉Ⅲ-3群土器が出土している。

〔小結〕 出土遺物から縄文時代後期後葉の土坑と考えられる。

## 第801号土坑（図93）

〔位置〕 VIII S-188グリッドに位置する。黒色土の円形プランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は円形で、開口部長径134cm×短径128cm、底部長径101cm×短径97cm、深さは28cmである。

〔断面・底面〕 断面形は丸底形で、壁は緩やかに立ち上がっている。底部は壁際から中心部に向かって緩やかに傾斜している。

〔堆積土〕 10層に分層できた。全般的に黒色系の土で、ほとんどに炭化物が混入している。

〔出土遺物〕 土器は、第2層から縄文時代前期後～末葉Ⅰ-2群土器が出土している。石器は、第7層から凹み石が1点出土している。

〔小結〕 出土遺物から縄文時代前期後～末葉の土坑と考えられる。

## 第803号土坑（図93）

〔位置〕 IX A-192グリッドに位置する。暗褐色土の不整円形プランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整円形で、開口部長径204cm×短径172cm、底部長径193cm×短径167cm、

深さは38cmである。

〔断面・底面〕壁はほぼ垂直に立ち上がる。部分的にオーバーハングしているところもある。底面はほぼ平坦である。底面のほぼ中央に直径50cmほどの円形のピットがある。ピット外からの流入土が無いという堆積土の所見からは、この土坑より古い時期のもののようにも考えられる。一方、底面中央に位置することを考えると、土坑に伴うピットとも考えられる。他にも底面中央部にピットを持つ例があることなどを考えあわせると、土坑に伴う可能性が高い。

〔堆積土〕ピット内のものもあわせると19層に分層できた。一部に壁が崩落したような層が見られるが、大半は褐色系の土坑外からの流入土と考えられる。

〔出土遺物〕覆土から縄文時代前期後～末葉Ⅰ－Ⅱ群土器が出土している。

〔小結〕出土遺物から縄文時代前期後～末葉の土坑と考えられる。

#### 第804号土坑（図94）

〔位置〕ⅧS・T-192グリッドに位置する。暗褐色の不整円形プランとして確認した。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕平面形は不整円形で、開口部長径93cm×短径77cm、底部長径95cm×短径78cm、深さは43cmである。

〔断面・底面〕壁はほぼ垂直に立ち上がるが、オーバーハングする部分もある。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕8層に分層できた。大部分がレンズ状に堆積している。

〔出土遺物〕第2層から縄文時代前期後～末葉Ⅰ－Ⅱ群土器が出土している。

〔小結〕出土遺物から縄文時代前期後～末葉の土坑と考えられる。

#### 第806号土坑（図94）

〔位置〕ⅧK-195グリッドに位置する。第105号土坑と隣接している。暗褐色土の楕円形プランとして確認した。残り具合は非常に悪い。

〔重複〕なし。

〔平面形・規模〕西側の壁が残っていないので、全容は知り得ない。残存部から推定して平面形は楕円形で、開口部推定長径95cm×推定短径65cm、底部推定長径85cm×推定短径55cm、深さは10cmである。

〔断面・底面〕壁は比較的緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕4層に分層できた。

〔出土遺物〕覆土から縄文時代後期後葉Ⅲ－Ⅲ群土器が出土している。

〔小結〕出土遺物から縄文時代後期後葉の土坑と考えられる。

#### 第807号土坑（図94）

〔位置〕ⅧJ-198グリッドに位置する。黒褐色土の円形プランとして確認した。

〔重複〕なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部長径74cm×短径70cm、底部長径73cm×短径72cm、深さは20cmである。

[断面・底面] 壁は西側がほぼ垂直に立ち上がり、東側は逆に若干、オーバーハングしている。底面はわずかに凹凸が見られる。

[堆積土] 4層に分層できた。いずれも黒褐色土である。

[出土遺物] 第1層から縄文時代前期後～末葉Ⅰ－Ⅱ群土器が出土している。

[小結] 出土遺物から縄文時代前期後～末葉の土坑と考えられる。

#### 第808号土坑 (図94)

[位置] VIIIJ-199グリッドに位置する。黒色土の不整形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整形で、開口部長径143cm×短径122cm、底部長径98cm×短径98cm、深さは32cmである。

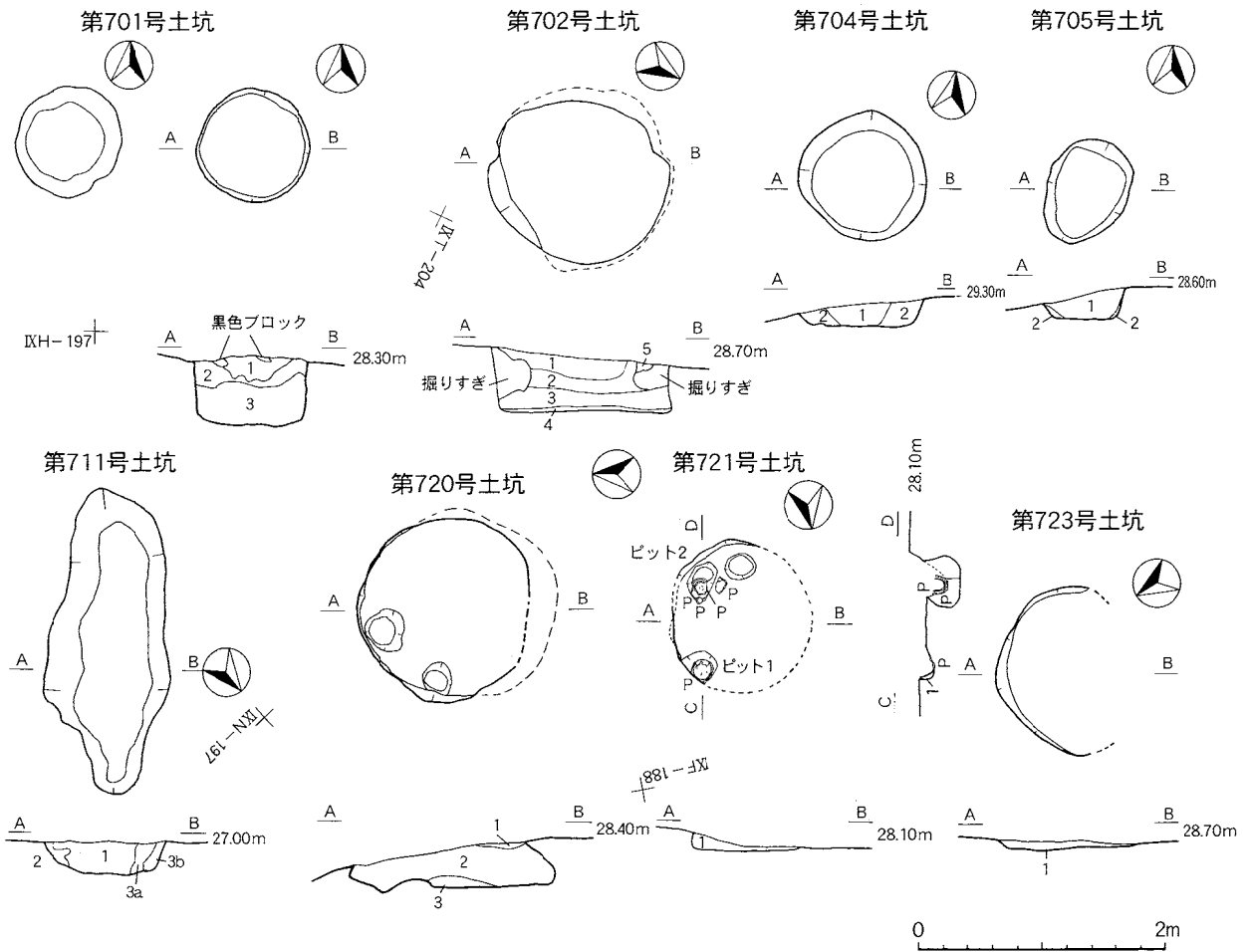
[断面・底面] 壁は南東部が緩やかに立ち上がるが、その他は比較的垂直に立ち上がる。底面は中央部から壁際に向かってやや傾斜している。

[堆積土] 12層に分層できた。黒色系の土が多い。

[出土遺物] 覆土から縄文時代前期後～末葉Ⅰ－Ⅱ群土器が出土している。

[小結] 出土遺物から縄文時代前期後～末葉の土坑と考えられる。

(相馬信吉・大湯卓二・若山誠治)



第701号土坑

第1層 黄褐色土 10YR5/6 黒色粒(10YR2/2 黒褐色土 径0.3~1.5cm)少量 ローム粒(10YR6/8 明黄褐色土 径0.2~1.5cm)少量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.1mm~2cm)少量  
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ロームブロック・ローム粒(径0.1~0.7cm)少量 黒色ブロック 10YR2/2 黒褐色土 第1層の土少量混入

第702号土坑

第1層 黒色土 7.5YR1.7/1 ローム粒(径0.1~4mm)微量 炭化粒(径2~4mm)微量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.1~5mm)微量 炭化粒(径0.2~1cm)微量 焼土粒(径3~5mm)微量  
 第3層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径0.1~6mm)微量 炭化粒(径3mm)微量 焼土粒(径3~5mm)微量  
 第4層 黄褐色土 10YR5/6  
 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径0.1~3mm)微量

第704号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~3mm)1%  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1mm~12cm)20%

第705号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ロームブロック(径2~7cm)1% しまり有  
 第2層 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒(径1~2mm)15% しまり有

第711号土坑

第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径0.1~7mm) ロームブロック(径1~3cm)少量 炭化粒(径1~2mm)微量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径0.1~5mm)少量  
 第3a層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径0.1~5mm)少量 炭化粒(径1~2mm)微量  
 第3b層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径0.1~1mm)少量 炭化粒(径1~2mm)微量

第720号土坑

第1層 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色ロームブロック主体層  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック(径2~3cm)微量 炭化粒(径1mm)微量  
 第3層 褐色土 10YR4/6 ロームブロック粒(径2~3mm)多量 炭化粒微量

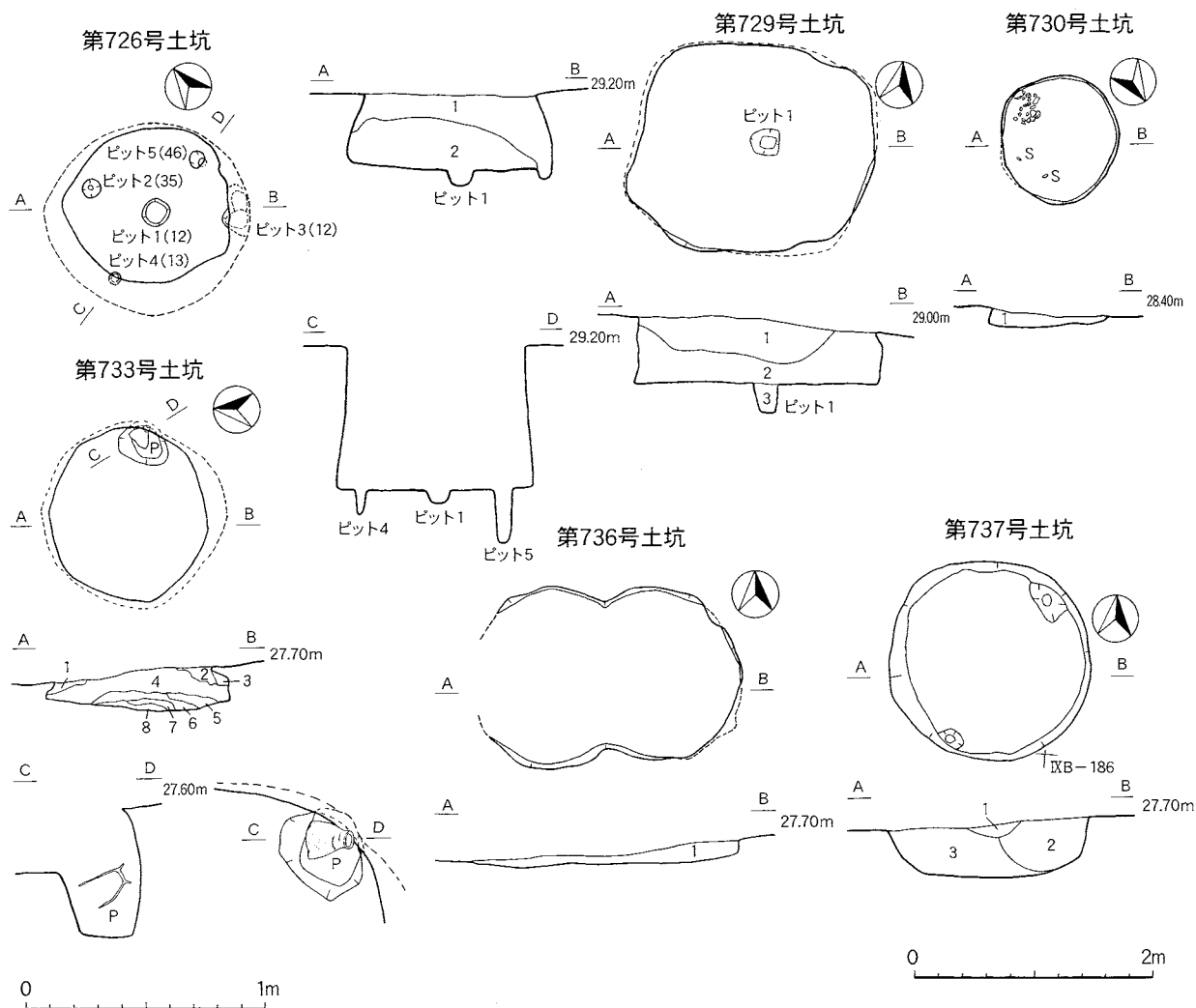
第721号土坑

第1層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黄色浮石(径2~5mm)若干含む (径100mm)粘土ブロック(にぶい褐色)を含む  
 第2層 暗褐色土 10YR3/4 黄色浮石(径1~4mm)10%  
 第3層 暗褐色土 10YR3/4 85% 黒褐色土 10YR3/1 15%の混合 粘土ブロック(10×20mm) 黄色浮石(径2~5mm)10%

第723号土坑

第1層 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒(径2mm)多量

図89 第701・702・704・705・711・720・721・723号土坑



第726号土坑

第1層 泥い黄褐色土 10YR4/3 黄褐色及びピンクロームブロック(径1~5cm)多量 炭化粒を若干含む。  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 浮石ブロック(径2~5mm)若干 炭化粒を若干含む

第729号土坑

第1層 泥い黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック・ピンクロームブロック(径5~30mm)多量 炭化粒多量  
 第2層 褐色土 10YR4/6 ロームブロック・ピンクロームブロック(径5~30mm)多量  
 第3層 暗褐色土 10YR3/4 非常にバサバサしている ロームブロック・ピンクロームブロック(径5~30mm)多量 炭化粒多量

第730号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/2 西側は暗褐色土 10YR3/3 (径1~5mm)明黄褐色(径1~3cm)焼土ブロックを若干含む

第733号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒7% 炭化物(径1~3mm)1% しまり有 硬度有 粘性やや有  
 第2層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~5mm)7% 浮石(径1~5mm)1% 炭化物(径1~5mm)1% しまり有 粘性やや有  
 第3層 褐色土 10YR4/6 ローム層 4/3暗褐色土5%混入 しまりやや有 硬度やや有 粘性やや有  
 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~20mm)10% 炭化物(径2~8mm)2% 浮石(径3.5mm)1% しまり有 粘性やや有  
 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~5mm)5% ロームブロック(径20~50mm)5% しまりやや有 粘性やや有  
 第6層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~10mm)15% 炭化物(径3~5mm)1% しまり有 硬度有 粘性やや有  
 第7層 褐色土 10YR4/6 ローム層 浮石(径3~5mm)1% 3/3 黒褐色土3% しまりやや有 粘性あまりなし  
 第8層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)5% 浮石(径2~5mm)1% 炭化物(径2~4mm)1% しまりやや有 粘性やや有

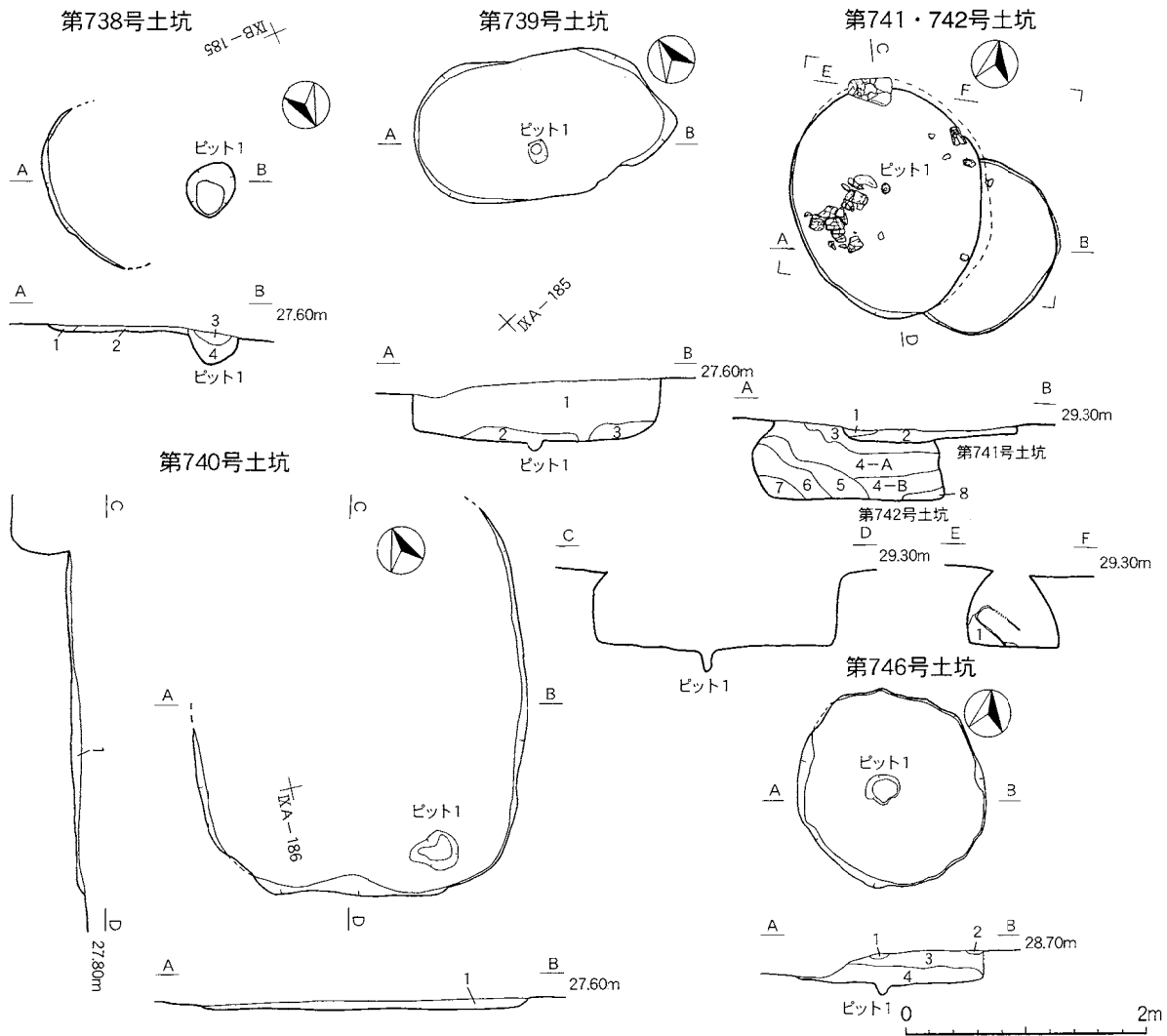
第736号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/3 黄色浮石ブロック(径2~5mm)少量

第737号土坑

第1層 黒褐色土 10YR3/2 浮石ブロック(径3~30mm)少量 炭化粒少量  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 黄色ブロック(径10~35mm) ピンクロームブロックを多量含む 炭化粒少量含む  
 第3層 泥い黄褐色土 10YR4/3 黄色ロームブロック、ピンクロームブロック(径30~90mm)多量

図90 第726・729・730・733・736・737号土坑



第738号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 黄色浮石ローム・ピンクロームブロック(径2~5mm)多量 炭化粒多量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 (径5mm)黄色浮石ロームブロックおよび炭化粒を少量含む
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 ピンクロームブロック(径20~50mm)多量
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 (径2~5mm)黄色ロームブロック及び炭化粒を少量含む

第739号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 黄色浮石ブロック(径3~15mm)および炭化粒を多量に含む
- 第2層 褐色土 10YR4/6 黄色浮石ブロック(径5~20mm)多量
- 第3層 黄褐色土 10YR5/6 ピンクローム主体層

第740号土坑

- 第1層 黄褐色土 10YR5/6 黄色浮石ローム(径7~30mm)多量

第741・742号土坑

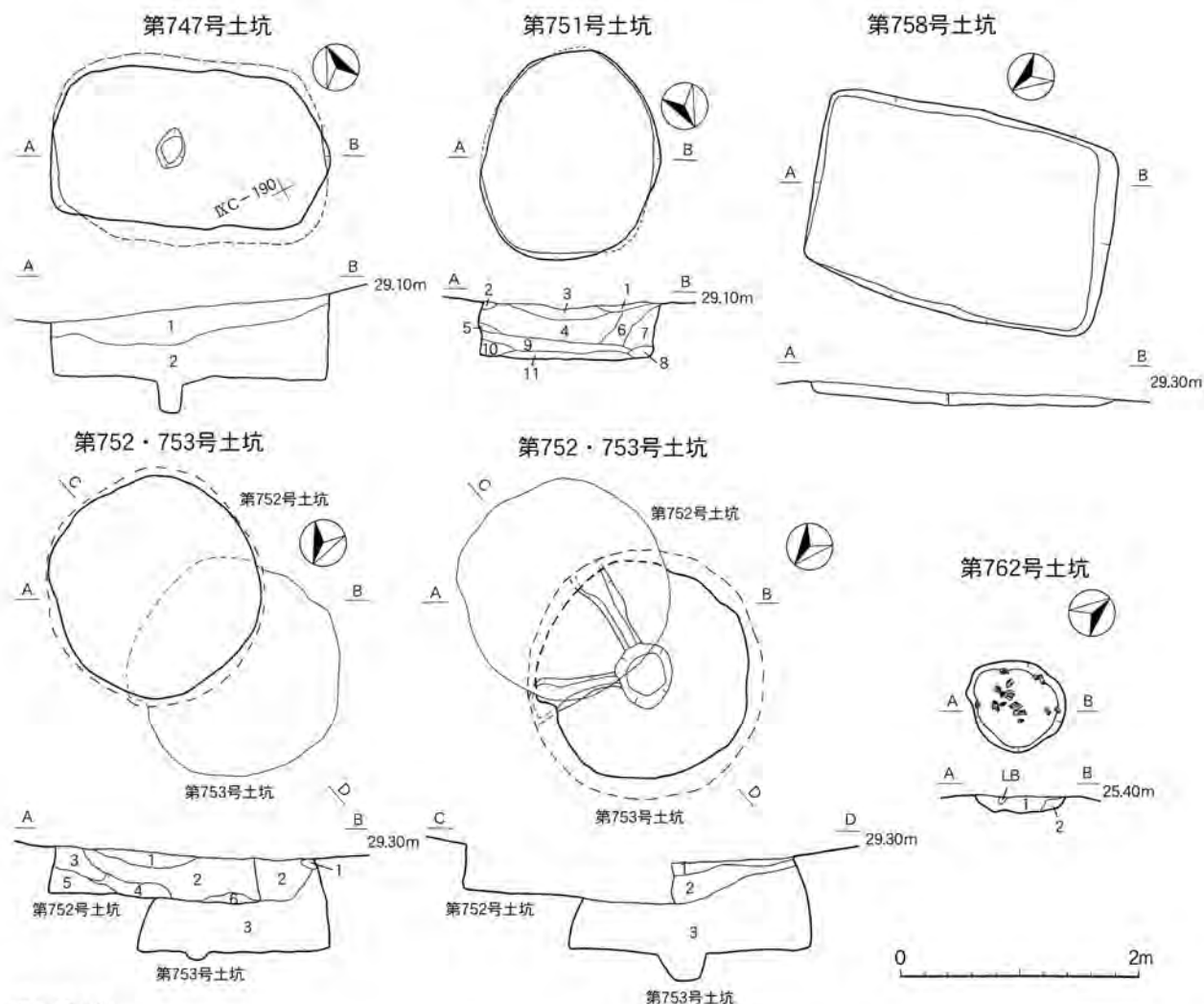
- 第1層 褐色土 10YR4/6 95% 黒褐色土 10YR2/2 5%混合 粘土ブロック(径3~15mm)5%
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 90% ローム 黄褐色土 10YR5/6 10%混合 粘土ブロック(径1~8mm)3% 黄色浮石(径3mm)2% 炭化物粒(径5mm)3%
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物粒(径10mm)5% 粘土ブロック(径5mm)1% 黄色浮石(径5mm)3% ローム粒(径5mm)1%
- 第4-A層 褐色土 10YR4/6 90% 暗褐色土10YR3/4 10%混合 粘土ブロック(径4mm)20% 炭化物粒(径20mm)7% ローム粒(径8mm)3% 黄色浮石(径3mm)1%
- 第4-B層 褐色土 10YR4/4 90% 暗褐色土 10YR3/4 10%混合 粘土ブロック(径80mm)10% 炭化物粒(径1mm)1%
- 第5層 ローム 黄褐色土 10YR5/6 80% 褐色土 10YR4/6 20%混合 粘土ブロック(径10mm)3%
- 第6層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(径20mm)15% 粘土ブロック(径5mm)3%
- 第7層 ローム 明黄褐色土 10YR6/6 90% 褐色土 10YR4/6 10%混合 炭化物粒(径3mm)1% 粘土ブロック(径5mm)3%
- 第8層 褐色土 10YR4/4 ロームブロック(径40mm):0% 炭化物粒(径3mm)1%

第746号土坑

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 ピンクロームブロック(径3~20mm)少量
- 第2層 褐色土 10YR4/6 ロームブロック主体層
- 第3層 褐色土 10YR4/4 (径2~30mm)黄色ロームブロック及びピンクロームを多量に含む
- 第4層 暗褐色土 10YR3/3 黄色ロームブロック(径3~10mm)少量 炭化粒微量

図91 第738・739・740・741・742・746号土坑





第747号土坑

第1層 褐色土 10YR4/6 黄色ロームブロック(径5~10mm)とピンクロームブロック(径10~20mm)多量 木炭粒を少量含む  
 第2層 褐色土 10YR4/4 第1層より若干黒味が強い 混入物は1層と同じだが混入率が少し少ない

第751号土坑

第1層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黄色ロームブロック(径5~10mm)多量  
 第2層 黄褐色土 10YR7/8 黄色ロームブロック主体層  
 第3層 黒褐色土 10YR2/2 黄色ロームブロック(径3~13mm)少量 炭化粒を微量に含む  
 第4層 暗褐色土 10YR3/4 黄色ロームブロック(径10~25mm)多量 炭化粒を微量に含む  
 第5層 にぶい黄褐色土 10YR6/4 黄色ロームブロック主体層  
 第6層 にぶい黄褐色土 10YR5/4 黄色ロームブロック(径8~13mm)多量  
 第7層 黄褐色土 10YR5/8 ピンクローム主体層  
 第8層 明黄褐色土 10YR6/8 ピンクローム主体層  
 第9層 暗褐色土 10YR3/3 ピンクロームブロック(径8~15mm)多量 炭化粒微量  
 第10層 明黄褐色土 10YR6/6 黄色ロームブロック主体層  
 第11層 褐色土 10YR4/4 黄色ロームブロック(径3~5mm)少量

第752号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/2 黄色ロームブロック(径3~5mm)少量 木炭粒微量  
 第2層 黒褐色土 10YR3/1 黄色ロームブロック(径5~20mm)少量 木炭粒(径10mm)少量  
 第3層 褐色土 10YR4/6 黄色ロームブロック主体層  
 第4層 黒色土 10YR2/1 黄色ロームブロック(径3~10mm)少量 ピンクロームブロック微量  
 第5層 黄褐色土 10YR5/6 黄色ロームブロック・ピンクロームブロック主体層  
 第6層 にぶい黄褐色土 10YR6/4 黄色ロームブロック主体層

第753号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/4 ピンクロームブロック(径約10mm)少量 炭化粒微量  
 第2層 黄褐色土 10YR5/8 (径10~20mm)の黄色ロームブロック及びピンクロームブロック主体層 炭化粒微量  
 第3層 黄褐色土 10YR5/6 黄色ロームブロック・ピンクロームブロック(径15~30mm)多量 炭化粒微量

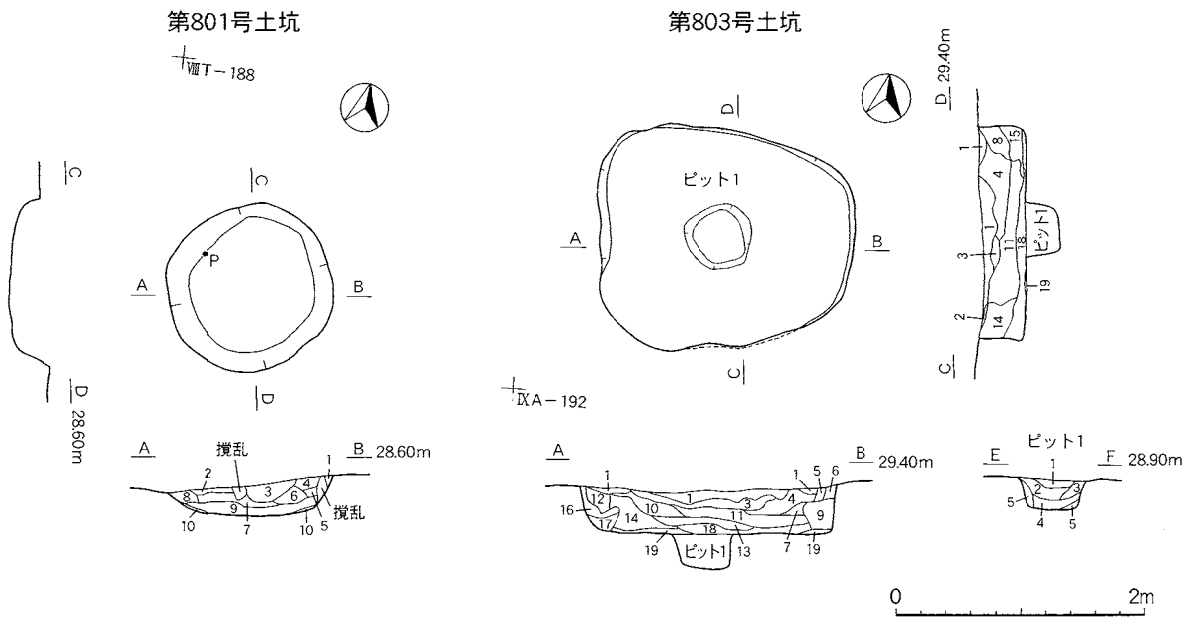
第758号土坑

第1層 黒褐色土 10YR3/2 黄色浮石(径1~25mm)5% 炭化物粒(径2~5mm)3% ローム粒(径1~10mm)2%

第762号土坑

第1層 黒色土 10YR1.7/1 黄色ロームブロック(径2mm)少量  
 第2層 暗褐色土 10YR3/4 褐色ロームブロック主体層

図92 第747・751・752・753・758・762号土坑



第801号土坑

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒(径1~3mm)5%	しまり有	粘性あまりなし
第2層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~5mm)7%	炭化物(径1~3mm)3%	しまりやや有 粘性やや有
第3層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~5mm)6%	炭化物(径1~10mm)5%	しまりやや有 粘性有
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)7%	炭化物(径1~3mm)2%	しまりやや有 粘性やや有
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~5mm)7%	炭化物(径1~3mm)1%	しまりやや有 粘性やや有
第6層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~10mm)7%	炭化物(径2~5mm)1%	しまりやや有 粘性有
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)7%	炭化物(径2~10mm)2%	しまりやや有 粘性有
第8層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~3mm)15%		しまり有 粘性やや有
第9層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~5mm)5%	炭化物(径2~5mm)1%	しまりやや有 粘性有
第10層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒(径1~3mm)5%	炭化物(径1~3mm)1%	しまり有 粘性やや有

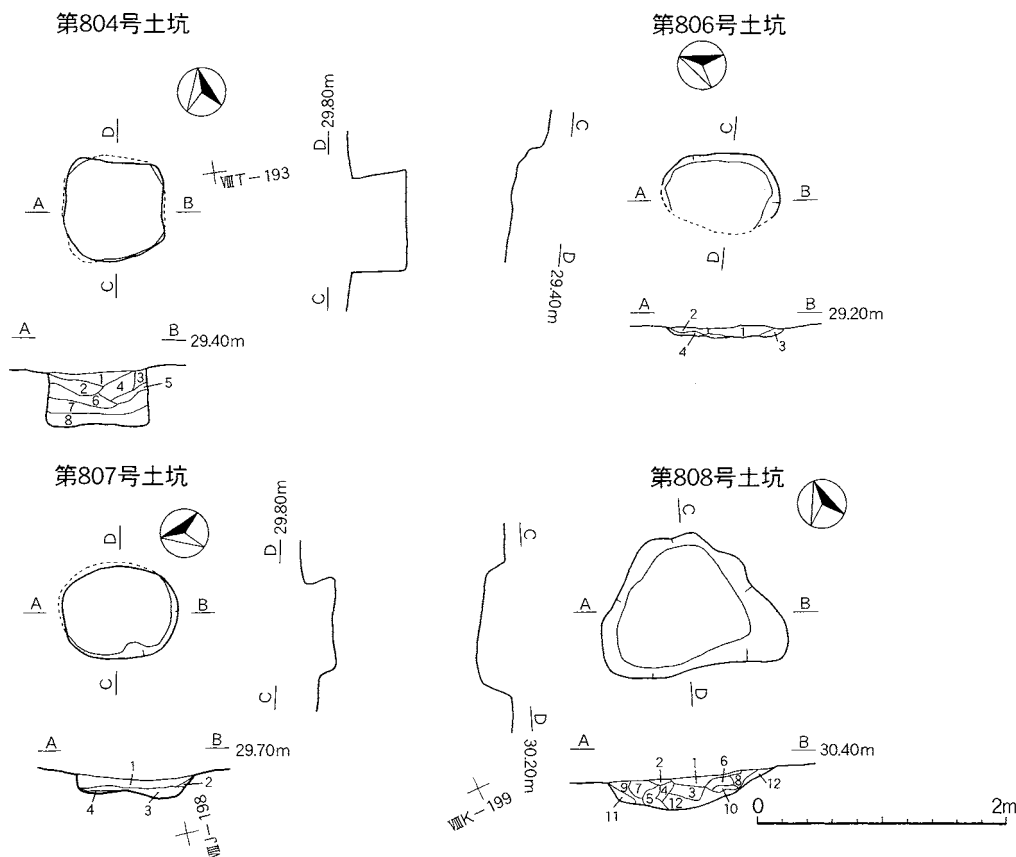
第803号土坑

第1層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~2mm)5%	LB(明赤褐色土 5YR5/6)10%	炭化物(径1~3mm)10%	浮石(径1~2mm)7%	しまり有 粘性なし
第2層	褐色土	10YR4/6	ローム粒(径1~2mm)1%	炭化物(径1~2mm)1%			しまり有 粘性なし
第3層	褐色土	7.5YR4/6	ローム層	炭化物(径1~2mm)3%	浮石(径1~2mm)2%		しまり有 粘性なし
第4層	褐色土	7.5YR4/6	ローム(にぶい褐色土 7.5YR5/4)10%、(褐色土 7.5YR4/6)15%	炭化物(径2~3mm)5%			しまり有 粘性なし
第5層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~2mm)3%				しまり有 粘性なし
第6層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~2mm)5%				しまり有 粘性なし
第7層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~2mm)10%	炭化物(径1~2mm)1%			しまり有 粘性なし
第8層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径2~5mm)10%	黄褐色土(10YR5/8)40%			しまり有 粘性なし
第9層	褐色土	10YR4/6	ローム粒(径1~10mm)10%	炭化物(径1~2mm)2%			しまり有 粘性なし
第10層	褐色土	7.5YR4/4	ローム粒(径1~2mm)10%	LB(径10~30mm)15%	炭化物(径2~10mm)10%		しまり有 粘性やや有
第11層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径1~2mm)5%	ローム(褐色土 7.5YR4/6)30%	炭化物(径1~3mm)3%	浮石(径1~2mm)2%	しまり有 粘性あまりなし
第12層	黄褐色土	10YR5/8	ローム層	粘土(褐灰色土 10YR5/1)1%			しまり有 粘性なし
第13層	褐色土	7.5YR4/4	ローム粒(径1~2mm)5%	LB(暗褐色土 7.5YR3/4)10%	炭化物(径1~2mm)5%		しまり有 粘性やや有
第14層	暗褐色土	10YR3/3	LB(径10~30mm)7%	炭化物(径3~10mm)7%			しまり有 粘性あまりなし
第15層	褐色土	10YR4/6	ローム(褐色土 7.5YR4/6)10%				しまり有 粘性なし
第16層	褐色土	10YR4/6	ローム粒(径1~2mm)3%				しまり有 粘性やや有
第17層	褐色土	7.5YR4/4	炭化物(径2~10mm)8%				しまり有 粘性やや有
第18層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒(径2~3mm)2%	LB(明褐色土 7.5YR5/8)10%	炭化物(径2~10mm)3%		しまり有 粘性なし
第19層	褐色土	7.5YR4/4	LB(明赤褐色土 5YR5/6)5%				しまりやや有 粘性あまりなし

第803号土坑内 ビット1

第1層	褐色土	10YR4/6	ローム粒(径2~5mm)10%	しまりやや有	粘性あまりなし
第2層	褐色土	7.5YR4/6	ローム粒(径2~10mm)3%	しまりあまりなし	粘性あまりなし
第3層	褐色土	7.5YR4/4	ローム粒(径2~5mm)7%	しまりあまりなし	粘性あまりなし
第4層	褐色土	7.5YR4/6		しまりあまりなし	粘性やや有
第5層	明赤褐色土	5YR5/8	褐色土(7.5YR4/6)10%	しまりあまりなし	粘性なし

図93 第801・803号土坑



第804号土坑

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物(径1~2mm)2% 浮石(径1~2mm)7% 褐色土(10YR4/6)30% しまり有 粘性やや有
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~3mm)5% LB(径5~10mm)2% 炭化物(径1~3mm)2% 浮石(径1~2mm)2% しまり有 粘性なし
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~3mm)5% 炭化物(径1~2mm)1% しまりやや有 粘性なし
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~2mm)3% LB(径5~10mm)5% 焼土粒(径1~2mm)1% しまり有 粘性なし
- 第5層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~2mm)2% LB(径5~10mm)1% しまりあまりなし 粘性あまりなし
- 第6層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~2mm)1% LB(径5~10mm)3% 明褐色土(7.5YR5/6)2% しまりあまりなし 粘性なし
- 第7層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~3mm)3% 焼土粒(径1~2mm)2% しまりやや有 粘性なし
- 第8層 暗褐色土 10YR3/4 LB(径35mm)1個 炭化物(径20mm)1個 焼土粒(径1~2mm)2% しまりやや有 粘性有

第806号土坑

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径2~5mm)7% LB(径5~20mm)5% しまり有 粘性やや有
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~5mm)7% 顔料(赤褐色土5YR4/6 径1~3mm)1% しまりなし 粘性やや有
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~2mm)5% しまり有 粘性あまりなし
- 第4層 黄褐色土 10YR5/6 しまりあまりなし 粘性あまりなし

第807号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~2mm)3% 炭化物(径1~5mm)2% しまりやや有 粘性有
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)5% 炭化物(径1~3mm)1% しまりやや有 粘性やや有
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~5mm)7% 炭化物(径1~3mm)1% 黒褐色土(10YR3/1)10% しまりあまりなし 粘性有
- 第4層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)3% 炭化物(径1~2mm)1% しまりやや有 粘性有

第808号土坑

- 第1層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径1~2mm)3% しまりやや有 粘性やや有
- 第2層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径1~2mm)1% しまりやや有 粘性やや有
- 第3層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径2~5mm)3% しまりやや有 粘性なし
- 第4層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径2~5mm)2% しまりあまりなし 粘性あまりなし
- 第5層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~2mm)5% しまりやや有 粘性なし
- 第6層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径1~2mm)5% しまりやや有 粘性やや有
- 第7層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~2mm)7% 黒褐色土(10YR2/3)20% しまりやや有 粘性あまりなし
- 第8層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径2~5mm)15% しまりやや有 粘性あまりなし
- 第9層 褐色土 10YR4/6 浮石(径1~2mm)2% 黒褐色土(10YR2/3)15% しまりやや有 粘性なし
- 第10層 黒褐色土 10YR2/2 ローム20% しまりやや有 粘性あまりなし
- 第11層 黄褐色土 10YR5/8 浮石(径1~2mm)1% しまりやや有 粘性あまりなし
- 第12層 黒褐色土 10YR2/3 ローム40% しまりやや有 粘性なし

図94 第804・806・807・808号土坑

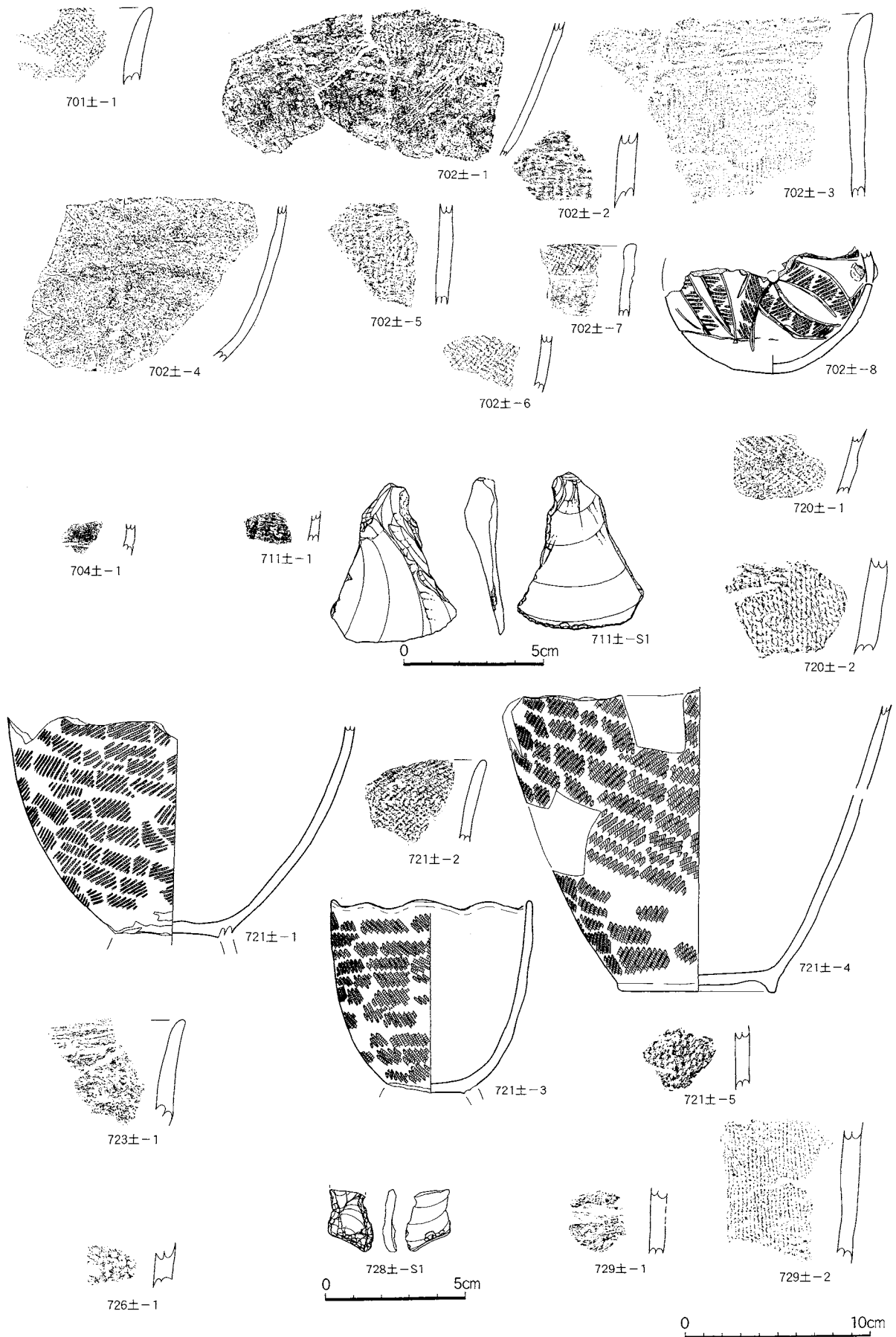


図95 第701・702・704・711・720・721・723・726・728・729号土坑 出土遺物

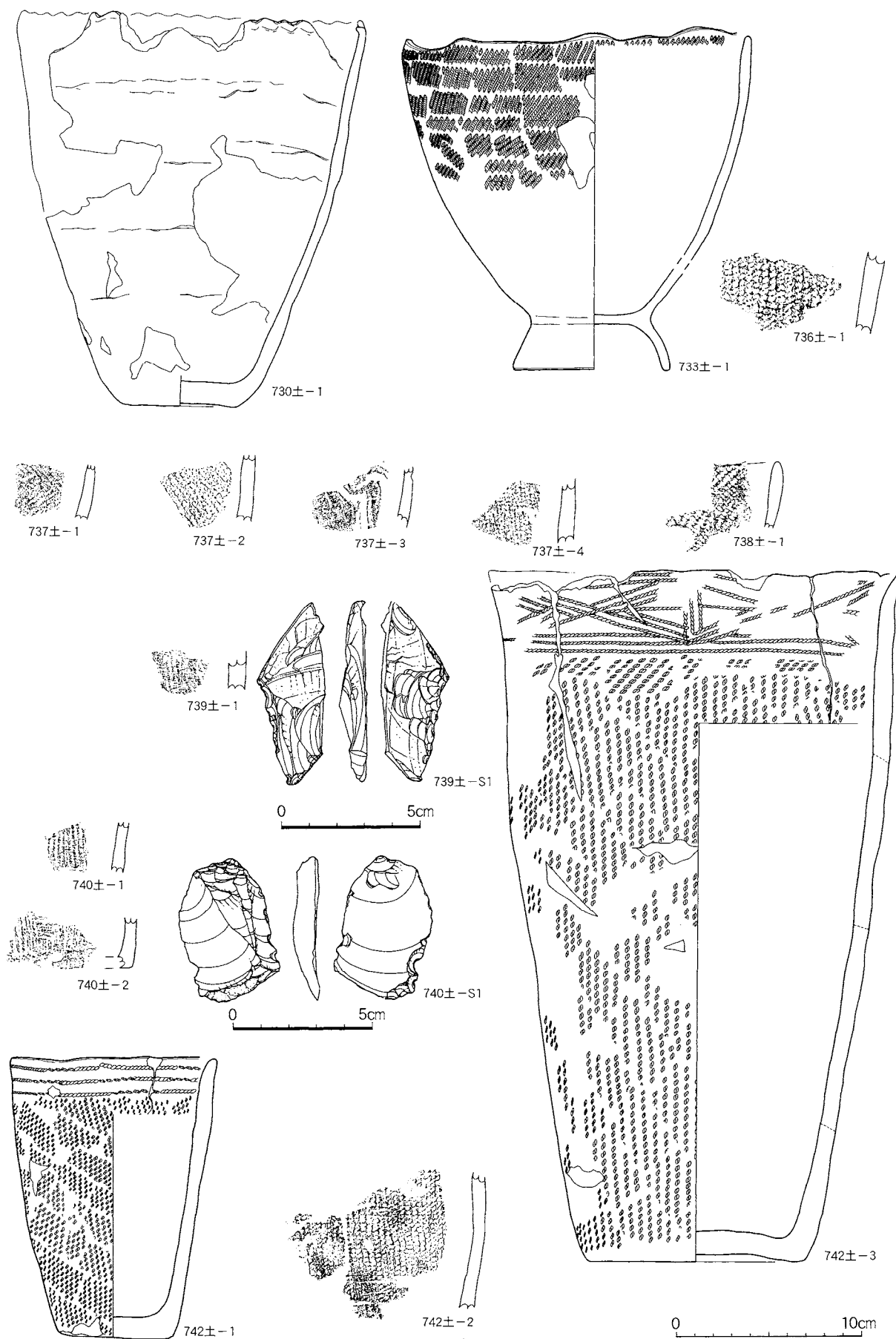


図96 第730・733・736・737・738・739・740・742号土坑 出土遺物

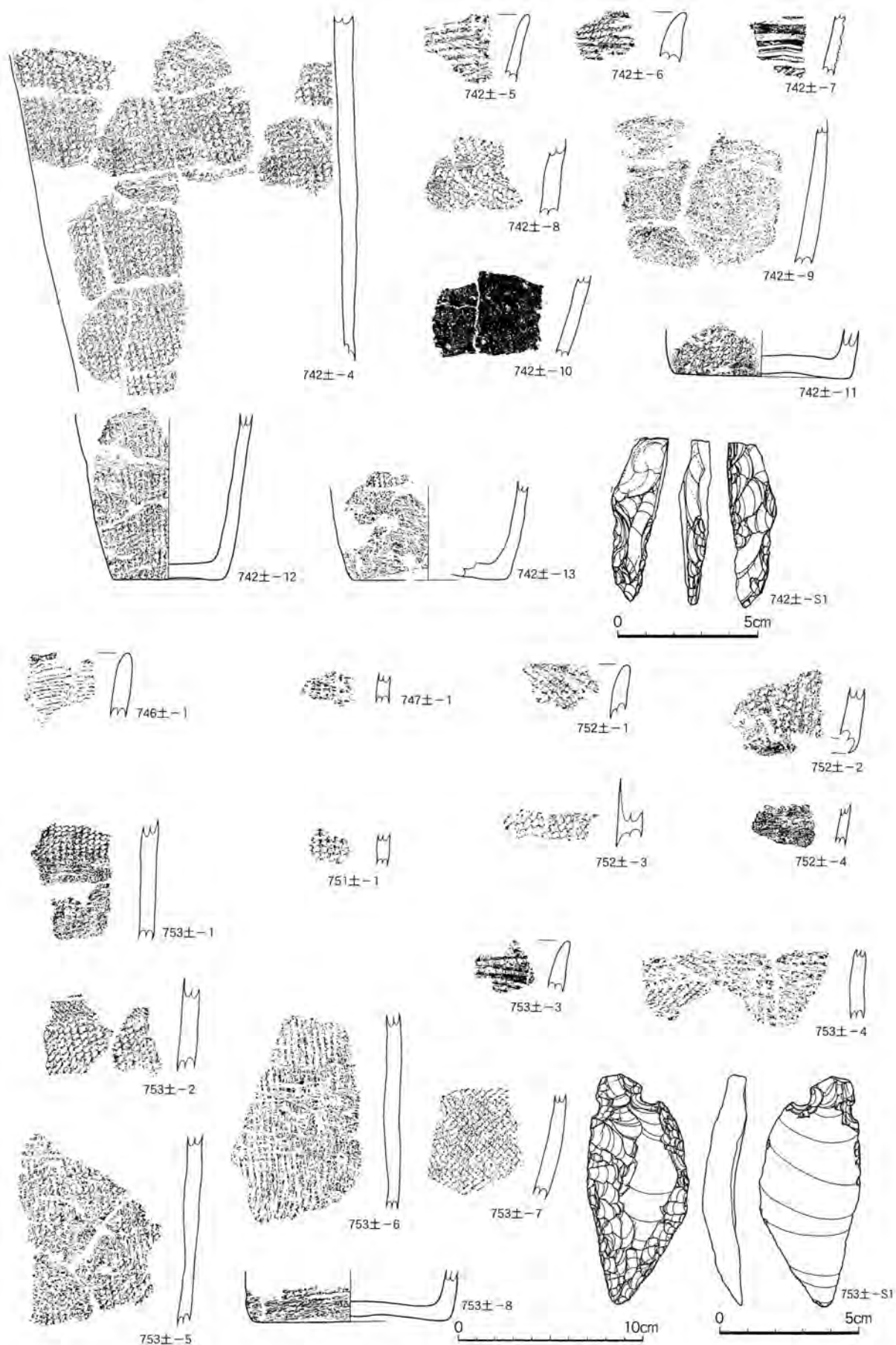


図97 第742・746・747・751・752・753号土坑 出土遺物

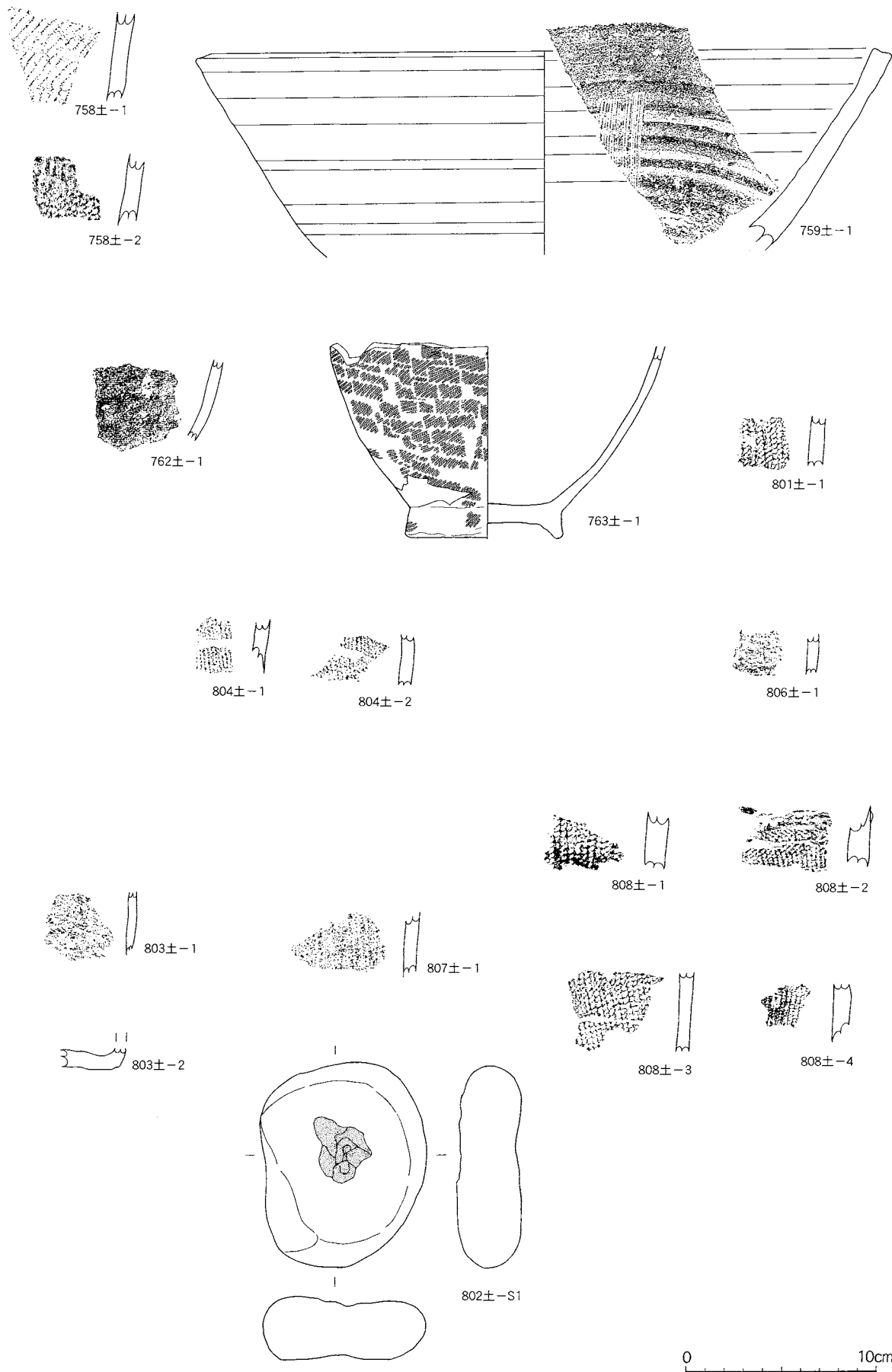


図98 第758・759・762・763・801・803・804・807・808・802号土坑 出土遺物

## 第2節 時期不明の遺構

### 1 竪穴遺構

#### 第301号竪穴遺構 (図99)

[位置・確認] VIII R・S-188・189グリッドに位置する。黒色土の長方形のプランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整長方形で、開口部長径228cm×短径172cm、底部長径210cm×短径157cm、深さは17cmである。

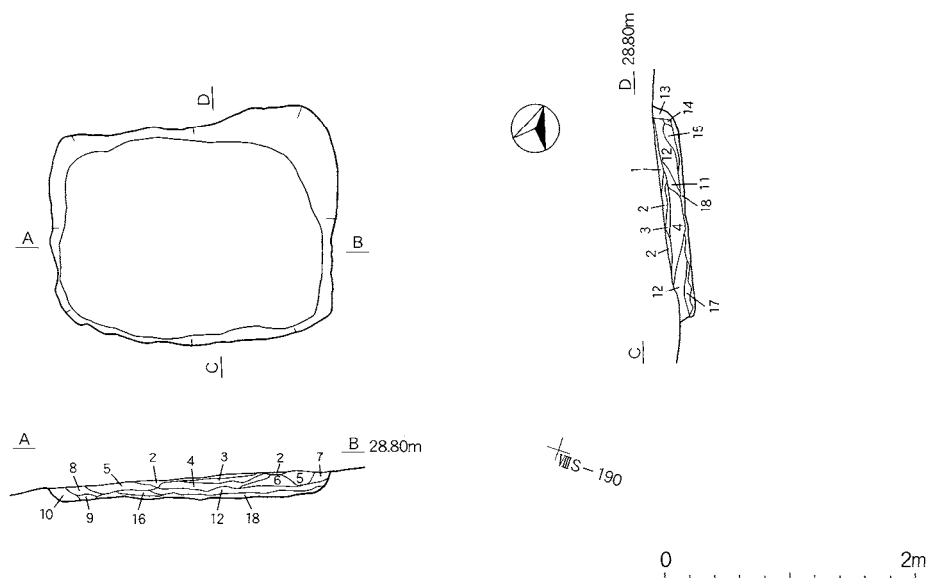
[断面・底面] 壁は南側が比較的垂直に立ち上がるが、北側は比較的緩やかに立ち上がる。底面は中央部から壁に向かってわずかに高くなっている。

[堆積土] 18層に分層できた。

[出土遺物] 出土していない。

[小結] 時代、用途共に不明である。

(相馬信吉)



#### 第301号竪穴遺構

第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~2mm)7%	浮石(径1~2mm)1%	しまり有	粘性なし
第2層	黒色土	10YR2/1	ローム粒(径1~5mm)7%	しまり有	粘性なし	
第3層	黒褐色土	10YR 2/3	ローム粒(径1~2mm)3%	浮石(径1~2mm)2%	しまり有	粘性なし
第4層	黒色土	10YR 2/1	ローム粒(径2~5mm)4%	しまり有	粘性なし	
第5層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~2mm)2%	浮石(径1~2mm)1%	しまり有	粘性なし
第6層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒(径1~2mm)3%	地山のローム(7.5 YR 4/6褐色土 径1~2mm)2%	しまり有	粘性なし
第7層	暗褐色土	10 YR 3/3	ローム粒(径1~2mm)3%	しまり有	粘性なし	
第8層	暗褐色土	10 YR 3/3	にぶい黄褐色土(10YR5/4)30%	炭化物(径1~2mm)1%	しまり有	粘性なし
第9層	褐色土	10YR4/3	黄褐色土(10YR5/6)20%	ローム10%	しまり有	粘性なし
第10層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	ローム30%	炭1%	しまり有	粘性なし
第11層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~2mm)2%	しまり有	粘性なし	
第12層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒(径1~5mm)7%	焼土粒(径1~2mm)1%	炭化物(径1~2mm)1%	しまり有 粘性なし
第13層	暗褐色土	10 YR 3/3	ローム粒(径1~2mm)3%	地山のローム(7.5 YR 4/6褐色土)1%	しまり有	粘性なし
第14層	黒褐色土	10YR 2/3	ローム粒(径1~2mm)2%	しまり有	粘性なし	
第15層	暗褐色土	10 YR 3/3	炭化物(径1~2mm)1%	地山のローム(7.5 YR 4/6褐色土)10%	しまり有	粘性なし
第16層	褐色土	10YR4/4	ローム粒(径2~5mm)2%	地山のローム(7.5 YR 4/6褐色土)2%	炭化物(径1~2mm)1%	しまり有 粘性なし
第17層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒(径1~2mm)3%	しまり有	粘性なし	
第18層	にぶい黄褐色土	10 YR5/4	黒褐色土(10YR2/2)40%	しまり有	粘性やや有	

図99 第301号竪穴遺構



## 2 竪穴建物跡

### 第1号竪穴建物跡 (図100)

〔位置・確認〕 IXE・F-178グリッドに位置する。第2・3号竪穴建物跡などとともに、黒色土の不整形プランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 東西長径は222cm、南北長径は240cmの不整形プランである。南東隅と北壁中央部に張り出す部分がある。南東隅のものは床面から6cm～10cmほど低くなっているが、北壁のそれは竪穴外から緩やかに傾斜している。北壁にわずかな張出部を持っている。

〔壁・床面〕 壁高は最も高い東側で10cm、他は1cm～2cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

〔壁溝〕 確認できなかった。

〔ピット〕 住居内から大小あわせて43基のピットが確認された。ピット1～5の直径は17cm～43cm、深さ14cm～44cmである。そのほかは直径も小さく浅い。概ね、四隅に大きくて深いピットを配し、その間を小さくて浅いピットで構成しているようである。

〔その他の施設〕 確認できなかった。

〔堆積土〕 1層に分層され、自然堆積と思われる。

〔出土遺物〕 縄文土器片が1点出土している

〔小結〕 時期を決定できる遺物は出土していないが、張出部を持つことから、第2・3号竪穴建物跡と同様の遺構と考えられる。

### 第2号竪穴建物跡 (図100)

〔位置・確認〕 IXF・G-179グリッドに位置する。第1・3号竪穴建物跡などとともに、黒褐色土の北西壁に張出部を持つ方形のプランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 長・短径共に250cmの正方形である。北西壁中央部には長さ125cm、幅70cmの舌状に張り出す部分がある。竪穴外から竪穴内へなだらかに低くなる。

〔壁・床面〕 四辺の壁を確認した。壁はやや緩やかに立ち上がる。壁高は11cm～25cmと比較的浅い。床面は10cm位の高低差が見られる。

〔壁溝〕 南東壁の一部で途切れる他は、ほぼ全周する。幅は7cm～17cm、深さは床面から5cm～11cmである。

〔ピット〕 床面や舌状の張出部からは8基のピットを確認している。ピット1～ピット4は四辺の壁のコーナーに位置し、その大きさや深さなどを考えあわせると支柱穴と思われる。

〔その他の施設〕 確認できなかった。

〔堆積土〕 黒色系の2層に分層できた。

〔出土遺物〕 遺物は出土していない。

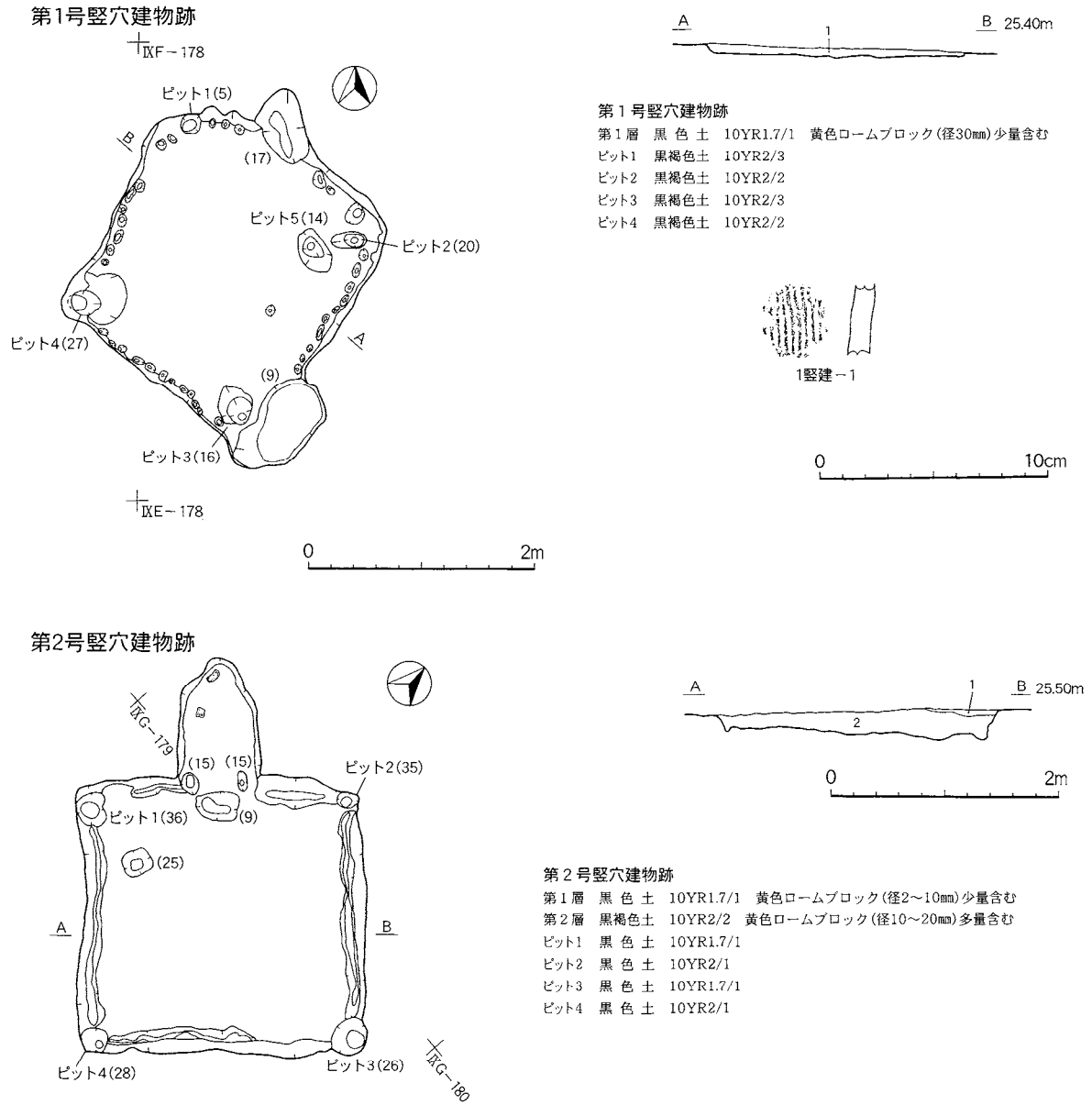


図100 第1・2号竪穴建物跡、第1号竪穴建物跡出土遺物

[小結] 当初、北西壁にカマドを持つ古代の竪穴住居跡と考えて調査を進めた。しかし、堆積土内からは古代の遺物はまったく出土せず、しかもカマドの袖部や火床部などの痕跡はなく、遺構内堆積土にも焼土や粘土などのカマド残骸物もほとんど発見できなかった。これらのことから、カマドを持つ古代の竪穴住居跡ではなく、浪岡町浪岡城や八戸市根城などで検出されている、中世に見られる舌状の張出を持つ竪穴建物跡と考えた方が合理的説明はつくように思える。

### 第3号竪穴建物跡（図101）

〔位置・確認〕 IXG・H-179グリッドに位置する。第1・2号竪穴建物跡などとともに、黒色土の南西壁に張出部を持つ方形のプランとして確認した。北東壁の一部が過去に行われた試掘調査の際に若干壊されている。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 長径260cm、短径258cmの方形である。南西壁ほぼ中央部には長さ130cm、幅85cmの舌状に張り出す部分がある。この部分は床面とほとんど段差は見られず、竪穴外とはおよそ25cmの段差がある。張出部底面の一部には赤変した部分がある。

〔壁・床面〕 四辺の壁を確認した。南東壁が緩やかに立ち上がる以外はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は14cm～29cmである。床面はほぼ平坦である。

〔壁溝〕 張出部がある南西壁側を除いて、途切れる部分があるものの、壁から10cm～40cm内側に入った所に作られている。幅は8cm～20cmとまちまちである。深さは床面から6cm～10cmである。壁溝が途切れる末端部の何方所かにはピットが存在している。その位置からして、床を拡張する前の一時期古い時期ものと考えられる。

〔ピット〕 床面上でピットを14基確認した。壁の直下及び壁溝の末端部に位置している。壁のコーナーに位置しているピットや壁直下に位置するものは、拡張後の建物の柱穴と考えられる。壁溝の末端部に位置するピットは拡張前の古い段階の柱穴と考えられるが、一部は共用された可能性もある。

〔その他の施設〕 確認できなかった。

〔堆積土〕 2層に分層できた。

〔出土遺物〕 覆土から縄文時代後期土器片が数点出土している。

〔小結〕 第2号竪穴建物跡同様、当初は南西壁にカマドを持つ古代の竪穴住居跡として調査を進めた。その後、堆積土内から古代の土器はまったく出土せず、しかもカマドに関連する痕跡をほとんど発見できなかった。これらのことから、浪岡町浪岡城や八戸市根城などで検出されている、中世に見られる舌状の張出を持つ竪穴建物跡と考えた方が合理的説明はつくように思える。

（相馬信吉）

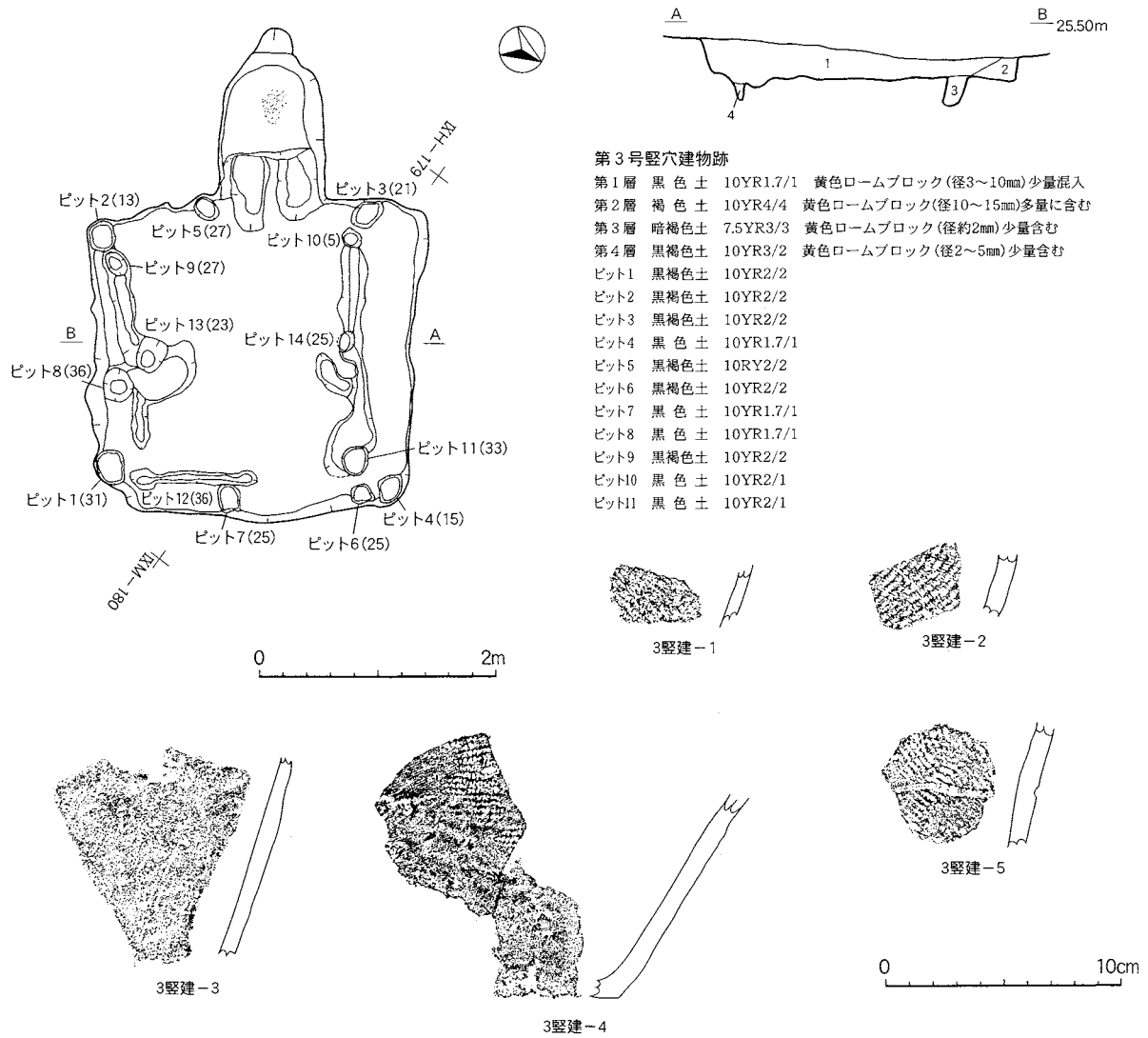


図101 第3号竖穴建物跡、第3号竖穴建物跡出土遺物

### 3 土坑

#### 第703号土坑 (図102)

[位置・確認] IXA-204グリットに位置する。黒色土の円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部長径74cm×短径68cm、底面長径54cm×短径40cm、深さは20cmである。

[断面・底面] 断面形は丸底形で壁は外側に開くように立ち上がっている。底面は平面である。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色土が堆積し、全体にローム粒が混入している。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第706号土坑 (図102)

[位置・確認] IXP-201・202グリットに位置する。黒褐色土の隅丸方形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸方形で、開口部長径81cm×短径70cm、底面長径64cm×短径36cm、深さは24cmである。

[断面・底面] 断面形は四角形で壁は外側に開くように立ち上がっているが、西側はゆるやかになっている。底面は平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色土、黄褐色土主体の覆土構成である。堆積状況から見て、人為的堆積と思われる。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第707号土坑 (図102)

[位置・確認] IXQ-202グリットに位置する。黒褐色土の円形プランとして確認した。

[重複] 第709号土坑と重複する。平面プラン観察時には新旧関係は不明であったが、土層断面観察等により第709号土坑よりも本土坑の方が新しいと判断した。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部長径124cm×短径116cm、底面長径55cm×短径44cm、深さは30cmである。

[断面・底面] 断面形は四角形で壁は直立気味またはやや開くように立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色土、黄褐色土主体の構成である。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第708号土坑 (図102)

[位置・確認] IXS-203グリットに位置する。黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部長径85cm×短径55cm、底面長径84cm×短径34cm、深さは34cmである。

[断面・底面] 断面形は丸底形で壁は外側に開くように立ち上がっている。底面の長径の両端には、径30cmほどの穴がある。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色土、黒色土が堆積し、全体にローム粒が少量混入している。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第709号土坑 (図102)

[位置・確認] IXQ-202グリットに位置する。黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] 第707号土坑と重複する。平面プラン観察時には新旧関係は不明であったが、土層断面観察等により第707号土坑よりも、本土坑の方が古いと判断された。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部長径110cm×残存短径53cm、底面長径90cm×残存短径52cm、深さは40cmである。

[断面・底面] 断面形は第707号土坑との重複により、推定になるが、おそらく四角形になるものと思われる。壁は北側がオーバーハングし、他はほぼ垂直に立ち上がる。北東側を除いて中場を呈する。

[堆積土] 3層に分層され、にぶい黄褐色土主体である。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第710号土坑 (図102)

[位置・確認] IXQ・P-202グリットに位置する。黒色土の隅丸方形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は隅丸方形で、開口部長径102cm×短径104cm、底面長径82cm×短径74cm、深さは28cmである。

[断面・底面] 壁は西側がやや垂直気味に、他は底面から外側に開くように立ち上がる。底面はやや凹凸が見られる。

[堆積土] 3層に分層され、黒褐色土、にぶい黄褐色土主体の堆積である。堆積状況から、自然堆積と思われる。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第713号土坑 (図102)

[位置] IXM-192グリッドに位置する。第714号土坑に隣接し、黒褐色土の不整隅丸長方形のプランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整隅丸長方形で、開口部長径146cm×短径64cm、底面長径121cm×短径48cm、深さは20cmである。

[断面・底面] 壁はいずれも底面からやや緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 2層に分層できた。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第714号土坑 (図102)

[位置] IXN-192グリッドに位置する。第713号土坑に隣接し、黒色土の楕円形のプランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部長径116cm×短径78cm、底面長径84cm×短径60cm、深さは34cmである。

[断面・底面] 壁は底面から緩やかに立ち上がる。底面は中央部が若干低く、壁際にいくにしたがって高くなる。

[堆積土] 2層に分層できた。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第715号土坑 (図102)

[位置・確認] IXM-190・191グリッドに位置する。第16号土坑に隣接して、黒色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部長径153cm×短径54cm、底面長径140cm×短径44cm、深さは50cmである。

[断面・底面] 断面形は丸底形で壁は外側に緩く開くように立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 堆積土は黒色土が1層で、ロームブロックが混入している。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第716号土坑 (図103)

[位置・確認] IXM-190グリッドに位置する。第15号土坑に隣接して、黒色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部長径210cm×短径50cm、底面長径205cm×短径40cm、深さは60cmである。

[断面・底面] 断面形は丸底形で壁は外側に緩く開くように立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 2層に分層した。黒褐色土、黒色土が堆積し、全体にロームブロックが少し混入している。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第717号土坑 (図103)

[位置・確認] IX I・J-193・194グリットに位置する。黒色土の周辺を黄褐色土の火山灰が囲む形で確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整隅丸長方形で、開口部長径196cm×短径100cm、底面長径155cm×短径46cm、深さは17cmである。

[断面・底面] 壁はなだらかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 6層に分層した。そのうち、第2・4層は火山灰で形成されていた。第2層は黄褐色であり、粒子が細かく、第4層はにぶい黄橙色で粒子がやや粗かった。おそらく第2層は白頭山-苦小牧火山灰、第4層が十和田a火山灰ではないかと思われる。第6層については、草根痕と思われる。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 火山灰の堆積状況から見て、10世紀初頭には本土坑はすでに廃絶されていたものと思われる、それ以前のものと思われる。

#### 第718号土坑 (図103)

[位置・確認] IXI-190グリットに位置する。黒褐色土の円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部長径180cm×短径155cm、底面長径150cm×短径145cm、深さは35cmである。

[断面・底面] 壁はほぼ垂直立ち上がるが西壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが北側から南側に向かって傾斜している。

[堆積土] 堆積は1層で、黒褐色土で、浮石が若干混入している。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第722号土坑 (図103)

[位置・確認] IXD-189グリットに位置する。黒褐色土の円形プランを確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 西壁がすでに壊されているが、平面形はほぼ円形と考えられる。規模は開口部で、径125cm、底面の径が113cmと推定される。深さは15cmである。

[断面・底面] 壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。



[堆積土] 堆積土は1層で、暗褐色土で堆積し、全体にロームブロック、浮石が多量に混入し、人為的堆積を示している。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第724号土坑 (図103)

[位置・確認] IX B-193グリットに位置する。黒褐色土の円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、規模は開口部長径125cm×短径122cm、底面長径126cm×短径126cm、深さは30cmである。

[断面・底面] 断面は、四角形を呈するが、壁は少しだけ内側にオーバーハングしている。底面は平坦である。

[堆積土] 堆積土は、黒褐色土1層で堆積し、5mm～10mmほどのロームブロックが多量に含んでいる。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第725号土坑 (図103)

[位置・確認] IX B・C-192グリットに位置する。暗褐色土の円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形である。規模は開口部長径155cm×短径144cm、深さは29cmである。

[断面・底面] 壁は、北西壁、南壁が少しオーバーハングしている。底面は平坦である。

[堆積土] 堆積土は13層に分けられる。全体的にロームブロックが混入している。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第727号土坑 (図103)

[位置・確認] IX C-191グリットに位置する。褐色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形で、開口部長径1.80m×短径1.30m、底面長径2m×1.50m、深さ44cmである。

[断面・底面] 断面形はフラスコ状を呈し、壁は北東側を除いて、2cm～18cm程オーバーハングしている。底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 1層に分層した。堆積状況から人為的堆積と思われる。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第728号土坑 (図104)

[位置] IX C-190グリットに位置する。にぶい黄褐色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は楕円形を呈し、開口部長径230cm×短径164cm、底面長径234cm×短径162cm、深さ61cmである。

[断面・底面] 断面形はフラスコ状を呈し、壁は南北側で3cm～10cm程オーバーハングしている。底面はほぼ平坦で、やや東側と南東の壁際から2基の小ピットが確認された。東側のピットは直径14cm程、深さ17cmで断面形が2cmオーバーハングしている。南東側のピットは直径30cmで、深さ16cmである。

[堆積土] 2層に分層され人為的堆積と思われる。

[出土遺物] 1層から削器が1点出土した。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第731号土坑 (図104)

[位置] IX A・B-187グリットに位置する。黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 削平を受けているため、西側の壁面が確認出来なかったが、残存部から推定して楕円形になると思われる。残存開口部短径110cm、残存底面短径が130cm。開口部・底面の長径は不明で深さ14cmである。

[断面・底面] 西側の壁面が確認できなかったが、残存部の壁はゆるやかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 1層に分層される。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第732号土坑 (図104)

[位置] IX B-187グリットに位置する。褐色土の楕円形プランとして確認した。

[重複] 第304号溝状土坑と重複している。新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 削平を受けていることや第304号溝状土坑と重複していたため、全容はつかめないが、残存部から推定して楕円形になると思われる。残存開口部長径116cm、残存底面長径112cm、深さ6cm程である。

[断面・底面] 西側の壁面が確認出来なかったが、残存部の壁は南側と北東側がややゆるやかに立ち上がっていて、他はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや凹凸が見られる。

[堆積土] 2層に分層される。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

**第734号土坑（図104）**

〔位置〕 IX C・D-184グリットに位置する。黒褐色土の円形プランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は円形を呈し、開口部長径110cm×短径110cm、底面長径112cm×105cm、深さ22cm程である。

〔断面・底面〕 壁は北東側で2cm程オーバーハングしている所がある以外は、ややなだらかに立ち上がる。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 2層に分層された。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔小結〕 時期・用途共に不明である。

**第735号土坑（図104）**

〔位置〕 IX C-184グリットに位置する。暗褐色土の落ち込みとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 削平を受けているため、南側の壁を確認することが出来なかったが、残存部から推定して、隅丸長方形に近い形になると思われる。開口部・底面の長径・短径ともに不明である。

〔断面・底面〕 壁はややなだらかに立ち上がる。底面はほぼ平坦であり、北側に長径74cm×短径38cm、深さ21cm。本土坑の南西側になるとと思われる所に直径20cm、深さ8cm程のピットが2基確認されている。用途は不明である。

〔堆積土〕 3層に分層された。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔小結〕 時期・用途共に不明である。

**第741号土坑（図91）**

〔位置〕 IX C-192グリットに位置する。黒褐色土の円形プランとして確認した。

〔重複〕 第742号土坑と重複している。断面観察から本土坑の方が新しいと判断した。

〔平面形・規模〕 西側が第742号土坑と重複しているため、全容はつかめなかったが、残存部から推定して、円形に近い形になるものと思われる。残存開口部長径146cm、底面長径140cm、深さ8cm程である。開口部、底面ともに短径は不明である。

〔断面・底面〕 壁は北東側が2cm程オーバーハングしている以外はほぼ垂直に立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 2層に分層された。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔小結〕 時期・用途共に不明である。

**第743号土坑（図104）**

〔位置〕 IX C-186グリットに位置する。第208号竪穴住居跡を精査中に黒褐色土の不整円形プラン

として確認した。

[重複] なし。第208号竪穴住居内から確認されているが、住居との関係は不明である。

[平面形・規模] 削平の為南西側の壁が確認出来なかったが、残存部から推定して平面形は不整円形になると思われる。開口部長径92cm×短径84cm、底面長径52cm×短径49cm、深さ12cm程である。

[断面・底面] 壁はなだらかに立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 1層しか確認できなかった。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第744号土坑 (図104)

[位置] IXD-186グリットに位置する。第208号竪穴住居跡を精査中に黒褐色土の不整楕円形プランとして確認した。

[重複] なし。第208号竪穴住居内から確認されているが、住居との関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整楕円形を呈し、開口部長径92cm×短径84cm、底面長径66cm×短径56cm、深さ5cmである。

[断面・底面] 壁はなだらかに立ち上がる。底面はほぼ平坦であり、その北側に直径17cm、深さ6cmのピットが確認されている。

[堆積土] 1層しか確認できなかった。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第745号土坑 (図104)

[位置] IXE-179グリットに位置する。黒褐色土の不整楕円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整楕円形を呈し、開口部長径180cm×短径118cm、底面長径141cm×短径102cm、深さ51cmである。

[断面・底面] 壁はなだらかに立ち上がる。底面はやや凹凸が見られる。その南東側に長径40cm×短径26cm、深さ10cm程のピットが確認されている。

[堆積土] 4層に分層される。第3・4層に関しては、本来土坑を形成していた壁面が崩落したものと思われる。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第748号土坑 (図105)

[位置] IXB-184グリットに位置する。黒褐色土の方形プランとして確認した。

[重複] 第749号土坑と重複している。本土坑の方が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整正方形を呈し、開口部長径234cm×短径210cm、底面長径240cm×短

径202cm、深さ30cm程である。

[断面・底面] 壁は東側が4cm程オーバーハングしている以外はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや凹凸が見られる。東側に直径18cmのビットが見られ、深さ19cmである。

[堆積土] 2層に分層される。堆積状況から人為的堆積と思われる。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第749号土坑 (図105)

[位置] IXA・B-184グリットに位置する。暗褐色土の円形プランとして確認した。

[重複] 第748号土坑と重複している。本土坑の方が古い。

[平面形・規模] 第748号土坑と重複し、全容は不明だが、おそらく円形に近い形になるのではないかと思われる。開口部短径98cm、底面短径83cm、深さ14cm程である。

[断面・底面] 壁はややゆるやかに立ち上がる。底面はやや凹凸が見られる。

[堆積土] 1層しか確認できなかった。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第750号土坑 (図105)

[位置] IXC-188グリットに位置する。暗褐色土の不整隅丸方形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整隅丸方形を呈し、開口部長径110cm×短径94cm、底面長径108cm×短径80cm、深さ14cmである。

[断面・底面] 壁は南東側と西側の一部で3～4cm程オーバーハングしている所があるが、それ以外はややゆるやかに立ち上がる。

[堆積土] 1層しか確認できなかった。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第754号土坑 (図105)

[位置] IXA-189グリットに位置する。黒褐色土の円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形を呈し、開口部長径138cm×短径134cm、底面長径124cm×短径122cm、深さ58cmである。

[断面・底面] 壁はややなだらかに立ち上がる。底面はやや凹凸が見られる。

[堆積土] 11層に分層される。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第755号土坑（図105）

〔位置〕 IX A-188グリットに位置する。暗褐色土の不整円形プランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 木の根による攪乱のため、西側の壁が確認出来なかったが、残存部から推定して不整円形になるものと思われる。開口部短径108cm、底面短径98cm、深さ8cm程である。開口部、底面ともに長径が不明である。

〔断面・底面〕 壁は東側が5cm程オーバーハングしているそれ以外はややなだらかに立ち上がっている。底面は攪乱によるためか、凹凸が見られる。

〔堆積土〕 2層に分層される。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔小結〕 時期・用途共に不明である。

#### 第756号土坑（図105）

〔位置〕 IX E-187グリットに位置する。黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

〔重複〕 第757号土坑と重複し、本土坑の方が古い。また、第763号土坑と重複し、本土坑の方が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈し、開口部長径118cm×短径96cm、底面長径109cm×残存短径87cm、深さ31cmである。

〔断面・底面〕 壁の東側は切り合い関係のため不明であるが、それ以外はややなだらかに立ち上がっている。底面は凹凸が見られる。南西側に直径33cm、深さ14cmのピットが確認されている。

〔堆積土〕 1層に分層される。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔小結〕 時期・用途共に不明である。

#### 第757号土坑（図105）

〔位置〕 IX E-187グリットに位置する。黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

〔重複〕 第756号土坑より新しい。第763号土坑との新旧関係は不明である。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈し、開口部長径143cm×短径130cm、底面長径178cm×156cm、深さ43cmである。

〔断面・底面〕 壁はすべての方向で10～16cm程オーバーハングしていてフラスコ状を呈する。底面はやや凹凸が見られる。

〔堆積土〕 2層に分層される。

〔出土遺物〕 出土しなかった。

〔小結〕 時期・用途共に不明である。

#### 第759号土坑（図105）

〔位置〕 IX B・C-176グリットに位置する。黒色土の円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形を呈し、開口部長径121cm×短径120cm、底面長径52cm×50cm、深さ97cmである。

[断面・底面] 断面形は箱形を有し、外側に開くように壁が立ち上がっている。底面は平坦である。

[堆積土] 3層に分層される。人為的堆積と思われる。

[出土遺物] 覆土から中世の珠洲焼（13世紀後半）が1点出土している。

[小結] 出土遺物からすると、中世の土坑と考えられる。

#### 第760号土坑（図105）

[位置] IX B・C-177に位置する。黒色土の不整円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整円形プランを呈し、開口部長径106cm×短径100cm、底面長径40cm×30cm、深さ81cmである。

[断面・底面] 断面形は箱形を有し、外に開くように立ち上がっている。底面は平坦である。

[堆積土] 降雨のため、土層観察用の畔が崩れ落ちてしまったため、観察できなかった。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第761号土坑（図106）

[位置] IX E-177グリットに位置する。

[重複] 第764号土坑と重複し、本土坑の方が新しい。

[平面形・規模] 平面形は円形を呈し、開口部長径88cm×短径84cm、底面長径75cm×短径74cm、深さ63cm程である。

[断面・底面] 壁はややなだらかに立ち上がる。底面は平坦である。

[堆積土] 4層に分層される。人為的堆積である。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第763号土坑（図105）

[位置] IX E-187グリットに位置する。黒褐色土の不整楕円形プランとして確認した。

[重複] 第756号土坑より新しい。第757号土坑との新旧関係は不明である。

[平面形・規模] 平面形は不整楕円形を呈するものと思われ、開口部短径130cm、底面短径135cm、深さ20cm程である。開口部、底面長径ともに不明である。

[断面・底面] 壁は南西側が5cm程オーバーハングしている以外はなだらかに立ち上がっている。底面はほぼ平坦である。西側に直径28cm、深さ27cm程のピットが確認されている。

[堆積土] 1層しか確認できなかった。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第764号土坑 (図106)

[位置] IX E-177グリッドに位置する。

[重複] 第761号土坑と重複し、本土坑の方が古い。

[平面形・規模] 平面形は不整隅丸長方形を呈し、開口部長径208cm×短径156cm、底面長径185cm×短径140cm、深さ40cm程である。

[断面・底面] 壁はほぼ真っ直ぐに立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、東壁近くに落ち込みが見られる。

[堆積土] 3層に分層された。いずれも黒色系の土である。

[出土遺物] 出土しなかった。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第802号土坑 (図106)

[位置] VIII S-189グリッドに位置する。黒褐色土の円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は円形で、開口部長径124cm×短径112cm、底部長径72cm×短径58cm、深さは33cmである。

[断面・底面] 断面形は丸底形、壁は緩やかに立ち上がる。底部は中央部から壁際に向かってわずかに傾斜している。

[堆積土] 7層に分層できた。黒色系の土がほとんどで、炭化物が全般的に混入している。

[出土遺物] 第7層から凹み石が1点出土した。

[小結] 時期・用途共に不明である。

#### 第805号土坑 (図106)

[位置] VIII K-195グリッドに位置する。第106号土坑と隣接している。黒褐色土の不整円形プランとして確認した。

[重複] なし。

[平面形・規模] 平面形は不整円形で、開口部長径87cm×短径73cm、底部長径82cm×短径80cm、深さは20cmである。

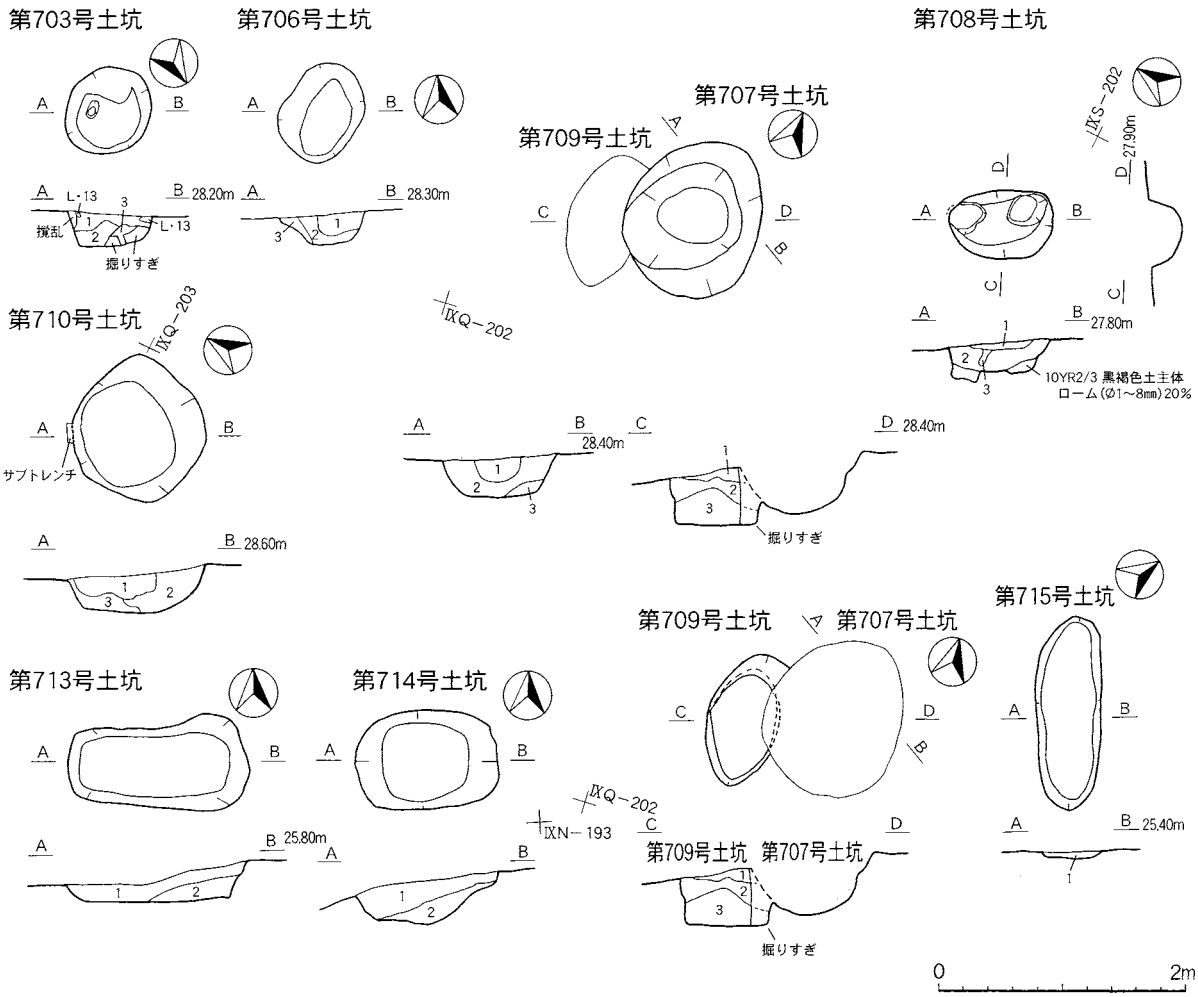
[断面・底面] 壁は西側がやや緩やかに立ち上がり、東側はオーバーハングしている。底面はほぼ平坦である。

[堆積土] 8層に分層できた。褐色系の土が大半である。

[出土遺物] 出土していない。

[小結] 時期・用途共に不明である。





第703号土坑

第1層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径0.1~1.0cm)3% 炭化粒(径0.1cm未満)微量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径0.2~0.5cm)10% 炭化粒(径0.1cm)1%  
 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径0.1~0.4cm)3% 10YR3/4 暗褐色土混入

第706号土坑

第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1mm)1%  
 第2層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒(径2~5cm)10%  
 第3層 黄褐色土 10YR5/6 黒色土(径1~3mm)3%

第707号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1mm)1%  
 第2層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム(径1~3cm)5%  
 第3層 灰黄褐色土 10YR5/2 ローム(径1~5cm)10%

第708号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物(径3~4mm)1%未満 ローム(径1~2mm)1% 浮石(径2~3mm)1% しまり有 粘性なし  
 第2層 黒褐色土主体 10YR2/2 ローム(径1~4mm)1% 浮石(径2mm)1% しまり有 粘性なし  
 第3層 黒色土 10YR1.7/1 ローム(径1mm以下)1% しまりなし 粘性なし

第709号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1mm)1%  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~2mm)3% ロームブロック(径3cm)1%  
 第3層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ローム粒(径1mm)1%

第710号土坑

第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1mm)ごく微量  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1mm)1%  
 第3層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 ロームブロック(径2~8cm)3%

第713号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径約2mm)若干含む  
 第2層 黒褐色土 10YR3/1 ローム粒(径2~8mm)多量

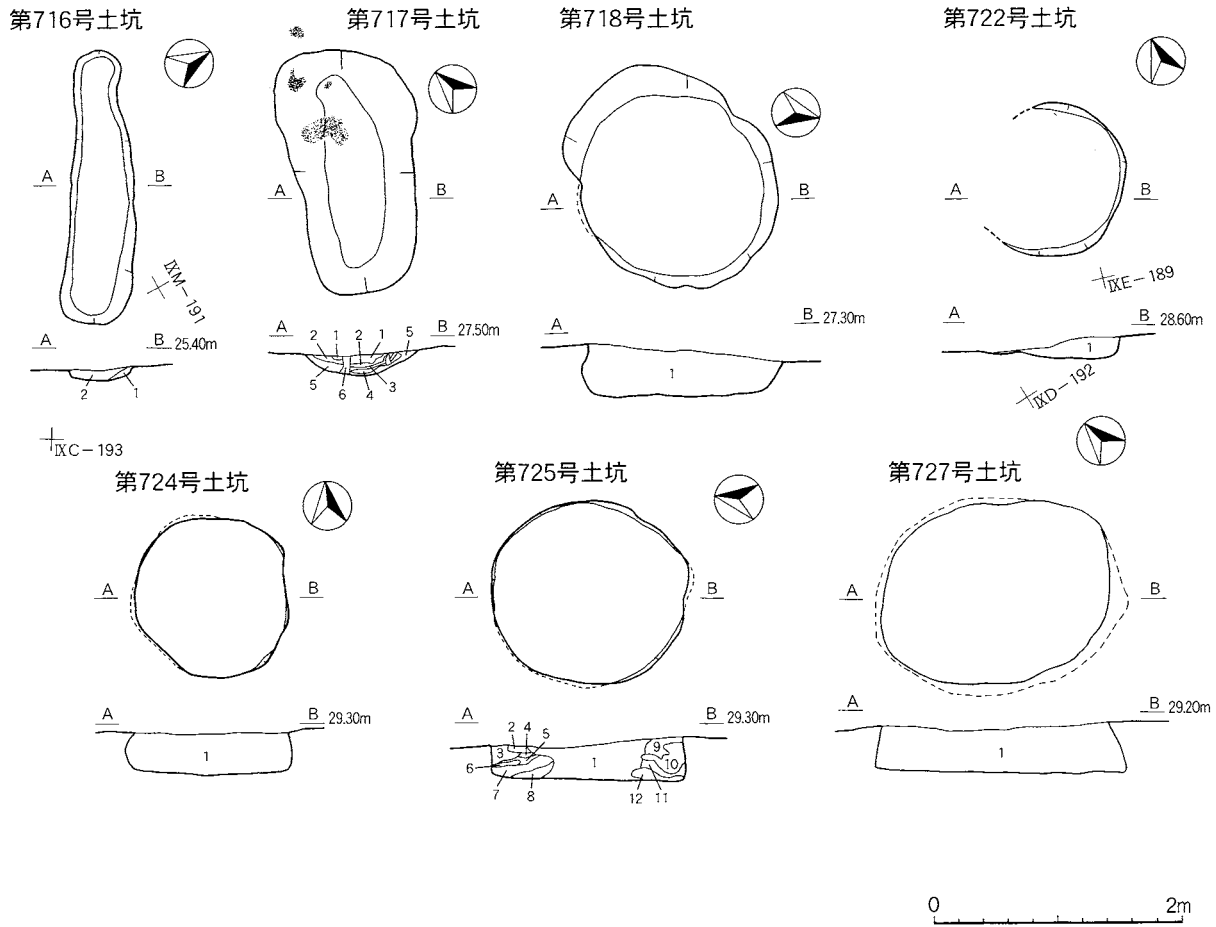
第714号土坑

第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径2~5mm)わずかに含む  
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~2mm)若干 ロームブロック(径4~5cm)わずかに含む

第715号土坑

第1層 黒色土 10YR2/1 ロームブロック(径約5cm)わずかに混入

図102 第703・706・707・708・709・710・713・714・715号土坑



第716号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ロームブロック(径約3cm)わずかに混入
- 第2層 黒色土 10YR2/1 ロームブロック(径約5cm)わずかに混入

第717号土坑

- 第1層 黒色土 10YR2/1 白頭山火山灰(径1~5mm)3% 十和田(?)火山灰(径1~3mm)1%未満
- 第2層 黄褐色土 10YR5/6 (白頭山火山灰) 黒色土(径1~5mm)2% キメが細かい
- 第3層 黒色土(炭層)10YR1.7/1 白頭山火山灰(径1mm)1%未満
- 第4層 にぶい黄褐色土(十和田b火山灰)10YR6/3 黒色土(径1~5mm)2% キメがやや荒い
- 第5層 暗褐色土 10YR3/3 白頭山火山灰(径1~2mm)1% 十和田b火山灰(径1~3mm)2% \*草根痕有
- 第6層 暗褐色土(草根痕) 10YR2/3 黒色土 1%未満混入

第718号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 浮石粒(径2~10mm)若干含む 比較的バサバサしている

第722号土坑

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・焼土粒・炭化粒(径1mm)若干含む

第724号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 黄色ロームブロック及びピンクロームブロック(径5~10mm)多量 炭化粒を若干含む

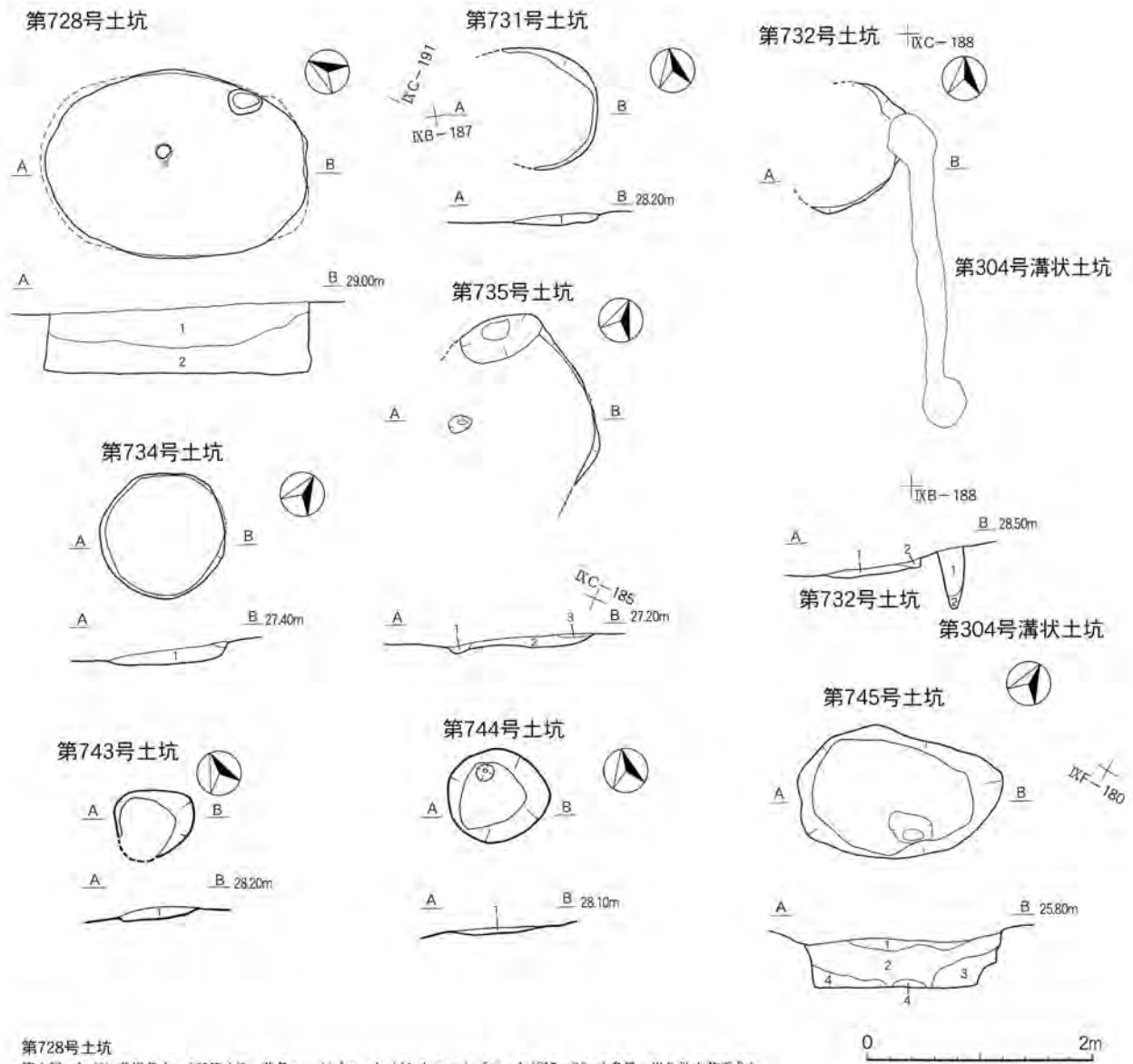
第725号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 黄色・ピンクロームブロック(径2~15mm)若干含む
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 黄色ロームブロック(径5mm)多量 炭化粒を若干含む
- 第3層 黄褐色土 10YR5/8 黄色ロームブロック主体層
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 炭化粒多量
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 炭化粒多量 黄色ロームブロック(径2mm)若干含む
- 第6層 黄褐色土 10YR5/8 黄色ロームブロック主体層
- 第7層 黄褐色土 10YR5/8 黄色ロームブロック主体層
- 第8層 黒褐色土 10YR2/3 黄色ロームブロック及び炭化粒(径2~5mm)若干含む
- 第9層 暗褐色土 10YR3/3 黄色ロームブロック(径2~5mm)若干含む
- 第11層 褐色土 10YR4/4 黄色ロームブロック主体層
- 第12層 黒褐色土 10YR2/2 黄色ローム及び炭化粒(径1~2mm)若干含む
- 第13層 褐色土 10YR4/4 黄色ロームブロック主体層

第727号土坑

- 第1層 褐色土 10YR4/4 ピンクロームブロック(径1~2cm)多量に含む いっきに埋め戻した可能性あり

図103 第716・717・718・722・724・725・727号土坑



第728号土坑

第1層 ぶい黄褐色土 10YR4/3 黄色ロームブロック・ピンクロームブロック(径5~20mm)多量 炭化粒を若干含む  
 第2層 暗褐色土 10YR3/4 黄色ロームブロック・ピンクロームブロック(径5~20mm)多量 炭化粒を若干含む

第731号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/3 ピンクロームブロック・黄色浮石ブロック(径5~10mm)多量 木炭粒を若干含む

第732号土坑

第1層 褐色土 10YR4/6 ロームブロック(径2~30mm)多量  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック(径30mm)若干含む

第734号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/2 黄色ロームブロック(径2~5mm)若干含む  
 第2層 黄褐色土 10YR5/8 黄色ロームブロック層

第735号土坑

第1層 暗褐色土 10YR3/4 非常にバサバサしている 黄色ロームブロック(径5mm)多く含む  
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 黄色ロームブロック(径5~30mm)若干含む  
 第3層 黄褐色土 10YR5/6 黄色ロームブロック主体層

第743号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム(径1mm~15cm)10% しまり有 粘性有

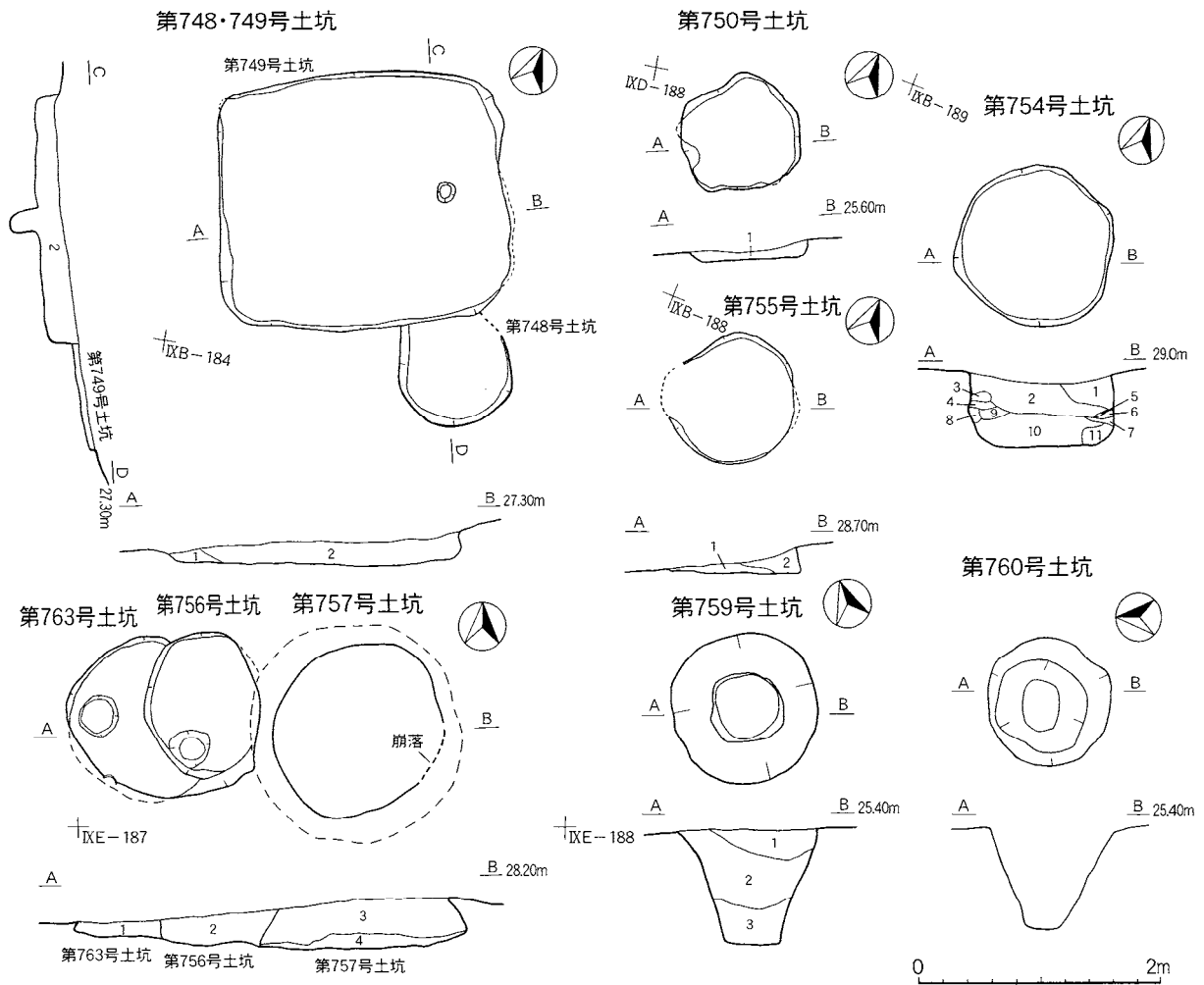
第744号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム(径1~30mm)2% しまり有 粘性有

第745号土坑

第1層 黒褐色土 10YR2/2 黄色ロームブロック(径5~10mm)少量  
 第2層 黒色土 10YR2/1 黄色ロームブロック(径5~15mm)少量 炭化粒微量  
 第3層 黄褐色土 10YR5/6 黄色ロームブロック(径20~40mm)多量  
 第4層 褐色土 10YR4/6 黄色ロームブロック主体層

図104 第728・731・732・734・735・743・744・745号土坑



第748号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 黄色ロームブロック(径10~30mm)少量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 黄色ロームブロック(径10~50mm)多量

第749号土坑

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 黄色ロームブロック(径2~5mm)少量 木炭粒を微量に含む

第750号土坑

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~5mm)1% 炭化物粒(径1~10mm)1%未滿 しまり有 粘性有

第754号土坑

- 第1層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 黄色ロームブロック(径2~10mm)多量 炭化粒少量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 黄色ロームブロック(径2~7mm)少量
- 第3層 褐色土 10YR4/6 黄色ロームブロック主体層
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 黄色ロームブロック(径2~5mm)多量
- 第5層 褐色土 10YR4/6 黄色ロームブロック主体層
- 第6層 黒褐色土 10YR2/3 黄色ロームブロック(径2~6mm)少量
- 第7層 褐色土 10YR4/6 黄色ロームブロック主体層
- 第8層 褐色土 10YR4/6 黄色ロームブロック主体層
- 第9層 褐色土 10YR4/6 黄色ロームブロック主体層
- 第10層 黒色土 10YR2/1 黄色ロームブロック(径2~15mm)少量
- 第11層 記載忘れ

第755号土坑

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 ピンクロームブロック多量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 炭化粒微量

第763・756・757号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 黄色浮石(径15mm)3% ローム粒(径10mm)2%
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 黄色浮石(径20mm)5% ローム粒(平均径3mm最大径30mm)3% 炭化粒(径3mm)1%
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム(径10mm最大径7cm)5% 黄色浮石(径10mm)2%
- 第4層 黒色土 10YR1.7/1 粘土ブロック(径15mm)3% 黄色浮石(径5mm)1%

第759号土坑

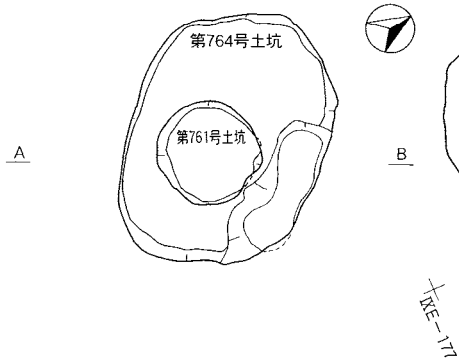
- 第1層 黒色土 7.5YR1.7/1 黄色ロームブロック(径15~40mm)少量 炭化粒微量
- 第2層 褐色土 10YR4/4 黄色ロームブロック(径25~40mm)多量
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 黄色ロームブロック(径約30mm)少量

第760号土坑

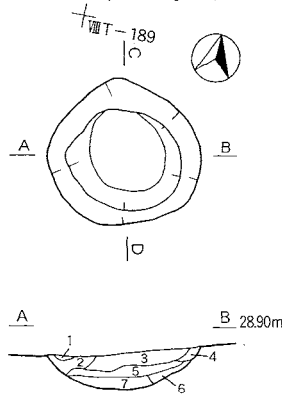
雨の為ベルト崩落により土層断面図とせず

図105 第748・749・750・754・755・756・757・759・760・763号土坑

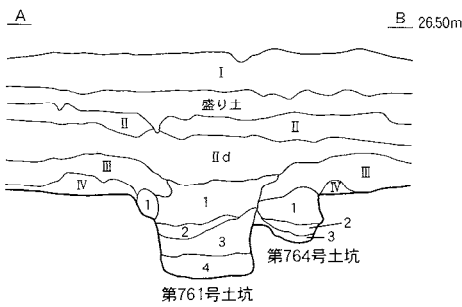
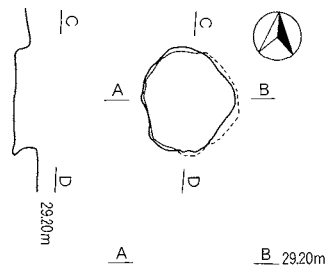
第761・764号土坑



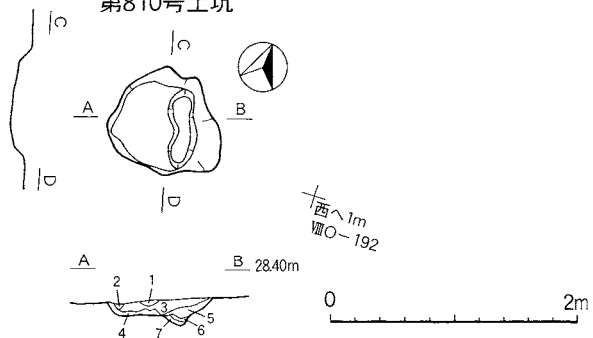
第802号土坑



第805号土坑



第810号土坑



第761号土坑

- 耕作土 黒褐色土 10YR2/2 ビニール 草根混入 ローム粒(径1~2mm)1% 焼土(径1mm)1%以下 しまりやや有 粘性なし
- 盛り土 黒色土主体 10YR2/1 褐色土10YR4/6 ブロック40% ローム(径1~2mm)1%以下 浮石(径2~3mm)1%以下 しまりなし 粘性やや有
- 第Ⅰ層 黒色土 10YR2/1 ローム(径1~3mm)1% 浮石(径2~3mm)1% しまりやや有 粘性なし
- 第Ⅱa層 黒色土 10YR2/1 ローム(径1mm)1%以下 炭化物(径1mm)1% しまりやや有 粘性やや有
- 第Ⅱb層 黒色土主体 10YR2/1 ローム(径1~10mm)1% 炭化物(径2~8mm)1% しまりなし 粘性有
- 第Ⅲ層 黒褐色土 10YR2/3 ローム(径1~2mm)1% しまりやや有 粘性有
- 第Ⅳ層 黒色土 10YR2/1 ローム(径1~30mm)10% 浮石(径1~3mm)1% しまり有 粘性やや有
- 第1層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径1mm)3% 浮石(径3~20mm)30% しまりなし 粘性有
- 第2層 黒色土 10YR2/1 ローム(径2~10mm)3% 浮石(径2~3mm)1% しまりなし 粘性有
- 第3層 黒褐色土主体 10YR2/2 ローム粒(径1~2mm)1%以下 浮石(径3~50mm)30% しまりやや有 粘性有

第764号土坑

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム(径1~2mm)1% しまりなし 粘性有
- 第2層 黒色土 10YR1.7/1 ローム(径1~8mm)1% しまり有 粘性有
- 第3層 黒色土 10YR2/1 ローム(径2~5mm)1% 浮石(径1~2mm)1%以下 しまりやや有 粘性有

第802号土坑

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径1~5mm)15% しまり有 粘性やや有
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)7% 炭化物(径3~10mm)2% しまり有 粘性有
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径1~5mm)5% 炭化物(径3~10mm)3% しまりやや有 粘性有
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)5% 炭化物(径2~5mm)2% しまりやや有 粘性有
- 第5層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~5mm)5% 炭化物(径2~5mm)2% しまりやや有 粘性有
- 第6層 黒褐色土 10YR2/1 ローム粒(径1~10mm)5% しまりやや有 粘性有
- 第7層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)5% 炭化物(径1~3mm)1% しまりやや有 粘性有

第805号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~2mm)2% LB(径5~20mm)3% 炭化物(径1~2mm)1% しまり有 粘性有
- 第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(径1~2mm)3% しまり有 粘性あまりなし
- 第3層 褐色土 10YR4/4 黄褐色土(10YR5/8)30% しまり有 粘性なし
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径2~4mm)3% しまりやや有 粘性やや有
- 第5層 黄褐色土 10YR5/8 しまりあまりなし 粘性やや有
- 第6層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(径1~3mm)7% しまり有 粘性やや有
- 第7層 褐色土 10YR4/6 しまり有 粘性なし
- 第8層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~2mm)3% しまりあまりなし 粘性あまりなし

第810号土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~2mm)7% しまり有 粘性あまりなし
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒(径1~2mm)2% しまり有 粘性やや有
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~2mm)20% しまりやや有 粘性なし
- 第4層 黄褐色土 10YR5/8 黒色土(10YR2/1)7% しまり有 粘性なし
- 第5層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~2mm)20% しまり有 粘性あまりなし
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~2mm)3% しまり有 粘性あまりなし
- 第7層 黒褐色土 10YR2/3 ローム30% しまり有 粘性なし

図106 第761・764・802・805・810号土坑

第810号土坑（図106）

〔位置〕 VIII・O-191グリッドに位置する。黒色土の不整円形プランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 平面形は不整円形で、開口部長径94cm×短径75cm、底部長径71cm×短径64cm、深さは12cmである。

〔断面・底面〕 壁は比較的緩やかに立ち上がる。底面は平坦である。

〔堆積土〕 7層に分層できた。褐色系の土が大半を占める。

〔出土遺物〕 出土していない。

〔小結〕 時期・用途共に不明である。

第811号土坑（図107）

〔位置〕 VIII-S-192・193グリッドに位置する。黒色の半円形プランとして確認したが、残り具合は非常に悪い。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 南半部が削平されて残っていないので、本来の姿は知り得ない。平面形などは不明である。残存部での深さは10cmである。

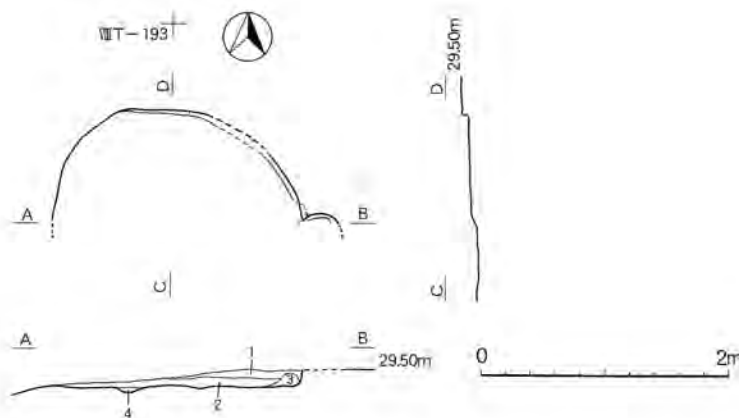
〔断面・底面〕 残り具合が悪いので、壁などの詳しい状況は知り得ない。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 4層に分層できた。

〔出土遺物〕 出土していない。

〔小結〕 時期・用途共に不明である。

（相馬信吉・大湯卓二・若山誠治）



第811号土坑

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~3mm)5% LB(径5~10mm)3% 浮石(径1~2mm)2% しまり有 粘性なし
- 第2層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径1~3mm)15% LB(径5~15mm)10% 浮石(径1~2mm)2% しまり有 粘性あまりなし
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 LB(径5~10mm)2% 炭化物(径1~2mm)3% 黒褐色土(10YR2/3)40% しまり有 粘性なし
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒(径2~4mm)15% 炭化物(径1~2mm)3% 浮石(径1~2mm)1% しまり有 粘性あまりなし

図107 第811号土坑

## 4 溝状土坑

## 第301号溝状土坑（図108）

〔位置・確認〕 IX S-205・206グリッドに位置する。黒褐色土の北西-南東方向に延びるプランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 いわゆる溝状の平面形をし、開口部で長径310cm、短径46cm、深さは65cmである。底面は長径338cm×短径34cmである。

〔断面・底面〕 断面形は長軸が袋状をしていて、短軸は底面から開口部に向かってわずかに開く。底面は中央部に他より15cmほど一段低くなった部分があり、両端部に向かって少し高くなっている。

〔堆積土〕 5層に分層できた。

〔出土遺物〕 出土していない。

〔小結〕 遺物が出土していないので、作られた時期は不明である。

## 第302号溝状土坑（図108）

〔位置・確認〕 IX H-194グリッドに位置する。黒褐色土の西-東方向に延びるプランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 溝状の平面形をし、開口部で長径368cm、短径45cm、深さは95cmである。底面は長径425cm、短径19cmである。

〔断面・底面〕 断面形は長軸が袋状をしていて、短軸は底面から開口部に向かって緩やかに開く。底面はほぼ平坦である。

〔堆積土〕 10層に分層できた。黒褐色土と黄褐色土が互層となっている。

〔出土遺物〕 出土していない。

〔小結〕 遺物が出土していないので、作られた時期は不明である。

## 第303号溝状土坑（図108）

〔位置・確認〕 IX H-190・191グリッドに位置する。暗褐色土の北東-南西方向に延びるプランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 溝状の平面形をし、開口部で長径328cm、短径29cm、深さは50~80cmである。底面は長径360cm、短径15cmである。

〔断面・底面〕 断面形は長軸が袋状をしていて、短軸は底面から開口部に向かって緩やかに開く。底面は南西から北東に向かって45cmほど低くなっている。

〔堆積土〕 4層に分層できた。底面近くには壁の崩落土と思われる層が観察される。

〔出土遺物〕 第3層から縄文時代前期後~末葉I-2群土器片が1点出土している。

〔小結〕 出土遺物から縄文時代前期後~末葉の溝状土坑と考えられる。

#### 第304号溝状土坑（図108）

〔位置・確認〕 IXB-187・189グリッドに位置する。第32号土坑とともに黒褐色土の北-南方向に延びるプランとして確認した。

〔重複〕 第32号土坑と重複関係にあるが、両者の新旧関係は明らかにできなかった。

〔平面形・規模〕 平面形は一般的な溝状の形の両端に、円形を足したような変わった形をしている。開口部で長径280cm、短径25cm、深さは50cmである。底面は長径312cm、短径14cmである。両端の円形部分の直径は約40cmである。

〔断面・底面〕 断面形は長軸が袋状をしていて、短軸は箱形をしている。底面は中央部から両端に向かってやや高くなっている。

〔堆積土〕 2層に分層できた。

〔出土遺物〕 出土していない。

〔小結〕 時期決定資料が出土していないので作られた時期は不明である。両端部に円形を付け足したような平面形は留意しておく必要がある。

#### 第305号溝状土坑（図109）

〔位置・確認〕 IXH・I-187・188グリッドに位置する。褐色土の北東-南西方向に延びるプランとして確認した。

〔重複〕 ない。

〔平面形・規模〕 溝状の平面形をし、開口部で長径308cm、短径40cm、深さは73cmである。底面は長径334cm、短径15cmである。

〔断面・底面〕 断面形は長軸が袋状をしていて、短軸は箱形をしている。底面は南西から北東に向かって幾分低くなっている。

〔堆積土〕 4層に分層できた。

〔出土遺物〕 出土していない。

〔小結〕 遺物が出土していないので、作られた時期は不明である。

#### 第401号溝状土坑（図109）

〔位置・確認〕 VIII N-196グリッドに位置する。黒色土の北-南方向に延びるプランとして確認した。

〔重複〕 ない。

〔平面形・規模〕 溝状の平面形をし、開口部で長径280cm、短径30cm、深さは38cmである。底面は長径292cm、短径10cmである。

〔断面・底面〕 断面形は長軸が袋状をしていて、短軸は箱形をしている。底面は中央部から両端に向かって緩やかに高くなっている。

〔堆積土〕 3層に分層できた。

〔出土遺物〕 覆土から縄文時代前期後～末葉 I-2 群土器片が1点出土している。

〔小結〕 出土遺物から縄文時代前期後～末葉の溝状土坑と考えられる。



## 第402号溝状土坑（図109）

〔位置・確認〕 VIII K-198グリッドに位置する。黒色土の北-南方向へ延びるプランとして確認した。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 溝状の平面形をし、開口部で長径155cm、短径27cm、深さは15cmである。底面は長径138cm、短径22cmである。

〔断面・底面〕 長軸の断面形は一般的な袋状ではなく、底面から外側にやや開く形である。短軸も同様である。底面はやや凹凸がある。

〔堆積土〕 3層に分層できた。

〔出土遺物〕 出土していない。

〔小結〕 遺物が出土していないので、作られた時期は不明である。

## 第403号溝状土坑（図109）

〔位置・確認〕 VIII I・J-199・200グリッドに位置する。黒褐色土の西-東方向に延びるプランとして確認した。東側は調査区外へ延びるため、精査はできなかった。

〔重複〕 なし。

〔平面形・規模〕 概ね、溝状の平面形をしているが、東側が大きく円形にふくらんでいる。一部が調査区域外へ延びるため、長径等は知り得ない。深さは確認面から55cmほどである。

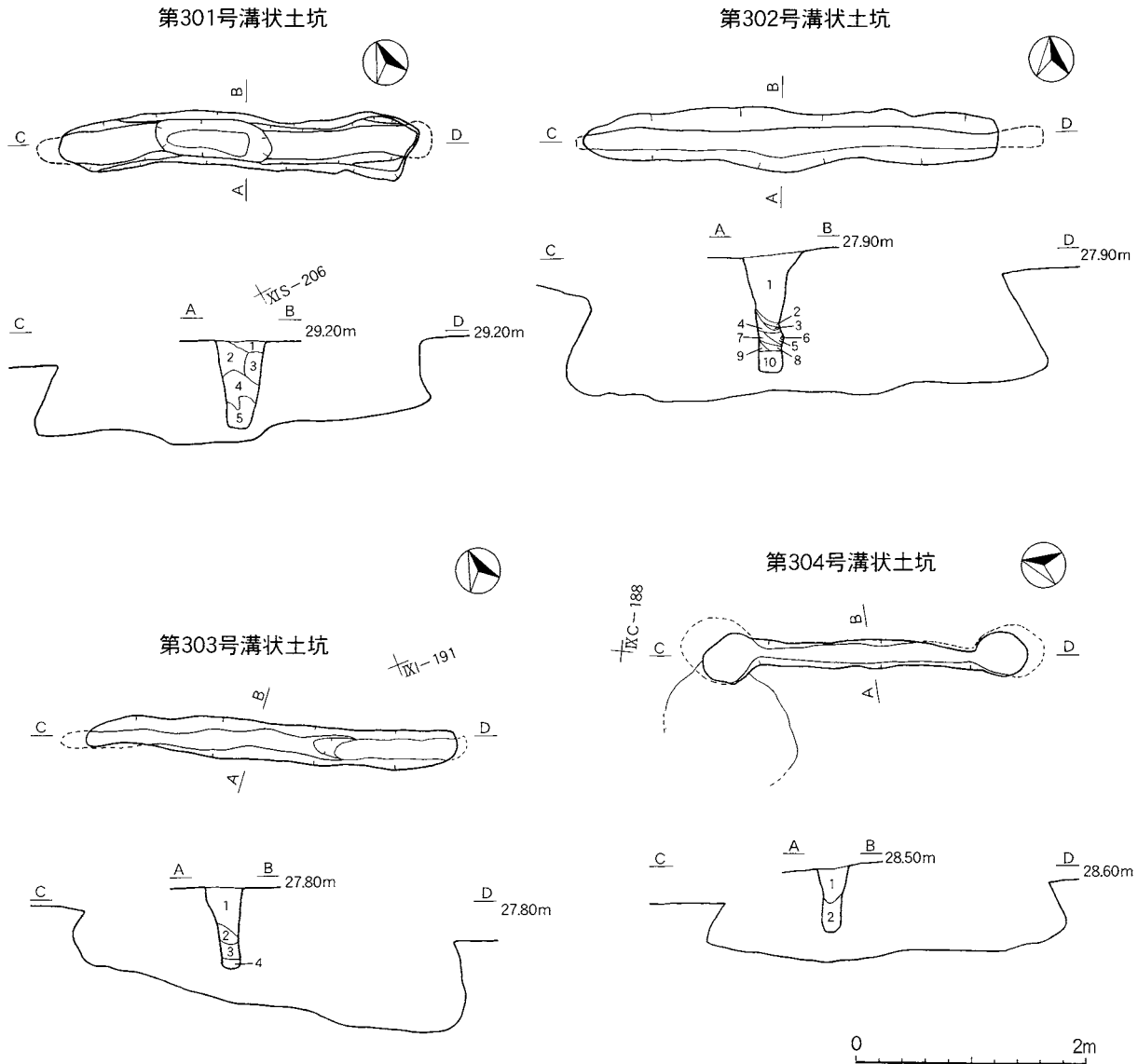
〔断面・底面〕 調査できた部分から推定すると、断面形は長軸が袋状をしていて、短軸は箱形をしていたと思われる。底面は調査部分では西側から東側にかけて高くなっている。

〔堆積土〕 溝状土坑内の堆積土は5層に分層できた。

〔出土遺物〕 出土していない。

〔小結〕 遺物が出土していないので、作られた時期は不明である。

（相馬信吉）



第301号溝状土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径2~3mm)1%未満 黄褐色の砂粒1%混入 炭化物(径3~4mm)1%未満 しまりなし 粘性やや有
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(径1~5mm)3% しまりなし 粘性やや有
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(径1~3mm)1% 黒色土1%混入 しまりやや有 粘性やや有
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 浮石(径1~8mm)1% 炭化物(径2~3mm)1%未満 しまりやや有 粘性やや有
- 第5層 暗褐色土 10YR3/4 浮石(径1~2mm)3% 砂粒まばらに混入1% しまり有 粘性有

第302号溝状土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ロームブロック(径5~20mm)若干混入
- 第2層 黄褐色土 10YR5/8 地山の黄褐色ローム崩落土
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 ロームブロック(径5~20mm)若干混入
- 第4層 黄褐色土 10YR5/8 地山の黄褐色ローム崩落土
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ロームブロック(径5~20mm)若干混入
- 第6層 黄褐色土 10YR5/8 地山の黄褐色ローム崩落土
- 第7層 黒褐色土 10YR2/3 ロームブロック(径5~20mm)若干混入
- 第8層 黒褐色土 10YR2/3 ロームブロック(径5~20mm)若干混入
- 第9層 黄褐色土 10YR5/8 地山の黄褐色ローム崩落土
- 第10層 黒褐色土 10YR2/3 ロームブロック(径5~20mm)若干混入

第303号溝状土坑

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒(径2~3mm)若干含む
- 第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒(径1~2mm)わずかに含む
- 第3層 黄褐色土 10YR5/6 地山の崩落土
- 第4層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 バサバサしている

第304号溝状土坑

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ロームブロック(径5~20mm)若干含む
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ロームブロック(径3~10mm)多量に含む

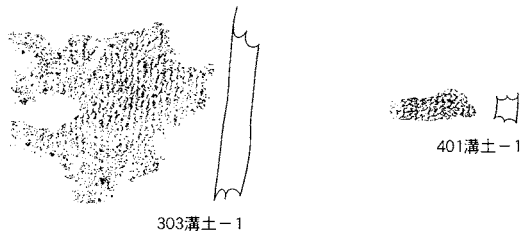
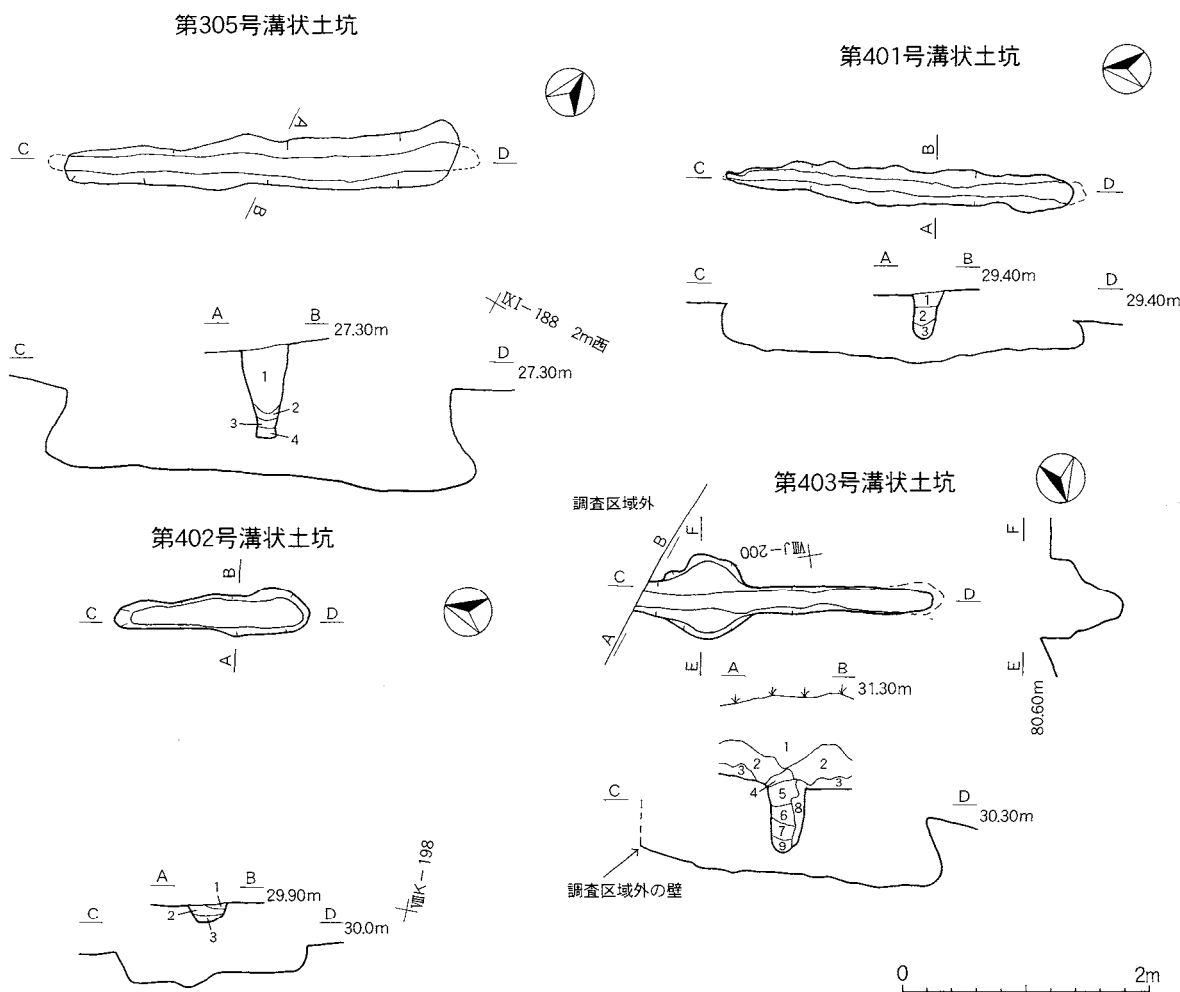


図108 第301・302・303・304号溝状土坑、溝状土坑 出土遺物



第305号溝状土坑

- 第1層 褐色土 10YR4/4 黄色浮石ローム(径2~10mm)やや多目を含む
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 黄色ロームブロックが主体の層である 壁の崩れか?
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 黄色浮石ブロック(径2~5mm)若干含む
- 第4層 にぶい黄褐色土 10YR5/4 黄色ロームブロックが主体の層である 壁の崩れか?

第401号溝状土坑

- 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径1~3mm)1% 炭化物(径1~5mm)1% しまり有 粘性有
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~3mm)3% 炭化物(径1~3mm)1% しまり有 粘性有
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒(径1~3mm)5% 炭化物(径1~3mm)1% しまり有 粘性やや有

第402号溝状土坑

- 第1層 黄褐色土 10YR5/6 混入物なし しまり有 粘性有
- 第2層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径2~5mm) しまり有 粘性なし
- 第3層 黒色土 10YR2/1 ローム粒(径2~4mm)10% しまり有 粘性なし

第403号溝状土坑

- 第1層 黒色土 10YR1.7/1 ローム粒(径2~5mm)2% しまり有 粘性なし
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径2~4mm)3% しまり有 粘性やや有
- 第3層 褐色土 10YR4/6 混入物なし しまり有 粘性なし
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 褐色土(10YR4/6)40% ローム粒(2~3mm)5% しまり有 粘性なし 硬度やや有
- 第5層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒(径1~2mm)5% しまり有 粘性なし
- 第6層 黒色土 10YR2/1 黄褐色土(10YR5/8)40% しまりやや有 粘性なし
- 第7層 黒褐色土 10YR2/3 黄褐色土(10YR5/8)20% しまりやや有 粘性なし
- 第8層 黄褐色土 10YR5/8 黒褐色土(10YR2/3)10% しまりやや有 粘性なし
- 第9層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 褐色土(10YR4/6)20%の混合土 しまりやや有 粘性なし

図109 第305・401・402・403号溝状土坑

## 5 溝

### 第301号溝 (図110)

[位置・確認] IXL-197グリッドに位置する。暗褐色土の北—南方向に延びる溝状のプランを確認したが、すでに南側の大半は削平されていて残っていなかった。

[重複] なし。

[平面形・規模] 全体を知り得ないので平面形は不明である。残っている部分での開口部長は160cm、幅95cm、深さは33cmである。底面長は155cm、幅36cmである。

[断面・底面] 断面は緩やかな丸底をし、底面は南から北に向かってわずかに傾斜している。

[堆積土] 掘りすぎ部分などを除くと、溝内の堆積土は6層に分層できた。第2・4層に白頭山降下火山灰と思われる土が一部混入していた。

[出土遺物] 覆土から縄文時代後期の土器破片が数点出土している。

[小結] 縄文土器片が出土しているが、堆積土中の降下火山灰の存在を考慮するともっと新しい時期の溝と考えられる。

(相馬信吉)

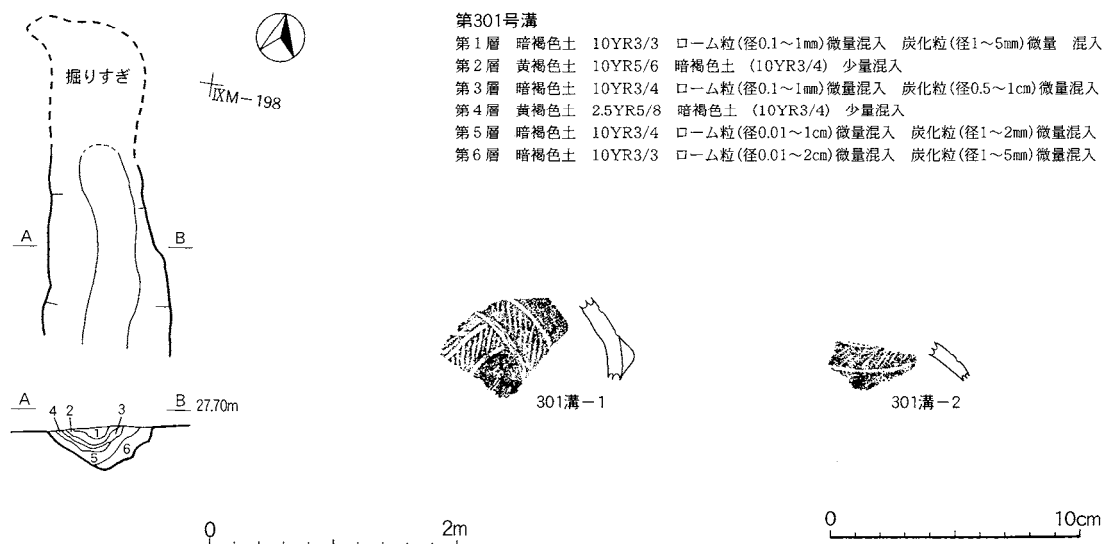


図110 第301号溝、第301号溝 出土遺物

## 6 ピット群・掘立柱建物跡・塀跡

G区からはピットが207個検出されている。分布を見るとIXK-184グリッドライン以西の範囲に78個、IXA-184グリッドライン以東に129個と大きく2つのエリアに分かれる。ピットの形状は円形や楕円形、不整楕円形を呈している。平面規模は14～70cmとばらつきが見られるものの径20～30cm前後が主体である。確認面からの深さは5～70cmと様々である。堆積土は黒色土、黒褐色土等であった。個別の法量等は観察表にまとめたので参照いただきたい。

IXA-184グリッドライン以東から掘立柱建物跡2棟と塀跡1棟を復元したが、IXK-184グリッドライン以西の竪穴建物跡が3棟検出されている周辺にピットが多いことを見ると、竪穴建物跡に付属する柱穴や独立した遺構になる可能性もあり得る。なお、復元した遺構については調査時に検討を行い建物を復元して建てるべきものと思うが、現場では十分な検討が行われなかった。そのため図面上の作業にもとづく推定案として提示したものであることを了承いただきたい。なお柱間寸法には掘り方の芯々距離を使用した。

### 第36号掘立柱建物跡（図113）

〔位置〕VIII P-195、196グリッドに位置する。重複はない。

〔柱穴〕柱穴掘り方の平面形は円形、楕円形をしている。開口部の径は21～32cm、確認面からの深さは14cm～32cmとばらつきが認められる。柱痕は確認されず、根固め石等は出土しなかった。

〔構造〕ピット806、813、814、817、818、822、825、829、831、846の柱穴10個で構成される長方形の建物跡と推定される。桁行はピット813～829が389cm（12.8尺）、ピット814～846が390cm（13尺）で2.1間、梁行はピット813・814とピット829・846が同じく165cm（5.5尺）で1間の構造と考えられる。

各ピットの柱間寸法はピット814・818（100cm、3.3尺）、ピット813・817（110cm、3.63尺）、ピット818・822（80cm、2.6尺）、ピット817・831（85cm、2.8尺）、ピット822・825（100cm、3.3尺）、ピット806・831（94cm、3.13尺）、ピット825・846（110cm、3.63尺）、ピット806、829（100cm、3.3尺）を計測して対になる柱間寸法は近似した値を示している。

〔出土遺物〕なし。

### 第37号掘立柱建物跡（図113）

〔位置〕VIII L、VIII M-196、197グリッドに位置する。重複はない。

〔柱穴〕柱穴掘り方の平面形は円形、楕円形をしている。開口部の径は20～27cm、確認面からの深さは6cm～17cmとばらつきが認められる。柱痕は確認されず、根固め石等は出土しなかった。

〔構造〕ピット888、889、890、891、892、893の柱穴6基で構成される長方形の建物跡と推定される。桁行はピット888～890が185cm（6.1尺）、ピット891～893が189cm（6.2尺）で1間、梁行はピット888・891が135cm（4.45尺）、ピット890・893が150cm（4.95尺）で1間の構造と考えられる。

各ピットの柱間寸法はピット888・889（90cm、2.97尺）、ピット891・892（104cm、3.43尺）、

ピット889・890（95cm、3.1尺）、ピット892・893（85cm、2.8尺）を計測して対になる柱間寸法は近似した値を示している。

[出土遺物] なし。

#### 第1号塀跡（図113）

[位置] VIIIK、VIIIL-197、198グリッドに位置する。重複はない。第37号掘立柱建物跡に近接した位置にあることから関連があることも推定される。

[柱穴] 柱穴掘り方の平面形は円形、楕円形をしている。開口部の径は20～47cm、確認面からの深さは21cm～32cmとばらつきが認められる。柱痕は確認されず、根固め石等は出土しなかった。

[構造] ピット808、809、811、812の4基の柱穴で構成された直線状の構造物と推定される。

[出土遺物] なし。

（齋藤 正）

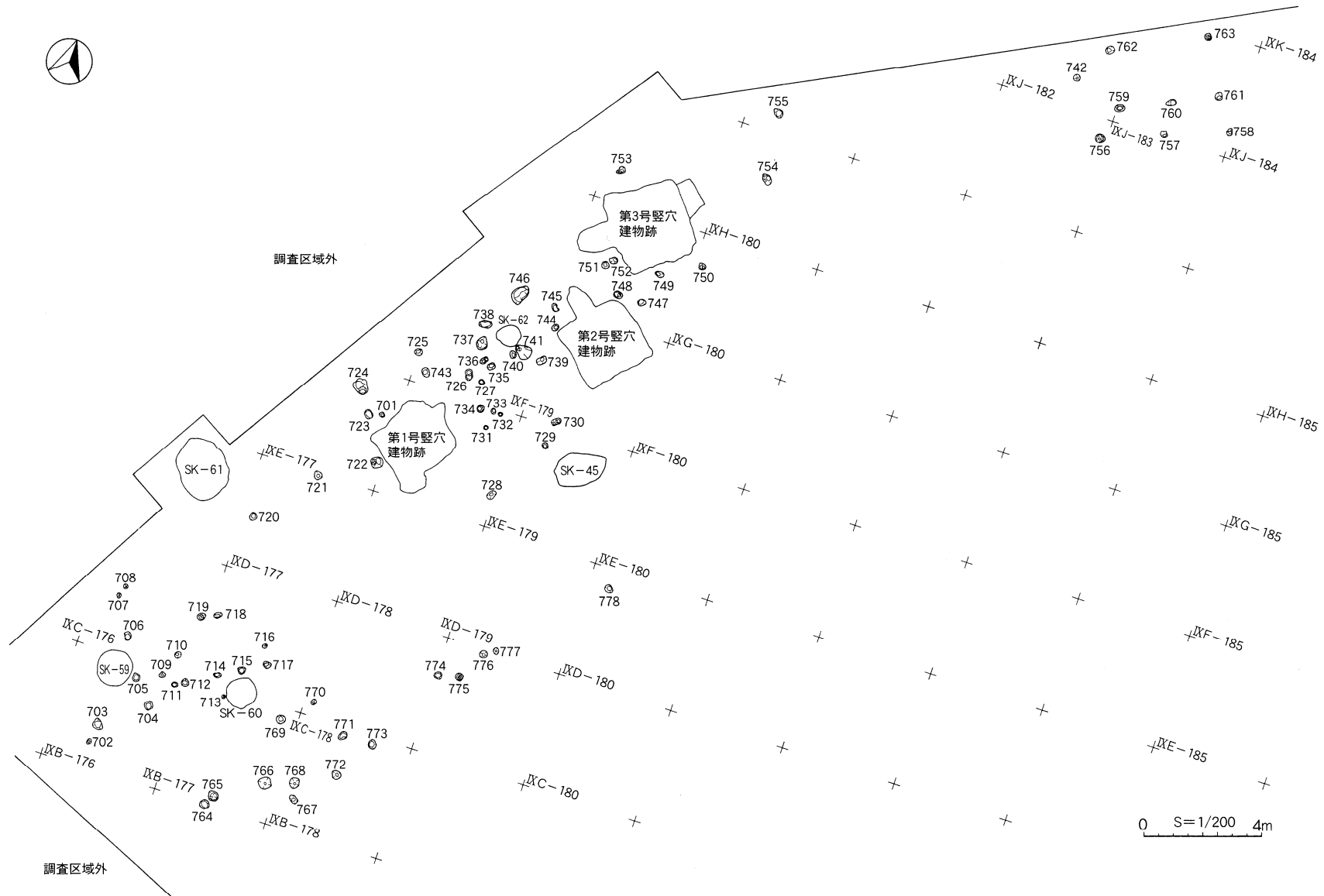


図111 ピット群(1)

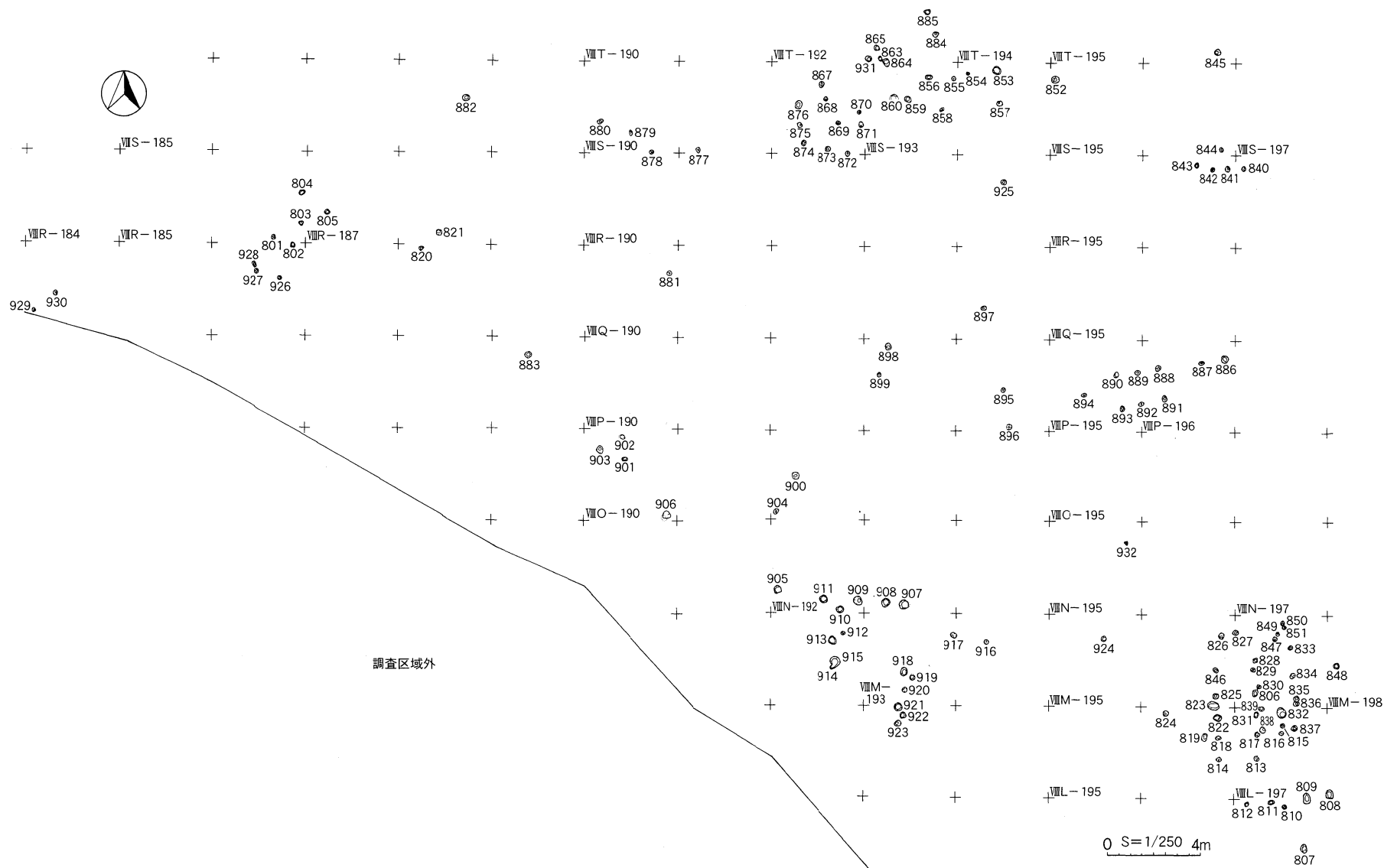


図112 ピット群(2)



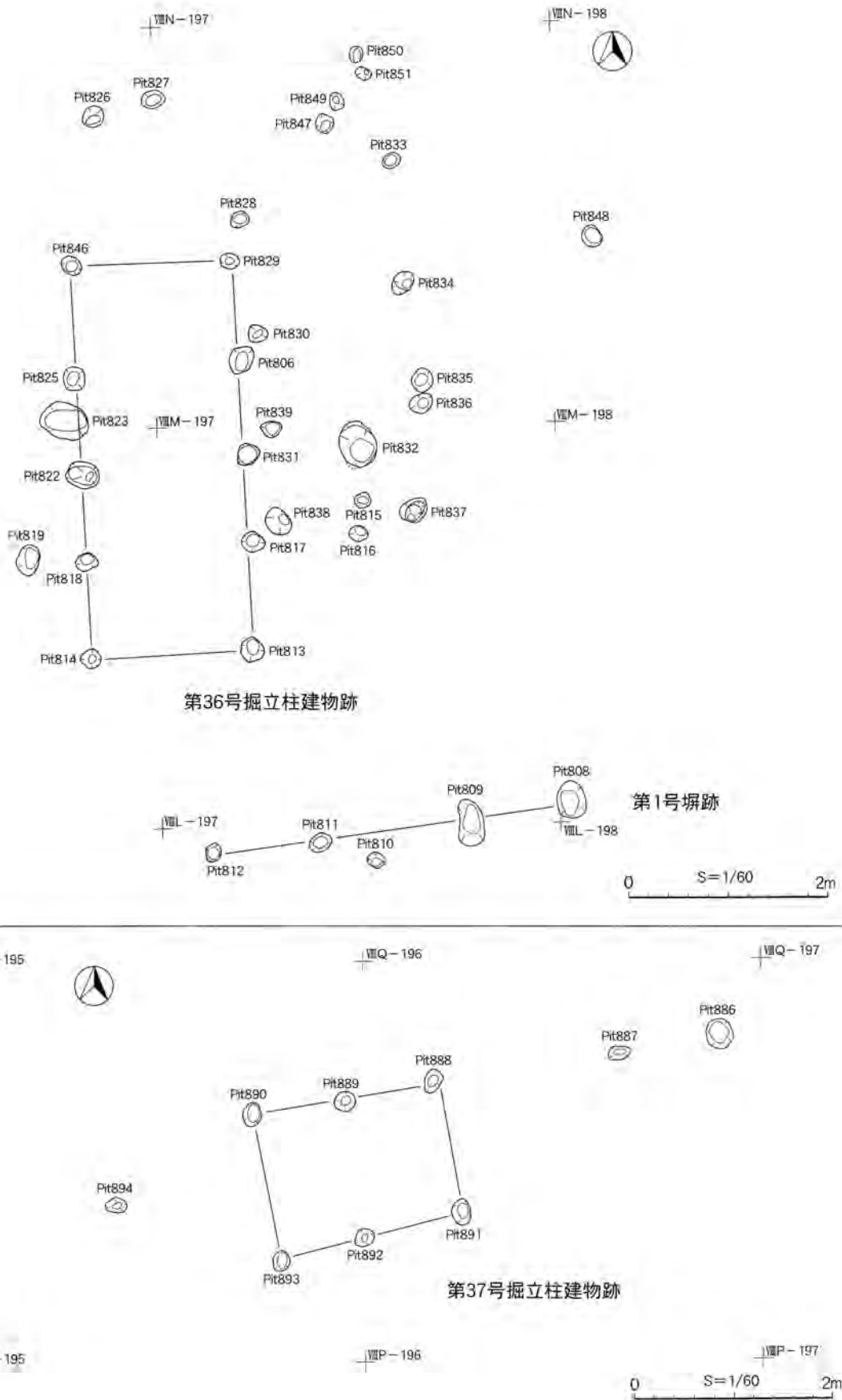


図113 掘立柱建物跡・堀跡

G区ビット観察表1

図	ビット 番号	グリッド	開口部径 長軸 (cm)	開口部径 短軸 (cm)	深さ (cm)	土色	備考
111	701	KX-177	20	15	36	黒色土	
111	702	KX-176	20	12	19	黒褐色土	
111	703	KX-176	39	32	18	黒色土	
111	704	KX-176	30	26	22	黒褐色土	
111	705	KX-176	30	22	13	黒褐色土	
111	706	KX-176	32	20	36	黒褐色土	
111	707	KX-176	19	15	17	黒褐色土	
111	708	KX-176	14	14	9	黒褐色土	
111	709	KX-176	20	16	30	黒褐色土	
111	710	KX-176	23	21	9	黒褐色土	
111	711	KX-176	21	17	6	黒色土	
111	712	KX-176	28	24	13	黒褐色土	
111	713	KX-177	14	12	9	黒褐色土	
111	714	KX-177	28	18	6	黒褐色土	
111	715	KX-177	27	22	7	黒色土	
111	716	KX-177	17	13	5	黒色土	
111	717	KX-177	28	22	15	黒褐色土	
111	718	KX-177	29	19	26	黒褐色土、暗褐色土	
111	719	KX-176	27	22	22	黒色土、暗褐色土	
111	720	KX-177	28	23	27	黒褐色土	
111	721	KX-177	30	25	33	黒色土	
111	722	KX-177	43	35	32	黒色土	
111	723	KX-177	32	25	11	黒褐色土、暗褐色土	
111	724	KX-177	57	41	20	黒色土	
111	725	KX-178	28	23	35	黒褐色土、暗褐色土	
111	726	KX-178	40	23	11	黒褐色土	
111	727	KX-178	22	17	10	黒褐色土	
111	728	KX-178	35	22	45	黒褐色土、暗褐色土	
111	729	KX-179	22	19	7	暗褐色土	
111	730	KX-179	33	19	28	黒褐色土	
111	731	KX-178	16	14	10	暗褐色土	
111	732	KX-178	16	14	6	黒褐色土	
111	733	KX-178	21	16	12	黒色土	
111	734	KX-178	27	24	14	暗褐色土	
111	735	KX-178	28	19	18	黒褐色土	
111	736	KX-178	31	16	12	黒色土	
111	737	KX-178	49	38	37	黒色土	
111	738	KX-178	46	28	28		
111	739	KX-179	35	24	64	黒色土、黒褐色土	
111	740	KX-178	27	22	29	黒色土	
111	741	KX-178	60	36	46	黒色土	
111	742	KX-182	23	22	35	黒色土	
111	743	KX-178	34	24	27	黒色土、黒褐色土	
111	744	KX-179	26	19	20	黒色土	
111	745	KX-179	30	14	8	黒色土、暗褐色土	
111	746	KX-178	70	41	20	黒色土、褐色土	
111	747	KX-179	27	20	42		
111	748	KX-179	30	25	16	黒褐色土	
111	749	KX-179	32	19	32	黒色土	
111	750	KX-180	24	22	8	黒褐色土	
111	751	KX-179	28	25	18	黒色土	
111	752	KX-179	29	25	38	黒色土	
111	753	KX-179	30	24	36	暗褐色土、黒色土	
111	754	KX-180	43	26	14	黒色土	
111	755	KX-180	36	26	7	黒色土	
111	756	KX-182	35	38	38	黒色土、黒褐色土	
111	757	KX-183	34	41	41	黒色土	
111	758	KX-183	31	30	30	黒色土	
111	759	KX-183	36	41	41	黒色土、黒褐色土	
111	760	KX-183	36	15	15	暗褐色土	

G区ビット観察表2

図	ビット 番号	グリッド	開口部径 長軸 (cm)	開口部径 短軸 (cm)	深さ (cm)	土色	備考
111	761	IXJ-183	30	34	34	黒色土	
111	762	IXJ-182	29	33	33	黒色土	
111	763	IXJ-183	28	36	36	黒色土	
111	764	IXB-177	36	35	35	黒色土	
111	765	IXB-177	37	34	34	黒色土	
111	766	IXB-177	47	47	47	黒色土、黒褐色土	
111	767	IXB-178	34	20	20	黒褐色土	
111	768	IXB-178	40	37	37	黒色土	
111	769	IXB-177	31	29	29	黒色土	
111	770	IXC-178	22	20	20	黒色土	
111	771	IXB-178	34	27	27	黒色土、暗褐色土	
111	772	IXB-178	33	23	23	黒褐色土、黒色土、暗褐色土	
111	773	IXB-178	34	29	29	黒色土、暗褐色土	
111	774	IXC-179	27	23	21	黒色土	
111	775	IXC-179	28	22	28	黒褐色土	
111	776	IXC-179	27	26	22	黒色土	
111	777	IXD-179	20	16	19	黒色土、暗褐色土	
111	778	IXD-180	30	22	35	黒色土、黒褐色土	
112	801	VHR-186	20	15	11	暗褐色土、褐色土	
112	802	VHQ-186	22	18	13	黒褐色土、暗褐色土	
112	803	VHR-186	20	16	11	褐色土	
112	804	VHR-186	27	18	13	にぶい黄褐色土、褐色土	
112	805	VHR-187	20	20	28	褐色土、にぶい黄褐色土、暗褐色土	
112	806	VHM-197	32	24	17	暗褐色土、褐色土	第36号掘立柱建物跡
112	807	VHK-197	27	25	14	黒褐色土、暗褐色土	
112	808	VHL-198	38	30	21	黒褐色土、暗褐色土	第1号堀跡
112	809	VHK-197	47	25	23	黒褐色土、暗褐色土	第1号堀跡
112	810	VHK-197	17	15	10	褐色土	
112	811	VHK-197	25	17	30	黒褐色土、褐色土、黒色土、褐色土	第1号堀跡
112	812	VHK-197	20	15	24	黒褐色土	第1号堀跡
112	813	VHL-197	25	23	32	黒褐色土、暗褐色土、褐色土	第36号掘立柱建物跡
112	814	VHL-196	21	18	14	暗褐色土、褐色土、にぶい黄褐色土	第36号掘立柱建物跡
112	815	VHL-197	17	16	24	暗褐色土、褐色土、にぶい黄褐色土	
112	816	VHL-197	20	16	12	褐色土	
112	817	VHL-197	24	20	21	暗褐色土、黒褐色土	第36号掘立柱建物跡
112	818	VHL-196	23	18	18	褐色土、黒褐色土、にぶい黄褐色土	第36号掘立柱建物跡
112	819	VHL-196	31	22	9	黒褐色土、暗褐色土	
112	820	VHQ-188	23	17	11	暗褐色土	
112	821	VHR-188	27	20	11	黒褐色土、褐色土、にぶい黄褐色土	
112	822	VHL-196	32	20	23	暗褐色土、褐色土	第36号掘立柱建物跡
112	823	VHM-196	50	26	28	暗褐色土、褐色土、黒褐色土	
112	824	VHL-196	24	22	11	暗褐色土、褐色土	
112	825	VHM-196	25	21	27	褐色土、暗褐色土	第36号掘立柱建物跡
112	826	VHM-196	24	20	10	黒褐色土、褐色土	
112	827	VHM-196	24	17	5	暗褐色土、褐色土	
112	828	VHM-197	20	16	17	暗褐色土、褐色土	
112	829	VHM-197	20	14	16	暗褐色土	第36号掘立柱建物跡
112	830	VHM-197	20	17	27	黒褐色土、暗褐色土、褐色土	
112	831	VHL-197	25	21	31	暗褐色土、黒褐色土、褐色土	第36号掘立柱建物跡
112	832	VHL-197	47	40	42	暗褐色土、黒褐色土、褐色土	
112	833	VHM-197	20	15	26	黒褐色土、暗褐色土	
112	834	VHM-197	27	19	24	黒褐色土、暗褐色土	
112	835	VHM-197	24	21	16	暗褐色土、褐色土	
112	836	VHM-197	24	20	22	黒褐色土、暗褐色土	
112	837	VHL-197	28	23	19	暗褐色土、褐色土	
112	838	VHL-197	29	22	24	暗褐色土、黒褐色土	
112	839	VHL-197	22	17	21	黒褐色土、褐色土	
112	840	VHR-197	20	16	18	黒褐色土、暗褐色土	
112	841	VHR-196	24	18	13	黒褐色土、暗褐色土	
112	842	VHR-196	18	13	6	暗褐色土	

G区ピット観察表3

図	ピット 番号	グリッド	開口部径 長軸 (cm)	開口部径 短軸 (cm)	深さ (cm)	土色	備考	
	112	843	VIR-196	21	16	7	暗褐色土、褐色土	
	112	844	VIS-196	18	16	4	暗褐色土	
	112	845	VIT-196	27	23	7	黒褐色土	
	112	846	VIM-196	21	17	15	黒褐色土、暗褐色土	第36号掘立柱建物跡
	112	847	VIM-197	21	18	12	暗褐色土	
	112	848	VIM-198	22	19	22	暗褐色土、褐色土	
	112	849	VIM-197	18	14	9	暗褐色土	
	112	850	VIM-197	17	14	15	黒褐色土、暗褐色土、褐色土	
	112	851	VIM-197	18	11	8	暗褐色土、褐色土	
	112	852	VIS-195	31	29	9	黒褐色土、にぶい黄褐色土	
	112	853	VIS-194	33	31	15	暗褐色土、褐色土	
	112	854	VIS-194	13	11	10	暗褐色土、褐色土	
	112	855	VIS-193	18	15	8	暗褐色土、褐色土	
	112	856	VIS-193	31	19	11	暗褐色土、褐色土	
	112	857	VIS-194	22	21	18	暗褐色土、褐色土	
	112	858	VIS-193	20	13	15	褐色土	
	112	859	VIS-193	29	24	34	暗褐色土、黒褐色土	
	112	860	VIS-193	不明	不明	13	黄褐色土、にぶい黄褐色土、褐色土	
	112	863	VIT-193	20	15	16	暗褐色土、褐色土	
	112	864	VIT-193	31	24	22	暗褐色土	
	112	865	VIT-193	23	22	8	暗褐色土、褐色土	
	112	867	VIS-192	28	20	5	黒褐色土	
	112	868	VIS-192	16	15	18	黒褐色土	
	112	869	VIS-192	17	14	16	暗褐色土、黒褐色土	
	112	870	VIS-192	14	13	5	褐色土	
	112	871	VIS-192	23	19	21	暗褐色土、黄褐色土、にぶい黄褐色土	
	112	872	VIS-192	20	17	19	褐色土、にぶい黄褐色土、黄褐色土	
	112	873	VIS-192	22	19	21	暗褐色土、褐色土	
	112	874	VIS-192	22	19	15	暗褐色土、黒褐色土、黄褐色土、にぶい黄褐色土	
	112	875	VIS-192	19	16	15	暗褐色土、灰黄褐色土	
	112	876	VIS-192	36	25	10	褐色土	
	112	877	VIS-191	22	14	9	暗褐色土、褐色土	
	112	878	VIS-190	15	14	6	暗褐色土、褐色土	
	112	879	VIS-190	22	17	8	黒色土、暗褐色土	
	112	880	VIS-190	24	17	10	黒褐色土、暗褐色土、褐色土	
	112	881	VIIQ-190	18	18	10	褐色土	
	112	882	VIS-188	28	24	41	褐色土、暗褐色土	
	112	883	VIIIP-189	29	24	14	黒褐色土	
	112	884	VIT-193	24	20	7	黒褐色土、暗褐色土	
	112	885	VIT-193	27	21	21	褐色土、黄褐色土	
	112	886	VIIIP-196	30	26	10	黄褐色土	
	112	887	VIIIP-196	24	13	4	黄褐色土	
	112	888	VIIIP-196	25	17	6	褐色土	第37号掘立柱建物跡
	112	889	VIIIP-195	22	20	17	褐色土	第37号掘立柱建物跡
	112	890	VIIIP-195	25	18	14	暗褐色土	第37号掘立柱建物跡
	112	891	VIIIP-196	27	20	13	暗褐色土、褐色土	第37号掘立柱建物跡
	112	892	VIIIP-196	20	17	15	暗褐色土、褐色土	第37号掘立柱建物跡
	112	893	VIIIP-195	21	17	16	暗褐色土、にぶい黄褐色土、褐色土、黄褐色土	第37号掘立柱建物跡
	112	894	VIIIP-195	22	15	10	暗褐色土、褐色土	
	112	895	VIIIP-194	18	16	15	褐色土	
	112	896	VIIIP-194	25	22	21	暗褐色土	
	112	897	VIIIP-194	22	18	7	暗褐色土、褐色土	
	112	898	VIIIP-193	28	22	20	褐色土、にぶい黄褐色土、暗褐色土	
	112	899	VIIIP-193	18	14	10	黒褐色土、暗褐色土	
	112	900	VIIIO-192	35	30	12	黒色土、黄褐色土	
	112	901	VIIIO-190	24	15	7	黒色土、褐色土	
	112	902	VIIIO-190	23	17	30	黒色土、黒褐色土	
	112	903	VIIIO-190	33	24	5	褐色土	
	112	904	VIIIO-192	27	21	8	黒色土	
	112	905	VIIIN-192	33	31	26	黒褐色土、暗褐色土、にぶい黄褐色土、褐色土	

G区ピット観察表4

図	ピット 番号	グリッド	開口部径 長軸 (cm)	開口部径 短軸 (cm)	深さ (cm)	土色	備考
112	906	VIII O-190	35	33	13	黒色土、暗褐色土	
112	907	VIII N-193	36	30	18	暗褐色土、褐色土	
112	908	VIII N-193	37	31	24	暗褐色土、黒褐色土、にぶい黄褐色土	
112	909	VIII N-192	36	322	26	黒褐色土、暗褐色土、褐色土	
112	910	VIII N-192	30	28	15	黒褐色土、褐色土	
112	911	VIII N-192	31	28	21	黒褐色土、褐色土	
112	912	VIII M-192	17	15	9	黄褐色土、褐色土	
112	913	VIII M-192	36	30	26	褐色土、にぶい黄褐色土、黒褐色土	
112	914	VIII M-192	55	41	22	暗褐色土、黒褐色土、黄褐色土	
112	915	VIII M-192	55	41	22	不明	
112	916	VIII M-194	16	16	12	暗褐色土	
112	917	VIII M-193	29	24	16	褐色土、黄褐色土、明黄褐色土	
112	918	VIII M-193	36	28	14	暗褐色土、黒褐色土、褐色土、にぶい黄褐色土	
112	919	VIII M-193	21	19	29	褐色土	
112	920	VIII M-193	24	19	5	褐色土、暗褐色土	
112	921	VIII L-193	32	30	27	暗褐色土、黒褐色土、褐色土、黄褐色土	
112	922	VIII L-193	25	22	22	暗褐色土、褐色土、黄褐色土	
112	923	VIII L-193	28	24	13	褐色土、黄褐色土	
112	924	VIII M-195	21	20	11	黒褐色土、暗褐色土、褐色土	
112	925	VIII R-194	21	16		不明	
112	926	VIII Q-186	18	15	11	暗褐色土、黄褐色土	
112	927	VIII Q-186	18	18	7	暗褐色土、褐色土	
112	928	VIII Q-186	23	18	8	黒褐色土	
112	929	VIII Q-184	15	13	11	暗褐色土	
112	930	VIII Q-184	19	17	13	暗褐色土	
112	931	VIII T-193	25	20	9	暗褐色土、褐色土	
112	932	VIII N-195	16	13	6	褐色土	

### 第3節 遺構外出土遺物

#### 1 土器

##### 縄文時代前期の土器 第I群 (図114～115 1～68)

出土量の多い一群で、口頸部に特徴的な文様帯を持つものが大半である。ただし小片が多く摩滅の度合いも著しいため、器形や器高を含め細部については不明である。口頸部には、①大型の隆帯をもつもの、②絡条体を回転施文するもの、③結束第一種を回転施文するもの、④原体の側面圧痕のみを施すもの、大別して4つのタイプがみられる。胴部には複節縄文を斜回転させるものと絡条体を縦位に回転させるものが多くみられる。

1、2は頸部に大型の隆帯を施したものである。胎土には繊維が多く含まれ、重量感があまり無い。表面は摩滅が著しいものの、隆帯上と隆帯の脇にはLR縄文の側面圧痕が配されているようである。これらは前期中葉～後葉に比定されるものと思われる。

3～6は口頸部文様帯に単軸絡条体第1類を、7及び8は単軸絡条体第5類をそれぞれ横方向に回転施文しているものである。これらの絡条体回転文を主文様として、口頸部と胴部の境界部位に絡条体の側面圧痕(7)や、縄文原体の側面圧痕(3～6,8)が横位に施され、さらに口頸部に縦位圧痕を加えるものもある(3～5,8)。口縁断面はつまみ上げたように先細りし、頸部から外に開く形が多く、正面形状は3～5,8はゆるい波状、6,7は平口縁である。

9～13は口縁部に結束第一種を横回転させ、羽状縄文を施すものである。羽状縄文の開く方向を変化させるもの(9,11)があるほか、口頸部文様帯の境目となる口縁端部や頸部に縄文原体の側面圧痕を配するもの(10,11)や絡条体の側面圧痕を施すもの(13)がみられる。胴部の一部が残存する9や13を見ると、胴部文様は複節縄文の斜回転施文によるようで、結束第一種の施文は口頸部文様帯に一段施されるだけのようである。口縁断面は内面が外側に向かい傾き、先細りするものが多いが、9は口唇に面を持ち、LR縄文が回転施文されている。正面形状はゆるい波状口縁のもの(11)と平口縁のもの(9,10,12,13)がある。

14～33,41は縄文原体の側面圧痕を口頸部文様帯に施すものである。斜位の側面圧痕だけを用いた幾何学状の文様はなく、斜位と横位を組み合わせた山形状(14,16～20,25)、菱形状(15)、横位の側面圧痕だけを施すもの(21～24,26～33)のほか、それらに縦位の側面圧痕を組み合わせたもの(14,17,19～21,31)もみられる。口縁断面は内面の先端が外側に向かって傾き、外面も頸部から若干外傾するものが多い。また口縁の平面形状は平口縁が多く、緩い波状口縁(14,17,19,20)が混じる。波状口縁のものでは、縦位圧痕を施文する場合、その施文位置が波頂部にある場合が多いようである。

34及び37～39も縄文原体の側面圧痕を口頸部文様帯に施すものであるが、14などの前に述べた口縁部破片に比してやや作りが丁寧に感じられ、口縁部文様帯の幅も前に述べたものに比べ縮減されているなど、より後出的なものと思われる。構成文様には山形状(34,38)、菱形状(37)、横位のもの(39)がみられ、37では縦位の側面圧痕も施される。39は口頸部の端部に段を持ち、その部分に半裁竹管状の連続刺突列を巡らせるものである。これらは他のものに比して新しい段階、おおむね前期末葉に比定されよう。

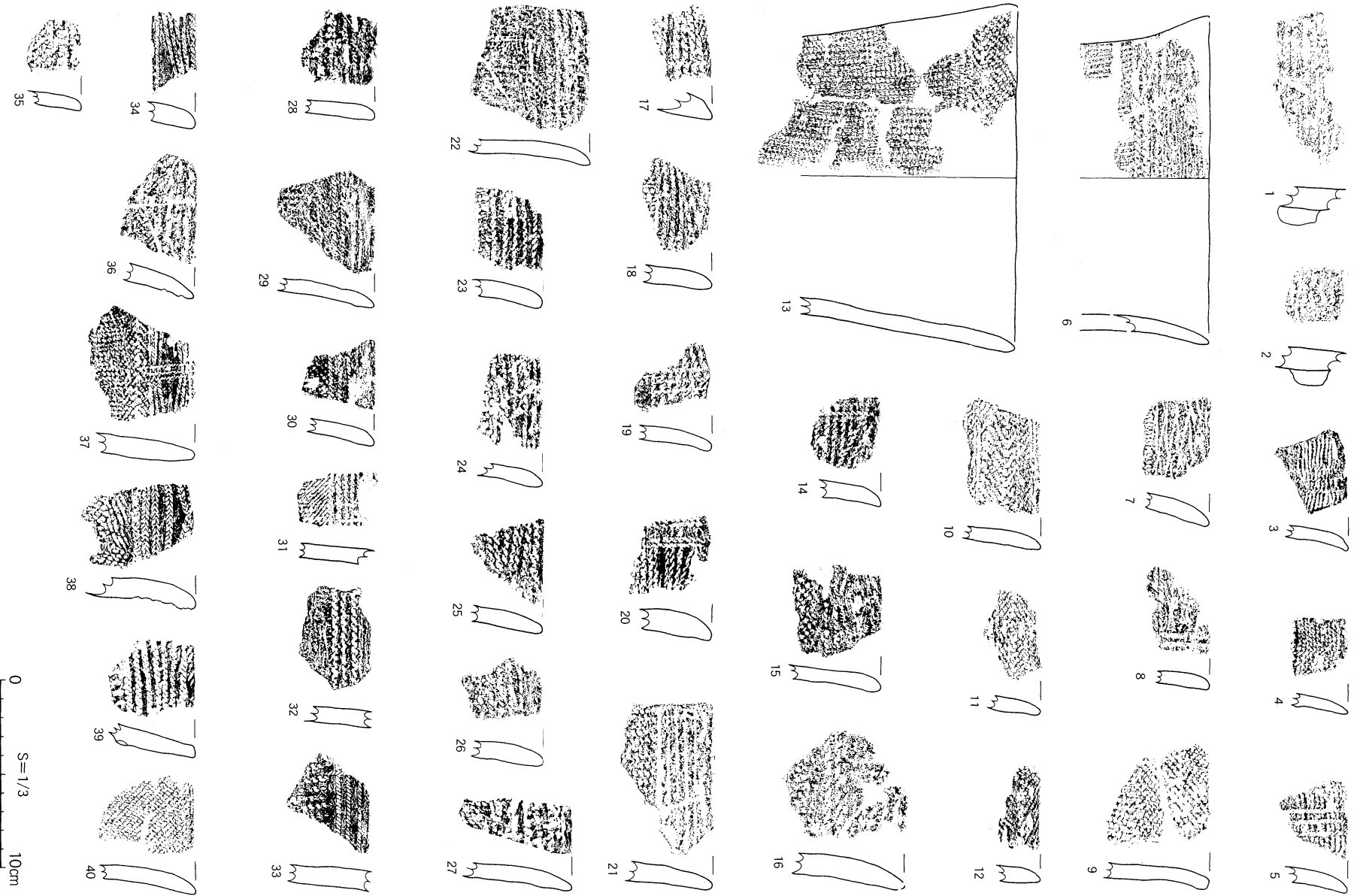


図114 G区遺構外出土土器(1)

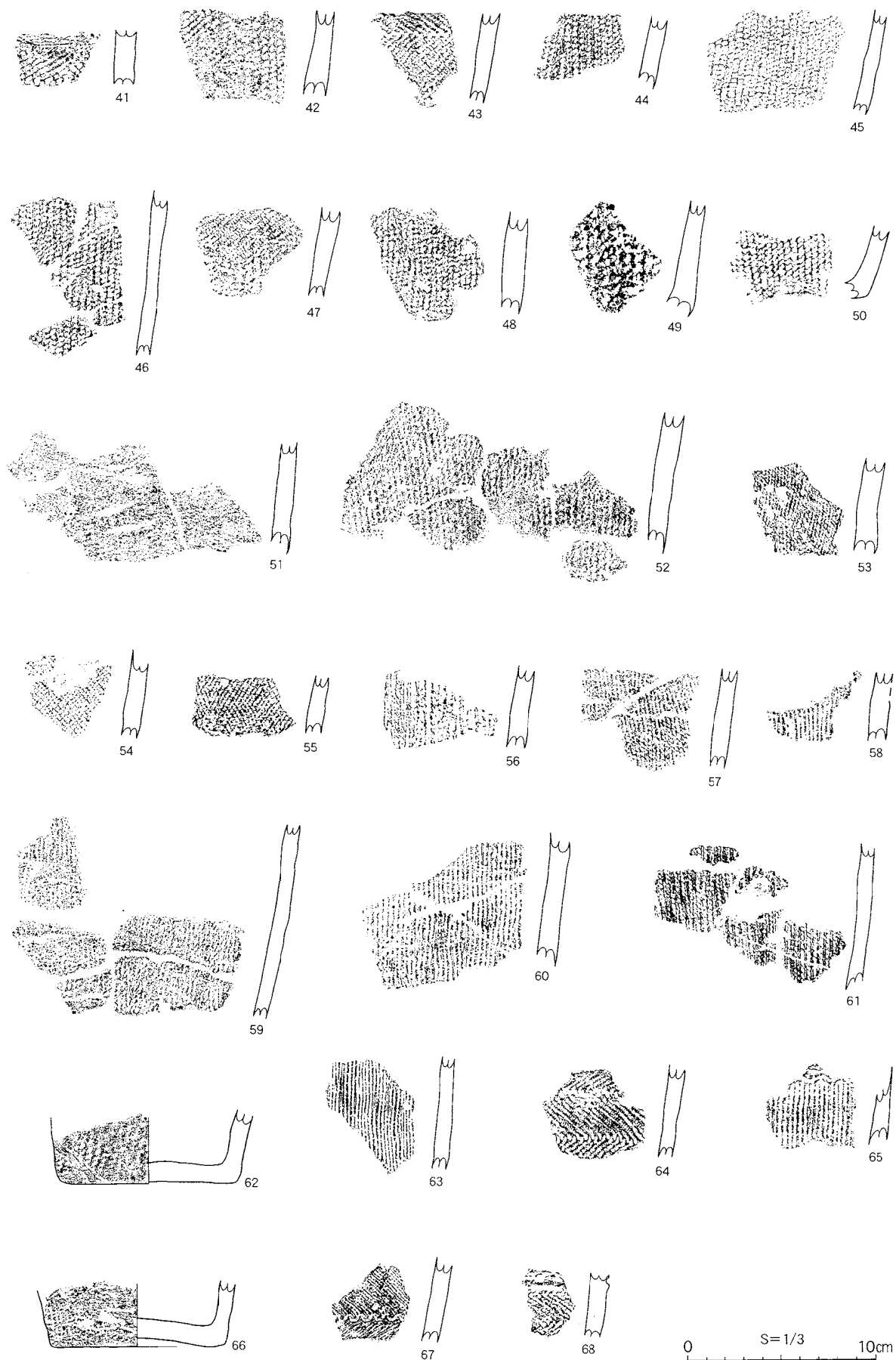


图115 G区遺構外出土土器(2)



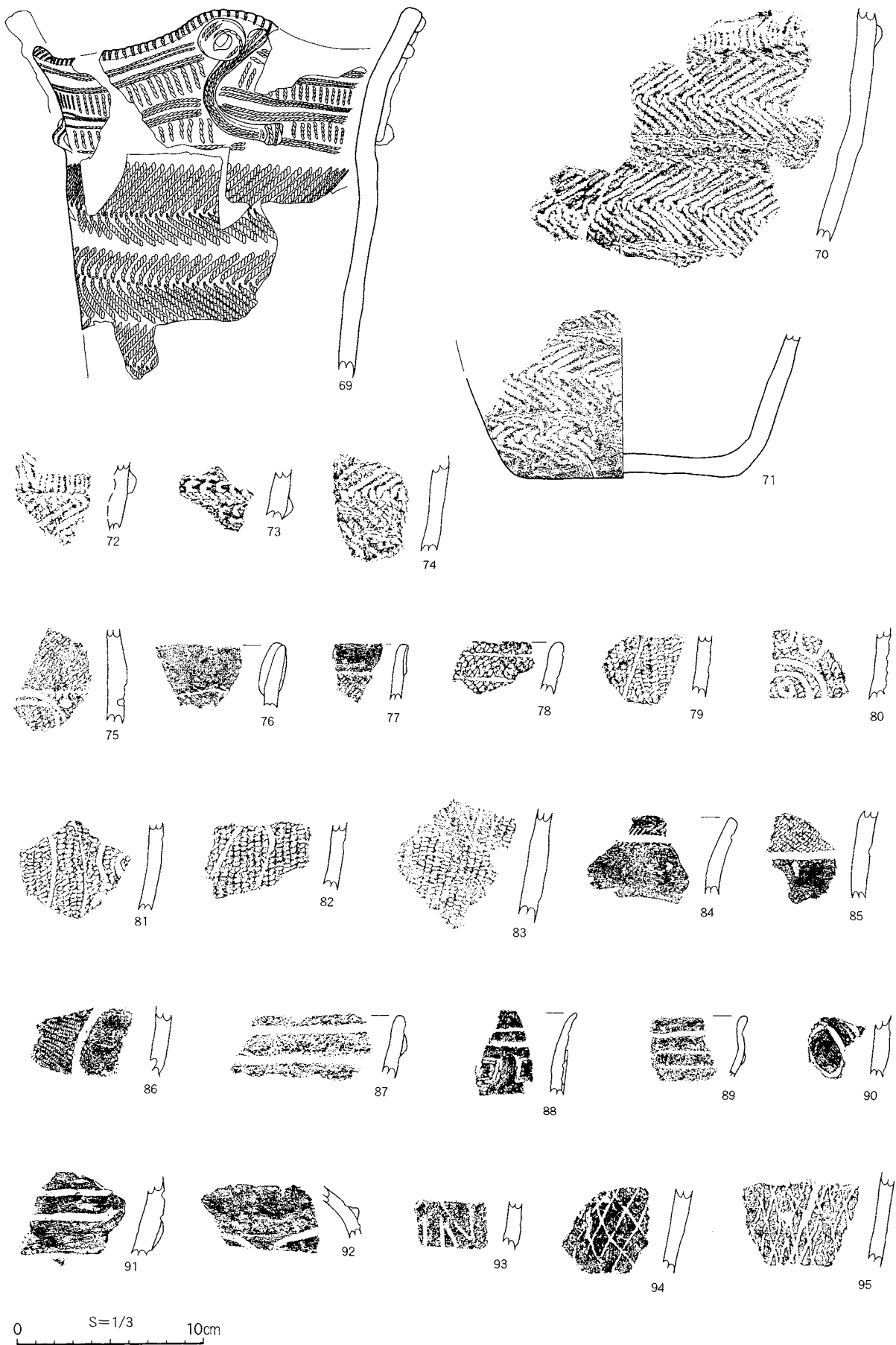


図116 G区遺構外出土土器（3）

また35は絡条体の側面圧痕を施すもの、36は原体の側面圧痕の代わりに連続刺突列が巡るもので、モチーフは縄文の側面圧痕を施すものと同様である。40は口縁端部に側面圧痕を配するだけで口頸部文様帯を構成せず、縄文のみ施されるものである。

胴部・底部破片ではR L R縄文の斜位回転や単軸絡条体第1類の縦位回転によって器表面を縦走する縄文が主であり、単節縄文が斜行するものも混じる。また、口頸部文様帯の直下、頸部にのみ単節縄文の横回転施文(42、47)や結束第一種の横回転施文(43)など、胴部と異なる文様を施すものも見られる。結束第一種が胴部に2段以上施されるもの(64、68)や、結束第二種の横位回転施文(67)、結節回転文を施すもの(65)は、他に比べて後出的な要素と見られ、口縁部破片の中にもみられた前期末葉の土器に類するものと思われる。

### 縄文時代中期の土器 第Ⅱ群 (図116 69~77)

69は4単位の波状口縁を持つ深鉢である。口頸部文様帯には横位の原体側面圧痕と、縦位の短い側面圧痕を組み合わせた、はしご状のモチーフが施してあり、波頂部にはボタン状と縦位弧状の隆帯が貼り付けられている。胴部は結束羽状縄文を数段巡らせるものである。70は口頸部と胴部の境に隆帯を巡らせ区画とし、その隆帯上にL縄文を縦位に連続して押圧している。胴部には結束第一種を横位に回転施文しており、71,72,74はこの70と同一個体と思われる。73は隆帯で区切られた口頸部文様帯の中にC字状の縄文側面圧痕が配される深鉢であろう。これら69~74の土器は中期前葉の所産と考えられる。75は頸部と思われる無文帯下に2条単位の沈線により逆U字状のモチーフが描かれ、そのモチーフ間には円形刺突がなされる中期後葉の深鉢と思われる。76,77は無文の折返し口縁をもつもので、76の口縁内面には鱗状突起がみられる。中期末葉に比定される土器であろう。

### 縄文時代後期の土器 第Ⅲ群 (図116~122 78~222)

初頭~前葉、後葉の土器が出土しているが、後葉の土器が最も多い。

78~82はR L縄文を縦回転施文したうえに沈線文を施すものである。R L縄文のみの83も81、82と同一個体であると思われることからこの類に含めた。84~86は太めの沈線で大柄のモチーフを描き、磨消縄文の手法を使うものである。84は口縁部に縄文帯が、その直下には磨き込まれた無文帯が巡る。口頸部が大きく外傾する深鉢である。これらは78~86はその施文や胎土、焼成等からおおむね後期初頭に位置付けられるものと思われる。

87~93は前葉の土器である。87、88は深鉢、89は小型の鉢の口縁部であろう。ともに沈線間に半隆帯状の粘土紐を貼付け、器表面を丁寧な磨いている。90~92もこうした手法による壺の胴部、93は深鉢の胴部と思われる。94、95は網目状撚糸文の施された深鉢の胴部であり、中期末葉~後期前葉に位置付けられるであろう。

96~222は後期後葉の土器である。小破片が多く器形を把握できないものが多いため、施された文様によって、口縁等に刻目帯を持つもの、帯状の縄文帯により文様を描くもの、沈線文により文様を描くもの、無文のもの、縄文のみのもの、というように大まかに分け、その上で器種のわかるものについては別に述べることにする。

刻目帯を持つものは数点にとどまる。96と97は同一個体で台付の壺あるいは注口土器であろう。

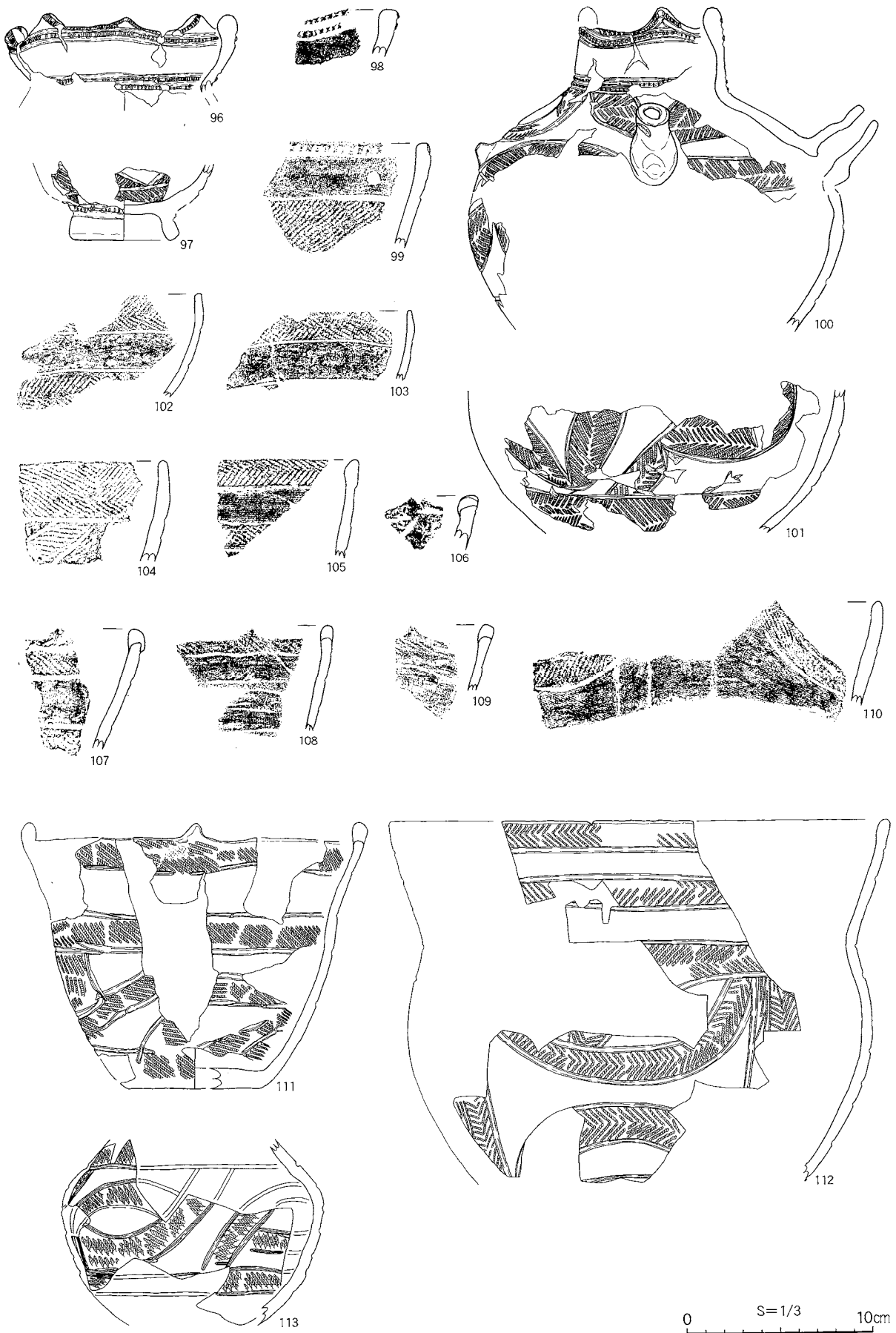


図117 G区遺構外出土土器（4）



图118 G区遺構外出土土器 (5)

口縁には大型とやや小型の山形状の突起が交互に並び、4単位ずつ全周するであろうか。口縁端部と突起部分は内側に肥厚する。その口縁突起上に一列、その直下に一列の刻目帯があり、無文帯を挟んで屈曲する頸部にも2列の刻目帯がある。また底部と台部が接続する屈曲部位にも一列刻目帯が配される。胴部文様は木葉状の磨消縄文が施されるようである。100も注口土器であり、101と同一個体である。口縁端部と頸部に96と同様の2列の刻目帯を有する。口縁には山形状の突起があり、肩のやや下がる部分に大きめの貼瘤と注口が位置する。胴部文様は木葉状文を主体にP字状の縄文帯も側面に描かれる。98は波状口縁の深鉢、99は平口縁の深鉢である。共に口縁端に刻目帯を持ち、その下には無文帯が巡るものである。98はやや厚みがあり、胎土や焼成からみると中葉に比定される可能性もある。

帯状の縄文帯により文様を描くものには深鉢、鉢、壺、注口土器がみられる。110は大波状口縁の深鉢と思われ、口縁部に縄文帯がその下には無文帯が配される。111は平口縁に口縁突起をもつもので、頸部にゆるいくびれを持つ。頸部には横位の縄文帯と無文帯が巡り、胴部には弧状文が施される。107、122が胎土・焼成共に類似しており、111と同一個体と思われる。112は平口縁の深鉢で、頸部に明確なくびれを持つ。頸部には横位縄文帯、胴部には襷掛状文または弧状文が施され、縄文帯内部はLRとRLによる羽状縄文が充填されている。105も112と同一個体であろう。102、103は同一個体の鉢、108、109は平口縁に突起を持つタイプの深鉢で、いずれも口縁下に縄文帯を持つタイプである。113は壺もしくは注口土器と思われ、胴部には襷掛状文が施される。114は筒状の口頸部で、破片の下端に屈曲部が残存していることや、116、117、120等と同一個体と思われることから、大型の口頸部を持つ壺であると考えられる。114は縄文帯が無文帯と交互に巡るものであるが、上から4本目と5本目は弧状を呈しており、襷掛状文の可能性もある。117は胴の張り出す部分に瘤があり、襷掛状文が施されている。115、119も114と同様に壺の頸部、121、123、124は壺の胴部であろう。

127は大波状口縁の深鉢と思われるが、三角形状ではなく台形状である。頂部には3つの突起があったものと思われるが、うち一つを欠いており、突起には刻みがある。口縁の斜辺に沿って2本単位の縄文帯が施され、充填される縄文は部分的に異原体による羽状縄文となっている。129及び133も同一個体であろう。次の128も大波状口縁の深鉢であり、波頂部の内面には縦位の刻みが見られる。127と同様に2本の縄文帯が口縁に沿い、LRとRL縄文がそれぞれ一方の縄文帯に充填されて羽状の構成をとっている。132も同一個体と思われる。130及び131は口頸部に地文として羽状縄文が施され、その上に2条の平行沈線が施される平口縁の深鉢である。厳密には縄文帯ではないものの、128等とモチーフは類似することからこの類に入れた。134は壺もしくは注口土器と思われるが、胴上部をはじめ胴部の大半を欠いており図上で復元した。口縁部と頸部に2本単位の縄文帯が巡り、胴部には1本単位で弧状のモチーフが描かれる。縄文はRLとLRが使用されているが、縄文帯内で羽状構成はとらない。口縁には小振りの突起が、胴の張り出す部分には先が尖り気味の小さな瘤が貼り付けられている。135～138は同一個体の注口土器と思われるものの、残存部分が少ないことから確実なことはいえない。135は口縁部と頸部に2本単位の縄文帯が巡るが、縄文の施文は雑で、頸部下端の縄文帯は部分的にしか施文されない。胴部の136には胴上部と胴下部にそれぞれ襷掛状文が巡り、中央の横位の縄文帯が上下を分離している。注口部の137と貼瘤の138はその胴部中央付近に付けられるようである。143と144もまた同一個体の壺、または注口土器と思われ、口縁から頸部にかけて



図119 G区遺構外出土土器(6)

の143には「く」の字状の屈曲が見られる。口縁にも突起が付けられ、内面には縦位の刻みを持つ。その胴部と見られる144には貼瘤があり、摩滅のためはつきりはしないが143、144ともに横位の縄文帯が、また143の下端部分は連結帯状文が施されているようである。また139は壺の口頸部、145及び147は壺の胴部でそれぞれ横位の縄文帯が巡るものである。

沈線文により文様を描くものは140、141、142、146がある。このうち140～142は同一個体で3条単位の沈線で文様を描いており、頸部、胴上部、胴下部に纏掛状文や弧状文が施される。また、胴部の張り出す部分に瘤が貼り付けられている。146は壺の頸部と思われるが、横位沈線が密に描かれる。

無文のものには壺、注口土器、深鉢、鉢等が見られる。149、150、151は同一の壺の口頸部で、口縁は内面から外に向けてつまみ出すような形態で、粘土粒状の突起が見られる。器表面は丁寧なみがかれており、口縁下と頸部には沈線状の段が巡ることから、厳密には無文とは言えない。152も壺と思われるが、胴の張り出した部分に瘤が貼り付けられ、瘤は上面に刻みが入れるタイプのものである。153は注口土器の注口部で、表面は無文、下部の付け根には瘤がみられる。無文に含めたが胴部には何らかの文様が施されている可能性がある。154～170は深鉢もしくは鉢の口縁部で、断面形は底部から直線的に立ち上がったあと、口頸部付近でやや内傾気味に直立するような形が多い。胎土はある程度精製されたものや、径2mm程度の砂粒を多量に含むものなど個体差が大きい。調整もまた同様で、輪積み痕を指ナデで消すだけのものや、ヘラ状の工具等を用いて荒いナデ、ミガキを施すものなど個体差が著しい。169は181と同一個体で、胎土には径1mm程度の砂粒が多量に含まれるものの、内外面は丁寧なミガキが施され細かな工具痕が残る。焼成も良く薄手で堅緻である。SK-702の1層出土の無文土器と同一個体と思われ、胴下部で急に立ち上がったあと口縁まで直立するような器形の深鉢になるのであろうか。172は中型の深鉢で胴部には成型時のナデ調整の凹凸が残る。174は小型の鉢、175は頸部にくびれを持つタイプの鉢で、ともに底部はやや丸みを帯び胴部との境界は曖昧である。176は内外面に非常に丁寧なミガキを施してあり、しっかりとした境界面を持つ底部まで同様のミガキが施される。177は186と同一個体と思われる鉢で、内外面には炭化物が付着する。胎土が精製されているためか、器面は他の土器に比べてやや軟らかい感じを受ける。出土しているIXH-192グリッド付近からは晩期中葉を前後する土器が出土していることから、その時期のものの可能性もある。

縄文のみのものは、大半が深鉢もしくは鉢である。縄文は整然とした異原体による横方向の羽状縄文が多い(187～211)が、一原体による一方向回転の縄文も割合としては少ないながらもみられる(212～222)。全て平口縁で口縁突起は持たず、胴部のくびれを持つものもみられないようである。断面形では無文の土器と同じように底部から直線的に立ち上がったあと、口頸部付近でやや内傾気味に直立するような形が多い。口縁部は明瞭に外面、口唇、内面が区分され、口唇と内面には丁寧なミガキが施される。この部分の内側が肥厚しているようにもみえるが、意図的に作り出したというよりは、内傾もしくは真上を向くような口唇端面の形成段階に生じたものであると思われる。199はIXA-184グリッドから出土した完形の小型鉢である。原体LRとRLによる羽状縄文で全体が飾られるが、雑然とした感がある。胎土や焼成の状況は同じIXA-184グリッドから出土している96,97,100,101などの刻目帯をもつ注口土器等と似ている。同グリッドには、このほかの土器が見られないことから、96や100などに伴う土器の可能性も考えられる。202はLRとRLによる羽状縄文

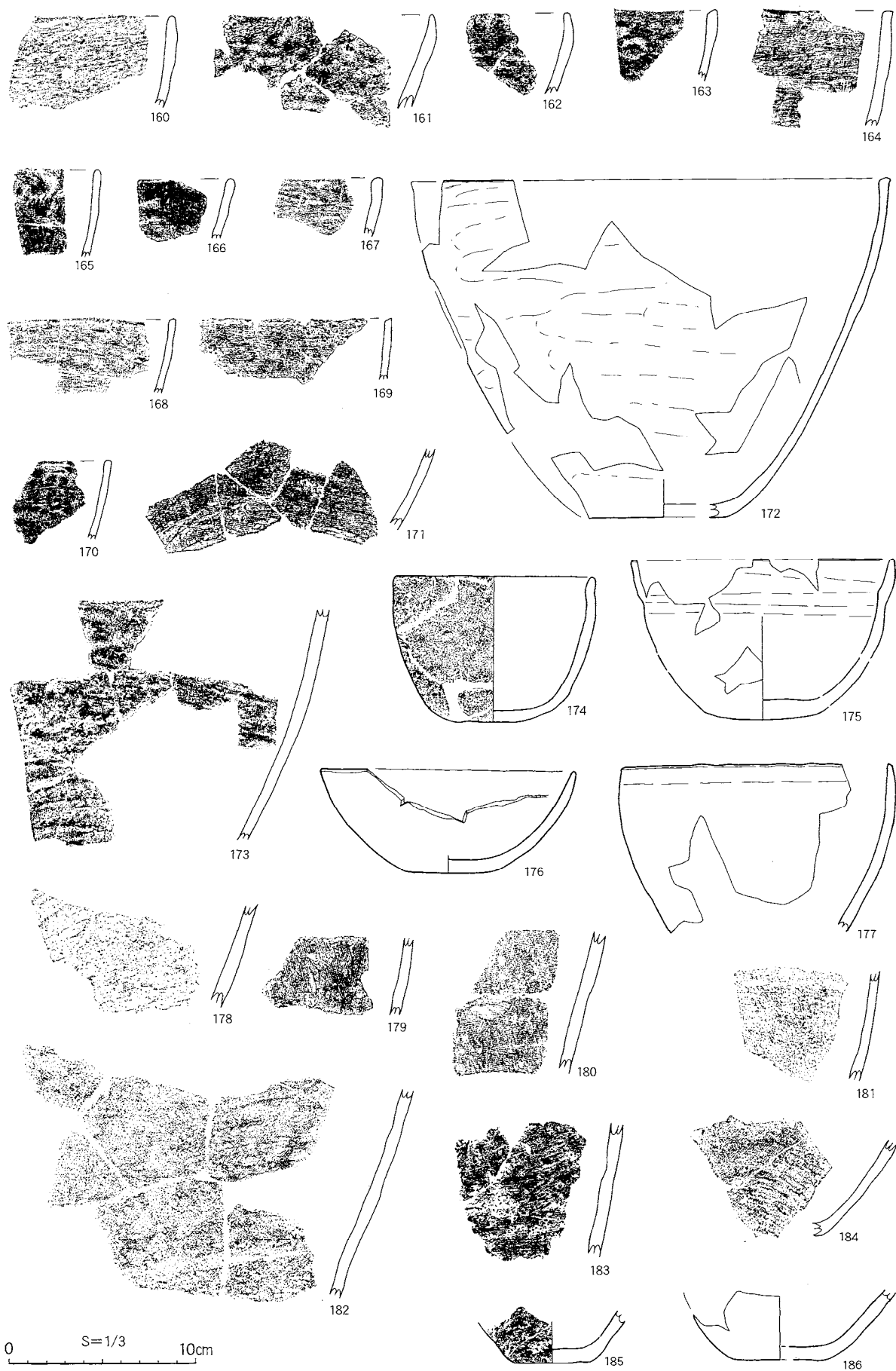


図120 G区遺構外出土土器（7）



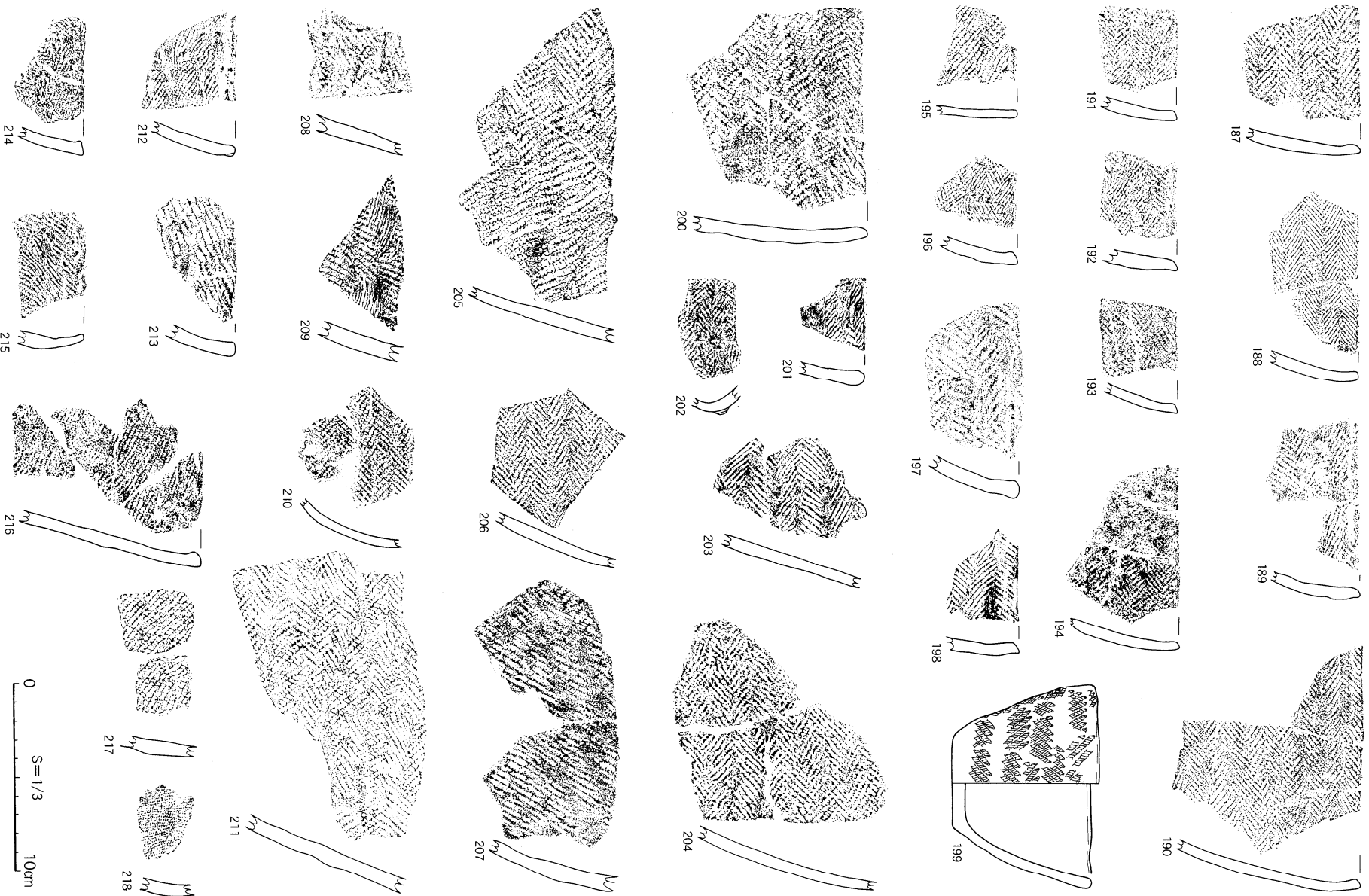


図121 G区遺構外出土土器 (8)

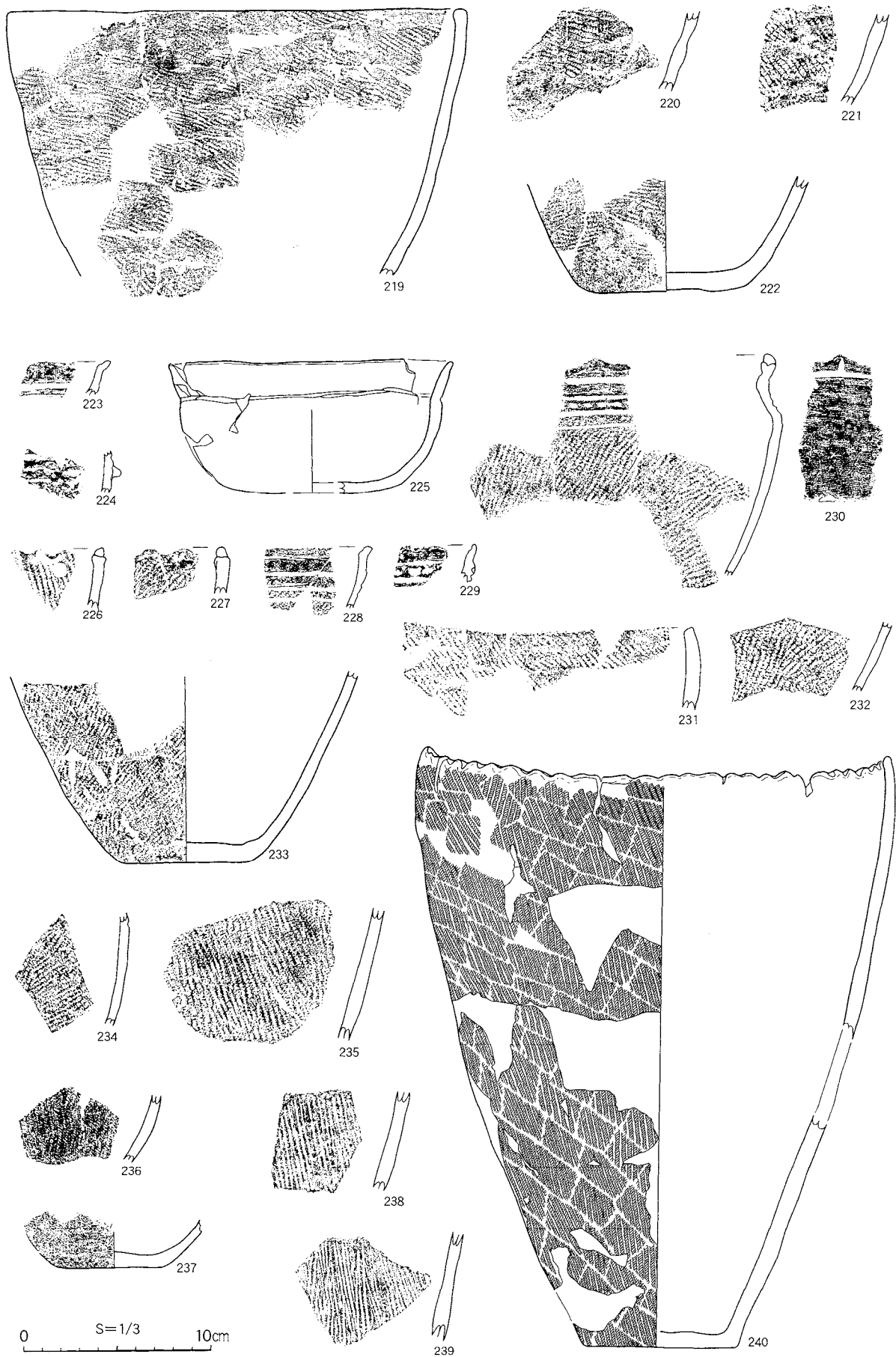


図122 G区遺構外出土土器（9）

が施されるもので、小型の壺と思われる。小さな貼瘤を持ち、貼瘤には断面形で言うと器面に並行に、縦位の刻みが入れている。219は216、222と同一個体でR L縄文が横位の帯状に施される。縄文帯同士の間には無文の部分が残り、あるいは羽状縄文を意識しているのかもしれない。

#### 縄文時代晩期の土器 第Ⅳ群 (図122～123 223～243)

晩期のものと思われる土器はほとんどIX G～J-192～195グリッドの範囲からまとめて出土している。223は口縁下が磨き込まれ平行沈線が巡る鉢、224は頸部に3条の平行沈線を巡らせ沈線間に粘土粒を貼り付けた鉢の破片である。225は頸部に平行沈線が一条巡る無文の鉢であり、器表面は丁寧に磨き込まれている。223～225は晩期中葉に比定されよう。228も頸部を磨き込み平行沈線の巡るものであるが、胎土と焼成の状況から233と同一個体の可能性が高い。230は表採したもので口縁に山形状の突起を持ち、頸部には4条の平行沈線と刺突列が巡る。232は同一個体であろう。228、230等も晩期中葉のものと思われる。226及び227、240は棒状工具等の押圧による小波状口縁の深鉢で、226と240は同一個体、235も同じものの胴部破片と思われる。部分的に復元された240は、平底の底部から急に立ち上がり口頸部で内傾する器形で、器表面にはR L縄文をやや縦走気味に施文している。これらも晩期中葉の所産と考えられる。またR L縄文が施される231、L R縄文が施される234、236、237、241は胎土や焼成等から晩期前葉～中葉のものである可能性が高い。229は口頸部隆帯に工字文が施されており、晩期後葉に比定される。238及び239、242、243は器面に縦位の条痕が施されるもので、晩期中葉から後葉のものと考えられる。

(神 昌樹)

#### 弥生時代の土器 第Ⅴ群 (図123 244、245)

表土から土器片を2点採集した。器種はR L縦走縄文を地文とする甕で頸部に3条以上からなる平行沈線帯が巡り、その間に1条結節沈線を施す。器形、文様帯から弥生時代中期前半のものと考えられるが小破片のみのため詳細は不明である。なお器面には煤状炭化物の付着、二次被熱による変色が見られ煮沸用土器として使用されたと思われる。

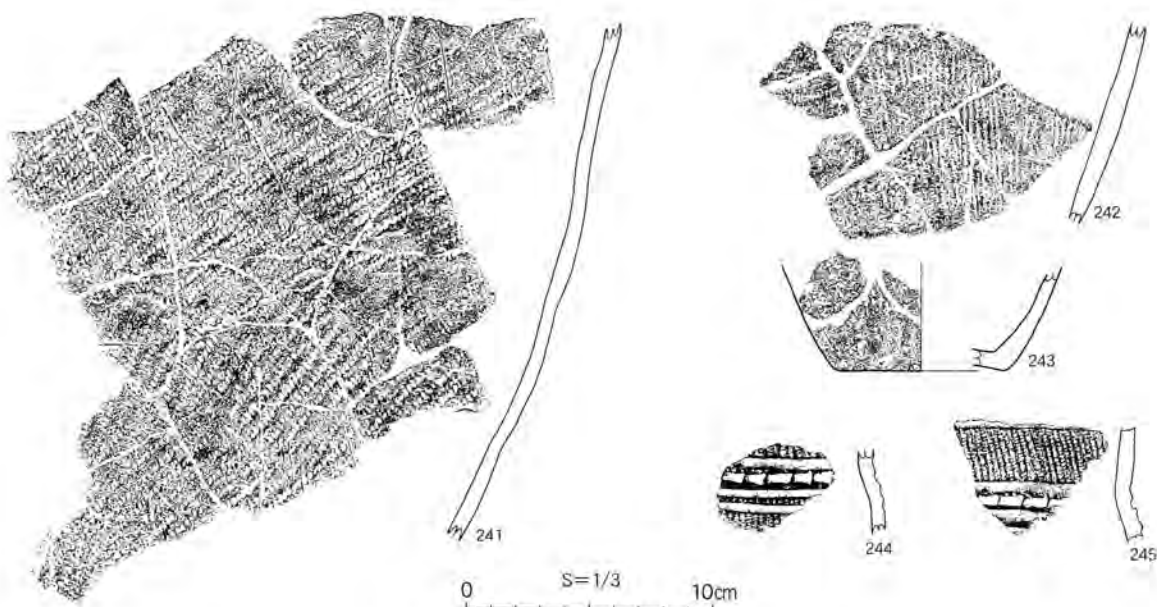


図123 G区遺構外出土土器 (10)

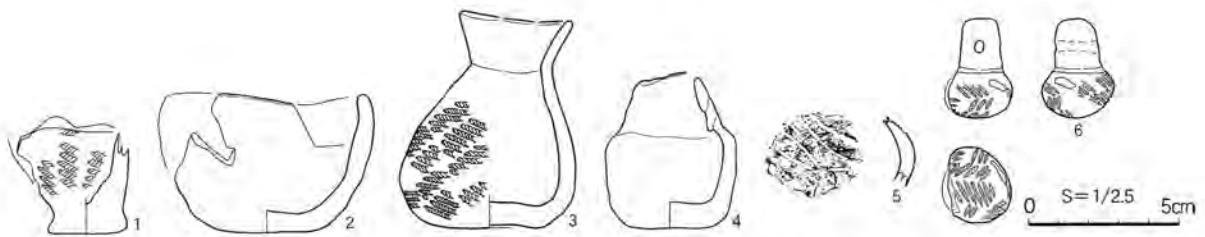


図124 ミニチュア土器・土製品

ミニチュア土器・土製品 (図124 1~6)

ミニチュア土器は5点出土した。全体的に雑な成形で、炭化物の付着や二次被熱の痕跡はみられない。1は深鉢でLRを地文とする。2は無文の鉢、3~5は壺である。3は底部がやや上げ底気味で体部下半に最大径を持つ徳利状の器形で地文にRLを施文する。4は無文で底部から直上して立ち上がり肩部が張り出す。5は体部に沈線文を施す。土製品は分銅形土製品が1点出土した(6)。球状部に異原体による羽状縄文を施し、摘み部には孔が穿たれる。胎土、焼成、文様からいずれも縄文時代後期後葉のものと考えられる。

(福井 流星)

古代以降の土器・土製品 (図125 1~9、土1)

1は土師器片で甕の口縁部である。摩滅が激しく外面の調整は分からなかったが内面はナデが施されている。2は珠洲焼の擂鉢で、卸目は8本確認できる。珠洲V期に相当すると思われる。3~9は肥前磁器である。3は碗の口縁部破片である。外面に文様が施されているのが見られるが破片のため不明である。4は碗の口縁部破片で内面は草花文、外面は二重網目文である。5は碗の体部破片と思われる、内外面とも菊散文が見られる。6は器種は不明であるが底部付近と思われ蛇目釉剥ぎが見られる。7は碗の底部である。内面に草花文、高台内に銘の一部が見られるが不明である。8は碗か皿の底部である。内面は網目文、見込は菊花、外面は二重網目文、高台内に銘の一部が見られるが銘は不明である。9は皿の底部である。高台内外に圏線が見られ高台内には銘が見られる。土製品は1点出土している。10は胎土が縄文・弥生土器と違い土師器の胎土に類似していることから古代以降の範疇に含めた。形状は不正な楕円形をして、親指程の大きさの凹みが見られる。

(齋藤 正)

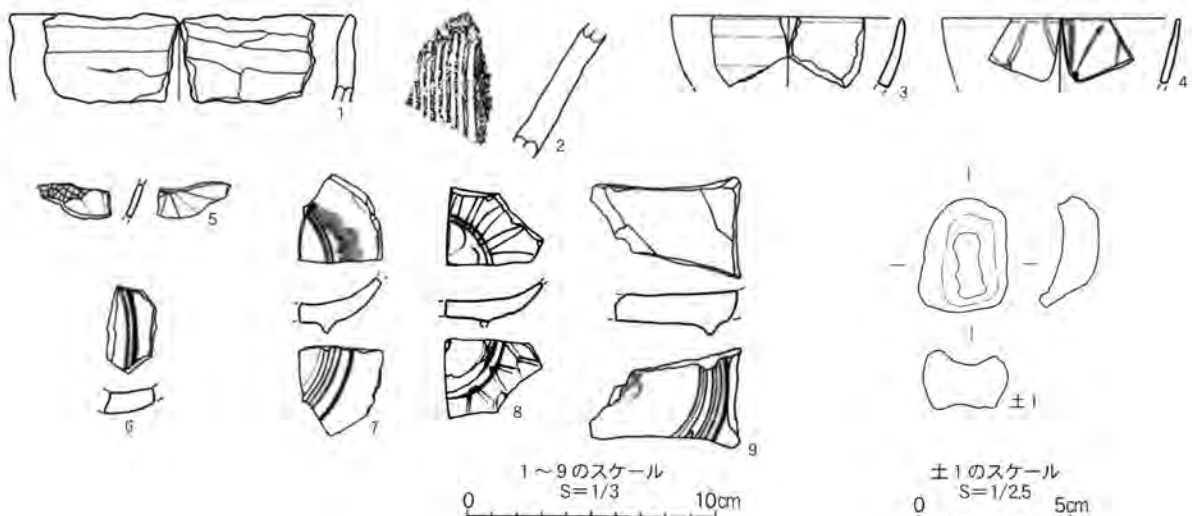


図125 古代以降の土器・土製品

## 2 石器

### 剥片石器

#### 石鏃 (図126 1)

石鏃は1点出土している。1は凸基石鏃である。

#### 石錐 (図126 2~4)

石錐は3点出土している。2は小型の石錐で摘みを持ち短めな錐部を作り出している。3と4は大型である。両方とも背面全体に調整が入るが腹面はあまり調整が行われていない。

#### 石匙 (図126 5~19、図127 20~24)

石匙は20点出土している。縦型石匙は5~15の11点である。5は刃部に明瞭な調整は見られない。6は腹面左側縁に連続した調整が見られる。7は背面両側縁に調整が見られる。8は背面左側縁に調整が見られる。9は形状が逆「く」の字状をしている。背面両側縁に調整が見られるが刃部として使用されたのは末端部と思われる。10は背面両側縁に調整が見られ刃部と考えられる。11と12は背面両側縁に調整が見られる。13は摘み部付近の断片、14と15は先端部の断片である。横型石匙は16~24までの9点である。16は打面部分が刃部の端にきている。調整は背面のみに見られる。17は腹面に刃部調整が施され、打点部分を取り除いている。18は背面にわずかではあるが刃部調整が施されている。摘み部には黒色物質の付着が見られる。19は両側縁に刃部調整が見られる。20は打点部分が刃部の端にきている。調整は背面に見られる。21は刃部が左側縁と下側縁に見られ、下側縁は急角度の押圧剥離で調整されている。摘み部は短く作り出されている。22は背面に刃部調整が施されている。23は縦長剥片のほぼ中央に摘み部を作り出している。刃部調整は押圧剥離によるものである。24は背面に押圧剥離による刃部調整が施されている。摘み部は僅かではあるが存在している。

#### 搔器・削器類 (図127 25~36、図128 37~53、図129 54~66、図130 67~73)

搔器は2点出土している。25は背面左下側に急角度で押圧剥離が施されているのが確認できる。26は末端部に急角度で押圧剥離が施されている。

削器は45点出土している。27は腹面右側縁に短い調整が施されている。28~32は素材の背面右側縁に刃部調整が見られる。33と34は腹面右側縁に調整が施されている。35~43は背面左側縁に刃部調整が見られる。36は直接打撃により刃部が形成されている。表面が被熱により変化している。44は背面左側縁に押圧剥離による連続した刃部調整が見られる。45~50は両側縁に調整が見られる。47と48は末端部にも調整が施されている。51~63、66、68、71は素材の末端部に押圧剥離による刃部調整が見られる。54は直接打撃で大きく形を作り細部を押圧剥離で仕上げ急角度の刃部を持つ。63、68はバルブを除去して握りやすく加工している。66・71は直接打撃による加工が見られる。64は刃部調整に直接打撃が見られる。65は素材の打点側を押圧剥離で加工し刃部としている。67は尖頭部を急角度の押圧剥離で整形している。69は末端部の断片である。70は両側縁に挟りが見られる。72は両面に直接打撃による加工が見られる。73は右側縁に直接打撃による加工が見られる。

## 礫石器

### 磨製石斧（図131 74、75）

磨製石斧は2点出土している。74は刃部の一部が欠けている。成形のための研磨痕は斜方向に見られる。75は刃部付近のみ残存している。研磨痕が全面に明瞭に残る。

### 敲磨器（図131 76～82、図132 83～93、図133 94～98）

敲磨器類は23点出土している。「敲き」「磨り」「凹み」の機能が単一であるものと複合するものが存在している。76～80は磨り石で76～78まで片面にのみ磨痕が見られる。断面形を見ると楕円形ではあるが厚さに違いが見られる。79と80は礫の側面を利用しているものである。両方とも高い利用頻度によるためか側面がかなり平坦になっている。81と82は敲石である。81は礫の両面に敲きの痕跡が見られる。82は棒状の礫の側面上方を機能面としている。83～85は3つの機能の内2つ以上複合している礫である。83は両面に磨り、正面には凹みが見られる。磨面はかなり平坦になっている。84と85は凹みと敲きがあるものである。84は正面に凹み、両側面に敲きが見られる。85は両面に凹み、上下端部に敲き痕が見られる。86～97は凹み石である。86～90は1面だけに凹みが見られ、断面形は楕円形や扁平形といったように様々な形が見られる。88は凹みが2つある。91～98は凹みが2面に見られるものである。91は両面に1箇所ずつの凹みが見られる。92～97はどちらか一方の面に2つ以上の凹みがある。95と96は凹み付近に擦痕が見られる。96は顕著に擦痕が観察でき、砥石として利用された可能性もある。

### 半円状扁平打製石器（図133 99、100）

半円状扁平打製石器は2点出土している。99は礫の右側辺に連続する調整が見られる。欠損部が多く全体形は不明である。100はやや長めの素材の側縁に連続する調整が見られる。

### 石皿（図134 101、102）

石皿は2点出土している。101は平坦な磨り面を持つ。102はやや凹む磨り面である。両方とも擦痕が見られる。

### 用途不明石器（図134 103）

用途不明石器は1点出土している。103は細長い礫の両面の中心部に横方向に短く細かい刻線が入っている。用途等は不明である。

（齋藤 正）

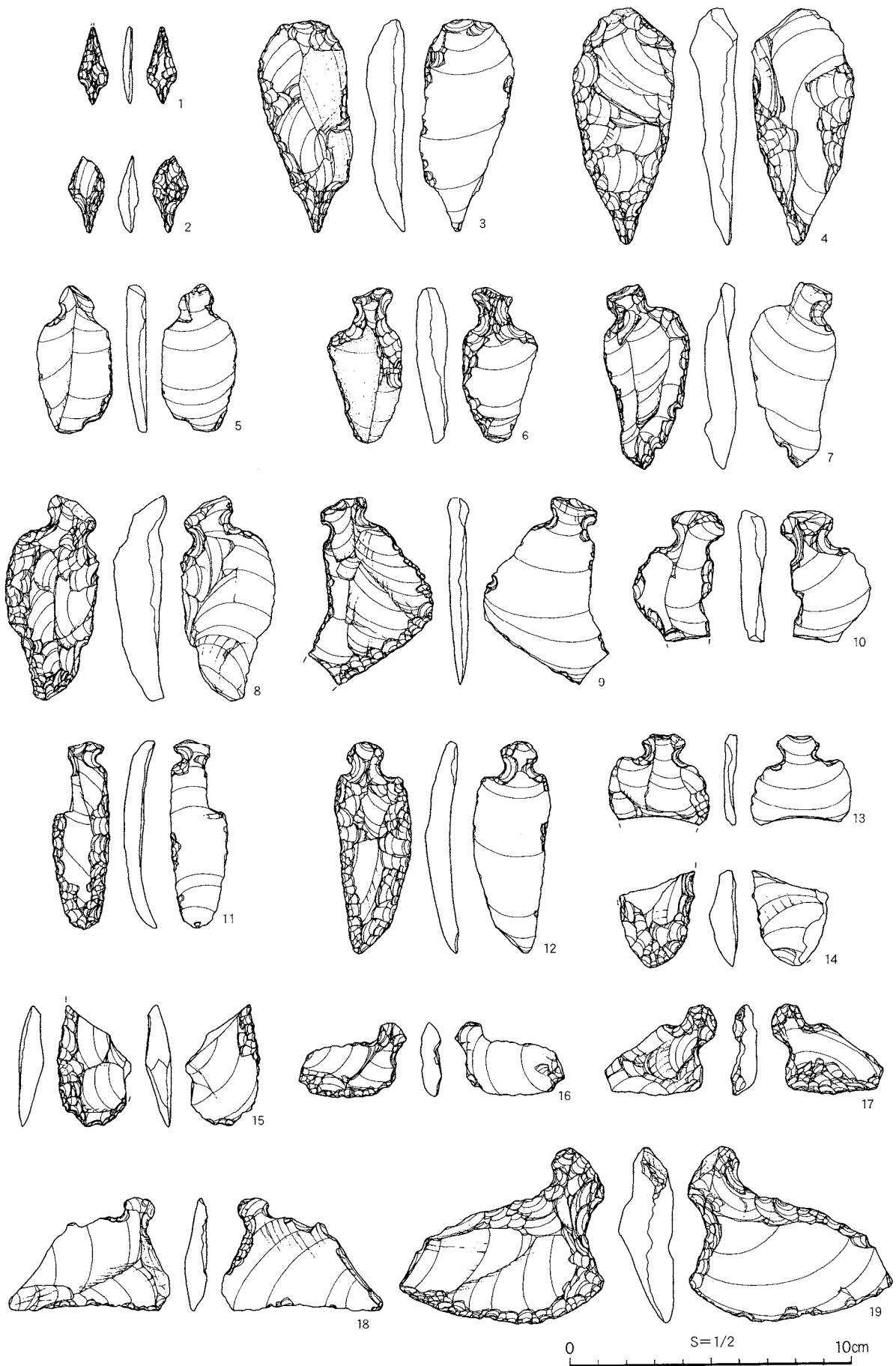


图126 G区遺構外出土石器(1)

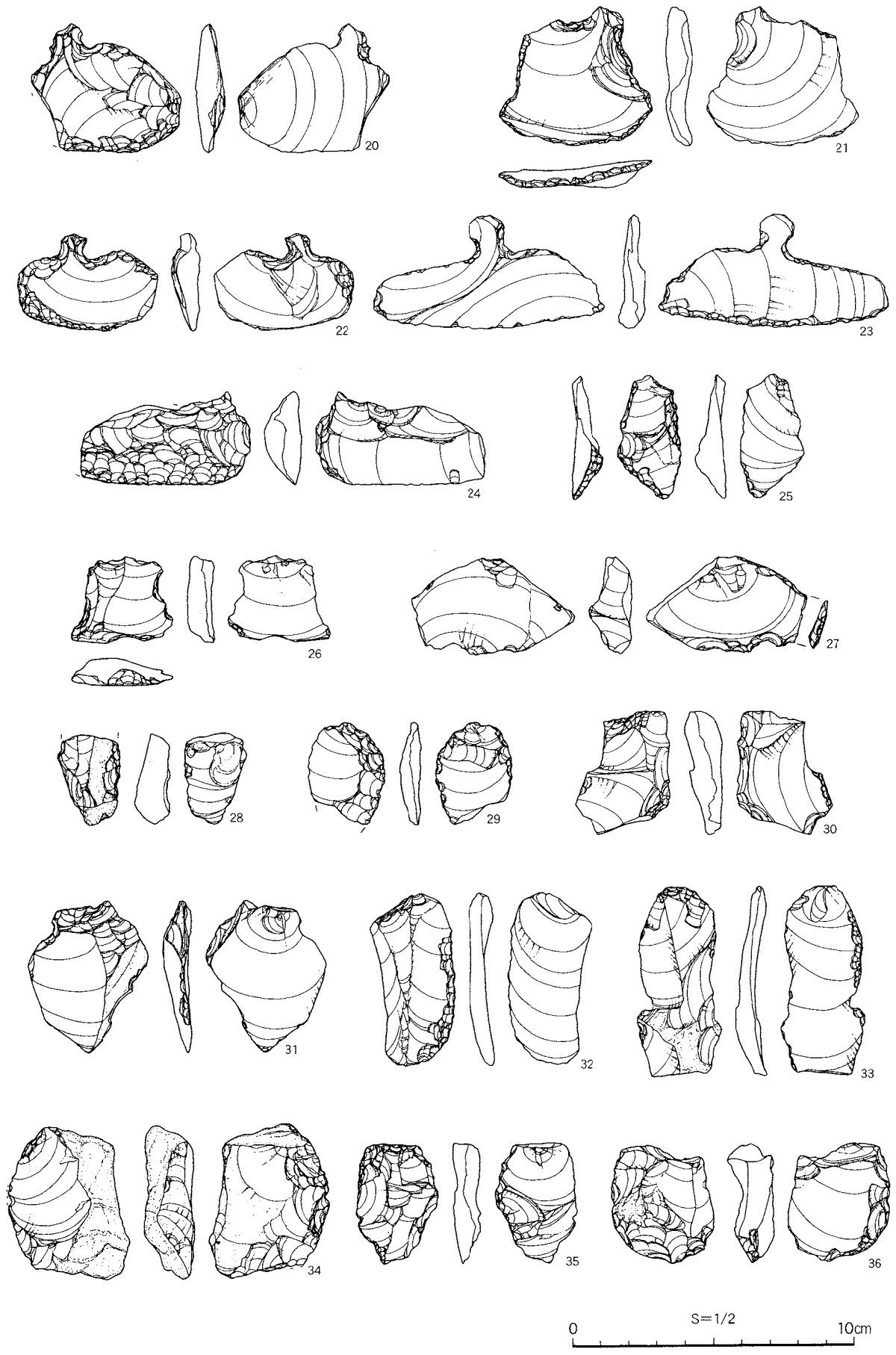


图127 G区遺構外出土石器（2）



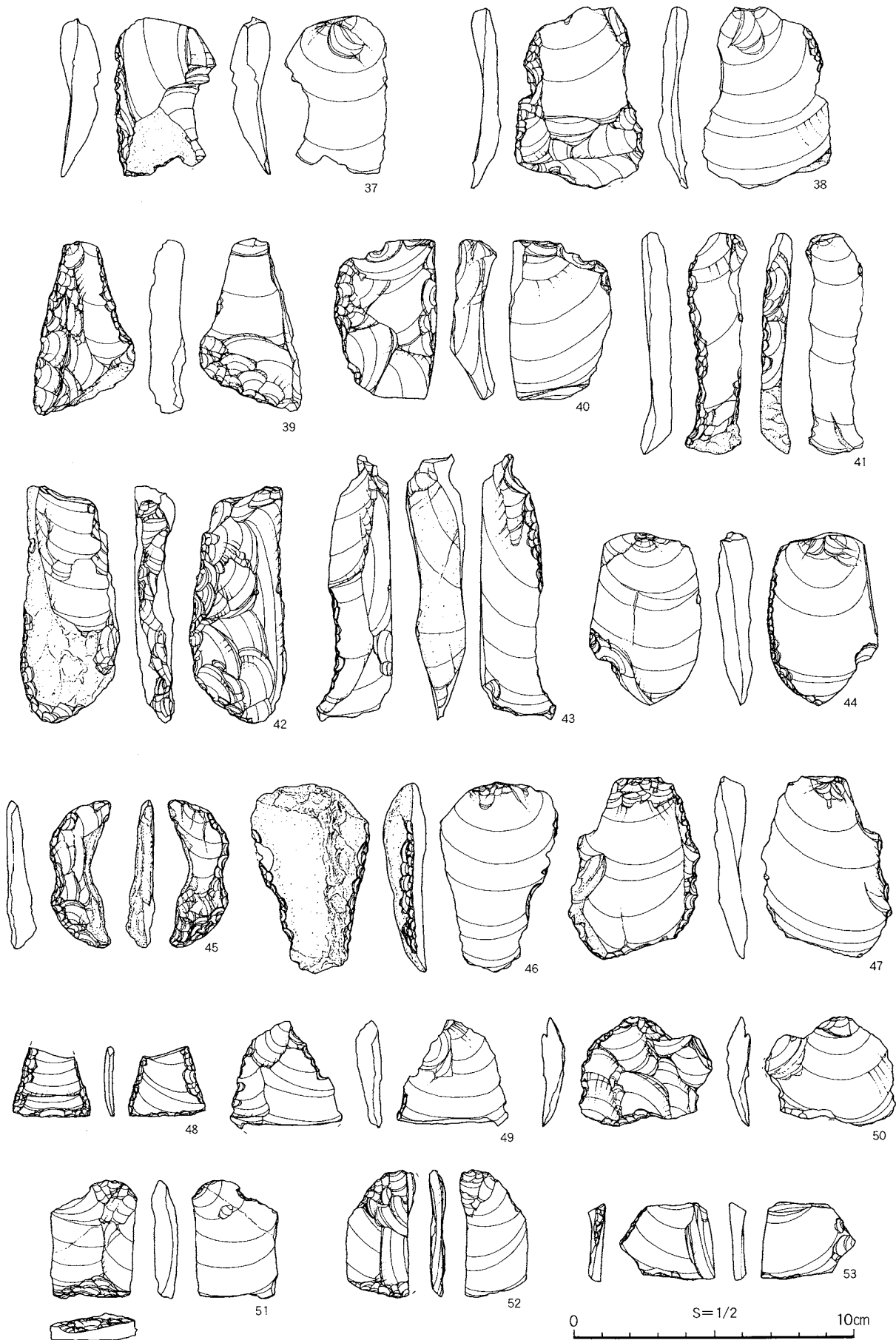


图128 G区遺構外出土石器（3）

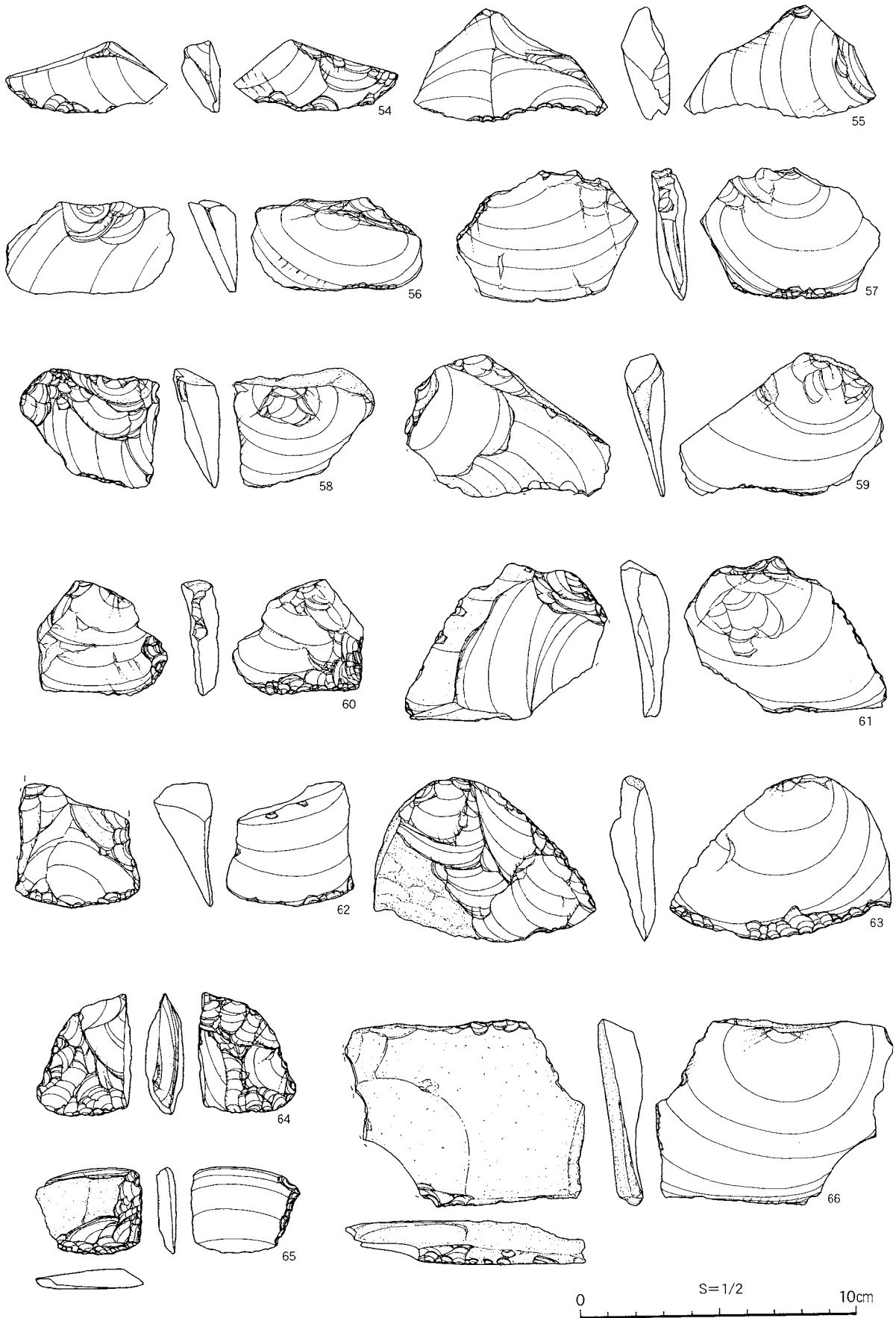


図129 G区遺構外出土石器（4）

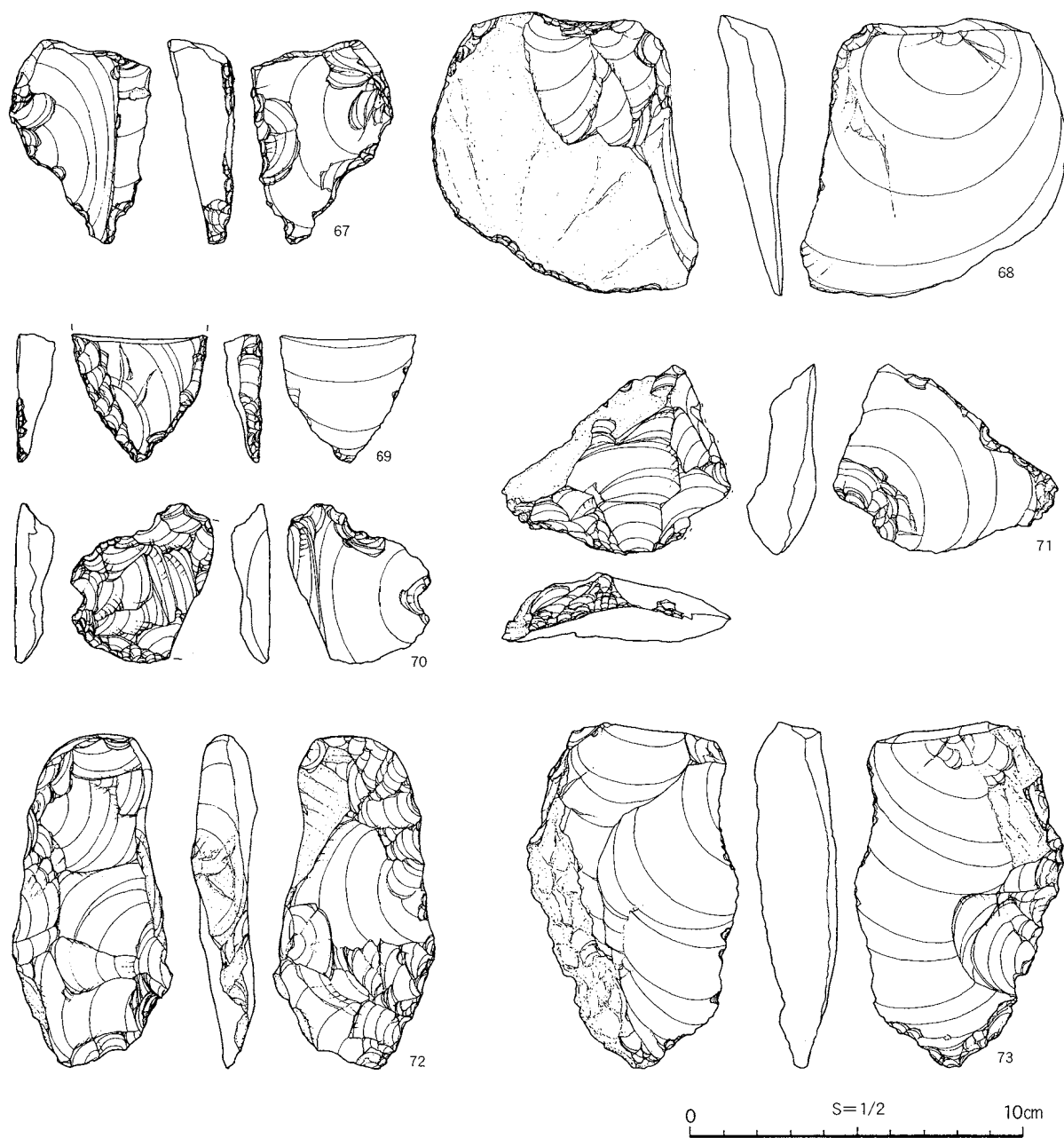


図130 G区遺構外出土石器(5)

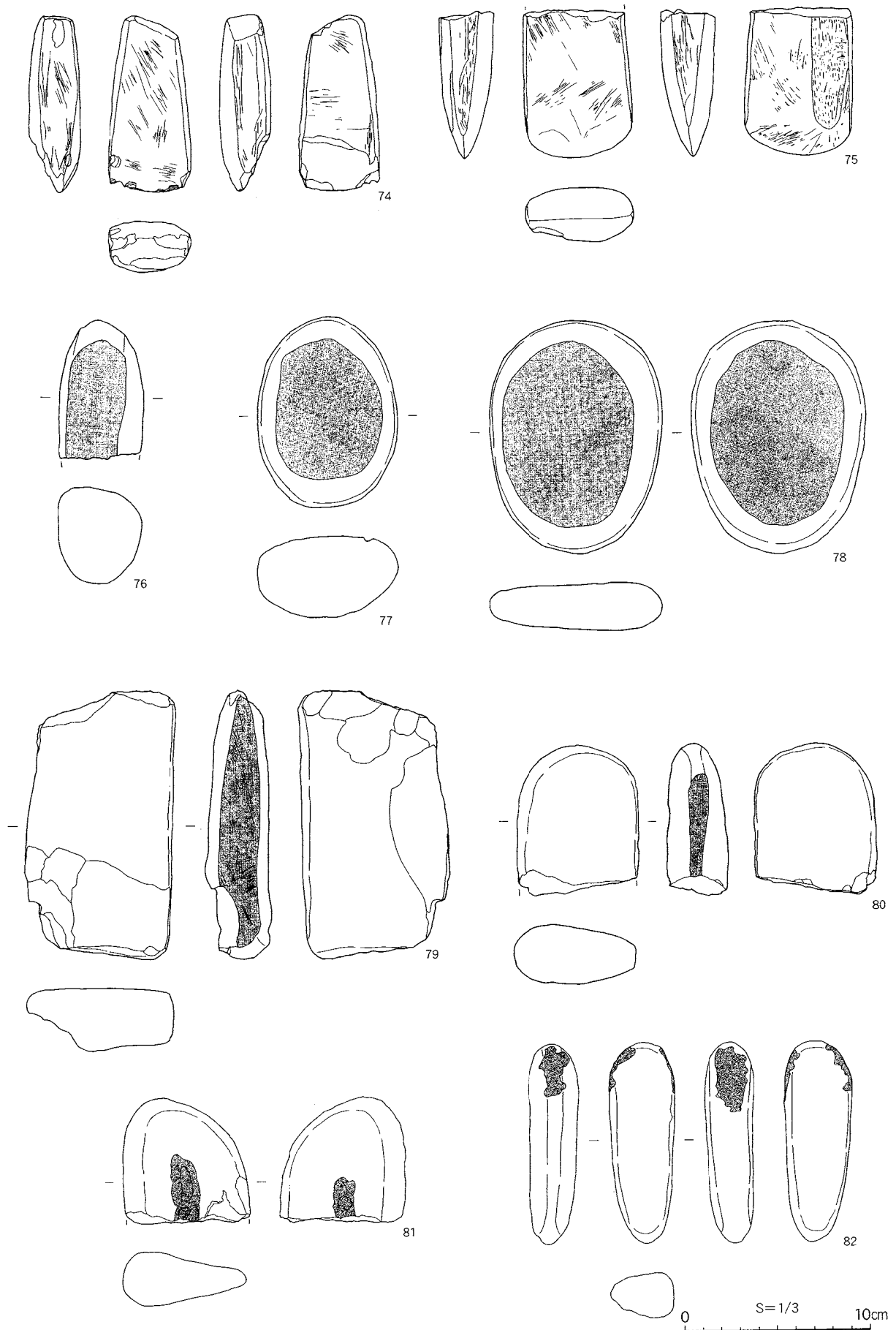


図131 G区遺構外出土石器（6）



図132 G区遺構外出土石器(7)



図133 G区遺構外出土石器(8)

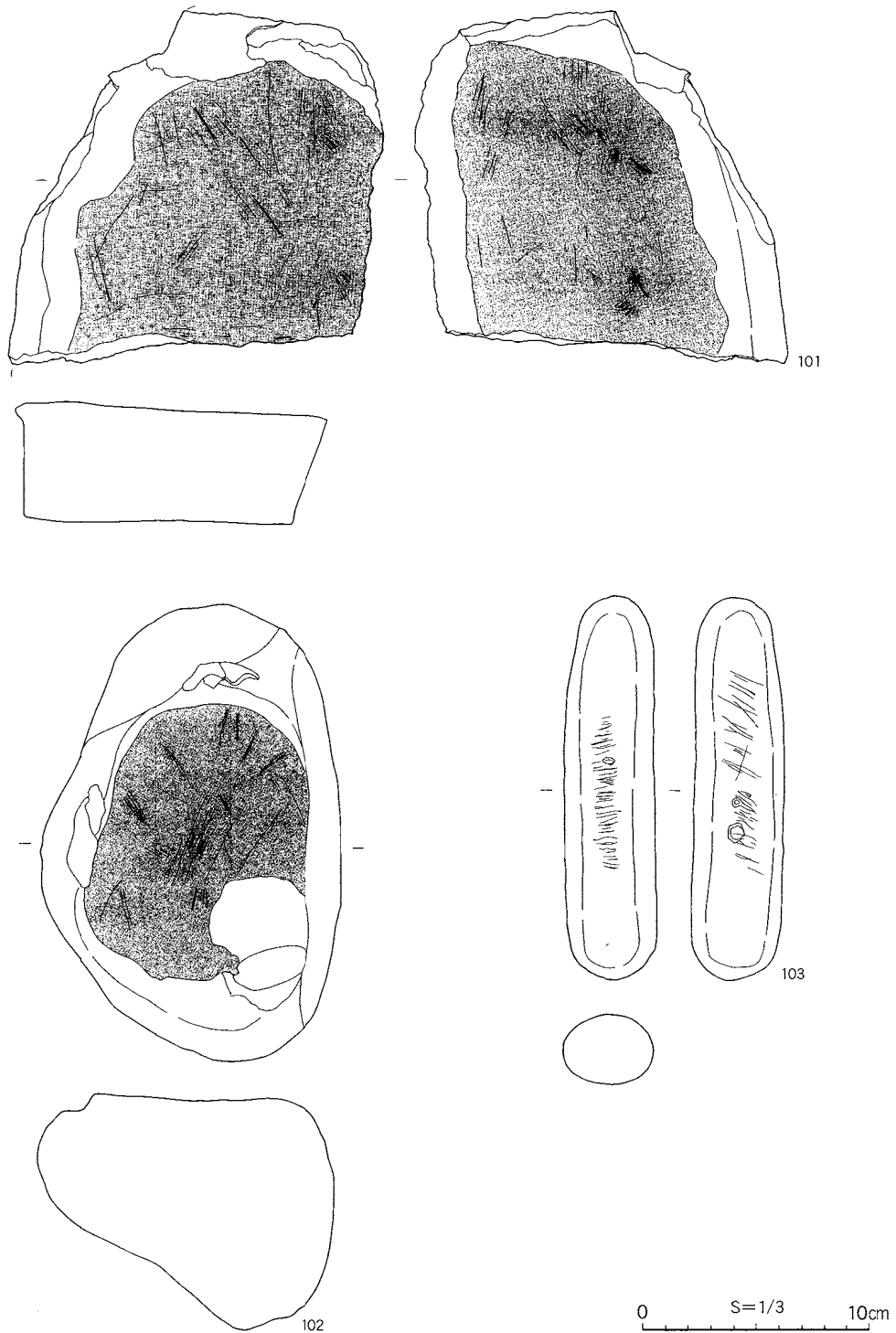


图134 G区遺構外出土石器（9）

## 第3章 諸分析

### 第1節 上野尻遺跡出土抉入削器の使用痕分析

(株)アルカ 高橋 哲

はじめに

上野尻遺跡G区第201号竪穴住居跡出土の抉入削器の使用痕分析を行った。

形態的な特徴

抉入削器は(写真30上)、大形の珪質頁岩剥片素材を利用し、素材剥片の左辺側に、押圧剥離によって直線状の刃部をつくり出している。刃角は45度である。刃部縁辺の広い範囲に、肉眼でも光沢が確認できた。反対の右辺側が石器の背部分となる。打面側と剥離軸末端部分に剥離によって抉りをつくり出している。

使用痕分析

a 観察方法

キーエンス社のデジタルHDマイクロスコープ (VH-7000) による低倍率ズーム (VH-Z05) と高倍率ズームレンズ (VH-Z450) を用いて高倍率の使用痕光沢の観察をおこなった。観察倍率は、5倍～40倍と450倍～1000倍 (倍率はマイクロスコープでの倍率で従来の金属顕微鏡の倍率比とは異なる) である。観察面は、中性洗剤で洗浄をおこない、適宜アルコールを浸した脱脂綿で軽く拭き取り、脂分などを取り除いた。観察範囲は、石器表面全体を詳細に観察し、使用痕光沢および線状痕の認定をおこなった。使用痕光沢分類は梶原・阿子島の分類基準によっている(梶原・阿子島 1981)。微小剥離痕の名称は、阿子島 (阿子島 1981) を用いた。

b 結果

使用痕は刃部で確認できた(写真31)。

光沢：Aタイプ光沢が確認できた。Aタイプ光沢の特徴は、明るく、表面は滑らかであり、広い範囲に光沢が広がる。主に、アシ・イネなどの植物質によって生じる光沢である。

抉入削器の刃部腹面側に、強い発達のアタイプ光沢がみられた(写真31-1,2)。やや小ビットが多くみられ、光沢がうねって線状痕が生じ、やや荒れた様相を呈する。光沢が強度に発達した部分は、肉眼で光沢が顕著にみられる範囲と重なっている。

縁辺から離れるにつれて光沢の発達は弱まり(写真31-3)、背付近ではAタイプ光沢は広がらなかった(写真31-4)。

背面側では、刃部を形成する剥離によって切られた古い剥離面に強い光沢分布がみられ(写真31-5)、刃部を形成する剥離内や、剥離稜上には弱い光沢が分布していた(写真31-6)。

線状痕：縁辺に対して平行方向に走る線状痕が確認できた(写真31-1,2)。

微小剥離痕(図1, L1-L4)：縁辺に細かな微小剥離痕がみられた。腹面側にはまばらに分布している。



背面側は、刃部を形成する剥離と区別することは困難であるが、細かな剥離が分布しているのがみられる。末端がステップで、台形やウロコ形をした微小剥離痕が分布している。

微小剥離痕がそれほど顕著に発達していないことから、被加工物は何か柔らかかなものであると考えられる。

着柄痕：挟り部分に摩滅と光沢がみられた(写真31-7,8)。石器の横軸に平行に走る線状痕が、光沢と摩滅にともなって確認できた。

推定される機能：草などの植物質の切断に利用されたと考えられる。挟り部分に摩滅・線状痕・光沢が確認できたことから、柄などに装着されていたと思われる。しかし光沢が明瞭でなく、その材質までは不明である。

#### まとめ

挟入削器は、従来、縄文文化の中では、あまり注目されることのなかった器種である。今回の使用痕分析の結果、この石器が柄などに装着され、植物質の対象に利用されたことが明らかとなった。

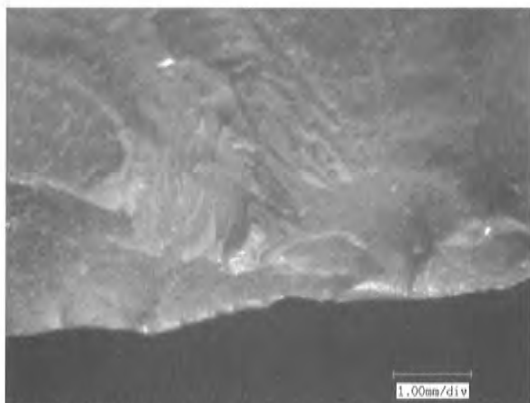
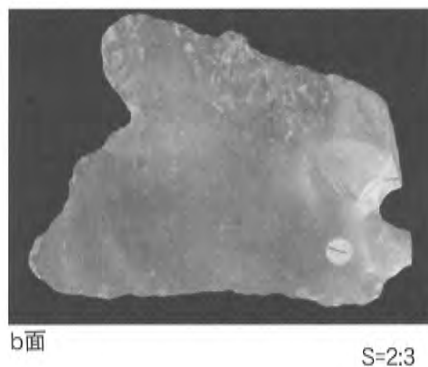
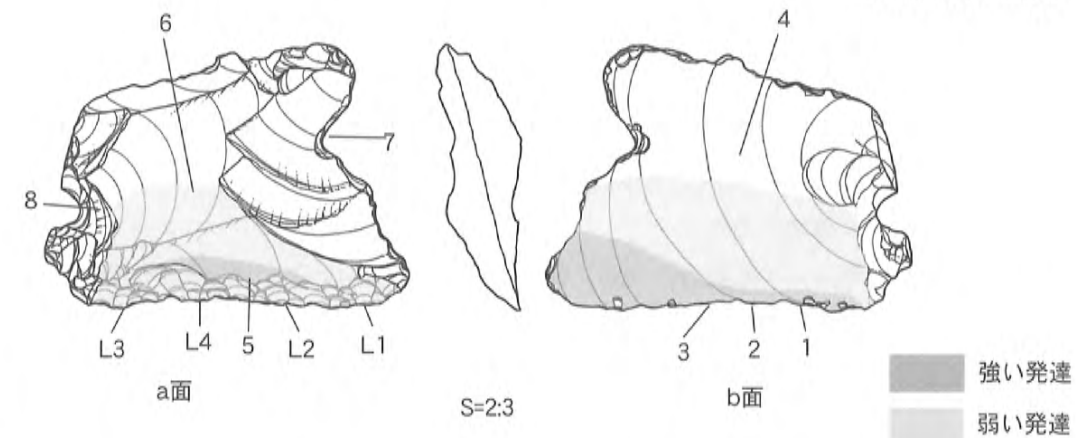
植物質資源の利用が縄文文化の研究で注目される中、このような植物質資源に利用された石器が検証できたことは、縄文文化の生業などを考察する上で貴重である。

今後は、遺跡全体の使用痕分析を通して、より具体的に縄文文化の石器の使用方法について、考えていかなければならない。

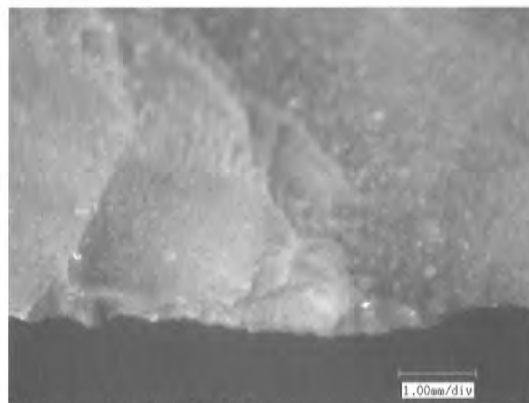
#### 参考文献

- 阿子島香 1981 「マイクロフレイキングの実験的研究(東北大学使用痕研究チームによる研究報告その1)」『考古学雑誌』66-4 pp.1-27
- 1989 『石器の使用痕』考古学ライブラリー56 ニュー・サイエンス社
- 梶原洋・阿子島香 1981 「頁岩製石器の実験使用痕研究ーポリッシュを中心とした機能推定のみー(東北大学使用痕研究チームによる研究報告その2)」『考古学雑誌』67-1 pp.1-35

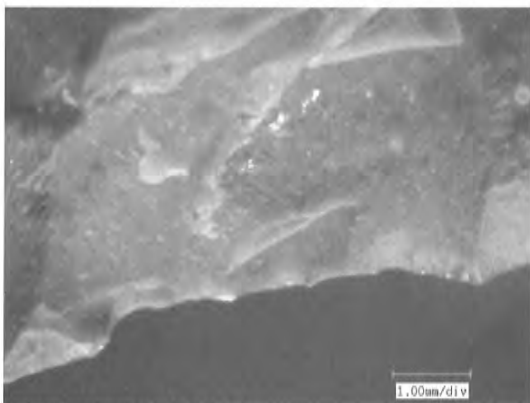
上野尻遺跡の使用痕



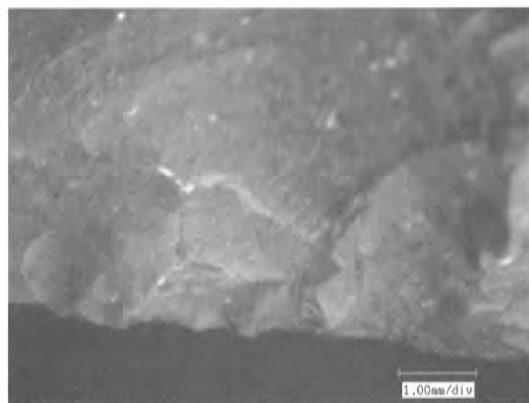
L1 刃部の微小剥離痕



L2 刃部の微小剥離痕



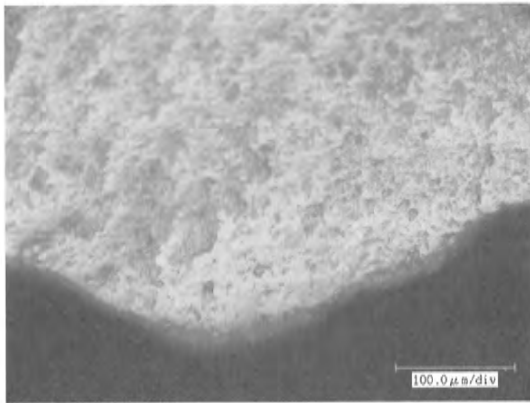
L3 刃部の微小剥離痕



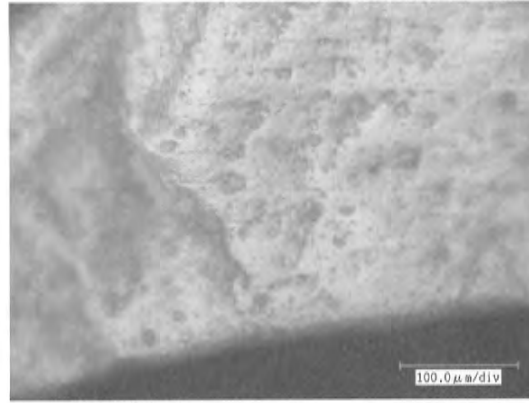
L4 刃部の微小剥離痕

写真30 削器の使用痕(1)

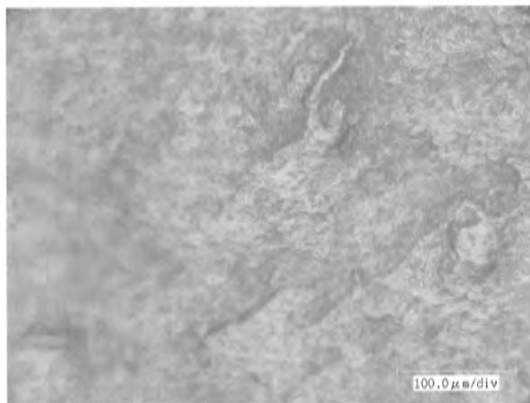
上野尻遺跡の使用痕



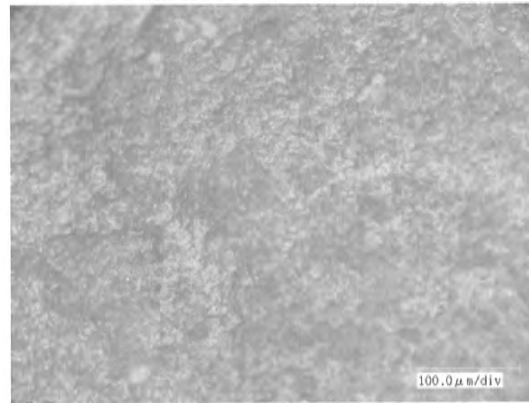
1 Aタイプ光沢



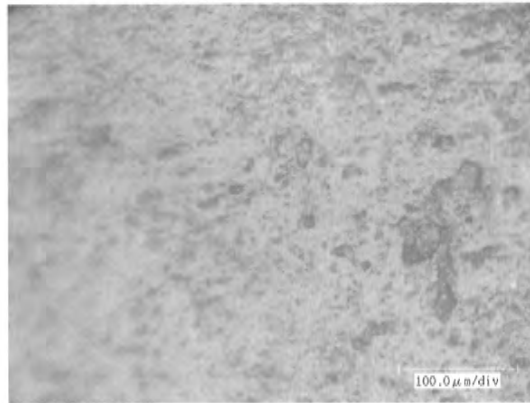
2 Aタイプ光沢



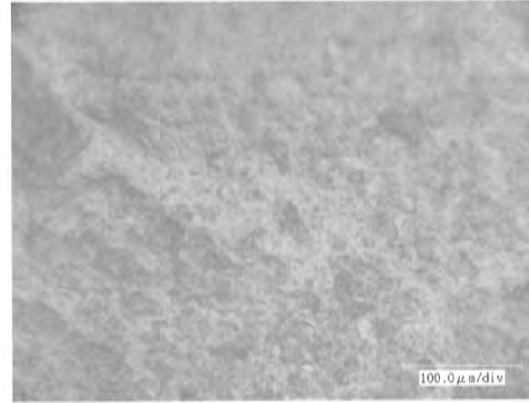
3 Aタイプ光沢



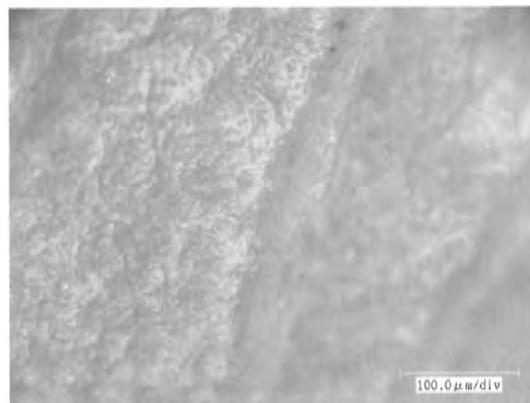
4 石器の表面



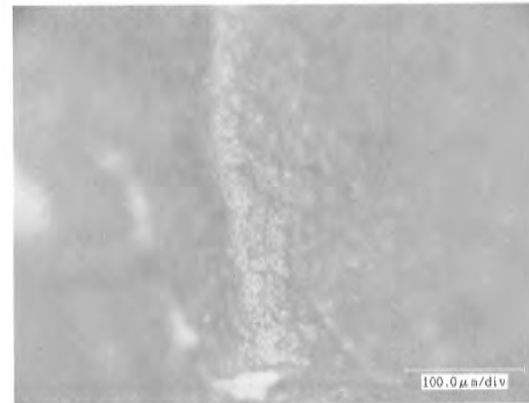
5 Aタイプ光沢



6 Aタイプ光沢



7 握り部の摩滅と光沢



8 握り部の摩滅と光沢

写真31 削器の使用痕(2)

## 第2節 放射性炭素年代測定結果報告書

(株)地球科学研究所

放射性炭素年代測定の依頼を受けました試料について、別表の結果を得ましたのでご報告申し上げます。

## 報告内容の説明

**14C age (y BP)** : 14C 年代 “measured radiocarbon age”  
試料の 14C / 12C 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した年代。  
半減期はリビークの5568年を用いた。

**補正 14C age (y BP)** : 補正 14C 年代 “conventional radiocarbon age”  
試料の炭素安定同位体比( 13C / 12C )を測定して試料の炭素の同位体分別を知り  
14C / 12C の測定値に補正值を加えた上で、算出した年代。  
試料の 13C 値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代値である。  
暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。

**δ 13C (permil)** : 試料の測定 14C / 12C 比を補正するための 13C / 12C 比。  
この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)  
で表現する。

$$\delta 13C (\text{‰}) = \frac{(13C / 12C)[\text{試料}] - (13C / 12C)[\text{標準}]}{(13C / 12C)[\text{標準}]} \times 1000$$

ここで、13C / 12C [標準] = 0.0112372である。

**暦年代** : 過去の宇宙線強度の変動による大気中14C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の 14C の測定、サンゴのU-Th年代と 14C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。最新のデータベース(“INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration” Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40(3))により約19000yBPまでの換算が可能となった。\*

\*但し、10000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いため、補正前のデータの保管を推奨します。

“The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol. 40, No. 3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Talma and Vogel, Radiocarbon, Vol. 35, No. 2, pg 317-322, 1993: A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP. Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a “best fit” compilation of modeled data and, although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this, it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that future refinements can be applied to your results.”

## 測定方法などに関するデータ

**測定方法 AMS** : 加速器質量分析

**Radiometric** : 液体シンチレーションカウンタによるβ-線計数法

**処理・調製・その他** : 試料の前処理、調製などの情報

**前処理** acid-alkali-acid : 酸 - アルカリ - 酸洗浄  
acid washes : 酸洗浄  
acid etch : 酸によるエッチング  
none : 未処理

**調製、その他**

Bulk-Low Carbon Material : 低濃度有機物処理  
Bone Collagen Extraction : 骨、歯などのコラーゲン抽出  
Cellulose Extraction : 木材のセルロース抽出

Extended Counting : Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

**分析機関** BETA ANALYTIC INC.

4985 SW 74 Court, Miami, FL, U.S.A 33155

## C14年代測定結果

青森県埋蔵文化財調査センター 様

No.674

試料データ	C14年代(y BP) (Measured C14 age)	$\delta^{13}\text{C}$ (permil)	補正 C14年代(y BP) (Conventional C14 age)
Beta- 162496	4730 $\pm$ 50	-24.3	4740 $\pm$ 50
試料名 ( 19167) KAMiNOJiRi1			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 162497	4810 $\pm$ 40	-25.4	4800 $\pm$ 40
試料名 ( 19168) KAMiNOJiRi2			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 162498	4660 $\pm$ 40	-26.6	4630 $\pm$ 40
試料名 ( 19169) KAMiNOJiRi3			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			

年代値はRCYBP(1950 A.D.を0年とする)で表記。モダンリファレンススタンダードは国際的な慣例としてNBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビークの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。

(株)地球科学研究所 〒468 名古屋市天白区植田本町1-608 TEL052-802-0703

## CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-24.3;lab. mult=1)

Laboratory number: Beta-162496

Conventional radiocarbon age: 4740±50 BP

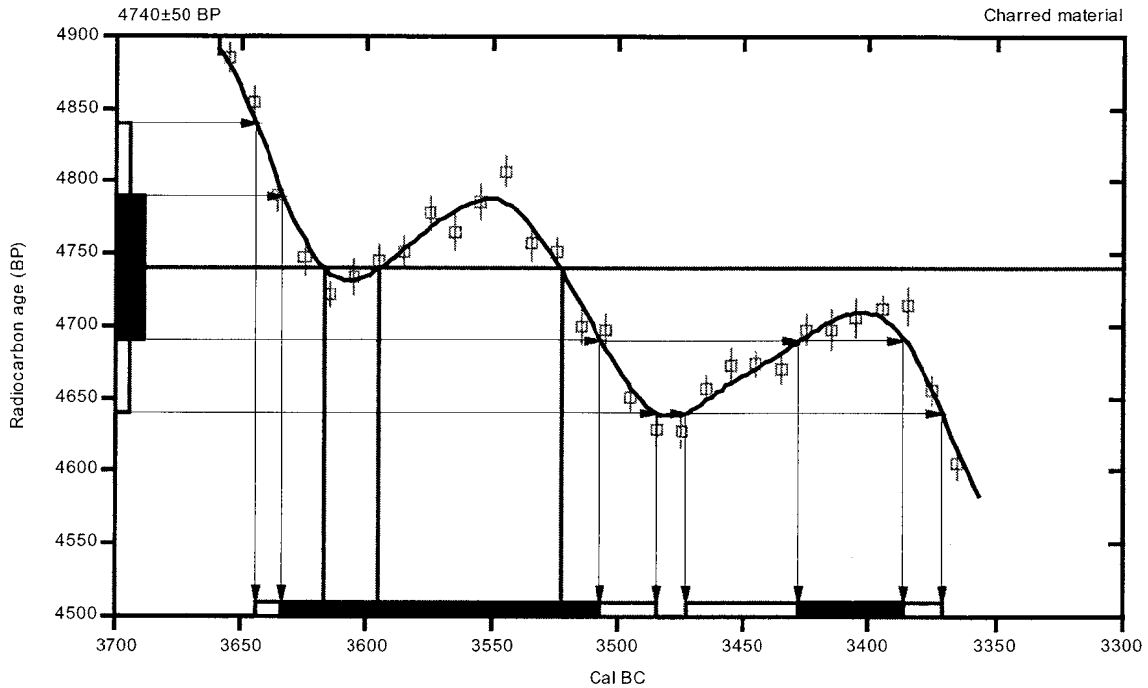
2 Sigma calibrated results: Cal BC 3640 to 3480 (Cal BP 5590 to 5440) and  
(95% probability) Cal BC 3470 to 3370 (Cal BP 5420 to 5320)

Intercept data

Intercepts of radiocarbon age

with calibration curve: Cal BC 3620 (Cal BP 5570) and  
Cal BC 3600 (Cal BP 5540) and  
Cal BC 3520 (Cal BP 5470)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 3630 to 3510 (Cal BP 5580 to 5460) and  
(68% probability) Cal BC 3430 to 3390 (Cal BP 5380 to 5340)



### References:

*Database used*

*Calibration Database*

*Editorial Comment*

*Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxii-xiii*

*INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration*

*Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083*

*Mathematics*

*A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates*

*Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322*

**Beta Analytic Inc.**

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

## CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-25.4;lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-162497**

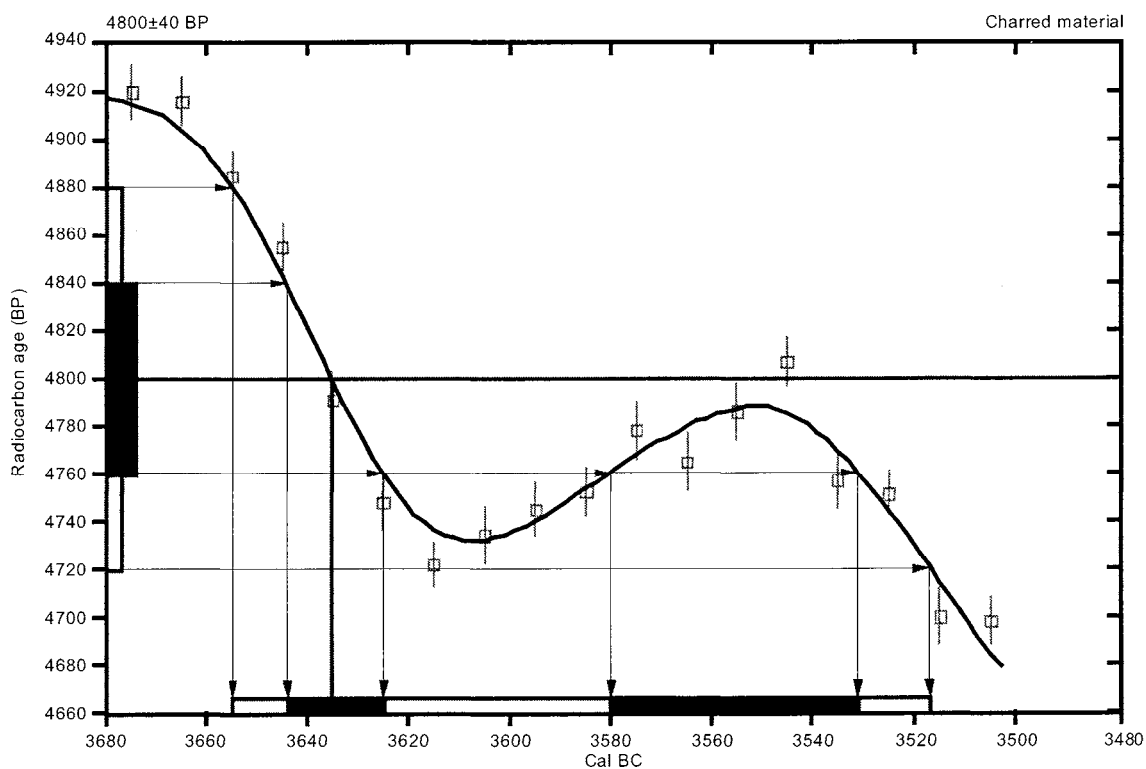
Conventional radiocarbon age: **4800±40 BP**

**2 Sigma calibrated result: Cal BC 3660 to 3520 (Cal BP 5600 to 5470)**  
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age  
with calibration curve: Cal BC 3640 (Cal BP 5580)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 3640 to 3620 (Cal BP 5590 to 5580) and  
(68% probability) Cal BC 3580 to 3530 (Cal BP 5530 to 5480)



### References:

*Database used*

*Calibration Database*

*Editorial Comment*

*Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxii-xiii*

*INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration*

*Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083*

*Mathematics*

*A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates*

*Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322*

### Beta Analytic Inc.

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

## CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26.6:lab. mult=1)

Laboratory number: **Beta-162498**

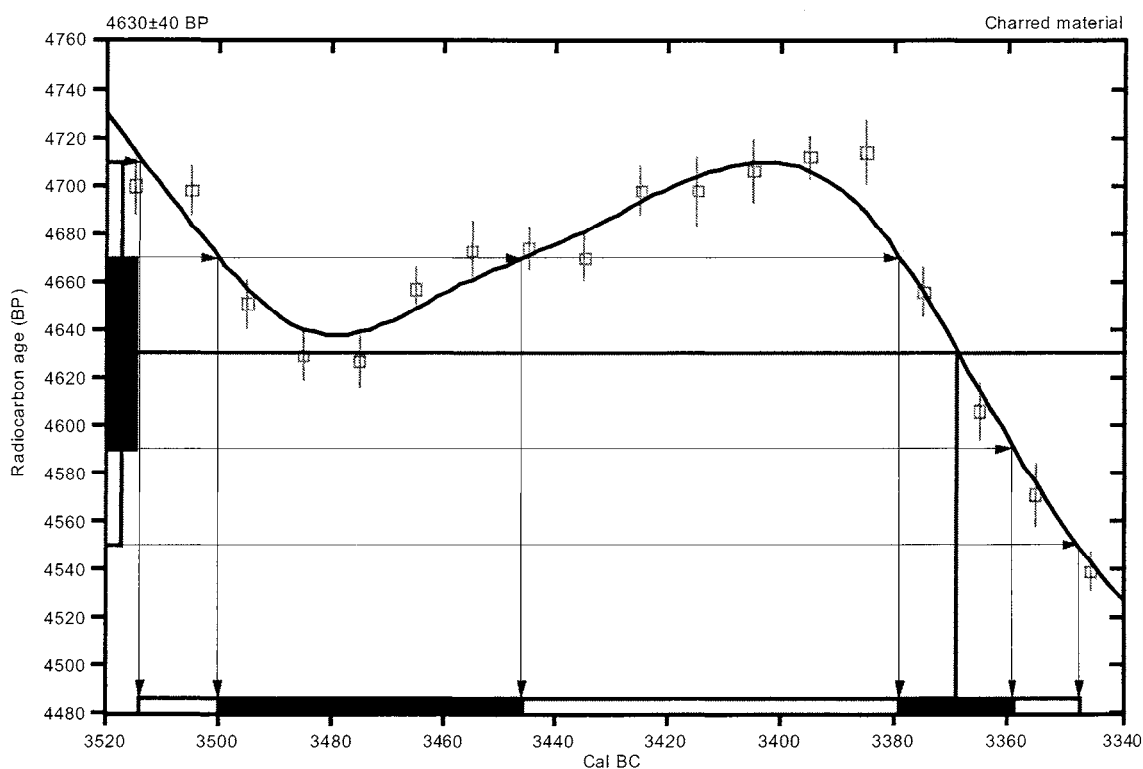
Conventional radiocarbon age: **4630±40 BP**

**2 Sigma calibrated result: Cal BC 3510 to 3350 (Cal BP 5460 to 5300)**  
(95% probability)

Intercept data

Intercept of radiocarbon age  
with calibration curve: Cal BC 3370 (Cal BP 5320)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 3500 to 3450 (Cal BP 5450 to 5400) and  
(68% probability) Cal BC 3380 to 3360 (Cal BP 5330 to 5310)



### References:

*Database used*

*Calibration Database*

*Editorial Comment*

*Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxii-xiii*

*INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration*

*Stuiver, M., et al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083*

*Mathematics*

*A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates*

*Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322*

**Beta Analytic Inc.**

4985 SW 74 Court, Miami, Florida 33155 USA • Tel: (305) 667 5167 • Fax: (305) 663 0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com



## 放射性炭素年代測定の結果について

試料名	出土位置	種類	C14年代 (y BP)	補正C14年代 (y BP)
KAMiNOJiRi1	第201号竪穴住居跡炉内	木炭	4730±50	4740±50
KAMiNOJiRi2	第202号竪穴住居跡炉内	木炭	4810±40	4800±40
KAMiNOJiRi3	第203号竪穴住居跡床面	木炭	4660±40	4630±40

試料名KAMiNOJiRi1は第201号竪穴住居跡の炉の中から出土した木炭である。この住居の炉が使用されていた時期を示す試料と考えることができる。

試料名KAMiNOJiRi2は第202号竪穴住居跡の炉から出土した木炭である。試料名KAMiNOJiRi1と同様、住居の使用時期を示す試料と考えることができる。

試料名KAMiNOJiRi3は第203号竪穴住居跡の床面から出土した木炭である。住居跡全体がかなり削平されていて、堆積土が薄く、どのような過程を経て住居が埋まっていったのかは定かではない。したがって、住居が埋没していく途中に住居外から流入した可能性もあり、前者2点よりは若干、資料的価値が低い。住居使用時期と大きな時間的隔たりはないと考えられる。

(相馬信吉)

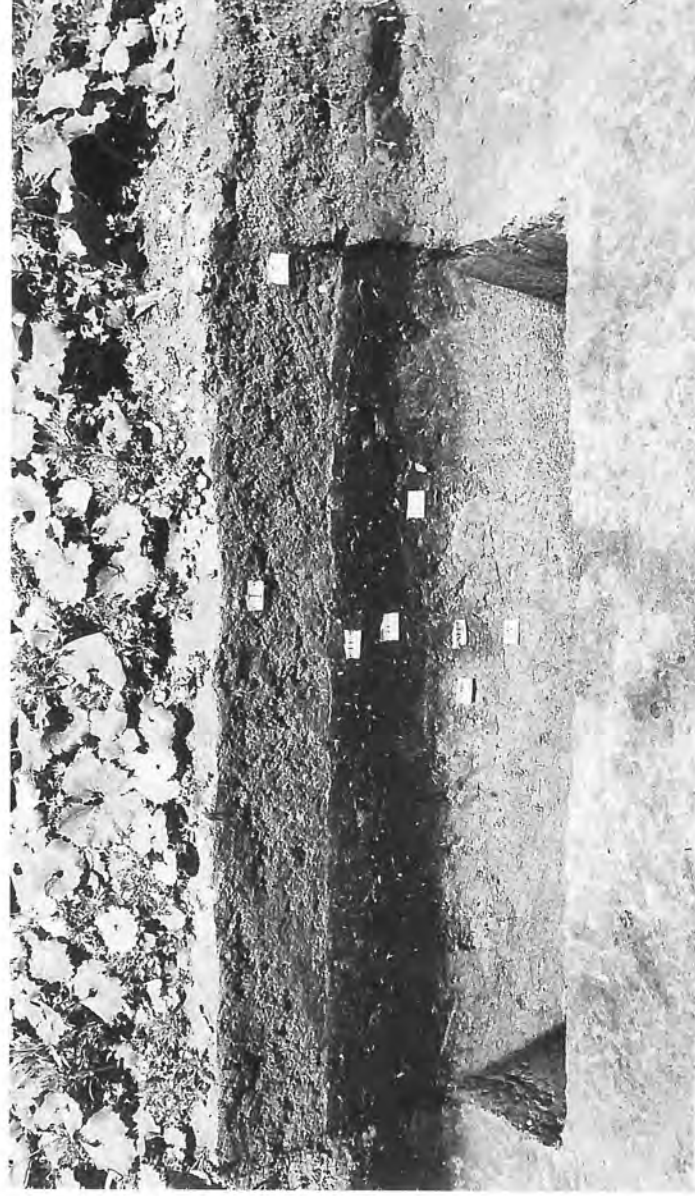


# 写真図版





写真32 G区 遺構群（上が北）



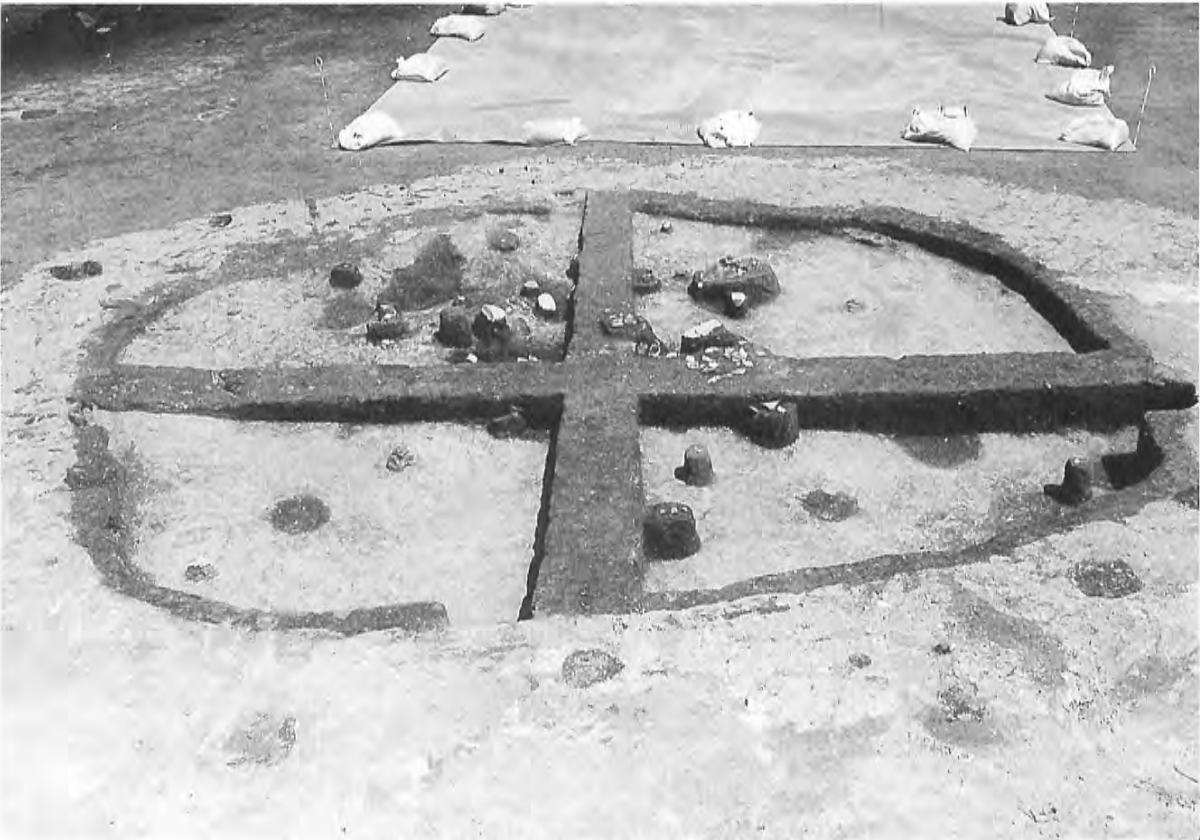
基本層序 1



基本層序 2



第201号竖穴住居跡 確認状況 南→



第201号竖穴住居跡 遺物出土状況 南→



第201号竖穴住居跡 完掘 南→



第201号竖穴住居跡 炉 北東→





第202号竖穴住居跡 確認状況 西→



第202号竖穴住居跡 遺物出土状況 北東→

写真36 G区 第202号竖穴住居跡 (1)



第202号竪穴住居跡 発掘 東→



第202号竪穴住居跡 炉 西→



第203号竖穴住居跡 土層断面 南→



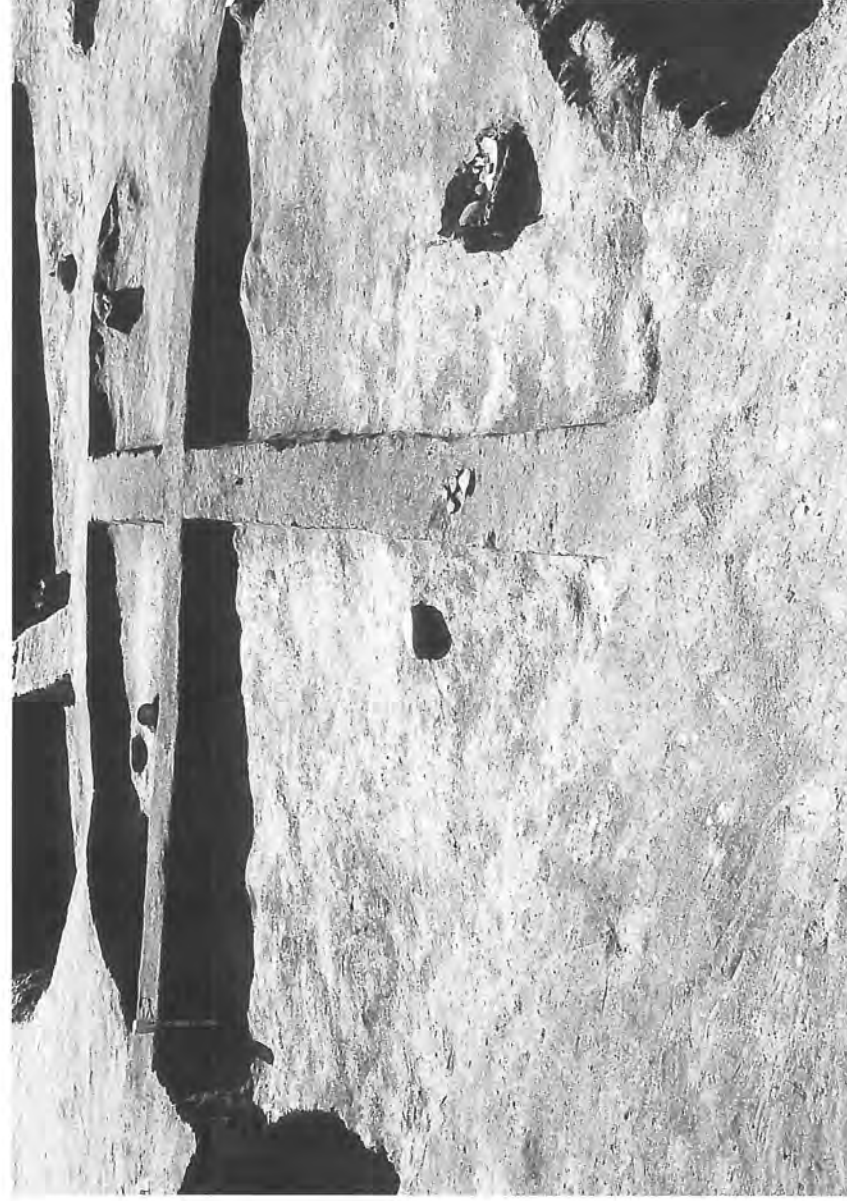
第203号竖穴住居跡 完掘 東→



第204号竖穴住居跡 完廂 北→



第204号竖穴住居跡 炉 南→



第205号竖穴住居跡 土層断面 東→

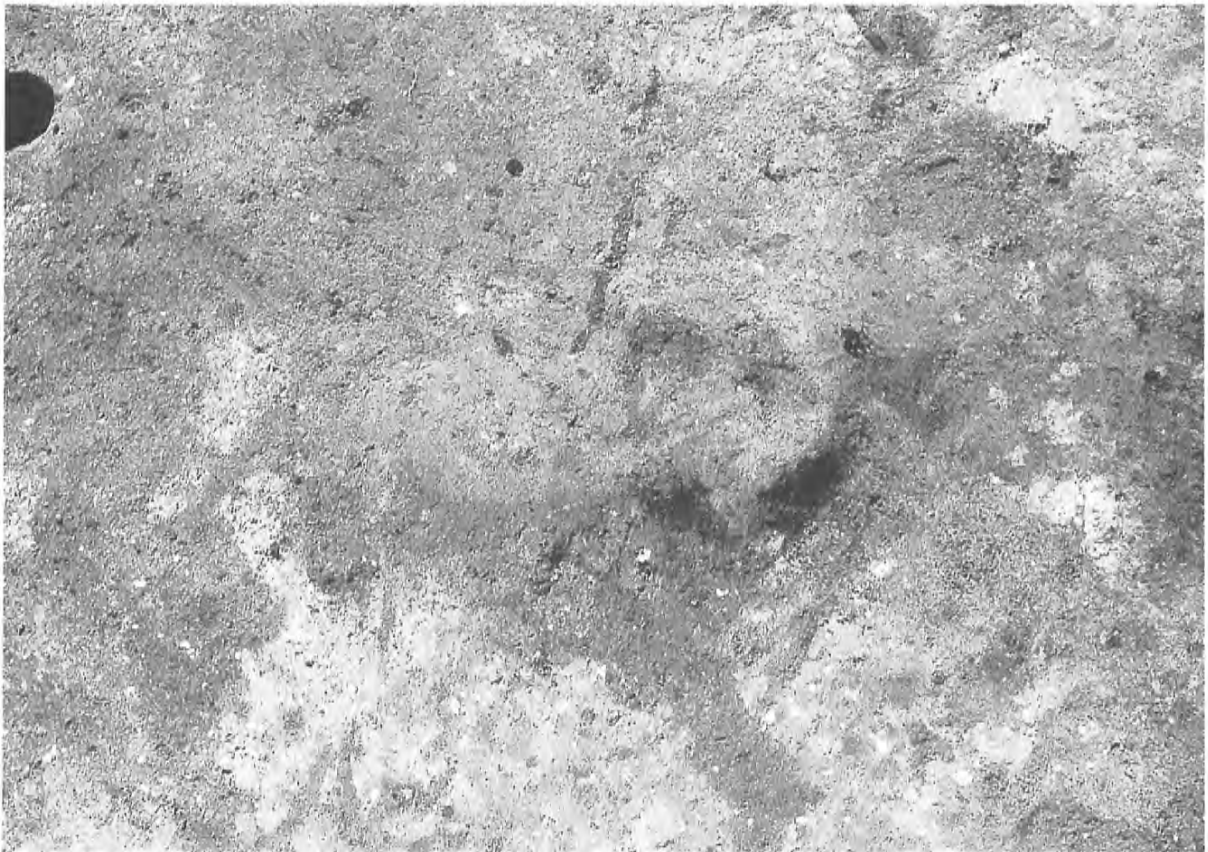


第205号竖穴住居跡 遺物出土状況(P-1) 北→

写真40 G区 第205号竖穴住居跡(1)



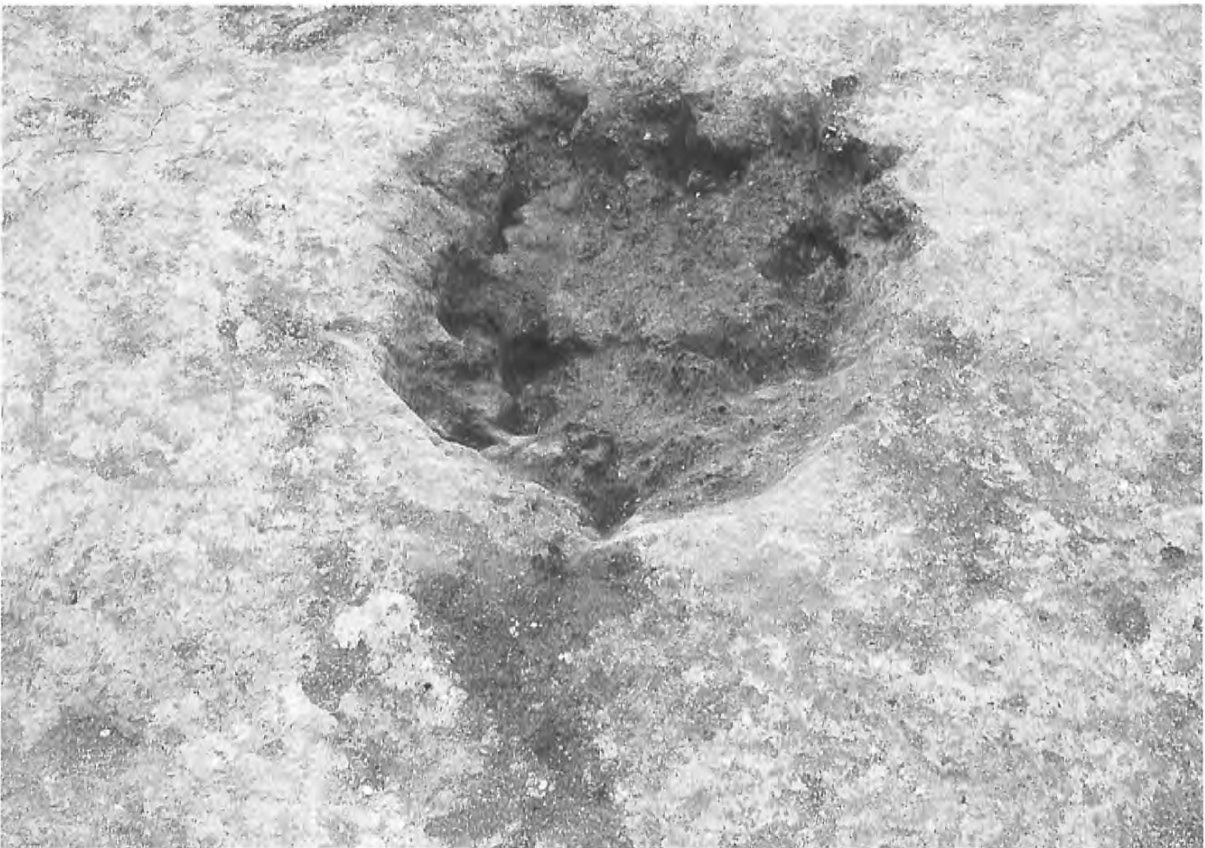
第205号竖穴住居跡 完掘 東→



第205号竖穴住居跡 炉 北→



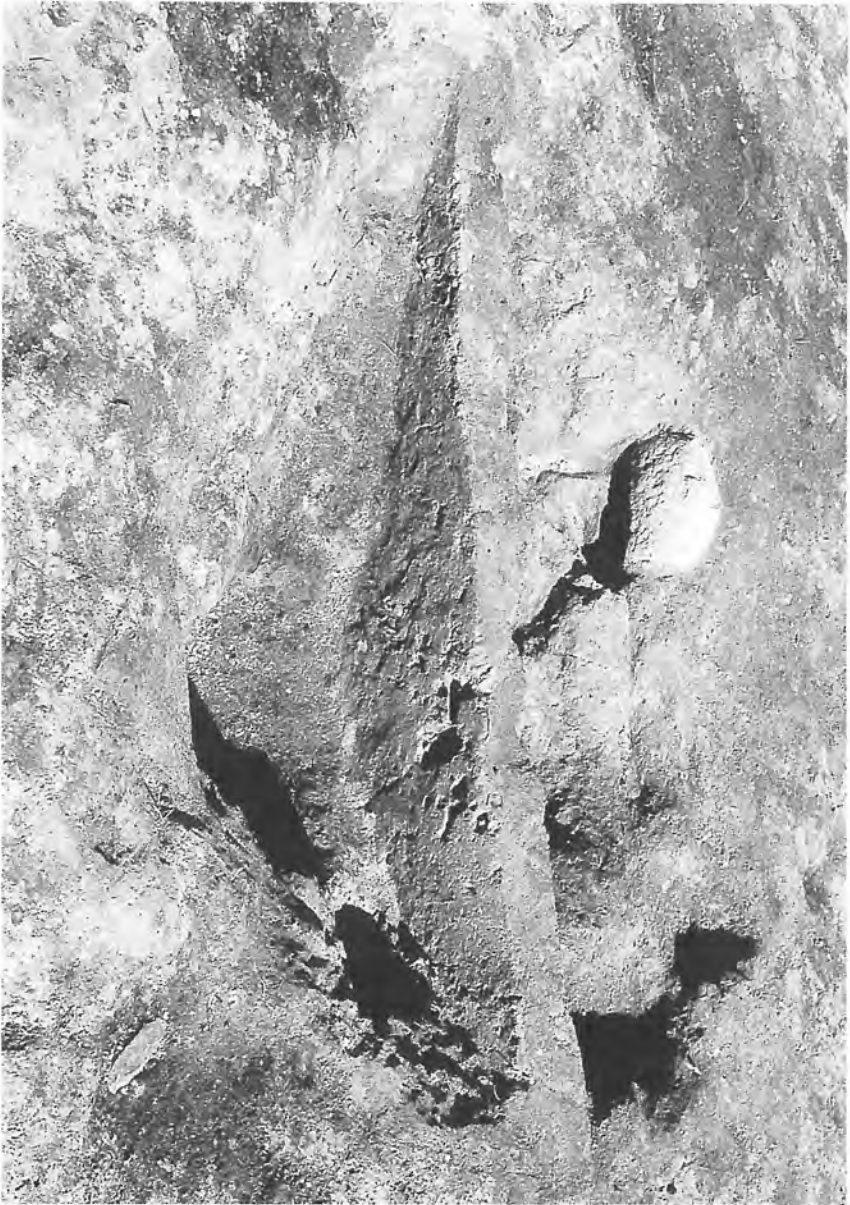
第206号竖穴住居跡 南→



第206号竖穴住居跡 炉 北東→



第207号竪穴住居跡 完掘 西→



第207号竪穴住居跡 炬 東→





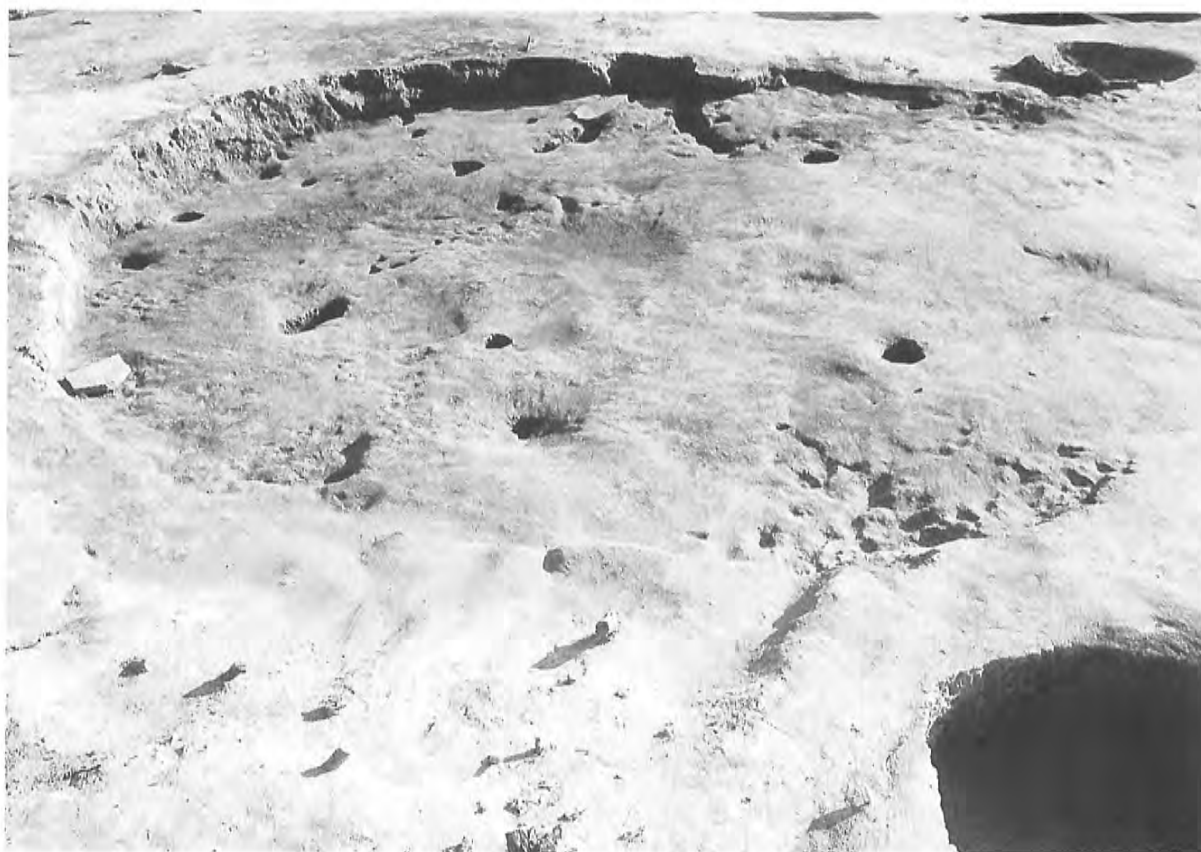
第208号竖穴住居跡 完掘 北→



第208号竖穴住居跡 炉 北→



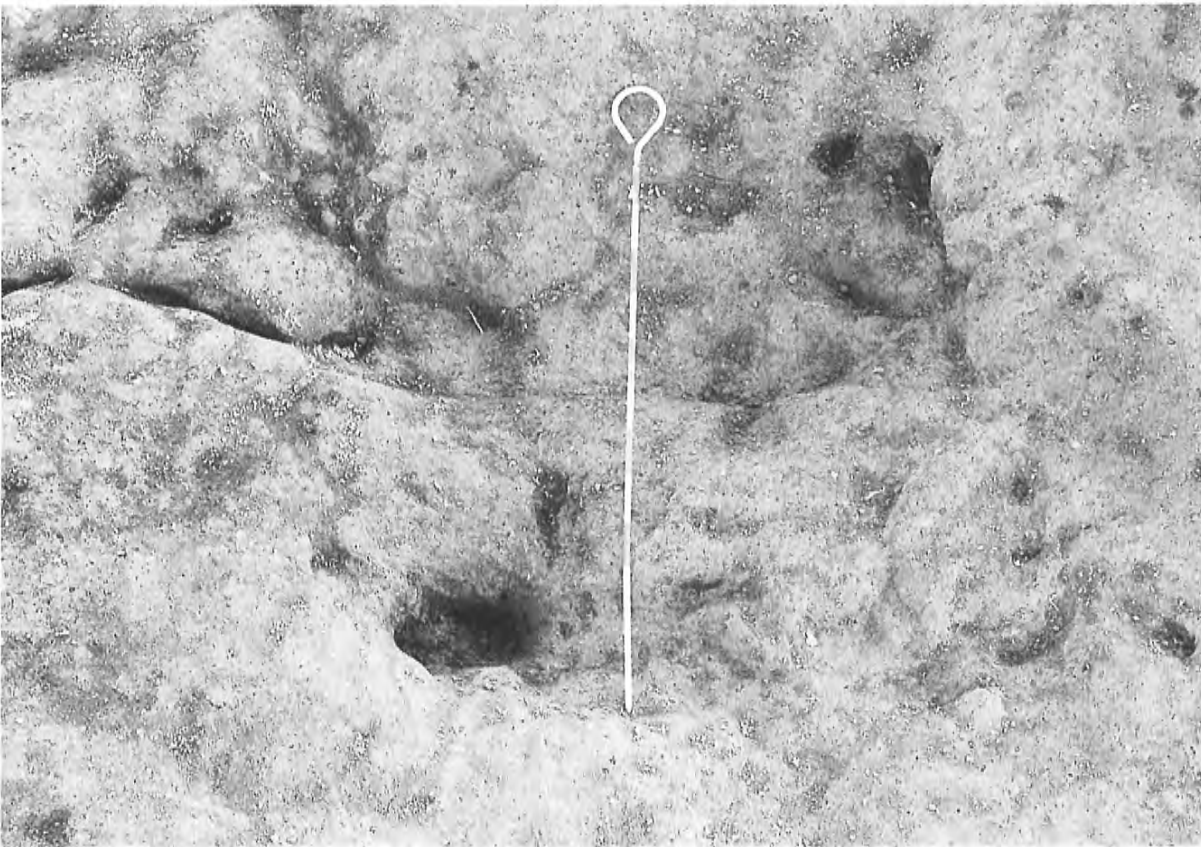
第209号竖穴住居跡 土層断面 北→



第209号竖穴住居跡 完掘 北→



第209号竖穴住居跡 出入口 北→



第209号竖穴住居跡 炉 北→



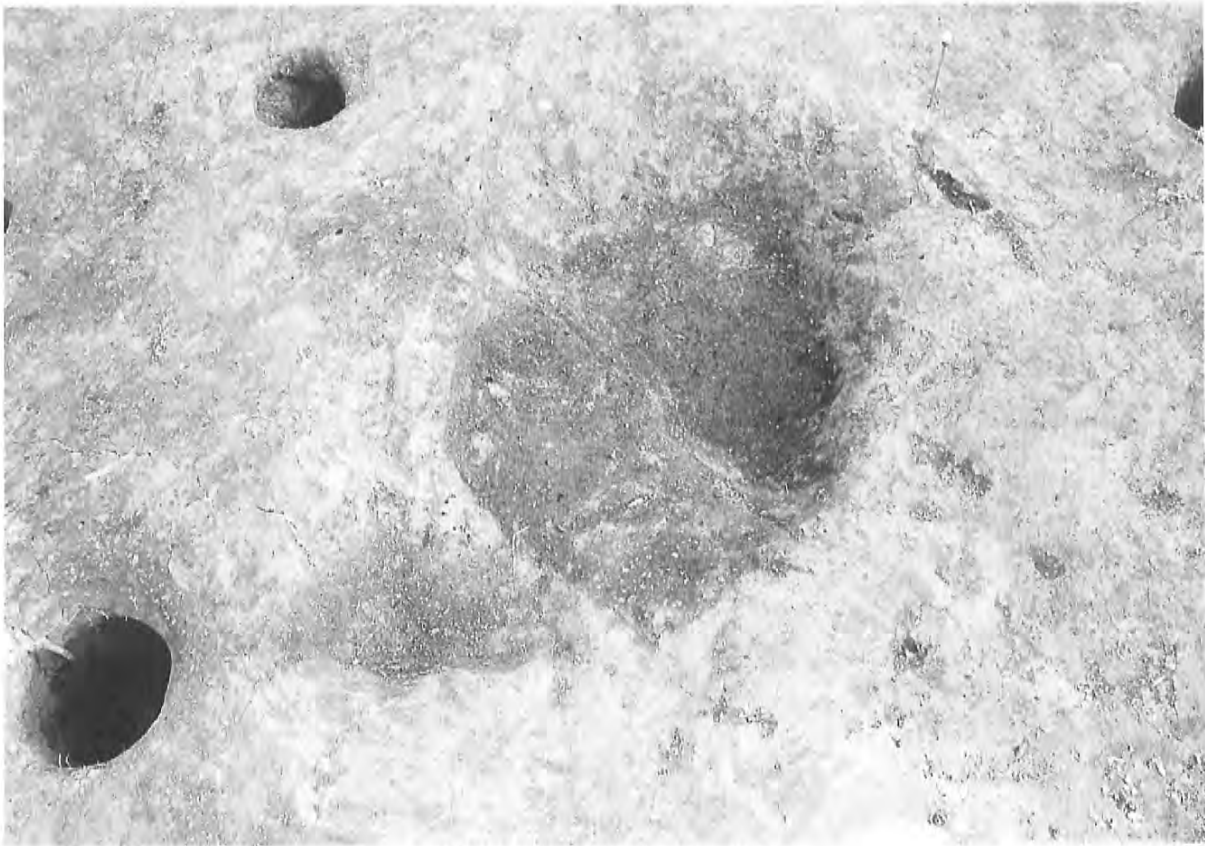
第210号竪穴住居跡 完掘 北東→



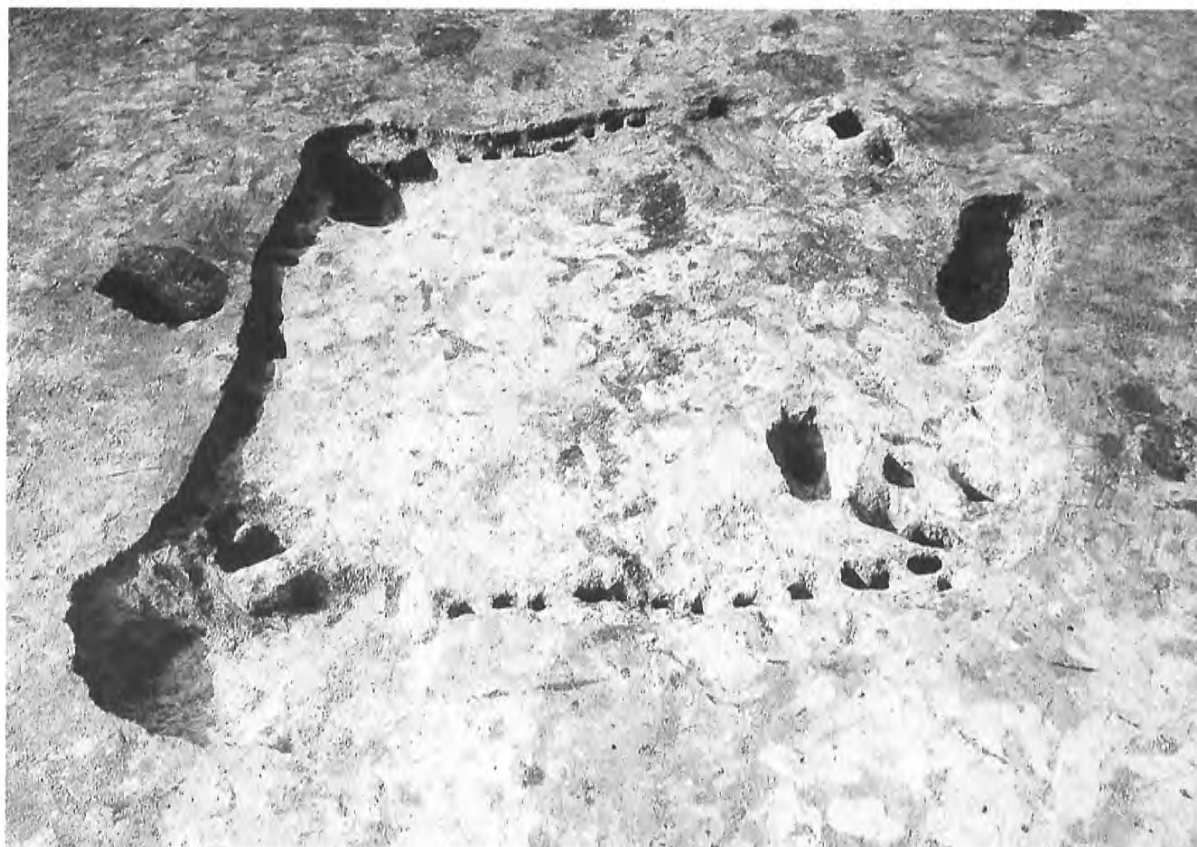
第210号竪穴住居跡 炉 北→



第211号竖穴住居跡 完掘 北西→



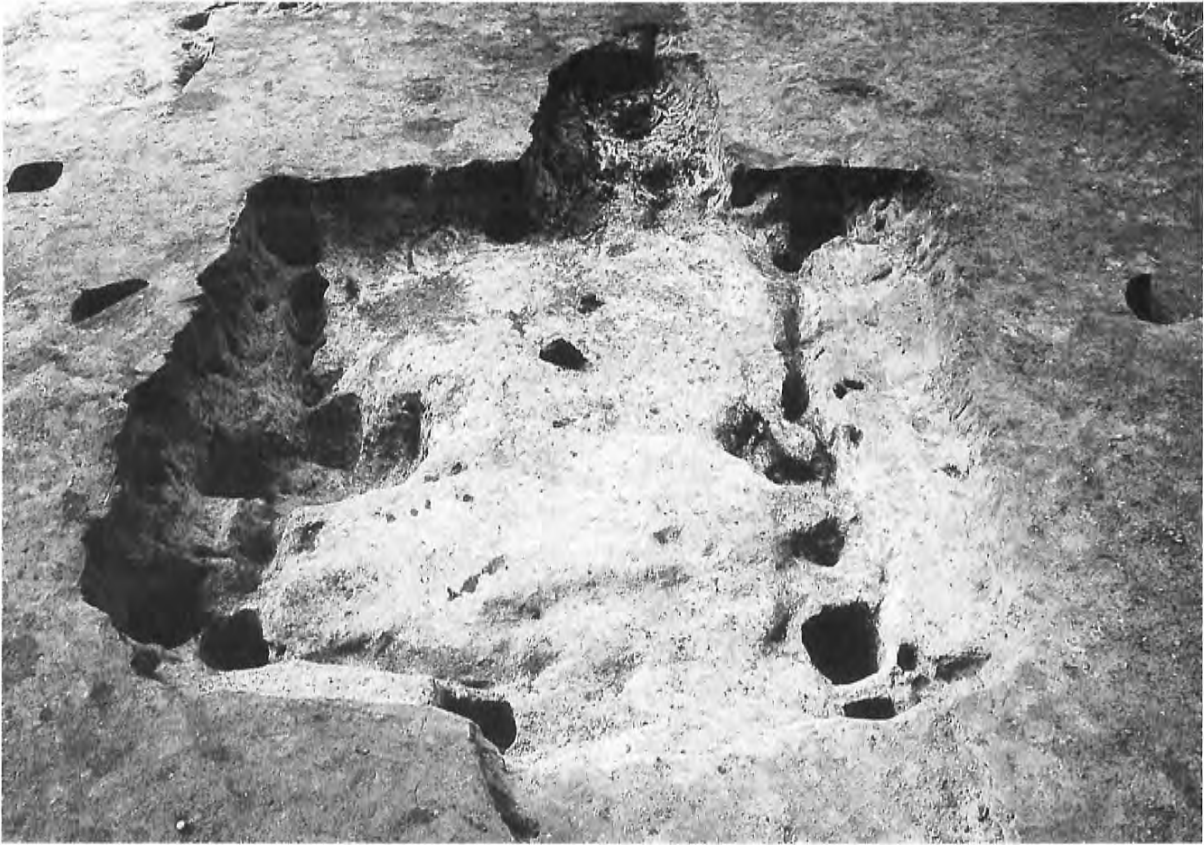
第211号竖穴住居跡 炉 北→



第1号竖穴建物跡 完掘 南→



第2号竖穴建物跡 完掘 南→



第3号竖穴建物跡 完掘 東→



第301号竖穴遺構 完掘 南西→

写真50 G区 第3号竖穴建物跡、第301号竖穴遺構



第701号土坑 完掘 南→



第702号土坑 完掘 北→



第703号土坑 完掘 北→



第704号土坑 完掘 南→



第705号土坑 完掘 南→



第706号土坑 完掘 北→



第707号土坑 完掘 東→



第708号土坑 完掘 北西→

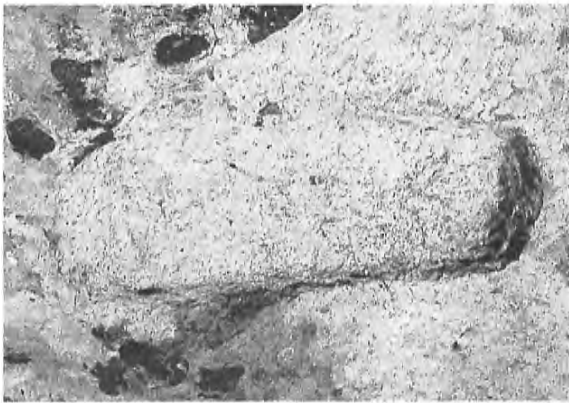




第707(右)・709号(左)土坑 完掘 南→



第711号土坑 完掘 南東→



第713号土坑 完掘 東→



第714号土坑 完掘 東→



第715(奥)・716(手前)号土坑 完掘 南→



第717号土坑 完掘 南→



第718号土坑 完掘 東→



第719号土坑 完掘 南→

写真52 G区 第707・709・711・713・714・715・716・717・718・719号土坑



第720号土坑 完掘 西→



第721号土坑 完掘 南→



第721号土坑 土器出土状況 北西→



第721号土坑 土器出土状況P-1 北西→



第722号土坑 完掘 南→



第723号土坑 完掘 南→



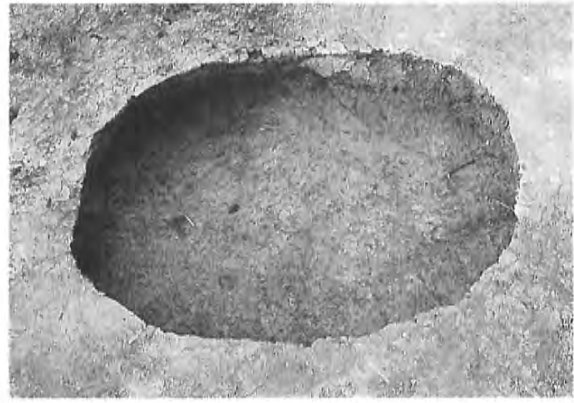
第724号土坑 完掘 南→



第725号土坑 完掘 南→



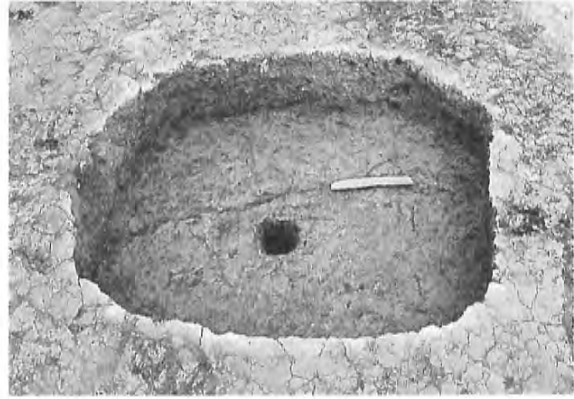
第726号土坑 完掘 東→



第727号土坑 完掘 南→



第728号土坑 完掘 西→



第729号土坑 完掘 北→



第730号土坑 完掘 西→



第731号土坑 完掘 西→



第733号土坑 完掘 南→



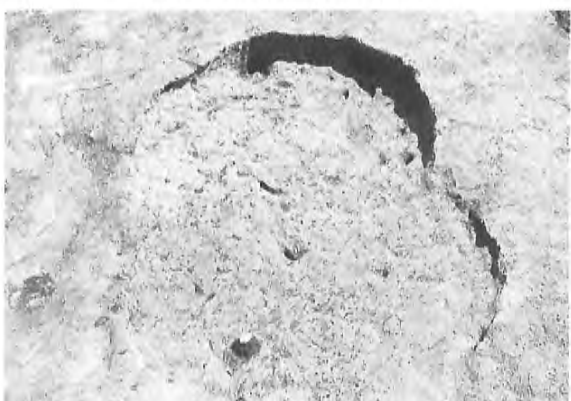
第733号土坑 土器出土状况 南西→



第734号土坑 完掘 西→



第735号土坑 完掘 西→



第736号土坑 完掘 西→



第737号土坑 完掘 西→



第738号土坑 完掘 西→



第739(左)・740(右)号土坑 完掘 南→



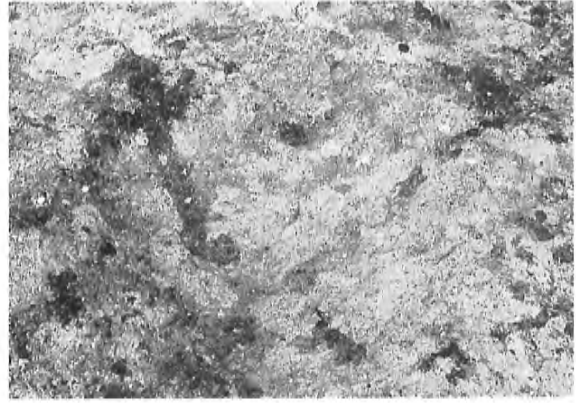
第741(右)・742(左)号土坑 遺物出土状況 南→



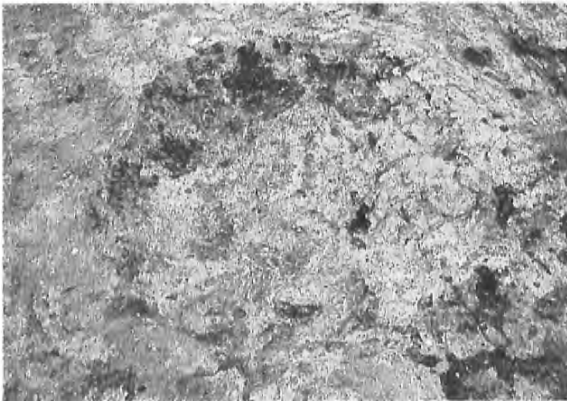
第742号土坑 遺物出土状況P-1 南→



第741(右)·742(左)号土坑 完掘 東→



第743号土坑 完掘 南→



第744号土坑 完掘 南→



第745号土坑 完掘 南→



第746号土坑 完掘 西→



第747号土坑 完掘 西→



第748(左)·749(右)号土坑 完掘 東→



第750号土坑 完掘 東→

写真56 G区 第741・742・743・744・745・746・747・748・749・750号土坑



第751号土坑 完掘 北西→



第752(右)・753(左)号土坑 完掘 北→



第754号土坑 完掘 西→



第755号土坑 完掘 西→



第758号土坑 完掘 北西→



第759号土坑 完掘 南西→



第760号土坑 完掘 西→



第761(中)・764号土坑 完掘 南→

写真57 G区 第751・752・753・754・755・758・759・760・761・764号土坑



第762号土坑 完掘 南→



第763(右)·756(中)·757(左)号土坑 完掘 北→



第801号土坑 完掘 北→



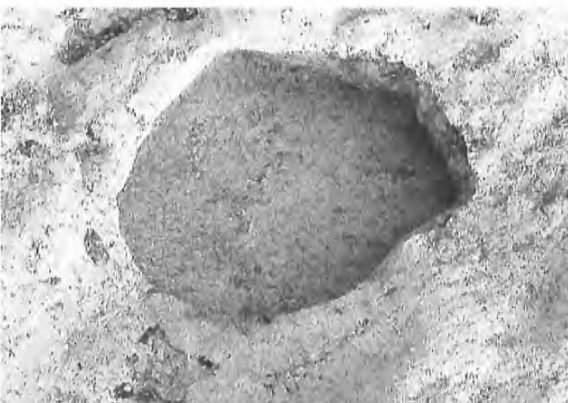
第802号土坑 完掘 北→



第803号土坑 完掘 北西→



第804号土坑 完掘 北→



第805号土坑 完掘 北西→



第806号土坑 完掘 西→

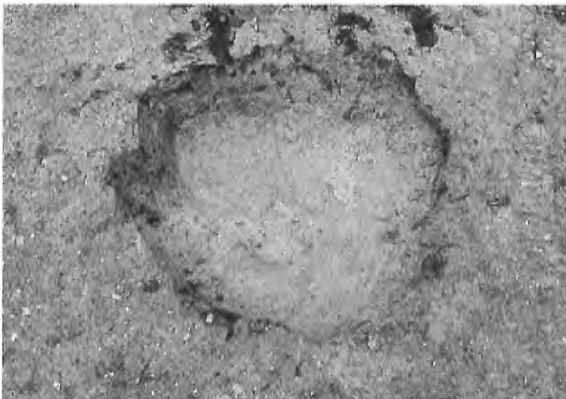
写真58 G区 第762·763·756·757·801·802·803·804·805·806号土坑



第807号土坑 完掘 西→



第808号土坑 完掘 南西→



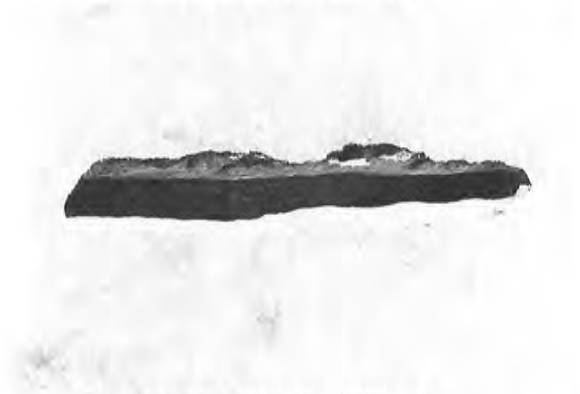
第810号土坑 完掘 西→



第811号土坑 完掘 南→



第301号溝状土坑 完掘 北→



第302号溝状土坑 完掘 東→



第303号溝状土坑 完掘 北→



第732号土坑、第304号溝状土坑 完掘 西→

写真59 G区 第807・808・810・811・732号土坑、第301・302・303・304号溝状土坑





第305号溝状土坑 完掘 西→



第301号溝土層断面 南→



第301号溝 完掘 北→



第401号溝状土坑 完掘 南→



第402号溝状土坑 完掘 南→



第403号溝状土坑 完掘 西→

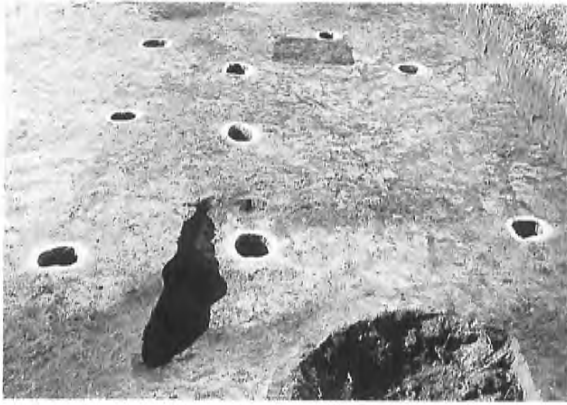


ピット群(1) IXB・C・D-176~179周辺 東→

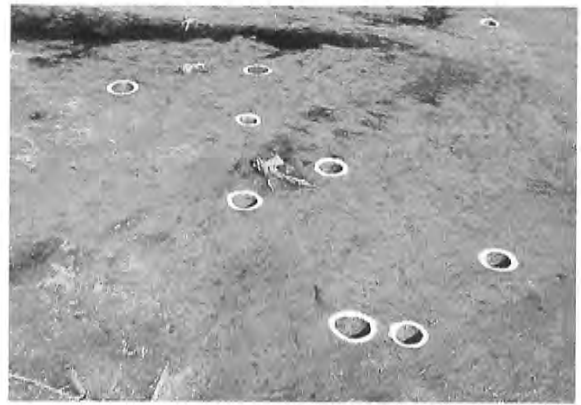


ピット群(1) IXE・F・G-178・179周辺 南東→

写真60 G区 第305・401・402・403号溝状土坑、第301号溝、ピット群(1) 1



ピット群(1) IXJ-182・183周辺 東→



ピット群(2) VIIIQ-186、VIII R-186~188周辺 南西→



ピット群(2) VIII L-196~VIII N-198周辺 北→



ピット群(2) VIII S-192~194周辺 西→



ピット群(2) VIII L-193、VIII M・N-192~194周辺 西→



ピット群(2) VIII P-194~196周辺 西→



作業風景(1)



作業風景(2)

写真61 G区 ピット群(1) 2・(2)、作業風景

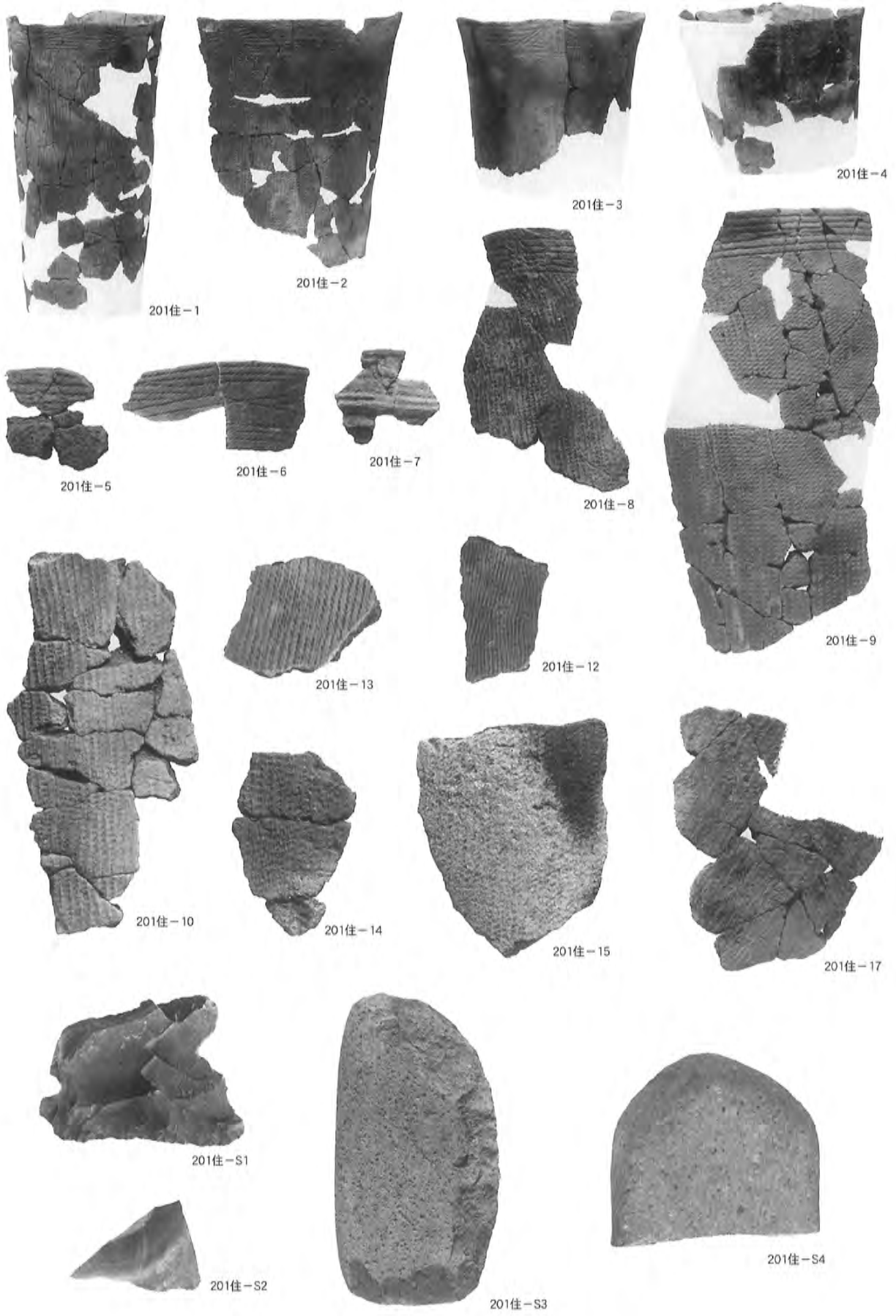


写真62 G区 第201号竖穴住居跡 出土遺物

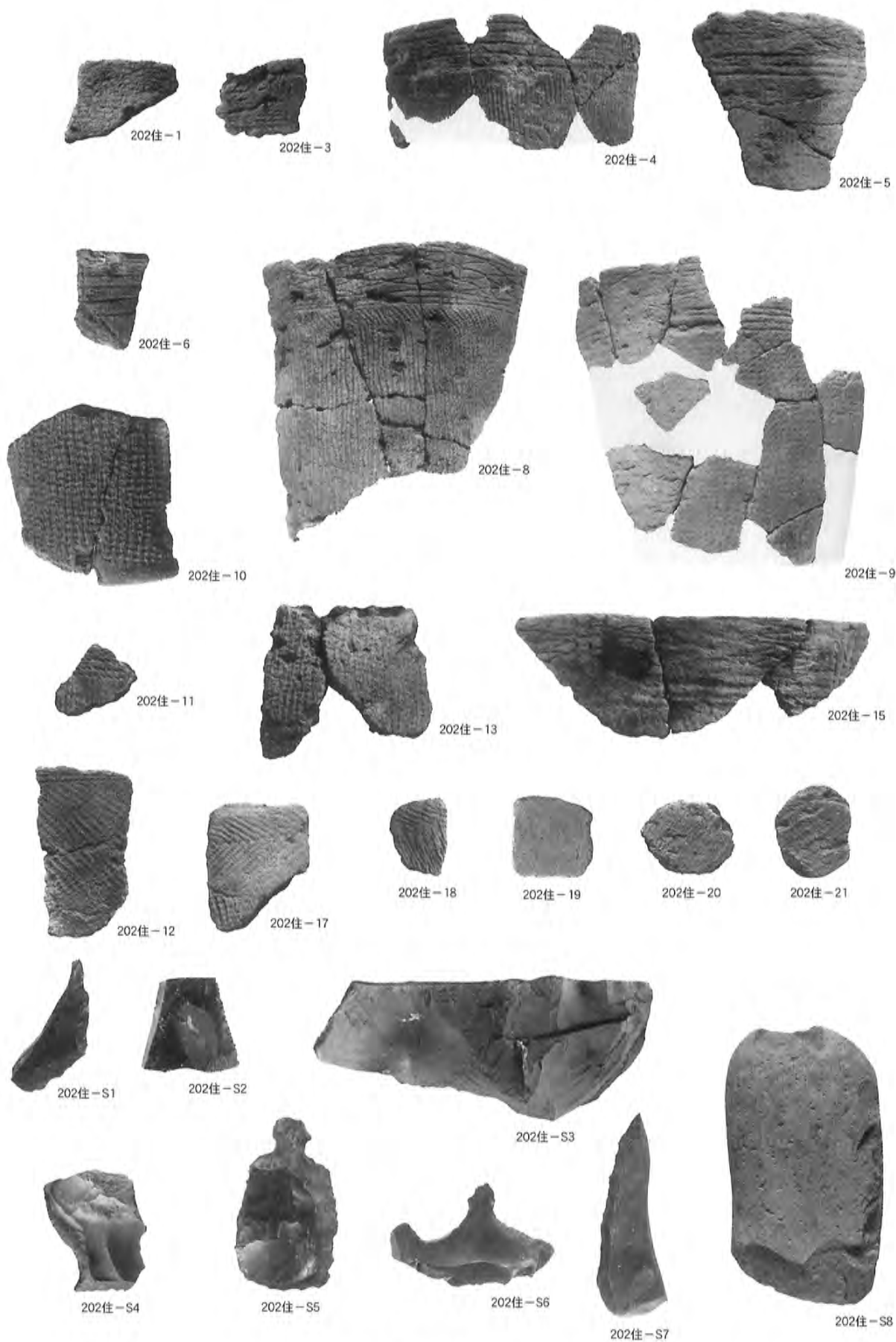


写真63 G区 第202号竪穴住居跡 出土遺物



202住-S12



202住-S9



202住-S10



202住-S11



203住-1



203住-2



203住-S1



204住-1



204住-2



204住-5



204住-6



205住-1



205住-2



205住-4



205住-S1



205住-S2



205住-S3

写真64 G区 第202・203・204・205号竖穴住居跡 出土遺物

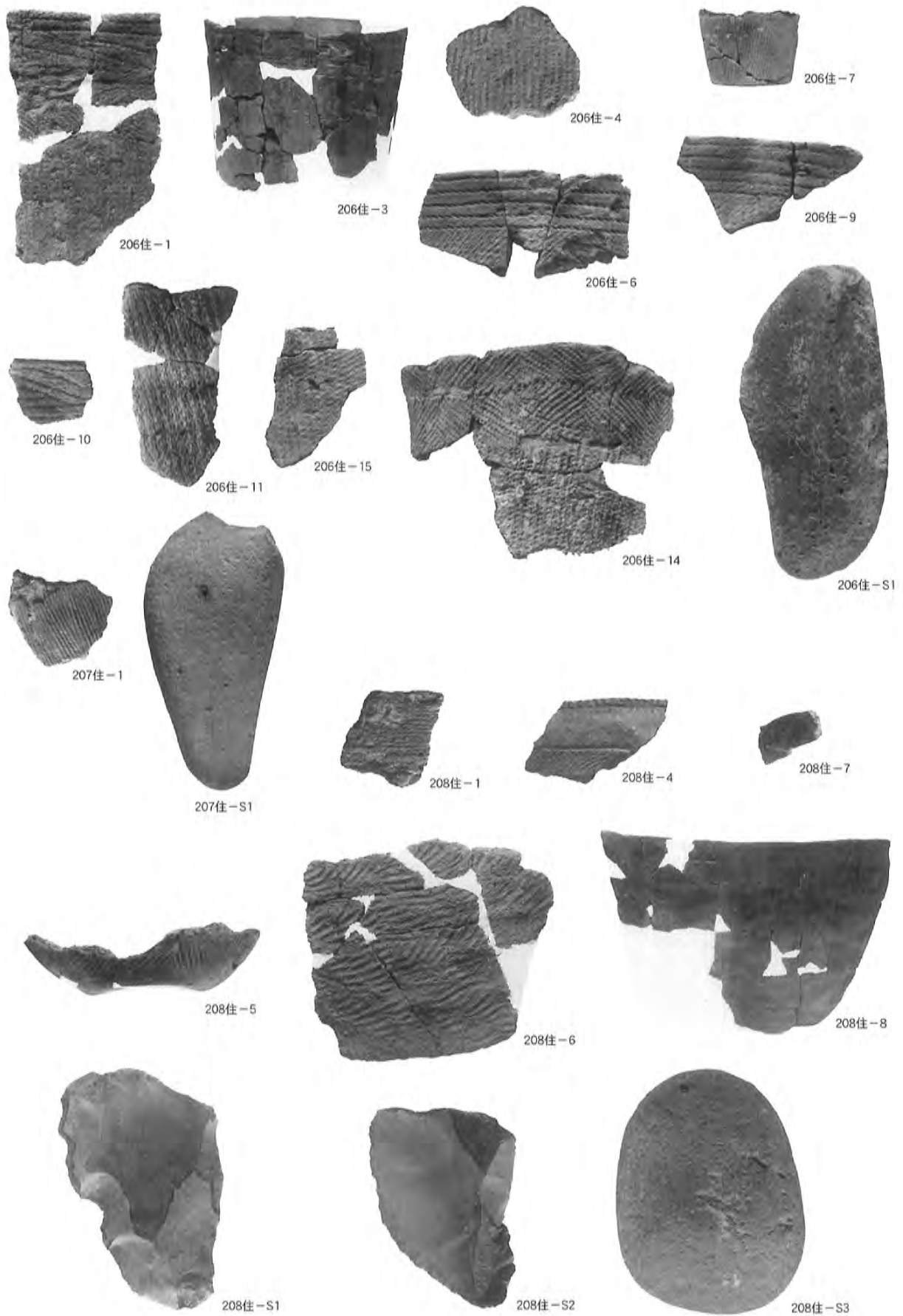


写真65 G区 第206・207・208号竪穴住居跡 出土遺物

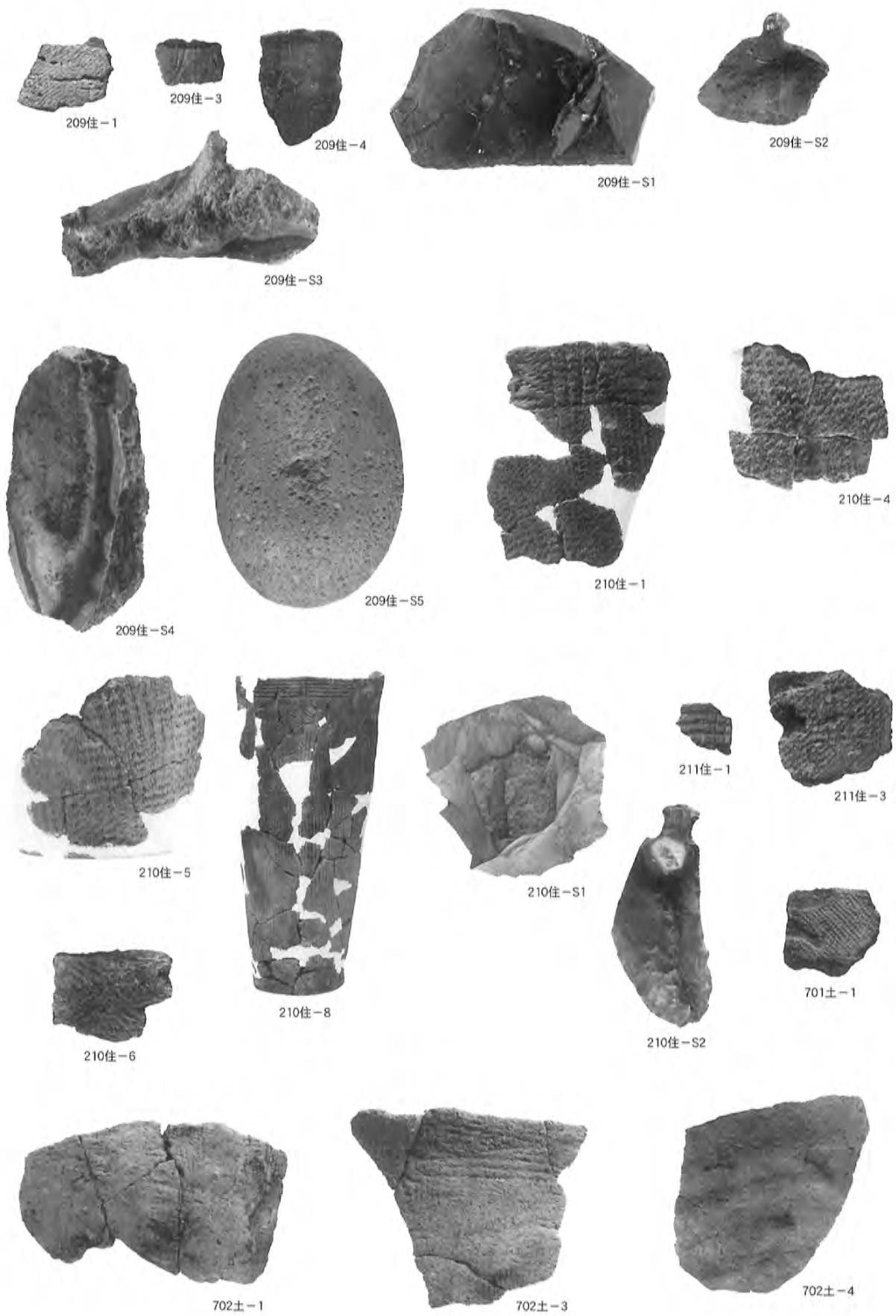


写真66 G区 第209・210・211号竖穴住居跡、第701・702号土坑 出土遺物

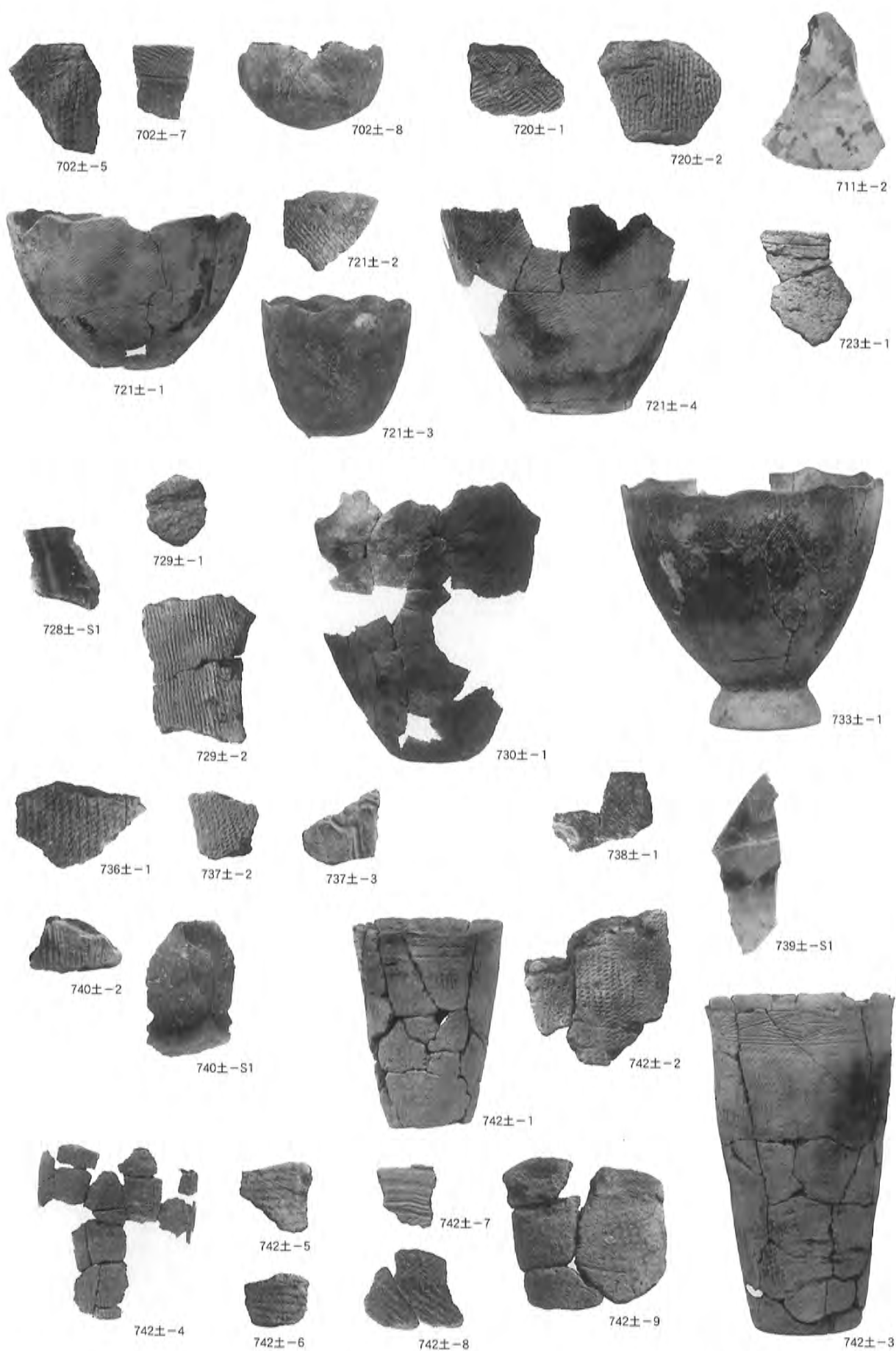


写真67 G区 第702・711・720・721・723・728・729・730・733・738・739・740・742号土坑 出土遺物



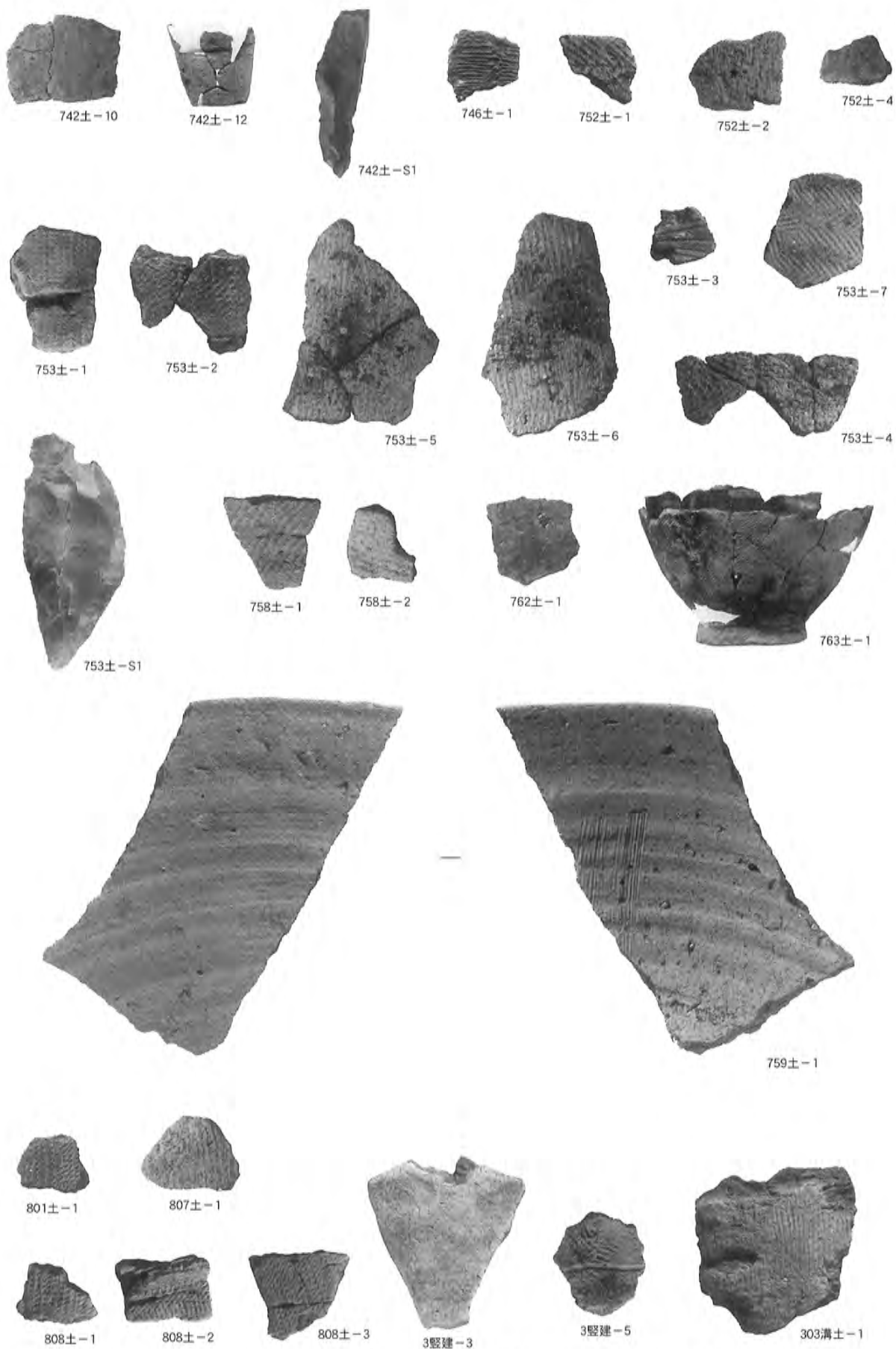


写真68 G区 第742・746・752・753・758・759・762・763・801・807・808号土坑 出土遺物  
 第3号豎穴建物跡 出土遺物、第303号溝 出土遺物

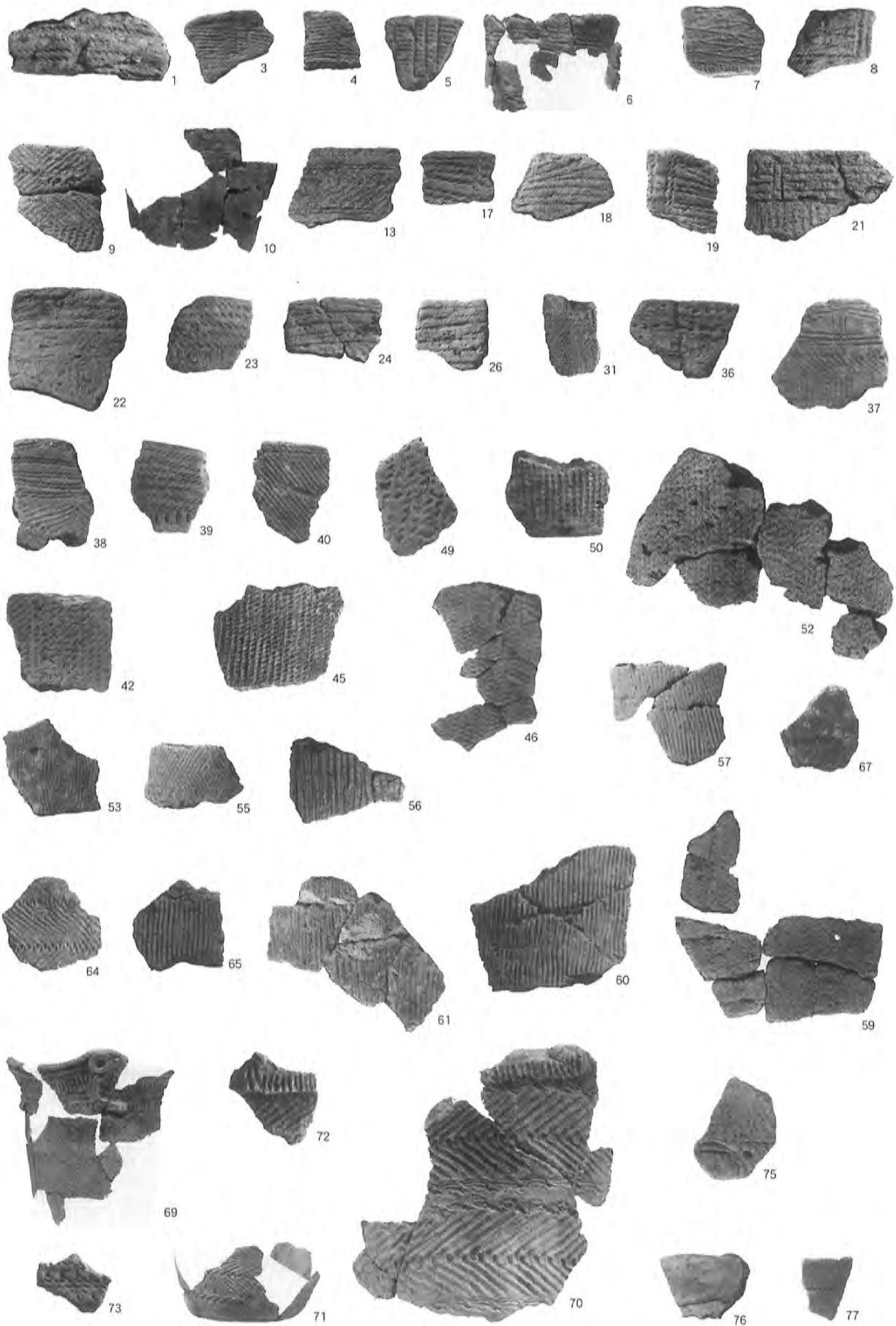


写真69 G区 遺構外出土土器(1)

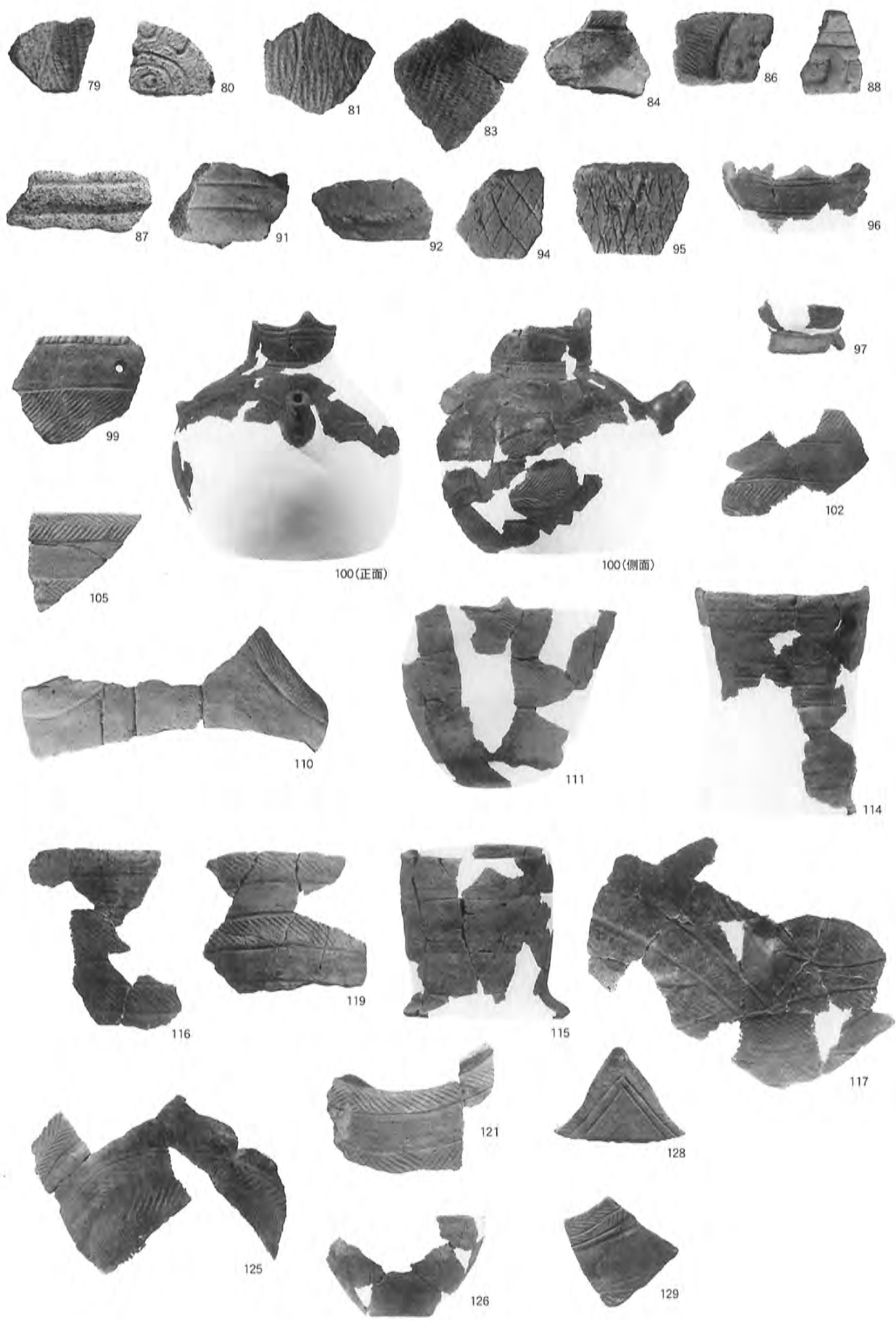


写真70 G区 遺構外出土土器(2)

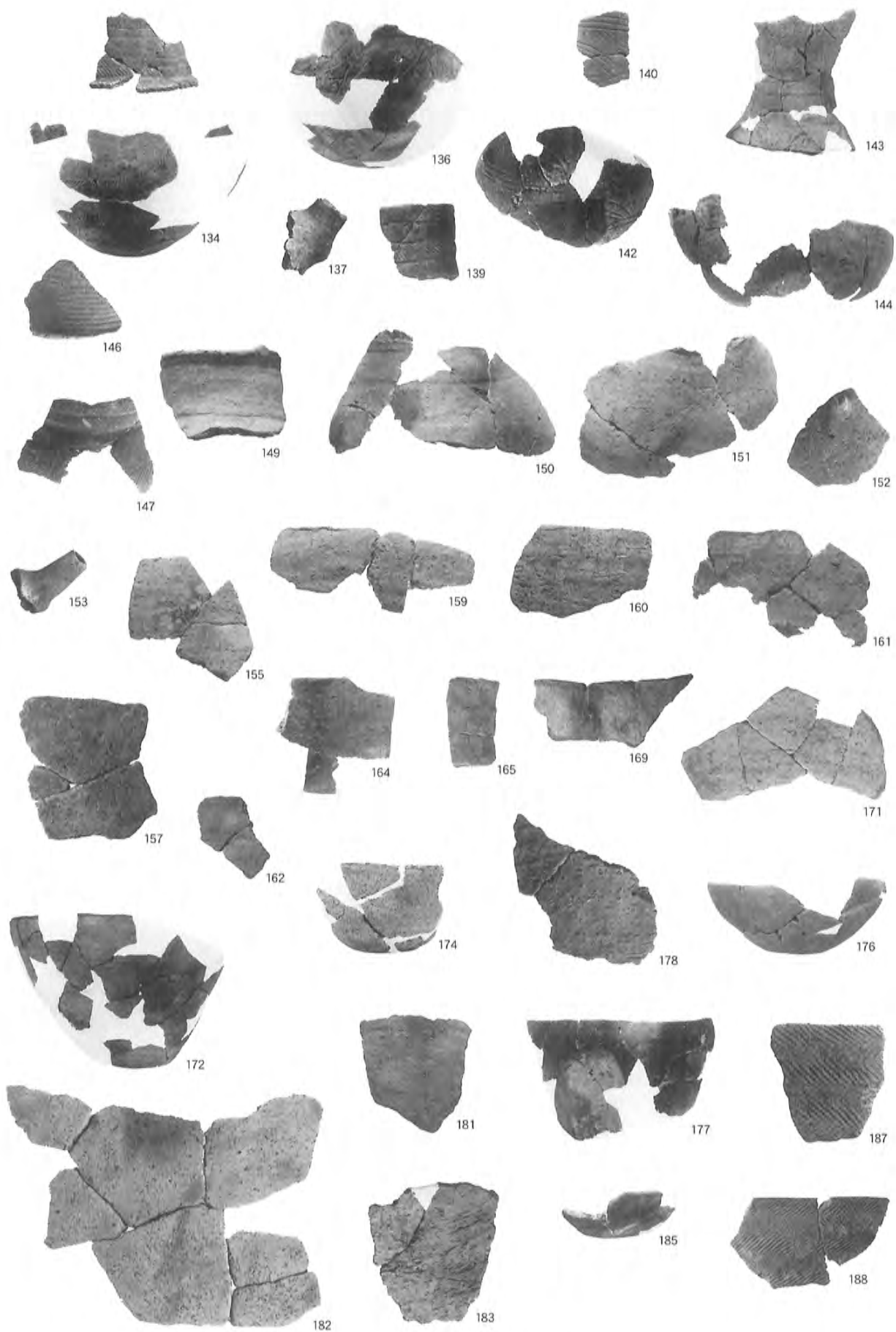
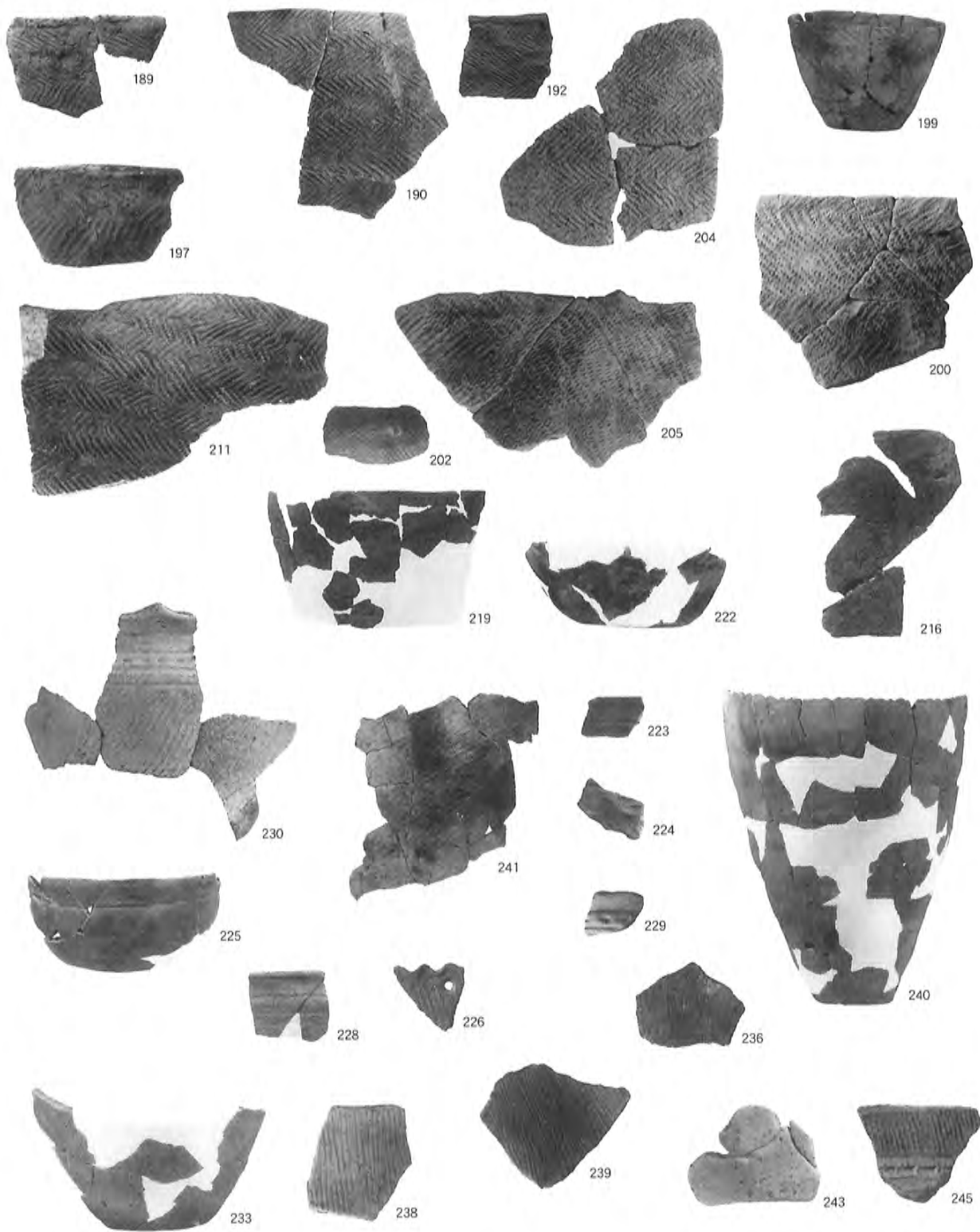


写真71 G区 遺構外出土土器 (3)



ミニチュア土器・土製品



写真72 G区 遺構外出土器(4)・ミニチュア土器・土製品

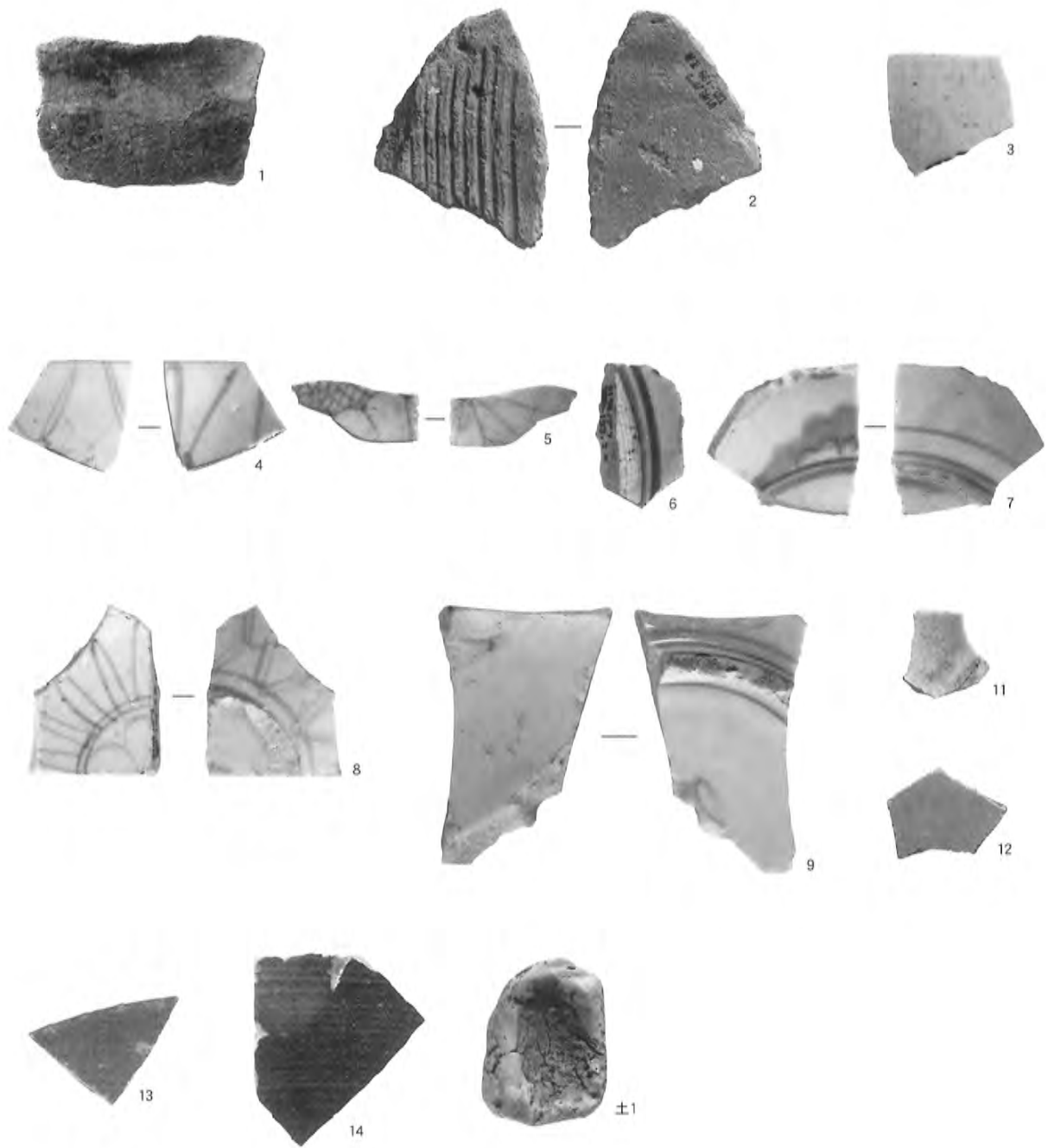


写真73 G区 遺構外出土 古代以降の土器・土製品

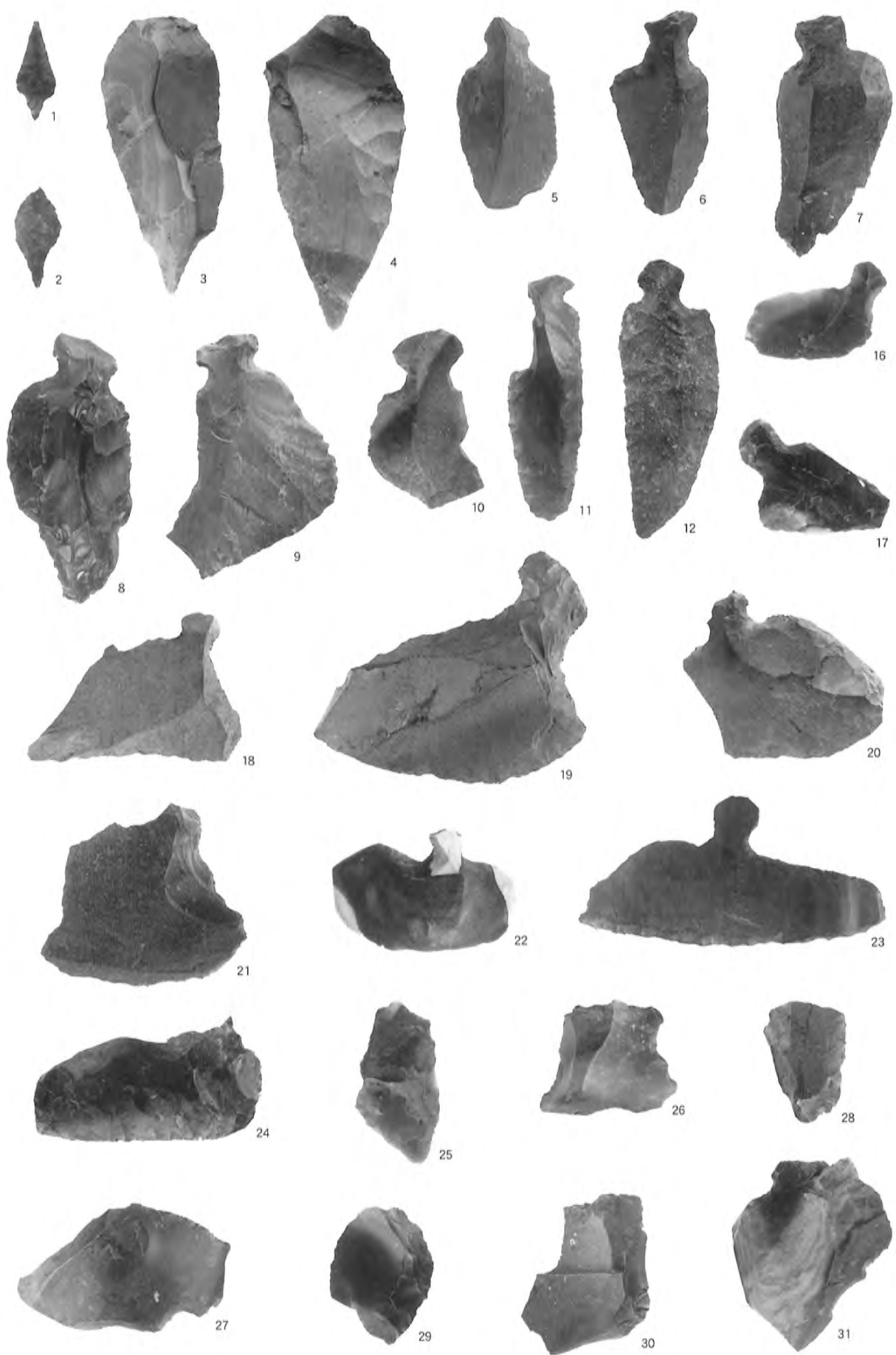


写真74 G区 遺構外出土石器 (1)

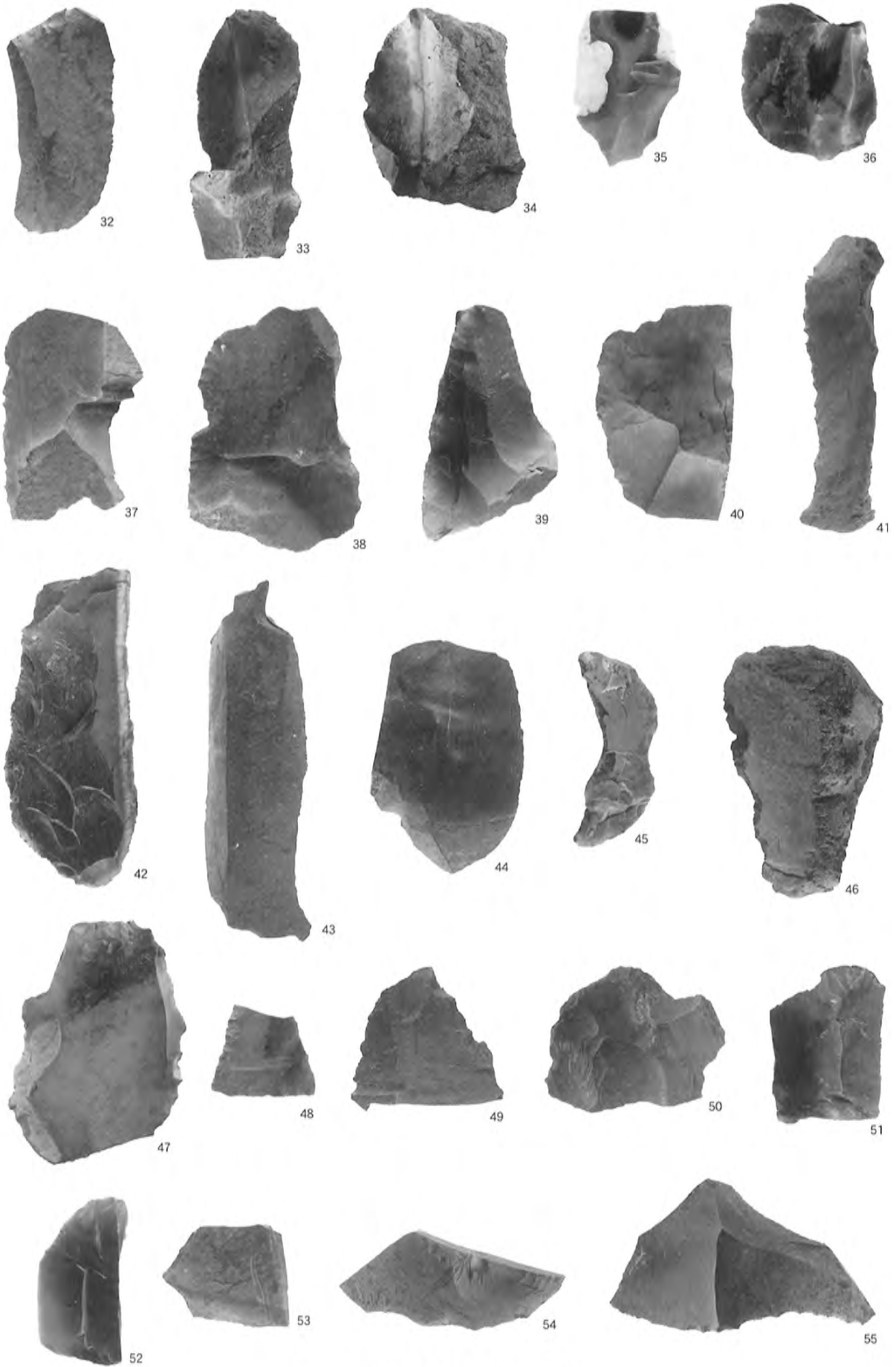


写真75 G区 遺構外出土石器(2)



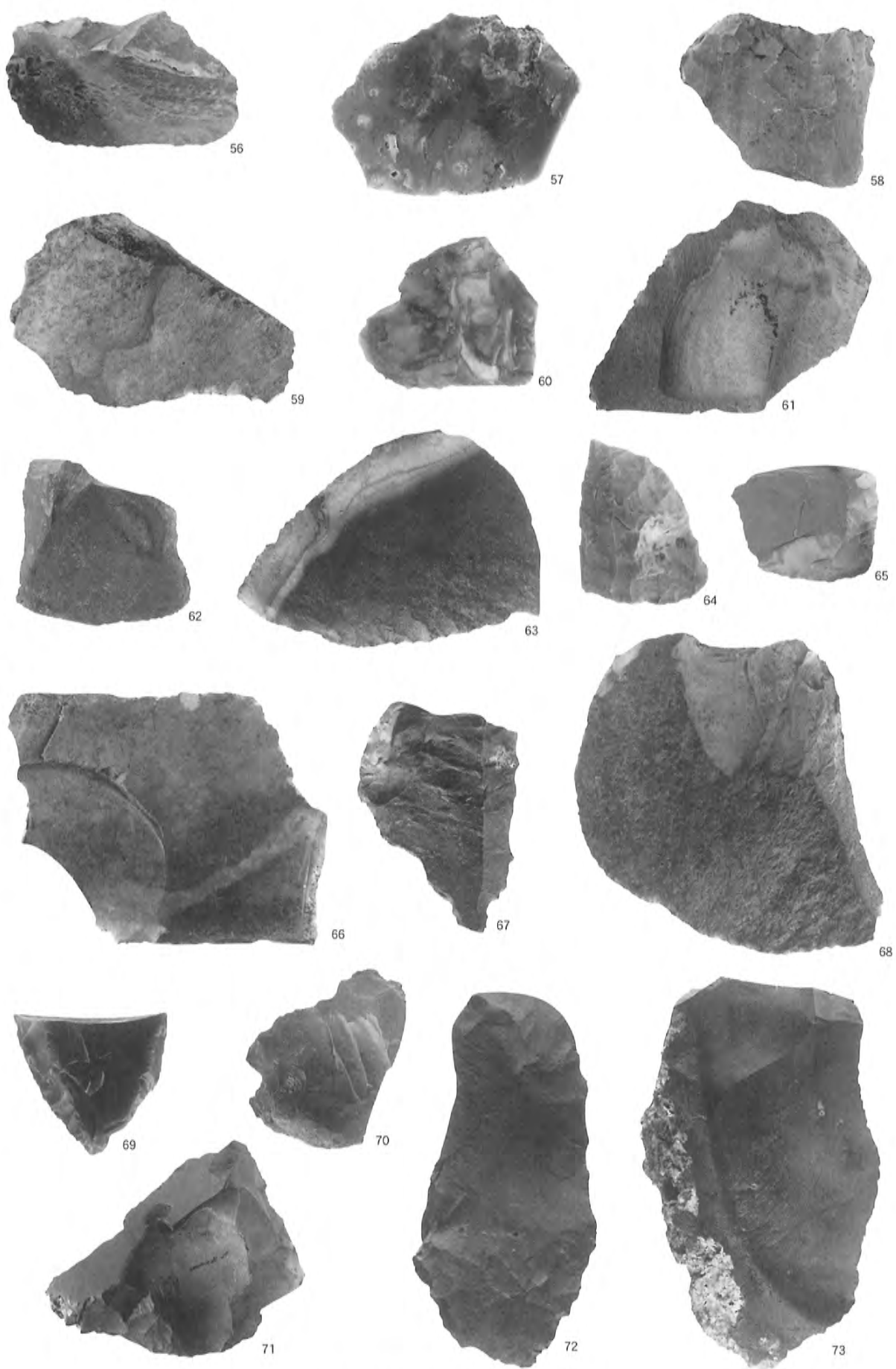


写真76 G区 遺構外出土石器 (3)

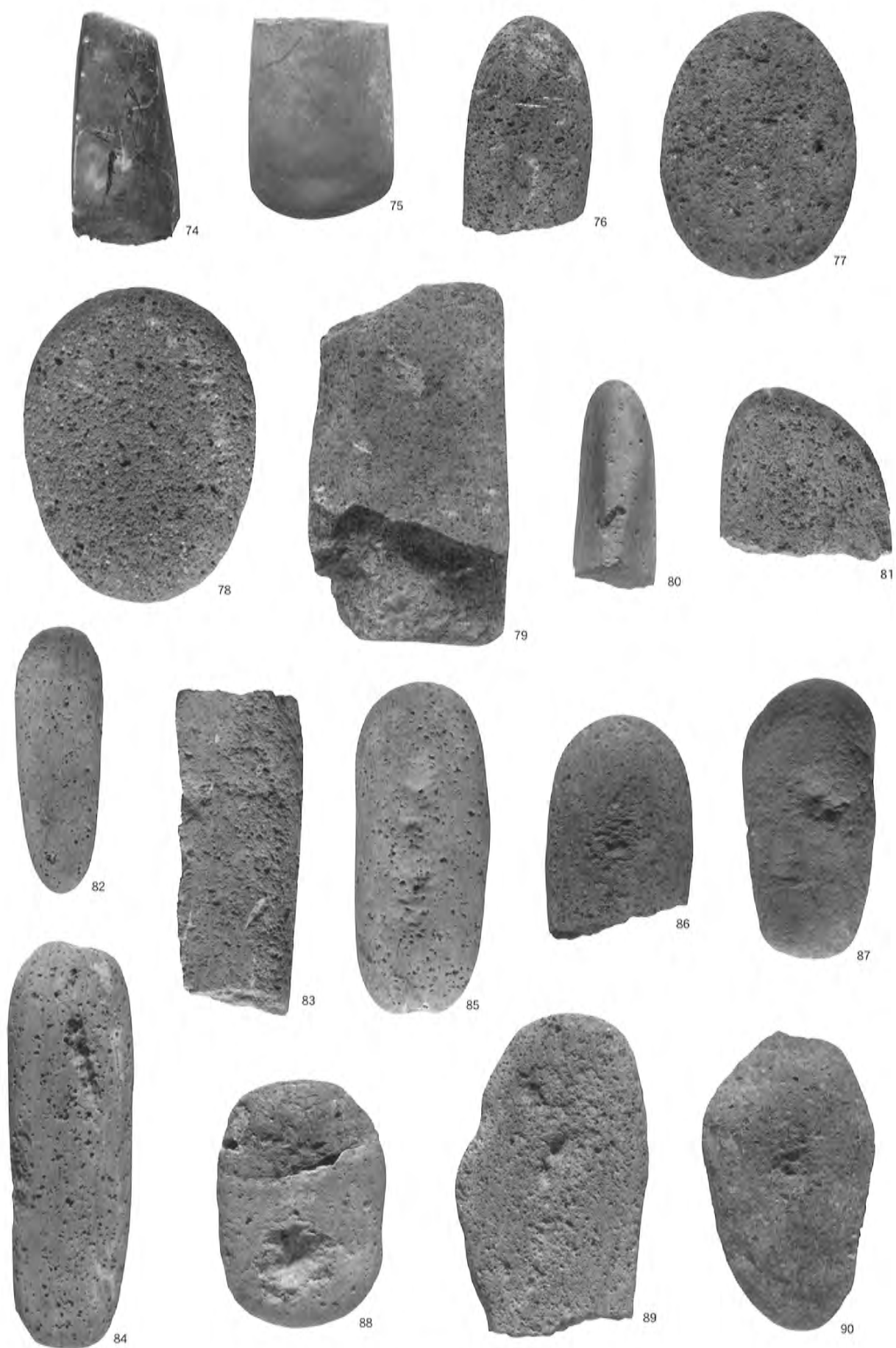


写真77 G区 遺構外出土石器(4)



写真78 G区 遺構外出土石器（5）



# 第 3 編

## ま と め



## 1 環状掘立柱建物跡群について

### 検出の経緯と礫層

上野尻遺跡で環状を構成する掘立柱建物跡は、全体で35棟にのぼる。掘立柱建物跡の検出は、1999年に環状の西側の3棟が、続く2000年に南側半分が半円状に明らかになり、また、北側にも延びることが判明した。さらに、2001年の確認調査によって環状をなすことが明瞭になった。

この状況は、調査の経緯でも述べたが、基本的に貴船川を供給源とする礫層の存在が関係する。

小規模な扇状地形を呈すると思われるこの地域には、貴船川から供給された礫層が堆積している。扇端地形で、礫層が及んでいる範囲は、試掘調査の結果当初調査の対象外とされた。2000年に検出された掘立柱建物跡が半円状を呈して検出された部分は、礫層が及んでいない地域であった。環状になることが想定され、北側にも残りの半円に掘立柱建物跡の存在を確認するために、北側へ調査をのびた結果、掘立柱建物跡が検出された。ただ、この段階では掘立柱建物跡の柱穴が礫層の下からの掘り込みになるのか、礫層の上からになるのかは明確ではなかった。2001年の確認調査の結果、新たに確認された柱穴は、全て礫層の上面で確認された。つまり、掘立柱建物跡はすべて礫層の上で確認され、礫層より新しいものであることが判明した。人力による、礫層の分布する地域での遺構の確認作業は、決して容易なものではなかったことから、掘立柱建物跡のつくられた縄文時代後期後半での、礫層に柱穴を掘ることは、かなりの労力を要する作業であったと思われる。

### 掘立柱建物跡

上野尻遺跡における掘立柱建物跡は、4本柱と6本柱の2つがみられるが、支柱穴からなる基本形は4本柱の四角形プランである。支柱穴から構成される四角形の面積をみると、0～5㎡が1棟、5～10㎡が2棟、10～15㎡が18棟、15～20㎡が8棟、20～25㎡が4棟、25～30㎡が2棟という具合になっており、最小が第4号掘立柱建物跡の3.1㎡、最大が第7号掘立柱建物跡の28.1㎡となっている。面積的には10～15㎡が最も多く、全体の半数がこの範囲に収まっている。

掘立柱建物跡は、ほとんどが環状の円弧に沿う方向に長めの方形を呈している。しかし、3棟の掘立柱建物跡が円弧方向ではなく、直交方向に長めな掘立柱建物跡が第7号・第10号・第21号掘立柱建物跡である。これらは環状の南側に位置しているが、特に規則的な意味合いはないものと思われる。

掘立柱建物跡の形態には、4本の支柱穴のみの4本柱掘立柱建物跡と、4本の支柱穴に2本の支柱穴がつく亀甲形の6本柱掘立柱建物跡がみられる。第31号掘立柱建物跡を6本柱とすると、6本柱は16棟、4本柱は19棟となり、やや4本柱が多いといえる。ただ、その配置状況をみると、6本柱は南側に、4本柱は北側に分布することが明瞭にみることができる。

6本柱の掘立柱建物跡の支柱穴は、支柱穴の4本柱からなる四角形プランに、それぞれ配置されている環状掘立柱建物跡群の円周方向にのみ付属するという傾向がみられる。全てがそうであるので、そのような規制が働いていたことは間違いのないことと思われる。支柱穴の調査をした例は6例である。その6例からの調査では、いずれも支柱穴は支柱穴の方に傾いている。さらに、その傾きの角度であるが、63°から89°で平均をとると76°の傾きを示している。2本の支柱穴を両方とも調査した例は第16号掘立柱建物跡と第17号掘立柱建物跡の2例のみで、第16号掘立柱建物跡では70°と73°、

第17号掘立柱建物跡では70°と79°と近接した角度であることがわかる。調査例からは、支柱穴は平均して76°の傾きで建物側に傾いている。この支柱穴の機能は、支柱穴の傾きから床を支えるものとは考えられず、上方の棟を支える棟持柱と想定される。

### 環状掘立柱建物跡群

環状の北側半分が礫層に覆われる、このような場所で環状を呈して掘立柱建物跡が配列されていることは、掘立柱建物跡を構築していく過程で、環状を意識した目的意識的な存在は容易に想定される。

上野尻遺跡において、掘立柱建物跡同士が軒を接すというような、極めて近接する例はみられるが、明確な重複を示す例は認められていない。このことは時期的に非常に長い時間をかけてなされたという可能性は少ないもののように思われる。ただ、密集度は北側に比して南側の方が高いと言うことは構築の始まりが南側であった可能性が高いものと想定される。なお、環状掘立柱建物跡群の内側においては、明瞭な遺構は認められなかった。

掘立柱建物跡が環状の配置を示すことが明らかになったときに、当初想定されたのは、葬送儀礼に伴う祭祀施設的なものであった。しかしながら、環状掘立柱建物跡群の南西部方向には同時期の遺物を出土する土坑が認められるが、その範囲はごく限られており、環状とは相応するものではなく、また、その他に付随する遺構群も認められおらず、祭祀施設的な具体的な証拠をあげることは難しい。近年、掘立柱建物跡を住居の観点からも捉えられているが、上野尻遺跡において、いずれかに決定することは、現況では難しいものと思われる。

出土遺物から環状掘立柱建物跡群は縄文時代後期後葉のころと思われるが、近辺でも米山(2)遺跡に後期後葉期の数軒の竪穴住居跡がみられており(『山下遺跡Ⅱ・米山(2)遺跡』)、上野尻遺跡においても環状掘立柱建物跡群から西へ約50m離れた旧河川跡では後期後葉の土器片が大量に出土している(『上野尻遺跡Ⅱ』)。周辺遺跡の当該時期の全体像の中での把握が必要となろう。

(木村鐵次郎)



## 2 縄文時代前期の竪穴住居跡について

平成13度に発掘調査が行われた上野尻遺跡G区からは、出土遺物から縄文時代前期と考えられる竪穴住居跡が6軒検出されている。第201・202・204・207・210・211号竪穴住居跡である。このうち、第204・207・211号竪穴住居跡の3軒は遺存状態が良くないため、平面形・規模など不明な点が多い。したがって、ここでは比較的遺存状態が良好で、縄文時代前期後～末葉に作られたと考えられる第201・202・210号竪穴住居跡3軒の特徴などについて概観してみたい。

これら3軒の諸特徴をまとめると次のようになる。

番 号	平面形	規 模	柱 穴	炉
第201号竪穴住居跡	隅丸方形?	460cm×400cm	柱穴5本?	地床炉
第202号竪穴住居跡	隅丸方形	418cm×396cm	柱穴2本	地床炉
第210号竪穴住居跡	円形	354cm×336cm	柱穴2本	地床炉

まず、平面形は隅丸方形あるいは円形を基調とし、規模も300数十cmから400数十cmと比較的狭い範囲に納まってしまう。柱穴の確実なものは、住居のほぼ中央に作られた地床炉を挟んで相対する位置に設けられている。炉は住居のほぼ中央に位置し、地面をそのまま炉面として用いるタイプである。このように、上野尻遺跡から検出された縄文時代前期後～末葉の竪穴住居は、かなり一定の決まり事に則って作られていることが見て取れる。本遺跡で見られるこのような特徴は、成田滋彦氏が青森県内における縄文時代前期後葉（円筒下層c・d式）の竪穴住居跡の特徴としてあげた諸点—平面形は円形・楕円形と方形の二形態、規模は5～6mが一般的、柱穴は支柱穴が2・4・6本が主体、炉は地床炉が主体—と概ね一致する（成田 2001）。

ところで、第202号竪穴住居跡南側壁面の床面から20cmほどの高さの所に、長径74cm×短径40cm、深さが22cmの施設痕らしきものを確認できた。調査時には、その用途などを明らかにできなかったが、大畑町水木沢遺跡第17号竪穴住居跡（青森県教育委員会 1977）の盛り土施設や青森市新町野遺跡第31号竪穴住居跡の「テラス部」（青森県教育委員会 2000）などの存在が「出入口」と想定されている。これらの例からすると、本遺跡の事例も構造に違いはあるものの、「出入口」に伴う施設と推定できる。

以上のように、上野尻遺跡で検出された縄文時代前期後～末葉に作られたと考えられる竪穴住居跡は、遺存状態の良好なものが少ないとはいえ、宮田地区では当該時期のものとしては初めてであり、その資料的価値は高いものと考えられる。

（相馬信吉）

### 3 縄文時代後期の竪穴住居跡について

平成13年度の発掘調査で検出した縄文時代後期後葉の竪穴住居跡は、第205・208・209号住居跡の3軒であり、これらの長径・炉・柱穴配置・形態を見ていくと、次のようになる。

番 号	長 径	炉	柱 穴	形 態	備 考
第205号竪穴住居跡	4,46m	地床炉	壁柱穴	円 形	
第208号竪穴住居跡	6,7m	地床炉	?	円 形	
第209号竪穴住居跡	6,4m	地床炉	主柱穴（4本）	楕円形	出入り口

本遺跡の竪穴住居跡の特徴を概観すると、長径及び地床炉をを主とする共通の面をもちながらも、柱穴配置等で3軒とも様相を異にするものである。次に、青森県内の同時期で検出した竪穴住居跡を炉と柱穴配置の二属性を用いて分類し、本県の陸奥湾地域に位置している遺跡から検出した竪穴住居跡を検証する事とする。

#### 竪穴住居跡の分類

分類にあたっては、地床炉・石囲炉・炉無しのA～C類の三分類に分類した。

大分類の中で柱穴及び出入り口施設の配置から、更に類型の中で細別をおこなった。

#### A類型 地床炉

A 1 類 地床炉と柱穴

A 2 類 地床炉と主柱穴と壁柱穴

A 3 類 地床炉と不規則な柱穴

A 4 類 地床炉と出入り口施設（主柱穴4本と主柱穴＋壁柱穴）

B類型 石囲炉（石囲炉と不規則な配置）

C類型 炉無し

	A 1	A 2	A 3	A 4	B	C
上野尻 遺跡	1		1	1		
米 山（2）遺跡			1	2	1	
蛭 沢 遺跡			1		4	2
尻 高（4）遺跡	1		1	3	1	
二 井 遺跡			2			
外崎沢（1）遺跡					3	1
風 張 遺跡	12	10	7	10	5	1

表 遺跡内の類型分類

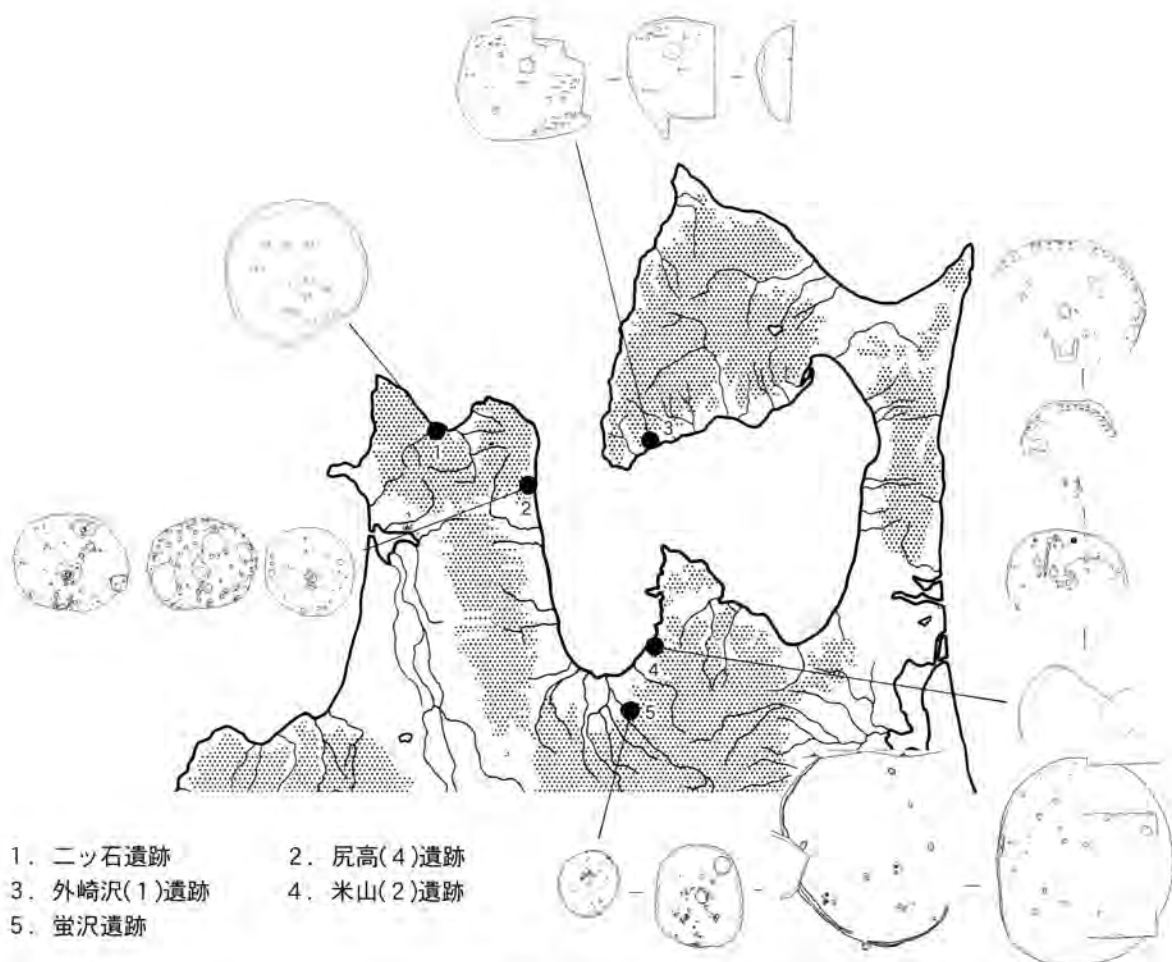
縄文時代後期後葉の時期は、A類の地床炉、B類の石囲炉（全周する石囲炉と一部みられる石組炉がある）、C類の炉無しのグループに分かれ、A類の地床炉にバリエーションがみられるものである。なお、遺跡内の竪穴住居跡の検出をみると、一属性（統一した規格）のみの採用でなく、各属性の組

み合わせによって竪穴住居が構築されている。本遺跡を例にすれば、A1・A2・A3類の三種の属性をもつが確認されるのである。

ちなみに、県内の陸奥湾地域の遺跡の炉を概観すると、A類の地床炉とB類の石囲炉をは、米山(2)遺跡(青森県教育委員会2000)・上野尻遺跡では石囲炉をもたず、蛭沢遺跡(青森市教育委員会1979)・外崎沢(1)遺跡(脇野沢村教育委員会1979)では、石囲炉をもつものが多いという差が見られる。ちなみに石囲炉をゆうする竪穴住居は、柱穴の配置が不規則な配置である。また、尻高(4)遺跡(青森県教育委員会1985)では出入り口施設をもつ竪穴住居が多く、米山(2)遺跡と共通するものである。一方、新井田川流域の風張(1)遺跡(八戸市教育委員会1990・1991)では、壁柱穴が主体を占め支柱穴(4本柱)をもつ組み合わせが主体であり、柱穴の配置から明確な柱穴配列をもつ竪穴住居が多いのが特徴である。

これらをまとめると、後期後葉の時期は地床炉・石囲炉・炉無しの形態が確認され、各遺跡内においても、属性の竪穴住居跡形態の採用の差がみられるものである。一方、陸奥湾地域など支柱穴がはっきりせず、柱穴の不規則な配置などは、共通要素がみられ、小地域におけるまとまりがみられるものである。このことは、地域毎(青森県内では陸奥湾地域と新井田川流域では異なる)における差があり、竪穴住居跡形態の採用が地域ごとの特色がみられる事が確認されると思われるのである。

(成田滋彦)



- |             |            |
|-------------|------------|
| 1. ニッ石遺跡    | 2. 尻高(4)遺跡 |
| 3. 外崎沢(1)遺跡 | 4. 米山(2)遺跡 |
| 5. 蛭沢遺跡     |            |

図135 縄文時代後期後葉竪穴住居跡

## 4 縄文土器について

### 1. E区及びG区出土土器の概要

上野尻遺跡は南北約500m、東西約300mの広がりを持ち、本報告の保存区はその北端、G区は南端に位置する。保存区は平成11年度～13年度にわたり調査されており、後期後葉を中心として前期末葉、中期後葉～晩期後葉の土器が出土している。また13年度に調査されたG区においては前期後葉期及び後期後葉を主体として前期中葉～晩期中葉の土器がみられた。特に後期後葉の土器はこれまで報告されている10年度報告のA区及びB区、C区、12年度報告のA区及びC区、13年度報告のE区でも出土量の多い土器であり、上野尻遺跡を特徴づける土器群としてもよい。ここではその後期後葉の土器群と、G区でもう一つの核をなす前期後葉の土器についてまとめてみたい。

### 2. 縄文時代前期後葉の土器（第1群2類土器）について（図136 1～20）

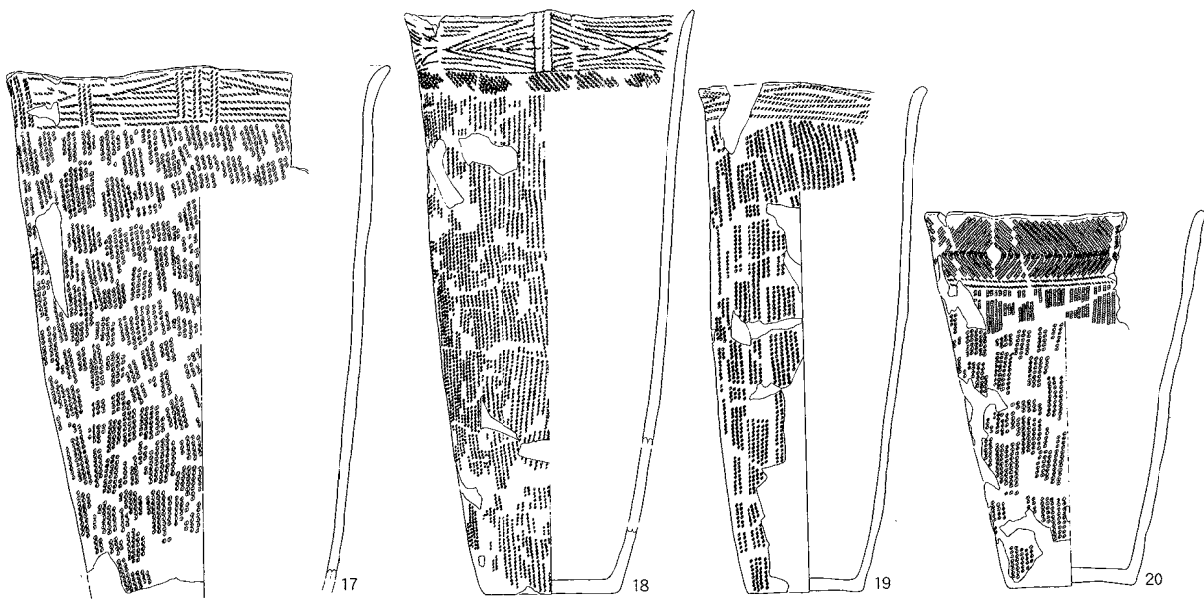
上野尻G区においては縄文時代前期の第1群土器、中でも後葉とした2類土器を中心とした出土がみられた。大方の土器が住居覆土や遺構外の出土であることに加え、後世の耕作等に伴う攪乱や削平の影響を受けていると思われるものが少なくないことから、層位的な検証については望めず、そのような見地からはまとまった資料とはいえない。しかしながら出土土器を検討することで、ある傾向がうかがえるようである。G区の第1-2群土器の特徴を述べると、口頸部の文様は①単軸絡条体1類、5類、6類の横位回転施文のもの、②結束第一種の横位回転施文のもの、③縄文原体の側面圧痕を斜位、横位に施し山形や三角形等の文様を描くもの等が目立ち、このほかに絡条体の側面圧痕が施されるものや、横位の刺突列を数段並べるもの等がみられる。口縁部の文様帯の幅は4cm以下であり、縄文原体の側面圧痕を施すものでも横位のみのもものでは3cm以下のものが多い。また胴部文様は①単軸絡条体1類を縦回転施文するものと②複節縄文を斜回転させて縦行させるものがほとんどで、まれに胴上部と胴下部の施文原体が異なるものや、付加条、直前段反撚等の原体を用いるものも存在する。また口頸部文様帯下に単節や複節の縄文を横回転施文するものも多い。

器形は底部まで復元できた個体が2個体しかなく、器高や全体的な形状は知り得ないものが多いが、第210号住居跡出土の11や第742号土坑出土の12をみると口径1に対して底径は0.6未満、器高は1.6～2.0というように底部から緩い角度でやや開きながら立ち上がり、胴部にややふくらみを持つ長胴形の器形である。口唇部形状では口唇先端部の内面が外側に向かい外反するものや、さらにその先端がとがり気味のものが多くみられ、外面では口頸部文様帯の端部から外側に開くものが多い。口縁部の正面形状は平口縁とゆるい波状口縁のものがあり、口頸部文様帯に縦位の縄文原体側面圧痕を施すものは、波頂部に縦位圧痕が施される。また、内面調整はていねいなミガキ調整が行われ、なめらかな肌合いを持つが、胴部内面には粘土接合部の凹凸が明瞭に残っている。胎土には多量の繊維を含んでおり、割れ口や摩滅した器表面は灰色や黒褐色を呈している。

こうした特徴を持つ土器としては、青森市西部にある三内丸山遺跡第6次調査区の第27・28層から出土した土器が挙げられる（青森県教委 1999）（17～20）。第27・28層出土土器は小笠原雅行氏により再定義され円筒下層c式に比定されている土器で（小笠原 2002）、氏が挙げている諸特徴は、口頸部文様には縄文原体による横に直線的、あるいは菱形の構成をとること及び結束第一種の施文



上野尻遺跡G区出土土器 (I - 2群)



三内丸山遺跡 第6次調査区 第27・28層出土土器

図136 縄文時代前期後葉の土器

がみられること、胴部には単軸絡条体1類や縄文の縦走施文がほとんどであるといった文様に関する  
こと、器形においては、前段階に比較して口径と底径の差がなくなること、口唇部にゆるい外反と胴  
中央部にわずかなふくらみを持つこと等である。本遺跡の第I-2群、その中でも口縁部文様帯に結  
束第一種の横回転施文や縄文原体の側面圧痕を施すものの多くがほぼ同様の内容をもっており、この  
第27・28層出土土器と強い類似性を持つことが理解される。また、陸奥湾を挟んで対岸にある川内  
町熊ヶ平遺跡出土例の中にも類似するものが求められる（青森県教委 1995）。いずれも第8号住居  
跡覆土から出土している土器であるが、第I群2類、3類、7類が本遺跡第I-2群に相当しよう。  
熊ヶ平第I-7群は口頸部文様帯に結束第一種を施文するもので、本遺跡では7や8等が、また熊ヶ  
平第I-2群、I-3群は口頸部文様帯に縄文原体の側面圧痕を施すもので、本遺跡例では9や12  
等がそれぞれ対比できる資料であろう。

このように本遺跡I-2群の大部分は円筒下層c式を前後する時期に相当する資料と類似するところ  
が多いが、該期を含めた円筒下層式について三宅徹也氏は大きく2段階に分け、その変遷について  
述べている（三宅 1989,1994）。本遺跡例でみられる口頸部文様帯へ結束第一種の横回転施文をする  
ものや縄文原体の側面圧痕を施すものはその第2段階に相当するであろう。また氏は胴部原体の研究  
において、青森市南東部の玉清水(3)遺跡例から、胴部への複節縄文の斜回転施文が青森市を含む津  
軽地方の陸奥湾沿岸地域でみられることを示しており（三宅 1974）、これも本遺跡例がこの段階に  
比定されることを支持すると考えられる。しかしまた氏は、「口頸部文様帯に各種縄文原体を回転施  
文し、これに縦横・斜位等に押圧縄文を加えた」型式（氏のB-C型式）は第1段階を主体とし第2段  
階には引き継がれないとしており、本遺跡の1や2等の口頸部文様帯に絡条体を回転施文するものが  
これに該当するであろう。この第2段階直前のB-C型式は三内丸山遺跡第6鉄塔調査区の第Vb層出  
土土器（青森県教委 1998）に特徴的にみられるものである。1や2には口頸部文様帯への絡条体回  
転施文と波頂部以外の場所へも縄文原体の縦位側面圧痕の施文がみられること、また1においては胴  
部に2種類の施文原体がみられること等、第6鉄塔第Vb層出土土器に類似する点はある。ただこ  
うした点を除いて他の第I-2群との相違はみられず、胎土や調整、口縁部形態、口頸部文様帯の幅等  
は第I-2群土器共通の特徴を持っている。特に口頸部文様帯の幅や口縁部周辺の器形断面等を指標  
とするなら、これを全くの前段階、第6鉄塔第Vb層出土土器相当の土器群とすることには躊躇せざ  
るを得ない。ただ先学のこれまでの研究を踏まえれば、こうした詳細の部分において裏付けのない類  
似点の多寡のみで判断できないことから、現状では本遺跡の第I-2群土器に内包して分離せず、第  
I-2群自体の時間幅についても縄文時代前期後葉とその前後を中心とした時期のものとしておきたい。

近年、石岡憲雄氏は円筒下層式の研究史をまとめた上で、円筒下層c式が口頸部文様帯の広いもの  
と狭いものに二分される可能性を示唆している（石岡 1999）。これは上野尻第I-2群土器を考え  
る上でも非常に興味深い。また、小笠原氏が三内丸山遺跡第6次調査出土土器を再評価し、提示した  
ことは、従来曖昧であった青森市周辺地域における該期土器のアウトラインを明確に浮き上がらせた  
ものといえ、その果たす意義は大きい。これに従えば上野尻遺跡から南西に3km離れた青森市稲山遺  
跡（青森市教委 2001,2002）の住居跡覆土出土土器等は本遺跡例を質、量共に包括する内容と考え  
られる。先年調査された青森市岩渡小谷(4)遺跡（青森県教委 2003,2004年刊行予定）でも同時期を

前後すると考えられる土器が出土しており、今後この段階の資料が増加するものと思われる。

### 3. 縄文時代後期後葉の土器（第Ⅲ群3類土器）について(図137～139 21～134)

概要にも述べたように縄文時代後期後葉の土器、第Ⅲ群3類土器は、本報告のみならず既報告である上野尻遺跡の各調査区においても主要な位置を占めている。これまでの報告内容を検討すると、第Ⅲ群3類土器についてはそれぞれの隣接区と本来包括的に扱われるべき内容と思われ、全体を俯瞰することによって、断片的であった該時期の内容がより明らかになると考えられる。よってここでは本報告分を中心として既報告分の土器も含め、上野尻遺跡における土器の分布状況、地区別の様相を述べた上で、出土土器から捉えられる上野尻遺跡のいくつかの可能性について言及してみたい。ただし、遺構外出土土器が多く、出土層位等についても後世の開発行為による削平などの影響から一様ではないため、多くの判断材料を土器そのものに求めていることをお断りしておく。

#### 土器の分布状況

上野尻遺跡における各調査区ごとの報告をみると、第Ⅲ群3類土器は上野尻遺跡の北側である保存区と、その隣接区である平成10年度報告のB・C区、平成12年度報告のA区、平成13年度報告のE区を主体とする北部地区に分布の一つの中心があり、上野尻遺跡南側のG区、隣接する平成10年度報告のA区、平成12年度報告のC区、西側丘陵裾部において近接する平成11年度報告の米山(2)遺跡A区を主体とする南部地区にもう一つの範囲を求めることができる。上野尻遺跡の地形区分によれば(松山 力 1999「第4章」『山下遺跡・上野尻遺跡』)、10年度報告のB区及び13年度報告のF区にまたがる沢状の沖積地を挟んで、北側は矢田地区の洪積下位面の平頂部、南側は西方山地斜面下の洪積下位面の緩傾斜地とされ、第Ⅲ群3類土器の分布は沢地形を挟んだ南北の洪積下位面の丘陵部に集中することがわかる。そしてこの南北の丘陵からは土器等の遺物だけではなく、おそらく該期のものと思われる遺構も確認されている。

上野尻北部地区においては、保存区から環状構造をとる掘立柱建物跡群や土坑が、平成10年度B区からは遺物廃棄ブロックが、他の調査区においてもいくつかこの時期とされる土坑が検出されている。土器はこうした遺構のほか、各区の遺構外からの出土が主であり、その分布範囲を図137に示した。過去数年分の掲載外土器の出土重量や点数については把握できなかったため、該期の既報告と本報告の掲載土器に限っての呈示である。よって本来の分布域としては広がる可能性がある。また北部地区では後期前葉の土器の出土も目立つため、同図にその分布も示した。後期前葉の土器は平成12年度A区及び平成13年度E区において後期後葉の土器と重複する出土傾向にあり、土坑も検出されているが、掘立柱建物跡群の広がる保存区側にはほとんど分布しない点において後期後葉の土器とは様相を異にする。後期後葉の土器、第Ⅲ群3類の状況を見ると、柱穴出土土器が内側の出土域の環を構成し、その外側、西側から南側にかけて遺物が広がる傾向にある。特に集中が著しいのは西側の12年度A区旧河川跡と南側の平成10年度B区廃棄ブロック、平成13年度E区である。炭化物等の付着した粗製土器等が多く出土しているほか、既報告の該期の土器のほとんどがこの掘立柱建物跡群の外側から出土していることは興味深く、環状に巡る掘立柱建物群の内側の分布密度の低さも特徴的である。こうした状況が谷口康浩氏の言う環状集落における「廃棄帯」(谷口1998,2001)の概念で捉えられる

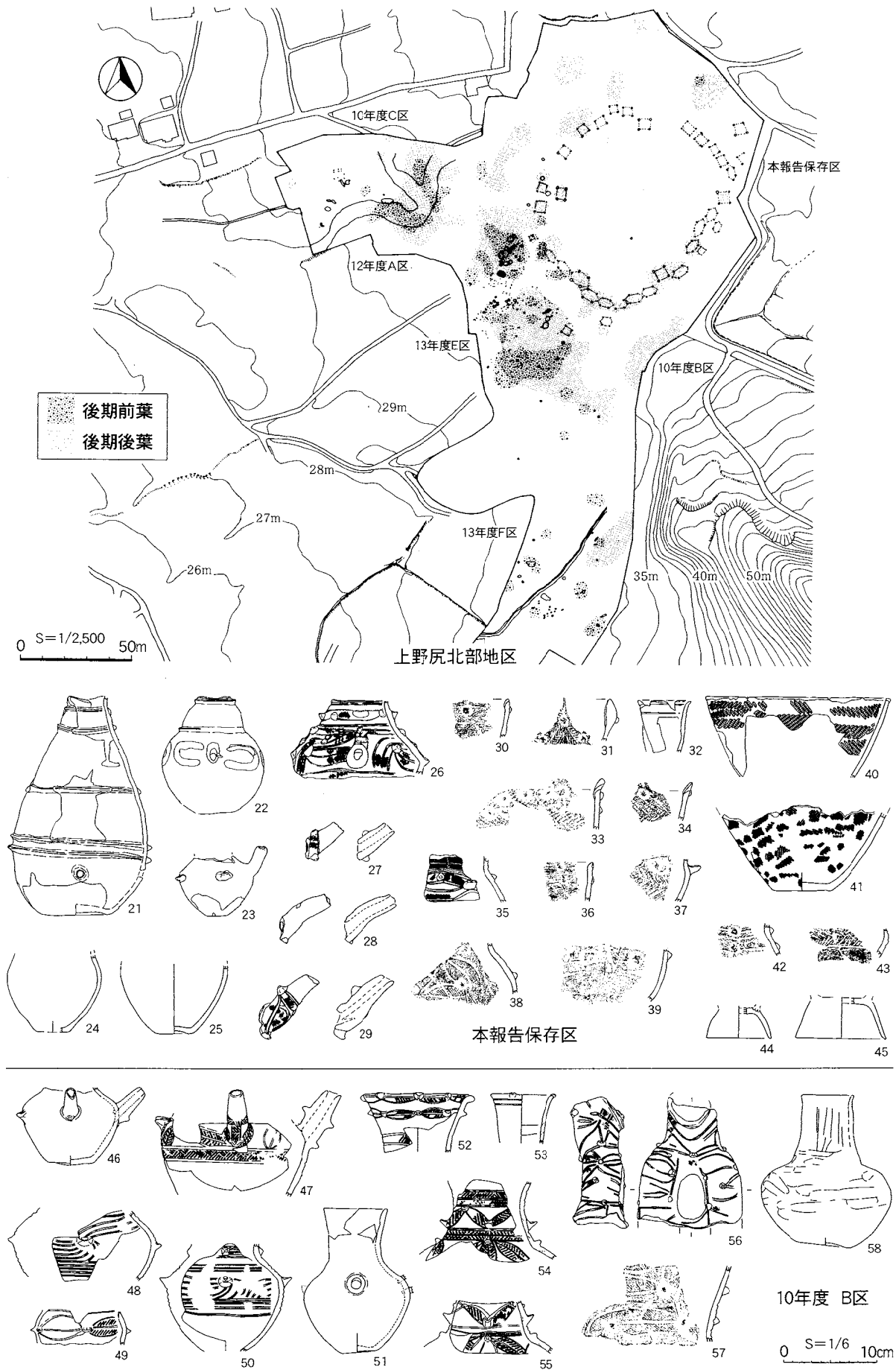


図137 縄文時代後期後葉の土器(1)



ものとすれば、保存区の環状構成をとる掘立柱建物群は、後期後葉の第Ⅲ群3類土器と相関性の高いことがうかがえる。

上野尻南部地区では上野尻G区、平成12年度C区と米山(2)遺跡A区から竪穴住居跡が検出されている。住居跡に伴って土器も出土しているが、主体はG区遺構外出土土器である。北部地区同様にその分布状況を図139に示した。土器はG区北側の標高約26~30m付近に北東から南西にかけて帯状に広がるほか、米山(2)遺跡A区の遺構周辺にみられるが、全体としては山稜の傾斜が緩くなるあたりにかけて帯状に広がる傾向を示している。住居跡等がみられるG区中央部付近では遺構内覆土からの検出に留まり、遺構外での出土はほとんどみられないが、これは竪穴住居跡等の検出状況からみて、この付近が削平されているためと考えられる。またG区北側の分布状況は、南西方向で検出された竪穴住居跡の密度の低さに比して量が多いことや、その竪穴住居跡等からの距離、また土器が標高25~30m付近で帯状に広がっていることから考えると、この部分の東側調査区外に、ちょうど米山(2)遺跡A区の住居跡が立地する標高30~40m付近の緩斜面上に、住居跡など集落を構成する遺構の存在可能性を示唆しているものと思われる。12年度C区で検出されている竪穴住居跡はその一部であるかもしれない。

#### 北部地区（保存区、平成10年度B区、平成12年度A区、平成13年度E区）の土器（図137~138）

出土した土器は残存状態が良くないものが多く、完全に復元しえたものはほとんどないが、口頸部周辺を中心にして器種分類を試みると、注口土器、単孔土器、壺、鉢、深鉢、台付鉢、香炉等のほか異形の土器がある。

注口土器には保存区では22、23、26があり、注口部分のみ残存しているものに27~29がある。10年度B区、12年度年A区、13年度年E区からも46、47、51、59、60、64、78等が出土している。器形には口頸部が分化して口縁が外傾するものと、分化せずにやや内傾するものがあるが、頸部と胴部の境界には明瞭な段などは持たず、なだらかである。注口部は長めでやや反るようなものが多く、貼瘤や縄文帯などの装飾が施される。文様は縄文帯を主文様にするものと、沈線文の施されるもの、無文のものがみられるが、縄文帯を主文様とするものは帯状文が連結する部分などに貼瘤が施され、頸部や胴部の最大径となる部分には上面に刻みを持つ大きな瘤が4単位または5単位で貼り付けられる。上面刻みの貼瘤は無文のものにも共通する。また瘤には器面に平行する縦位刻みが施されるものや、瘤中央に刺突の施されるものもある。13年度E区からは73~75のように沈線により木葉状入組文が施され、その表面が赤彩されているものも出土している。また12年度A区及び13年度E区から出土している59、60、64、78等のように縄文帯で装飾されるものは胴下半部から底部が無文化して丁寧なミガキが施されている。

壺には24、25、58、62等があるが、これらを除いた破片では注口土器が混じる可能性があり、器形だけで分離するのは難しい。58、62等にみられる無文の頸の長い壺が主体と思われる。

単孔土器は保存区から21が、13年度E区の遺構外から81~83が出土している。口縁部を欠くが、底部は上げ底で、胴部から頸部にかけてはゆるやかに立ち上がる。21には横位の粘土紐が頸部、胴部に貼り付けられており、こうした類例を知らないが、器形等から当該時期と判断される。

鉢・深鉢は、口縁正面形状において波状口縁と平口縁の2種類、胴部形態において胴部にくびれを

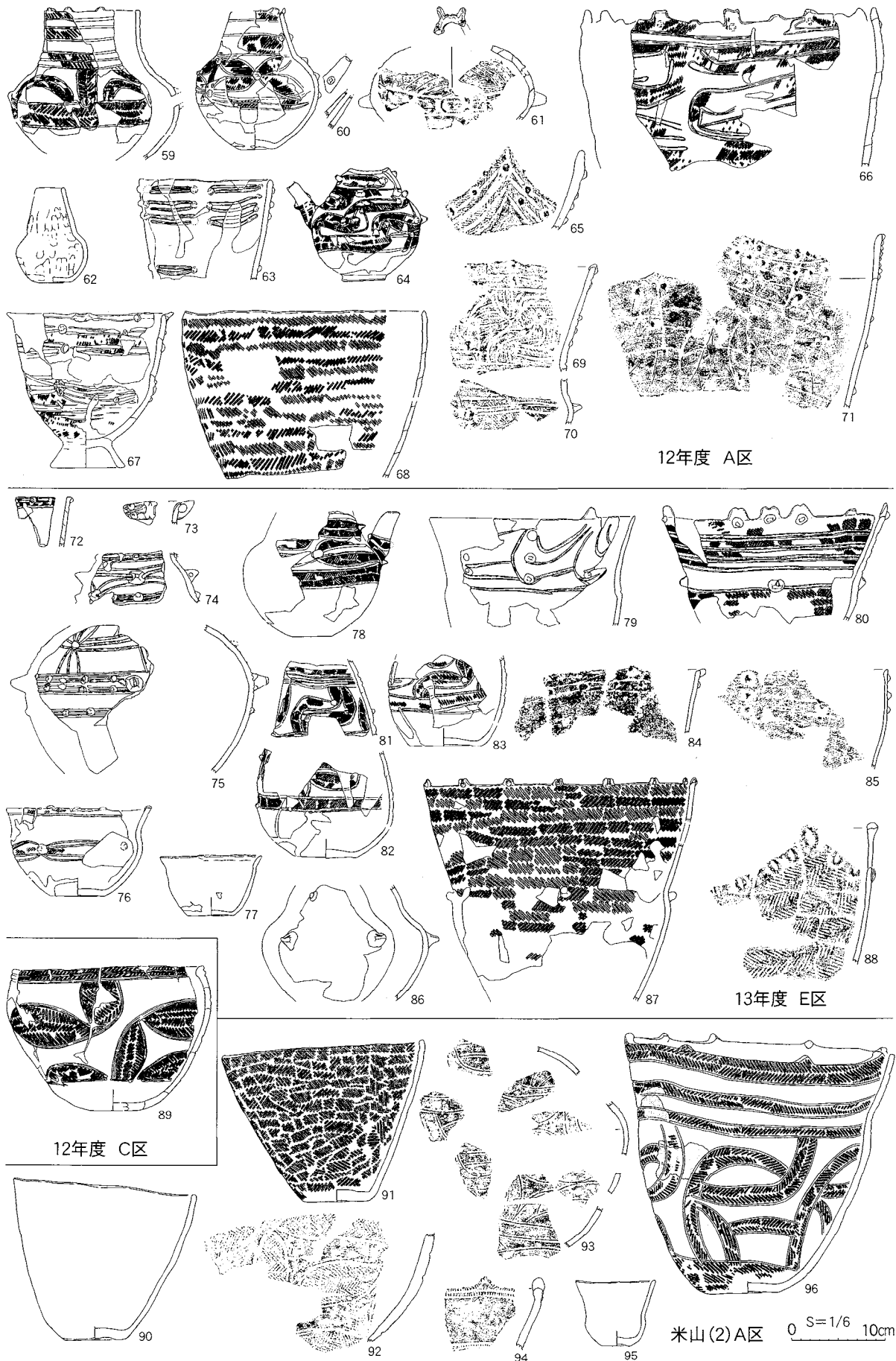


図138 縄文時代後期後葉の土器 (2)

持つものと持たないものの2種類がみられ、さらに口縁突起の有無を組み合わせることによって器形のタイプを細分化できる。波状口縁のものは少なく平口縁のものが大半を占めるが、そのなかでも口縁突起を持つものの割合が高い。器面の装飾は縄文帯を施すものと沈線文を施すもの、無文のもの、縄文のみものものに分離できる。縄文帯施文のものとしては入組状の縄文帯を施し、胴のくびれる部位に貼瘤を施すもの(57、69、70)や、平口縁で数組の2本の平行沈線間に貼瘤を施したもの(84、85)、波状口縁で口縁部と胴部には縄文帯を施し(モチーフは詳細不明)、口縁部の縄文帯に多数の瘤を貼り付けるもの(71)等があり、縄文のみの粗製深鉢においても平口縁に突起が付き、胴部にくびれと貼瘤のあるもの(33、34、37、87)が出土している。

台付鉢は横位平行の縄文帯と貼瘤の施される67等がみられるほかは台部だけの確認がほとんどで、保存区からも44、45などが出土しており、器形には深鉢形と浅鉢形の2例があるようである。

香炉は12年A区第114号、第131号土坑から破片が出土している。保存区第655号土坑からも香炉の可能性のある破片が出土しているが(655土-1)、器形の把握できるものは出土していない。

異形の土器は平成10年度B区と(56)、平成12年度A区第125号土坑から出土している(302集図27-19)。ともに装飾等からこの時期のものと思われる。

#### 南部地区(G区、平成10年度C区、平成12年度C区、米山(2)遺跡A区)の土器(図138~139)

南部地区で出土している土器には注口土器、単孔土器、壺、鉢、深鉢、台付鉢等がみられる。

注口土器は97、101、103等が出土している。口頸部は分化せず直立気味で、頸部と胴部の境界は明瞭な段を持って分離される。刻目帯を持つものは内側に肥厚する大型の口縁突起があり、刻目帯のかわりに縄文帯を施すものは突起が小振りである。注口部は上斜方に向けられ、保存区出土のものに比較して短く、装飾は施されない。瘤は胴部最大径のある部分に注口と対応して3箇所貼り付けられる。胴下半部から底部にかけては刻目帯のある97では縄文が全面に施されるのに対して、101は平行沈線で文様帯としては区切られるものの羽状縄文を一行施すだけで、荒いナデ調整の施された無文部となっている。

壺は99、126等が出土している。保存区の項でも述べたが破片による注口との区別が難しいため、注口の混じる可能性がある。126のような小型のものと、99のような大型のものがあるが、大型のものは、十腰内遺跡の発掘調査報告書(今井富士雄・磯崎正彦 1968)において「筒形土器」と磯崎氏が分類したものに相当する可能性がある。文様は縄文帯を主文様に持つものや、沈線文によるもの、無文のもの等があるほか、地文縄文のみものもみられる。また、胴部の最大径部分に瘤の貼られるものが見られる。

単孔土器は第702号土坑出土の110がみられる。胴の上半を欠いているため器形は不明であるが、北部地区から出土しているものに比較して底部がまるみをおびている。胴部には襷掛け状の带状文が施され貼瘤がなされる。底部は無文帯となり、ナデに近いような荒いミガキが施される。

鉢・深鉢では波状口縁の120~123等は少数で、平口縁のものが大半を占める。平口縁で口縁突起があるものには、胴部にくびれがあるG区の128、米山(2)遺跡A区の96などがある。口縁突起のないものにも胴部にくびれを持つ127や131等のタイプ、くびれの無い129、134等のタイプがみられる。文様は縄文帯を主文様にするものと、無文のもの、地文縄文のものものに分けられるが、波状口

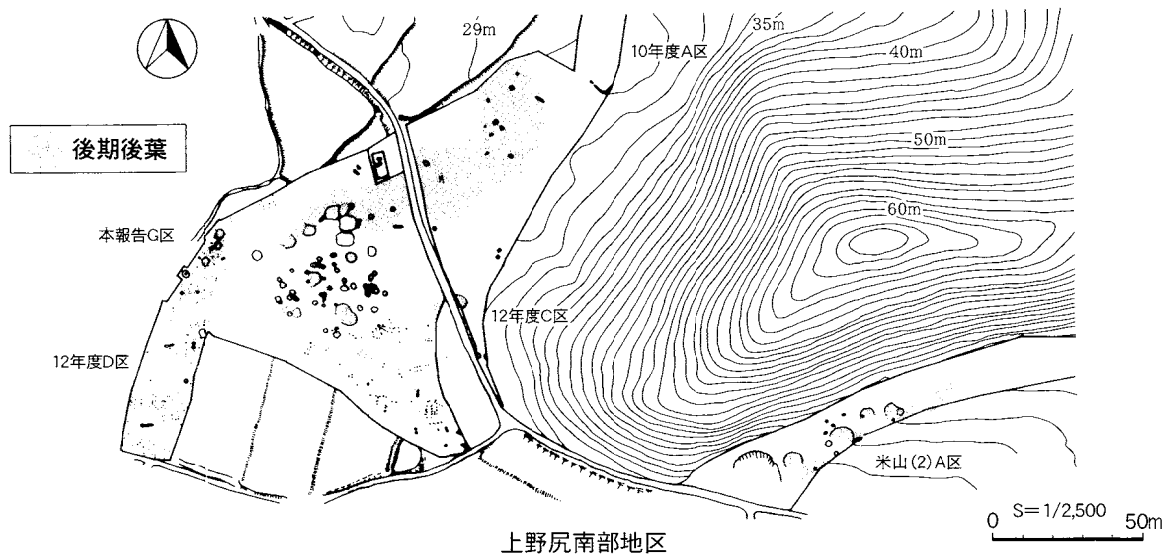
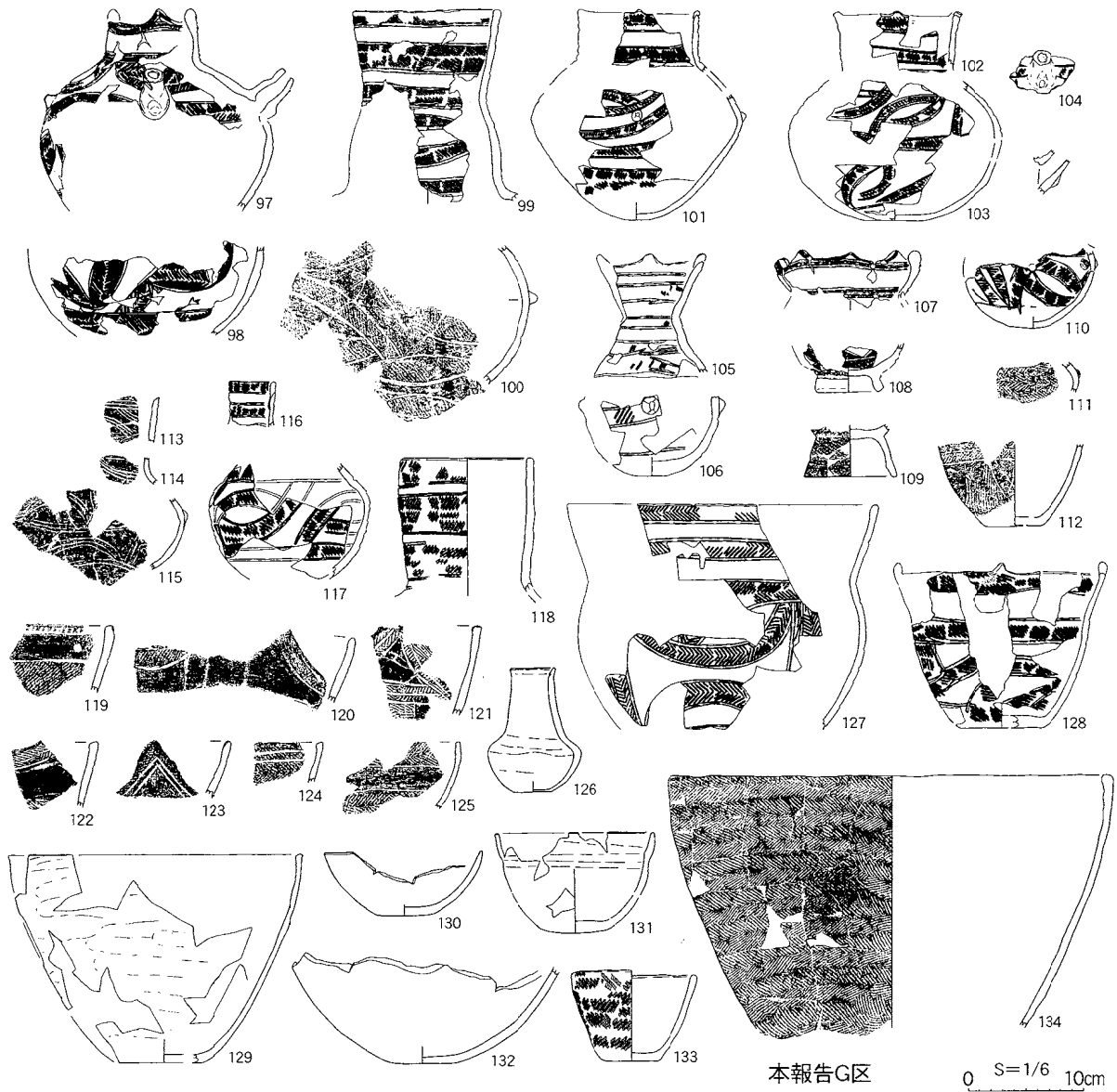


図139 縄文時代後期後葉の土器 (3)

縁及び平口縁・口縁突起付きのものは全て縄文帯を主文様に持つもので、逆を言えば、無文や縄文のみの粗製土器には波状口縁や口縁突起のつくものはみられない。同様に南部地区出土の鉢・深鉢の器表面に瘤があるものはみられないようである。

また、このほかにミニチュア土器や土製品が出土している。

#### 北部地区、南部地区出土土器の比較

北部地区と南部地区の出土土器は前に示したような特徴について、ある程度のまとまりのみられることが理解される。2地区共に出土しているのは注口土器と鉢・深鉢であるが、これらに限って比較してみると、器形、文様、口縁突起・貼瘤などいくつかの事柄において相違する点があきらかになる。

注口土器においては、まず注口部が南部地区において長さが短く無装飾なのに対し、北部地区においては長く、縄文帯や瘤による装飾が施される傾向がある。口頸部は南部地区においては分化せず、胴部との境も屈曲が明瞭で口頸部の幅自体が比較的短いのに対して、北部地区においては口縁部と頸部が段によって分化されるものがあらわれるほか、頸部と胴部の境目はゆるい段となってなだらかな外形を持つものが多い。文様をみると、縄文帯を施す注口土器は両地区にみられるが、無文や、沈線と貼瘤だけの注口土器は北部で卓越する。縄文帯による胴部文様は、南部地区が平行帯状文と鍵状木葉状文、襷掛状文といったモチーフを主体とするのに対し、北部地区では平行帯状文や、連結帯状文、弧状文を組み合わせたクランク状のモチーフが多いようである。また底部も光沢を持つほどの丁寧なミガキ調整が施される北部地区と、縄文が底部全面に施されるか、底部は無文部となるものの荒いミガキ・ナデ調整の南部地区の土器というような違いがある。基本要素である縄文帯そのものは、南部地区において口頸部だけに用いられた2本一対の帯状文が、北部地区においては口頸部に加え胴部の弧状文等の主文様にも用いられ、縄文帯の幅自体も細いといった傾向がみられる。また口縁突起の形態を比較すると、南部地区では内側の肥厚した山形の突起と、器厚と同程度の小振りな山形、または角形の突起がみられるのに対して、北部地区では内側の肥厚した山形突起は極めて少なく、かわりに器厚と同等かもしくはそれより薄い大型化した角形の突起が多いほか、口端部に付けられ、大きく外傾するものもみられる。また貼瘤は南部地区においては注口土器の胴部最大径付近に、注口部に対応した3つの大きな貼瘤が丁寧に施されるもの以外にはみられないようであるが、北部地区においては縄文帯施文のものを中心に、頸部周辺と胴部の文様帯、特に連結帯状文の連結部やクランク状文の弧状沈線が連結する部分に粘土粒を貼り付けただけの小振りの瘤が見られ、そのほか頸部と胴部最大径付近には上面または側面に刻みを持つ大型の貼瘤が施される。

同様に全調査区で出土している鉢・深鉢については、その器形にさほど変化はないが、縄文帯を施す鉢ではモチーフ等の違いが注口土器に見られた傾向と同様に異なる。口縁突起や貼瘤もまた同様で、口縁突起は注口土器に見られた違いに加え、北部地区では突起自体や突起直下に小さな瘤が貼られる。また、口縁部周辺の平行帯状文に小さな瘤が多数貼られるものが北部地区には現れるほか、胴部のくびれ部分に上面刻みの貼瘤を持つものもみられる。この鉢・深鉢について最も顕著な差異は、口縁突起、突起への貼瘤、胴部のくびれ部分への貼瘤といった装飾がみられる粗製深鉢は北部地区のみに限られる点であろう。

### 北部地区、南部地区出土土器の位置付け

上野尻遺跡出土の土器は北部地区、南部地区の地区ごとに分布としてのまとまりがあり、特徴においても南北の土器を比較することで相違がみられることが明らかとなった。該期の研究史と問題点については既刊の『山下遺跡・上野尻遺跡』(1999)において中村哲也氏が、『上野尻遺跡Ⅱ』(2001)において永嶋豊氏が概観しているとおりであるが、前項においてみられた南北地区間の土器の相違は研究史上に照らせば時期差として捉えられる。概して南部地区は古い様相、北部地区は新しい様相を示しているものが多いと考えられるが、もっともその変化を表すと想定される土器の装飾では、縄文帯を施す土器のモチーフが、南部地区にみられる簡素なものから北部地区にみられる、より複雑なものへ変化する傾向があり、口縁突起、貼瘤については、北部地区出土土器の段階に至って、施される器種の増加と、一個体に施される単位数の増加、という変化がみられる。同様に無文土器や沈線だけを施すものの増加、個体における無文部分の割合の増加もそうした変化として捉えられる。

ただ北部、南部とした大きな地区単位での時間差の他に、その地区内においても時間差を示す特徴はみられるようである。例えば南部地区の土器のなかでも12年度C区住居跡出土の89は口縁部が肥厚し内彎することなど、器形等からみても比較的古いものに位置付けられると思われる。同様に刻目帯を持つ注口土器の97等も古い段階に位置付けられるであろう。南部地区における主要モチーフは襷掛状文であるが、古いとしたこれらのモチーフは鍵状木葉文である。またモチーフに限らず101等の縄文帯そのものが細くなるものなどは、南部地区においても新しいものである可能性がある。北部地区にはスリット状沈線を加えた2本一対、もしくは分離した2本の縄文帯を施すものが多くみられ、基本単位の縄文帯の幅は狭くなる傾向があるからである。3本一対の沈線で襷掛状文を施す113～115等も、同様に新しい様相と考えられる。南部地区の中でも新しいとしたこれらの土器であるが、器形や口縁突起・貼瘤等から見て北部地区の土器よりは古いものといえる。

北部地区の土器については、既に中村氏が青森市蛭沢遺跡出土例(蛭沢遺跡調査団 1979)との関係について言及している。北部地区出土土器と蛭沢例とのモチーフの類似や、瘤の上面を刻むといった手法が共にみられることについては氏の指摘のとおりであり、氏の言うように蛭沢遺跡出土土器のほうが上野尻遺跡出土土器の多くに比較して新しい様相を示すものである可能性が高いが、蛭沢遺跡例にみられる注口土器や壺などの胴下半部を無文帯とする傾向は北部地区の土器にも認められ、蛭沢遺跡例との時間差は比較的小さなものである可能性がある。少なくとも胴下半部に縄文の施される南部地区の土器より蛭沢遺跡出土例は新しいものと考えられる。ただ、貼瘤をもつ北部地区の土器には、縄文帯等のモチーフに応じてあとから瘤を貼り付けていくものと、貼瘤を施した後、瘤を沈線でつなぐようにモチーフを描くものがみられ、前者は北部地区で一般的な手法であり、後者は63、67、76などに限られる。後者については弘前市鬼沢猿沢遺跡出土土器(青森県教委 1991)にも認められる手法であり、鬼沢猿沢出土土器の位置付け等により、仮にこうした手法の違いが時間差を持つのであれば、北部地区の土器も全体としてはある程度の時間幅をもつことが考えられなくはない。

このようにみると第Ⅲ群3類土器については大きく南部地区出土土器を第1段階、北部地区の土器を第2段階とすることが可能といえる。第1段階とした南部地区の土器については古い様相と新しい様相が混じり、2～3段階の細分が可能と思われるが、出土状況等による明確な分離ができないためにある程度の幅を持ったものとしておきたい。第2段階とした北部地区も同様に細分化の余地は残る。

これまでに示されている当該期の編年案に照らせば、南部地区の土器は、八戸市馬場瀬(1)遺跡の第Ⅲ群土器(青森県教委 1982)や八戸市風張(1)遺跡E26グリッド第15号住居跡出土土器(八戸市教委 1991)に類似するもので、関根達人氏がいう馬淵川・新井田川流域の西ノ浜式期古段階を中心としたもの(関根 1993)、また鈴木克彦氏の十腰内4式から十腰内5式前半を中心としたものに相当するものと思われる(鈴木 1998,2001)。また北部地区出土土器は南部地区より新しい様相がみられることや、注口土器等の底部の無文化や無文土器の増加傾向などから、おおそ関根氏の西ノ浜式期新段階と宮戸Ⅲa式期、鈴木氏の十腰内5式後半と風張式期に相当するものであろう。

ただその場合でも、同定の基礎となる馬淵川・新井田川流域の土器群とは詳細において様相を異にする事柄もいくつかみられる。一つには縄文帯のモチーフが挙げられる。モチーフの出自、変遷については鈴木氏(鈴木 1998)や金子昭彦氏(金子 1994)の論考に詳しいが、風張遺跡例や八戸市丹後谷地遺跡例(八戸市教委 1986)、岩手県軽米町長倉I遺跡例(岩手県文化振興事業団 2000)には入り組んで蛇行する文様といったような、馬淵川・新井田川流域に共通する、より複雑な文様のバリエーションが豊富にみられるように思う。これに比して上野尻例は規格化されているように簡素であり、ある特定の文様が多用されるようである。注口土器に関して言えば、文様だけでなく、器形そのものや注口部、底部の装飾などにおいても差異が存在するように感じられる。もう一つは『山下遺跡・上野尻遺跡』において中村氏が指摘した、胴部貼瘤の上面を刻む手法である。上野尻北部地区の土器や蛭川遺跡例にみられる手法で、秋田県大館市寒沢遺跡(秋田県教委 1995)のSI02竪穴住居跡出土の深鉢や秋田県森吉町桐内A遺跡(秋田県教委 2002)のSI11、SI37竪穴住居跡出土の香炉等の貼瘤にも類似の手法がみられるようである。いまのところこれらの問題については地域性に帰結するものとして捉えておくこととしたい。

このように上野尻遺跡の第Ⅲ群3類土器の様相からはおおまかではあるが、第1段階、第2段階といった推移がみられる。その分布域の違いから第1段階における活動の中心は南部の丘陵端部周辺にあり、第2段階において北部の丘陵端部から広がる台地上に展開する。

南部地区で検出された竪穴住居跡は床面出土土器などから第Ⅲ群3類土器の第1段階に伴うものとみられ、北部地区においては掘立柱建物群と第Ⅲ群3類土器との高い相関性が指摘できることから、この掘立柱建物群は第Ⅲ群3類期、南部地区の住居等が廃絶された第2段階において形成された可能性が高い。つまり南北双方に目的を違った遺構群が同時に展開されるということは出土土器の状況から見て考えにくいことであり、若干の時間の重なりはあったとしても、第1段階から第2段階という時間軸の中で段階的に変遷する活動域と、それに伴って成立する遺構群のあり方が想定される。

県内においては八戸市風張(1)遺跡に代表される馬淵川・新井田川流域における研究調査が、該期の土器ばかりではなく、集落のあり方を考える上でも示唆に富み、重要な位置を占めているといえる。こうした風張(1)出土例をはじめとする県内の出土例、特に津軽地方の出土例との詳細な比較・検討について今回、時間的な余裕等から行うことができなかった。また遺跡内の出土土器についても、当初の認識の甘さからに文章の羅列に終わり、本来の意味での基礎的な属性分析を為し得ることができなかった。こうした点については今後の課題としたい。

(神 昌樹)

縄文土器のまとめで使用した図版の対応表(図136~139)

図	番号	所収報告書	所収図	所収番号
136	1	本報告書	80	206住-1
136	2	本報告書	72	202住-8
136	3	本報告書	72	202住-15
136	4	本報告書	86	210住-7
136	5	本報告書	73	202住-17
136	6	本報告書	95	721土-2
136	7	本報告書	114	13
136	8	本報告書	80	206住-3
136	9	本報告書	68	201住-1
136	10	本報告書	68	201住-2
136	11	本報告書	87	210住-8
136	12	本報告書	96	742土-3
136	13	本報告書	68	201住-3
136	14	本報告書	68	201住-4
136	15	本報告書	96	742土-1
136	16	本報告書	97	742土-12
136	17	『三内丸山遺跡X I』	217	1
136	18	『三内丸山遺跡X I』	223	4
136	19	『三内丸山遺跡X I』	222	3
136	20	『三内丸山遺跡X I』	224	6
137	21	本報告書	31	掘立2-6
137	22	本報告書	34	掘立32-1
137	23	本報告書	53	223土-39
137	24	本報告書	58	54
137	25	本報告書	34	掘立17-6
137	26	本報告書	56	650土-1
137	27	本報告書	53	223土-38
137	28	本報告書	32	掘立7-1
137	29	本報告書	56	654土-1
137	30	本報告書	58	26
137	31	本報告書	58	25
137	32	本報告書	34	掘立29-3
137	33	本報告書	59	59
137	34	本報告書	59	62
137	35	本報告書	53	223土-36
137	36	本報告書	58	27
137	37	本報告書	59	63
137	38	本報告書	52	223土-30
137	39	本報告書	58	38
137	40	本報告書	53	223土-40
137	41	本報告書	53	223土-41
137	42	本報告書	58	32
137	43	本報告書	58	41
137	44	本報告書	31	掘立2-10
137	45	本報告書	53	223土-37
137	46	『山下遺跡・上野尻遺跡』	58	47
137	47	『山下遺跡・上野尻遺跡』	57	23
137	48	『山下遺跡・上野尻遺跡』	57	41
137	49	『山下遺跡・上野尻遺跡』	57	38
137	50	『山下遺跡・上野尻遺跡』	57	10
137	51	『山下遺跡・上野尻遺跡』	58	44
137	52	『山下遺跡・上野尻遺跡』	57	19
137	53	『山下遺跡・上野尻遺跡』	57	20
137	54	『山下遺跡・上野尻遺跡』	57	33
137	55	『山下遺跡・上野尻遺跡』	57	34
137	56	『山下遺跡・上野尻遺跡』	58	49
137	57	『山下遺跡・上野尻遺跡』	56	3
137	58	『山下遺跡・上野尻遺跡』	58	45
138	59	『上野尻遺跡II』	57	329
138	60	『上野尻遺跡II』	24	149土-26a
138	61	『上野尻遺跡II』	82	665
138	62	『上野尻遺跡II』	34	129土-70
138	63	『上野尻遺跡II』	21	148土-17
138	64	『上野尻遺跡II』	82	660
138	65	『上野尻遺跡II』	56	304
138	66	『上野尻遺跡II』	47	105
138	67	『上野尻遺跡II』	23	149土-8

図	番号	所収報告書	所収図	所収番号
138	68	『上野尻遺跡II』	22	148土-43
138	69	『上野尻遺跡II』	24	149土-21
138	70	『上野尻遺跡II』	24	149土-22
138	71	『上野尻遺跡II』	80	636
138	72	『上野尻遺跡III』	60	190
138	73	『上野尻遺跡III』	56	102
138	74	『上野尻遺跡III』	56	103
138	75	『上野尻遺跡III』	56	104
138	76	『上野尻遺跡III』	13	258土-13
138	77	『上野尻遺跡III』	23	356土-31
138	78	『上野尻遺跡III』	54	56
138	79	『上野尻遺跡III』	23	356土-10
138	80	『上野尻遺跡III』	23	356土-9
138	81	『上野尻遺跡III』	54	49
138	82	『上野尻遺跡III』	54	50
138	83	『上野尻遺跡III』	54	52
138	84	『上野尻遺跡III』	54	67
138	85	『上野尻遺跡III』	55	91
138	86	『上野尻遺跡III』	60	192
138	87	『上野尻遺跡III』	57	131
138	88	『上野尻遺跡III』	57	120
138	89	『上野尻遺跡II』	88	101住-1
138	90	『山下遺跡II・米山(2)遺跡』	39	8
138	91	『山下遺跡II・米山(2)遺跡』	39	9
138	92	『山下遺跡II・米山(2)遺跡』	50	56
138	93	『山下遺跡II・米山(2)遺跡』	37	4
138	94	『山下遺跡II・米山(2)遺跡』	50	50
138	95	『山下遺跡II・米山(2)遺跡』	50	59
138	96	『山下遺跡II・米山(2)遺跡』	40	10
139	97	本報告書	117	100
139	98	本報告書	117	101
139	99	本報告書	118	114
139	100	本報告書	118	117
139	101	本報告書	119	134
139	102	本報告書	119	135
139	103	本報告書	119	136
139	104	本報告書	119	137
139	105	本報告書	119	143
139	106	本報告書	119	144
139	107	本報告書	117	96
139	108	本報告書	117	97
139	109	本報告書	119	148
139	110	本報告書	95	702土-8
139	111	本報告書	121	202
139	112	本報告書	118	126
139	113	本報告書	119	140
139	114	本報告書	119	141
139	115	本報告書	119	142
139	116	本報告書	119	139
139	117	本報告書	117	113
139	118	本報告書	118	115
139	119	本報告書	117	99
139	120	本報告書	117	110
139	121	本報告書	118	127
139	122	本報告書	118	129
139	123	本報告書	118	128
139	124	本報告書	118	130
139	125	本報告書	117	102
139	126	本報告書	77	205住-1
139	127	本報告書	117	112
139	128	本報告書	117	111
139	129	本報告書	120	172
139	130	本報告書	120	176
139	131	本報告書	120	175
139	132	本報告書	77	205住-2
139	133	本報告書	121	199
139	134	本報告書	83	208住-8



## 5 石器・石製品について

四度にわたって調査された上野尻遺跡からは剥片石器・礫石器や石製品が出土している。ここでは四度の調査で出土した石器や石製品の概要や分布についてまとめてみたい。

### 1. 剥片石器

器種には石鏃、石錐、石槍、石筥、石匙といった定形石器や搔器、削器等の不定形石器、異形石器がある。これらの石質は珪質頁岩が大部分を占め、次に頁岩、玉髄質珪質頁岩と続く。

#### 【石鏃】

77点出土している。石質は珪質頁岩、玉髄質珪質頁岩、頁岩である。基部による分類を行ったところ有茎石鏃が圧倒的に多く、凸基石鏃が多い。この傾向は工藤竹久氏が縄文時代後・晩期に圧倒的に有茎石鏃が増加する(工藤 1977)と提示したところと変化はない。基部を観察するとアスファルトが付着している石鏃もある。

#### 【石錐】

20点出土している。石質は珪質頁岩、頁岩である。形状は摘みが作り出されているもの、棒状のもの、破損した石匙から転用したものが見られる。観察すると錐部は長く作られるものより短く作られるものが多い。

#### 【石槍】

柳葉形・棒状をしたものの2点出土している。石質は珪質頁岩である。この出土数の様子は石槍出現の割合が後・晩期には減少する(工藤 1977)と提示したところと変化はない。

#### 【石筥】

筥状石器として報告しているものも含め10点出土した。石質は珪質頁岩である。形状は上部に比べ下部がやや開くもの、下部が大きく開き三味線の撥状になるものがある。調整は大半が両面に調整が行われているが片面だけに調整が行われるものもある。この他、大石平型石筥が土坑内より1点出土している。

#### 【石匙】

縦型石匙が81点、横型石匙が35点の合計116点出土している。石質は珪質頁岩、玉髄質珪質頁岩、頁岩、玉髄である。定形石器の中では一番出土数が多い。背面のみの調整で刃部を作り出すものが多く、両面に刃部調整が成されるものはあまり見られない。G区や保存区でも過去の報告書で述べられているように刃部の端部に打面がくる石匙が見られた。

#### 【不定形石器】

搔器・削器等の定形石器以外をまとめた。139点と剥片石器の中で出土数が一番多い。石質は珪質頁岩、玉髄質珪質頁岩、黒曜石である。形状は円形、三角形、台形、楕円形、長楕円形、棒状等様々である。刃部調整は両面・背面・腹面に見られるが背面に施されるものが多い。G区第201号竪穴住居跡より検出された抉入削器については剥片石器の実測委託を依頼した(株)アルカの高橋哲氏により使用痕分析が行われており、使用痕と柄等の装着痕が確認されている。分析結果は第2編第3章第1節とおりであるのでそちらを参照願いたい。

### 〔異形石器〕

11点出土している。形状から用途不明なものを異形石器とし、人形型を模して石偶と呼称されるものも含めた。全体に調整が施されて、石質はいずれも珪質頁岩である。福田友之氏は石偶の時代、石材について本県と北海道での出土例を比較して道南と同様の傾向を示しているとし、時代は縄文時代後期～続縄文時代前葉、石材は頁岩、珪岩、めのう等、他の出土している剥片石器の石材と大差はないとしている（福田 2002）。本遺跡の異形石器は縄文時代後期～晩期の遺構、遺物が多く検出されている地点からの出土であることや、他の剥片石器の石質と同じ珪質頁岩であることなど福田氏の見解と一致している。

## 2. 礫石器

礫石器は磨製石斧、打製石器、半円状扁平打製石器、敲磨器、石皿、台石類等が出土している。

### 〔石斧類〕

磨製石斧、石斧と報告しているものを合わせて10点出土している。石質は緑色細粒凝灰岩、安山岩である。刃部は直刃、円刃、偏刃が見られ、すべて両刃であった。断面形は円形、楕円形である。

### 〔打製石器〕

打製石器は2点出土している。石質は流紋岩、安山岩である。側縁全体に加工が施されるものと部分的に側縁に加工が施されものがある。

### 〔半円状扁平打製石器〕

半円状扁平打製石器は6点出土している。石質は石英安山岩、輝緑岩、凝灰岩、流紋岩である。すべてG区よりの出土である。

### 〔敲磨器〕

「敲き」「磨り」「凹み」の機能が単一であるものと複合するものが存在している。「敲き」のみは11点、「磨り」のみは31点、「凹み」のみは58点であった。複合するものは「磨り・敲き」は10点、「凹み・敲き」は13点、「磨り・凹み」は5点、「敲き・磨り・凹み」は1点であった。敲き石は機能面が両面、両端部に見られる。石質は凝灰岩、緑色凝灰岩、輝緑岩、安山岩である。形状は楕円形、棒状が見られる。磨り石は磨りが両面に施されものも多く、側面に施されるものは少ない。形状は円形、楕円形が多い。凹み石は両面に施されものが多いが、側面にも施されるものもある。凹みも複数施されるものが見られる。形状は円形、楕円形、棒状と様々見られる。機能が複合するものも同様の傾向を示している。

### 〔石皿・台石類〕

石皿・台石類は15点出土している。形状を観察すると三角形、方形、不整形とあり、縁を作り出しているものは1点のみの出土である。器面を観察すると使用によりツルツルして、ややへこみが見られるものがほとんどである。

### 〔石棒〕

石棒は3点出土している。石質は流紋岩、凝灰岩である。頭部が分かるものが2点あり、成形が簡素なものづくびれが強く線刻が施されているものがある。

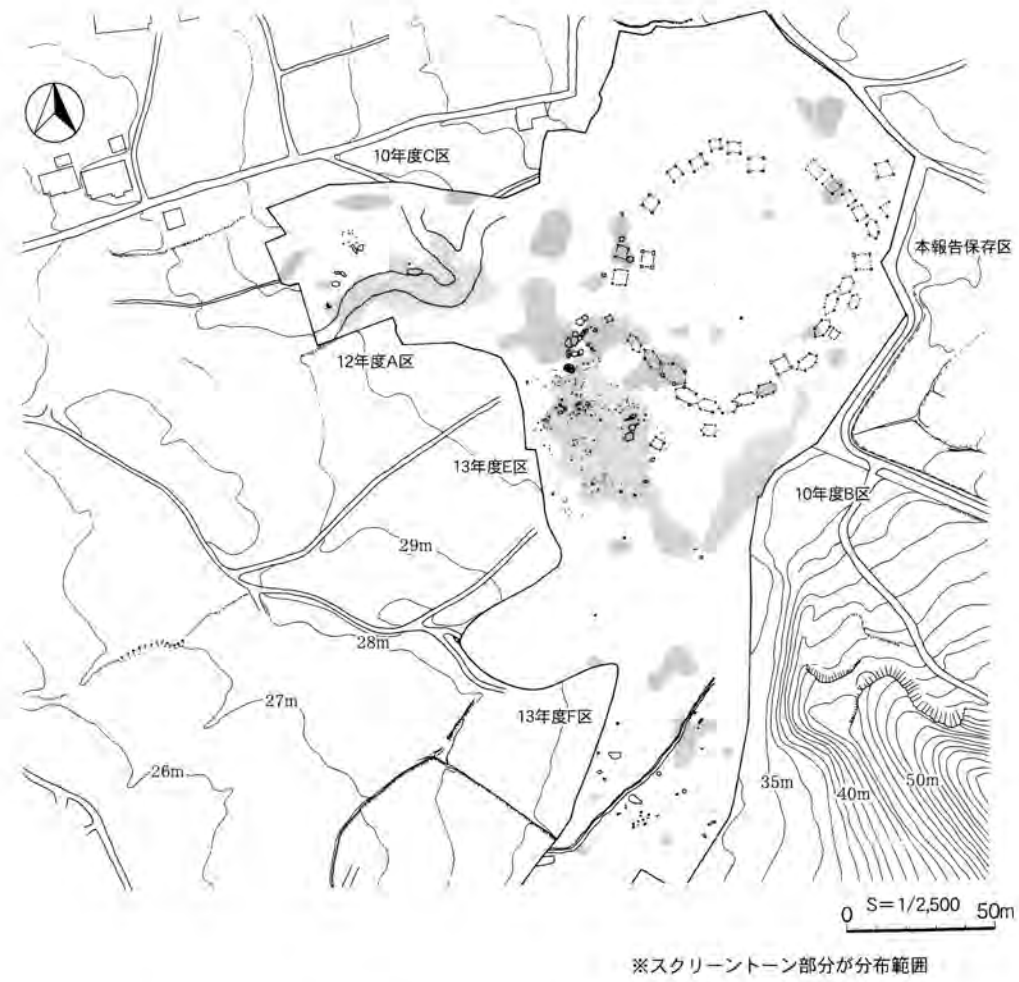


図140 既報告区と保存区の石器出土分布図



図141 G区の石器出土分布図

### 〔石刀〕

2点出土している。石質は凝灰岩、輝緑岩である。平成12年度A区の旧河川跡より検出された石刀は丁寧に作り出されている。

### 3. 石製品

石製品は三角形岩版が遺構内1点、遺構外4点の計5点が出土している。いずれも石質は細粒凝灰岩、凝灰岩である。大きさは3～5cmである。すべて無文である。この他、円形をしていわゆる円形岩版に類似したものも4点、形状が短い棒状を呈しているもの2点が出土している。

### 4. 石器・石製品の分布

これまで石器と石製品の概要を見てきたが、次にその出土分布を見てみることにする。図140は既報告区と保存区から出土した石器の分布図であるが、環状掘立柱建物跡の西～南側の範囲に分布密度が濃く、これらの範囲は平成10年度B区廃棄ブロック、平成12年度A区の旧河川跡等に相当している。一方、環状掘立柱建物跡の北～東側の範囲では分布密度が薄いのが分かる。また、興味深い事に環状掘立柱建物跡の内側にはあまり遺物が分布していないことが分かる。石器が使用された時期は出土した土器の分布等から比較して既報告区と保存区は縄文時代後期・晩期を主体にしていると思われる。石製品の分布については図示できなかったが、三角形岩版については廃棄ブロックと旧河川跡周辺から出土しており、付近からは縄文時代後期前葉の土器が検出されていることから土器と同時期の所産の可能性が高いと思われる。分布している石器・石製品を見ると人間が生活をしていく上での日常的な石器が多く出土しており、石棒、石刀、岩版といった祭祀・宗教的な色彩の濃い石器、石製品の出土が少ないことが分かる。このような結果は環状掘立柱建物跡の性格付けにも関わってくる可能性があるのではないだろうか。図141はG区の石器出土分布図である。なお、石製品はG区から出土していない。石器は北東より南西にかけての比較的まとまった範囲と縄文時代前期・後期の竪穴住居跡や土坑といった遺構周辺に見られる。このことからG区の石器は縄文時代前期・後期に属すると思われる。

筆者の力量不足のため、出土遺物の概略、平面分布等を中心に記し、遺跡内での比較、検討を行うことが出来なかった。不十分なままのまとめに終始してしまったことを反省する次第である。

(齋藤 正)

## 6 古代以降の遺構・遺物について

縄文時代後期の環状掘立柱建物跡群に代表されるように、遺跡は縄文時代が中心の時期を占めることが明らかになった。しかし、縄文時代の遺構や遺物に比べてわずかではあるものの古代以降の遺構や遺物が検出されている。以下、検出された遺構、遺物についてみてみたい。

### 1. 遺構

#### 竪穴建物跡

竪穴建物跡は3棟検出されている。平面形はいずれも正方形をしており出入口としての張出し部を



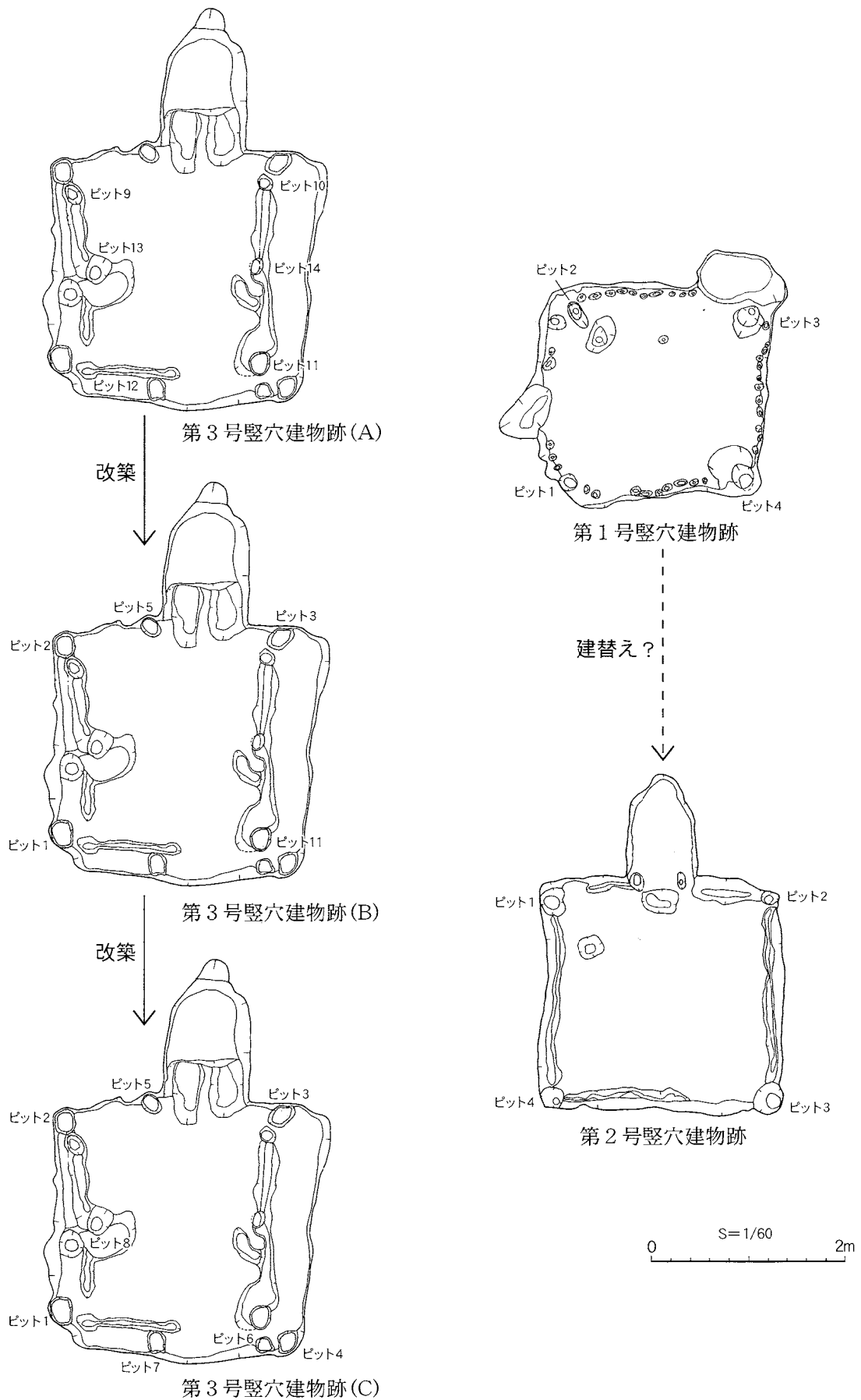


図142 第1～3号竪穴建物跡の変遷試案

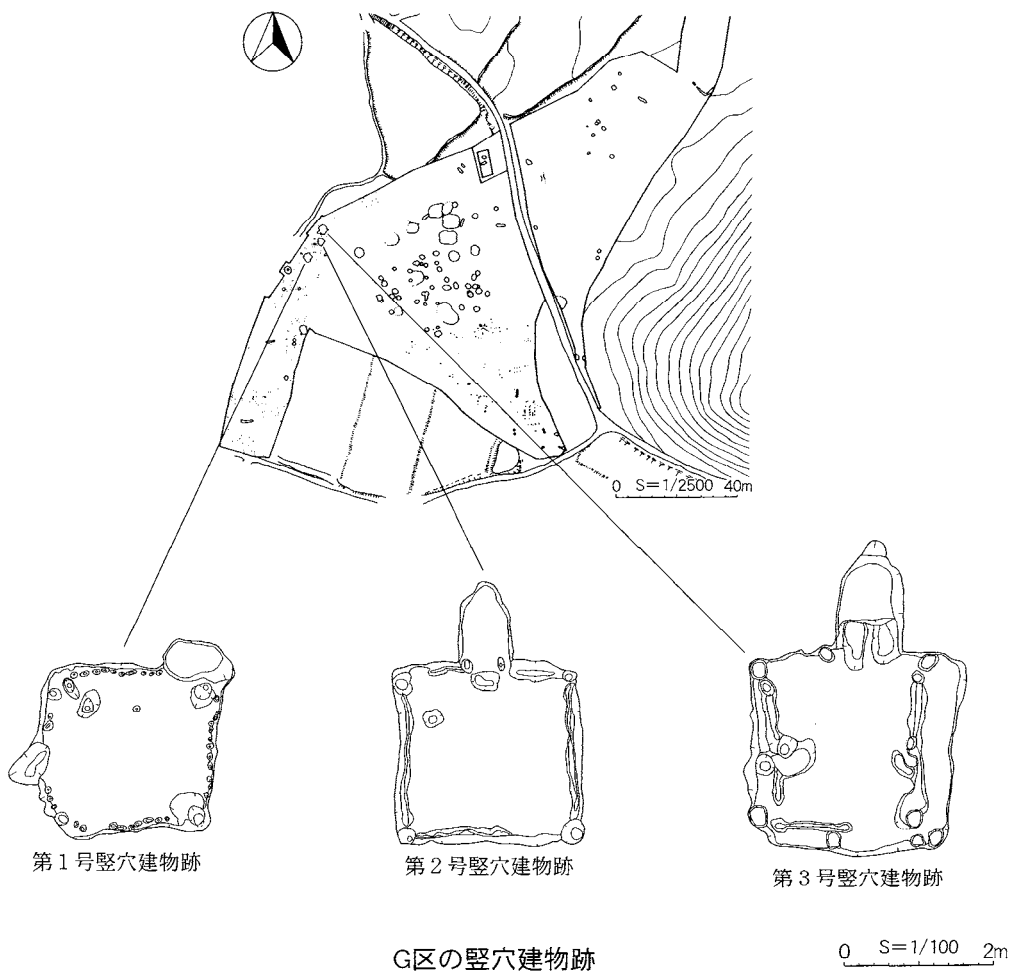
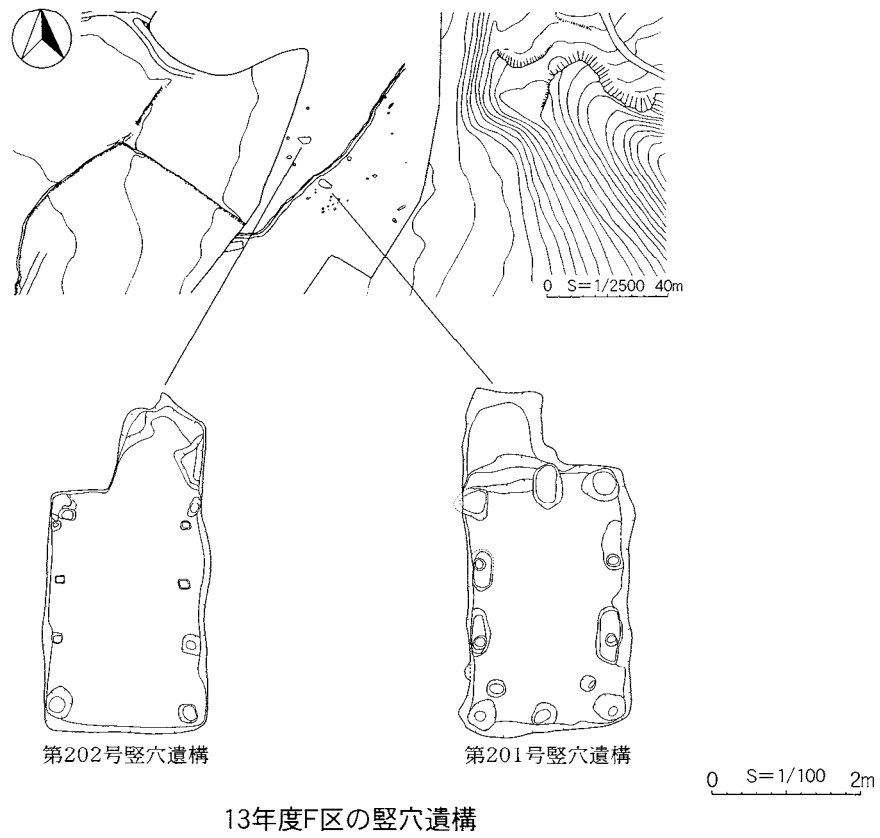


図143 F区・G区で検出した竖穴建物跡

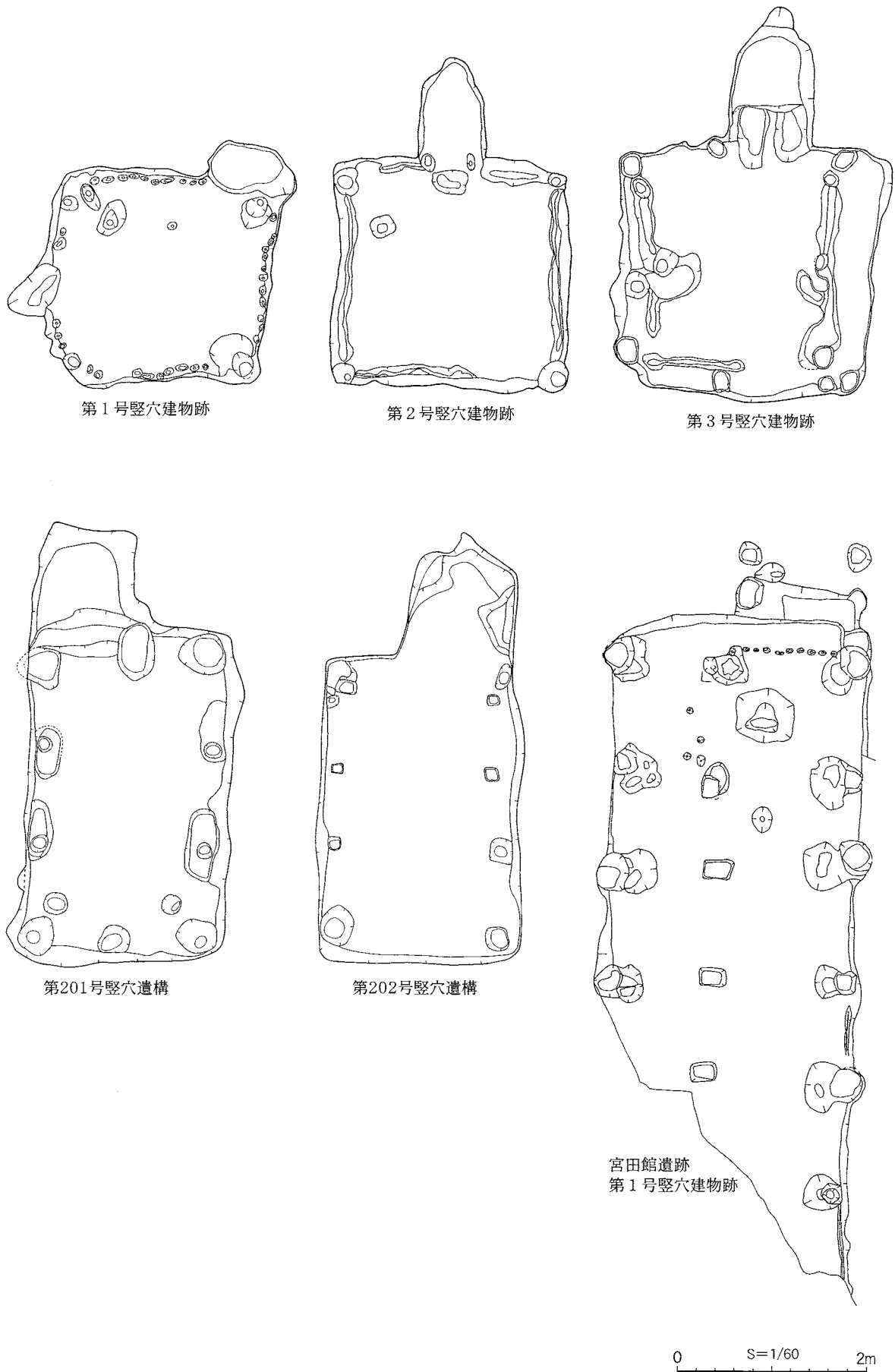


図144 宮田地域の竖穴遺構・竖穴建物跡集成図





片である。G区第759号土坑の堆積土より検出した遺物は珠洲第Ⅱ期（13世紀後半）に比定されるものである。青森市内での珠洲第Ⅱ期の検出例は青森市西部に位置する岡町(2)遺跡（青森県埋蔵文化財調査報告書第232集）がある。近世の陶磁器は肥前陶磁器が出土している。時期は肥前Ⅳ～Ⅴ期に相当するものである。この他産地不明の陶磁器、時期不明のかわらけが出土している。

#### 【鉄鍋】

平成13年度F区の第201号竪穴遺構から鉄鍋が出土している。形状から中世末～近世と思われる。詳細は補足に記載しているのでそちらを参照していただきたい。

#### 【文化遺物】

平成12・13年度調査で女性顔・七福神・鳥を表した人形や像が出土している。

#### 【出土銭貨】

平成13年度調査で寛永通宝が4点出土している。いずれも新寛永である。

### 3. 上野尻遺跡と周辺遺跡からみた宮田地域の中世

上野尻遺跡の4度にわたる調査で検出した古代～近世の遺構・遺物を見てきたが中世においては遺構・遺物が検出されている。中でも青森市内では出土例が少ない珠洲第Ⅱ期（13世紀後半代）の挿鉢が土坑の堆積土中より出土していることから上野尻遺跡は13世紀後半には機能していたと言えないであろうか。中村良之進が昭和4年に記した『陸奥古碑集』には遺跡より1.5km西方にある念心寺に正応4年（1291）と延文2年（1357）銘の2基の板碑があったと記述している（中村 1929）。しかし正応4年の碑は現在行方不明となり延文2年の碑だけが残っている。遺跡より南に約1km離れたところに大銀杏の大木がある（図145）。菅江真澄は寛政8年（1796）4月20日にこの地を訪れて「…前略…吾妻山（東岳）の宮田という村にきた。この塚原のようなところに、ふるい銀杏（乳いちようという）の木が二本たっている。寺のあったあとと思われて、五百年ほどむかしからの石塔婆がたくさんころがっていた。それを橋にして渡したものもあり、あるいはおしたてたり、あるいは埋もれているものもあった。…後略…」とその著書「すみかの山」に500年程昔の石塔婆（板碑・五輪塔類？）が散乱する興味深い景観を書き残している（内田・宮本 1992）。500年前と単純に考えても1296年に当たり、行方不明の板碑に刻まれた年代に近いことが分かる。上野尻遺跡からやや距離があることに難があるにしてもこれらの結果も踏まえると上野尻遺跡は13世紀後半には機能しているも不思議ではないことが理解できるのではないだろうか。

古代～中世にかけて「外ヶ浜」と呼称された陸奥湾沿岸地域の中で、青森市西部から東津軽郡にかけては青森市尻八館跡、内真部(4)遺跡や蓬田村蓬田大館跡等の調査により12～15世紀の遺構や遺物が検出されて中世の様相が明らかになっていたが、青森市東部の中世の様相はほとんど明らかでなかった。しかし、今回の上野尻遺跡の調査によってわずかではあるが明らかになったと言えよう。周辺の山下・米山(2)・宮田館遺跡でも中世の遺構・遺物が検出されている。今後これらの資料を検討することにより宮田地域、さらには青森市東部の中世が少しずつ明らかになる事であろう。

（齋藤 正）

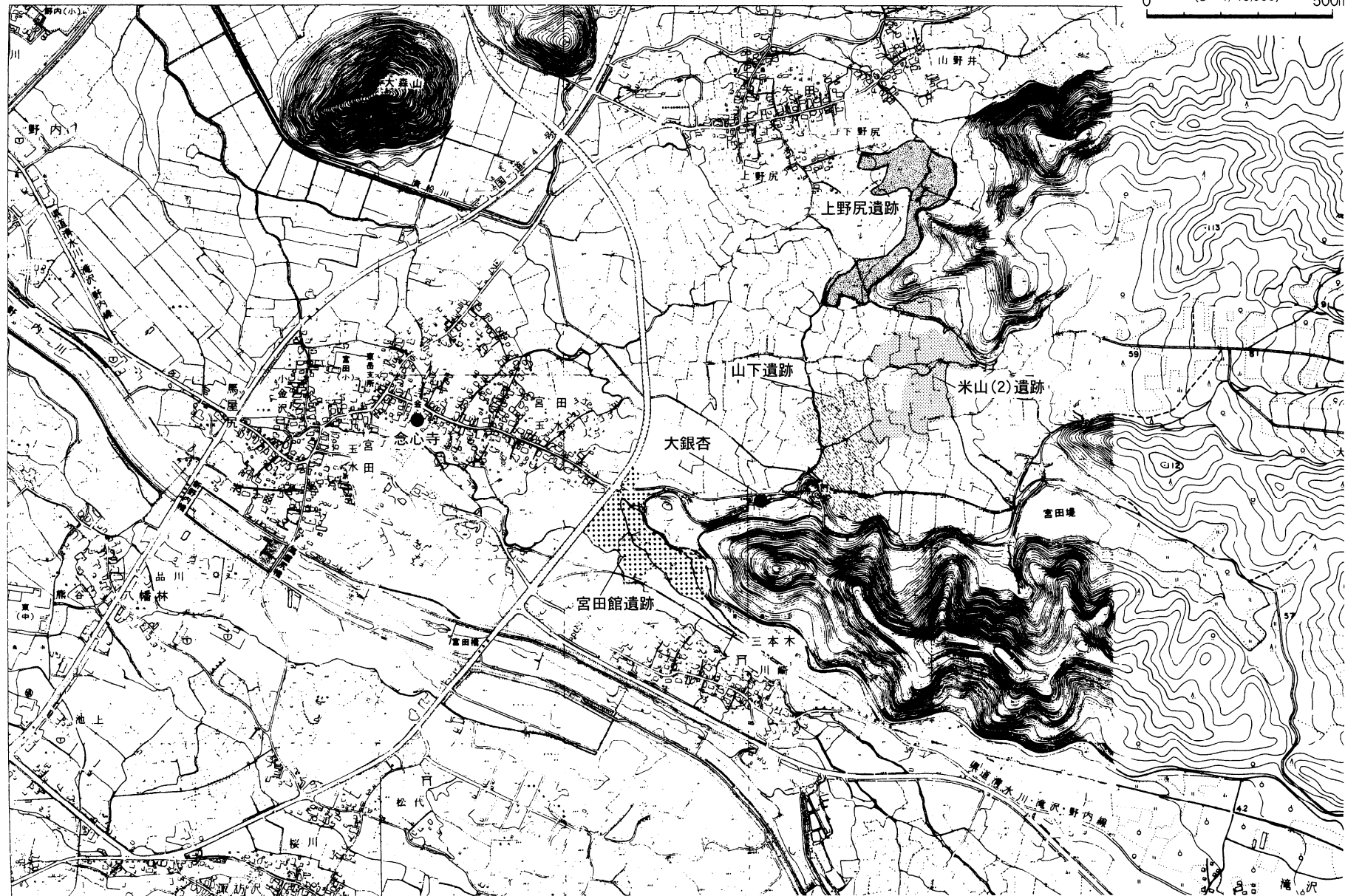


図145 上野尻遺跡と周辺遺跡・念心寺・大銀杏の位置

## 補足 第201号竪穴遺構の記載について

『上野尻遺跡Ⅲ』（青森県埋蔵文化財調査報告書第323集 2002）において報告した第201号竪穴遺構（101ページ）について内容を再検討したところ、訂正箇所があったので、次のように訂正させて頂きたい。したがって、記載内容については本報告書が優先することになる。またこの機会に、出土した鉄鍋についての補足説明もあわせて行わせて頂きたい。

### 第201号竪穴遺構

〔出土遺物〕覆土上位からは肥前磁器（IV期）と思われる小片が出土している。底面付近からは鉄鍋が1点出土している。欠損しているがほぼ完形である。器形は底部から立ち上がり口縁部は外反しない。吊耳は確認できなかったが、鍋本体と比べ盛り上がる部分に鋳型の境目らしき痕跡が見られることから、本来は吊耳が付くものと思われる。底部には一足が欠けて短くなっているが、三足が付いているのが確認できる。底部のほぼ中央には鋳造の際、鉄を流し込んだ直径約3cmの丸型湯口が確認できる。

〔小結〕形状より竪穴建物跡である。出土した鉄鍋から中世～近世にかけて構築されたと思われる。

### 鉄鍋について

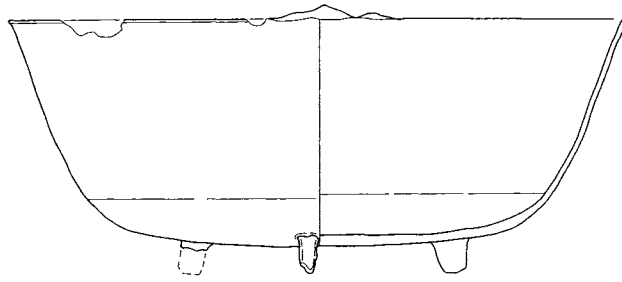
第201号竪穴遺構から検出した鉄鍋には吊耳が付いていたと思われる痕跡が見られ、底部には三足が付き、丸形湯口が確認できる。この鉄鍋について考えてみたい。

鉄鍋については越田賢一郎氏が北海道・東北北部の中世～近世遺跡から出土した鉄鍋について内耳鉄鍋、吊耳鉄鍋、片口鉄鍋の3区分、さらに鋳造の際に鉄を流し込む一文字湯口と丸形湯口の違いや足の有無等で細分を行い時期等の研究を進めた（越田 1984）。五十川伸矢氏は古代・中世の鍋釜について消費遺跡出土遺物、生産遺跡出土鋳型、社寺所蔵伝世品の資料を集成、鍋をA～C、Iの四つに区分、形態変化や発生時期を検討した（五十川 1992）。

そこで越田・五十川両氏の設定している形態や時期と鉄鍋を比較してみることにする。越田氏は吊耳鉄鍋の説明において「口縁部に一對の山形またはそれに類する形の耳が付き、（略）底部には出土例ではすべて足が付いている。また、湯口はすべて丸型である。」としている。五十川氏は対向する位置に吊耳を持つ鍋を鍋Bと分類して「底部にはまずまちがいなく短い三足がつく」としている。

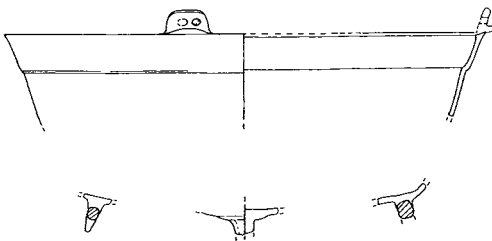
比べて見ると検出した鉄鍋の形態と両氏が唱える吊耳鉄鍋の形態との間には、共通する部分が見出せることから検出した鉄鍋は吊耳鉄鍋の可能性はある。吊耳鉄鍋の時期について越田氏は青森市尻八館跡、浪岡町浪岡城跡、福井市一乗谷朝倉氏遺跡など14～16世紀に機能していた城館跡で吊耳鉄鍋が見られることから、東北北部では16世紀代には確実に出現し、北海道では道南で館が使用される時期に出現し、道央、道東では17世紀中頃から広がったとしている。五十川氏も一乗谷朝倉氏遺跡での出土を取り上げ、14世紀以降の出現で16世紀に盛行していたとして、中世末～近世には関東・東北方面からも出土例が見られることから、この頃に流入したものと推定している。鉄鍋の時期についても中世～近世の年代で収まると言えよう。

（齋藤 正）

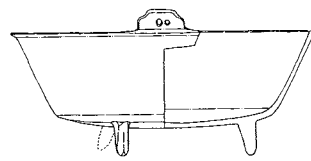


0 S=1/3 10cm

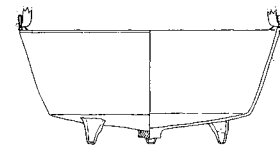
第201号竪穴建物跡出土鉄鍋



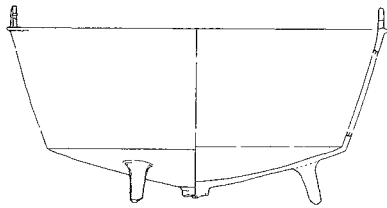
青森県・尻八館跡



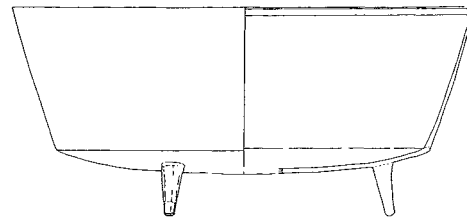
青森県・浪岡城跡



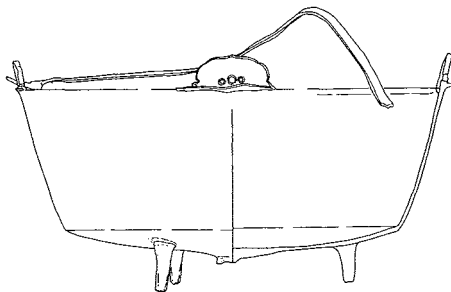
福井県・一乗谷朝倉氏遺跡



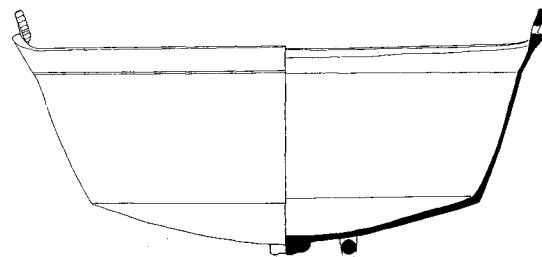
福井県・一乗谷朝倉氏遺跡



福井県・一乗谷朝倉氏遺跡



福井県・一乗谷朝倉氏遺跡



北海道・遠矢第2チャシ

0 S=1/6 10cm

北海道・東北部・北陸出土鉄鍋

図146 上野尻遺跡出土の鉄鍋と北海道・東北部・北陸から出土した鉄鍋

### 観察表凡例

土器の分類については『上野尻遺跡Ⅲ』(2002)に基づいたが、第Ⅰ群土器の細分及び第Ⅴ群として弥生土器を加える等の修正を行い、下記のようにあらためた。また、既報告の『山下遺跡・上野尻遺跡』(1999)、『上野尻遺跡Ⅱ』(2001)、『上野尻遺跡Ⅲ』との対応関係について下記の通り表を掲載した。なお、観察表内では第Ⅱ群Ⅰ類土器を「Ⅱ-1」のように省略して記載した。

第Ⅰ群土器 縄文時代前期の土器

1類土器 中葉の土器

2類土器 後葉～末葉の土器

第Ⅱ群土器 縄文時代中期の土器

1類土器 前葉～後葉の土器

2類土器 末葉の土器

第Ⅲ群土器 縄文時代後期の土器

1類土器 初頭～前葉の土器

2類土器 中葉の土器

3類土器 後葉の土器

4類土器 縄文時代後期と思われるが、詳細な時期比定が困難な土器

第Ⅳ群土器 縄文時代晩期の土器

1類土器 前葉の土器

2類土器 中葉の土器

3類土器 後葉の土器

4類土器 縄文時代晩期と思われるが、詳細な時期比定が困難な土器

第Ⅴ群土器 弥生時代の土器

### 対応表

上野尻Ⅳ(本報告)				上野尻Ⅲ				上野尻Ⅱ				山下・上野尻	
Ⅰ	1	縄文前期	中葉	Ⅰ	縄文前期							縄文前期	
	2		後～末葉										
Ⅱ	1	縄文中期	前～後葉	Ⅱ	縄文中期	前～後葉	Ⅰ	縄文中期	前～後葉	Ⅱ	末葉	縄文中期	
	2		末葉			末葉			末葉				
Ⅲ	1	縄文後期	初頭～前葉	Ⅲ	縄文後期	初頭～前葉	Ⅲ	縄文後期	初頭～前葉	Ⅳ	初頭～前葉	縄文後期	
	2		中葉			中葉			中葉				
	3		後葉			後葉			後葉				
	4		時期不明			時期不明			型式不明		縄文後晩期		
Ⅳ	1	縄文晩期	前葉	Ⅳ	縄文晩期	前葉	Ⅶ	縄文晩期	後葉	Ⅶ	後葉	縄文晩期	
	2		中葉			中葉							
	3		後葉			後葉							
	4		時期不明			時期不明							
Ⅴ		弥生											

保存区遺構内出土土器観察表 1

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
31	掘立1-1	SB-1A	6層	深鉢	口			RL横回	ケズリ、ナデ			106	Ⅲ-3
31	掘立1-2	SB-1A	1層	深鉢	胴			無文	ナデ	P-1		107	Ⅲ-3
31	掘立1-3	SB-1A	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ		掘立1-3,4	109	Ⅲ-3
31	掘立1-4	SB-1A	5層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ		掘立1-3,4	108	Ⅲ-3
31	掘立1-5	SB-1A	5層	深鉢	胴			無文(ミガキ)	摩滅顕著			110	Ⅲ-3
31	掘立1-6	SB-1C	3層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ		掘立1-6,7,14	112	Ⅲ-3
31	掘立1-7	SB-1C	4層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ		掘立1-6,7,14	113	Ⅲ-3
31	掘立1-8	SB-1C	4層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ		掘立1-8,9,10,11	119	Ⅲ-3
31	掘立1-9	SB-1C	4層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ		掘立1-8,9,10,11	116	Ⅲ-3
31	掘立1-10	SB-1C	4層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ		掘立1-8,9,10,11	117	Ⅲ-3
31	掘立1-11	SB-1C	4層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ		掘立1-8,9,10,11	118	Ⅲ-3
31	掘立1-12	SB-1C	4層	深鉢	胴			無文	ナデ			115	Ⅲ-3
31	掘立1-13	SB-1C	3層	深鉢	胴			無文	ナデ			114	Ⅲ-3
31	掘立1-14	SB-1C	3層	深鉢	底				ナデ		掘立1-6,7,14	111	Ⅲ-3
31	掘立1-15	SB-1D	4層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			99	Ⅲ-3
31	掘立1-16	SB-1D	2層	深鉢	口~胴			異原羽状横回	ナデ			100	Ⅲ-3
31	掘立1-17	SB-1D	2層	深鉢	胴			0多LR横回	ナデ			104	Ⅲ-3
31	掘立1-18	SB-1D	2層	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ			102	Ⅲ-3
31	掘立1-19	SB-1D	1層	壺?	胴			無文	ナデ			103	Ⅲ-3
31	掘立1-20	SB-1D	2層	深鉢	胴	沈線文		無文	ナデ			105	Ⅲ-3
31	掘立1-21	SB-1D	1層	壺?	胴			無文	ナデ			101	Ⅲ-3
31	掘立2-1	SB-2A	3層	深鉢	口			RL横回	ミガキ	P-2	掘立2-1,3	122	Ⅲ-3
31	掘立2-2	SB-2A	3層	壺?	胴	沈線文 貼瘤剥離		無文	ナデ	P-1		123	Ⅲ-3
31	掘立2-3	SB-2A	3層	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ		掘立2-1,3	121	Ⅲ-3
31	掘立2-4	SB-2B	1層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			125	Ⅲ-3
31	掘立2-5	SB-2B	1層	深鉢	胴			無文	ナデ			126	Ⅲ-3
31	掘立2-6	SB-2B	11層	単孔土器	頸~胴		横位突帯貼付	無文	ナデ	P-4 SB-2Aと接合		124	Ⅲ-3
31	掘立2-7	SB-2C	3層	台付鉢	台部			無文	ナデ			127	Ⅲ-3
31	掘立2-8	SB-2C	3層	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ			129	Ⅲ-3
31	掘立2-9	SB-2C	3層	深鉢	胴			無文	ミガキ			130	Ⅲ-3
31	掘立2-10	SB-2C	3層	台付鉢	台部			無文	ナデ			128	Ⅲ-3
31	掘立2-11	SB-2D	覆土	深鉢	口	沈線文		LR	ナデ			131	Ⅲ-3
31	掘立3-1	SB-3A	覆土	深鉢	口			無文	ミガキ			97	Ⅲ-3
31	掘立3-2	SB-3A	6層	深鉢?	胴	平行沈線3条		摩滅顕著	摩滅顕著			95	Ⅲ-3
31	掘立3-3	SB-3A	1層	深鉢	底			上げ底	摩滅顕著	P-1		94	Ⅲ-3
31	掘立3-4	SB-3A	覆土	深鉢	胴			無文	摩滅顕著	P-2		96	Ⅲ-3
31	掘立3-5	SB-3B	覆土	深鉢	胴?			無文	摩滅顕著			98	Ⅲ-3
31	掘立3-6	SB-3D	1層	深鉢	胴			LR横回	ナデ			93	Ⅲ-3
31	掘立3-7	SB-3D	覆土	深鉢	胴			無文	ミガキ			91	Ⅲ-3
31	掘立3-8	SB-3D	3層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			92	Ⅲ-3
32	掘立4-1	SB-4A	確認面	深鉢	口			無文	ナデ			82	Ⅲ-3
32	掘立4-2	SB-4A	覆土	深鉢	胴			摩滅顕著	ナデ	P-1		83	Ⅲ-3
32	掘立4-3	SB-4B	覆土	深鉢	胴			無文	ナデ			87	Ⅲ-3
32	掘立4-4	SB-4B	覆土	壺	頸 貼瘤			LR	ナデ		掘立4-4,5	84	Ⅲ-3
32	掘立4-5	SB-4B	覆土	壺	頸			LR	ナデ	P-2	掘立4-4,5	85	Ⅲ-3
32	掘立4-6	SB-4B	6層	深鉢	胴			RL横回	ナデ	P-4		86	Ⅲ-3
32	掘立4-7	SB-4D	覆土	深鉢	口			異原羽状横回	ケズリ、ナデ	P-4		81	Ⅲ-3
32	掘立4-8	SB-4D	覆土	深鉢	胴			無文	ナデ	P-2		80	Ⅲ-3
32	掘立7-1	SB-7A	11層	注口土器	注口部		下端貼瘤	無文				38	Ⅲ-3

保存区遺構内出土土器観察表 2

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類	
32	掘立7-2	SB-7B	11層	深鉢	口			異原羽状横回	ケズリ、ナデ			39	Ⅲ-3	
32	掘立7-3	SB-7C	覆土	壺	口～頸			無文	ナデ	P-1		43	Ⅲ-3	
32	掘立7-4	SB-7C	2層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			40	Ⅲ-3	
32	掘立7-5	SB-7C	2層	深鉢	頸	L+R側圧 頸部竹管状刺突		単一縦回	ミガキ			42	I-2	
32	掘立7-6	SB-7C	2層	深鉢	胴			無文	ナデ			41	Ⅲ-3	
32	掘立7-7	SB-7D	覆土	深鉢	胴			LR	ナデ			44	Ⅲ-3	
32	掘立7-8	SB-7D	確認面	鉢	胴			無文	摩滅顕著			45	Ⅲ-3	
32	掘立8-1	SB-8A	確認面	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-2		掘立8-1,2,3	48	Ⅲ-3
32	掘立8-2	SB-8A	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-3		掘立8-1,2,3	46	Ⅲ-3
32	掘立8-3	SB-8A	確認面	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-1		掘立8-1,2,3	47	Ⅲ-3
32	掘立8-4	SB-8B	覆土	壺	胴		貼瘤	無文	ナデ			50	Ⅲ-3	
32	掘立8-5	SB-8C	覆土	深鉢	胴			無文	ナデ	P-1		51	Ⅲ-3	
32	掘立9-1	SB-9B	覆土	鉢	口	沈線文		無文	ミガキ			掘立9-1,2	53	Ⅲ-1
32	掘立9-2	SB-9B	覆土	鉢	胴		沈線文	無文	ミガキ			掘立9-1,2	52	Ⅲ-1
32	掘立9-3	SB-9D	覆土	深鉢	胴			無文	ナデ			54	Ⅲ-3	
32	掘立9-4	SB-9C	7層	深鉢	口			異原羽状横回	摩滅顕著	P-1		248	Ⅲ-3	
32	掘立9-5	SB-9C	9層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-2		249	Ⅲ-3	
32	掘立10-1	SB-10B	覆土	深鉢?	底				ナデ	P-1		88	Ⅲ-4	
32	掘立11-1	SB-11D	1層	深鉢	胴			摩滅顕著	摩滅顕著	P-2		71	Ⅲ-4	
32	掘立12-1	SB-12C	10層	深鉢?	底				ナデ	P-1		89	Ⅲ-3	
32	掘立12-2	SB-12D	6層	深鉢	胴			無文	ナデ			90	Ⅲ-3	
32	掘立13-1	SB-13A	11層	深鉢	口			無文	ケズリ、ナデ	P-1		36	Ⅲ-3	
32	掘立13-2	SB-13C	11層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-1,2		37	Ⅲ-3	
32	掘立14-1	SB-14B	覆土	深鉢	口			RI横回	ナデ			75	Ⅲ-3	
32	掘立14-2	SB-14B	覆土	深鉢	胴			無文	ナデ	P-3		76	Ⅲ-3	
32	掘立14-3	SB-14B	3層	深鉢	胴			無文	ナデ	P-9		74	Ⅲ-3	
32	掘立14-4	SB-14B	2層	深鉢	胴			摩滅顕著	ミガキ	P-7		72	Ⅲ-3	
32	掘立14-5	SB-14B	5層	壺	頸			無文	ナデ	P-10		73	Ⅲ-3	
33	掘立14-6	SB-14C	1層	深鉢	胴			摩滅顕著	摩滅顕著	P-5		77	Ⅲ-4	
33	掘立14-7	SB-14C	2層	深鉢	口			摩滅顕著	摩滅顕著	P-6		79	Ⅲ-4	
33	掘立14-8	SB-14C	8層	深鉢	胴			摩滅顕著	摩滅顕著	P-7		78	Ⅲ-4	
33	掘立15-1	SB-15A	11層	深鉢	口～胴			無文	ケズリ、ナデ	P-18,32		9	Ⅲ-3	
33	掘立15-2	SB-15A	11層	壺	口～頸			無文	ミガキ	P-41,58		掘立15-2,6,7	7	Ⅲ-3
33	掘立15-3	SB-15A	11層	深鉢	口			無文	ケズリ、ナデ	P-13		17	Ⅲ-3	
33	掘立15-4	SB-15A	11層	深鉢	口			無文	ケズリ、ナデ	P-19		14	Ⅲ-3	
33	掘立15-5	SB-15A	11層	深鉢	胴			異原羽状横回	摩滅顕著	P-7		16	Ⅲ-3	
33	掘立15-6	SB-15A	7層	壺	頸			無文	ナデ	P-66		掘立15-2,6,7	13	Ⅲ-3
33	掘立15-7	SB-15A	8層	壺	胴		貼瘤	無文	ナデ			掘立15-2,6,7	12	Ⅲ-3
33	掘立15-8	SB-15A	11層	深鉢	胴			無文	ナデ	P-46		15	Ⅲ-3	
33	掘立15-9	SB-15A	11層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-61		11	Ⅲ-3	
33	掘立15-10	SB-15A	11層	深鉢	胴			無文	ナデ	P-4		18	Ⅲ-3	
33	掘立15-11	SB-15A	11層	壺?	胴			無文	ナデ	P-39		10	Ⅲ-3	
33	掘立15-12	SB-15A	11層	深鉢	胴～底			無文	ナデ	P-45,48,49		8	Ⅲ-3	
33	掘立15-13	SB-15B	11層	壺	口			無文	ミガキ			1	Ⅲ-3	
33	掘立15-14	SB-15B	11層	深鉢	胴			無文	ナデ			3	Ⅲ-3	
33	掘立15-15	SB-15B	6層	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ			2	Ⅲ-3	
33	掘立15-16	SB-15C	11層	深鉢	胴			無文	ナデ	P-3		5	Ⅲ-3	
33	掘立15-17	SB-15C	11層	深鉢	胴			RL横回	ナデ	P-5,10		4	Ⅲ-3	
33	掘立15-18	SB-15D	3層	深鉢	口			無文	ケズリ、ナデ	P-1		6	Ⅲ-3	
33	掘立16-1	SB-16A	9層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-6		掘立16-1,2	69	Ⅲ-3



保存区遺構内出土土器観察表 3

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
33	掘立16-2	SB-16A	5層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-4	掘立16-1,2	70	Ⅲ-3
33	掘立16-3	SB-16B	覆土	深鉢	口			異原羽状横回	ミガキ		掘立16-3,7~15	56	Ⅲ-3
33	掘立16-4	SB-16B	16層	壺?	胴			LR横回	ナデ	P-1	掘立16-4,5,6	66	Ⅲ-3
33	掘立16-5	SB-16B	16層	壺?	胴			LR横回	ナデ	P-5	掘立16-4,5,6	65	Ⅲ-3
33	掘立16-6	SB-16B	16層	壺?	胴			LR横回	ナデ	P-4	掘立16-4,5,6	67	Ⅲ-3
33	掘立16-7	SB-16B	2層	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ	P-46	掘立16-3,7~15	60	Ⅲ-3
33	掘立16-8	SB-16B	2層	深鉢	底			摩滅顕著	摩滅顕著	P-20	掘立16-3,7~15	55	Ⅲ-3
34	掘立16-9	SB-16B	2層	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ	P-21	掘立16-3,7~15	62	Ⅲ-3
34	掘立16-10	SB-16B	13層	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ		掘立16-3,7~15	63	Ⅲ-3
34	掘立16-11	SB-16B	9層	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ		掘立16-3,7~15	61	Ⅲ-3
34	掘立16-12	SB-16B	2層	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ	P-21	掘立16-3,7~15	58	Ⅲ-3
34	掘立16-13	SB-16B	4層	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ	P-37	掘立16-3,7~15	59	Ⅲ-3
34	掘立16-14	SB-16B	2層	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ	P-43	掘立16-3,7~15	64	Ⅲ-3
34	掘立16-15	SB-16B	10層	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ		掘立16-3,7~15	57	Ⅲ-3
34	掘立16-16	SB-16D	4層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-1		68	Ⅲ-3
34	掘立17-1	SB-17B	5層	深鉢	胴			摩滅顕著	ナデ	P-13		24	Ⅲ-3
34	掘立17-2	SB-17B	2層	深鉢	胴			摩滅顕著	摩滅顕著	P-9		23	Ⅲ-3
34	掘立17-3	SB-17B	11層	壺	胴			摩滅顕著	摩滅顕著			25	Ⅲ-3
34	掘立17-4	SB-17B	1層	台付鉢	台部			無文	摩滅顕著	P-3,P-7		20	Ⅲ-3
34	掘立17-5	SB-17B	3層	深鉢	口	口縁突起(内面刻目) 貼瘤		摩滅顕著	摩滅顕著	P-12		22	Ⅲ-3
34	掘立17-6	SB-17B	覆土	壺	胴~底			無文	摩滅顕著	P-1,5,6,9		19	Ⅲ-3
34	掘立17-7	SB-17C	3層	壺	胴下部			無文	ナデ	P-22	掘立17-7~14,16	31	Ⅲ-3
34	掘立17-8	SB-17C	2層	壺	底			無文	ナデ	P-15	掘立17-7~14,16	35	Ⅲ-3
34	掘立17-9	SB-17C	3層	壺	胴上部			無文	ナデ	P-19	掘立17-7~14,16	34	Ⅲ-3
34	掘立17-10	SB-17C	2層	壺	胴上部			無文	ナデ	P-9	掘立17-7~14,16	29	Ⅲ-3
34	掘立17-11	SB-17C	2層	壺	胴上部			無文	ナデ	P-9	掘立17-7~14,16	30	Ⅲ-3
34	掘立17-12	SB-17C	3層	壺	胴下部			無文	ナデ	P-24	掘立17-7~14,16	26	Ⅲ-3
34	掘立17-13	SB-17C	3層	壺	底			無文	ナデ	P-23	掘立17-7~14,16	32	Ⅲ-3
34	掘立17-14	SB-17C	2層	壺	胴上部			無文	ナデ	P-13	掘立17-7~14,16	28	Ⅲ-3
34	掘立17-15	SB-17C	2層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-10		27	Ⅲ-3
34	掘立17-16	SB-17C	2層	壺	胴上部			無文	ナデ	P-14	掘立17-7~14,16	33	Ⅲ-3
34	掘立28-1	SB-28C	覆土	壺?注口?	口	带状文		摩滅顕著	摩滅顕著			2410	Ⅲ-3
34	掘立28-2	SB-28C	覆土	壺?注口?	口	口縁突起 口縁下貼瘤		無文	ミガキ			2408	Ⅲ-3
34	掘立28-3	SB-28C	覆土	壺?注口?	胴		貼瘤	無文	ナデ			2409	Ⅲ-3
34	掘立28-4	SB-28A	覆土	深鉢	胴			LR縦回	摩滅顕著			2411	Ⅱ-2
34	掘立29-1	SB-29D	覆土	壺?	胴			無文	摩滅顕著			2405	Ⅲ-3
34	掘立29-2	SB-29D	覆土	深鉢?	胴			無文	ナデ			2406	Ⅲ-3
34	掘立29-3	SB-29D	覆土	壺?注口?	口	带状文		LR横回	ミガキ			2407	Ⅲ-3
34	掘立32-1	SB-32C	覆土	注口土器	頸~底	粘土紐貼付		無文	ナデ			466	Ⅲ-3
34	掘立34-1	SB-34D	覆土	深鉢	胴			網目状沈線文?	ナデ			2402	Ⅲ-1
34	掘立34-2	SB-34D	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			2401	Ⅲ-3
34	掘立34-3	SB-34A	覆土	深鉢	胴			LR横回	ナデ			2403	Ⅲ-4

保存区遺構内出土土器観察表 4

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
34	掘立34-4	SB-34B	覆土	深鉢	口			条痕?	摩滅顕著			2404	Ⅲ-4
49	201土-1	SK-201	8層	鉢	胴		楕円沈線文		ミガキ	P-20		141	Ⅲ-1
49	201土-2	SK-201	覆土	鉢	口	平行沈線文	楕円沈線文		ミガキ			142	Ⅲ-1
49	201土-3	SK-201	覆土	深鉢	胴	平行沈線文		LR横回	ナデ	P-7		146	Ⅲ-3
49	201土-4	SK-201	覆土	深鉢	胴			無文	ナデ	P-26		140	Ⅲ-3
49	201土-5	SK-201	8層	深鉢	胴			単五縦回	ミガキ	P-21		143	Ⅲ-1
49	201土-6	SK-201	8層	壺?	胴			無文	ミガキ	P-23		139	Ⅲ-3
49	201土-7	SK-201	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-27	201土-7& 10,11,12,15	136	Ⅲ-3
49	201土-8	SK-201	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-27	201土-7& 10,11,12,15	132	Ⅲ-3
49	201土-9	SK-201	8層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-22		138	Ⅲ-3
49	201土-10	SK-201	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-27	201土-7& 10,11,12,15	133	Ⅲ-3
49	201土-11	SK-201	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-27	201土-7& 10,11,12,15	134	Ⅲ-3
49	201土-12	SK-201	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-27	201土-7& 10,11,12,15	135	Ⅲ-3
49	201土-13	SK-201	2層	深鉢	胴			単五縦回	ミガキ			144	Ⅲ-1
49	201土-14	SK-201	4層	深鉢	底			無文	ナデ	P-29		145	Ⅲ-3
49	201土-15	SK-201	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-27	201土-7& 10,11,12,15	137	Ⅲ-3
49	205土-1	SK-205	覆土	深鉢	底			無文	ナデ	P-27 上げ底		159	Ⅲ-3
49	205土-2	SK-205	覆土	深鉢	胴			RL横回	ナデ	P-33		153	Ⅲ-3
49	205土-3	SK-205	覆土	深鉢	胴			RL横回	ナデ	P-22	205土-3,4,6	157	Ⅲ-3
49	205土-4	SK-205	覆土	深鉢	胴			RL横回	ナデ	P-23	205土-3,4,6	156	Ⅲ-3
49	205土-5	SK-205	覆土	深鉢	胴			摩滅顕著	ナデ	P-16		151	Ⅲ-3
49	205土-6	SK-205	覆土	深鉢	胴			RL横回	ナデ	P-7	205土-3,4,6	155	Ⅲ-3
49	205土-7	SK-205	覆土	深鉢	底			異原羽状横回	ナデ	P-19 上げ底		158	Ⅲ-3
49	205土-8	SK-205	覆土	深鉢	胴			摩滅顕著	ナデ	P-39		152	Ⅲ-3
49	205土-9	SK-205	覆土	深鉢	口	口縁突帯 突帯上刻目帯 無文帯			ナデ	P-38		154	Ⅲ-2
50	206土-1	SK-206	覆土	深鉢	口	口縁内傾		LR横回	ケズリ、 ナデ	P-23	206土-1,9	162	Ⅲ-2,3
50	206土-2	SK-206	覆土	深鉢	口			無文	ケズリ、 ナデ	P-8		166	Ⅲ-3
50	206土-3	SK-206	覆土	壺	頸			無文	ナデ	P-32		168	Ⅲ-3
50	206土-4	SK-206	覆土	壺	口	貼瘤 口唇突起 突起内面 刻み		異原羽状横回	ケズリ、 ナデ	P-45		161	Ⅲ-3
50	206土-5	SK-206	覆土	壺	頸	横位沈線 縄文帯		LR横回	ナデ	P-36		163	Ⅲ-3
50	206土-6	SK-206	覆土	台付鉢	台部			無文	ナデ			170	Ⅲ-3
50	206土-7	SK-206	覆土	壺	胴		貼瘤 瘤上面刻み	無文	摩滅顕著	P-16		169	Ⅲ-3
50	206土-8	SK-206	覆土	深鉢	口			無文	摩滅顕著			167	Ⅲ-3
50	206土-9	SK-206	覆土	深鉢	胴			LR	ナデ	P-17	206土-1,9	165	Ⅲ-2,3
50	206土-10	SK-206	覆土	壺	口	貼瘤 縄文帯 無文帯		異原羽状横回	ケズリ、 ナデ	P-3,15,24,43		160	Ⅲ-3
50	206土-11	SK-206	覆土	深鉢	胴			LR横回	ナデ	P-35		164	Ⅲ-2,3
51	207土-1	SK-207	1層	深鉢	口			無文	ケズリ、 ナデ	P-9		172	Ⅲ-3
51	207土-2	SK-207	1層	深鉢	胴			RL横回	ナデ	P-5		171	Ⅲ-3
51	222土-1	SK-222	覆土	深鉢?	口?	粘土紐貼付		無文	ナデ			183	Ⅲ-3
51	222土-2	SK-222	覆土	深鉢	口			無文	ナデ	P-10	222土-2,9	178	Ⅲ-3
51	222土-3	SK-222	覆土	深鉢	口			異原羽状横回	ミガキ、 ナデ	P-18		173	Ⅲ-3
51	222土-4	SK-222	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-12		181	Ⅲ-3
51	222土-5	SK-222	覆土	壺	胴		貼瘤 瘤上面刻み 木葉 状文	LR,RL	ナデ			176	Ⅲ-3
51	222土-6	SK-222	覆土	深鉢	胴		弧状文	LR異方向羽状施 文	ナデ	P-28	222土-6, 223土-23	184	Ⅲ-2
51	222土-7	SK-222	覆土	深鉢	口			RL横回	ミガキ	P-31		174	Ⅲ-3
51	222土-8	SK-222	覆土	深鉢	胴			RL斜回	ナデ	P-13		180	Ⅲ-3

保存区遺構内出土土器観察表 5

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
51	222土-9	SK-222	覆土	深鉢	口			無文	ナデ	P-26	222土-2,9	179	Ⅲ-3
51	222土-10	SK-222	覆土	深鉢	胴			RL横回 RL斜回	ナデ	P-30		182	Ⅲ-4
51	222土-11	SK-222	覆土	壺	胴		貼瘤 瘤上面刻み	無文	ナデ	P-20		175	Ⅲ-3
51	222土-12	SK-222	覆土	深鉢	口			無文	ナデ	P-23		177	Ⅲ-3
52	223土-1	SK-223	3層	深鉢	口	口縁突起 突起内面刻み		摩滅顕著	ミガキ	P-127		202	Ⅲ-3
52	223土-2	SK-223	7層	深鉢	胴部		楕円状沈線文		ナデ	P-186		214	Ⅲ-1
52	223土-3	SK-223	7層	深鉢	口			異原羽状横回	ミガキ	P-196		195	Ⅲ-3
52	223土-4	SK-223	3層	注口土器?	胴部		帯状文	RL,LR	ナデ	P-170	223土-4,30,36,38	205	Ⅲ-3
52	223土-5	SK-223	覆土	深鉢	胴部		楕円状沈線文 方形状沈線文		ナデ			215	Ⅲ-1
52	223土-6	SK-223	覆土	深鉢	口		平行沈線文 帯状文	LR横回	ミガキ			203	Ⅲ-3
52	223土-7	SK-223	3層	深鉢	口			異原羽状横回	ミガキ			194	Ⅲ-3
52	223土-8	SK-223	覆土	台付鉢	底			無文	ナデ	P-35		225	Ⅲ-3
52	223土-9	SK-223	覆土	深鉢	底			LR横回	ナデ	P-108		223	Ⅲ-3
52	223土-10	SK-223	13層	深鉢	底			LR横回	ナデ	P-220		224	Ⅲ-3
52	223土-11	SK-223	9層	台付鉢	台部			無文	ナデ	P-152		226	Ⅲ-3
52	223土-12	SK-223	7層	深鉢	口	口縁刻目帯		RL横回	ナデ	P-195		200	Ⅲ-2
52	223土-13	SK-223	10層	深鉢	胴部		楕円状沈線文	RL	ミガキ	P-210		217	Ⅲ-2
52	223土-14	SK-223	3層	壺	胴部		貼瘤 瘤上面刻み	無文	ナデ	P-165		206	Ⅲ-3
52	223土-15	SK-223	覆土	深鉢	口			異原羽状横回	ミガキ	P-47	223土-15,19	192	Ⅲ-3
52	223土-16	SK-223	覆土	深鉢	胴			LR横回	ナデ	P-35		221	Ⅲ-3
52	223土-17	SK-223	覆土	深鉢	口			摩滅顕著	摩滅顕著			196	Ⅲ-3
52	223土-18	SK-223	覆土	深鉢	口			無文	ナデ			197	Ⅲ-3
52	223土-19	SK-223	覆土	深鉢	口			異原羽状横回	ミガキ		223土-15,19	191	Ⅲ-3
52	223土-20	SK-223	覆土	深鉢	口			異原羽状横回	ミガキ		223土-20,21	193	Ⅲ-3
52	223土-21	SK-223	覆土	深鉢	口			異原羽状横回	ミガキ	P-17	223土-20,21	190	Ⅲ-3
52	223土-22	SK-223	8層	深鉢	口	口縁突帯 突帯上刻目帯 無文帯			ミガキ	P-203		201	Ⅲ-2
52	223土-23	SK-223	覆土	深鉢	胴		弧状文	LR異方向羽状施文	ナデ	P-4	222土6,223土23	199	Ⅲ-2
52	223土-24	SK-223	6層	深鉢	口			無文	ナデ	P-172		198	Ⅲ-3
52	223土-25	SK-223	覆土	深鉢	胴部		網目状沈線文		ナデ	P-99		216	Ⅲ-1
52	223土-26	SK-223	覆土	深鉢	胴			LR横回	ナデ	P-110		222	Ⅲ-3
52	223土-27	SK-223	3層	壺?	胴部			無文	ナデ	P-125	223土-27,28	209	Ⅲ-3
52	223土-28	SK-223	3層	壺?	胴部			無文	ナデ	P-166	223土-27,28	210	Ⅲ-3
52	223土-29	SK-223	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-109		220	Ⅲ-3
52	223土-30	SK-223	3層	注口土器?	胴部		貼瘤 瓣状木葉文	RL	ナデ	P-171	223土-4,30,36,38	208	Ⅲ-3
52	223土-31	SK-223	覆土	深鉢	胴部			異原羽状横回	ミガキ	P-68	223土-31,33,34	211	Ⅲ-3
52	223土-32	SK-223	2層	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ	P-111		219	Ⅲ-3
52	223土-33	SK-223	覆土	深鉢	胴部			異原羽状横回	ミガキ	P-25,29,31	223土-31,33,34	212	Ⅲ-3
52	223土-34	SK-223	覆土	深鉢	胴部			異原羽状横回	ミガキ	P-13,27,40	223土-31,33,34	213	Ⅲ-3
52	223土-35	SK-223	覆土	深鉢	胴			無文	ミガキ	P-55,102,SK-222P-15		218	Ⅲ-3
53	223土-36	SK-223	覆土	注口土器?	胴部		貼瘤 瘤上面刻み		ナデ	P-41	223土-4,30,36,38	207	Ⅲ-3
53	223土-37	SK-223	10層	台付鉢	台部			無文	摩滅顕著	P-186		187	Ⅲ-3
53	223土-38	SK-223	7層	注口土器	注口部		貼瘤	RL			223土-4,30,36,38	204	Ⅲ-3
53	223土-39	SK-223	底面	注口土器	胴~底		貼瘤 瘤上面刻み	無文	ミガキ	小型注口		189	Ⅲ-3
53	223土-40	SK-223	覆土	深鉢	口~胴			異原羽状横回	ナデ			186	Ⅲ-3
53	223土-41	SK-223	10層	深鉢	胴~底			異原羽状横回	ナデ			185	Ⅲ-3
54	224P-1	ピット-224	覆土	深鉢	胴			摩滅顕著	摩滅顕著			227	Ⅲ-3

保存区遺構内出土土器観察表 6

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一 個体	整理 No.	分類
54	225P-1	ビット-225	覆土	深鉢	胴			摩滅顕著	摩滅顕著	P-1		228	Ⅲ-3
54	226土-1	SK-226	1層	深鉢	胴			摩滅顕著	ナデ	P-2		229	Ⅲ-3
54	227土-1	SK-227	1層	深鉢?	底			無文	ナデ	P-1		230	Ⅲ-3
54	228P-1	ビット-228	覆土	深鉢	口			異原羽状横回	ミガキ		228 P-1.2	232	Ⅲ-3
54	228P-2	ビット-228	覆土	深鉢	口			異原羽状横回	ミガキ	P-2	228 P-1.2	231	Ⅲ-3
54	244土-1	SK-244	6層	深鉢	口			無文	ケズリ、 ナデ	P-25		246	Ⅲ-3
54	244土-2	SK-244	1層	壺	口			無文	ナデ	P-19		236	Ⅲ-3
54	244土-3	SK-244	1層	深鉢	口			異原羽状横回	ナデ	P-18	244土 -3,4,6	239	Ⅲ-3
54	244土-4	SK-244	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-15	244土 -3,4,6	237	Ⅲ-3
54	244土-5	SK-244	覆土	鉢	口	口縁内傾 平行沈線文	楕円状沈線文 弧状沈線文		ミガキ	P-1		243	Ⅲ-1
54	244土-6	SK-244	1層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ	P-6	244土 -3,4,6	238	Ⅲ-3
54	244土-7	SK-244	6層	深鉢	口			無文	ケズリ、 ナデ	P-21		244	Ⅲ-3
54	244土-8	SK-244	1層	深鉢	胴			無文	ナデ	P-11		233	Ⅲ-3
54	244土-9	SK-244	6層	深鉢	口			無文	ケズリ、 ナデ	P-22		245	Ⅲ-3
54	244土-10	SK-244	6層	深鉢	胴			無文	ナデ	P-12,13,26,27		235	Ⅲ-3
54	244土-11	SK-244	6層	深鉢	胴			無文	ナデ	P-4,20		234	Ⅲ-3
54	244土-12	SK-244	1層	深鉢	底			異原羽状横回	ナデ	P-16		242	Ⅲ-3
54	244土-13	SK-244	6層	深鉢	底			RL横回	ナデ	P-28		241	Ⅲ-3
54	244土-14	SK-244	1層	深鉢	底			無文	ナデ	P-12		240	Ⅲ-3
55	244土-15	SK-244	1層	深鉢	胴		刻目帯	RL	ミガキ	P-3,5,7,25		247	Ⅲ-2
55	257P-1	ビット-257	覆土	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	P-1	257P-1, 345P-1,2	268	Ⅲ-1
55	259土-1	SK-259	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	摩滅顕著			286	Ⅲ-3
55	259土-2	SK-259	覆土	深鉢	胴			無文	ナデ	P-1		287	Ⅲ-3
55	259土-3	SK-259	覆土	深鉢	胴			無文	ナデ	P-8		284	Ⅲ-3
55	259土-4	SK-259	覆土	深鉢	口	口縁刻目帯		摩滅顕著	摩滅顕著			283	Ⅲ-3
55	259土-5	SK-259	覆土	深鉢	胴		楕円沈線文	無文	摩滅顕著	P-3		285	Ⅲ-1
55	259土-6	SK-259	覆土	深鉢	口	口縁刻目帯 無文帯		異原羽状横回	ミガキ	P-5,P-6		282	Ⅲ-3
55	297P-1	ビット-297	覆土	壺?	胴			無文	ナデ	P-1		312	Ⅲ-3
55	312P-1	ビット-312	覆土	深鉢	胴		突帯	沈線文	ナデ	P-1		346	Ⅲ-1
55	345P-1	ビット-345	8層	深鉢	口			単一縦回	ミガキ	P-1	257P-1, 345P-1,2	357	Ⅲ-1
55	345P-2	ビット-345	2層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	P-8	257P-1, 345P-1,2	356	Ⅲ-1
56	650土-1	SK-650	覆土	注口土器	胴	带状文		異原羽状横回	ナデ			2412	Ⅲ-3
56	652土-1	SK-652	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			2413	Ⅲ-3
56	652土-2	SK-652	覆土	深鉢	胴		沈線文	LR	ナデ			2414	Ⅲ-4
56	653土-1	SK-653	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ			2419	Ⅲ-3
56	653土-2	SK-653	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ			2420	Ⅲ-3
56	653土-3	SK-653	覆土	深鉢	胴			RL横回	ナデ			2421	Ⅲ-3
56	653土-4	SK-653	覆土	深鉢	胴			条痕?	ナデ			2418	Ⅲ-1
56	653土-5	SK-653	覆土	深鉢	胴		横位沈線文	無文	ナデ			2416	Ⅲ-1
56	653土-6	SK-653	覆土	深鉢	口			異原羽状横回	ミガキ			2417	Ⅲ-3
56	653土-7	SK-653	覆土	壺?	胴			無文	ナデ			2415	Ⅲ-3
56	654土-1	SK-654	覆土	注口土器	注口部		貼瘤 带状文	LR,RL	ナデ		654土 -1,2,3	2425	Ⅲ-3
56	654土-2	SK-654	覆土	注口土器	胴		带状文	LR横回	ナデ		654土 -1,2,3	2422	Ⅲ-3
56	654土-3	SK-654	覆土	注口土器	口	弧状文		RL横回	ナデ		654土 -1,2,3	2424	Ⅲ-3
56	654土-4	SK-654	覆土	深鉢	口			異原羽状横回	ナデ			2423	Ⅲ-3
56	655土-1	SK-655	覆土	香炉?	口	縦位粘土紐貼付		無文	ナデ			2426	Ⅲ-3
56	655土-2	SK-655	覆土	深鉢	胴			摩滅顕著	摩滅顕著			2428	Ⅲ-3
56	655土-3	SK-655	覆土	深鉢	胴			無文	ナデ			2427	Ⅲ-3
56	656土-1	SK-656	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			2429	Ⅲ-3
56	656土-2	SK-656	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			2430	Ⅲ-3
56	658土-1	SK-658	覆土	深鉢	口			異原羽状横回	ミガキ			2431	Ⅲ-3
56	658土-2	SK-658	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			2433	Ⅲ-3

保存区遺構内出土土器観察表 7

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
56	658土-3	SK-658	覆土	深鉢	胴			RL斜回	ナデ			2432	IV-1

保存区遺構外出土土器観察表 1

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
57	1	X IIIJ-238	I層	深鉢	胴		弧状沈線文	RL	ナデ			1205	II-1
57	2	X III L-237	I層	深鉢	胴		弧状沈線文	RL	ナデ			1213	II-1
57	3	X IIP-220	II層	深鉢	口	楕円沈線文			ミガキ			751	III-1
57	4	X IIP-222	III層	深鉢	口	楕円沈線文 粘土紐貼付			ミガキ		4/8/9/ 11/13	930	III-1
57	5	X IIT-218	II層	深鉢	口	楕円沈線文			ミガキ		5/6	1103	III-1
57	6	X IIS-219	II層	深鉢	口	楕円沈線文			ミガキ		5/6	1109	III-1
57	7	X IIP-221	II層	深鉢	口	楕円沈線文 刺突		RL	ミガキ		7/10	712	III-1
57	8	X IIP-222	II層	深鉢	口~ 胴	楕円沈線文 粘土紐貼付			ミガキ		4/8/9/ 11/13	627	III-1
57	9	X IIP-222	II層	深鉢	胴	平行沈線文			ミガキ		4/8/9/ 11/13	928	III-1
57	10	X IIP-221	II層	深鉢	口		弧状沈線文	LR	ミガキ		7/10	1132	III-1
57	11	X IIP-222	II層	深鉢	胴~ 底	楕円沈線文 粘土紐貼付			ミガキ		4/8/9/ 11/13	1124	III-1
57	12	X IIR-219	III層	深鉢	口	口縁小波状 弧状文		摩滅顕著	摩滅顕著			1107	III-1
57	13	X IIP-222	II層	深鉢	胴	楕円沈線文 粘土紐貼付			ミガキ		4/8/9/ 11/13	927	III-1
57	14	X IIP-221	II層	深鉢	口			無文	ミガキ			720	III-1
57	15	X IIIH-212	III層	深鉢	口~ 胴		クランク文	LR横回	ナデ			1265	III-1
57	16	X III R-236	II層	深鉢	胴	楕円沈線文 粘土紐貼付	条線文		ナデ			1212	III-1
57	17	X IIP-220	II層	深鉢	口			条痕	ミガキ			752	III-1
57	18	X IIS-221	III層	深鉢	口			単五縦回	ミガキ			1035	II,III
57	19	X IIP-231	III層	深鉢	口	折返し口縁		LR横回	摩滅顕著			1085	II,III
57	20	X III E-229	I層	深鉢	口			LR横回	ミガキ			1231	II,III
57	21	X IIT-220	I層	浅鉢	口~ 底	平口縁 刻目帯	縄文帯(鍵状文)		ミガキ		21/23	606	III-2
57	22	X IIJ-228	II層	深鉢	口	波状口縁 刻目帯						821	III-2
57	23	X IIT-220	II層	浅鉢	胴下		縄文帯(鍵状文)		ミガキ		21/23	781	III-2
58	24	X IIL-224	II層	深鉢	口	波状口縁 口縁突起(内面刻み) 貼瘤 縄文帯(口縁に沿う2本平行帯状文)		LR,RL	ナデ		24/25	919	III-3
58	25	X IIL-224	II層	深鉢	口	波状口縁 口縁突起(内面刻み) 貼瘤 縄文帯(口縁に沿う2本平行帯状文)		LR,RL	ナデ		24/25	918	III-3
58	26	X III T-222	I層	鉢	口	平口縁 口縁突起 縄文帯(平行帯状文) 貼瘤		LR	摩滅顕著			1244	III-3
58	27	X III L-221	I層	鉢	口	平口縁 貼瘤 縄文帯(平行帯状文)		LR	ナデ			1243	III-3
58	28	X III O-237	II層	深鉢	口	口縁突起 縄文帯(斜行帯状文)		LR	ナデ			1241	III-3
58	29	X III L-216	I層	深鉢	口	平口縁 縄文帯(平行帯状文)		LR,RL	ミガキ			1229	III-3
58	30	X III R-238	II層	壺	口	平口縁 縄文帯(平行帯状文)		LR	ミガキ			1238	III-3
58	31	X III K-217	I層	壺	口	平口縁 口縁突起 縄文帯(平行帯状文)		LR	ミガキ			1245	III-3
58	32	X III R-239	II層	壺	頸	貼瘤 縄文帯(平行帯状文)		RL	ナデ		32/35/ 36/38	1249	III-3
58	33	X III K-226	II層	壺	頸	貼瘤 縄文帯(平行帯状文)		LR横回	ナデ			2438	III-3
58	34	X III R-236	II層	壺	頸	貼瘤 縄文帯(連結帯状文)		RL	ナデ			1239	III-3
58	35	X III R-239	II層	壺	胴		貼瘤 縄文帯(平行帯状文)	RL	ナデ		32/35/ 36/38	1248	III-3
58	36	X III R-239	II層	壺	胴		貼瘤 縄文帯(平行帯状文)	RL	ナデ		32/35/ 36/38	1250	III-3
58	37	X III T-221	I層	注口土器	胴		注口部欠損 貼瘤 縄文帯(平行帯状文)	LR	ナデ	注口部剥離		1240	III-3
58	38	X III R-239	II層	壺	胴		貼瘤 縄文帯(平行帯状文)	RL	ナデ		32/35/ 36/38	1247	III-3
58	39	X III Q-237	II層	深鉢	胴		縄文帯(弧状文)	LR,RL	ナデ			1228	III-3
58	40	X IIS-221	I層	壺	胴		貼瘤 瘤に円形刺突 微隆起線(3条)による眼鏡状文		ナデ			1032	III-3

保存区遺構外出土土器観察表 2

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一 個体	整理 No.	分類
58	41	XⅢP-227	I層	鉢	肩		矢羽根状沈線文 横位沈線文		ナデ		41/42	1254	Ⅲ-3
58	42	XⅢR-227	I層	鉢	肩		矢羽根状沈線文 横位沈線文		ナデ		41/42	1255	Ⅲ-3
58	43	XⅡT-220	Ⅱ層	深鉢	口			無文	ミガキ			748	Ⅲ-3
58	44	XⅡT-220	Ⅱ層	深鉢	口			無文	ナデ			738	Ⅲ-3
58	45	表探		注口土器	注口部		縄文帯(平行帯状文) 貼瘤欠損					1214	Ⅲ-3
58	46	XⅡP-231	Ⅱ層	深鉢	口	平口縁		無文	ミガキ			1086	Ⅲ-3
58	47	XⅡM-227	Ⅲ層	鉢	口	平口縁		無文	ミガキ			789	Ⅲ-3
58	48	XⅢF-230	I層	深鉢	口	平口縁		無文	ナデ			1236	Ⅲ-3
58	49	XⅢN-224	I層	深鉢	口	平口縁		無文	ナデ			2441	Ⅲ-3
58	50	XⅢO-236	Ⅱ層	深鉢	口	平口縁		無文	ナデ			1235	Ⅲ-3
58	51	XⅢN-222	I層	深鉢	口	平口縁		摩滅顕著	摩滅顕著			2440	Ⅲ-3
58	52	XⅣD-229	I層	深鉢	口	平口縁		無文	ナデ			1234	Ⅲ-3
58	53	表探		壺	胴		貼瘤 瘤上面刻み	無文	ナデ			2437	Ⅲ-3
58	54	XⅡS-236	Ⅲ層	壺	胴~底			無文	ナデ			906	Ⅲ-3
58	55	XⅢR-238	Ⅱ層	壺	胴		貼瘤 瘤上面刻み	無文	ナデ		55/57	1252	Ⅲ-3
58	56	XⅢR-238	Ⅱ層	壺?	胴		貼瘤 瘤に円形刺突	摩滅顕著	摩滅顕著			1242	Ⅲ-3
58	57	XⅢR-238	Ⅱ層	壺	胴		貼瘤 瘤上面刻み	無文	ナデ		55/57	1251	Ⅲ-3
58	58	XⅢR-237	Ⅱ層	壺	胴			無文	ナデ			1206	Ⅲ-3
59	59	XⅡJ-226	I層	深鉢	口	平口縁 口縁突起 二個一対の貼瘤		異原羽状横回	ケズリ、ミガキ		59/60/61/63	857	Ⅲ-3
59	60	XⅡJ-226	I層	深鉢	口	平口縁 二個一対の貼瘤		異原羽状横回	ケズリ、ミガキ		59/60/61/63	858	Ⅲ-3
59	61	XⅡJ-226	I層	深鉢	口	平口縁 二個一対の貼瘤		異原羽状横回	ケズリ、ナデ		59/60/61/63	1144	Ⅲ-3
59	62	XⅡJ-226	I層	深鉢	口	平口縁 貼瘤		異原羽状横回	ミガキ			1156	Ⅲ-3
59	63	XⅡJ-226	I層	深鉢	胴		貼瘤 瘤上面刻み	異原羽状横回	ミガキ		59/60/61/63	860	Ⅲ-3
59	64	XⅢL-217	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ミガキ			1225	Ⅲ-3
59	65	XⅡQ-229	I層	深鉢	口	平口縁		LR横回	ミガキ			924	Ⅲ-3
59	66	XⅢQ-237	Ⅱ層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ミガキ		66/82/84	1207	Ⅲ-3
59	67	XⅢQ-236	Ⅲ層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ナデ			1227	Ⅲ-3
59	68	XⅢR-221	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ナデ			1233	Ⅲ-3
59	69	XⅢL-217	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ミガキ			1222	Ⅲ-3
59	70	XⅢS-223	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ナデ			1223	Ⅲ-3
59	71	XⅣD-230	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ミガキ			1221	Ⅲ-3
59	72	XⅡG-219	Ⅱ層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ミガキ			868	Ⅲ-3
59	73	XⅡP-221	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ケズリ、ミガキ			719	Ⅲ-3
59	74	XⅢL-217	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ミガキ			1224	Ⅲ-3
59	75	XⅢK-226	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ミガキ			2439	Ⅲ-3
59	76	XⅡT-220	I層	深鉢	口	平口縁 口縁突起		LR横回	ミガキ		76/77/78	750	Ⅲ-3
59	77	XⅡT-220	I層	深鉢	口	平口縁 口縁突起		LR横回	ミガキ		76/77/78	747	Ⅲ-3
59	78	XⅡT-220	I層	深鉢	口	平口縁 口縁突起		LR横回	ミガキ		76/77/78	746	Ⅲ-3
59	79	XⅢE-239	I層	深鉢	口	平口縁		LR横回	ナデ			1232	Ⅲ-3
59	80	XⅢN-222	I層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			2442	Ⅲ-3
59	81	XⅢN-222	I層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			2435	Ⅲ-3
59	82	XⅢQ-237	Ⅱ層	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ		66/82/84	1208	Ⅲ-3
59	83	XⅢQ-236	Ⅲ層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			1226	Ⅲ-3
59	84	XⅢQ-237	Ⅱ層	深鉢	底			異原羽状横回	ミガキ		66/82/84	1209	Ⅲ-3
59	85	XⅢF-230	I層	深鉢?	底			摩滅顕著	ナデ	上げ底		1216	Ⅲ-3
59	86	XⅢR-238	Ⅱ層	深鉢?	底			無文	ナデ	上げ底		1218	Ⅲ-3
59	87	XⅢR-236	Ⅱ層	台付鉢	台部			無文	ナデ			1215	Ⅲ-3
60	88	XⅢE-231	I層	鉢	口~胴	口縁B突起 羊歯状刻目文	入組状磨消縄文	LR	ミガキ			1260	Ⅳ-1
60	89	XⅢE-231	I層	壺	胴	平行沈線2条 口唇部に沈線及び連続刻み	羊歯状刻目文 赤彩		ナデ	外面赤彩		1264	Ⅳ-1
60	90	XⅢP-227	I層	深鉢	口			LR横回	ミガキ	外面炭化物付着		1201	Ⅳ-1

保存区遺構外出土土器観察表 3

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
60	91	XⅢE-231	I層	浅鉢	胴	平行沈線 雲形文	入組文	RL	ミガキ			1259	IV-1,2
60	92	XⅢO-217	I層	浅鉢	口~胴	口縁内面平行沈線(1条) 口縁下肉削ぎ状沈線	雲形文	LR	ミガキ			1263	IV-1,2
60	93	XⅢE-231	I層	鉢	口	山形状波状口縁	雲形文	RL斜回	ナデ			1246	IV-2
60	94	XⅢE-231	I層	浅鉢	口~胴	平行沈線2条 沈線上連続 刺突	雲形文	LR	ミガキ			1261	IV-2
60	95	XⅢE-231	I層	浅鉢	胴		雲形文	LR	ミガキ			1262	IV-2
60	96	XⅢT-222	I層	鉢	口				ナデ			1257	IV-2
60	97	XⅢE-231	I層	鉢	胴		平行沈線 突起	RL	ミガキ			1258	IV-2
60	98	XⅢR-237	II層	深鉢	口			LR横回	ミガキ			1230	IV-1,2
60	99	XⅢE-231	I層	深鉢	口~胴	口縁小波状 平行沈線2条		RL	ミガキ			1266	IV-2
60	100	XⅡT-221	II層	深鉢	口	平行沈線 8条 沈線上突起		LR	ナデ		100/ 102	1039	IV-3
60	101	XⅡQ-222	II層	深鉢	胴			条痕	ミガキ			656	IV-2,3
60	102	XⅡT-221	II層	深鉢	口	平行沈線 8条		LR	ナデ		100/ 102	1038	IV-3
60	103	XⅢT-223	I層	深鉢	口~胴	平行沈線 4条		LR横回	ミガキ			1210	IV-3
60	104	XⅢE-231	I層	深鉢	胴			条痕	ミガキ			1237	IV-2,3
60	105	XⅢT-221	I層	深鉢	底			LR	ナデ			1203	IV-2,3
60	106	XⅢP-227	I層	深鉢	底			LR	摩滅顕著			1204	IV-1,2
60	107	XⅡO-222	II層	深鉢	底			RL斜回	ナデ			1129	IV-2,3

G区遺構内出土土器観察表 1

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
68	201住-1	SI-201	1層	深鉢	口~胴	R側圧(縦、横、斜)		RLR斜回	ミガキ	P-23,24,25,26,28,67 繊維混入		1501	I-2
68	201住-2	SI-201	1層	深鉢	口~胴	LR側圧(縦、横、斜) 頸部 RL横回		0多RLR斜回	ミガキ	P-41,42,43,44,45,64,68 繊維混入		1502	I-2
68	201住-3	SI-201	1層	深鉢	口~胴	R側圧(縦、横、斜) 頸部 R横回		RLR斜回	ミガキ	P-34 繊維混入		1503	I-2
68	201住-4	SI-201	1層	深鉢	口~胴	LR側圧(縦、横、斜)		RLRに1の付加 条	ミガキ	P-48,50,52,55,56,57,58,59,61, 62,63,64,71,74 繊維混入	201住 -4,18	1504	I-2
68	201住-5	SI-201	1層	深鉢	口頸	RL側圧(横) 頸部 RLR横回			ミガキ	P-39,40 繊維混入		1523	I-2
68	201住-6	SI-201	1層	深鉢	口頸	R側圧(横、斜)			ミガキ	P-35 繊維混入		1526	I-2
68	201住-7	SI-201	1層	深鉢	口	R側圧(横) 隆帯 隆帯上 R側圧			ミガキ	P-70, SI-203覆土と接合 繊維混入、内面炭化物付着		1530	I-2
68	201住-8	SI-201	1層	深鉢	口~胴	R側圧(横) RL側圧(縦)		0多RLR斜回	ミガキ	P-9,19,30 繊維混入、 外面炭化物付着		1525	I-2
69	201住-9	SI-201	1層	深鉢	口~胴	R側圧(縦、横)		0多RLR斜回	ミガキ	P-67 繊維混入		1507	I-2
69	201住-10	SI-201	1層	深鉢	胴			0多RLR斜回	ミガキ	P-37 繊維混入		1508	I-2
69	201住-11	SI-201	炉1層	深鉢	口~胴			摩滅顕著	ミガキ	P-1,2 繊維混入		1533	I-2
69	201住-12	SI-201	1層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	P-8 繊維混入		1518	I-2
69	201住-13	SI-201	1層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	内面炭化物付着		1528	I-2
69	201住-14	SI-201	1層	深鉢	胴			0多RLR斜回	ミガキ	P-73 繊維混入		1512	I-2
69	201住-15	SI-201	1層	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	P-78,PIT7の1層 繊維混入		1524	I-2
69	201住-16	SI-201	1層	深鉢	頸	R側圧(横) 頸部 R横回		RLR斜回	ミガキ	PIT7の1層 繊維混 入		1517	I-2
69	201住-17	SI-201	1層	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	P-34 繊維混入		1505	I-2
69	201住-18	SI-201	1層	深鉢	胴~底			RLRに1の付加 条	ミガキ	P-46,47 繊維混入	201住 -4,18	1506	I-2
69	201住-19	SI-201	炉1層	深鉢	底			摩滅顕著	ミガキ	P-3 繊維混入		1529	I-2
71	202住-1	SI-202	1層	深鉢	口~頸	摩滅顕著(単一横回?)		摩滅顕著	摩滅顕著	P-78 繊維混入		1550	I-2
71	202住-2	SI-202	1層	深鉢	口~頸	LR+RL側圧(横) 単一横 回			ミガキ	P-69 繊維混入	202住 -2,3	1552	I-2
71	202住-3	SI-202	1層	深鉢	口~頸	LR+RL側圧(横) 単一横 回			摩滅顕著	P-70 繊維混入	202住 -2,3	1555	I-2
71	202住-4	SI-202	1層	深鉢	口~胴	R側圧(横)		単一縦回	ミガキ	P-23,38,90,93 繊維 混入		1543	I-2

G区遺構内出土土器観察表 2

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
71	202住-5	SI-202	1層	深鉢	口~胴	RL側圧(縦、横)		単一縦回	ミガキ	P-48 繊維混入		1548	I-2
71	202住-6	SI-202	1層	深鉢	口~頸	R側圧(縦、横)			ミガキ	P-65 繊維混入		1561	I-2
71	202住-7	SI-202	1層	深鉢	口~頸	LR側圧(横)			ミガキ	繊維混入		1559	I-2
72	202住-8	SI-202	1層	深鉢	口~胴	R側圧(横) 単六横回 頸部 RL横回 口唇RL横回		単一縦回	ミガキ	P-85 繊維混入、内面炭化物付着		1541	I-2
72	202住-9	SI-202	1層	深鉢	口~胴	R側圧(横)		RLR斜回	ミガキ	P-14,16,18,31,74,75,78 繊維混入		1537	I-2
72	202住-10	SI-202	1層	深鉢	胴~底			0多RLR斜回	ミガキ	P-47,SK-701の1層 P-41接合 繊維混入		1553	I-2
72	202住-11	SI-202	1層	深鉢	頸	LR側圧(横)		単一縦回	ミガキ	P-69 繊維混入		1784	I-2
72	202住-12	SI-202	1層	深鉢	頸~胴	RL+R側圧(横)		RLR横回 単一縦回	ミガキ	P-86,91 繊維混入		1869	I-2
72	202住-13	SI-202	1層	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	P-23,54 繊維混入		1890	I-2
72	202住-14	SI-202	1層	深鉢	底			RLR斜回	ミガキ	P-36,38,56,67,76 繊維混入		1544	I-2
72	202住-15	SI-202	2層	深鉢	口~頸	RL側圧(縦、横) 単六横回		RLR斜回	ミガキ	P-31 繊維混入		1545	I-2
72	202住-16	SI-202	2層	深鉢	口~頸	単一横回			ミガキ	繊維混入		1558	I-2
73	202住-17	SI-202	覆土	深鉢	口~胴	結束第一種横回		RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1549	I-2
73	202住-18	SI-202	覆土	深鉢	頸	頸部RL横回		RRL(直前段反燃)横回	ミガキ			1883	I-2
73	202住-19	SI-202	覆土	深鉢	胴			摩滅顕著	摩滅顕著	繊維混入		1894	I-2
75	203住-1	SI-203	覆土	深鉢	胴			0多RLR斜回	ミガキ	繊維混入、内面炭化物付着		1562	I-2
75	203住-2	SI-203	覆土	深鉢?	胴			無文	ナデ			1564	III-3
76	204住-1	SI-204	1層	深鉢	口~頸	摩滅顕著		摩滅顕著	摩滅顕著	繊維混入		1565	I-2
76	204住-2	SI-204	1層	深鉢	胴			単一縦回	摩滅顕著	繊維混入		1567	I-2
76	204住-3	SI-204	3層	深鉢	胴			単一縦回	摩滅顕著	繊維混入		1568	I-2
76	204住-4	SI-204	2層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	繊維混入		1569	I-2
76	204住-5	SI-204	2層	深鉢	頸~胴	頸部RLR横回		0多RLR斜回	摩滅顕著	繊維混入		1570	I-2
76	204住-6	SI-204	3層	深鉢	胴			単一縦回	摩滅顕著	繊維混入		1571	I-2
76	204住-7	SI-204	覆土	深鉢	頸~胴	突帯剥離痕		単一縦回	ミガキ	繊維混入		1572	I-2
76	204住-8	SI-204	2層	深鉢	頸	R側圧(横) 頸部RL横回			ミガキ	繊維混入		2341	I-2
77	205住-1	SI-205	床面	小型壺	完形	口縁やや外反		無文 丁寧なミガキ	ミガキ、ナデ	P-2		1580	III-3
77	205住-2	SI-205	床面	鉢	胴~底			無文	ミガキ、ナデ	P-1,33		1581	III-3
77	205住-3	SI-205	覆土	深鉢	頸	RL側圧(横)			摩滅顕著	繊維混入		1583	I-2
77	205住-4	SI-205	床面	深鉢?	胴			無文	ナデ	P-1		1585	III-3
77	205住-5	SI-205	覆土	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	繊維混入		1586	I-2
77	205住-6	SI-205	覆土	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ			1587	I-2
80	206住-1	SI-206	3層	深鉢	口~胴	R側圧(縦、横) 単一横回 頸部LR横回		単一縦回 RLR斜回	ミガキ	P-1,2,3,5 繊維混入		1588	I-2
80	206住-2	SI-206	3層	深鉢	胴~底			0多RLR斜回	ミガキ	P-6、覆土 繊維混入		1589	I-2
80	206住-3	SI-206	覆土	深鉢	口~胴	結束第一種横回		0多RLR斜回	ミガキ	繊維混入、IXJ-193 VI層と接合	206住-3,5,6	1590	I-2
80	206住-4	SI-206	1層	深鉢	口~胴	LR側圧(縦、横、斜) 頸部結束第一種横回		RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1591	I-2
80	206住-5	SI-206	2層	深鉢	胴			0多RLR斜回	ミガキ	繊維混入	206住-3,5,6	1592	I-2
80	206住-6	SI-206	覆土	深鉢	胴			0多RLR斜回	ミガキ	繊維混入	206住-3,5,6	1594	I-2
80	206住-7	SI-206	覆土	深鉢	底				ミガキ	繊維混入		1596	I-2
80	206住-8	SI-206	3層	深鉢	底			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1597	I-2
80	206住-9	SI-206	覆土	深鉢	胴			0多RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1598	I-2
80	206住-10	SI-206	覆土	深鉢	胴			0多RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1599	I-2
80	206住-11	SI-206	覆土	深鉢	底			RLR斜回	ミガキ	繊維混入	206住-11,15,16	1602	I-2



G区遺構内出土土器観察表 3

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
80	206住-12	SI-206	3層	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1605	I-2
80	206住-13	SI-206	覆土	深鉢?	胴			無文	ナデ			1608	Ⅲ-3
80	206住-14	SI-206	3層	深鉢?	胴			無文	ナデ			1609	Ⅲ-3
80	206住-15	SI-206	3層	深鉢	口~胴	LR側圧(横) 頸部LR横回		RLR斜回	ミガキ	SI-205覆土、IXI-189VI層と接合、補修孔有り	206住-11.15.16	1610	I-2
80	206住-16	SI-206	覆土	深鉢	口~胴	LR側圧(横) 頸部LR横回		RLR斜回	ミガキ	IXJ-193VI層と接合	206住-11.15.16	1612	I-2
80	206住-17	SI-206	覆土	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1613	I-2
80	206住-18	SI-206	覆土	深鉢	口	R側圧(横、斜)			ミガキ	繊維混入		1615	I-2
81	207住-1	SI-207	覆土	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	繊維混入、内面炭化物付着		1617	I-2
81	207住-2	SI-207	覆土	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	繊維混入		1618	I-2
81	207住-3	SI-207	覆土	深鉢	胴			単一縦回	摩滅顕著	繊維混入		1619	I-2
83	208住-1	SI-208	1層	深鉢	口頸	LR側圧(横) 単一横回			ミガキ	P-26 繊維混入		1626	I-2
83	208住-2	SI-208	3層	壺?	底			無文	ナデ	P-5	208住-2,3	1625	Ⅲ-3
83	208住-3	SI-208	3層	壺?	胴(貼瘤)		貼瘤		ナデ	P-6	208住-2,3	1622	Ⅲ-3
83	208住-4	SI-208	4層	深鉢	口	口縁刻目帯 口縁下無文帯		LR横回	ミガキ	P-11 外面炭化物付着		1627	Ⅲ-3
83	208住-5	SI-208	4層	深鉢?	底		底部付近ミガキ		ナデ	P-1,2		1624	Ⅲ-3
83	208住-6	SI-208	4層	深鉢	胴			0段多条LR	ミガキ	P-9		1621	Ⅲ-3
83	208住-7	SI-208	4層	注口土器	注口部			無文 丁寧なミガキ		P-10 破損面にアスファルト付着		1628	Ⅲ-3
83	208住-8	SI-208	4層	深鉢	口~胴			異原羽状横回	ナデ、ミガキ	P-7,8,SK753の1層と接合 外面炭化物付着		1620	Ⅲ-3
85	209住-1	SI-209	覆土	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1631	I-2
85	209住-2	SI-209	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ			1633	Ⅲ-3
85	209住-3	SI-209	覆土	深鉢?	胴		弧状沈線文	無文	ナデ			1632	Ⅲ-3
85	209住-4	SI-209	底面	浅鉢?	口			無文	ミガキ	P-1 内面にアスファルト?		1630	Ⅲ-3
86	210住-1	SI-210	1層	深鉢	口~胴	RL側圧(縦、横、斜)		0多RLR斜回	ミガキ	P-1,覆土 繊維混入	210住1,4,5	1649	I-2
86	210住-2	SI-210	1層	深鉢	胴~底			RLR斜回	ミガキ	P-2	210住2,6	1660	I-2
86	210住-3	SI-210	覆土	深鉢	胴			単一縦回	摩滅顕著	繊維混入		1661	I-2
86	210住-4	SI-210	1層	深鉢	胴			0多RLR斜回	ミガキ	P-1	210住1,4,5	1651	I-2
86	210住-5	SI-210	1層	深鉢	胴~底			0多RLR斜回	ミガキ	P-1,覆土 繊維混入	210住1,4,5	1648	I-2
86	210住-6	SI-210	1層	深鉢	胴~底			RLR斜回	ミガキ	P-2	210住2,6	1659	I-2
86	210住-7	SI-210	2層	深鉢	口頸	結束第一種横回			ミガキ			1652	I-2
87	210住-8	SI-210	1層	深鉢	略完形	R側圧(縦、横) 頸部RLR横回		RLR斜回	ミガキ	P-1 繊維混入		1647	I-2
88	211住-1	SI-211	覆土	深鉢	口	LR側圧(横、縦)			ミガキ			1665	I-2
88	211住-2	SI-211	覆土	深鉢	頸	R側圧(横)		LR横回	ミガキ			1664	I-2
88	211住-3	SI-211	覆土	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1663	I-2
95	701土-1	SK-701	底面	深鉢	口	RL横回			ミガキ	P-1 繊維混入		1666	I-2
95	702土-1	SK-702	1層	深鉢	胴			RL	ナデ	P-3,6		1668	Ⅲ-3
95	702土-2	SK-702	1層	深鉢	胴			摩滅顕著	ミガキ	P-42 繊維混入		1670	I-2
95	702土-3	SK-702	1層	深鉢	口~胴	摩滅による不明原体の側圧(横、斜)		単一縦回	ミガキ	P-42 繊維混入		1547	I-2
95	702土-4	SK-702	1層	深鉢	胴			無文 外面ミガキ	ナデ、ミガキ	P-2		1669	Ⅲ-3
95	702土-5	SK-702	1層	深鉢	胴			摩滅顕著	ミガキ	P-42 繊維混入		1671	I-2
95	702土-6	SK-702	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ			1673	Ⅲ-3
95	702土-7	SK-702	2層	深鉢?	口	帯状文		異原羽状横回	ミガキ	P-5		1672	Ⅲ-3
95	702土-8	SK-702	2層	単孔土器	胴~底		貼瘤 樽掛状文 開口部の径6mm	LR	工具によるナデ	P-4		1667	Ⅲ-3
95	704土-1	SK-704	覆土	壺?	胴		横走沈線文	無文 外面ミガキ	雑なナデ			1674	Ⅲ-3
95	711土-1	SK-711	覆土	深鉢?	胴			無文	ナデ			1676	Ⅲ-3
95	720土-1	SK-720	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ			1677	Ⅲ-3
95	720土-2	SK-720	覆土	深鉢	胴			単一縦回	摩滅顕著	繊維混入		1678	I-2
95	721土-1	SK-721	底面	台付鉢	胴~底		台部欠損	LR横回	ミガキ	床面Pit1 P-1,5 Pit1出土、外面炭化物付着		1680	IV-1,2
95	721土-2	SK-721	覆土	深鉢	頸	結束第一種横回			摩滅顕著	繊維混入	721土-2,5	1681	I-2

G区遺構内出土土器観察表 4

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
95	721土-3	SK-721	覆土	台付鉢	口～底	口縁9単位の小波状	台部欠損	RL横回	ミガキ	床面Pit2 P-3 Pit2出土721土-4と入れ子、内外面炭化物付着		1683	IV-1.2
95	721土-4	SK-721	覆土	深鉢	胴～底			LR横回	ミガキ	床面Pit2 P-1,2,4,5,6 Pit2出土721土-3と入れ子、内外面炭化物付着		1679	IV-1.2
95	721土-5	SK-721	覆土	深鉢	胴			RLR斜回	摩滅顕著	繊維混入	721土-2.5	1682	I-2
95	723土-1	SK-723	覆土	深鉢	口頸	R側圧(横)		摩滅顕著	摩滅顕著	繊維混入		1684	I-2
95	726土-1	SK-726	覆土	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1685	I-2
95	729土-1	SK-729	1層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	繊維混入		1686	I-2
95	729土-2	SK-729	1層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	繊維混入		1687	I-2
96	730土-1	SK-730	底面	深鉢	略完形	口唇部押圧による小波状口縁		無文 外面荒いナデ	ナデ	P-1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15,16,17,18,19		1688	III-3
96	733土-1	SK-733	底面	台付深鉢	完形	口縁9単位の小波状		LR横回 外面ミガキ	工具によるミガキ	底面Pit内 P-1 内外面炭化物付着		1689	IV-1.2
96	736土-1	SK-736	覆土	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1690	I-2
96	737土-1	SK-737	2層	深鉢	胴			異原羽状横回	摩滅顕著			1694	III-3
96	737土-2	SK-737	2層	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1693	I-2
96	737土-3	SK-737	3層	深鉢	胴		縦走沈線文 弧状沈線文	無文	ミガキ			1692	III-1
96	737土-4	SK-737	3層	深鉢	胴			RLR斜回	摩滅顕著	繊維混入		1695	I-2
96	738土-1	SK-738	覆土	深鉢	口			LR横回	ミガキ	Pit1 内面炭化物付着		1696	IV-1.2
96	739土-1	SK-739	覆土	深鉢	胴			単一縦回	摩滅顕著	繊維混入		1697	I-2
96	740土-1	SK-740	覆土	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	繊維混入	740土1.2	1699	I-2
96	740土-2	SK-740	覆土	深鉢	胴～底			単一縦回	ミガキ	繊維混入	740土1.2	1698	I-2
96	742土-1	SK-742	4層	小型深鉢	完形	R+LR側圧(横)		RLR斜回	ナデ、ミガキ	P-2 繊維混入		1701	I-2
96	742土-2	SK-742	5層	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	P-2.7 繊維混入	742土-2.13	1709	I-2
96	742土-3	SK-742	5層	深鉢	完形	R側圧(縦、横、斜) 頸部 RLR横回		RLR斜回	ミガキ	P-1 内面炭化物付着、外面摩滅、繊維混入		1700	I-2
97	742土-4	SK-742	4層	深鉢	胴			RLR斜回	ナデ	P-3 繊維混入		1702	I-2
97	742土-5	SK-742	4層	深鉢	口	LR側圧(縦、横)		摩滅顕著	ミガキ	P-2 繊維混入		1711	I-2
97	742土-6	SK-742	4層	深鉢	口	R側圧(横)		ミガキ	ミガキ	繊維混入		1706	I-2
97	742土-7	SK-742	4層	深鉢	胴		櫛歯状工具による横走沈線		ミガキ	P-2		1712	III-1
97	742土-8	SK-742	4層	深鉢	胴			結束一種横回	ミガキ	P-3 繊維混入		1707	I-2
97	742土-9	SK-742	4層	深鉢	胴			RLR斜回	摩滅顕著	P-3 繊維混入		1705	I-2
97	742土-10	SK-742	4層	深鉢	胴			無文	ナデ	P-1.2		1713	III-3
97	742土-11	SK-742	4層	深鉢	底			RLR斜回	ミガキ	P-3 繊維混入		1704	I-2
97	742土-12	SK-742	4層	小型深鉢	胴～底			RLR斜回	ナデ	P-2.6 繊維混入		1703	I-2
97	742土-13	SK-742	4層	深鉢	底			摩滅顕著	ミガキ	P-4 繊維混入	742土-2.13	1710	I-2
97	746土-1	SK-746	4層	深鉢	口	LR側圧(縦) 単一横回			ミガキ	繊維混入		1714	I-2
97	747土-1	SK-747	1層	深鉢	胴			摩滅顕著	ミガキ	繊維混入		1715	I-2
97	751土-1	SK-751	3層	深鉢	胴			RLR斜回	摩滅顕著	P-1 繊維混入		1716	I-2
97	752土-1	SK-752	覆土	深鉢	口頸	結束第一種横回 結束部にL側圧(横)			ミガキ	繊維混入	752土-1.753土-4.5.6.8	1719	I-2
97	752土-2	SK-752	覆土	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1718	I-2
97	752土-3	SK-752	覆土	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1717	I-2
97	752土-4	SK-752	覆土	深鉢	胴			無文	ミガキ			1720	III-3
97	753土-1	SK-753	1層	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1731	I-2
97	753土-2	SK-753	1層	深鉢	頸～胴	単一側圧(横) 頸部RL横回		RLR斜回	ミガキ	繊維混入	753土-2.3	1729	I-2
97	753土-3	SK-753	覆土	深鉢	口	単一側圧(縦、横、斜)			ミガキ	繊維混入	753土-2.3	1730	I-2
97	753土-4	SK-753	覆土	深鉢	口頸	結束第一種横回 結束部にL側圧(横) 口唇部欠損			ミガキ	繊維混入	752土-1.753土-4.5.6.8	1724	I-2
97	753土-5	SK-753	3層	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	繊維混入	752土-1.753土-4.5.6.8	1722	I-2

G区遺構内出土土器観察表 5

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
97	753土-6	SK-753	3層	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	繊維混入	752土 1753土 -4.5,6.8	1723	I-2
97	753土-7	SK-753	覆土	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ			1728	Ⅲ-3
97	753土-8	SK-753	3層	深鉢	胴～底			RLR斜回	ミガキ	繊維混入	752土 1753土 -4.5,6.8	1721	I-2
98	758土-1	SK-758	1層	深鉢	胴			0多LR横回	ミガキ	P-1		1734	Ⅲ-3
98	758土-2	SK-758	底面	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	P-2 繊維混入		1733	I-2
98	762土-1	SK-762	覆土	深鉢	胴			無文	ミガキ			1735	Ⅲ-3
98	763土-1	SK-763	1層	台付土器	胴～底			LR横回	ナデ	IXD-185 I層と接合		2342	IV-1,2
98	801土-1	SK-801	2層	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	P-1 繊維混入		1736	I-2
98	803土-1	SK-803	覆土	深鉢	胴			摩滅顕著	摩滅顕著	P-2 繊維混入		1738	I-2
98	803土-2	SK-803	覆土	深鉢	底			摩滅顕著	摩滅顕著	P-1 繊維混入		1737	I-2
98	804土-1	SK-804	2層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	P-1 繊維混入		1739	I-2
98	804土-2	SK-804	2層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	P-2 繊維混入		1740	I-2
98	806土-1	SK-806	底面	深鉢	胴			摩滅顕著	ナデ	P-1		1741	Ⅲ-3
98	807土-1	SK-807	1層	深鉢	胴			RLR斜回	摩滅顕著	P-1 繊維混入		1742	I-2
98	808土-1	SK-808	3層	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	P-5 繊維混入		1744	I-2
98	808土-2	SK-808	3層	深鉢	頸	R側圧(横)突帯 頸部結束 第一種横回		RLR斜回	ミガキ	P-4 繊維混入		1743	I-2
98	808土-3	SK-808	覆土	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	P-7 繊維混入		1749	I-2
98	808土-4	SK-808	確認面	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	P-2 繊維混入		1745	I-2
100	1竪建-1	1号竪穴建物	1層	深鉢	胴			単一縦回	摩滅顕著	繊維混入		1635	I-2
101	3竪建-1	3号竪穴建物	覆土	深鉢	胴			RL横回	ナデ		3竪建 -1,2	1645	Ⅲ-3
101	3竪建-2	3号竪穴建物	覆土	深鉢	胴			RL横回	ナデ		3竪建 -1,2	1644	Ⅲ-3
101	3竪建-3	3号竪穴建物	覆土	深鉢	胴			摩滅顕著	ナデ			1637	Ⅲ-3
101	3竪建-4	3号竪穴建物	覆土	深鉢	胴			LR斜回	ナデ			1641	Ⅲ-3
101	3竪建-5	3号竪穴建物	覆土	深鉢?	胴		横位沈線文	L縦回	ナデ			1643	Ⅲ-1
108	303溝状-1	SV-303	3層	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1750	I-2
108	401溝状-1	SV-401	覆土	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	P-1 繊維混入		1751	I-2
110	301溝土-1	SD-301	覆土	壺	胴		貼瘤 櫛掛状文	LR磨消	ナデ			1753	Ⅲ-3
110	301溝土-2	SD-301	覆土	壺	胴		帯状文	LR磨消	ナデ			1754	Ⅲ-3

G区遺構外出土土器観察表 1

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
114	1	IXK-200	I層	深鉢	頸	隆帯 LR側圧			ミガキ	繊維混入	1/2	1758	I-1,2
114	2	IXK-200	I層	深鉢	頸	隆帯 LR側圧			ミガキ	繊維混入	1/2	1759	I-1,2
114	3	IXK-187	IV層	深鉢	口～頸	単一横回 R側圧(縦、横)			ミガキ	繊維混入		1773	I-2
114	4	IXI-192	IV層	深鉢	口～頸	単一横回 RL側圧(縦)			ミガキ	繊維混入		1820	I-2
114	5	IXK-185	IV層	深鉢	口～頸	単一横回 R側圧(縦)			ミガキ	繊維混入		1812	I-2
114	6	IXG-194	IV層	深鉢	口～胴	単一横回 LR側圧(横)		単一縦回	ミガキ	繊維混入		1757	I-2
114	7	IXK-197	IV層	深鉢	口～頸	単五横回 単一側圧(横)			ミガキ	繊維混入		1764	I-2
114	8	IXH-194	VI層	深鉢	口～頸	単五横回 R側圧(縦、横)			ミガキ	繊維混入		1767	I-2
114	9	IXJ-193	VI層	深鉢	口～頸	結束第一種横回(LR,RLR)		RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1761	I-2
114	10	IXL-199	耕作土	深鉢	口～頸	結束第一種横回 R側圧(横)			ミガキ	繊維混入		1762	I-2
114	11	IXK-198	I層	深鉢	口～頸	R側圧 結束第一種横回			ミガキ	繊維混入		1765	I-2
114	12	VIII-195	I層	深鉢	口～頸	結束第一種横回			ミガキ	繊維混入		1766	I-2
114	13	IXI-188	VI層	深鉢	口～胴	結束第一種横回 単一側圧(横)		RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1756	I-2

G区遺構外出土土器観察表 2

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
114	14	IXH-194	VI層	深鉢	口~頸	LR側圧(縦、横、斜)			ミガキ	繊維混入		1777	I-2
114	15	IXG-199	I層	深鉢	口~頸	R側圧(横、斜) 頸部LR横回?			ミガキ	繊維混入		1792	I-2
114	16	IXB-198	I層	深鉢	口~頸	LR側圧(横、斜)		RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1769	I-2
114	17	IXI-192	IV層	深鉢	口~頸	RL側圧(縦、横、斜)			ミガキ	繊維混入		1803	I-2
114	18	IXK-185	IV層	深鉢	口~頸	R側圧(横、斜)			ミガキ	繊維混入		1809	I-2
114	19	VIII-199	I層	深鉢	口~頸	LR側圧(縦、横、斜)			ミガキ	繊維混入		1816	I-2
114	20	VIIIK-198	I層	深鉢	口~頸	LR側圧(縦、横、斜)			ミガキ	繊維混入		1810	I-2
114	21	IXK-187	IV層	深鉢	口~頸	R側圧(縦、横)		RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1768	I-2
114	22	IXG-199	I層	深鉢	口~頸	R側圧(横)		単一縦回	ミガキ	繊維混入	22/26/ 29/30	1794	I-2
114	23	IXI-196	I層	深鉢	口~頸	LR側圧(横)			ミガキ	繊維混入		1796	I-2
114	24	IXK-200	I層	深鉢	口~頸	R側圧(横)			ミガキ	繊維混入		1797	I-2
114	25	IXK-200	I層	深鉢	口~頸	RLR側圧(横、斜)			ミガキ	繊維混入		1798	I-2
114	26	IXG-199	I層	深鉢	口~頸	R側圧(横) 頸部LR横回			ミガキ	繊維混入	22/26/ 29/30	1805	I-2
114	27	IXK-192	I層	深鉢	口~頸	LR側圧(横) 頸部LR横回			ミガキ	繊維混入		1802	I-2
114	28	IXG-198	I層	深鉢	口~頸	R側圧(横)			ミガキ	繊維混入		1785	I-2
114	29	IXG-199	I層	深鉢	口~頸	R側圧(横)		単一縦回	ミガキ	繊維混入	22/26/ 29/30	1793	I-2
114	30	IXG-199	I層	深鉢	口~頸	R側圧(横) 頸部LR横回			ミガキ	繊維混入	22/26/ 29/30	1804	I-2
114	31	IXJ-193	VI層	深鉢	頸	R側圧(縦、横) 頸部R横回			ミガキ	繊維混入		1776	I-2
114	32	IXK-185	IV層	深鉢	頸	RL側圧(横)		摩滅顕著	ミガキ	繊維混入		1838	I-2
114	33	IXJ-200	II層	深鉢	頸~胴	R側圧(横)		RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1822	I-2
114	34	IXH-194	VI層	深鉢	口~頸	R側圧(横、斜) 口唇LR横回			ミガキ	繊維混入		1786	I-2
114	35	IXI-198	I層	深鉢	口~頸	単一側圧(横)			ミガキ	繊維混入		1801	I-2
114	36	IXP-202	I層	深鉢	口~頸	横位連続刺突列			ミガキ	繊維混入		1763	I-2
114	37	IXH-195	IV層	深鉢	口~胴	R側圧(縦、横、斜) 頸部結束第一種横回		RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1821	I-2
114	38	IXG-199	I層	深鉢	口~頸	L+R側圧(横、斜) 頸部結束第一種横回			ミガキ	繊維混入		1791	I-2
114	39	IXB-182	I層	深鉢	口~頸	R側圧(横) 頸部に半裁竹管状連続刺突 口縁部R横回			ミガキ	繊維混入		1807	I-2
114	40	IXI-197	I層	深鉢	口~頸	口縁部L+L側圧(横) RL横回		RL横回	ミガキ	繊維混入		1795	I-2
115	41	IXI-194	VI層	深鉢	頸	R側圧(横) 頸部結束第一種横回		結束一種横回	ミガキ	繊維混入		1780	I-2
115	42	IXJ-197	I層	深鉢	胴			0多RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1847	I-2
115	43	IXM-191	耕作土	深鉢	胴			結束一種横回	ミガキ	繊維混入		1855	I-2
115	44	IXI-197	I層	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1879	I-2
115	45	IXJ-193	VI層	深鉢	胴			0多RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1916	I-2
115	46	IXG-185	I層	深鉢	胴			0多RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1909	I-2
115	47	IXH-194	VI層	深鉢	胴			RLR斜回 LR横回	ミガキ	繊維混入		1889	I-2
115	48	IXK-195	I層	深鉢	胴			0多RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1888	I-2
115	49	IXH-194	VI層	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1895	I-2
115	50	IXI-188	VI層	深鉢	胴~底			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1860	I-2
115	51	IXL-195	I層	深鉢	胴			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1867	I-2

G区遺構外出土土器観察表 3

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
115	52	IKK-185	IV層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	繊維混入		1830	I-2
115	53	IKQ-203	I層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	繊維混入		1872	I-2
115	54	IKL-197	I層	深鉢	胴			RL横回	ミガキ	繊維混入		1862	I-2
115	55	IKJ-198	I層	深鉢	胴			結束一種横回	ミガキ	繊維混入		1849	I-2
115	56	IKJ-196	I層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	繊維混入		1856	I-2
115	57	IKG-185	I層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	繊維混入		1923	I-2
115	58	IKC-178	IV層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	繊維混入		1930	I-2
115	59	IKK-187	IV層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	繊維混入		1826	I-2
115	60	IKQ-203	I層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	繊維混入		1865	I-2
115	61	IKF-195	I層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	繊維混入		1908	I-2
115	62	IKK-187	IV層	深鉢	底			RLR斜回	ミガキ	繊維混入		1824	I-2
115	63	IKG-198	I層	深鉢	胴			単一縦回	ミガキ	繊維混入		1918	I-2
115	64	VIL-199	I層	深鉢	胴			結束一種横回	ミガキ	繊維混入		1853	I-2
115	65	IKM-204	I層	深鉢	頸~胴	結束回転文		単一縦回	ミガキ	繊維混入		1878	I-2
115	66	IKK-187	IV層	深鉢	底			摩滅顕著	ミガキ	繊維混入		1825	I-2
115	67	IKG-198	I層	深鉢	胴			結束二種横回	ミガキ	繊維混入		1917	I-2
115	68	VIIIK-197	I層	深鉢	頸~胴	隆帯 隆帯上刺突		結束一種横回	ミガキ	繊維混入		1935	I-2
116	69	IXI-194	VI層	深鉢	口~胴	R側圧 粘土紐貼付		結束一種横回	ナデ			1933	II-1
116	70	IXJ-193	VI層	深鉢	頸~胴	隆帯		結束一種横回	ナデ		70/71/ 72/74	2295	II-1
116	71	IXJ-193	VI層	深鉢	胴~底			結束一種横回	ナデ		70/71/ 72/74	1934	II-1
116	72	IXJ-193	VI層	深鉢	頸~胴	隆帯 隆帯上L押圧		LR横回	内面剥離		70/71/ 72/74	1938	II-1
116	73	VIIIQ-191	I層	深鉢	頸	隆帯 C字状縄文押圧 LR側圧			ナデ			1939	II-1
116	74	IXJ-193	VI層	深鉢	胴			結束一種横回	ナデ		70/71/ 72/74	1967	II-1
116	75	IXI-195	IV層	深鉢	胴		楕円状沈線 刺突	RL	ナデ			1963	II-1
116	76	表採		深鉢	口	折返し口縁 口縁内面に鱗状突起			ナデ			2323	II-2
116	77	IXJ-196	I層	深鉢	口	折返し口縁		RL横回	ナデ			1947	II-2
116	78	IKG-199	I層	深鉢	口	横位沈線		RL縦回	ナデ			1980	III-1
116	79	IXI-196	I層	深鉢	胴		縦走沈線	RL縦回	ナデ		79/80/81/ /82/83	1964	III-1
116	80	IXJ-198	I層	深鉢	胴		楕円状沈線	RL縦回	ナデ		79/80/81/ /82/83	1961	III-1
116	81	IXJ-198	I層	深鉢	胴		楕円状沈線	RL縦回	ナデ		79/80/81/ /82/83	1962	III-1
116	82	IXI-196	I層	深鉢	胴		楕円状沈線	RL縦回	ナデ		79/80/81/ /82/83	1960	III-1
116	83	IKK-198	I層	深鉢	胴			RL縦回	ナデ		79/80/81/ /82/83	1887	III-1
116	84	IKB-177	IV層	深鉢	口	口縁下沈線 無文帯 縄文帯		LR横回	ミガキ			2078	III-1
116	85	VIII R-194	I層	深鉢	胴		横位沈線	RL磨消	ナデ			1983	III-1
116	86	IKM-203	IV層	深鉢	胴		楕円状沈線	LR磨消	ナデ			1981	III-1
116	87	IKM-204	I層	深鉢	口	突帯 横位沈線		摩滅顕著	ナデ			1973	III-1
116	88	IKN-204	I層	深鉢	口	突帯 ヌガネ状沈線 横位沈線		無文	ナデ			1978	III-1
116	89	IKN-204	I層	浅鉢	口	折返し口縁 突帯 横位沈線		摩滅顕著	ナデ			1986	III-1
116	90	IKM-204	I層	深鉢	胴		楕円状沈線	無文	ナデ			1989	III-1
116	91	IKN-203	I層	壺	胴		突帯 横位沈線	無文	ナデ			1982	III-1
116	92	IKM-204	I層	壺	胴		突帯 楕円状沈線	無文	ナデ			1970	III-1
116	93	VIII P-192	I層	深鉢	胴		突帯 沈線	摩滅顕著	ナデ			1988	III-1
116	94	XA-204	I層	深鉢	胴			単五縦回	ナデ			1974	II,III
116	95	VIII T-184	I層	深鉢	胴			単五縦回	ナデ			1971	II,III
117	96	IXA-184	I層	壺or注口	口	口縁突起 口縁端部刻目帯 頸部刻目帯			ナデ		96/97	2288	III-3
117	97	IXA-184	I層	壺or注口	底		縄文帯(木葉状文) 胴部下端刻目帯	異原羽状	ナデ	台付	96/97	2289	III-3
117	98	IXA-197	I層	深鉢	口	刻目帯 波状口縁			ナデ			2119	III-3
117	99	IXI-186	VI層	深鉢	口	刻目帯 平口縁 無文帯		LR横回	ナデ			2107	III-3

G区遺構外出土土器観察表 4

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
117	100	IXA-184	I層	注口土器	口~胴	口縁突起 口縁端部刻目帯 頸部刻目帯	貼瘤 縄文帯(D字状の 円形文、木葉状文)	異原羽状	ナデ		100/ 101	2284	Ⅲ-3
117	101	IXA-184	I層	注口土器	胴		縄文帯(木葉状文)	異原羽状	ナデ		100/ 101	2285	Ⅲ-3
117	102	IXL-197	I層	鉢	口	平口縁 縄文帯(平行帯状 文)		異原羽状	ナデ		102/ 103	2155	Ⅲ-3
117	103	IXM-197	I層	鉢	口	平口縁 縄文帯(平行帯状 文)		異原羽状	ナデ		102/ 103	2073	Ⅲ-3
117	104	IXN-202	Ⅲ層	深鉢	口	平口縁 縄文帯(平行、斜 行帯状文)		異原羽状	ナデ			2121	Ⅲ-3
117	105	IXL-196	I層	深鉢	口	平口縁 縄文帯(平行帯状 文)		異原羽状	ミガキ		105/ 112	2058	Ⅲ-3
117	106	IXG-185	I層	深鉢	口	口縁突起 突起上刻み 縄 文帯(斜行帯状文)		RL	ミガキ			2101	Ⅲ-3
117	107	XB-203	I層	深鉢	口	口縁突起 平口縁 縄文帯 (平行帯状文)		RL横回	ミガキ		107/111/ 122	2103	Ⅲ-3
117	108	IXN-204	I層	深鉢	口	口縁突起 平口縁 縄文帯 (平行帯状文)		RL磨消	ナデ			2051	Ⅲ-3
117	109	XB-203	I層	深鉢	口	口縁突起 平口縁 縄文帯 (平行帯状文)		RL横回	ミガキ			2097	Ⅲ-3
117	110	IXN-204	I層	深鉢	口	波状口縁 縄文帯(口縁に 沿う帯状文)		LR磨消	ナデ			2049	Ⅲ-3
117	111	XB-203	I層	鉢	略完 形	口縁突起 平口縁 縄文帯 (平行帯状文)	縄文帯(平行、弧状?帯 状文)	RL横回	ミガキ		105/ 112	2004	Ⅲ-3
117	112	IXL-196	I層	深鉢	口~ 胴	平口縁 縄文帯(平行帯状 文)	縄文帯(縦位帯状文、樽 掛状文)	LR,RL 異原羽状	ナデ			2015	Ⅲ-3
117	113	IXK-196	I層	壺or注口	胴		縄文帯(横位帯状文、樽 掛状文)	RL横回	ナデ			2115	Ⅲ-3
118	114	IXN-202	Ⅲ層	壺or注口	口~ 頸	平口縁 縄文帯(平行帯状 文、樽掛状文)		RL横回	ミガキ		114/116/ 117/120	2007	Ⅲ-3
118	115	IXM-202	Ⅲ層	壺or注口	口~ 頸	平口縁 縄文帯(平行帯状 文)		LR横回	ミガキ	P-36,41,42,43,44,45,46, 47,48,49,65,66,67,86,89, 90,91,92,93,94,95,96		2006	Ⅲ-3
118	116	IXN-202	Ⅲ層	壺or注口	口	平口縁 縄文帯(平行帯状 文)		RL	ナデ	P-10,13,17,72	114/116/ 117/120	2052	Ⅲ-3
118	117	IXM-202	I層	壺or注口	胴		貼瘤 縄文帯(横位帯状 文、樽掛状文)	RL	ナデ		114/116/ 117/120	2031	Ⅲ-3
118	118	IXN-204	Ⅱ層	深鉢	胴		縄文帯(横位帯状文)	RL横回	ナデ			2302	Ⅲ-3
118	119	XB-203	I層	壺or注口	口	平口縁 縄文帯(平行帯状 文)		RL横回	ナデ			2305	Ⅲ-3
118	120	IXM-202	Ⅲ層	壺or注口	頸		縄文帯(横位帯状文、樽 掛状文)	RL	ナデ	P-22,23	114/116/ 117/120	2032	Ⅲ-3
118	121	IXP-203	I層	壺or注口	胴上		縄文帯(横位帯状文)	LR RL	ナデ			2307	Ⅲ-3
118	122	XB-203	I層	壺?	胴		縄文帯(横位帯状文、樽 掛状文?)	RL	ミガキ		107/111/ 122	2067	Ⅲ-3
118	123	IXN-204	I層	壺or注口	胴		縄文帯(横位帯状文、樽 掛状文)	RL	ナデ			2040	Ⅲ-3
118	124	IXN-204	I層	壺or注口	胴		縄文帯(横位帯状文、樽 掛状文?)	RL	ナデ			2035	Ⅲ-3
118	125	IXI-190	攪乱	壺or注口	胴		縄文帯(横位帯状文)	LR,RL 異原羽状	ナデ			2053	Ⅲ-3
118	126	IXM-204	I層	深鉢	胴~ 底		縄文帯(横位帯状文、樽 掛状文?、弧状文)	0多LR	ミガキ			2008	Ⅲ-3
118	127	IXL-197	I層	深鉢	口	波状口縁 口縁突起3対? 突起上刻み 縄文帯(口縁 に沿う2本平行の帯状文)		異原羽状	ナデ		127/129/ 133	2151	Ⅲ-3
118	128	IXN-203	I層	深鉢	口	波状口縁 縄文帯(口縁に 沿う2本平行の帯状文)		異原羽状	ミガキ		128/132	2131	Ⅲ-3
118	129	IXJ-198	I層	深鉢	口	波状口縁 縄文帯(口縁に 沿う2本平行の帯状文)		異原羽状	ミガキ		127/129/ 133	2118	Ⅲ-3
118	130	XC-206	I層	深鉢	口	平口縁 横位平行沈線(2 条)		異原羽状	ミガキ			2134	Ⅲ-3
118	131	IXS-202	I層	深鉢	口	平口縁 横位平行沈線(2 条)		異原羽状	ミガキ			2089	Ⅲ-3
118	132	IXN-203	I層	深鉢	口	波状口縁 縄文帯(口縁に 沿う2本平行の帯状文)		異原羽状	ミガキ		128/ 132	2112	Ⅲ-3
118	133	IXJ-198	I層	深鉢	胴		縄文帯(横位、縦位の2 本平行帯状文)	異原羽状	ナデ		127/129/ 133	2127	Ⅲ-3

G区遺構外出土土器観察表 5

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
119	134	IXN-204	I層	注口土器	口~胴	平口縁 口縁突起 縄文帯(2本平行帯状文)	貼瘤 縄文帯(樽掛状文)	LR,0多RL	ナデ	同一個体と思われる物の復元		2351	Ⅲ-3
119	135	IXH-192	IV層	注口土器	口	平口縁 口縁突起 突起上刻み 縄文帯(2本平行帯状文)		LR,RL	ナデ		135/136/ 137/138	2345	Ⅲ-3
119	136	IXH-192	IV層	注口土器	胴~底		縄文帯(横位、樽掛状文)	LR,RL	ナデ		135/136/ 137/138	2013	Ⅲ-3
119	137	IXH-192	IV層	注口土器	注口部		縄文帯(横位) 付け根に貼瘤 注口部無文	LR	ナデ		135/136/ 137/138	2001	Ⅲ-3
119	138	IXH-192	IV層	注口土器	胴		貼瘤 縄文帯(縦位、弧状文)	LR,RL	ナデ		135/136/ 137/138	2003	Ⅲ-3
119	139	IXN-204	I層	壺	口	縄文帯(平行帯状文)		RL	ナデ		139/ 145	2043	Ⅲ-3
119	140	IXN-202	I層	壺	頸	平行横位、樽掛状沈線(3条)		無文	ナデ		140/141/ 142	2063	Ⅲ-3
119	141	IXN-202	I層	壺	胴		平行横位、樽掛状沈線(3条)	無文	ナデ		140/141/ 142	2061	Ⅲ-3
119	142	IXM-202	I層	壺	胴		貼瘤 平行横位、樽掛状沈線(3条)	無文	ナデ		140/141/ 142	2293	Ⅲ-3
119	143	IXM-202	Ⅲ層	壺or注口	口~頸	平口縁 口縁突起 突起内面刻み 縄文帯(平行帯状文)	縄文帯(横位、弧状)	LR	ナデ			2009	Ⅲ-3
119	144	IXM-202	I層	壺or注口	胴下		貼瘤 縄文帯(横位、弧状)	LR	ナデ			2292	Ⅲ-3
119	145	IXN-204	I層	壺	胴		貼瘤 縄文帯(横位、弧状)	LR,RL	ナデ		139/ 145	2044	Ⅲ-3
119	146	XC-206	I層	壺	頸	横位沈線			ナデ			2124	Ⅲ-3
119	147	IXN-204	I層	壺or注口	胴		縄文帯(横位、弧状)	LR,RL	ナデ			2042	Ⅲ-3
119	148	XB-203	I層	台付土器	台部			RL	ミガキ			2346	Ⅲ-3
119	149	XB-203	I層	壺	口	平口縁 口縁突起 沈線状の段あり		無文	ミガキ		149/150/ 151	2123	Ⅲ-3
119	150	XB-203	I層	壺	胴上		沈線状の段あり	無文	ナデ		149/150/ 151	2304	Ⅲ-3
119	151	XB-203	I層	壺	胴上		沈線状の段あり	無文	ナデ		149/150/ 151	2343	Ⅲ-3
119	152	IXL-199	Ⅱ層	壺	胴		貼瘤 瘤上面刻み	無文	ナデ			2113	Ⅲ-3
119	153	IXN-197	I層	注口土器	注口部		注口付け根下部に貼瘤	無文	ナデ			2136	Ⅲ-3
119	154	IXP-203	I層	深鉢	口	平口縁		無文	ミガキ			2254	Ⅲ-3
119	155	IXL-197	I層	深鉢	口	平口縁		無文	ミガキ			2244	Ⅲ-3
119	156	IXL-199	I層	深鉢	口	平口縁		無文	ナデ			2245	Ⅲ-3
119	157	XB-203	I層	深鉢	口~胴	平口縁		無文	ナデ			1790	Ⅲ-3
119	158	XB-203	I層	深鉢	口	平口縁		無文	ナデ			2237	Ⅲ-3
119	159	XB-203	I層	深鉢	口	平口縁		無文	ナデ			2150	Ⅲ-3
120	160	XC-206	I層	深鉢	口	平口縁		無文	ナデ			2238	Ⅲ-3
120	161	IXK-196	I層	深鉢	口	平口縁		無文	ミガキ			2268	Ⅲ-3
120	162	IXK-196	I層	鉢	口	平口縁		無文	ミガキ			2251	Ⅲ-3
120	163	IXJ-193	Ⅵ層	鉢	口	平口縁		無文	ミガキ			2249	Ⅲ-3
120	164	IXJ-196	I層	深鉢	口	平口縁		無文	ミガキ			2242	Ⅲ-3
120	165	IXJ-199	I層	深鉢?	口	平口縁		無文	ナデ			2255	Ⅲ-3
120	166	IXK-192	I層	鉢	口	平口縁		無文	ミガキ			2243	Ⅲ-3
120	167	IXI-198	Ⅵ層	鉢	口	平口縁		無文	ナデ			2248	Ⅲ-3
120	168	IXM-197	I層	鉢	口	平口縁		無文	ミガキ			2235	Ⅲ-3
120	169	IXT-203	I層	鉢	口	平口縁		無文	ミガキ		169/ 181	2236	Ⅲ-3
120	170	IXM-197	I層	鉢	口	平口縁		無文	ミガキ			2258	Ⅲ-3
120	171	IXL-197	I層	深鉢	胴			無文	ミガキ			2259	Ⅲ-3
120	172	IXN-204	I層	深鉢	略完形	平口縁		無文	ミガキ			2011	Ⅲ-3
120	173	IXL-196	I層	深鉢	胴			無文	ミガキ			2297	Ⅲ-3
120	174	IXL-199	Ⅱ層	鉢	略完形	平口縁		無文 摩滅顕著	摩滅顕著			2014	Ⅲ-3
120	175	IXJ-196	I層	鉢	略完形	平口縁 頸部にくびれ		無文	ミガキ			1996	Ⅲ-3
120	176	XB-203	I層	鉢	略完形	平口縁		無文 丁寧なミガキ	ミガキ			2294	Ⅲ-3
120	177	IXH-192	IV層	鉢	口~胴	平口縁		無文	ナデ		177/ 186	1998	Ⅲ-3

G区遺構外出土土器観察表 6

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
120	178	XB-203	I層	深鉢	胴			無文	ナデ			2269	Ⅲ-3
120	179	XC-206	I層	深鉢	胴			無文	ミガキ			2263	Ⅲ-3
120	180	IXL-202	I層	深鉢	胴			無文	ナデ			2270	Ⅲ-3
120	181	IXT-203	I層	鉢	胴			無文	ミガキ		169/181	2272	Ⅲ-3
120	182	IXN-204	I層	深鉢	胴			無文	ナデ			2048	Ⅲ-3
120	183	XB-203	I層	深鉢	胴			無文	ナデ			2274	Ⅲ-3
120	184	IXL-197	I層	深鉢	胴～底			無文	ミガキ			2260	Ⅲ-3
120	185	IXO-202	I層	深鉢	底			無文	ナデ			2265	Ⅲ-3
120	186	IXH-192	IV層	鉢	胴～底			無文	ナデ		177/186	1999	Ⅲ-3
121	187	XC-206	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ナデ			2142	Ⅲ-3
121	188	IXN-203	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ミガキ			2149	Ⅲ-3
121	189	XA-204	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ナデ			2153	Ⅲ-3
121	190	XB-203	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ミガキ			2298	Ⅲ-3
121	191	IXR-202	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ナデ			2156	Ⅲ-3
121	192	IXH-192	IV層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ミガキ			2145	Ⅲ-3
121	193	XB-203	I層	鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ミガキ			2208	Ⅲ-3
121	194	XC-206	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ナデ			2154	Ⅲ-3
121	195	IXI-190	攪乱	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ナデ			2158	Ⅲ-3
121	196	XA-204	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ミガキ			2147	Ⅲ-3
121	197	IXN-204	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ナデ			2144	Ⅲ-3
121	198	IXL-199	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ミガキ			2159	Ⅲ-3
121	199	IXA-184	I層	鉢	完形	平口縁		異原羽状横回	ミガキ			2308	Ⅲ-3
121	200	XB-203	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ナデ			2141	Ⅲ-3
121	201	IXJ-198	I層	深鉢	口	平口縁		異原羽状横回	ナデ			2165	Ⅲ-3
121	202	IXJ-187	耕作土	小型壺	胴		貼瘤 瘤側面刻み	異原羽状横回	ナデ			2059	Ⅲ-3
121	203	IXM-198	I層	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ			2193	Ⅲ-3
121	204	XC-206	I層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			2186	Ⅲ-3
121	205	XC-206	I層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			2184	Ⅲ-3
121	206	XB-203	I層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			2188	Ⅲ-3
121	207	XB-203	I層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			2185	Ⅲ-3
121	208	IXD-178	IV層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			2205	Ⅲ-3
121	209	IXN-196	I層	深鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ			2216	Ⅲ-3
121	210	IXK-199	I層	鉢	胴			異原羽状横回	ミガキ			2197	Ⅲ-3
121	211	IXS-200	II層	深鉢	胴			異原羽状横回	ナデ			2183	Ⅲ-3
121	212	IXM-203	VI層	深鉢	口	平口縁		RL横回	ミガキ			2146	Ⅲ-3
121	213	IXQ-192	I層	深鉢	口	平口縁		LR横回	ミガキ			2152	Ⅲ-3
121	214	IXP-203	I層	深鉢	口	平口縁		LR横回	ナデ			2168	Ⅲ-3
121	215	XA-204	I層	深鉢	口	平口縁		LR横回	ナデ			2166	Ⅲ-3
121	216	IXN-204	I層	深鉢	口～胴	平口縁		RL横回	ナデ		216/219/222	2069	Ⅲ-3
121	217	IXH-192	IV層	深鉢	胴			RL横回	ミガキ			2203	Ⅲ-3
121	218	IXP-202	I層	深鉢	胴			RL横回	ナデ			2225	Ⅲ-3
122	219	IXN-204	I層	鉢	口～胴	平口縁		RL横回	ナデ		216/219/222	2005	Ⅲ-3
122	220	IXP-205	I層	深鉢	胴			LR縦回	ナデ			2194	Ⅲ-3
122	221	IXQ-203	I層	深鉢	胴			RL横回	ナデ			2207	Ⅲ-3
122	222	IXN-204	I層	深鉢	底			RL横回	ナデ		216/219/222	2231	Ⅲ-3
122	223	IXG-194	IV層	鉢	口	口唇内面沈線 口縁下沈線			ミガキ			1943	IV-2
122	224	IXG-194	IV層	鉢	胴		横位沈線 突起	LR横回	ミガキ			1946	IV-2
122	225	IXE-187	I層	鉢	略完形	口縁下に沈線(1条)		無文 丁寧なミガキ	ミガキ			1997	IV-2
122	226	IXI-195	IV層	深鉢	口	工具等押圧による小波状口縁		RL横回	ナデ	補修孔	226/235/240	2170	IV-2
122	227	IXH-180	IV層	深鉢	口	工具等押圧による小波状口縁		LR横回	ナデ			2173	IV-2
122	228	IXH-194	IV層	深鉢	口	横位沈線		LR横回			228/233	2022	IV-2
122	229	IXG-198	I層	鉢	口	口唇内面沈線 突帯 突帯上刺突 横位沈線			ミガキ			1944	IV-2
122	230	表探		深鉢	口～胴	口縁山形突起 内面に沈線文 口縁下横位沈線(4条) 列点文		LR横回	ミガキ		230/232	2316	IV-2
122	231	IXH-192	IV層	深鉢	口			RL横回	ミガキ			2148	IV-1,2



G区遺構外出土土器観察表7

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	同一個体	整理No.	分類
122	232	表採		深鉢	胴			LR横回	ミガキ		230/ 232	2318	IV-2
122	233	KH-194	IV層	深鉢	胴~ 底			LR横回			228/ 233	2018	IV-2
122	234	KI-192	IV層	深鉢	胴		横位沈線	LR横回	ナデ			2077	IV-1,2
122	235	KI-195	IV層	深鉢	胴			RL横回	ナデ		226/235 /240	2187	IV-2
122	236	KN-204	I層	壺	胴			LR斜回	ナデ			2223	IV-1,2
122	237	KN-204	I層	壺	底			LR斜回	ミガキ			2280	IV-1,2
122	238	KG-194	IV層	深鉢	胴			条痕	ナデ		238/ 239	2233	IV-2,3
122	239	KG-194	IV層	深鉢	胴			条痕	ナデ		238/ 239	2234	IV-2,3
122	240	KI-195	IV層	深鉢	略完 形	口縁上押圧による小波状 口縁		RL斜回	ナデ		226/235 /240	2309	IV-2
123	241	KJ-193	VI層	深鉢	胴			LR横回	ナデ			1995	IV-1,2
123	242	KH-195	IV層	深鉢	胴			条痕			242/ 243	2016	IV-2,3
123	243	KH-195	IV層	深鉢	胴~ 底			条痕			242/ 243	2017	IV-2,3
123	244	表採		甕	頸~ 胴		平行沈線、結節沈線	RL斜回	ミガキ	外面煤状炭化物附着	244/ 245	2319	V
123	245	表採		甕	頸~ 胴		平行沈線、結節沈線	RL斜回	ミガキ	外面二次被熱による 変色	244/ 245	2326	V

保存区遺構外出土ミニチュア土器観察表

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	分類	整理
60	108	X II Q-228	Ⅲ	ミニチュア土器	注口			無文	不明	注口	Ⅲ-3	ミニ6

保存区遺構外出土古代以降の土器観察表

図	番号	グリッド	層位	種別	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底形 (cm)	特徴	整理
60	109	X II Q-221	Ⅱ	かわらけ	皿	(15.5)	(2.5)		ロクロ成形の後、底部付近をヘラケズリ	1

G区遺構内出土土製品観察表

図	番号	出土地	層位	種類	地文	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	備考	分類	整理
73	202住-20	SI-202	I	土器片利用土製品	L R	(2.7)	3.5	0.8	周縁打ち欠き、一部欠損	I-2	土2
73	202住-21	SI-202	I	土器片利用土製品	R L R	3.4	2.8	0.8	周縁磨き	I-2	土1

G区遺構内出土古代以降の土器観察表

図	番号	出土地	層位	種別	器種	特徴	整理
98	759土-1	SK-759	覆土	珠洲	播鉢	17本の卸目、珠洲第Ⅱ期 (13世紀後半代)	1

G区遺構外出土ミニチュア土器観察表

図	番号	出土地	層位	器種	部位	口頸部	胴部	地文	内面調整	備考	分類	整理
124	1	KP-203	I	ミニチュア土器	胴～底		縄文	LR斜回	ナデ	深鉢	Ⅲ-3	ミニ4
124	2	KN-204	I	ミニチュア土器	口～底	ナデ	ナデ	無文	ナデ	鉢	Ⅲ-3	ミニ2
124	3	KH-179	Ⅳ	ミニチュア土器	完形	ナデ	縄文	R L 斜回	ナデ	壺	Ⅲ-3	ミニ1
124	4	KM-196	I	ミニチュア土器	口～底	ナデ	ナデ	無文	ナデ	壺、輪積み痕	Ⅲ-3	ミニ3
124	5	KK-196	I	ミニチュア土器	胴		沈線文	無文	ナデ	壺	Ⅲ-3	ミニ5

G区遺構外出土土製品観察表

図	番号	出土地	層位	種類	地文	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	備考	分類	整理
124	6	X B-205	I	分銅形土製品	異原羽状	3.3	2.4	11.8	摘み部穿孔、球状部異原羽状	Ⅲ-3	土5

G区遺構外出土の古代以降の土器・陶磁器観察表

図	番号	出土地	層位	種別	器種	特徴	整理
125	1	IXI-181	Ⅳ	土師器	甕	外面不明、内面ナデ	土師1
125	2	IXL-199	I	珠洲	播鉢	8本の卸目、珠洲Ⅴ期 (1380年代～1440年代)	1
125	3	IXL-202	I	磁器	碗	肥前 内面無文、外面文様不明。18世紀後半か～	10
125	4	XA-204	I	磁器	碗	肥前 内面草花文、外面二重網目文。18世紀中葉	8
125	5	IXL-191	水田耕作土	磁器	碗?	肥前 内外面菊散らし文。18世紀後半～	2
125	6	VIII-193	I	磁器	不明	肥前 見込部圏線2条、蛇の目釉刺ぎ	9
125	7	IXO-202	I	磁器	碗	肥前 内面草花文、高台部付近圏線3条、高台内銘有	5
125	8	IXR-192	I	磁器	碗	肥前 内面見込部菊花文、網目文、外面二重網目文、高台内銘有。18世紀～	6
125	9	IXO-203	I	磁器	皿	肥前 高台部付近圏線3条、高台内圏線1条、高台内銘有。18世紀～	7
写真73	10	IXN-201	I	陶器	皿?	内外面 透明釉	4
写真73	11	IXI-192	Ⅳ	陶器	?	内面 黒釉 外面 緑釉	11
写真73	12	不明	不明	磁器	碗?		12
写真73	13	IXB-176	Ⅳ	陶器	?	内外面 黒釉	3

G区遺構外出土の古代以降の土製品観察表

図	番号	出土地	層位	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	整理
125	土1	IXO-202	I	土製品	38.0	30.5	20.0	17.2	親指大の凹みが見られる。	土6

保存区遺構内出土石器

図	番号	出土地	層位	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	取上 No.	整理 No.	旧番号
32	掘立7-S 1	SB-07D	確認面	削器	珪質頁岩	28.2	29.6	7.5	6.5		S-X	80	SB-04D
32	掘立7-S 2	SB-07D	底面直上	台石	安山岩	94.0	70.0	22.0	271.8	赤色物質付着	S-7	10	SB-04D
32	掘立7-S 3	SB-07D	覆土中位	台石	安山岩	125.0	69.0	43.0	546.8		S-4	43	SB-04D
33	掘立14-S 1	SB-14D	3	搔器	珪質頁岩	27.0	25.0	9.0	3.9		S-1	95	SB-10D
33	掘立15-S 1	SB-15C	覆土	台石	凝灰岩	260.0	133.0	56.0	2436.0		S-45	45	SB-01D
33	掘立15-S 2	SB-15A	覆土	削器	珪質頁岩	49.0	29.0	10.0	7.8		S-3	桃50	SB-01B
34	掘立17-S 1	SB-17B	1	有茎石鏃	珪質頁岩	36.7	10.7	5.0	1.3		S-1	14	SB-02A
34	掘立19-S 1	SB-19E	5	磨石	頁岩	65.0	35.0	45.0	110.1		S-4	31	SK-42
34	掘立29-S 1	SB-29	不明	削器	珪質頁岩	39.0	31.0	13.0	25.5	01確認調査		確認2	SB-01-5
34	掘立29-S 2	SB-29	不明	異形石器	珪質頁岩	32.0	55.0	15.0	12.3	01確認調査		確認3	SB-01-5
49	201土-S 1	SK-201	1	削器	珪質頁岩	49.0	31.0	16.0	17.9			桃55	SK-1
49	201土-S 2	SK-201	17	磨製石斧	細粒凝灰岩	86.0	42.0	18.0	113.8		S-10	16	SK-01
49	201土-S 3	SK-201	1	凹石	砂岩	103.0	86.0	40.0	360.7		S-5	12	SK-01
50	205土-S 1	SK-205	9	台石	安山岩	(164.0)	(155.0)	75.0	2572.6	赤色物質付着		80	SK-05
50	206土-S 1	SK-206	覆土	削器	珪質頁岩	47.0	30.0	11.0	15.2		S-1	桃49	SK-06
50	206土-S 2	SK-206	覆土	凹石	凝灰岩	(74.0)	73.0	34.0	258.1		S-65	礫2	SK-06
51	206土-S 3	SK-206	覆土	台石	安山岩	181.0	172.0	57.0	2148.6		S-132-133	47	SK-06
51	222土-S 1	SK-222	覆土	削器	珪質頁岩	49.0	32.0	10.0	12.2			桃57	SK-22
51	222土-S 2	SK-222	覆土	凹石	凝灰岩	126.0	77.0	43.0	454.5		S-3	50	SK-22
52	222土-S 3	SK-222	覆土	凹石	凝灰岩	139.0	71.0	34.0	390.6		S-33	51	SK-22
53	223土-S 1	SK-223	3	搔器	珪質頁岩	39.0	31.0	13.0	14.2			桃56	SK-23
53	223土-S 2	SK-223	覆土	削器	珪質頁岩	39.0	32.0	16.0	21.4		S-33	桃53	SK-23
53	223土-S 3	SK-223	11	横型石匙	珪質頁岩	41.0	39.9	10.4	14.2		S-113	77	SK-23
53	223土-S 4	SK-223	8	削器	珪質頁岩	36.0	48.0	12.0	14.8		S-1	桃54	SK-23
53	223土-S 5	SK-223	7	削器	珪質頁岩	57.6	34.1	10.3	19.5	両側辺に微細剥離	S-91	102	SK-23
53	223土-S 6	SK-223	覆土下位	台石	凝灰岩	(88.0)	58.0	41.0	320.5	赤色物質付着	S-25	33	SK-23
53	223土-S 7	SK-223	3	凹石	凝灰岩	70.0	74.0	54.0	320.0		S-58	6	SK-23
54	223土-S 8	SK-223	7	台石	安山岩	(127.0)	61.0	66.0	1267.4		S-86	26	SK-23
54	227土-S 1	SK-227	1	台石	安山岩	142.0	103.0	55.0	856.2	赤色物質付着	S-1	23	SK-27
55	244土-S 1	SK-244	7	三角形岩版	不明	43.0	37.0	10.0	17.3			石製1	SK-44
55	244土-S 2	SK-244	1	凹石	砂岩	(124.0)	46.0	26.0	241.0		S-13	38	SK-44
55	259土-S 1	SK-259	覆土	石錐	玉髓質珪質頁岩	18.1	11.7	6.0	0.9		S-38	89	SK-59
55	259土-S 2	SK-259	覆土	石鏃未製品	珪質頁岩	21.0	15.0	4.0	0.9		S-32	19	SK-59
55	259土-S 3	SK-259	覆土	有茎石鏃	玉髓質珪質頁岩	23.0	12.5	3.0	0.6		S-1	16	SK-59
55	259土-S 4	SK-259	覆土	有茎石鏃	珪質頁岩	25.0	13.5	3.5	0.6		S-15	17	SK-59
55	259土-S 5	SK-259	覆土	削器	珪質頁岩	33.0	33.0	12.0	6.2			桃63	SK-59
55	259土-S 6	SK-259	覆土	両面加工石器	玉髓質珪質頁岩	43.2	25.3	14.4	11.2		S-33	91	SK-59
55	259土-S 7	SK-259	確認面	削器	珪質頁岩	42.0	27.0	8.0	6.7			桃64	SK-59
55	259土-S 8	SK-259	覆土	石錐	珪質頁岩	23.0	12.0	5.0	1.1			桃58	SK-59
55	259土-S 9	SK-259	覆土	縦型石匙	玉髓質珪質頁岩	46.1	24.4	5.6	4.4		S-27	68	SK-59
55	259土-S 10	SK-259	覆土	削器	珪質頁岩	47.7	45.7	8.8	11.8	左側に微細剥離顕著	S-6	2	SK-59
56	393P-S 1	ピット-393	覆土	台石	安山岩	209.0	208.0	52.0	3068.8		S-1	48	SK-193
56	655土-S 1	SK-655	不明	削器	珪質頁岩	70.0	40.0	16.0	34.1	01確認調査		確認1	SK-1-6

保存区遺構外出土石器観察表

図	番号	出土地	層位	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	番号
61	1	XⅢQ-236	Ⅱ	凹基石鏃	珪質頁岩	35.0	18.0	5.0	2.7		50
61	2	XⅡP-225	Ⅱ	有茎石鏃	玉髓質珪質頁岩	(26.0)	(10.0)	3.0	0.5		32
61	3	XⅢB-220	Ⅱ	有茎石鏃	珪質頁岩	(27.0)	(15.0)	5.0	1.3		44
61	4	XⅡT-220	Ⅱ	有茎石鏃	珪質頁岩	(31.0)	(13.0)	4.0	1.3		47
61	5	XⅡI-232	Ⅲ	有茎石鏃	珪質頁岩	37.8	14.3	6.8	2.1	97 上野尻B区出土	109
61	6	XⅢB-220	Ⅱ	有茎石鏃	玉髓質珪質頁岩	27.0	12.0	5.0	1.1		49
61	7	XⅢB-221	Ⅱ	有茎石鏃	玉髓質珪質頁岩	26.0	13.0	6.0	1.6		41
61	8	XⅡT-220	Ⅱ	有茎石鏃	珪質頁岩	25.0	15.0	4.0	1.1		39
61	9	XⅡS-220	Ⅱ	有茎石鏃	珪質頁岩	28.0	28.0	6.0	1.8		40
61	10	XⅡH-230	Ⅲ	有茎石鏃	珪質頁岩	32.2	9.1	3.6	0.9	97 上野尻B区出土	125
61	11	XⅢJ-237	Ⅱ	有茎石鏃	珪質頁岩	43.0	16.0	8.5	5.2		43
61	12	XⅡH-230	Ⅲ	石鏃	玉髓質珪質頁岩	22.0	7.0	6.5	0.8	97 上野尻B区出土	110
61	13	XⅡT-219	Ⅱ	石鏃	珪質頁岩	60.0	25.0	12.0	13	両側縁に微細剥離	71
61	14	XⅢQ-237	Ⅱ	石鏃	珪質頁岩	35.0	28.0	9.0	6.7		赤色122
61	15	XⅡO-223	Ⅰ	石鏃	珪質頁岩	77.0	43.0	16.0	48.1		12
61	16	XⅡG-230	Ⅲ	石鏃	珪質頁岩	70.0	47.6	15	24.7	97 上野尻B区出土	119
61	17	XⅡH-231	Ⅲ	縦型石匙	珪質頁岩	87.0	30.0	7.0	22.2	97 上野尻B区出土	115
61	18	XⅡF-218	Ⅰ	縦型石匙	珪質頁岩	46.0	17.0	7.0	3.6		赤色130
61	19	XⅢR-235	Ⅲ	縦型石匙	珪質頁岩	45.0	26.0	9.0	6.9		赤色134
61	20	XⅡF-230	Ⅲ	縦型石匙	珪質頁岩	78.0	47.0	15.5	35.4	97 上野尻B区出土	118
61	21	XⅡG-230	Ⅲ	縦型石匙	珪質頁岩	74.0	43.0	16.0	28.6	97 上野尻B区出土	116
61	22	XⅡI-232	Ⅲ	縦型石匙	珪質頁岩	52.0	61.0	10.0	14.9	97 上野尻B区出土	117
61	23	XⅡS-218	Ⅲ	縦型石匙	珪質頁岩	66.0	41.0	10.0	18.1		4
62	24	XⅡF-230	Ⅲ	横型石匙	珪質頁岩	23.0	34.0	9.0	3.3	97 上野尻B区出土	113
62	25	XⅡF-230	Ⅲ	横型石匙	珪質頁岩	33.0	64.0	13.0	14.3	97 上野尻B区出土	112
62	26	XⅡT-220	Ⅰ	横型石匙	珪質頁岩	39.0	53.0	9.0	14.4	刃部に微細剥離	1
62	27	XⅡI-232	Ⅲ	横型石匙	珪質頁岩	41.0	80.0	12.0	23.9	97 上野尻B区出土	111
62	28	XⅢI-232	Ⅲ	縦型石匙 未製品	珪質頁岩	45.0	26.0	7.0	5.6	97 上野尻B区出土	128
62	29	XⅡS-218	Ⅲ	横型石匙	珪質頁岩	47.0	81.0	10.0	19.6	摘み部にタール状付着物	3
62	30	XⅡS-228	Ⅱ	横型石匙	珪質頁岩	30.0	55.5	9.5	11.4	刃部に微細剥離	8
62	31	XⅡH-231	Ⅲ	搔器	珪質頁岩	37.0	49.0	10.0	10.3	97 上野尻B区出土	123
62	32	XⅡQ-223	Ⅰ	搔器	珪質頁岩	28.0	23.0	7.0	3.3	刃部に微細剥離	84
62	33	XⅢR-237	Ⅱ	削器	珪質頁岩	33.0	25.0	7.0	4.7		赤色123
62	34	XⅢP-227	Ⅰ	削器	珪質頁岩	38.0	31.0	9.0	9.4		赤色126
62	35	XⅡR-219	Ⅱ	削器	珪質頁岩	39.0	24.0	6.0	4.1		94
62	36	XⅡT-218	Ⅲ	削器	珪質頁岩	46.0	31.0	15.0	16.1		赤色110
62	37	XⅡQ-238	Ⅱ	削器	珪質頁岩	53.0	36.0	12.0	18.5		赤色131
62	38	XⅡS-222	Ⅱ	削器	珪質頁岩	52.0	40.0	11.0	20.2		赤色133
62	39	XⅡR-237	Ⅱ	削器	珪質頁岩	69.5	42.0	16.5	33.2	主要剥離面側に最終剥離施す	76
62	40	XⅢR-237	Ⅱ	削器	玉髓質珪質頁岩	79.0	40.0	18.0	42.1		83
63	41	XⅢS-224	Ⅰ	削器	珪質頁岩	62.0	56.0	14.0	37.1		赤色129
63	42	XⅡH-231	Ⅲ	削器	珪質頁岩	92.5	67.5	17.0	71.4	97 上野尻B区出土	130
63	43	XⅡS-236	Ⅱ	削器	珪質頁岩	30.0	58.0	16.0	15.4		赤色120
63	44	XⅡT-218	Ⅱ	削器	珪質頁岩	67.0	40.0	26.0	35.9		赤色108
63	45	XⅢQ-236	Ⅱ	削器	珪質頁岩	24.0	37.0	8.0	4.1		赤色124
63	46	XⅡP-222	Ⅱ	削器	珪質頁岩	39.0	30.0	12.0	8.9		赤色132
63	47	XⅡT-218	Ⅲ	削器	珪質頁岩	42.0	43.0	14.0	15.7		赤色115
63	48	XⅡK-228	不明	削器	珪質頁岩	40.0	48.0	16.0	19.9		赤色116
63	49	XⅡQ-225	Ⅱ	削器	珪質頁岩	48.0	54.0	16.0	22.4		赤色121
63	50	XⅡQ-224	不明	二次加工剥片	珪質頁岩	36.0	29.0	9.0	6.5		82
63	51	XⅡI-231	Ⅲ	二次加工剥片	珪質頁岩	54.0	45.5	12.5	21.3	97 上野尻B区出土	131
63	52	XⅡO-221	Ⅱ	二次加工剥片	珪質頁岩	73.0	34.0	15.0	24.9		81
63	53	XⅡI-232	Ⅲ	二次加工剥片	珪質頁岩	84.0	69.0	20.0	52.6	97 上野尻B区出土	124
63	54	XⅡH-231	Ⅲ	異形石器	玉髓質珪質頁岩	23.5	29.0	7.0	2.4	97 上野尻B区出土	126
63	55	XⅢP-237	Ⅱ	岩偶	珪質頁岩	25.5	18.0	4.0	0.9		59
64	56	XⅡS-218	Ⅲ	磨り石	安山岩	96.0	88.0	65.0	736.4		30
64	57	XⅡT-220	Ⅲ	磨り石、凹み石	凝灰岩	99.0	69.0	39.0	407.8		61
64	58	XⅡO-222	Ⅱ	磨り石	石英安山岩	113.0	86.0	62.0	767.8		32
64	59	XⅡT-220	Ⅲ	磨り石	安山岩	103.0	70.0	45.0	392.3		7
64	60	XⅡJ-227	Ⅲ	凹み石、石棒?	流紋岩	312.0	68.0	60.0	1963.0		70
64	61	表採		凹み石	不明	120.0	59.5	37.0	332.3	99 上野尻出土	
64	62	表採		凹み石	不明	138.0	84.0	73.0	1140.3	99 上野尻出土	

G区遺構内出土石器観察表

図	番号	出土地	層位	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理番号
69	1	SI-201	1	抉入削器	頁岩	53.6	74.5	17.9	35.6		桃1
69	2	SI-201	1	削器	頁岩	34.0	47.2	11.8	15.5		桃2
70	3	SI-201	1	半円状扁平打製石器	石英安山岩	165.0	89.0	44.0	955.7	S-5	礫1
70	4	SI-201	1	石皿?	安山岩	99.0	112.0	50.0	941.7	S-6	礫2
73	1	SI-202	1	削器	頁岩	40.6	35.8	9.4	6.7		桃5
73	2	SI-202	1	削器	頁岩	34.8	34.1	8.7	12.0		桃6
73	3	SI-202	2	鋸歯状削器	頁岩	36.2	58.9	8.2	7.0		桃9
73	4	SI-202	3	削器	頁岩	72.9	26.3	13.4	21.0		桃11
73	5	SI-202	1	石核	頁岩	51.0	119.2	29.3	147.9		桃12
73	6	SI-202	2	縦型石匙	頁岩	61.9	36.4	11.8	18.8		桃17
73	7	SI-202	覆土	削器	頁岩	44.7	35.0	12.7	12.6		桃18
73	8	SI-202	1	半円状扁平打製石器	安山岩	146.0	83.0	52.0	757.3	S-2	礫4
74	9	SI-202	3	半円状扁平打製石器	安山岩	188.0	87.0	51.0	854.2	S-6,7	礫5
74	10	SI-202	5	敲き石	珪質頁岩	148.0	94.0	39.0	542.6	S-9	礫6
74	11	SI-202	炉内(床面)	石皿	安山岩	178.5	125.0	85.0	2939.3	S-35	礫8
74	12	SI-202	2	石皿	砂岩	330.0	354.0	79.0	12600.0	S-3	礫9
75	1	SI-203	覆土	縦型石匙	頁岩	56.6	25.3	12.4	14.5		桃23
78	1	SI-205	2	削器	頁岩	77.5	119.1	23.8	142.9		桃25
78	2	SI-205	2	縦型石匙	頁岩	70.9	25.4	16.9	16.4		桃26
78	3	SI-205	2	敲き石	安山岩	130.0	74.0	39.0	531.3	S-4	礫10
80	1	SI-206	床面	半円状扁平打製石器	輝緑岩	166.0	78.5	38.5	524	S-1	礫11
81	1	SI-207		磨り石	輝緑岩	250.0	76.0	38.0	532.8	S-4	礫12
83	1	SI-208	4	削器	頁岩	70.8	53.9	15.1	42.4		桃28
83	2	SI-208	覆土	削器	頁岩	76.7	75.7	19.1	62.5		桃29
83	3	SI-208	4	磨り石	砂岩	127.0	97.0	64.0	1005.8	S-7	礫13
85	1	SI-209	床面	削器	頁岩	58.6	95.8	18.3	70.6		桃30
85	2	SI-209	覆土	横型石匙未成品	頁岩	49.3	91.6	13.7	35.4		桃31
85	3	SI-209	覆土	横型石匙	頁岩	41.0	46.2	8.3	8.9		桃32
85	4	SI-209	覆土	削器	頁岩	101.7	51.2	22.1	98.8		桃34
85	5	SI-209	覆土	磨り石、敲き	石英安山岩	140.0	98.0	58.0	1107.1		礫15
87	1	SI-210	床面	両面加工石器	頁岩	62.5	63.1	27.6	99.0		桃37
87	2	SI-210	炉	縦型石匙	頁岩	78.8	35.5	12.5	31.0		桃38
95	1	SK-711	覆土	削器	頁岩	56.5	45.9	12.4	14.1		桃39
95	1	SK-728	1	削器	頁岩	33.1	24.8	7.6	4.5		桃47
96	1	SK-739	覆土	二次加工剥片	頁岩	65.8	25.1	10.5	15.2		桃40
96	1	SK-740	覆土	二次加工剥片	頁岩	52.0	36.3	9.7	13.3		桃42
96	1	SK-742	覆土	石錐	頁岩	58.2	19.1	11.6	9.4		桃43
97	1	SK-753	覆土	縦型石匙	頁岩	84.0	37.3	15.6	34.6		桃46
98	1	SK-802	7	凹み石	凝灰岩	108.0	89.0	33.0	454.7	S-1	礫17

G区遺構外出土石器観察表 1

図	番号	出土地	層位	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理番号
126	1	IXL-199	I	石鏃	珪質頁岩	27.2	10.8	3.5	0.7		赤15
126	2	VIII-193	I	石錐	珪質頁岩	27.2	12.8	7.3	1.5		赤1
126	3	XB-203	I	石錐	珪質頁岩	74.7	33.9	14.0	26.5		赤3
126	4	XC-206	I	石錐	珪質頁岩	83.6	37.0	17.2	33.3		赤2
126	5	VII-199	I	素刃縦型石匙	珪質頁岩	51.7	27.1	7.3	8.2		赤14
126	6	IXL-199	II C	縦型石匙	珪質頁岩	54.8	27.0	11.5	12.8		赤17
126	7	IXI-194	IV	縦型石匙	珪質頁岩	65.4	31.0	11.4	15.7		赤8
126	8	IXP-202	I	縦型石匙	珪質頁岩	72.2	34.0	18.6	33.2		赤9
126	9	VIS-193	I	縦型石匙	珪質頁岩	(66.4)	(44.9)	7.7	16.4		赤55
126	10	IXM-202	III	横型石匙	珪質頁岩	(46.4)	(32.8)	10.3	10.5		赤19
126	11	VBD-195	表探	縦型石匙	珪質頁岩	66.4	20.6	11.4	9.3		赤6
126	12	IXH-194	I	縦型石匙	珪質頁岩	74.9	27.8	12.0	16.1		赤4
126	13	IXJ-189	IV	縦型石匙	珪質頁岩	(32.1)	36.3	4.7	4.3		赤10
126	14	VIR-192	I	縦型石匙	珪質頁岩	(33.8)	27.4	10.3	7.4		赤51
126	15	IXJ-198	I	縦型石匙	珪質頁岩	(42.7)	26.5	9.3	9.2		赤38
126	16	IXM-199	II C	横型石匙	珪質頁岩	26.2	38.9	7.4	5.0		赤12
126	17	IXM-198	I	横型石匙	珪質頁岩	31.5	40.2	9.4	7.8		赤7
126	18	IXO-204	I	横型石匙	珪質頁岩	40.2	57.9	8.2	10.5		赤16
126	19	IXF-187	I	横型石匙	珪質頁岩	61.6	72.9	19.9	51.4		赤5
127	20	VII-194	I	横型石匙	珪質頁岩	45.6	(54.1)	10.6	18.5		赤18
127	21	VII-192	I	横型石匙	珪質頁岩	49.2	54.9	9.9	19.6		赤21
127	22	IXN-202	I	横型石匙	珪質頁岩	34.2	50.6	10.3	9.2		赤13
127	23	IXO-204	I	横型石匙	珪質頁岩	40.4	82.7	9.6	14.1		赤11
127	24	IXG-198	I	横型石匙	珪質頁岩	33.1	60.8	13.7	28.9		赤88
127	25	XB-203	I	掻器	珪質頁岩	43.8	23.0	11.3	6.0		赤49
127	26	VII-199	I	掻器	珪質頁岩	30.9	36.7	9.9	10.0		赤41
127	27	IXP-202	I	削器	珪質頁岩	34.5	58.2	15.7	18.7		赤28
127	28	IXP-204	I	削器	珪質頁岩	(32.4)	22.7	12.9	7.4		赤100
127	29	VII-199	I	削器	珪質頁岩	(36.4)	27.6	8.0	6.1		赤37
127	30	IXL-199	I	削器	珪質頁岩	43.8	34.5	14.0	14.0		赤93
127	31	IXG-185		削器	珪質頁岩	53.2	43.4	10.7	16.0		赤50
127	32	IXH-194	IV	削器	珪質頁岩	61.1	30.4	9.0	10.7		赤74
127	33	IXH-179	IV	削器	珪質頁岩	67.0	30.4	11.2	13.7		赤61
127	34	IXN-201	I	削器	珪質頁岩	53.9	43.4	18.3	34.3		赤84
127	35	IXO-204	I	削器	珪質頁岩	42.3	29.4	10.3	10.7		赤78
127	36	IXP-202	I	削器	珪質頁岩	41.9	36.9	16.4	21.3		赤46
128	37	IXR-203	I	削器	珪質頁岩	56.4	37.2	14.8	21.2		赤42
128	38	IXD-178	IV	削器	珪質頁岩	65.3	46.9	11.0	22.8		赤86
128	39	IXL-199	I	削器	珪質頁岩	62.0	37.0	13.3	22.4		赤26
128	40	IXH-193	VI	削器	珪質頁岩	57.0	36.9	16.3	29.6		赤60
128	41	IXJ-198	I	削器	珪質頁岩	79.1	21.9	11.2	16.6		赤31
128	42	IXM-197	I	削器	珪質頁岩	84.3	35.6	15.1	46.4		赤83
128	43	IXO-204	I	削器	珪質頁岩	95.1	27.6	21.6	45.1		赤59
128	44	IXM-202	I	削器	珪質頁岩	61.7	40.7	13.5	33.3		赤72
128	45	IXO-204	I	削器	珪質頁岩	52.1	22.1	10.9	8.3		赤87
128	46	IXQ-203	I	削器	珪質頁岩	67.3	42.8	15.5	34.4		赤56
128	47	IXD-182	I	削器	珪質頁岩	64.6	47.8	11.9	26.7		赤75
128	48	IXH-180	IV	削器	珪質頁岩	(25.1)	28.2	3.6	2.2		赤92
128	49	IXI-190	カクラン	削器	珪質頁岩	(37.9)	40.4	9.5	9.3		赤20
128	50	IXG-199	I	削器	珪質頁岩	39.2	48.0	8.7	11.5		赤105
128	51	IXI-194	IV	削器	珪質頁岩	41.8	31.5	9.7	12.6		赤107
128	52	IXB-195	I	削器	珪質頁岩	45.2	(25.0)	6.2	6.9		赤96
128	53	IXS-205	I	削器	珪質頁岩	27.7	(34.3)	6.2	5.2		赤103
129	54	VIR-193	I	削器	珪質頁岩	25.8	60.2	13.9	13.2		赤34
129	55	IXL-199	I	削器	珪質頁岩	40.8	70.9	17.7	23.4		赤43
129	56	IXN-204	I	削器	珪質頁岩	33.5	62.7	17.9	23.4		赤57
129	57	IXM-202	I	削器	珪質頁岩	47.7	66.3	12.5	31.3		赤68
129	58	IXT-202	I	削器	珪質頁岩	43.2	51.5	16.7	28.1		赤77
129	59	XB-203	I	剥片	珪質頁岩	51.3	(75.3)	14.8	28.0		赤39
129	60	XC-206	I	削器	珪質頁岩	41.2	47.8	13.5	18.2		赤82
129	61	IXM-202	I	削器	珪質頁岩	56.0	(74.3)	17.6	39.3		赤62
129	62	IXJ-187	水田耕作	削器	珪質頁岩	(44.3)	46.4	21.3	28.2		赤23
129	63	IXN-204	I	削器	珪質頁岩	59.3	81.5	16.8	52.9		赤32
129	64	IXG-199	I	削器	珪質頁岩	43.0	35.0	14.2	19.2		赤70
129	65	XC-206	I	削器	珪質頁岩	30.9	39.6	7.5	10.4		赤54
129	66	IXN-204	I	削器	珪質頁岩	67.0	(87.0)	15.9	70.6		赤47
130	67	IXI-188	VI	尖頭削器	珪質頁岩	60.5	43.1	19.9	39.7		赤76

G区遺構外出土石器観察表2

図	番号	出土地	層位	器種	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理番号
130	68	IXN-202	I	削器	珪質頁岩	83.8	81.0	20.8	95.2		赤89
130	69	IXO-204	I	削器	珪質頁岩	(38.0)	41.1	11.9	14.3		赤90
130	70	IXD-194	I	挟入削器	珪質頁岩	47.2	(43.1)	12.0	18.2		赤58
130	71	IXL-199	I	削器	珪質頁岩	56.9	69.1	20.9	49.8		赤63
130	72	IXF-185	I	両面加工石器	珪質頁岩	98.9	48.8	19.9	90.8		赤81
130	73	XB-203	I	二次加工剥片	珪質頁岩	102.3	63.7	25.2	133.5		赤69
131	74	IXI-194	IV	磨製石斧	頁岩	95.0	45.0	28.0	176.7		赤21
131	75	IXP-202	I	磨製石斧	緑色細粒凝灰岩	(90.0)	59.0	30.0	222.4		赤31
131	76	IXI-197	I	磨り石	安山岩	-75.0	46.0	52.0	238.4		赤9
131	77	IXD-182	I	磨り石	安山岩	102.0	76.0	34.0	421.6		赤3
131	78	IXA-184	I	磨り石	安山岩	125.0	94.0	27.0	415.5		赤1
131	79	IXL-200	I	磨り石	安山岩	144.0	82.0	34.0	563.9		赤33
131	80	IXG-185	I	磨り石	流紋岩	(81.5)	66.0	34.0	235.6		赤6
131	81	IXK-199	I	敲き石	石英安山岩	(67.0)	69.0	29.0	164		赤13
131	82	IXI-197	I	敲き石	流紋岩	118.0	36.0	25.0	129.4		赤10
132	83	IXF-185	I	磨り石、敲き石	安山岩	(120.0)	(46.0)	55.0	389.3		赤5
132	84	IXP-202	I	凹み石、敲き石	流紋岩	160.0	62.0	28.0	356.2		赤30
132	85	IXK-199	I	凹み石、敲き石	流紋岩	131.0	55.0	35.5	310.4		赤14
132	86	XB-203	I	凹み石	安山岩	(88.0)	57.0	38.0	248.9		赤25
132	87	IXI-197	I	凹み石	頁岩	106.0	55.0	37.0	271.1		赤11
132	88	表採		凹み石	流紋岩	100.0	57.0	20.0	182.3		赤20
132	89	IXG-185	I	凹み石	安山岩	(128.0)	71.0	30.0	352.7		赤7
132	90	IXS-205	I	凹み石	安山岩	118.0	67.0	31.0	283.9		赤27
132	91	IXQ-203	I	凹み石	凝灰岩	(106.0)	(90.0)	34.0	271.6		赤29
132	92	IXM-201	II C	凹み石	凝灰岩	(67.5)	55.0	32.0	152.3		赤16
132	93	IXG-194	IV	凹み石	凝灰岩	105.0	66.0	35.0	281.5		赤22
133	94	IXK-196	I	凹み石	流紋岩	137.0	61.0	27.0	226.1		赤12
133	95	IXO-204	I	凹み石	千枚岩	140.0	81.0	34.0	589.1		赤18
133	96	IXD-182	I	凹み石	流紋岩	(132.0)	73.0	51.0	692.5		赤4
133	97	IXG-185	I	凹み石	凝灰岩	(156.0)	65.0	33.0	402.7		赤8
133	98	IXM-189	田耕作土	凹み石	凝灰岩	166.0	63.0	49.0	430.8		赤23
133	99	IXL-202	I	半円状扁平打製石器	凝灰岩	92.0	(60.5)	29.0	222.8		赤32
133	100	IXL-199	I	半円状扁平打製石器	流紋岩	(100.0)	56.0	28.0	207.8		赤28
134	101	IXI-194	IV	石皿	流紋岩	(265.5)	(265.0)	53.0	1933.4		赤24
134	102	IXO-202	I	石皿	安山岩	200.0	132.0	102.0	3159.9		赤17
134	103	XB-203	I	用途不明石器	流紋岩	17.8	42.0	31.0	318.0		赤26

## 引用・参考文献

- 青森県教育委員会 1977 『水木沢遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 34集
- 青森県教育委員会 1978 『熊沢遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 38集
- 青森県教育委員会 1980 『大平遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 52集
- 青森県教育委員会 1982 『山崎(1)(2)(3)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 68集
- 青森県教育委員会 1982 『馬場瀬遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 70集
- 青森県教育委員会 1984 『牛ヶ沢(3)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 86集
- 青森県教育委員会 1985 『尻高(2)(3)(4)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 89集
- 青森県教育委員会 1987 『境関館遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第102集
- 青森県教育委員会 1987 『大湊近川遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第104集
- 青森県教育委員会 1989 『二ッ石遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第119集
- 青森県教育委員会 1991 『鬼沢猿沢・尾上山(2)(3)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第135集
- 青森県教育委員会 1992 『野脇遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第149集
- 青森県教育委員会 1995 『熊ヶ平遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第180集
- 青森県教育委員会 1997 『三内丸山遺跡Ⅷ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第230集
- 青森県教育委員会 1998 『岡町(2)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第232集
- 青森県教育委員会 1998 『三内丸山遺跡Ⅸ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第249集
- 青森県教育委員会 1999 『三内丸山遺跡ⅩⅠ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第251集
- 青森県教育委員会 1999 『山下遺跡・上野尻遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第258集
- 青森県教育委員会 2000 『山下遺跡Ⅱ・米山(2)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第274集
- 青森県教育委員会 2000 『新町野遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第275集
- 青森県教育委員会 2000 『畑内遺跡Ⅵ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第276集
- 青森県教育委員会 2001 『上野遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第297集
- 青森県教育委員会 2001 『上野尻遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第302集
- 青森県教育委員会 2001 『十腰内(1)遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第304集
- 青森県教育委員会 2001 『畑内遺跡Ⅶ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第308集
- 青森県教育委員会 2002 『安田(2)遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第321集
- 青森県教育委員会 2002 『宮田館遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第322集
- 青森県教育委員会 2002 『上野尻遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第324集
- 青森県教育委員会 2002 『三内丸山(6)遺跡Ⅳ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第327集
- 青森県立郷土館 1981 『尻八館調査報告書』 調査報告書第 9 集・歴史 1
- 青森市教育委員会 2001 『稲山遺跡Ⅰ』 青森市埋蔵文化財調査報告書第 56集
- 青森市教育委員会 2002 『稲山遺跡Ⅱ』 青森市埋蔵文化財調査報告書第 62集
- 青森市蛭沢遺跡発掘調査団 1979 『蛭沢遺跡』
- 秋田県教育委員会 1994 『中山遺跡』 秋田県文化財調査報告書第246集
- 秋田県教育委員会 1995 『寒沢遺跡』 秋田県文化財調査報告書第295集



- 秋田県教育委員会 2002 『桐内A遺跡』 秋田県文化財調査報告書第334集
- 浅野 晴樹 1991 「東国における中世在地系土器について—主に関東を中心にして—」  
『国立歴史民俗博物館研究報告』第31集
- 石井 寛 1995 「縄文時代掘立柱建物址に関する諸議論」  
『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第6集
- 石岡 憲雄 1999 「東北地方 前期(円筒下層式)」『縄文時代』10 縄文時代文化研究会
- 石川県立埋蔵文化財センター 1985 『門前町道下元町遺跡』
- 石川日出志 1997 「3. 遺物(1)土器」『新潟県北部地域における縄文時代後・晩期の研究』  
北越考古学第8号 北越考古学研究会
- 五十川伸矢 1992 「古代・中世の鑄鉄鑄物」『国立歴史民俗博物館研究報告』第46集
- 五十川伸矢 1997 「中世の鍋釜 鑄鉄製煮炊用具の名称」  
『国立歴史民俗博物館研究報告』第71集
- 今井富士雄・磯崎 正彦 1968 「第16節 十腰内遺跡」『岩木山』岩木山刊行会
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『五庵Ⅱ遺跡』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第94集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『馬場野Ⅱ遺跡』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第99集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1986 『大日向Ⅱ遺跡』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第100集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1992 『ハツ長Ⅱ遺跡』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第168集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1995 『水吉Ⅵ遺跡』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第219集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1999 『谷地田Ⅰ遺跡』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第303集
- (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2000 『長倉Ⅰ遺跡』  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第336集
- 内田武志・宮本常一編訳 1992 「すみかの山」『菅江真澄遊覧記3』平凡社
- 小笠原雅行 2002 「第IV章第2節第1項 土器」  
『青森県史 別編 三内丸山遺跡』 青森県史編さん室
- 岡田 康博 1986 「十腰内第Ⅲ群・第Ⅳ群・第Ⅴ群土器の再検討」  
『弘前大学考古学研究』第3号 弘前大学考古学研究会
- 奥三面を考える会 2001 『三面川流域の考古学』第1号
- 金子 昭彦 1994 「十腰内Ⅲ式とⅣ式の境界」『岩手考古学』第6号 岩手考古学会
- 金子 昭彦 1999 「東北地方 後期前半」『縄文時代』10 縄文時代文化研究会
- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』
- 工藤 竹久 1977 「北日本の石槍・石鏃について」『北奥古代文化』第9号 北奥古代文化研究会

- 越田賢一郎 1984 「北海道の鉄鍋について」『物質文化』42 物質文化研究会
- 小林 圭一 1999 「東北地方 後期(瘤付土器)」『縄文時代』10 縄文時代文化研究会
- 市浦村教育委員会 2000 『十三湊遺跡』 市浦村埋蔵文化財調査報告書第10集
- 鈴木 克彦 1997 「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究・3」  
『北奥古代文化』第26号 北奥古代文化研究会
- 鈴木 克彦 1998 「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究・2(上)」  
『考古学雑誌』第83巻第2号 日本考古学会
- 鈴木 克彦 1998 「東北地方北部における十腰内式土器様式の編年学的研究・2(下)」  
『考古学雑誌』第83巻第3号 日本考古学会
- 鈴木 克彦 2001 『北日本の縄文後期土器編年の研究』 雄山閣
- 珠洲市立珠洲焼資料館 1989 『珠洲の名陶』
- 須藤 隆 1990 「東北地方における弥生文化」『考古学古代史論攷』  
伊東信雄先生追悼論文集刊行会
- 関根 達人 1993 「『西ノ浜式』とその周辺」『歴史』第81輯 東北史学会
- 瀬棚町教育委員会 1980 『瀬田内チャシ跡遺跡発掘調査報告書』
- 高橋與右衛門 1992 「発掘された中世の建物跡」『北の中世』 中世の里シンポジウム実行委員会
- 谷口 康浩 1998 「環状集落形成論－縄文時代中期集落の分析を中心として－」  
『古代文化』第50巻第4号 古代学協会
- 谷口 康浩 2001 「環状集落の空間構成」『縄文時代集落研究の現段階』 縄文時代文化研究会
- 東北中世考古学会 2001 『掘立と竪穴 中世遺構論の課題』
- 中村良之進 1927 『陸奥古碑集』
- 成田 滋彦 1989 「入江・十腰内土器様式」『縄文土器大観』4 小学館
- 成田 滋彦 2001 「青森県における縄文時代集落の諸様相」  
『列島における縄文時代集落の諸様相』 縄文時代文化研究会
- 浪岡町教育委員会 1980 『浪岡城跡Ⅳ』
- 浪岡町教育委員会 1984 『浪岡城跡Ⅷ』
- 浪岡町教育委員会 1989 『浪岡城跡Ⅹ』
- 八戸市教育委員会 1986 『丹後谷地遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第15集
- 八戸市教育委員会 1991 『風張(1)遺跡Ⅰ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第40集
- 八戸市教育委員会 1991 『風張(1)遺跡Ⅱ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第41集
- 八戸市教育委員会 1993 『根城－本丸の発掘調査－』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第54集
- 八戸市教育委員会 2001 『大仏遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第84集
- 福井県教育委員会 朝倉氏遺跡調査研究所 1977 『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡Ⅸ』
- 福井県教育委員会 福井県立朝倉氏遺跡資料館 1983 『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡ⅩⅤ』
- 福井県教育委員会 福井県立朝倉氏遺跡資料館 1988 『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅱ』
- 福田 友之 2002 『津軽海峡交流と弥生石偶－青森県畑内遺跡出土の石偶をめぐる－』  
「北海道考古学」第38輯 北海道考古学会

- 平凡社 1988 『古伊万里』 別冊太陽
- 北海道教育委員会 1975 『遠矢第2チャシ跡遺跡調査報告書』
- 本間 宏 1985 「東北地方北部における縄文後期前葉土器群の実体」『よねしろ考古』第1号  
よねしろ考古学研究会
- 本間 宏 1987 「縄文時代後期初頭土器群の研究(1)」『よねしろ考古』第3号  
よねしろ考古学研究会
- 本間 宏 1988 「縄文時代後期初頭土器群の研究(2)」『よねしろ考古』第4号  
よねしろ考古学研究会
- 三宅 徹也 1974 「青森県における円筒下層式土器群の地域展開」『北奥古代文化』第6号  
北奥古代文化研究会
- 三宅 徹也 1989 「円筒土器下層様式」『縄文土器大観』1 小学館
- 三宅 徹也 1994 「円筒土器」『縄文文化の研究3 縄文土器Ⅰ』 雄山閣
- 宮城県教育委員会 1986 「遺構・土器」『田柄貝塚Ⅰ』 宮城県文化財調査報告書第111集
- 三厩村教育委員会 1996 『宇鉄遺跡』
- 村越 潔 1984 『増補 円筒土器文化』 雄山閣

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	かみのじりいせき よん							
書名	上野尻遺跡Ⅳ							
副書名	青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第353集							
編著者名	木村鐵次郎 相馬信吉 齋藤正 神昌樹 成田滋彦 大湯卓二 福井流星 若山誠治							
編集機関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒038-0042 青森市新城字天田内152-15 TEL.017-788-5701 Fax.017-788-5702							
発行年月日	2003（平成15）年3月18日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		旧日本測地系 (Tokyo Datum)		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
かみのじりいせき 上野尻遺跡 ほぞんく 保存区	あおもりけんあおもりし 青森県青森市 あゑあざやだあざかみ 大字矢田字上 のじり 野尻54、外	02201	01281	40°	140°	19990421 }	10,000	青森県新総合運動 公園建設事業に伴 う発掘調査
				50′	50′			
				28″	58″	20001110		
				世界測地系 2000(JGD2000)		40°		
北緯	東経	50′	50′	20010711				
				38″	45″			
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
集落跡	縄文時代	掘立柱建物跡	35棟	縄文土器		掘立柱建物跡群は長径 86m、短径70mの楕円 形の環状を呈する。時 期は縄文時代後期後葉		
		(環状)		(前・中・後・晩期)				
		土坑	23基	石器				
		ピット	65基					

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		旧日本測地系 (Tokyo Datum)		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
かみのじりいせき 上野尻遺跡 じいく G区	あおもりけんあおもりし 青森県青森市 ああさやだあさかみ 大字矢田字上 のじり 野尻	02201	01281	40°	140°	20010418 ～ 20011031	7,100	青森県新総合運動 公園建設事業に伴 う発掘調査
				50′	50′			
				24″	56″			
				世界測地系 2000(JGD2000)				
				北緯	東経			
40°	140°							
				50′	50′			
				37″	43″			
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
集落跡	縄文時代前期	竪穴住居跡 土坑		縄文土器				
	縄文時代中期			(前・中・後・晩期)				
	縄文時代後期	竪穴住居跡		石器				
	縄文時代晩期	土坑		弥生土器 (中期)				
	弥生時代			土師器				
	平安時代			珠洲焼				
	中世	竪穴建物跡		陶磁器 (近世～近代)				
時代不明	ピット群		土製品 (古代以降)					
		掘立柱建物跡						
		塀跡						

---

青森県埋蔵文化財調査報告書 第353集

## 上野尻遺跡Ⅳ

—青森県新総合運動公園建設事業に伴う遺跡発掘調査報告—

発行年月日 2003年3月28日  
発行 青森県教育委員会  
〒030-0801 青森市新町二丁目3-1  
TEL.017-722-1111 (代表)  
編集 青森県埋蔵文化財調査センター  
〒038-0042 青森市新城字天田内152-15  
TEL.017-788-5701 FAX.017-788-5702  
印刷所 青森コロニー印刷  
〒030-0943 青森市幸畑字松元62-3  
TEL.017-738-2021 FAX.017-738-6753

---





活彩あおもり  
—輝くあおもり新時代—